

男女共同参画社会に関する県民意識調査 報 告 書

令和 7 年 3 月

群 馬 県

目 次

第1章 調査の概要	5
1. 調査実施の目的	7
2. 調査方法	7
3. 調査項目	7
4. 調査結果を見る上での注意事項	7
第2章 調査結果の概要	9
第3章 調査結果の詳細	23
1. 回答者の属性	25
(1) 性別	25
(2) 年代	25
(3) 居住地区	25
(4) 職業	26
(5) 結婚	26
(6) 世帯構成	26
(7) 配偶者の職業、夫婦の働き方	27
(8) 子どもについて	27
(9) 子どもの人数	28
2. 男女の平等感について	29
(1) さまざまな分野における男女の地位の平等感	29
3. 結婚に関する考え方や家庭内での役割について	54
(1) 結婚に関する考え方	54
(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方	73
(3) 子どものころの家庭内の状況	78
(4) 家庭内の役割分担の理想	79
(5) 家庭内の役割分担の現状	94
(6) 男性の育児休業取得への意識	109
(7) 男性が育児休業を取得しない理由	111
(8) 男性の介護休業取得への意識	115
(9) 男性が介護休業を取得しない理由	116
4. 男性の参画について	120
(1) 男性の参画が進んだ分野	120
(2) 男性の参画に必要なこと	131
5. 職場や働き方について	136
(1) 「女性の働き方」への意識	136
(2) 進路・職業選択の際の性別意識	139
(3) 「仕事」「家庭生活」「地域活動」等の時間についての希望	141

(4) これまでの働き方(現在働いている方)	163
(5) 職場における男女間の不公平・未整備の状況	173
(6) 職場における女性の採用・管理職への登用状況	177
(7) 女性が管理職に登用されるために必要なこと	179
(8) これまでの働き方(現在働いていない方)	183
(9) 就労意向	186
(10) 育児等に女性が費やす時間と職業面での女性活躍	189
(11) 女性が活躍するために必要な支援	191
6. 男女共同参画社会づくりのための施策について	193
(1) 男女共同参画に関連する事項の認知度	193
(2) 男女共同参画社会づくりの実感	201
(3) 男女共同参画の社会づくりによって生じられる変化や効果	205
(4) 地域活動にかかわるリーダーの性別意識	210
(5) 女性が地域活動のリーダーに登用されるために必要なこと	214
(6) 女性が増えるとよいと思う役職・職業	218
(7) 「ぐんま男女共同参画センター」の認知度	223
(8) 「ぐんま男女共同参画センター」が今後担うべき役割	225
(9) 男女共同参画社会実現のために群馬県が力を入れるべきこと	229
7. ドメスティック・バイオレンス（DV）及び困難な問題を抱える男女について	234
(1) 抱えている困難や悩みの有無	234
(2) 相談経験・相談先	239
(3) 相談をしない・しなかった理由	244
(4) 相談窓口の認知度	249
(5) DVや抱えている困難等を相談する窓口における必要な配慮	257
(6) DVや抱えている困難等を解決するために必要な支援等	261
(7) DV被害経験	265
(8) DV加害経験	280
8. 自由記述	296
(1) 男女平等や男女共同参画等について感じること	296

第4章 資料編	307
県民意識調査集計表	309
調査画面	331

第 1 章 調査の概要

1. 調査実施の目的

本調査は、令和8年度からの「第6次群馬県男女共同参画基本計画（仮称）」の策定や、今後の政策立案の参考資料とするため、男女共同参画社会に関する県民の意識、実態、要望等を調査し、課題や県民ニーズ等を把握することを目的として実施した。

2. 調査方法

調査地域：群馬県内全域

調査対象：県内在住の18歳以上の男女個人

標本数：2,000人

抽出方法：インターネットを利用した調査

調査期間：令和6年12月3日（火）～12月18日（水）

3. 調査項目

- ・男女の平等感について
- ・結婚に関する考え方や家庭内での役割について
- ・男性の参画について
- ・職場や働き方について
- ・男女共同参画社会づくりのための施策について
- ・ドメスティック・バイオレンス（DV）及び困難な問題を抱える男女について
- ・自由記述

4. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。特に年代別では18～19歳は男女ともに回答数が少ないため、本文では触れていない。
- ・県民意識調査の本文および表やグラフにおいて、「令和6年度」「今回」は令和6年度に実施した調査、「平成元年度」「前回」と表記するものは前回調査、「平成26年度」「前々回」は平成26年度に実施した調査、「平成21年度」は平成21年度に実施した調査、「内閣府」は令和6年度に実施された「男女共同参画社会に関する世論調査」をそれぞれ表す。

第1章 調査の概要

本文中表記	調査年月	調査名(実施機関)	調査方法	配布・回収数	性別の回収数 (全回収数に 占める割合)
令和6年度 (今回)	令和6年 12月	男女共同参画社会 に関する県民意識 調査(群馬県)	インター ネット調査	配信24,102件 回収2,000件	女性986件 (49.3%) 男性1,014件 (50.7%)
令和元年度 (前回)	令和元年 12月	男女共同参画社会 に関する県民意識 調査(群馬県)	インター ネット調査	配信2,095件 回収2,000件	女性992件 (49.6%) 男性1,008件 (50.4%)
平成26年度 (前々回)	平成26年 12月	男女共同参画社会 に関する県民意識 調査(群馬県)	郵送配布・ 回収	配布2,000件 回収1,003件	女性583件 (58.1%) 男性400件 (39.9%)
平成21年度	平成21年 12月	男女共同参画社会 に関する県民意識 調査(群馬県)	郵送配布・ 回収	配布2,000件 回収1,071件	女性554件 (51.7%) 男性479件 (44.7%)
内閣府	令和6年 9月	男女共同参画社会 に関する世論調査 (内閣府)	郵送法(配布: 郵送、回収:郵 送又はイン ターネット回 答)	配布5,000件 回収2,673件	女性1,440件 (57.3%) 男性1,233件 (49.6%)

第 2 章 調査結果の概要

1. 回答者の属性

【性別】

女性（49.3%）、男性（50.7%）ともに約5割。

【年代】

女性は60歳代（23.4%）が最も多く、次いで50歳代（23.1%）が多い。男性は40歳代（20.7%）が最も多く、次いで50歳代（19.1%）が多い。

※なお、18～19歳は男女ともに回答数が少ないため、本文では触れていない。

【居住地区】

男女とも高崎・安中圏（女性22.6%、男性22.0%）が最も多く、次いで太田・館林圏（女性20.6%、男性21.9%）が多くなっている。

【職業】

女性は「パート・アルバイト・契約社員」（29.9%）が約3割、男性は「正社員・正職員」（52.8%）が5割以上で最も多い。

【結婚】

男女とも「している（事実婚を含む）」（女性60.9%、男性62.0%）が6割以上。

【世帯構成】

男女とも「二世帯世帯（親と未婚の子が同居）」（女性43.6%、男性43.2%）が最も多く、次いで「夫婦二人のみ（事実婚を含む）」（女性28.1%、男性28.1%）が多い。

【配偶者の職業、夫婦の働き方】

結婚している場合（事実婚を含む）の配偶者の職業は、男女では「正社員・正職員」（女性56.3%、男性30.8%）で、女性約6割、男性3割で最も多くなっている。結婚している場合（事実婚を含む）の夫婦の働き方は、「共働き」（55.1%）が最も多く、次いで「夫だけが働いている」（20.9%）が多くなっている。

【子どもについて】

子どもの有無は、男女ともに「子どもがいる」（女性61.9%、男性57.6%）が最も多く、子どもがいる場合、その子どもは「社会人」（女性39.6%、男性32.9%）が3割以上で最も多く、次いで「小学生」（女性7.5%、男性10.4%）、「高校生以上の学生」（女性11.3%、男性10.0%）、がいずれも約1割で、「未就学児」（女性7.9%、男性9.7%）、「中学生」（女性5.4%、男性5.1%）がいずれも1割未満となっている。子どもの人数は、男女とも「2人」（女性51.3%、男性50.9%）が最も多く、次いで「1人」（女性29.8%、男性26.2%）、「3人」（女性16.6%、男性20.7%）となっている。

2. 男女の平等感について

(1) 男女の地位の平等感（問 10）

男女の地位は、『学校教育の場』（54.2%）では「平等になっている」が最も高くなっているが、それ以外のすべての分野においては「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が高い。《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計）は、『政治の場』では7割、『社会通念・習慣・しきたり』では約7割、『社会全体』では6割以上と、その傾向が強くなっている。また、すべての項目で《男性優遇（計）》は、女性が男性より高くなっている。

経年変化を見ると、『家庭』、『法律や制度』、『地域社会』では令和元年度からほとんど変化は見られないが、他の項目ではわずかに上昇傾向が見られる。また、内閣府調査と比較すると、「家庭」、「職場」、「学校教育」、「政治の場」、「地域社会」、「社会全体」が、国の値より低くなっている。

さまざまな場面において、男性が優遇されているという認識を特に女性が強く持っており、年代によっては男女の認識に大きな差が見られる。

項目	全体値		属性傾向・経年変化・内閣府調査(国)との比較
家庭	平等 男性が優遇	35.0% 39.9%	《男性優遇（計）》が女性5割以上、男性約3割 50代で《男性優遇（計）》の男女差が特に大きい 男女とも《男性優遇（計）》が前回と同程度 男女とも《男性優遇（計）》が国より低い
職場	平等 男性が優遇	25.5% 53.7%	《男性優遇（計）》が女性6割以上、男性4割以上 50代で《男性優遇（計）》の男女差が大きい 男女とも「平等」が前回より上昇 男女とも《男性優遇（計）》が国より低い
学校教育	平等 男性が優遇	54.2% 19.7%	「平等」が女性約5割、男性約6割 60代で《男性優遇（計）》の男女差が大きい 男女とも《男性優遇（計）》が前回より低下 男女とも「平等」が国より低い
政治の場	平等 男性が優遇	14.0% 70.8%	《男性優遇（計）》が女性8割以上、男性約6割以上 30代・50代で《男性優遇（計）》の男女差が大きい 男女とも《男性優遇（計）》が前回より低下 男女とも《男性優遇（計）》が国より低い
法律や制度	平等 男性が優遇	28.0% 50.5%	《男性優遇（計）》が女性6割以上、男性約4割 30代で《男性優遇（計）》の男女差が大きい 男女とも《男性優遇（計）》が前回より上昇 女性は《男性優遇（計）》が国より高く、男女とも「平等」が国より低い
地域社会	平等 男性が優遇	27.7% 51.9%	《男性優遇（計）》が女性6割以上、男性4割 50代で《男性優遇（計）》の男女差が大きい 男女とも「どちらかといえば男性優遇」が前回と同程度 男女とも《男性優遇（計）》が国より低く、男女とも「平等」が国より高い
社会通念・習慣・しきたり	平等 男性が優遇	18.0% 65.1%	《男性優遇（計）》が女性約8割、男性5割以上 30代で《男性優遇（計）》の男女差が大きい 男女とも《男性優遇（計）》が前回と同程度 男女とも《男性優遇（計）》が国より高く、男女とも「平等」が国より低い
社会全体	平等 男性が優遇	17.5% 63.9%	《男性優遇（計）》が女性7割以上、男性5割以上 20代、30代で《男性優遇（計）》の男女差が大きい 男女とも《男性優遇（計）》が前回より低下 男女とも《男性優遇（計）》が国より低い

※《男性優遇（計）》は「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値

※「学校教育」等に関する調査結果を読み解く際は、他県と比較しても別学の高等学校が多い群馬県の現状について留意しておく必要がある。

3. 結婚や家庭の中の役割について

(1) 結婚に関する考え方(問11)

『結婚する、しないは個人の自由である』については《賛成(計)》(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値)が約9割(87.5%)となっている。『結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない』(81.6%)、『結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい』(77.8%)といった結婚後のことについては《賛成(計)》が8割前後となっている。また、『同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい』、『事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい』といった法制度や社会システムに関することについては《反対(計)》(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計値)(それぞれ20.3%、20.1%)が2割となっており、結婚のことについてよりも反対が高くなっている。

経年変化を見ると、いずれの項目も全体では前回より「賛成」が高くなっている。

項目	全体値		属性傾向・経年変化
結婚する、しないは個人の自由である	賛成 反対	87.5% 5.6%	《賛成(計)》が女性9割以上、男性8割以上 《賛成(計)》はすべての年代で女性が男性より高い 女性は前回より肯定意見がより明確化
結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい	賛成 反対	77.8% 12.6%	《賛成(計)》が女性約9割、男性7割 《賛成(計)》はすべての年代で女性が男性より高い 男性は《賛成(計)》が前回より低下
結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない	賛成 反対	81.6% 8.9%	《賛成(計)》が女性約9割、男性約8割 50代で《賛成(計)》の男女差が特に大きい 男女とも《賛成(計)》が前回より上昇
夫婦別姓を選択できることを認めるほうがよい	賛成 反対	63.6% 19.6%	《賛成(計)》が女性7割、男性約6割 30代で《賛成(計)》の男女差が特に大きい 女性は「賛成(計)」が前回より上昇
事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい	賛成 反対	64.1% 20.1%	《賛成(計)》が女性7割、男性約6割 30代で《賛成(計)》の男女差が特に大きい 女性は《賛成(計)》が前回より上昇し、全体では肯定意見がより明確化
同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい	賛成 反対	61.1% 20.3%	《賛成(計)》が女性7割以上、男性5割 40代で《賛成(計)》の男女差が特に大きい

※《賛成(計)》は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計、《反対(計)》は「反対」と「どちらかといえば反対」の合計値

(2) 男女の固定的な役割分担意識(問12・問13)

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、《思わない(計)》(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値 女性75.8%、男性67.3%)は、女性約8割、男性約7割となっており、すべての年代で《思わない(計)》が過半数を占めている。しかし、《思う(計)》(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値)は40代を除くすべての年代で男性が女性より高くなっており、70代以上で男女差が比較的大きい。

経年変化を見ると、《思わない(計)》は男女ともに高くなる傾向がうかがえ、《思う(計)》は男女ともに低くなる傾向がうかがえる。さらに、内閣府調査と比較すると、《思わない(計)》は国の値より高くなっている。

子どものころに家庭等が「男は仕事、女は家庭」であったか、成長過程における身

近な状況を聞いたところ、男女とも6割以上（女性64.5%、男性60.9%）が《そうだった（計）》としており、20代で低く、女性60代で高くなっている。

（3）家庭内の役割分担の理想と現状（問14・問15）

家庭内の役割をどう担うべきかについて、すべての項目で「男女が共に担うべき」が最も高く、特に『学校行事などへの参加』（87.7%）、『自治会などの地域活動』（85.7%）では約9割となっている。その中で『主たる収入』では「主として男性が担うべき」（26.3%）が比較的高くなっている。また、『家事』、『育児・子育て』、『家計の管理』では「主として女性が担うべき」が比較的高くなっており、家庭内の役割について、全般的に「男女が共に」担うべきであると考えられている中で、『家事』、『育児・子育て』、『家計の管理』、『主たる収入』では、他の項目ほど「男女が共に」という認識を持たれていないことがうかがえる。

【どう担うべきか】（理想）

項目	全体値		属性傾向・経年変化
家事	男女が共に主として女性	75.3% 13.3%	「男女が共に」が女性約8割、男性7割以上 男性70代以上では「主として女性」が約3割 男女とも「男女が共に」が前回より上昇
育児・子育て	男女が共に主として女性	76.0% 13.9%	「男女が共に」が女性約8割、男性7割以上 男性60代・70代以上では「主として女性」が2割以上 男女とも「主として女性」が前回より低下
看護・介護	男女が共に外部サービス等を利用	68.6% 22.8%	男女とも「男女が共に」が約7割 男女とも新規調査項目の「外部サービス等を利用する」を一定数選択しているため、「男女が共に」が前回より低下
学校行事などへの参加	男女が共に	87.7%	「男女が共に」が女性9割、男性8割以上 50代で「男女が共に」の男女差が特に大きい 男女とも「男女が共に」が前回より上昇
自治会などの地域活動	男女が共に	85.7%	「男女が共に」が女性約9割、男性8割以上 30代で「男女が共に」の男女差が特に大きい 男女とも「男女が共に」が前回より上昇
家計の管理	男女が共に主として女性	77.6% 17.1%	「男女が共に」が男女とも約8割 60代で「男女が共に」の男女差が特に大きい 男女とも「男女が共に」が前回より上昇、「主として女性」が低下
主たる収入	男女が共に主として男性	69.7% 26.3%	「男女が共に」が女性7割以上、男性約7割 「主として男性」が女性2割以上、男性約3割 60代で「男女が共に」・「主として男性」の男女差が特に大きい

家庭内の役割を実際にどう担っているかについて、ほとんどの項目で「主として女性が担っている」が最も高く、特に『家事』（59.5%）が約6割となっている。その中で『自治会などの地域活動』では「男女が共に担っている」（38.5%）、『主たる収入』では「主として男性が担っている」（53.5%）が最も高くなっている。また、『看護・介護』で「外部サービス等を利用する」（6.3%）が他項目に比べ比較的高くなっている。

【どう担っているか】（現状）			
項目	全体値		属性傾向
家事	男女が共に 主として女性	30.0% 59.5%	「主として女性」が女性約7割、男性約5割 40代で「主として女性」の男女差が特に大きい
育児	男女が共に 主として女性	26.4% 45.0%	「主として女性」が女性5割以上、男性約4割 40代で「主として女性」の男女差が特に大きい
看護・介護	男女が共に 主として女性	27.9% 30.4%	「主として女性」が女性約4割、男性2割以上 20代を除くすべての年代で女性は「主として女性」、男性は「男女が共に」が最も高い 40代で「男女が共に」の男女差が特に大きい
学校行事などへの参加	男女が共に 主として女性	30.0% 40.2%	「主として女性」が女性約5割、男性3割以上 40代で「男女が共に」、「主として女性」の男女差が特に大きい
自治会などの地域活動	男女が共に 主として女性 主として男性	38.5% 25.0% 26.2%	女性は「主として女性」が約4割、「男女が共に」が3割以上 男性は「男女が共に」が約5割、「主として男性」が3割以上 すべての年代で「主として男性」は男性が女性より高い
家計の管理	男女が共に 主として女性	31.2% 49.3%	「主として女性」が女性6割以上、男性約4割 すべての年代で「主として女性」は女性が男性より高い
主たる収入	男女が共に 主として男性	31.1% 53.5%	「主として男性」が男女ともに5割以上 すべての年代で「男女が共に」は男性が女性より高い

「どう担うべきか」（理想）と「どう担っているか」（現状）における「男女が共に担うべき・担っている」を合わせて見ると、いずれの項目も「どう担うべきか」が「どう担っているか」を大きく上回っている。その中で、『主たる収入』では比較的その差が小さくなっている。

これらを考え合わせると、家庭内の役割について、さまざまな面で「男女が共に」担うべきと考えられているものの、実際には多くの役割が女性の負担となっている傾向がうかがえる。

（3）男性の育児休業取得への意識／育児休業を取得しない理由（問16-1・問16-2）

男性の育児休業取得について、男女とも「男性も積極的に取得するほうがよい」（女性39.7%、男性40.5%）が約4割で最も高く、次いで「男性もできれば積極的に取得するほうがよいが、環境が整っていない」（女性36.5%、男性38.9%）となっている。その中で、「男性も積極的に取得するほうがよい」は女性20代（48.5%）・男性20代（51.3%）・男性60代（47.6%）で5割前後と比較的高く、「男性の育児休業取得」に該当する年代で積極的な取得への意向がうかがえる。

経年変化を見ると、「男性も積極的に取得するほうがよい」は男女とも高くなっている。

男性が育児休業を取得しない（できない）理由について、男女とも「職場に取りやすい雰囲気がないから」（女性55.5%、男性45.7%）が女性で約6割、男性で約5割と特に高く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから」（女性29.3%、男性32.1%）が3割前後となっている。

（4）男性の介護休業取得への意識／介護休業を取得しない理由（問16-3・問16-4）

男性の介護休業取得について、男女とも「男性も積極的に取得するほうがよい」（女性47.2%、男性39.6%）が、女性約5割、男性約4割で特に高く、次いで「男性もできれば積極的に取得するほうがよいが、環境が整っていない」（女性34.1%、男性39.3%）が、女性3割以上、男性約4割となっている。その中で、男女ともに60代は「男性も積極的に取得するほうがよい」が過半数を占めており比較的高くなっ

ている。

経年変化を見ると、「男性も積極的に取得するほうがよい」は男女とも高くなっている。

男性が介護休業を取得しない（できない）理由について、男女とも「職場に取りやすい雰囲気がないから」（女性52.7%、男性42.9%）が女性で5割以上、男性で4割以上と特に高く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから」（女性28.8%、男性34.4%）が3割前後となっている。

4. 男性の参画について

（1）男性の参画が進んだ分野（問 17）

数年前と比べて男性の参画が進んだ分野について、《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値）は『家事』（60.1%）、『育児』（61.2%）で6割以上と過半数を占める一方で、《進んでいないと思う（計）》（「どちらかというに進んでいないと思う」と「進んでいないと思う」の合計値）は『看護・介護』（45.1%）で約5割、『地域の行事』（35.8%）で約4割となっている。『看護・介護』を除くすべての項目で「どちらかというに進んでいると思う」が最も高くっており、男性の参画が進んでいる実感がある程度うかがえる。

項目	全体値	属性傾向
家事	《進んでいると思う（計）》 60.1%	《進んでいると思う（計）》が女性6割以上、男性約6割 《進んでいると思う（計）》は30代・70代以上を除き、女性が男性より高い
育児・子育て	《進んでいると思う（計）》 61.2%	《進んでいると思う（計）》が女性6割以上、男性約6割 《進んでいると思う（計）》は30代・70代以上を除き、女性が男性より高い
看護・介護	《進んでいると思う（計）》 35.0% 《進んでいないと思う（計）》 45.1%	《進んでいないと思う（計）》が女性5割以上、男性約4割 《進んでいないと思う（計）》は女性が男性より高い すべての年代で《進んでいないと思う（計）》は女性が男性より高い 50代で《進んでいないと思う（計）》の男女差が特に大きい
地域の行事	《進んでいると思う（計）》 41.5% 《進んでいないと思う（計）》 35.8%	《進んでいると思う（計）》が女性約4割、男性4割以上 70代以上で《進んでいないと思う（計）》の男女差が特に大きい
学校行事など	《進んでいると思う（計）》 43.9%	《進んでいると思う（計）》が男女とも4割以上 女性30代を除くすべての年代で「どちらかというに進んでいると思う」が最も高い

(2) 男性の参画に必要なこと (問 18)

今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的にかかわるために必要なことについて、男女ともに「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」(女性 60.8%、男性 43.6%) が女性で 6 割、男性で 4 割以上と特に高くなっており、次いで「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」(女性 45.5%、男性 38.1%) が女性で約 5 割、男性で約 4 割となっている。また、女性はすべての年代で「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」が最も高くなっている。男性は「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」、「夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること」、「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」が特に高くなっている。さらに、内閣府調査と比較すると、ほとんどの項目が国の値より低くなっている。

「その他」、「特に必要だと思うことはない」を除いたすべての項目で女性が男性より高いことから、女性は男性の参画に対して様々な要望があるとうかがえる。

5. 職場や働き方について

(1) 「女性の働き方」への意識 (問 19)

「女性の働き方」について、男女とも「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」(女性 31.7%、男性 24.0%)、「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」(女性 27.1%、男性 27.2%) の 2 項目が高くなっている。女性 60 代、男性 60 代・70 代以上は「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」が最も高く、それ以外の年代では「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」が最も高くなっており、男性は若い年代ほど値が高い。

女性の働き方について、「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」という考え方や「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」ことを肯定する意見がすべての年代で過半数を占め、支持されている。

(2) 進路・職業選択の際の性別意識 (問 20)

進路や職業を選択する際の自分の性別意識について、女性は「どちらかといえば、意識した」(36.1%)、男性は「ほとんど・まったく意識しなかった」(50.5%) が最も高くなっている。《意識した(計)》(「かなり意識した」と「どちらかといえば意識した」の合計値)(女性 45.7%、男性 26.1%) は女性約 5 割、男性約 3 割となっており、すべての年代で女性が男性より高くなっている。

(3) 「仕事」「家庭生活」「地域活動」等の時間についての希望 (問 21)

仕事・家庭生活・地域活動等の時間について、《増やしたい(計)》(「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値)で最も高い項目は『自分のことに使う時間(趣味、自己啓発、くつろぎ等)』(45.6%)であり、次いで『家族と遊んだり、くつろいだりする時間』(36.1%)となっている。どちらも性別を問わず20・30代が他世代と比べ高い傾向にある。《減らしたい(計)》(「少し減らしたい」と「大幅に減らしたい」の合計値)で最も高い項目は『仕事(収入を伴う仕事、学業等)の時間』(21.2%)、『家事時間』(21.2%)となる。『仕事』では女性30・40代で《増やしたい(計)》が、男性30・40代で《減らしたい(計)》が他世代と比べ高く、『家事時間』では、《減らしたい(計)》がすべての年代で女性が男性より高くなっている。

(4) 働き方（問 22-1・問 23-1・問 23-2）

現在働いている場合のこれまでの働き方について、「ライフイベントを経験していない」を除くと、どの項目においても「特に変化はなかった」が最も高い。次いで『介護』を除く全ての項目で「仕事を辞めたことがある」が高く、特に『結婚（16.5%）』『出産（ご自身または配偶者の出産）』（15.3%）がそれぞれ約2割と高くなっている。「仕事を辞めたことがある」は『結婚』で女性（31.2%）男性（3.9%）、『出産』で女性（29.9%）男性（2.7%）のどちらも男女差が大きい。男性はいずれのライフイベントでも「特に変化はなかった」が高い。

現在働いていない場合のこれまでの働き方について、男性は「卒業して働いたが、上記以外の理由で仕事を辞めた」（49.6%）が最も高く、女性は「卒業して働いたが、結婚のために仕事を辞めた」（34.1%）が最も高い。経年変化を見ると、男女ともに「卒業して働いたが、結婚・出産・育児・子育て・介護のために仕事を辞めた」が令和元年度（女性 58.3%、男性 5.9%）より女性は 8.5 ポイント、男性は 10.8 ポイントそれぞれ高くなっている。現在働いていない場合の今後の働く意向について、男女とも「今後も、働きたいとは思わない」（全体 46.5%、女性 39.9%、男性 55.3%）が最も高く、次いで「わからない」（全体 15.7%、女性 18.3%、男性 12.2%）となる。

(5) 職場における男女間の不公平・未整備の状況（問 22-2）

現在の職場での男女間の不公平や制度の未整備について、女性は「賃金・昇給で男女の不公平がある」（27.1%）が最も高く、次いで「昇進・昇格で男女の不公平がある」（25.5%）が高くなっている。男性は「特に男女間の不公平はない」（24.9%）が最も高く、次いで「昇進・昇格で男女の不公平がある」（19.5%）が高くなっている。

経年変化を見ると、男女ともに「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」が前回より低くなっている。「賃金・昇給で男女の不公平がある」は男性で前回より低くなっている。

(6) 職場における女性の採用・管理職への登用状況（問 22-3・問 22-4）

現在の職場での女性の採用や管理職登用について、男女ともに《進んでいると思う（計）》（女性 39.2%、男性 40.1%）と《進んでいないと思う（計）》（女性 36.9%、男性 37.1%）が同程度となっている。また、《進んでいると思う（計）》は女性 70 代以上と男性 20 代（いずれも 50.0%）で最も高くなっている。

現在の職場で女性の管理職が登用されるために必要だと思うことについて、男女ともに「性別に関わらず能力に応じた登用」（女性 45.3%、男性 36.3%）が最も高くなっている。「経営者や人事担当者の意識改革」、「育児休業や介護休業などの制度充実」、「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」、「短時間勤務や在宅勤務、テレワークなど柔軟な働き方を推進する取組」で特に女性が男性より高くなっている。

(7) 育児等に女性が費やす時間と職業面での女性活躍（問 24-1・問 24-2）

育児等に女性が費やす時間と職業面での女性活躍について、《そう思う（計）》（女性 74.5%、男性 61.4%）は、女性が7割以上、男性が6割以上で女性が男性より13.1 ポイント高くなっている。また、《そう思う（計）》は特に50代で男女差が大きくなっている。

女性が活躍するために必要な支援について、女性は「女性が家事育児を行うべきと

いう思い込みの解消」(50.9%)が最も高く、5割となっている。男性は「長時間労働慣行の是正」(42.2%)が最も高く、4割以上となっている。

6. 男女共同参画社会づくりのための施策について

(1) 男女共同参画に関連する事項の認知度 (問 25)

男女共同参画に関連する事項で見聞きしたことがあるものは、男女ともに「ジェンダー(社会的性別)」(女性 70.0%、男性 55.9%)が最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」(女性 61.5%、男性 55.7%)、「ストーカー規制法」(女性 61.5%、男性 53.3%)と高くなっている。一方、「見聞きしたことがあるものはない」(女性 9.7%、男性 13.1%)は女性で約1割、男性で1割以上となっている。

経年変化を見ると、特に「ジェンダー」は前回調査より男女とも高くなっているが、「見聞きしたことがあるものはない」は前回調査より男女とも低くなっている。

(2) 男女共同参画社会づくりの実感 (問 26)

数年前と比べて男女共同参画の社会づくりが進んでいると感じるかについて、《進んでいる(計)》(「進んでいる」と「少しは進んでいる」の合計値)(女性 21.9%、男性 28.0%)が女性で2割以上、男性で約3割となっており、男性のほうが「進んでいる」実感が強いことがうかがえる。《進んでいる(計)》は、20代で男女差が特に大きい。また、「わからない」(女性 25.6%、男性 24.1%)は女性で約3割、男性で2割以上となっている。

経年変化を見ると、男性で《進んでいる(計)》が低くなっている。

(3) 男女共同参画の社会づくりによって生じると思われる変化や効果 (問 27)

男女共同参画の社会づくりが進むことによって社会に現れると思われる変化や効果について、「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる」(女性 40.6%、男性 35.3%)が最も高く、次いで、「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」(女性 41.7%、男性 32.4%)と高くなっている。一方で、「わからない」(女性 19.0%、男性 22.3%)は、男女ともに2割前後となっている。

(4) 地域活動にかかわるリーダーの性別意識 (問 28)

自治会や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、地域活動にかかわる役職の性別について、「適任者であれば、男女どちらでもよい」(女性 81.5%、男性 77.2%)が女性で8割以上、男性で約8割で最も高くなっており、特に女性30代・40代・60代・70代以上、男性60代・70代以上で8割以上となっている。《男性がなるほうがよい(計)》(「できるだけ、男性がなるほうがよい」と「どちらかという、男性がなるほうがよい」の合計値)は20代で男女に大きな差が見られる。一方、《女性がなるほうがよい(計)》(「どちらかという、もっと女性がなるほうがよい」と「もっと女性がなるほうがよい」の合計値)は50代で男女に大きな差がみられる。

現状では地域活動のリーダーを男性が担っていることが多いものの、適任者であれば性別は問わないという考えを男女とも多くの人を持っている。一方、男性がなるほうがよいと考える人は多くはないが、特に20代の男性で比較的多くなっており、地域活動のリーダーに女性がなりやすくするためには、若年層の男性の意識を変えてい

くことが必要と考えられる。

(5) 女性が地域活動のリーダーに登用されるために必要なこと（問 29）

自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、女性が地域活動のリーダーになるために必要なことについて、男女とも「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」（女性 43.7%、男性 37.8%）が最も高く、女性で4割以上、男性で約4割となっている。次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」（女性 29.0%、男性 27.8%）、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」（女性 25.9%、男性 25.9%）が約3割となっている。一方で、「特にない」（女性 13.4%、男性 17.2%）で女性1割以上、男性約2割、「わからない」（女性 20.1%、男性 16.8%）で女性2割、男性約2割となっている。

(6) 女性が増えるとよいと思う役職・職業（問 30）

政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性がもっと増えるとよいと思うものについて、男女とも「国会・県議会・市町村議会の議員」（女性 48.4%、男性 44.6%）が最も高く、「特にない」を除くすべての項目で男性が女性より高くなっている。

経年変化を見ると、すべての項目が前回調査より男女とも低くなっている。

(7) 「ぐんま男女共同参画センター」の認知度について（問 31）

男女共同参画社会づくりを推進するための拠点施設「ぐんま男女共同参画センター」の認知について、《知っている・訪れたことがある（計）》（「訪れたことがある」と「訪れたことはないが、名前は知っている」の合計値（女性 24.3%、男性 26.2%）は、女性2割以上、男性約3割となっている。

経年変化を見ると、《知っている・訪れたことがある（計）》は前回調査より高くなっている。

(8) 「ぐんま男女共同参画センター」が今後担うべき役割（問 32）

「ぐんま男女共同参画センター」の今後担うべき役割について、女性は「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」（20.4%）、次いで「いつでも気軽に立ち寄れる交流の場」（16.0%）が高くなっている。男性は「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」（22.7%）、次いで「男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催」（19.1%）が高くなっている。一方で、「特にない」（女性 35.4%、男性 38.4%）が最も高くなっている。

経年変化を見ると、「特にない」を除くすべての項目で前回調査より低くなっている。

(9) 男女共同参画社会実現のために群馬県が力を入れるべきこと（問 33）

男女共同参画社会を実現するために、今後群馬県が力を入れていくべきと思うことについて、男女とも「男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援」（女性34.0%、男性27.6%）が最も高く、女性3割以上、男性約3割となっている。次いで「県の政策決定の場への女性の積極的な登用」（女性22.5%、男性26.1%）が女性2割以上、男性約3割となっている。一方で、「特にない」（女性24.9%、男性29.8%）が女性2割以上、男性約3割となっている。

7. ドメスティック・バイオレンス（DV）及び困難な問題を抱える男女について

（1）抱えている困難や悩みの有無（問 34）

抱えている困難や悩みについて、「特になし」は『ご自身』（62.7%）で 6 割以上、『家族や友人』（70.9%）で 7 割以上となっている。抱えている困難や悩みの内容については、『ご自身』、『家族や友人』ともに、「健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）」（『ご自身』20.0%、『家族や友人』13.0%）が最も高く、次いで「家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている」（『ご自身』14.5%、『家族や友人』10.9%）となっている。『ご自身』では、男女ともにすべての年代で「健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）」（女性 40 代は「家族とうまくいかない、家族に対する問題を抱えている」と同値、男性 20 代は「仕事が見つからない、仕事が不安定」と同値）が最も高くなっている。『家族や友人』では、女性は 30 代を除き、男性は 20 代・30 代を除き、「健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）」が高くなっている。

（2）相談経験・相談先（問 35・問 36）

相談経験や相談先について、女性は「友人・知人」（36.2%）が最も高く、約 4 割となっており、次いで、「家族や親戚」（33.6%）が 3 割以上となっている。男性は「家族や親戚」（24.3%）が最も高く、2 割以上となっており、次いで、「友人・知人」（19.7%）が約 2 割となっている。一方、「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」（女性 32.8%、男性 39.1%）が女性 3 割以上、男性約 4 割となっており、男性は被害を経験しても相談していない場合が多いことがうかがえる。

「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」場合の理由について、「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」と「相談しても無駄だと思うから」（それぞれ女性 44.1%、男性 29.9%）が男女ともに同値で女性 4 割以上、男性約 3 割となっている。次いで「相談するほどのことではないと思うから」（女性 15.7%、男性 28.3%）が高くなっている。

男女とも被害経験についての相談をしない場合が多く、特に男性でその傾向が強いことがうかがえる。また、相談する場合には、公的機関や専門家・機関より、家族や親戚、友人や知人といった身近な人が頼りにされている状況がうかがえる。

（3）相談窓口の認知度（問 37）

相談窓口の認知について、「警察署における相談窓口」（28.5%）が約 3 割となっている。次いで、「市町村の相談窓口」（19.5%）、「法テラス群馬」（16.9%）の 2 項目が約 2 割となっている。一方、「いずれも知らない」（女性 48.7%、男性 52.4%）が女性で約 5 割、男性で 5 割以上となっている。

（4）DV や抱えている困難等を相談する窓口における必要な配慮・DV や抱えている困難等を解決するために必要な支援等（問 38・問 39）

DV や抱えている困難等を相談する窓口における必要な配慮について、「24 時間相談ができる」（45.9%）が約 5 割となっている。次いで「匿名で相談ができる」（41.3%）、「通話料が無料」（40.5%）が 4 割台となっている。特に「同性の相談員がいる」（女性 35.8%、男性 20.3%）で男女差が大きく、女性が 15.5 ポイント高くなっている。男女ともに 30 代・40 代・50 代では、「24 時間相談ができる」が最も高くなっている。DV 被害者・支援対象者別でも、男女ともに「24 時間相談ができる」

が最も高くなっている。

DV や抱えている困難等を解決するために必要な支援等について、男女ともに「気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS 相談を含む）」（全体 46.6%、女性 49.9%、男性 43.5%）が最も高くなっている。男女差は「自分の困りごとを気兼ねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人」（女性 43.9%、男性 31.3%）で最も大きく、女性が 12.6 ポイント高くなっている。DV 被害者・支援対象者についてはいずれも、女性が「自分の困りごとを気兼ねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人」、男性が「気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS 相談を含む）」がそれぞれ高くなっている。

（５）DV 被害・加害経験（問 40－１・40－２）

この５年間におけるDV被害経験は、すべての項目で「ない」がほとんどとなっているが、その中で『精神的な暴力・社会的な暴力』は《ある（計）》（「１・２度ある」と「何度もある」の合計値）（12.3%）が１割以上で最も高くなっている。

何らかの被害経験が「ある」（女性 19.2%、男性 11.2%）は女性約２割、男性１割以上となっている。また、女性は 30 代（女性 21.9%）、男性は 20 代（男性 14.9%）が最も高くなっている。

被害種類数は男女ともに「１種類」（女性 45.0%、男性 52.2%）が過半数を占めている。「２種類」（女性 25.8%、男性 8.7%）では男女差が最も大きくなっている。

DV 加害経験は、すべての項目で「ない」がほとんどとなっているが、その中で『精神的な暴力・社会的な暴力』は《ある（計）》（「１・２度ある」と「何度もある」の合計値）（5.8%）が約１割で最も高くなっている。

何らかの加害経験が「ある」（男女ともに 7.3%）が約１割となっている。また、女性 30 代（12.4%）が最も高くなっている。

加害種類数は男女ともに「１種類」（女性 66.7%、男性 50.0%）が女性で約 7 割、男性で 5 割となっている。「２種類」（女性 15.8%、男性 16.7%）が男女ともに約 2 割となっている。「３～６種類」は、女性（17.6%）は約 2 割で、男性（33.3%）は 3 割以上となっている。

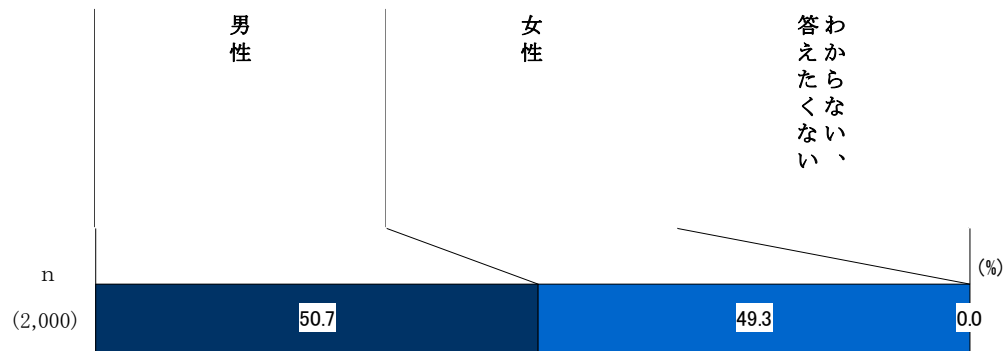
項目	全体値		属性傾向・経年・内閣府調査との比較
身体的な暴力	被害経験	5.3%	被害経験は女性 40 代が最も高い 加害経験は女性 70 代以上を除くすべての年代で回答あり
	加害経験	3.2%	
精神的な暴力・社会的な暴力	被害経験	12.3%	被害経験は 20 代・70 代以上を除くすべての年代で女性が高い 加害経験は女性 30 代で 1 割以上
	加害経験	5.8%	
性的な暴力	被害経験	3.0%	被害経験は男性 50 代を除くすべての年代で回答あり 加害経験は男女とも一部の年代でわずかに見られる
	加害経験	1.1%	
経済的な暴力	被害経験	5.2%	被害経験は女性 40 代で 1 割 加害経験は女性 70 代以上を除くすべての年代で回答あり
	加害経験	1.8%	
子どもを利用した暴力	被害経験	4.1%	被害経験は 20 代で男女差がやや大きい 加害経験は女性 70 代以上を除くすべての年代で回答あり
	加害経験	1.9%	
ストーカー行為	被害経験	3.5%	被害経験は男性 20 代で 1 割 加害経験は男女とも一部の年代でわずかに見られる
	加害経験	1.3%	

第3章 調査結果の詳細

1. 回答者の属性

(1) 性別

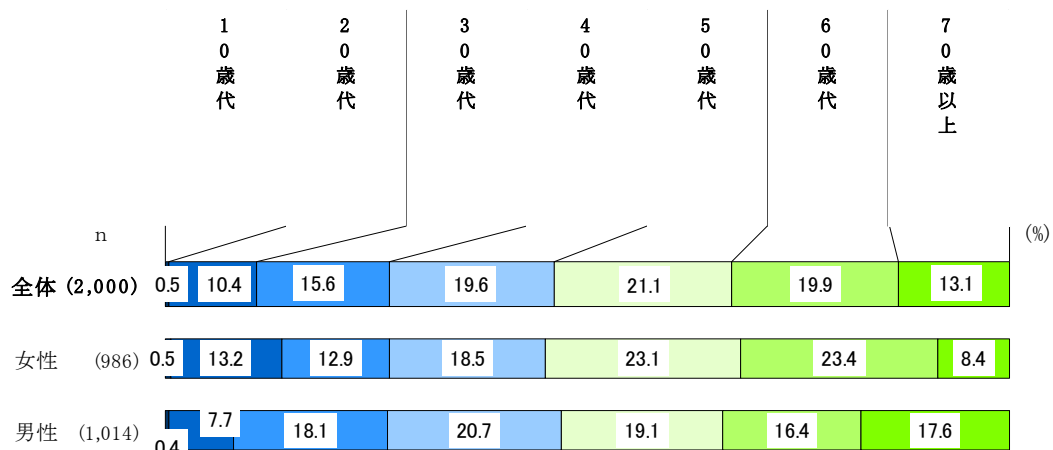
女性（49.3%）、男性（50.7%）ともに約5割となっている。



(2) 年代

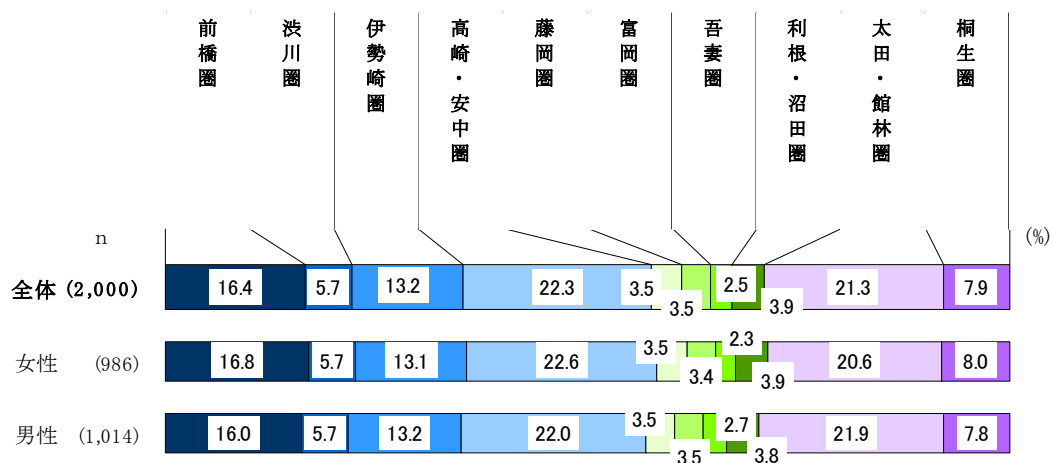
全体で50歳代（21.1%）が2割以上となっており、20歳代（10.4%）、30歳代（15.6%）、40歳代（19.6%）、60歳代（19.9%）、70歳代（13.1%）となっている。

女性では60歳代（23.4%）が最も多く、男性では40歳代（20.7%）が最も多い。



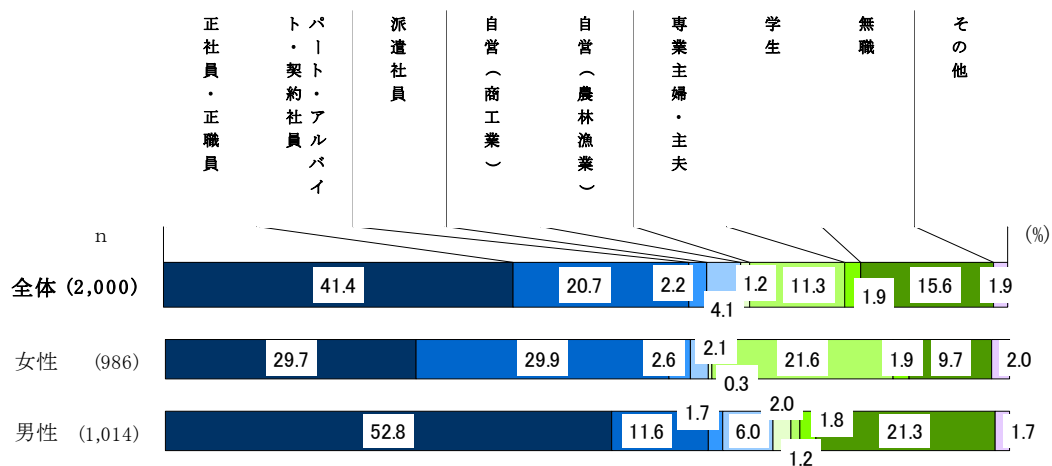
(3) 居住地区

全体、男女とも高崎・安中圏（全体22.3%、女性22.6%、男性22.0%）が最も多くなっている。次いで太田・館林圏（全体21.3%、女性20.6%、男性21.9%）が多くなっている。



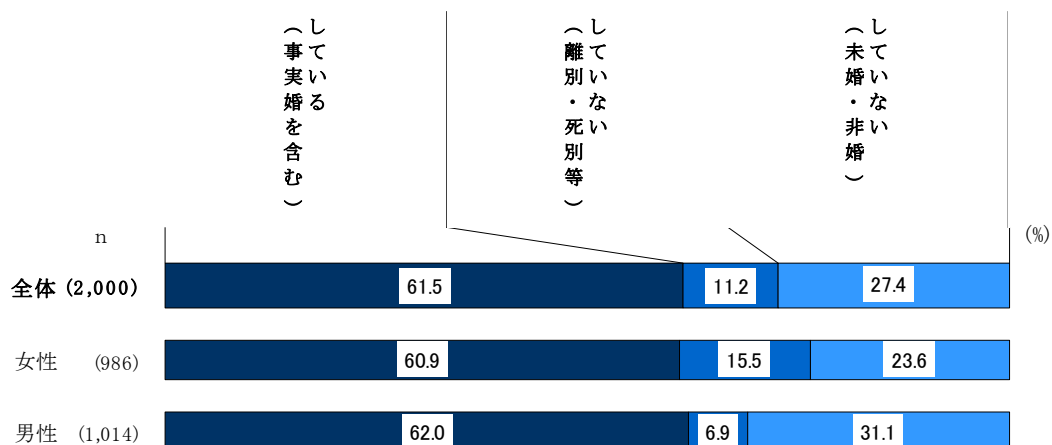
(4) 職業

女性は「パート・アルバイト・契約社員」(29.9%)が約3割、男性は「正社員・正職員」(52.8%)が5割以上でそれぞれ最も多くなっている。



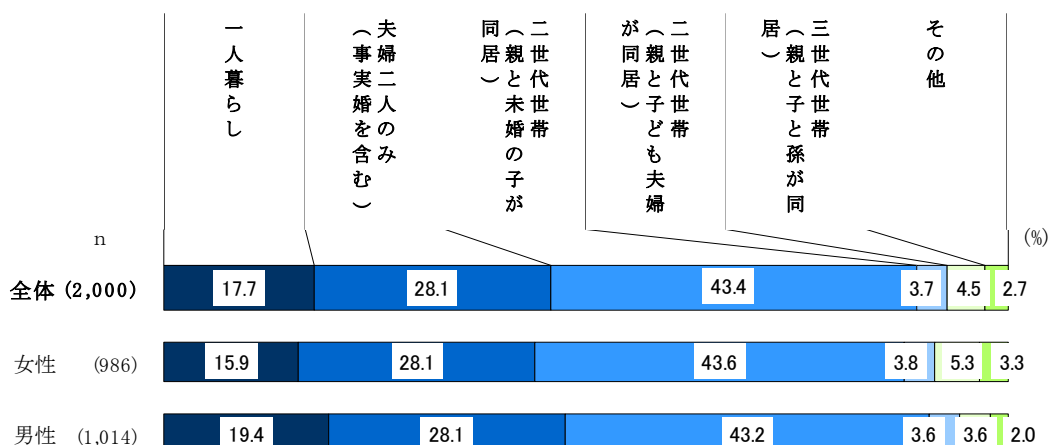
(5) 結婚

全体、男女とも「している(事実婚を含む)」(全体61.5%、女性60.9%、男性62.0%)が6割以上で特に多く、次いで「していない(未婚・非婚)」(全体27.4%、女性23.6%、男性31.1%)が多くなっている。



(6) 世帯構成

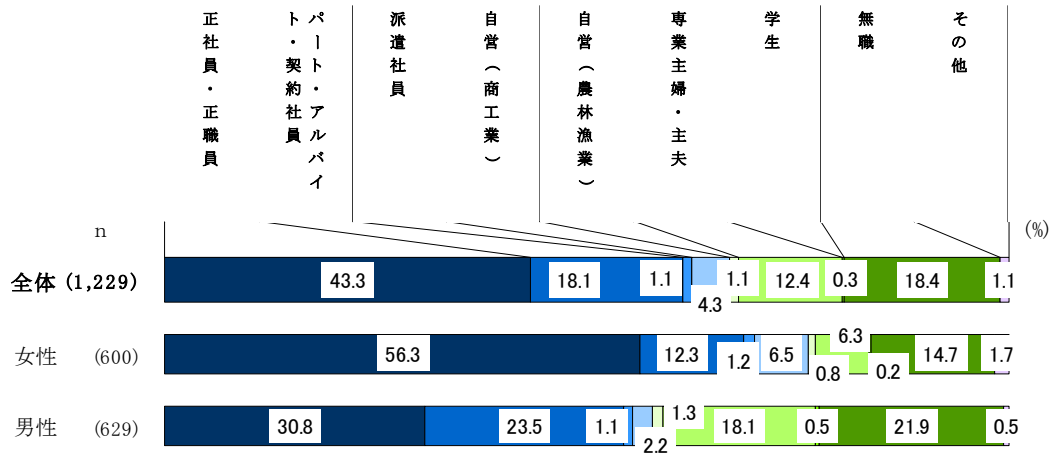
全体、男女とも「二世帯世帯(親と未婚の子が同居)」(全体43.4%、女性43.6%、男性43.2%)が最も多く、次いで「夫婦二人のみ(事実婚を含む)」(全体28.1%、女性28.1%、男性28.1%)が多くなっている。



(7) 配偶者の職業、夫婦の働き方

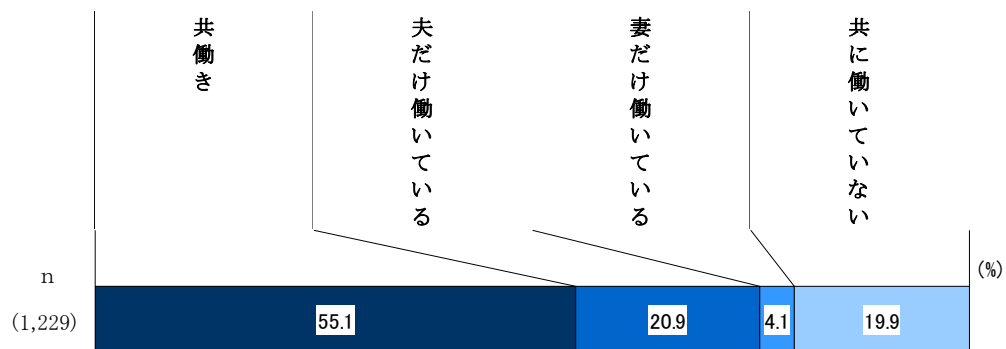
【配偶者の職業】

配偶者の職業について、回答者が女性の場合の配偶者は「正社員・正職員」(56.3%)が最も多く、回答者が男性の場合の配偶者は「正社員・正職員」(30.8%)、「パート・アルバイト・契約社員」(23.5%)が多くなっている。



【夫婦の働き方】

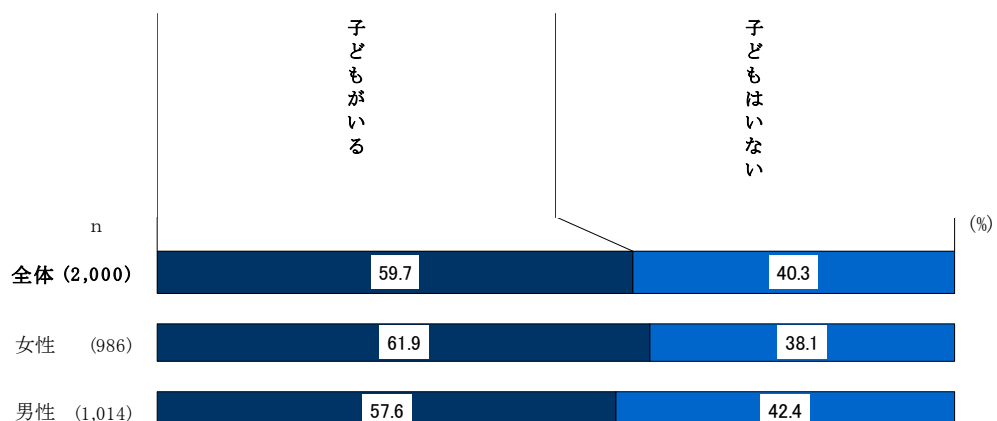
「(5) 結婚」を「している(事実婚を含む)」と回答した1,229人の「(4) 職業」と合わせて夫婦の働き方を見ると、「共働き」(55.1%)が最も多く、次いで「夫だけが働いている」(20.9%)、「共に働いていない」(19.9%)が多くなっている。



(8) 子どもについて

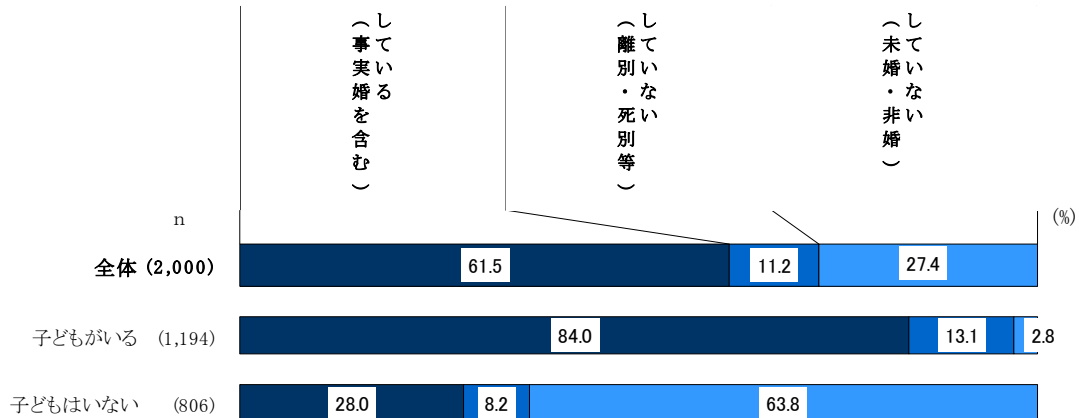
【子どもの有無】

子どもの有無を見ると、男女とも「子どもがいる」(全体59.7%、女性61.9%、男性57.6%)が6割前後となっている。



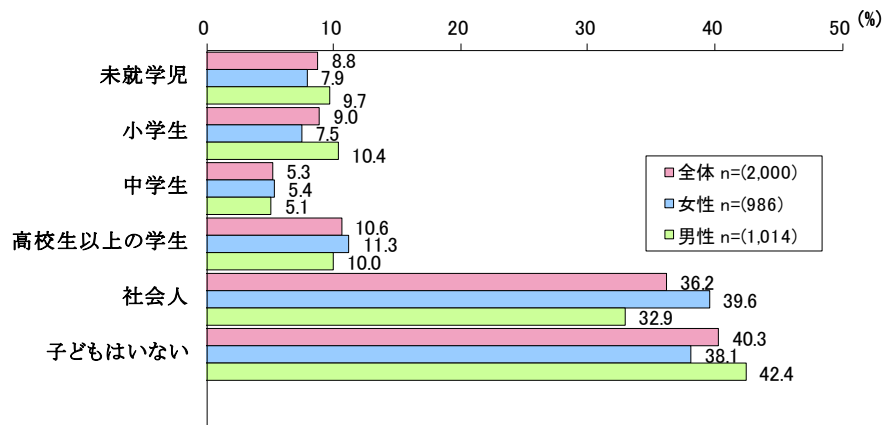
【子どもの有無・結婚状況別】

子どもの有無別に「(5) 結婚」の状況を見ると、「子どもがいる」では結婚を「している（事実婚を含む）」(84.0%) が8割以上を占めるが、「子どもはいない」では結婚を「していない（未婚・非婚）」(63.8%) が6割以上、「している（事実婚を含む）」(28.0%) が約3割となっている。



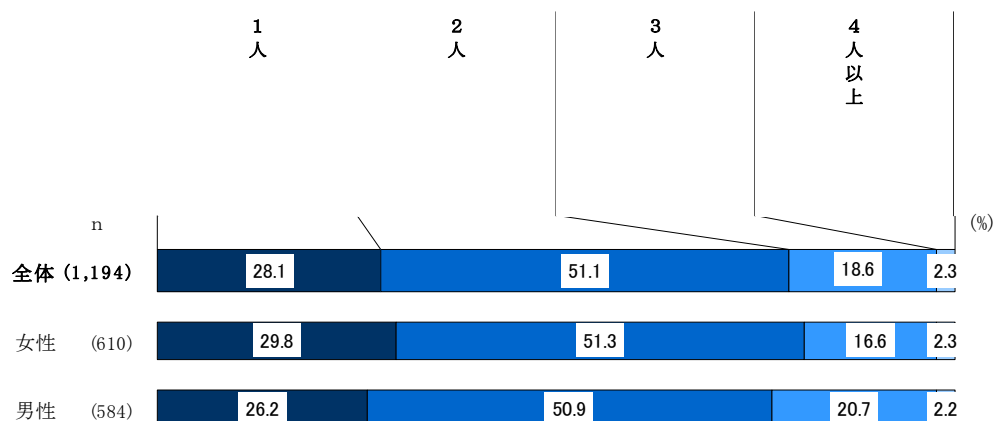
【子どもの年齢】

子どもがいる場合、その子どもは「社会人」（女性39.6%、男性32.9%）が3割以上で最も多く、次いで「小学生」（女性7.5%、男性10.4%）、「高校生以上の学生」（女性11.3%、男性10.0%）、がいずれも約1割で、「未就学児」（女性7.9%、男性9.7%）、「中学生」（女性5.4%、男性5.1%）がいずれも1割未満となっている。



(9) 子どもの人数

「(8) 子どもについて」で「子どもがいる」と回答した1,194人について、子どもの人数を見ると、男女とも「2人」（全体51.1%、女性51.3%、男性50.9%）が5割以上で最も多く、次いで「1人」（全体28.1%、女性29.8%、男性26.2%）が約3割、「3人」（全体18.6%、女性16.6%、男性20.7%）が2割前後となっている。



2. 男女の平等感について

(1) さまざまな分野における男女の地位の平等感

問10 あなたは、次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
(それぞれ1つに○)

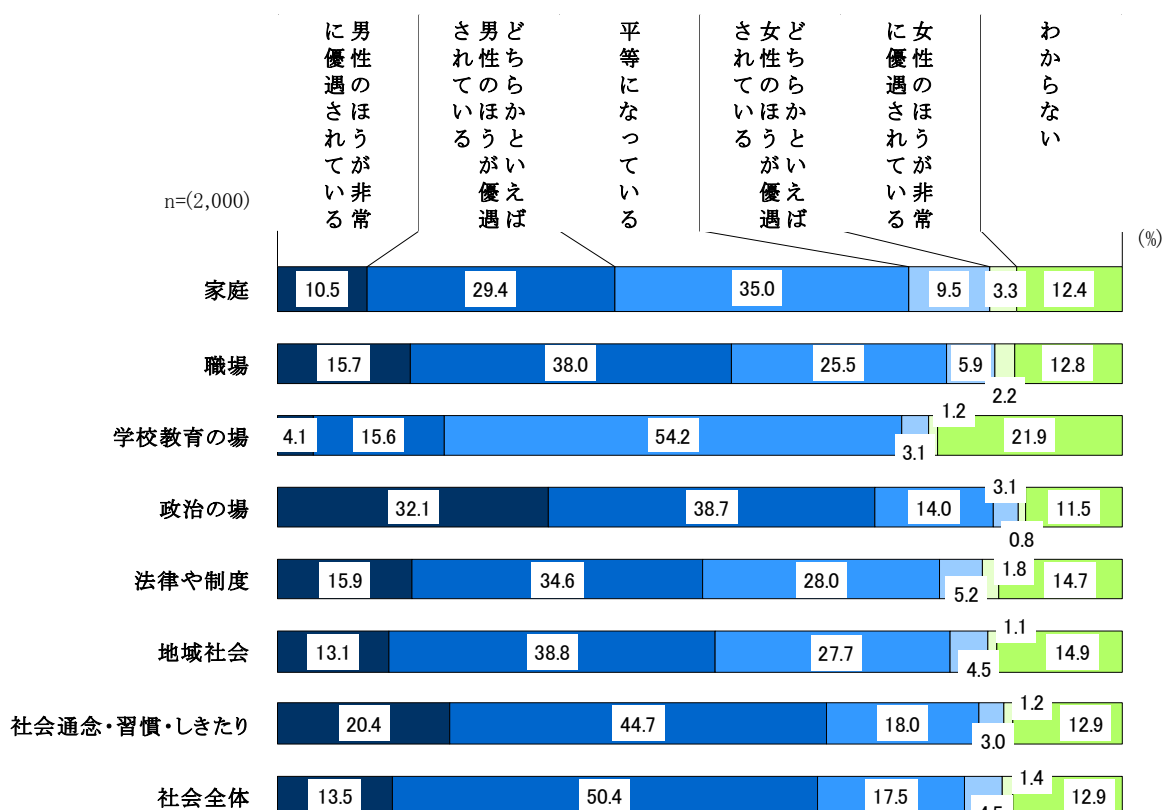
- 全体では「学校教育の場」を除き《男性優遇（計）》が高い
- 「学校教育の場」では「平等」が5割以上

全体では、『家庭』、『学校教育の場』を除くすべての項目で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高く、『学校教育の場』(54.2%)、『家庭』(35.0%)では、「平等になっている」が最も高くなっている。「平等になっている」は『学校教育の場』、『家庭』に次いで『法律や制度』(28.0%)、『地域社会』(27.7%)、『職場』(25.5%)の3項目で約3割となっており、『政治の場』(14.0%)では1割以上で最も低くなっている。

《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、『政治の場』(70.8%)で最も高く7割、次いで『社会通念・習慣・しきたり』(65.1%)、『社会全体』(63.9%)の2項目で6割以上となっている。

一方、《女性優遇（計）》（「女性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」の合計値）は、『家庭』(12.8%)を除いたすべての項目で1割未満となっている。

※群馬県の高等学校においては、現在も県内に12校の別学の高等学校があり（22年前には23校）、世代に関わらず、別学に在籍された方も多くと予想される。「学校」や「教育」に関する調査結果を読み解く際は、他県と比較しても別学の高等学校が多い群馬県の現状について留意しておく必要がある。

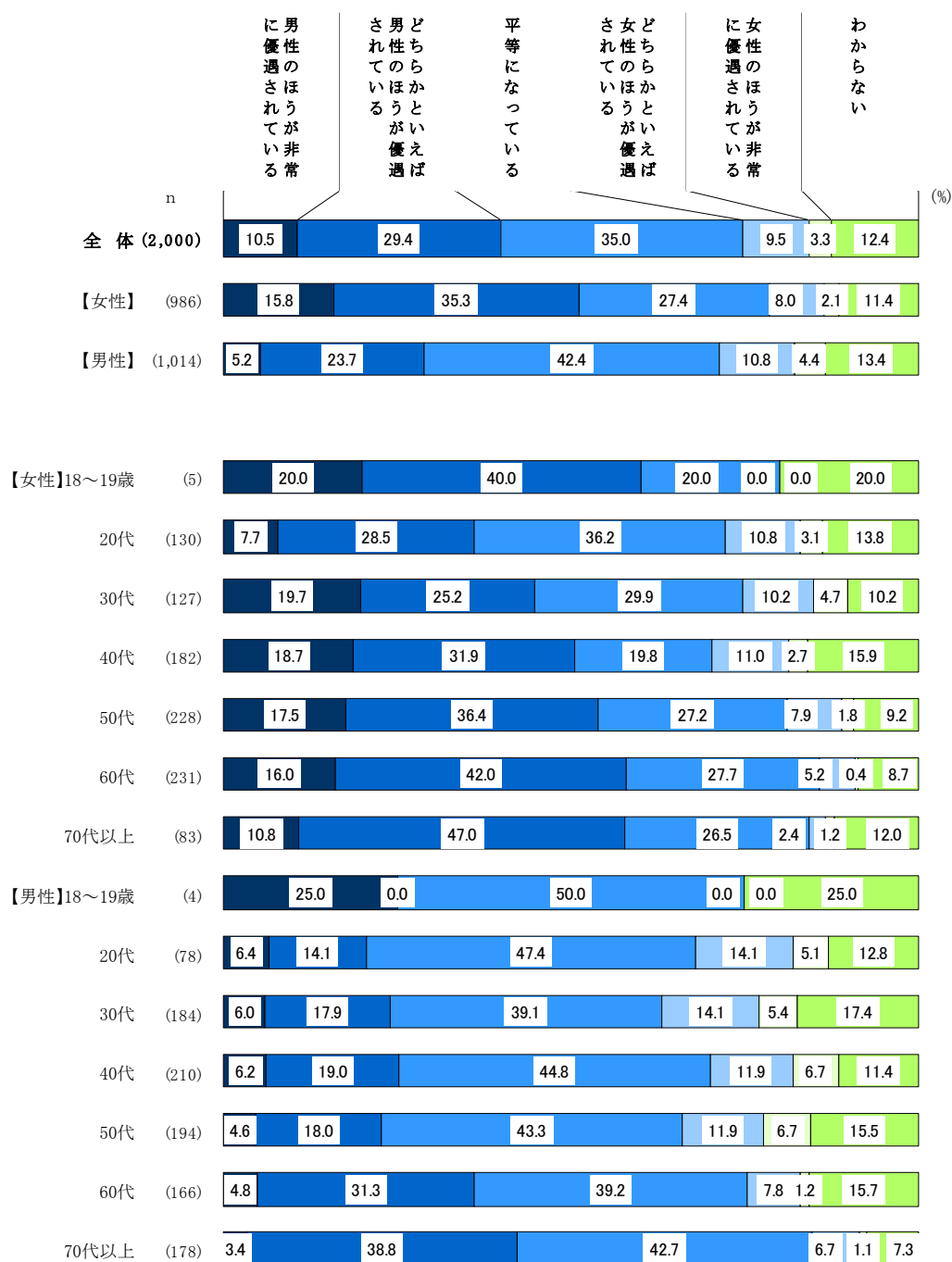


問10 ① 家庭での男女の平等

●《男性優遇（計）》は50代の男女差が大きい

女性は「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（35.3%）、男性は「平等になっている」（42.4%）が最も高くなっている。《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性（51.1%）が男性（28.9%）より22.2ポイント高くなっている。

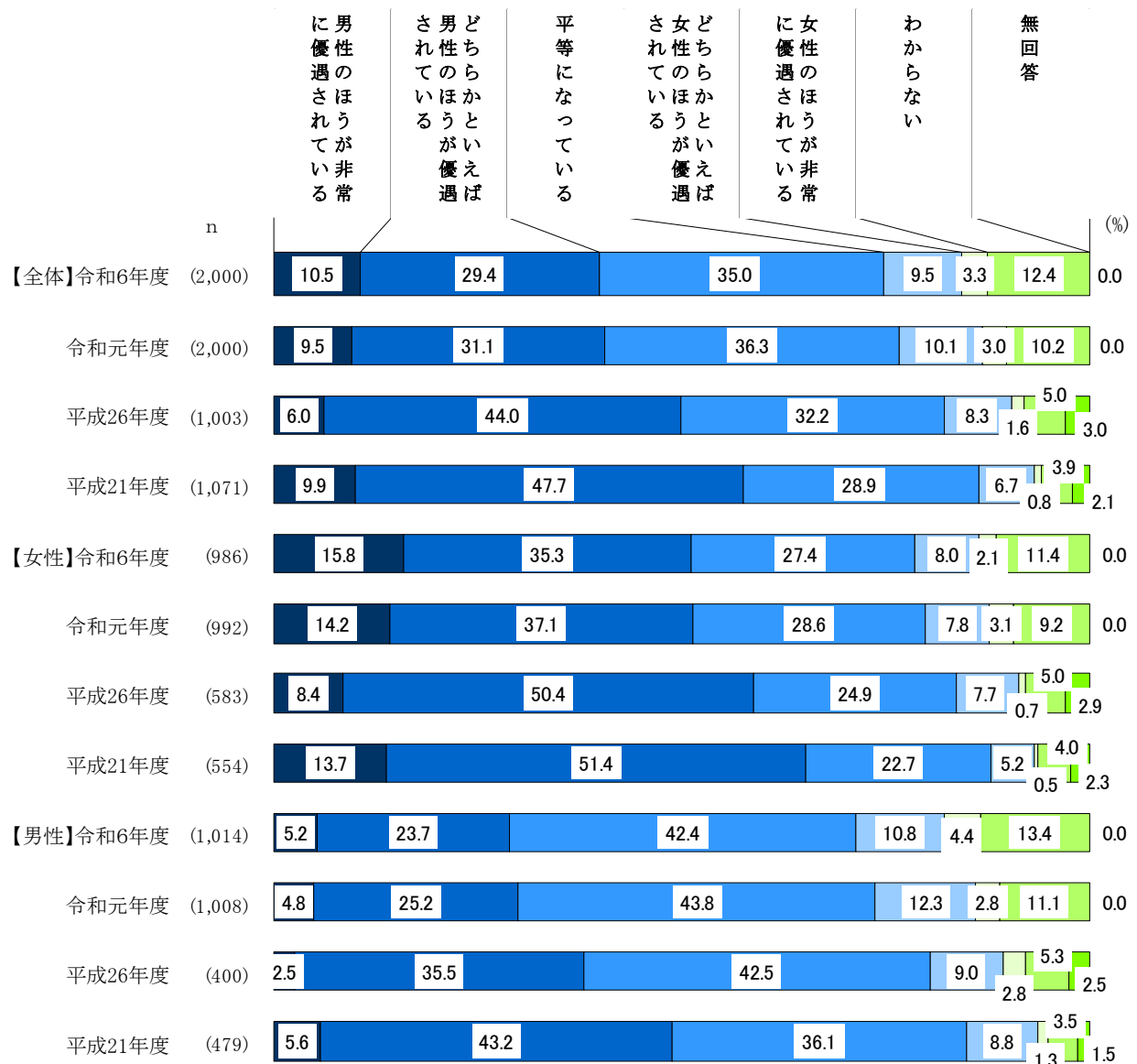
性・年代別で見ると、女性は20代・30代を除くすべての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高く、男性はすべての年代で「平等になっている」が最も高くなっている。《男性優遇（計）》は、すべての年代で女性が男性より高く、男女差は50代（女性53.9%、男性22.6%）が31.3ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。



◇経年変化

●《男性優遇（計）》は男女とも同程度

経年変化を性別で見ると、「平等になっている」は、令和元年度からあまり大きな変化は見られない。《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、全体、男女ともに前回と同程度となっており、令和元年度（全体40.6%、女性51.3%、男性30.0%）より全体は0.7ポイント、女性は0.2ポイント、男性は1.1ポイントそれぞれ低くなっている。

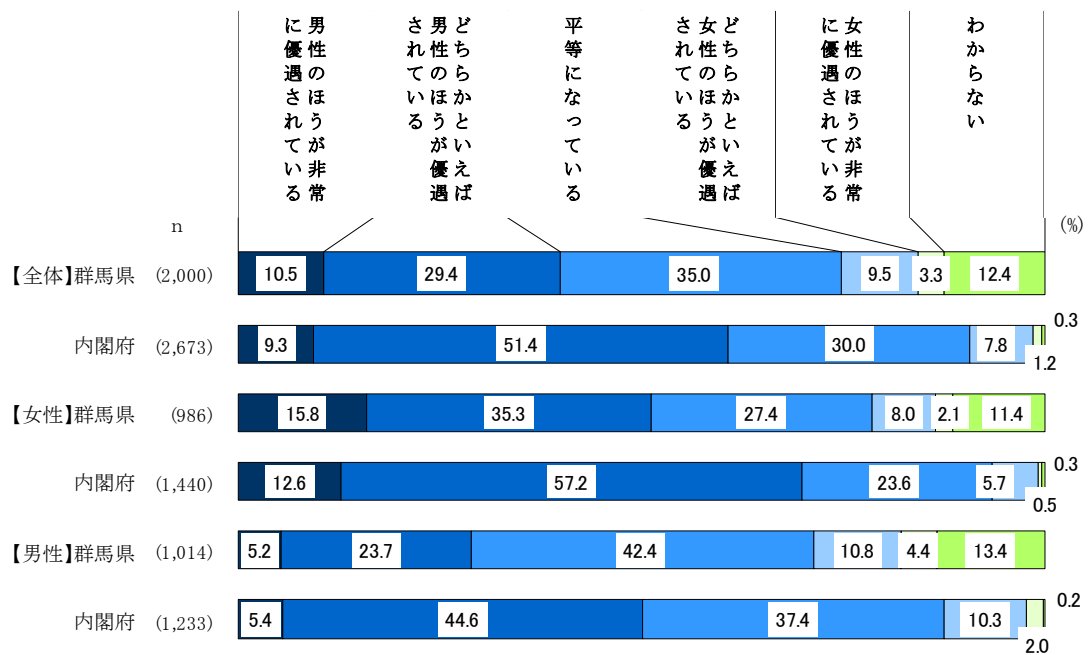


◇国の調査との比較

●《男性優遇（計）》は国より低い

内閣府の調査と比較すると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、内閣府（全体60.7%、女性69.8%、男性50.0%）より全体は20.8ポイント、女性は18.7ポイント、男性は21.1ポイントそれぞれ低くなっている。

【問 10① 国の調査との比較】



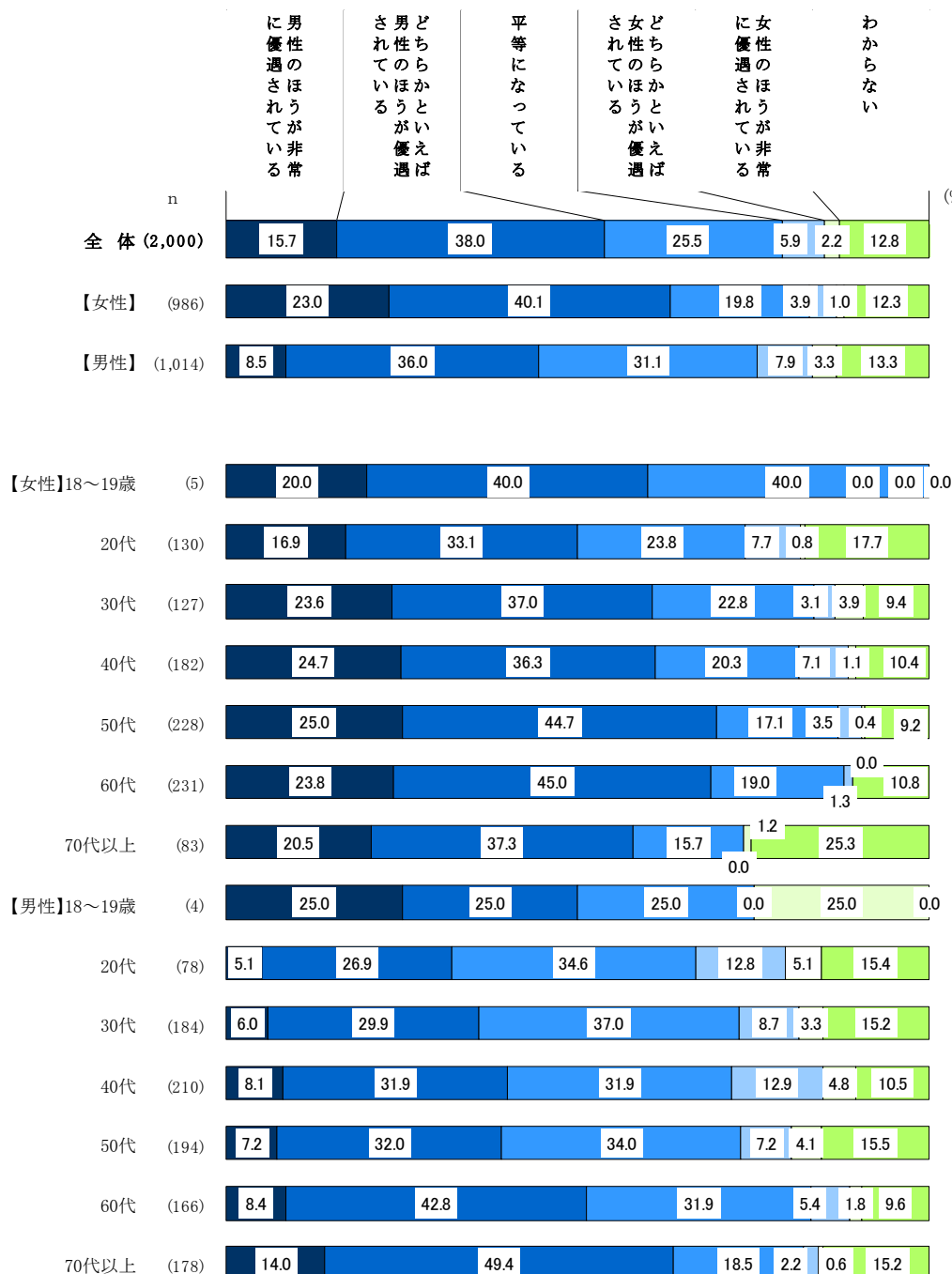
問10 ②職場での男女の平等

- 《男性優遇（計）》は女性6割以上、男性4割以上
- 《男性優遇（計）》は、50代で男女差が大きい

男女とも「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（女性40.1％、男性36.0％）が最も高くなっている。「男性のほうが非常に優遇されている」は、女性（23.0％）が男性（8.5％）より14.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性はすべての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっている。《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、男性70代以上を除くすべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は50代（女性69.7％、男性39.2％）が30.5ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

【問10 ②職場での男女の平等】



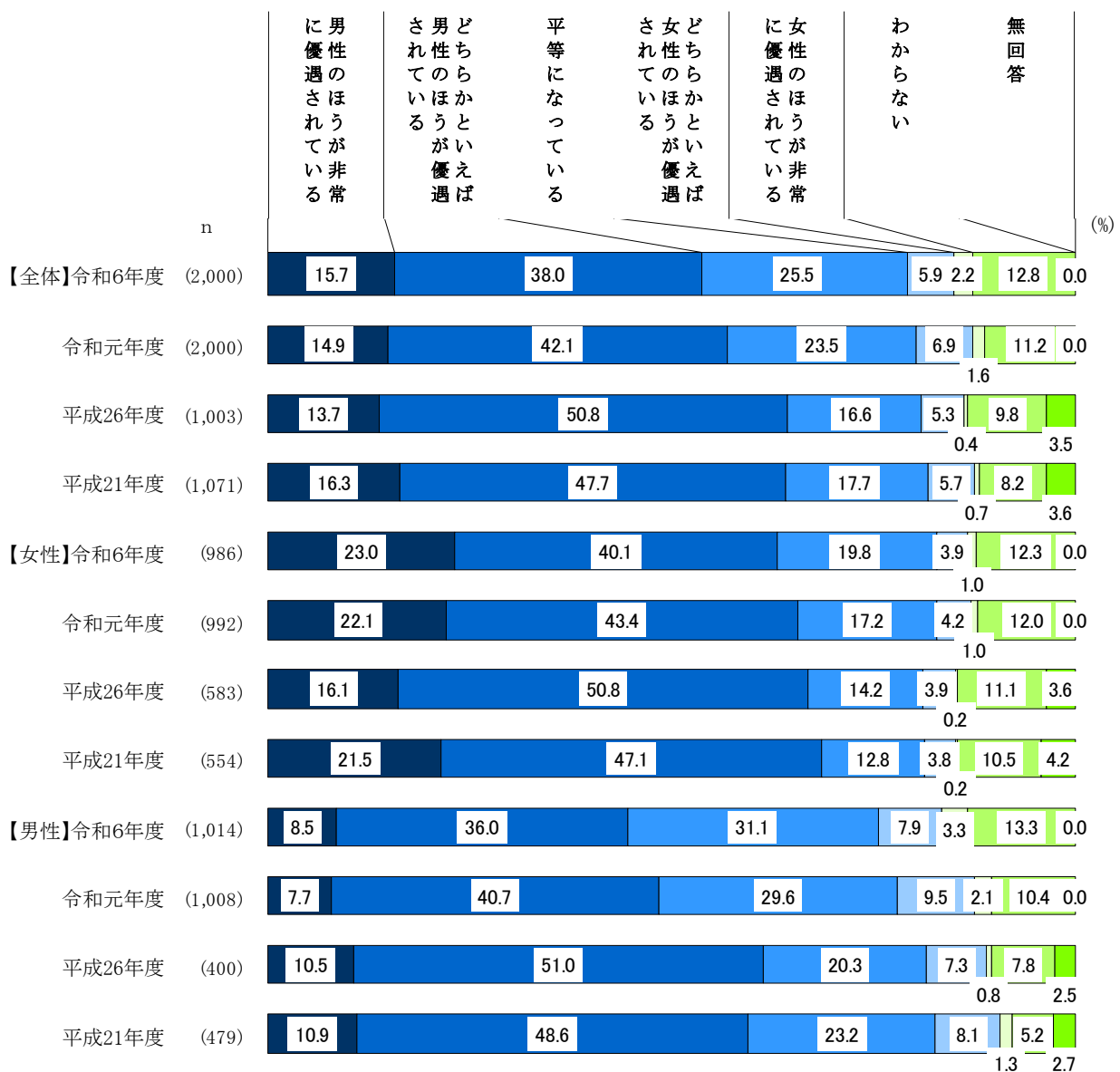
◇ 経年変化

●男女ともに《男性優遇（計）》は前回より低い

●男女ともに「平等」は前回と同等程度

経年変化を性別で見ると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、令和元年度（全体57.0%、女性65.5%、男性48.4%）より全体は3.3ポイント、女性は2.4ポイント、男性は3.9ポイントそれぞれ低くなっている。「平等になっている」は、男女ともに前回と同程度となっており、女性で令和元年度（17.2%）より2.6ポイント、男性では令和元年度（29.6%）より1.5ポイントそれぞれ高くなっている。

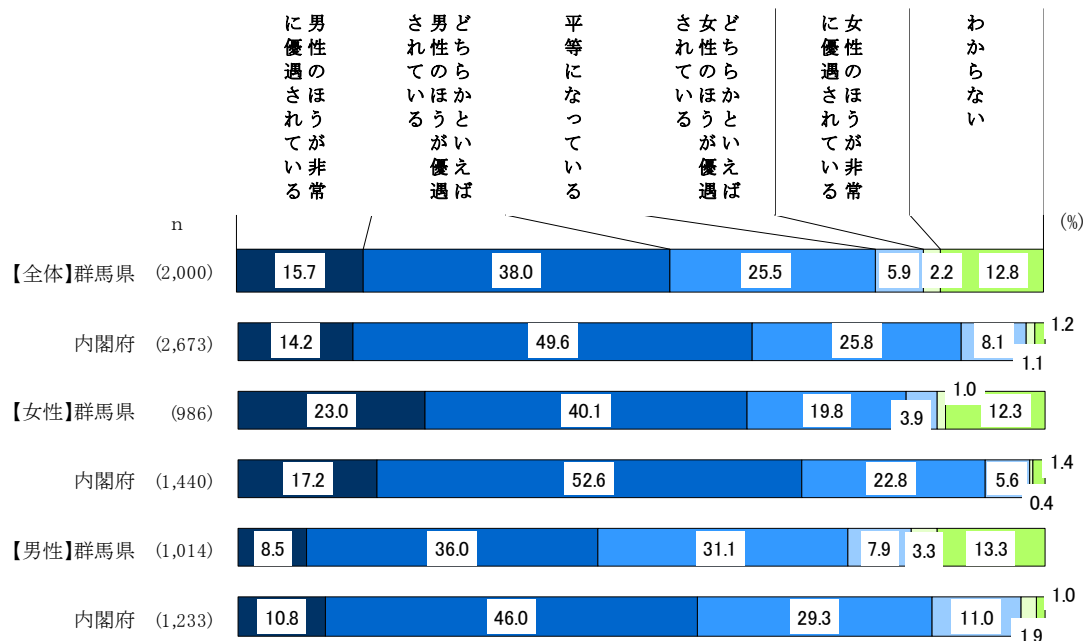
【問 10② 経年変化】



◇国の調査との比較

●《男性優遇（計）》は国より低く、《女性優遇（計）》は同程度

内閣府の調査と比較すると、「平等になっている」と《女性優遇（計）》（「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」と「女性のほうが非常に優遇されている」の合計値）は、全体、男女ともに同程度となっている。一方、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、内閣府（全体63.8%、女性69.8%、男性56.8%）より全体は10.1ポイント、女性は6.7ポイント、男性は12.3ポイントそれぞれ低くなっている。

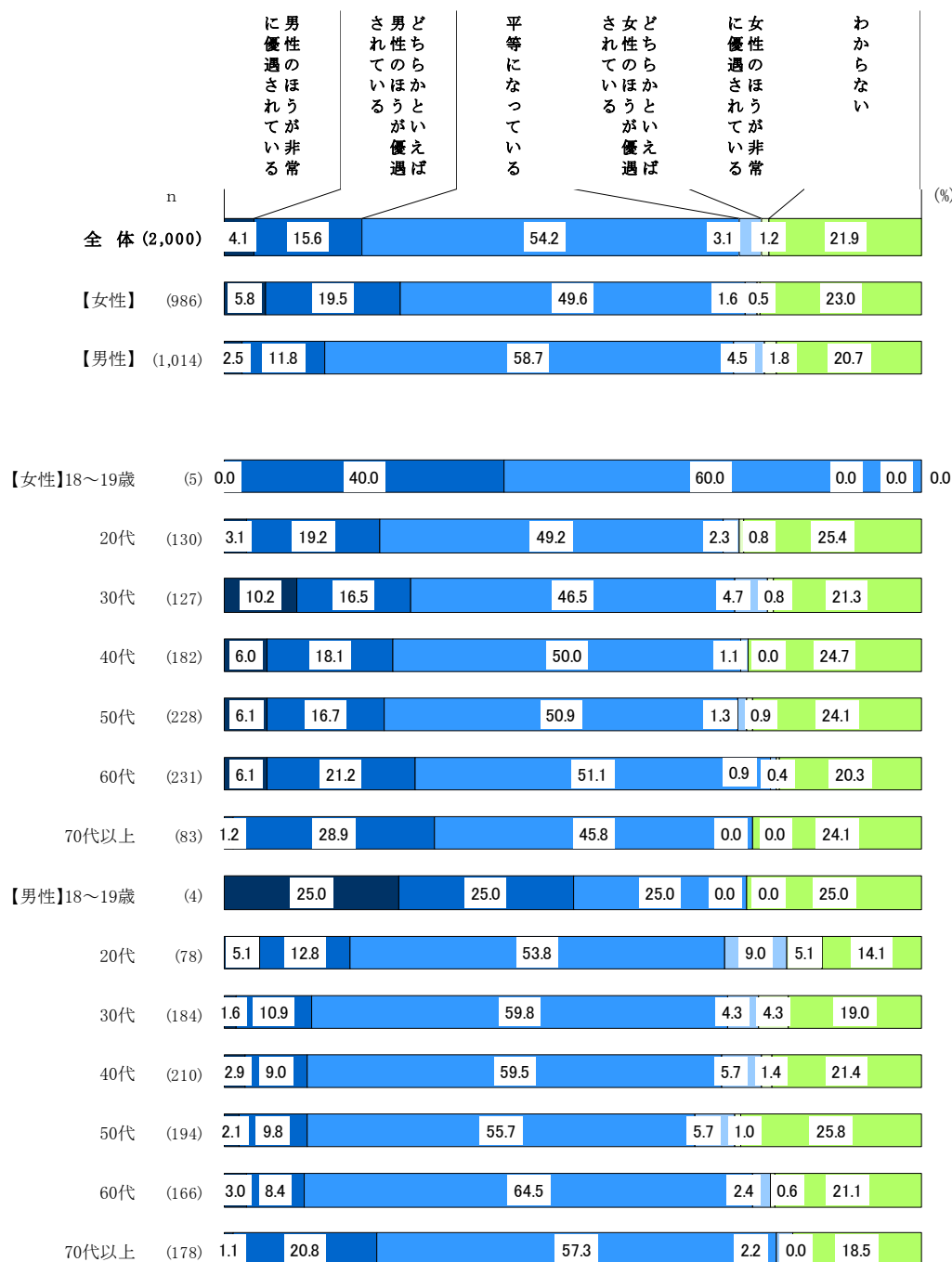


問10 ③学校教育の場での男女の平等

●「平等」は女性約5割、男性約6割で最も高い

男女とも「平等になっている」（女性49.6%、男性58.7%）が最も高くなっている。《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性（25.3%）が男性（14.3%）より11.0ポイント高くなっている。

※群馬県の高等学校においては、現在も県内に12校の別学の高等学校があり（22年前には23校）、世代に関わらず、別学に在籍された方も多いと予想される。「学校」や「教育」に関する調査結果を読み解く際は、他県と比較しても別学の高等学校が多い群馬県の現状について留意しておく必要がある。

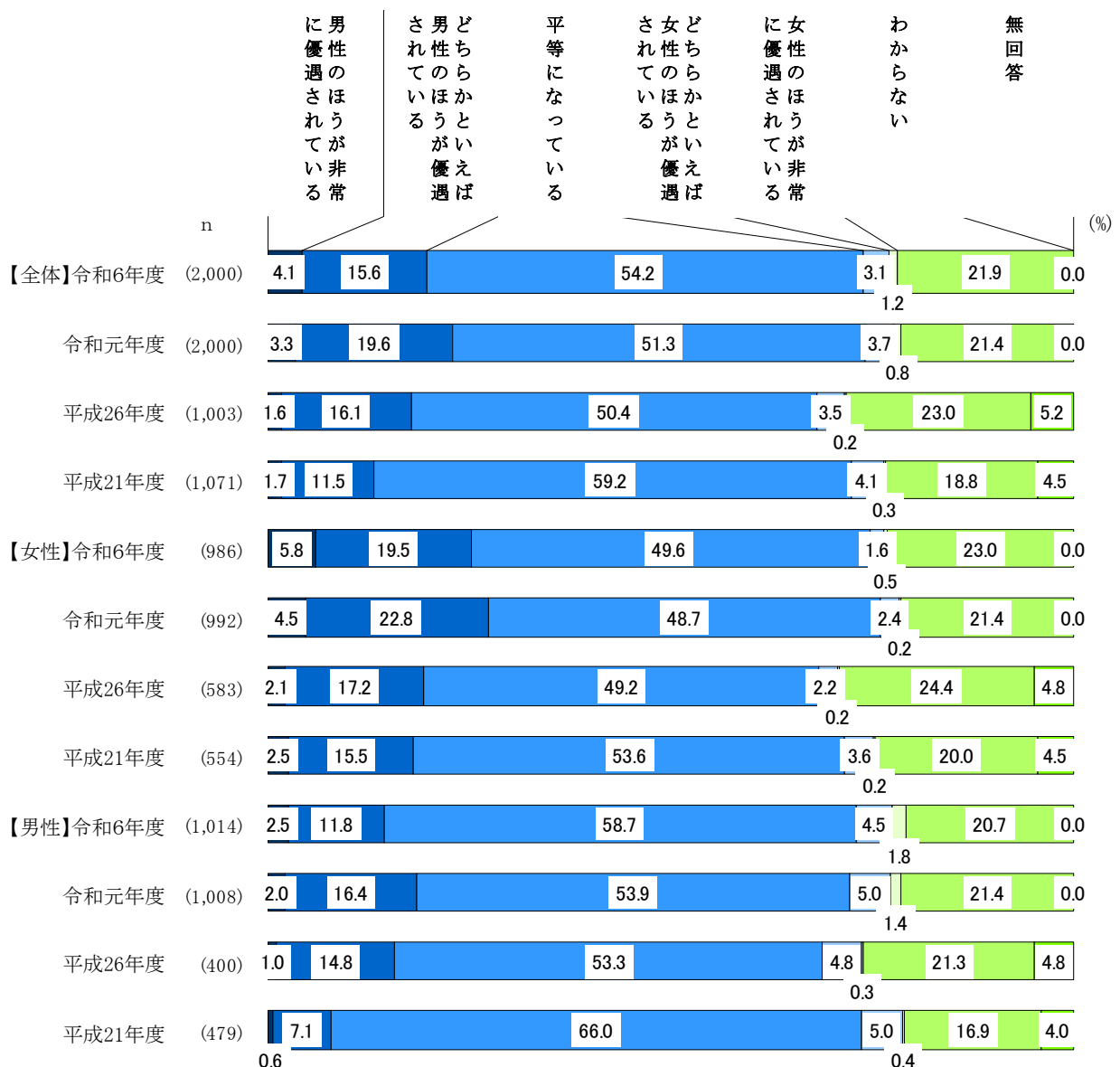


◇経年変化

●《男性優遇（計）》は男女ともに低下

経年変化を性別で見ると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性で令和元年度（27.3%）より2.0ポイント、男性で令和元年度（18.4%）より4.1ポイントそれぞれ低くなっている。一方で、「平等になっている」は、女性は令和元年度と同程度だが、男性は令和元年度（53.9%）より4.8ポイント高くなっている。

【問 10③ 経年変化】

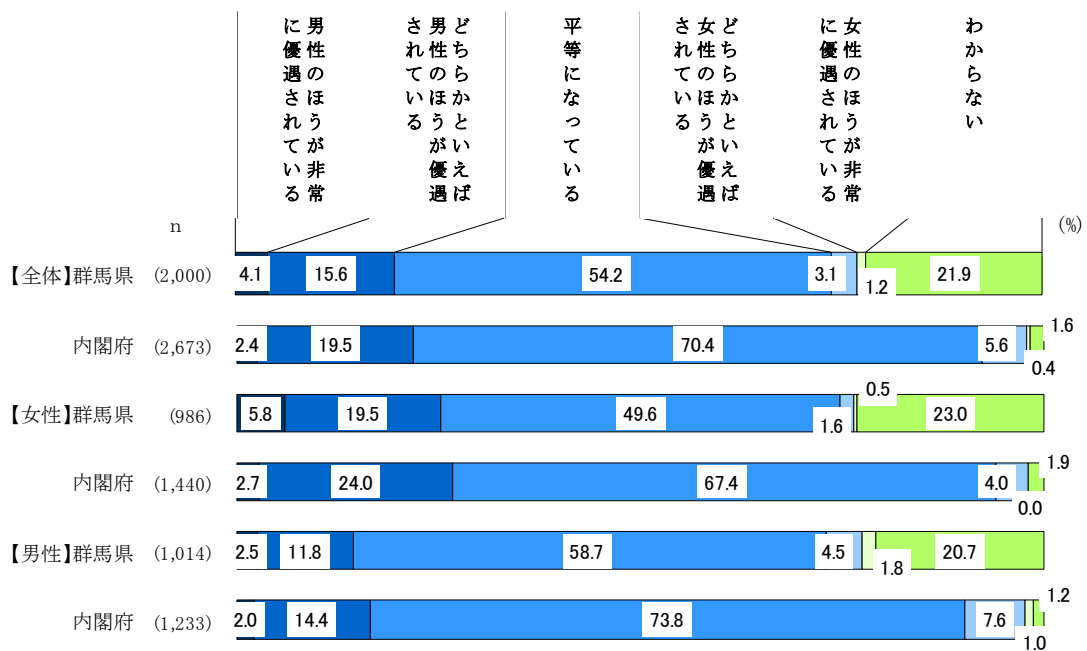


◇国の調査との比較

●「平等」は男女とも国より低い

内閣府の調査と比較すると、「男性のほうが非常に優遇されている」と「女性のほうが非常に優遇されている」は、男女ともに大きな差は見られない。一方、「平等になっている」は、内閣府（全体70.4%、女性67.4%、男性73.8%）より全体は16.2ポイント、女性は17.8ポイント、男性は15.1ポイントそれぞれ低くなっている。

【問 10③ 国の調査との比較】



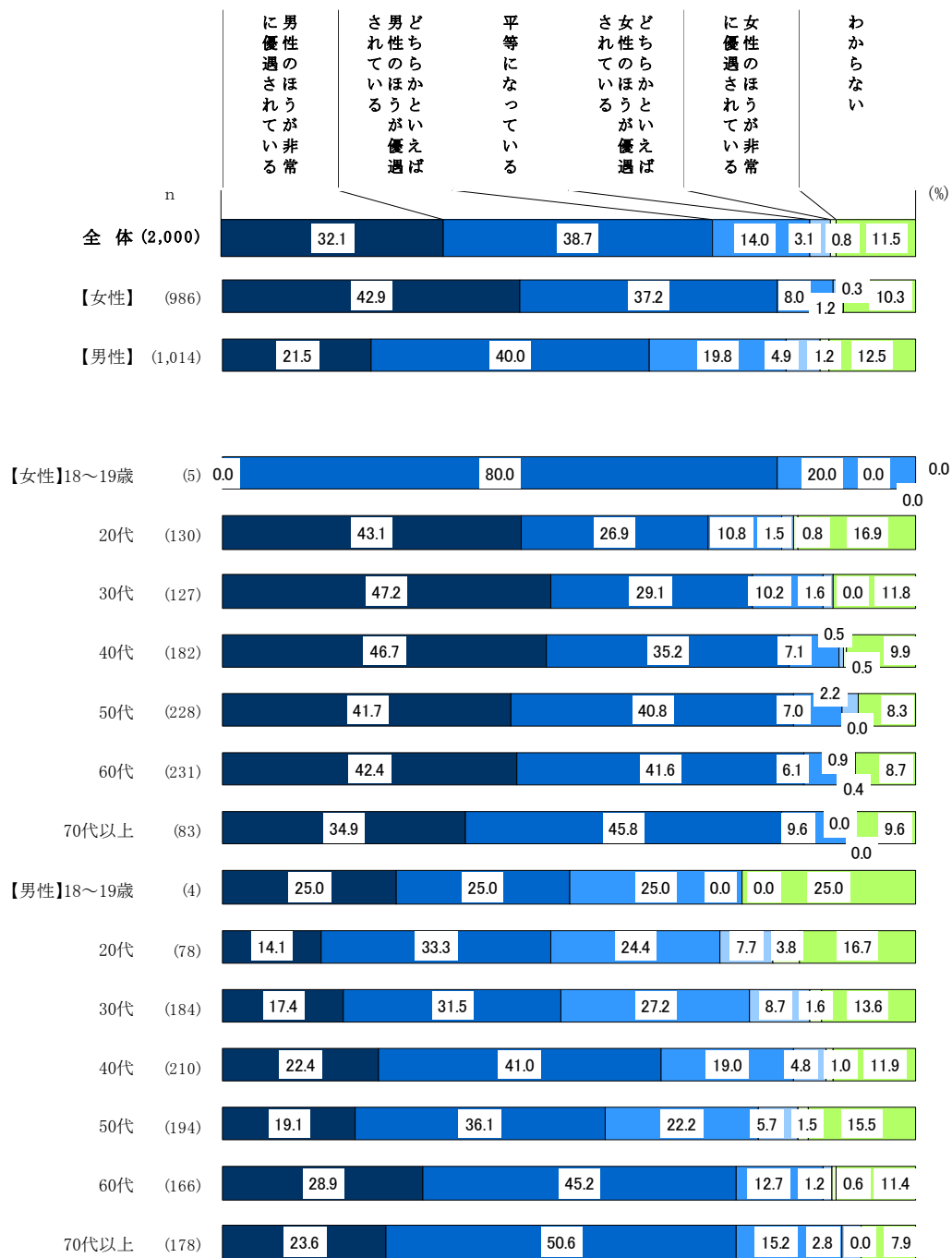
問 10 ④政治の場での男女の平等

●《男性優遇（計）》は女性8割、男性6割以上

女性は「男性のほうが非常に優遇されている」（42.9%）、男性は「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（40.0%）が最も高くなっている。《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性（80.1%）が男性（61.5%）より18.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性は70代以上を除くすべての年代で「男性のほうが非常に優遇されている」が4割以上と最も高く、女性70代以上と男性のすべての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっている。《男性優遇（計）》はすべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は30代（女性76.3%、男性48.9%）が27.4ポイントで最も大きくなっている。

【問 10 ④政治の場での男女の平等】

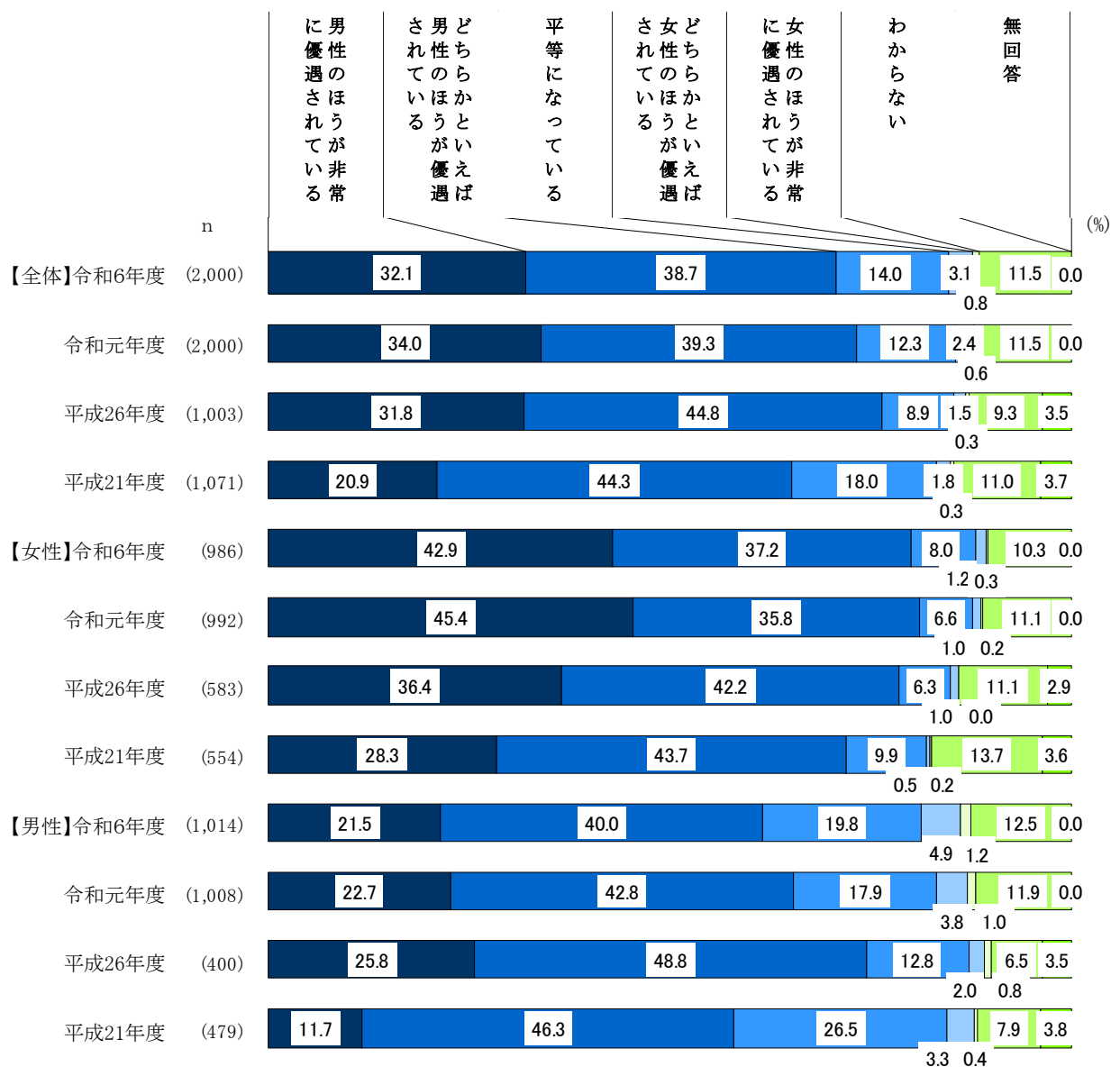


◇経年変化

●《男性優遇（計）》は男女ともに前回より低い

経年変化を性別で見ると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性で令和元年度（81.2%）より1.1ポイント、男性で令和元年度（65.5%）より4.0ポイント低くなっている。一方で、「平等になっている」は全体で令和元年度（12.3%）より1.7ポイント高くなっている。

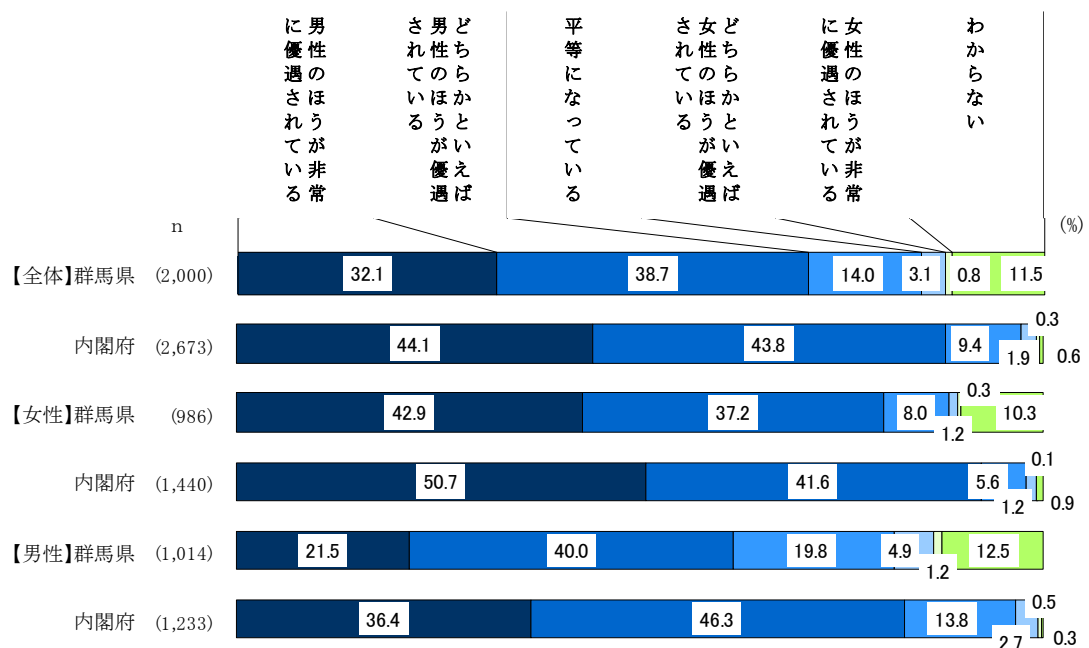
【問 10④ 経年変化】



◇国の調査との比較

●《男性優遇（計）》は国より低い

内閣府の調査と比較すると、《女性優遇（計）》（「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」と「女性のほうが非常に優遇されている」の合計値）は、全体、男女ともに同程度となっている。一方、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、内閣府（全体87.9%、女性92.3%、男性82.7%）より全体は17.1ポイント、女性は12.2ポイント、男性は21.2ポイントそれぞれ低くなっている。

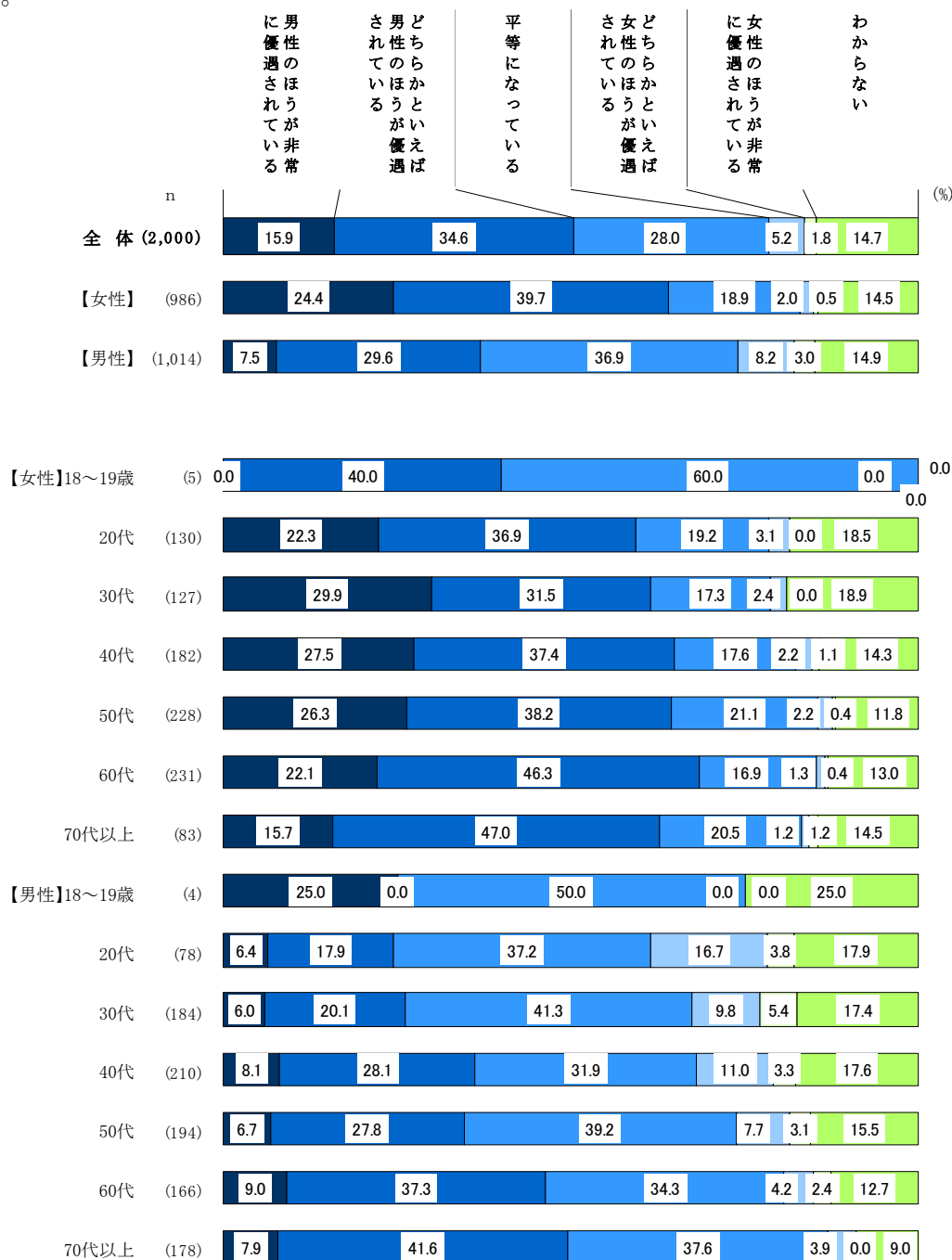


問10 ⑤法律や制度での男女の平等

- 女性「どちらかといえば男性優遇」、男性は「平等」が最も高い
- 《男性優遇（計）》は女性6割以上、男性約4割

女性は「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（39.7%）、男性は「平等になっている」（36.9%）が最も高くなっている。《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性（64.1%）が男性（37.1%）より27.0ポイント高くなっている。

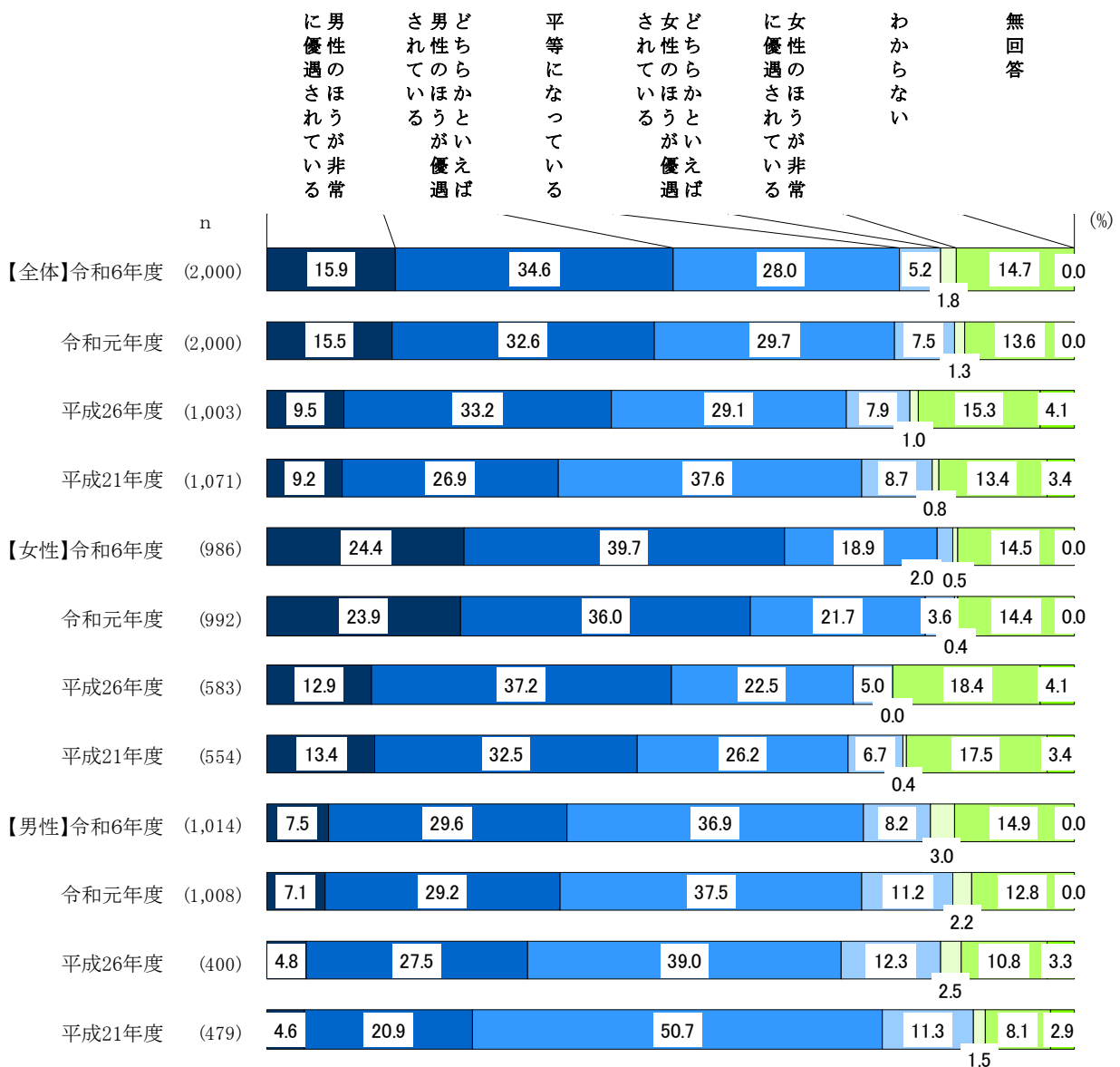
性・年代別で見ると、《男性優遇（計）》は、すべての年代で女性が男性より高くなっている。男女差は30代（女性61.4%、男性26.1%）が35.3ポイントで最も大きくなっている。



◇経年変化

- 《男性優遇（計）》は男女ともに前回より高い
- 「平等」は男女ともに前回と同程度

経年変化を性別で見ると、「男性のほうが非常に優遇されている」は、男女ともに前回と同程度となっている。「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」は、全体、女性で令和元年度（全体32.6%、女性36.0%）より全体は2.0ポイント、女性は3.7ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は、全体、男女ともに前回と同程度となっており、令和元年度（全体29.7%、女性21.7%、男性37.5%）より全体は1.7ポイント、女性は2.8ポイント、男性は0.6ポイントそれぞれ低くなっている。

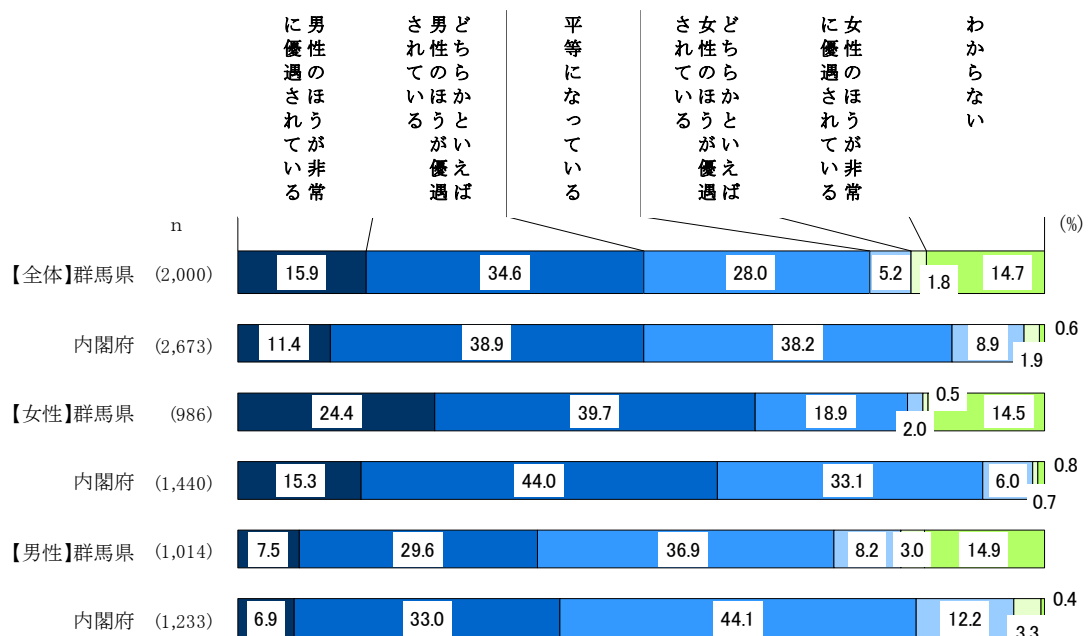


◇国の調査との比較

- 《男性優遇（計）》は女性で国より高く、男性で国より低い
- 「平等」は男女とも国より低い

内閣府の調査と比較すると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性で内閣府（59.3%）より4.8ポイント高くなっているが、男性では内閣府（39.9%）より2.8ポイント低くなっている。「平等になっている」は、内閣府（全体38.2%、女性33.1%、男性44.1%）より全体は10.2ポイント、女性は14.2ポイント、男性は7.2ポイントそれぞれ低くなっている。

【問 10⑤ 国の調査との比較】



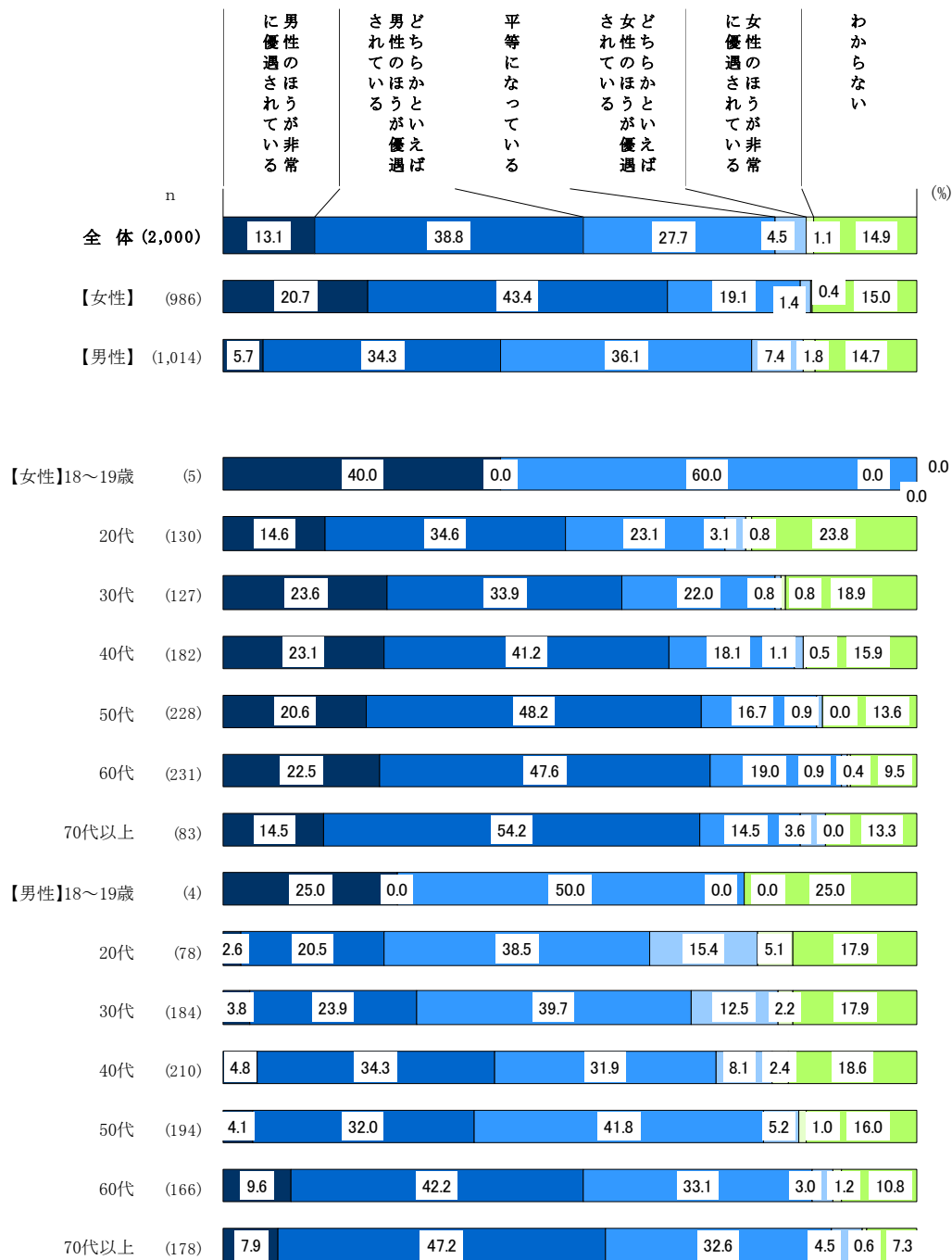
問 10 ⑥地域社会での男女の平等

- 《男性優遇（計）》は女性6割以上、男性4割で、50代の男女差が大きい

女性は「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（43.4%）、男性は「平等になっている」（36.1%）が最も高くなっている。《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性（64.1%）が男性（40.0%）より24.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性はすべての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高く、特に70代以上（54.2%）で5割以上と高くなっている。《男性優遇（計）》は、すべての年代で女性が男性より高く、特に女性60代（70.1%）は7割と高くなっており、男女差は50代（女性68.8%、男性36.1%）が32.7ポイントで最も大きくなっている。

【問 10 ⑥地域社会での男女の平等】

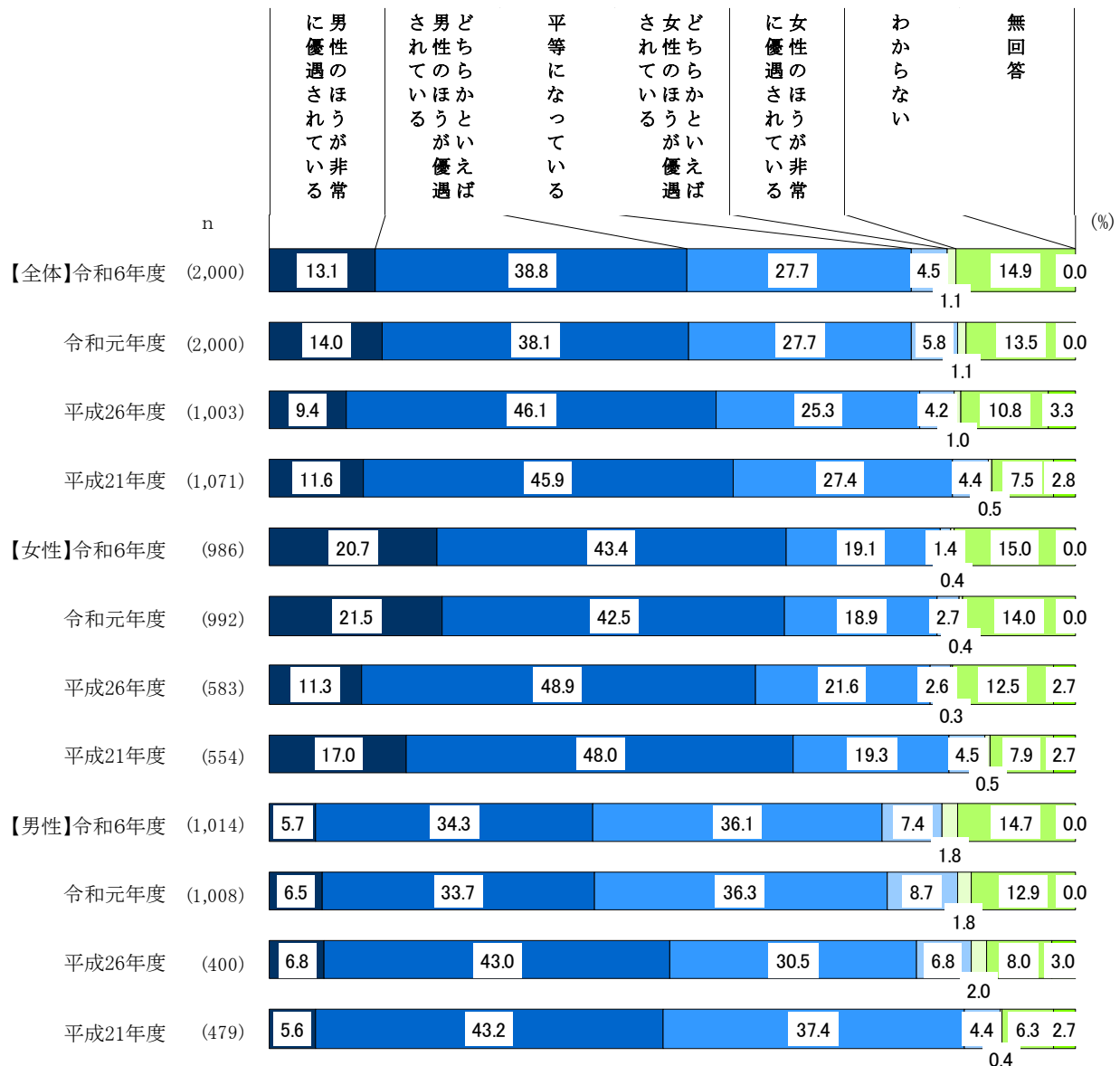


◇経年変化

●《男性優遇（計）》は男女とも前回と同程度

経年変化を性別で見ると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、男女ともに前回と同程度となっており、令和元年度（全体52.1%、女性64.0%、男性40.2%）より全体は0.2ポイント、男性は0.2ポイントそれぞれ低く、女性は0.1ポイント高くなっている。

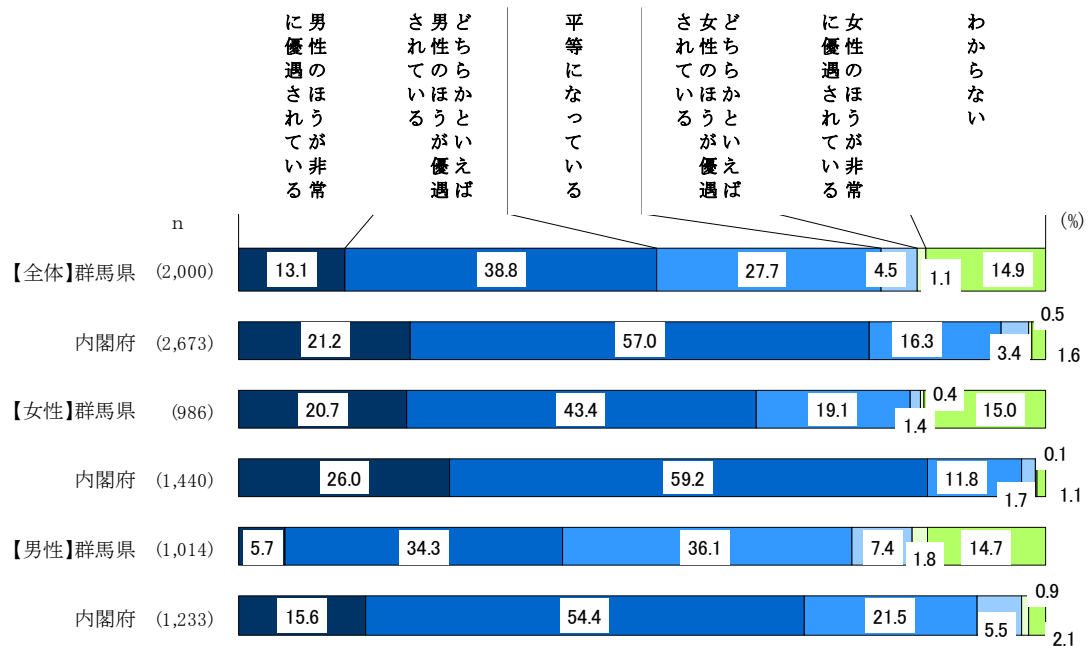
【問 10⑥ 経年変化】



◇国の調査との比較

●男女とも《男性優遇（計）》が国より低く、「平等」が国より高い

内閣府の調査と比較すると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、内閣府（全体78.2%、女性85.2%、男性70.0%）より全体は26.3ポイント、女性は21.1ポイント、男性は30.0ポイントそれぞれ低くなっている。一方、「平等になっている」は、内閣府（全体16.3%、女性11.8%、男性21.5%）より全体は11.4ポイント、女性は7.3ポイント、男性は14.6ポイントそれぞれ高くなっている。



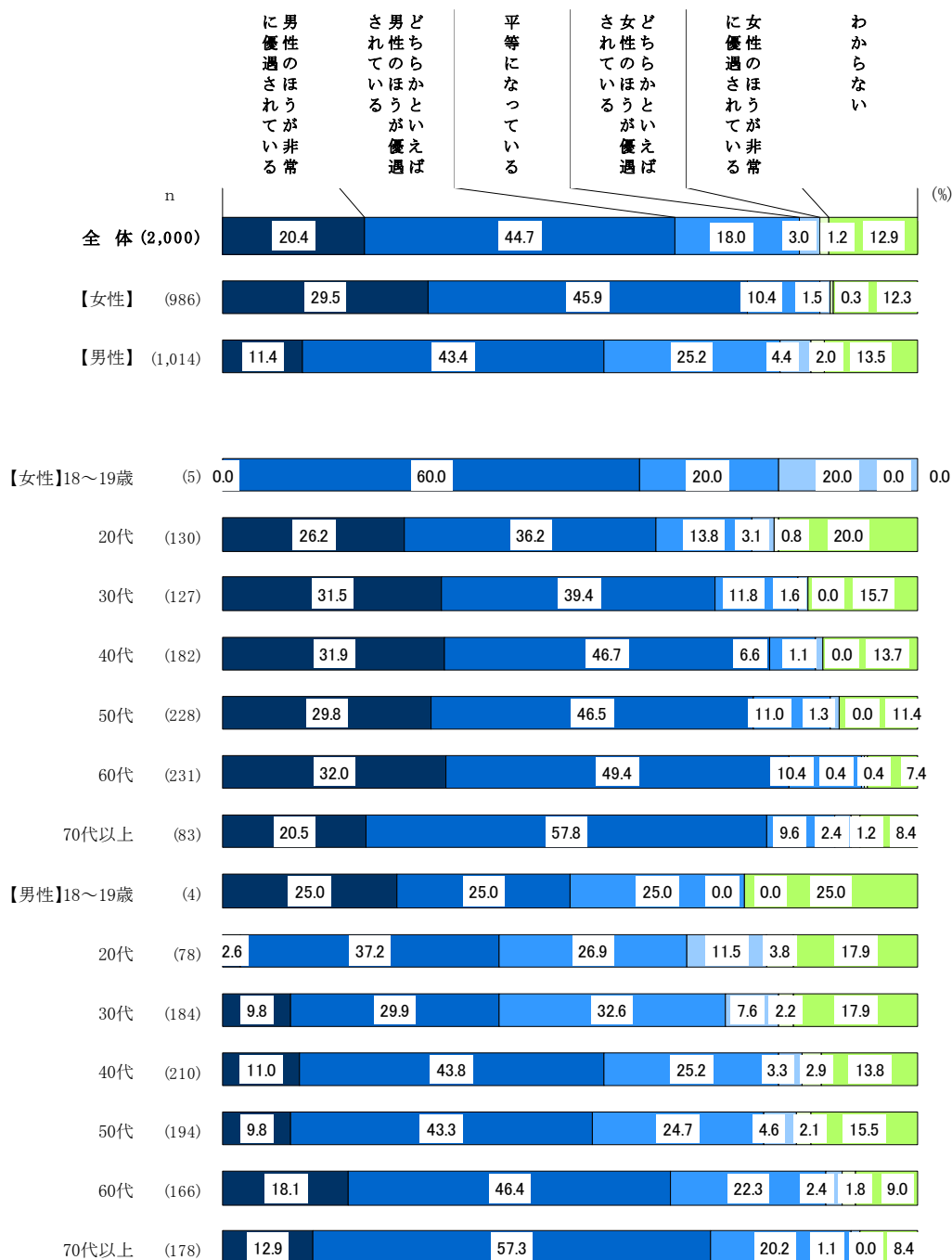
問10 ⑦社会通念・習慣・しきたりにおける男女の平等

●《男性優遇（計）》は女性約8割、男性5割以上で、30代の男女差が大きい

男女とも「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（女性45.9%、男性43.4%）が最も高くなっている。

《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は女性（75.4%）が男性（54.8%）より20.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女とも、男性30代を除くすべての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高く、70代以上で男女ともに約6割と高くなっている。男性30代は「平等になっている」が最も高くなっている。《男性優遇（計）》は、すべての年代で女性が男性より高く、特に女性60代では8割以上となっており、男女差は30代（女性70.9%、男性39.7%）が31.2ポイントで最も大きくなっている。

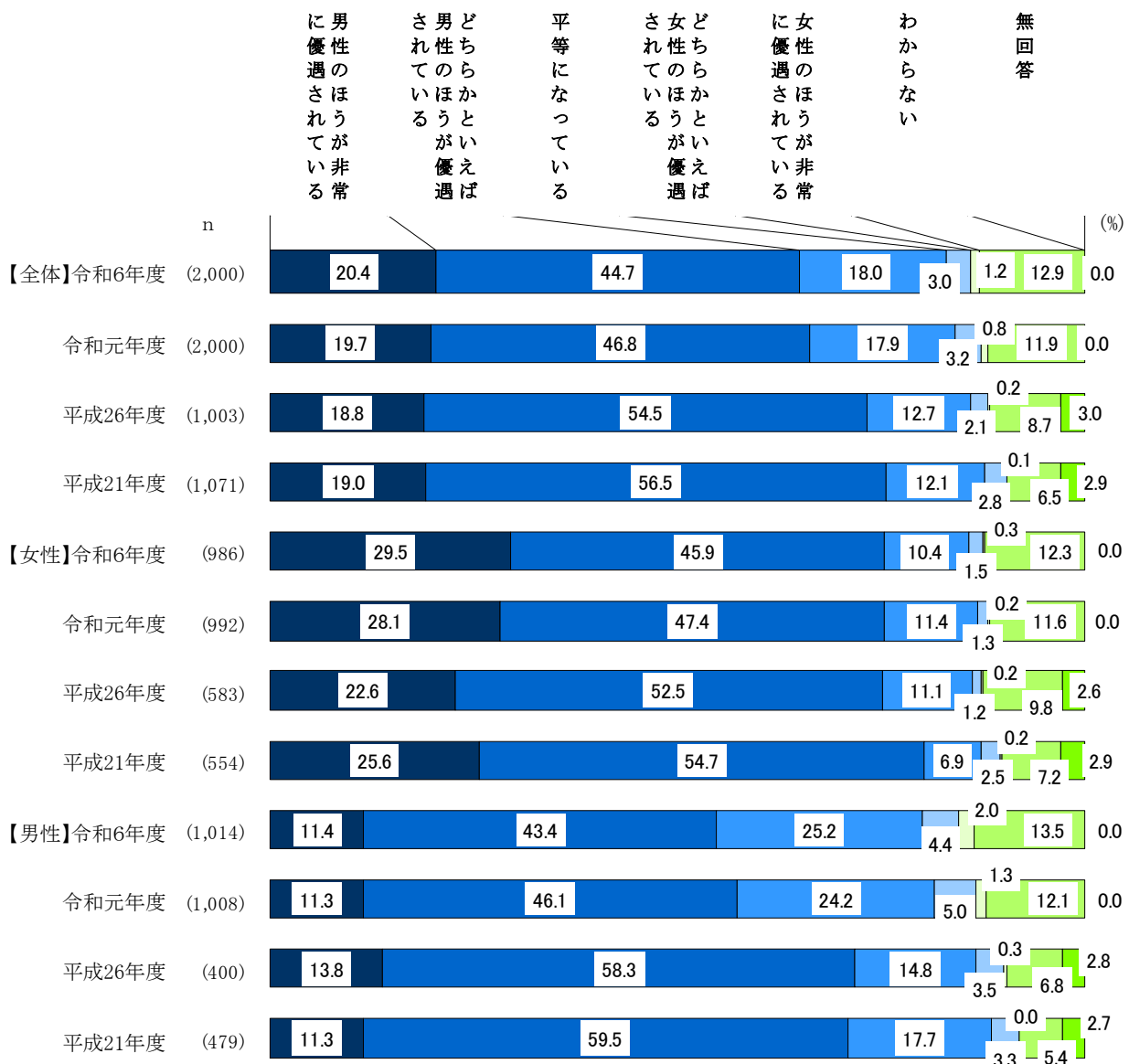


◇経年変化

●《男性優遇（計）》は男女とも前回と同程度

経年変化を性別で見ると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、男女ともに前回と同程度となっており、令和元年度（全体66.5%、女性75.5%、男性57.4%）より全体は1.4ポイント、女性は0.1ポイント、男性は2.6ポイントそれぞれ低くなっている。

【問 10⑦ 経年変化】

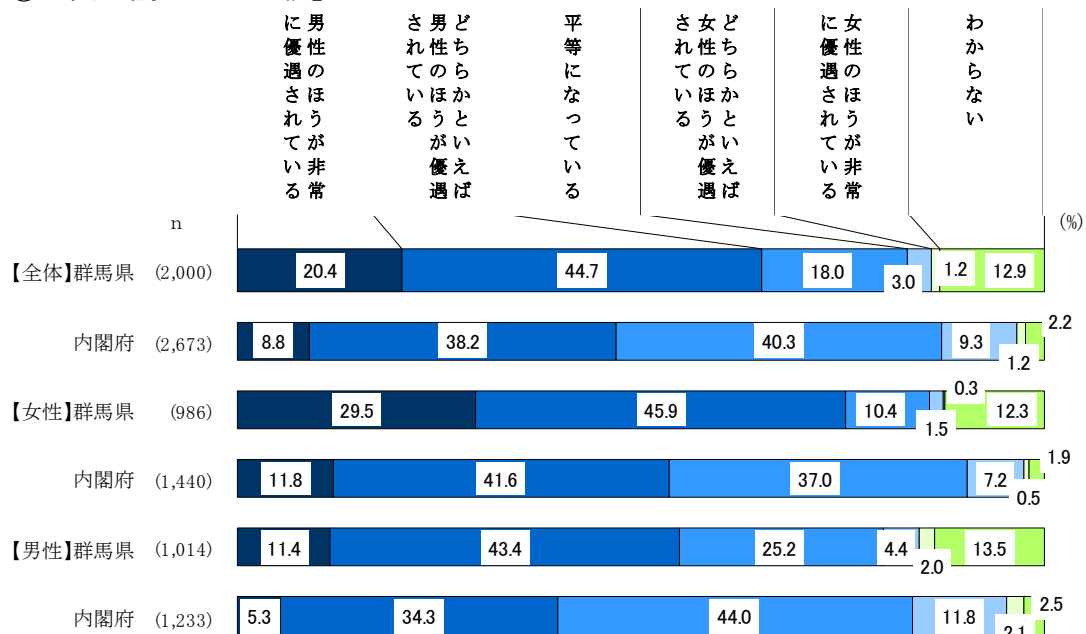


◇国の調査との比較

●男女とも《男性優遇（計）》が国より高く、「平等」が国より低い

内閣府の調査と比較すると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」の合計値）は、内閣府（全体47.0%、女性53.4%、男性39.6%）より全体は18.1ポイント、女性は22.0ポイント、男性は15.2ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「平等になっている」は、内閣府（全体40.3%、女性37.0%、男性44.0%）より全体は22.3ポイント、女性は26.6ポイント、男性は18.8ポイントそれぞれ低くなっている。

【問 10⑦ 国の調査との比較】



問 10 ⑧社会全体での男女の平等

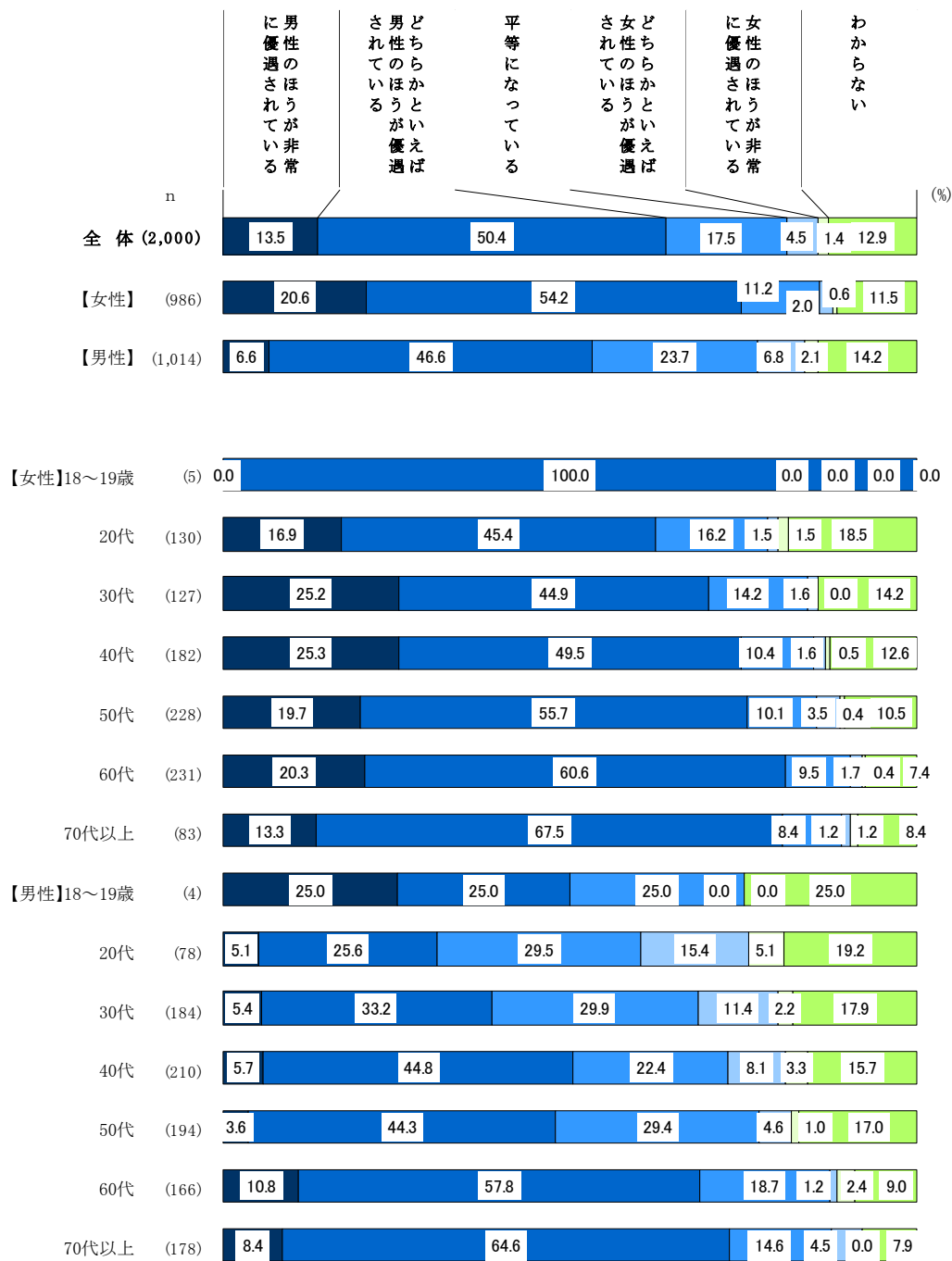
●《男性優遇（計）》は女性7割以上、男性5割以上で、20代の男女差が大きい

男女とも「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」（女性54.2%、男性46.6%）が最も高くなっている。

《男性優遇（計）》（「男性のほうに非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」の合計値）は、女性（74.8%）が男性（53.2%）より21.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女とも、男性20代を除くすべての年代で「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」が最も高くなっている。男性20代は「平等になっている」が最も高くなっており、「平等になっている」は、女性60代（9.5%）・70代以上（8.4%）で1割を下回り、女性の他の年代に比べてやや低くなっている。《男性優遇（計）》は、すべての年代で女性が男性より高く、特に女性60代・70代以上は8割と高くなっている。男女差は20代（女性62.3%、男性30.7%）が31.6ポイントで最も大きくなっている。

【問 10 ⑧社会全体での男女の平等】

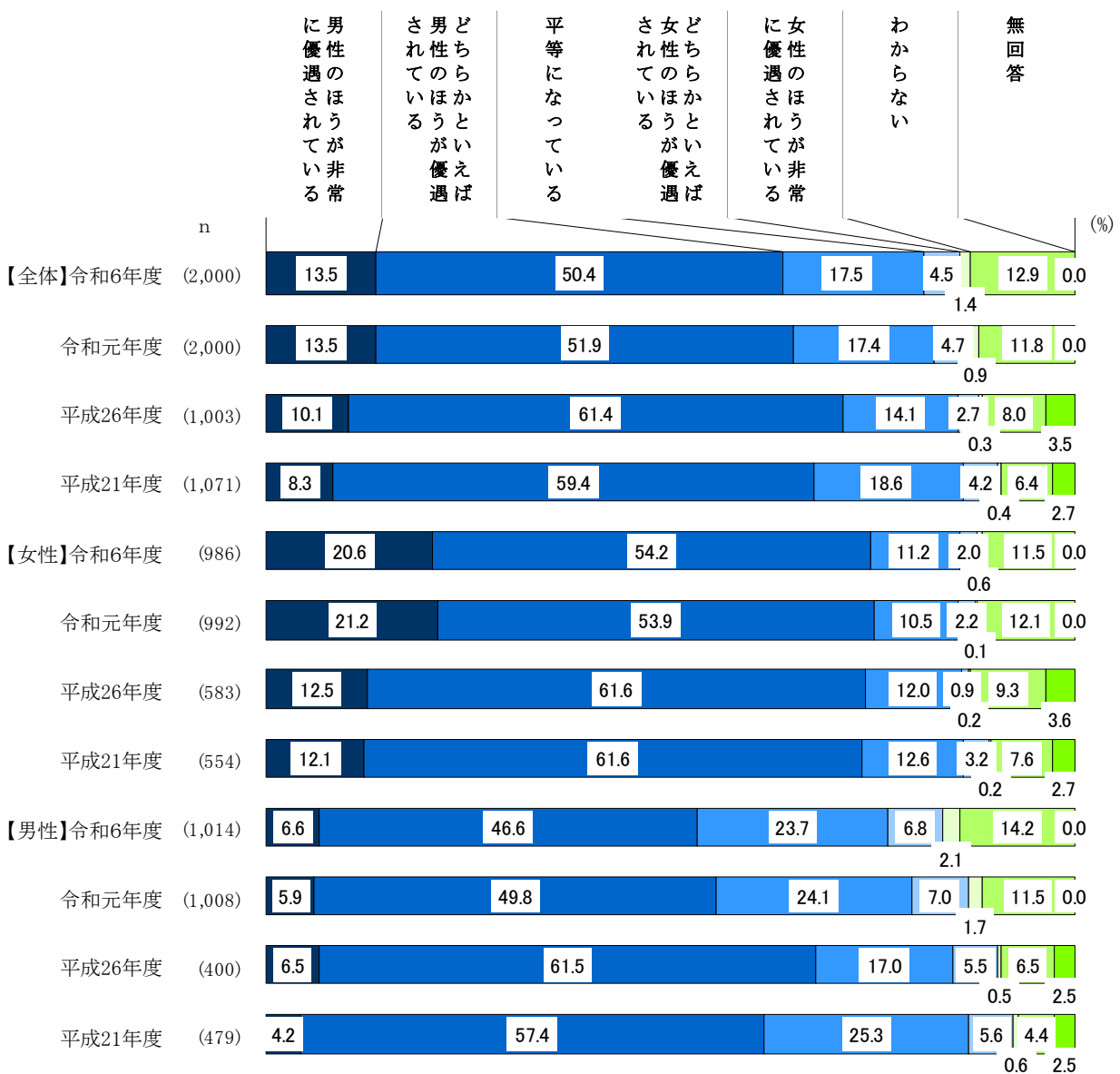


◇経年変化

●《男性優遇（計）》は男女とも前回と同程度

経年変化を性別で見ると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」は、全体、女性では前回と同程度となっているが、男性では令和元年度（49.8%）より3.2ポイント低くなっている。一方で、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、男女ともに前回と同程度となっており、令和元年度（全体65.4%、女性75.1%、男性55.7%）より全体は1.5ポイント、女性は0.3ポイント、男性は2.5ポイントそれぞれ低くなっている。

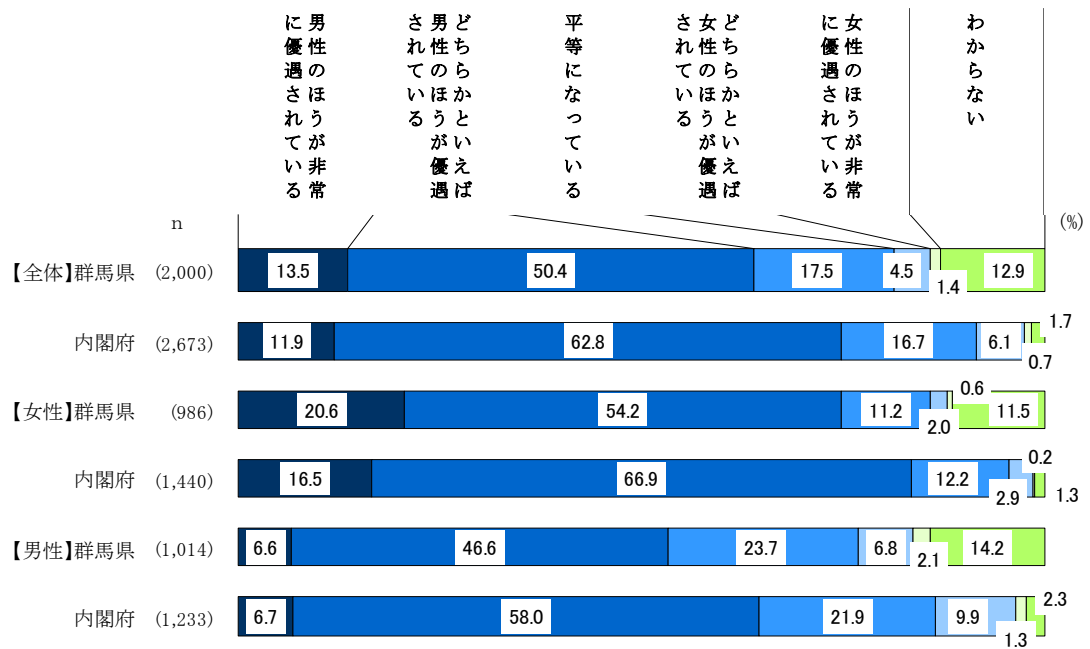
【問 10⑧ 経年変化】



◇国の調査との比較

●《男性優遇（計）》は男女ともに国より低い

内閣府の調査と比較すると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、内閣府（全体74.7%、女性83.4%、男性64.7%）より全体は10.8ポイント、女性は8.6ポイント、男性は11.5ポイントそれぞれ低くなっている。一方、「平等になっている」は、全体、男女ともに同程度となっている。



3. 結婚に関する考え方や家庭内での役割について

(1) 結婚に関する考え方

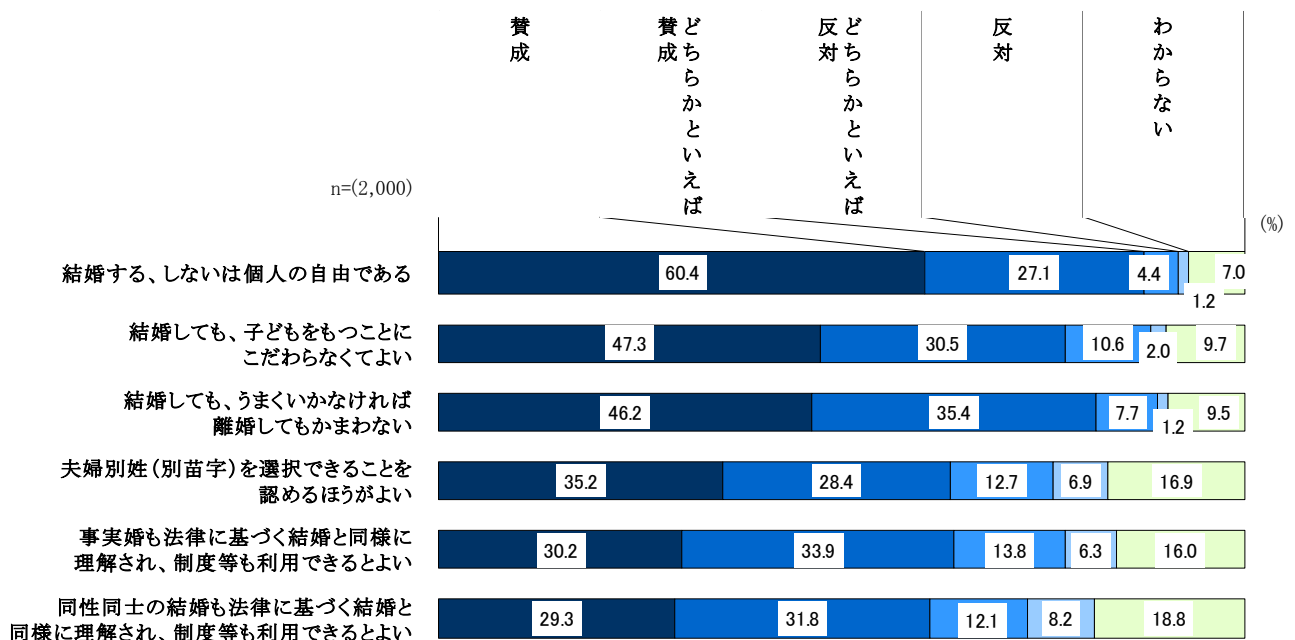
問11 あなたは、結婚に関する考え方についてどう思いますか。(それぞれ1つに○)

- 《賛成(計)》は『結婚は個人の自由』が約9割で最も高い
- 《反対(計)》は『同性同士の結婚』が2割で最も高い
- すべての項目で《賛成(計)》が《反対(計)》より高くなっている

『結婚する、しないは個人の自由である』、『結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい』、『結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない』、『夫婦別姓(別苗字)を選択できることを認めるほうがよい』の4項目は「賛成」、『事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい』、『同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい』の2項目は「どちらかといえば賛成」が最も高くなっている。

《賛成(計)》(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値)は、『結婚する、しないは個人の自由である』(87.5%)で約9割と最も高く、次いで『結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない』(81.6%)、『結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい』(77.8%)となっている。

一方、《反対(計)》(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計値)は、『同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい』(20.3%)、『事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい』(20.1%)の2項目で2割となっており、結婚のことについてより反対が高くなっている。



※前回調査項目：「法律に基づく結婚と同様に事実婚も社会的に認められるべきである」「同性同士の結婚も社会的に認められるべきである」

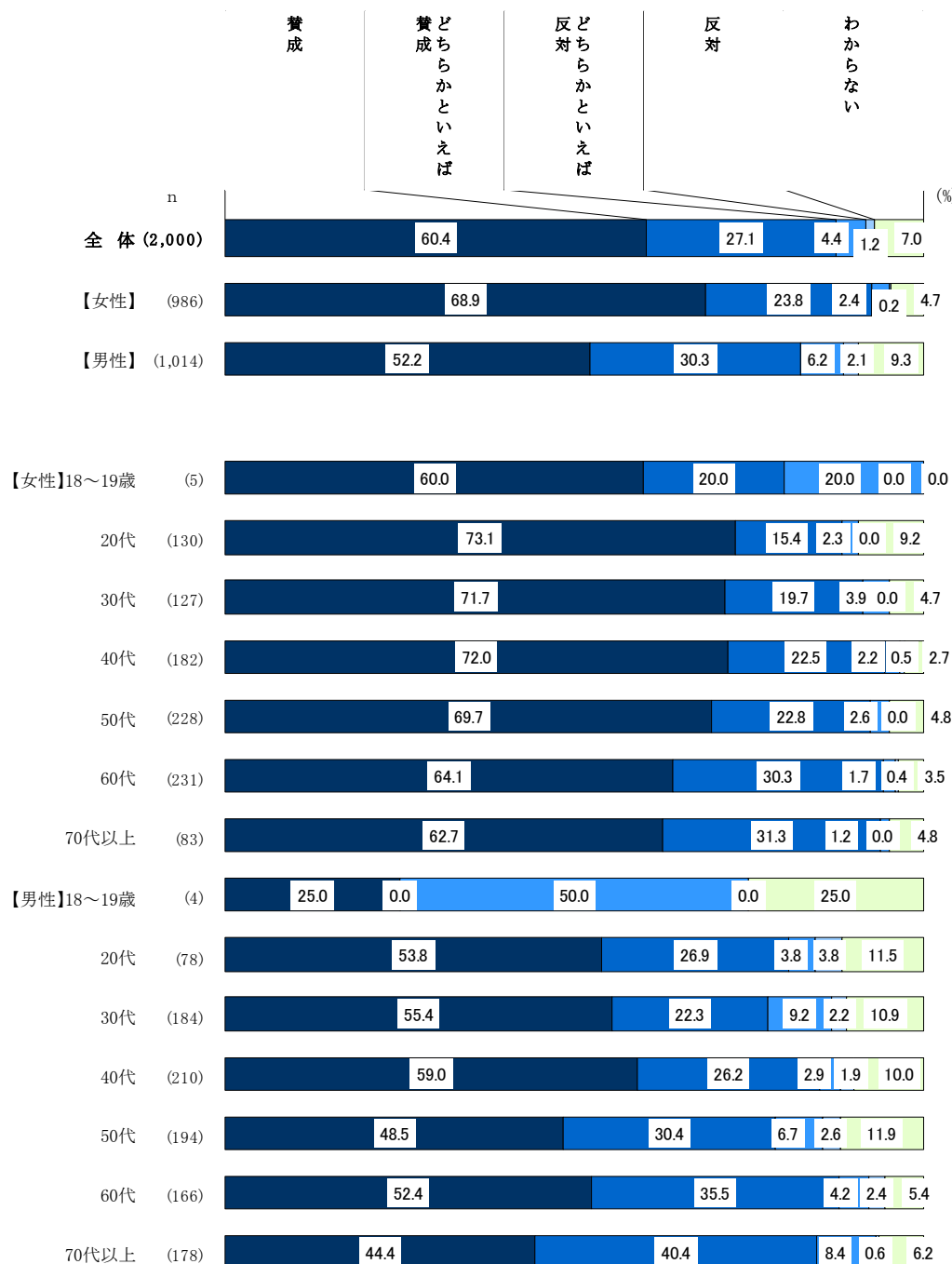
問11 ①結婚する、しないは個人の自由である

●《賛成（計）》が女性9割以上、男性8割以上

男女とも「賛成」（女性68.9%、男性52.2%）が最も高くなっている。

《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、女性（92.7%）が男性（82.5%）より10.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、すべての年代で「賛成」が最も高く、特に女性は20代（73.1%）、男性は40代（59.0%）で高くなっている。《賛成（計）》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は30代（女性91.4%、男性77.7%）が13.7ポイントで最も大きくなっている。



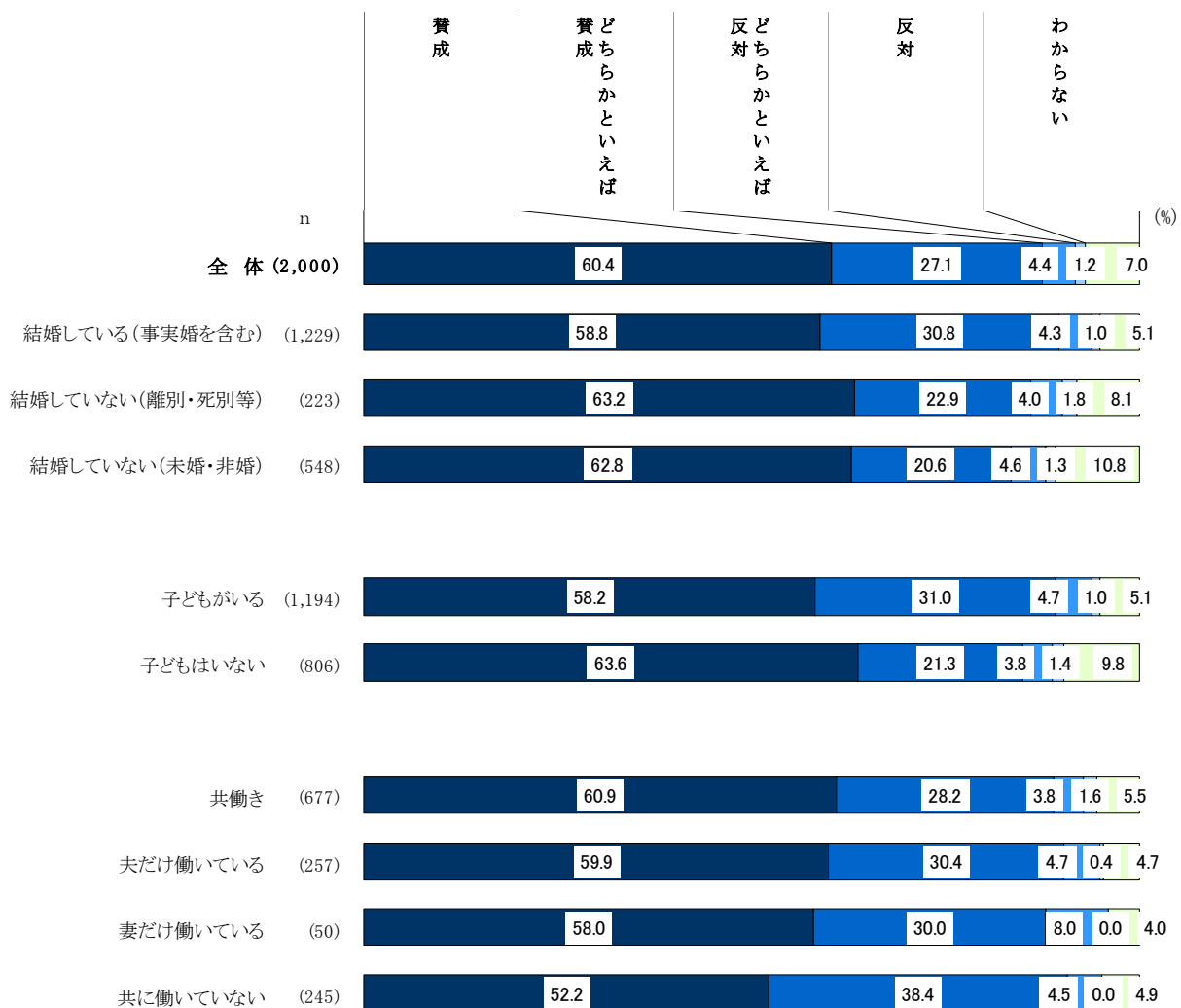
◇未既婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

●既婚、子どもがいる場合で《賛成（計）》が高い

未既婚別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、『結婚している（事実婚を含む）』（89.6%）で最も高くなっている。

子どもの有無別で見ると、《賛成（計）》は、『子どもがいる』（89.2%）が『子どもはいない』（84.9%）より4.3ポイント高くなっている。「どちらかといえば賛成」は、『子どもがいる』（31.0%）が『子どもはいない』（21.3%）より9.7ポイント高くなっている。

夫婦の働き方別で見ると、《賛成（計）》はほとんど差が見られない。「どちらかといえば賛成」は、『共に働いていない』（38.4%）で最も高く、『共働き』（28.2%）で最も低くなっている。

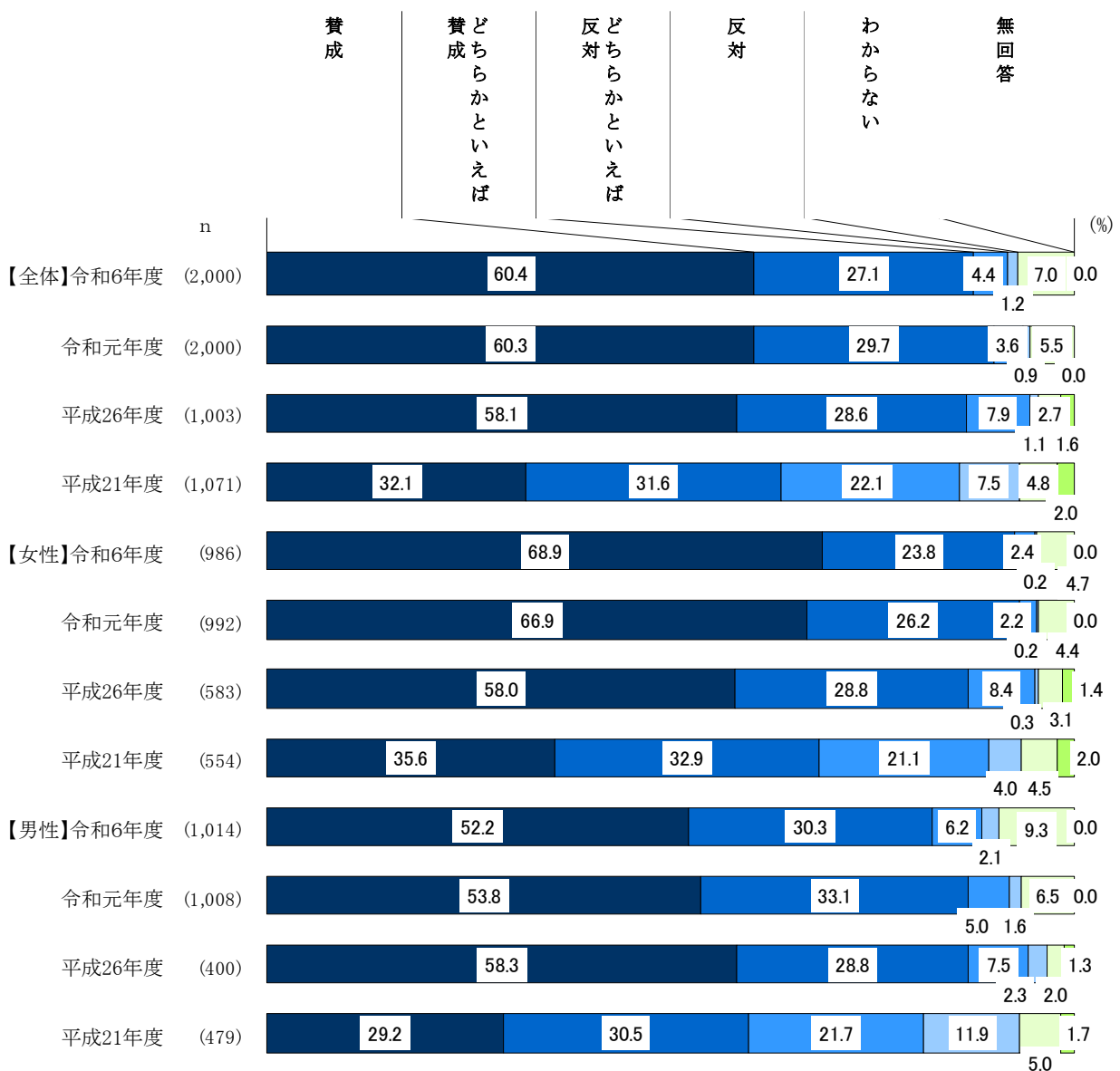


◇経年変化

●女性はより明確な肯定意見が増加傾向

経年変化を性別で見ると、「賛成」は、全体では前回と同程度となっているが、女性では令和元年度（66.9%）より2.0ポイント高く、男性では令和元年度（53.8%）より1.6ポイント低くなっている。《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は女性では前回と同程度となっているが、男性では令和元年度（86.9%）より4.4ポイント低くなっている。

【問 11① 経年変化】



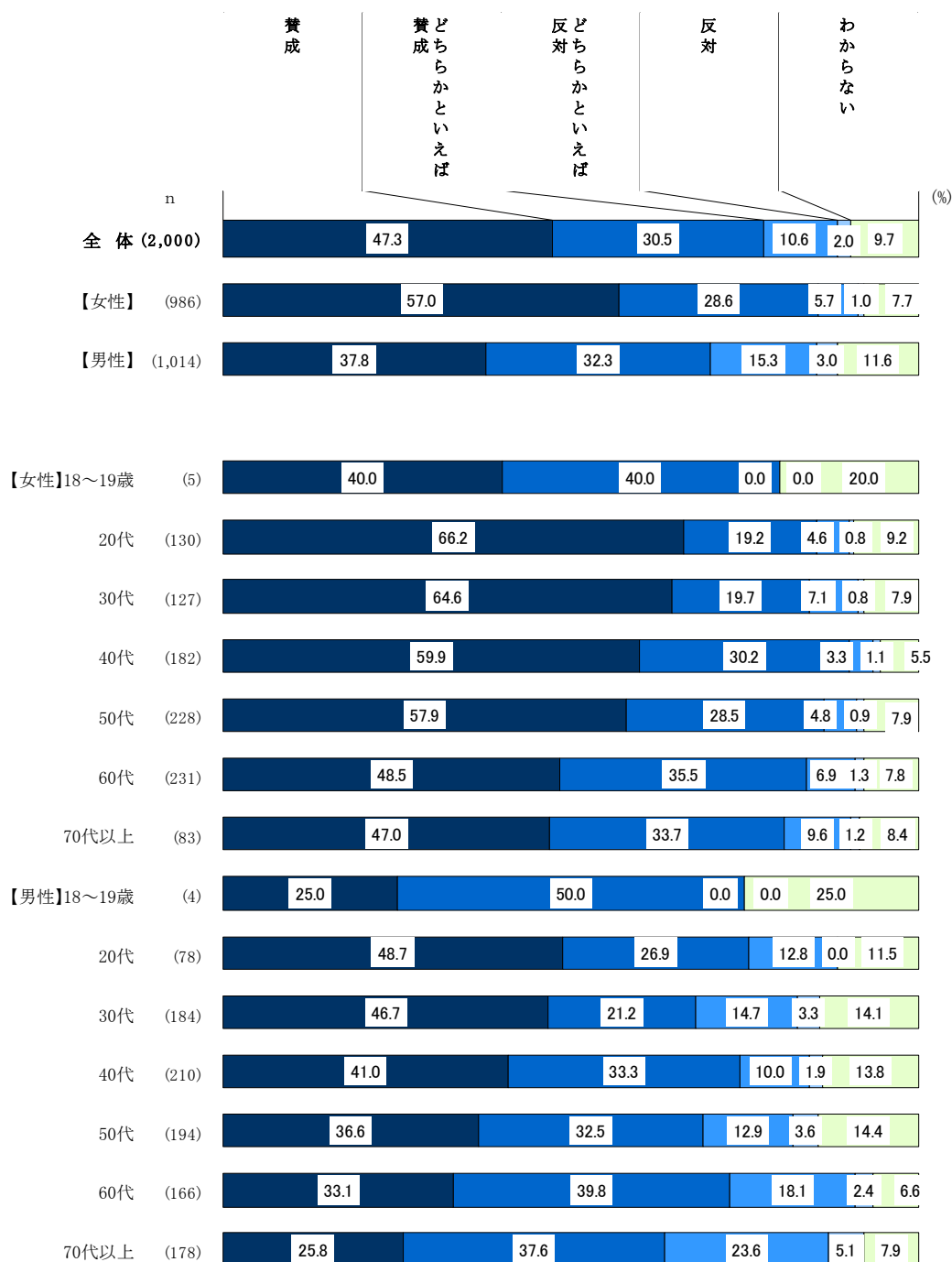
問 11 ②結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい

●《賛成（計）》は女性約9割、男性7割

男女とも「賛成」（女性57.0%、男性37.8%）が最も高く、女性で約6割、男性で約4割となっている。《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」）の合計値は、女性（85.6%）が男性（70.1%）より15.5ポイント高くなっており、女性のほうが明確な肯定意見が多くなっている。

性・年代別で見ると、男性60代・70代以上を除くすべての年代で、「賛成」が最も高く、男性60代・70代以上は「どちらかといえば賛成」が最も高くなっている。《賛成（計）》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は50代（女性86.4%、男性69.1%）が17.3ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

【問 11 ②結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい】



◇未既婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

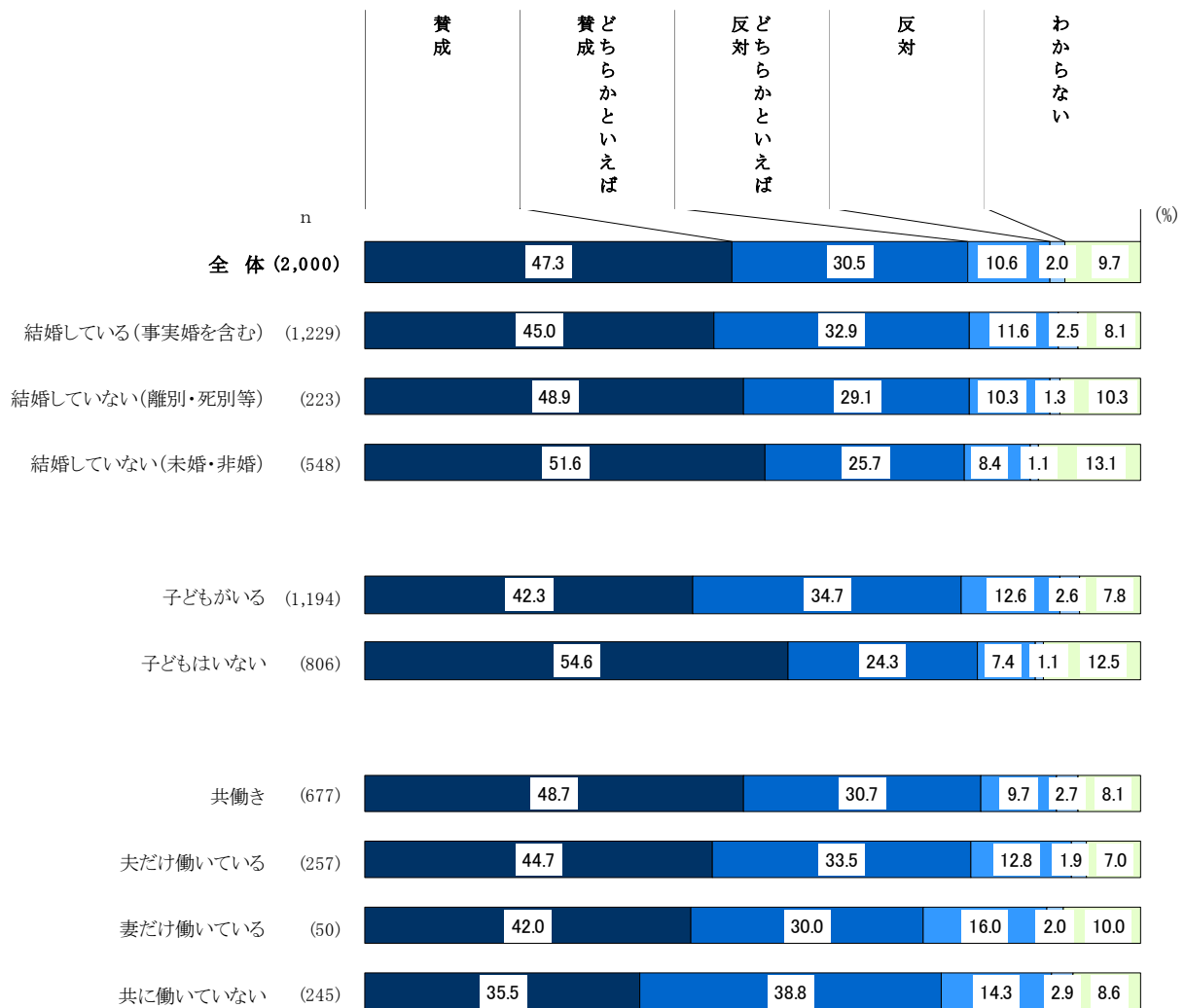
●未既婚では《賛成（計）》は同程度

●子どもはいない、共働きの場合で「賛成」が高い

未既婚別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は同程度であるが、「どちらかといえば賛成」は、『結婚している（事実婚を含む）』（32.9%）が『結婚していない（未婚・非婚）』（25.7%）より7.2ポイント高くなっている。

子どもの有無別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は同程度であるが、「賛成」は『子どもはいない』（54.6%）が『子どもがいる』（42.3%）より12.3ポイント高くなっている。

夫婦の働き方別で見ると、《賛成（計）》は、『共働き』（79.4%）で最も高くなっている。「賛成」は『共働き』（48.7%）で最も高く、『共に働いていない』（35.5%）で最も低くなっている。

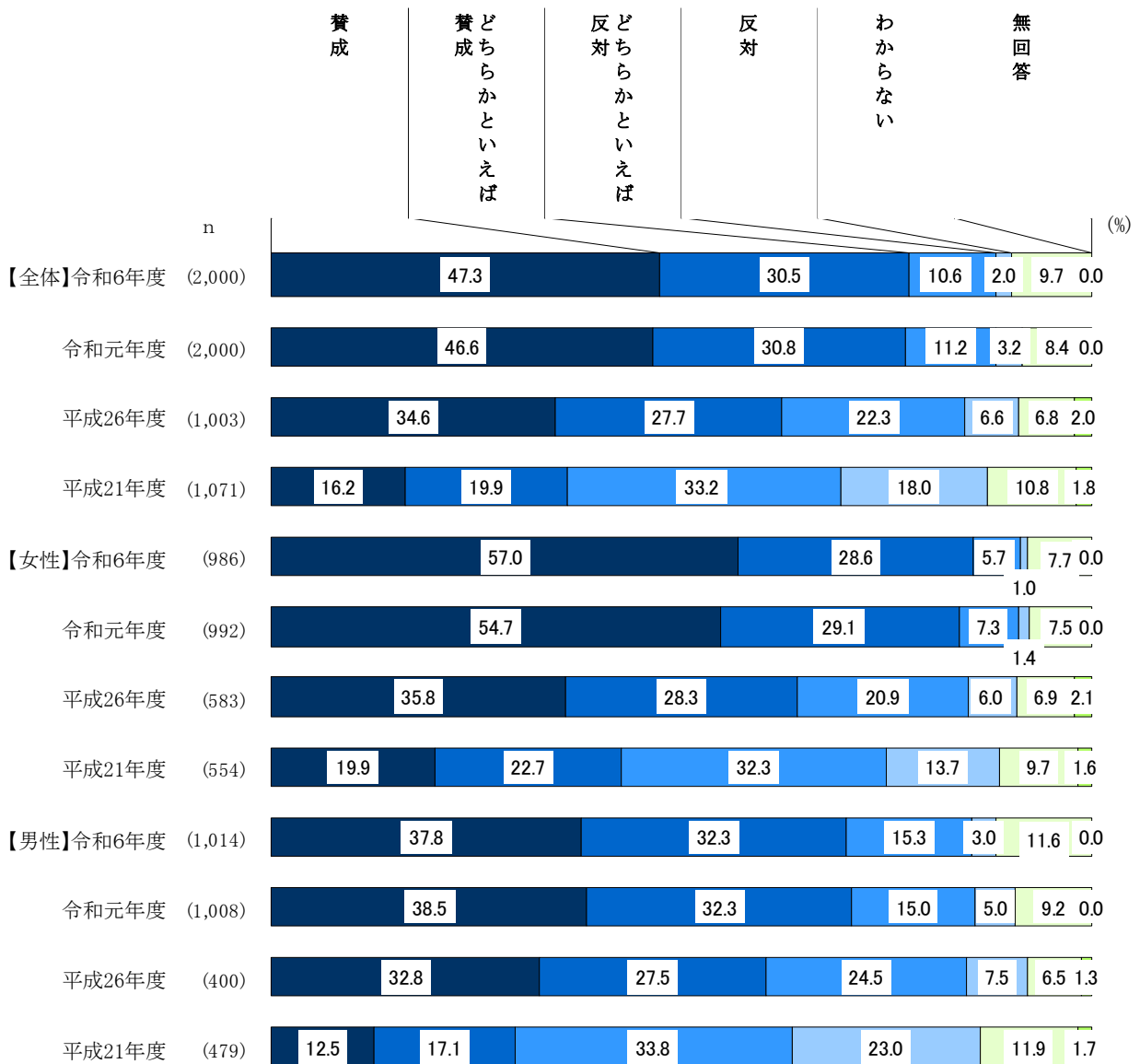


◇経年変化

●明確な肯定意見が特に女性で増加

経年変化を性別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、男女ともに前回と同程度となっているが、その内訳を見ると、「賛成」が令和元年度（女性54.7%、男性38.5%）より女性は2.3ポイント高くなり、男性は0.7ポイント低くなっている。

【問 11② 経年変化】



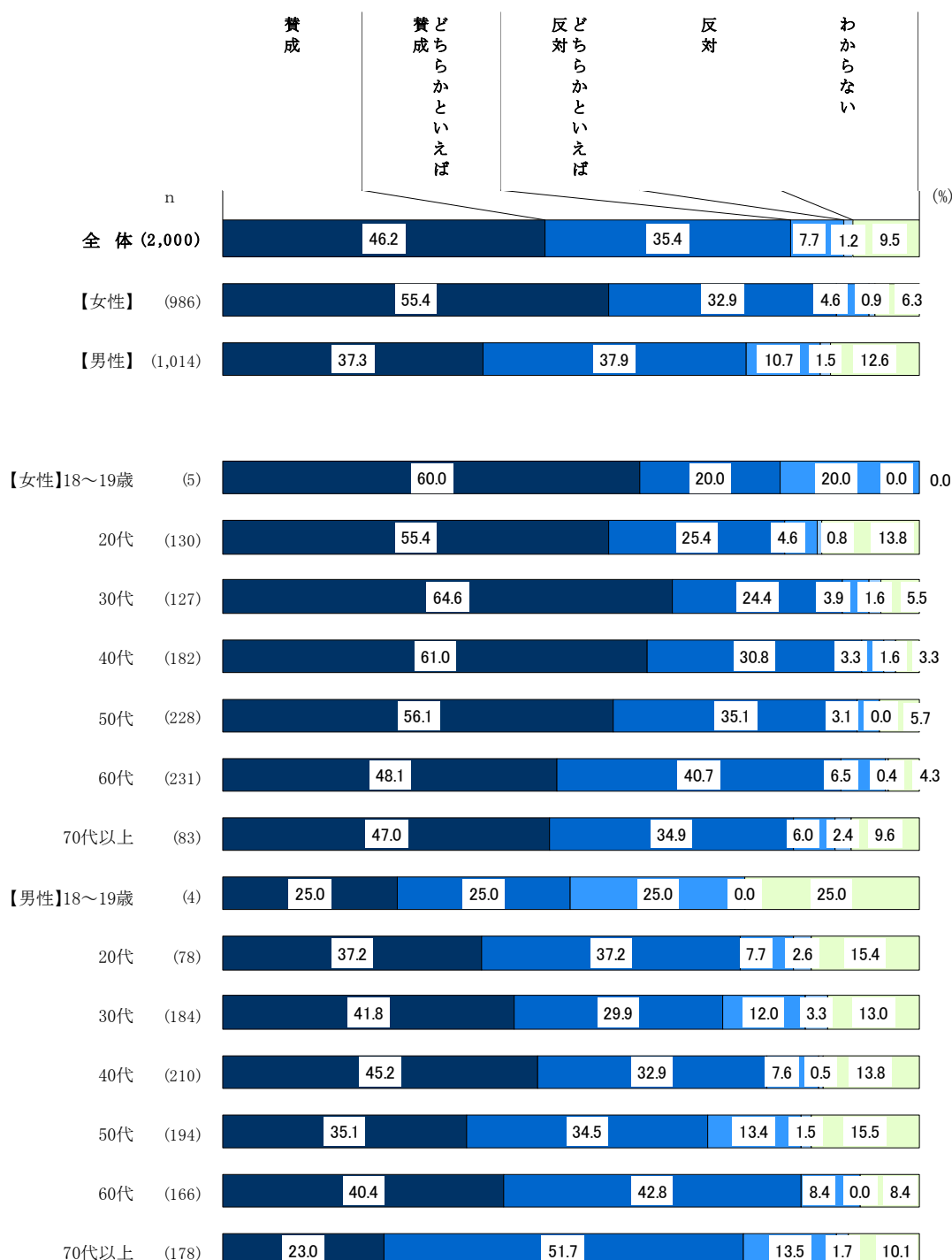
問 11 ③結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない

●《賛成（計）》は女性約9割、男性約8割

女性は「賛成」（55.4%）、男性は「どちらかといえば賛成」（37.9%）が最も高くなっている。《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、女性（88.3%）が男性（75.2%）より13.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男性60代・70代以上を除くすべての年代で「賛成」が最も高く、男性60代・70代以上は「どちらかといえば賛成」が最も高くなっている。《賛成（計）》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は50代（女性91.2%、男性69.6%）が21.6ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

【問 11 ③結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない】



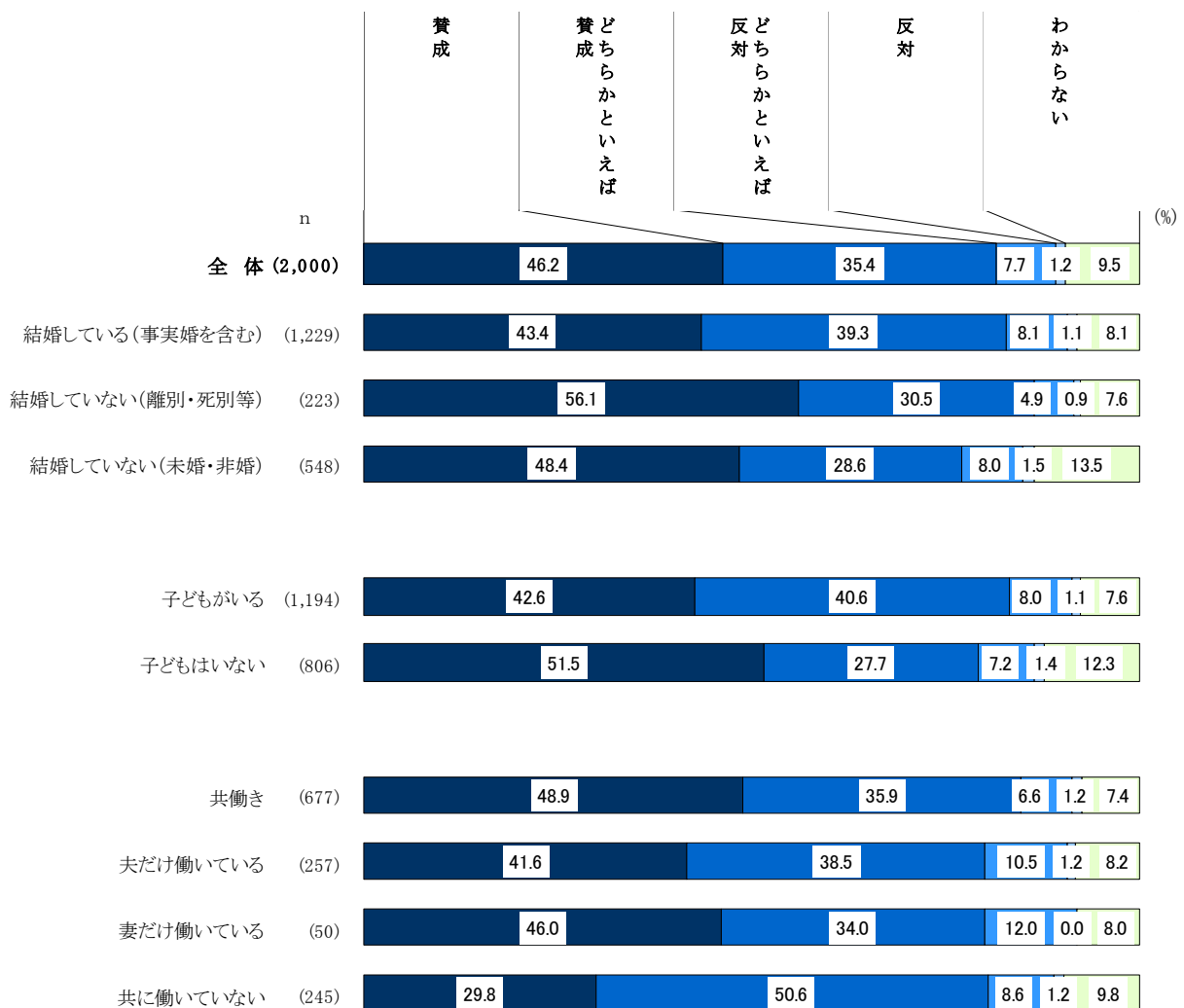
◇未婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

- 結婚していない（離別・死別等）の場合で《賛成（計）》がやや高い
- 共働きの場合で「賛成」が高い

未婚別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、『結婚していない（離別・死別等）』（86.6%）で約9割と既婚や未婚に比べてやや高くなっている。

子どもの有無別で見ると、「どちらかといえば賛成」は『子どもがいる』（40.6%）が『子どもはいない』（27.7%）より12.9ポイント高くなっている。

夫婦の働き方別で見ると、「賛成」は『共働き』（48.9%）で最も高く、『共に働いていない』（29.8%）で最も低くなっている。

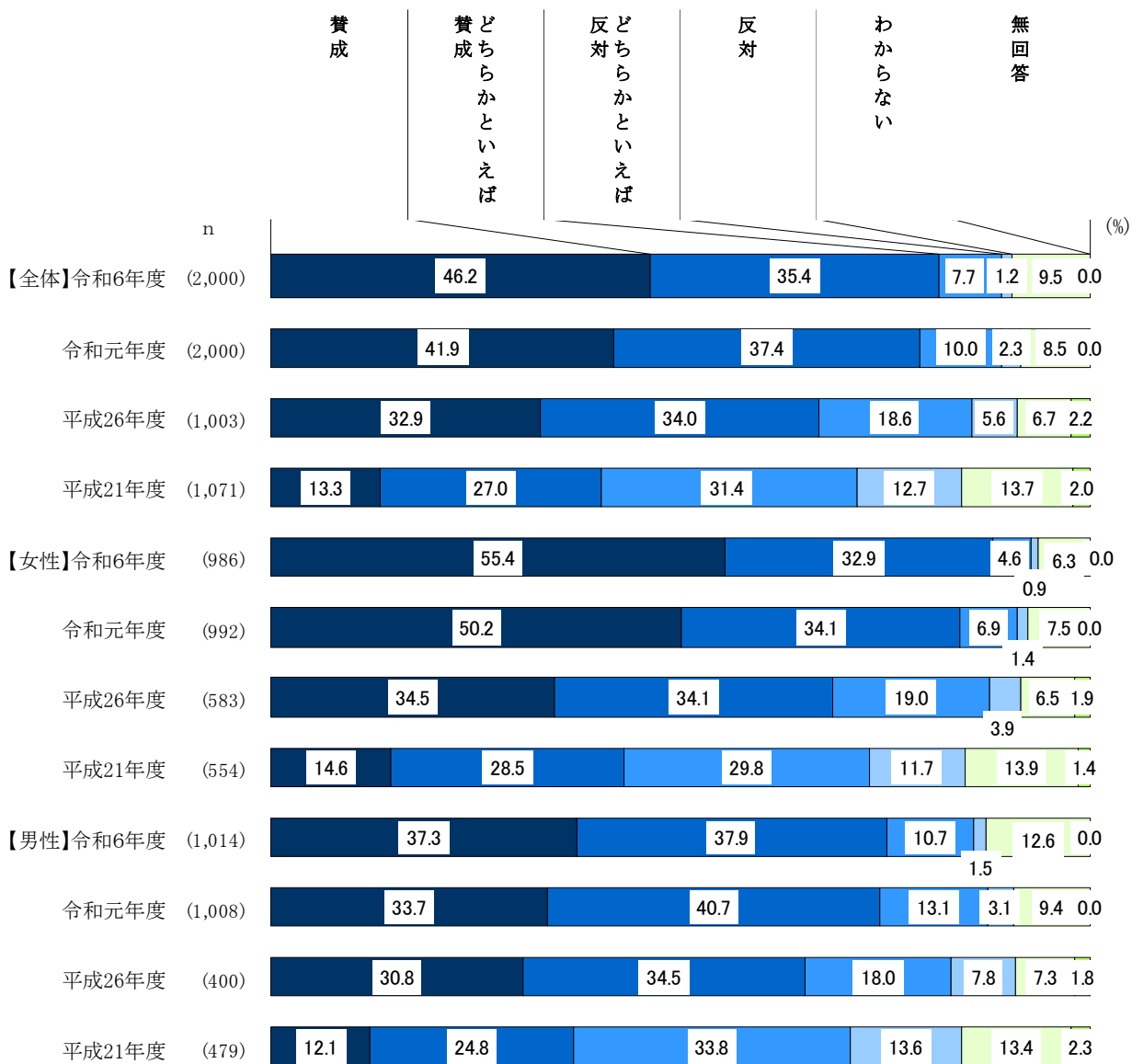


◇経年変化

●「賛成」が男女ともに前回より高い

経年変化を全体で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、令和元年度（79.3%）と同程度となっているが、その内訳を見ると、「賛成」が令和元年度（女性50.2%、男性33.7%）より女性は5.2ポイント、男性は3.6ポイントそれぞれ高くなっている。

【問 11③ 経年変化】



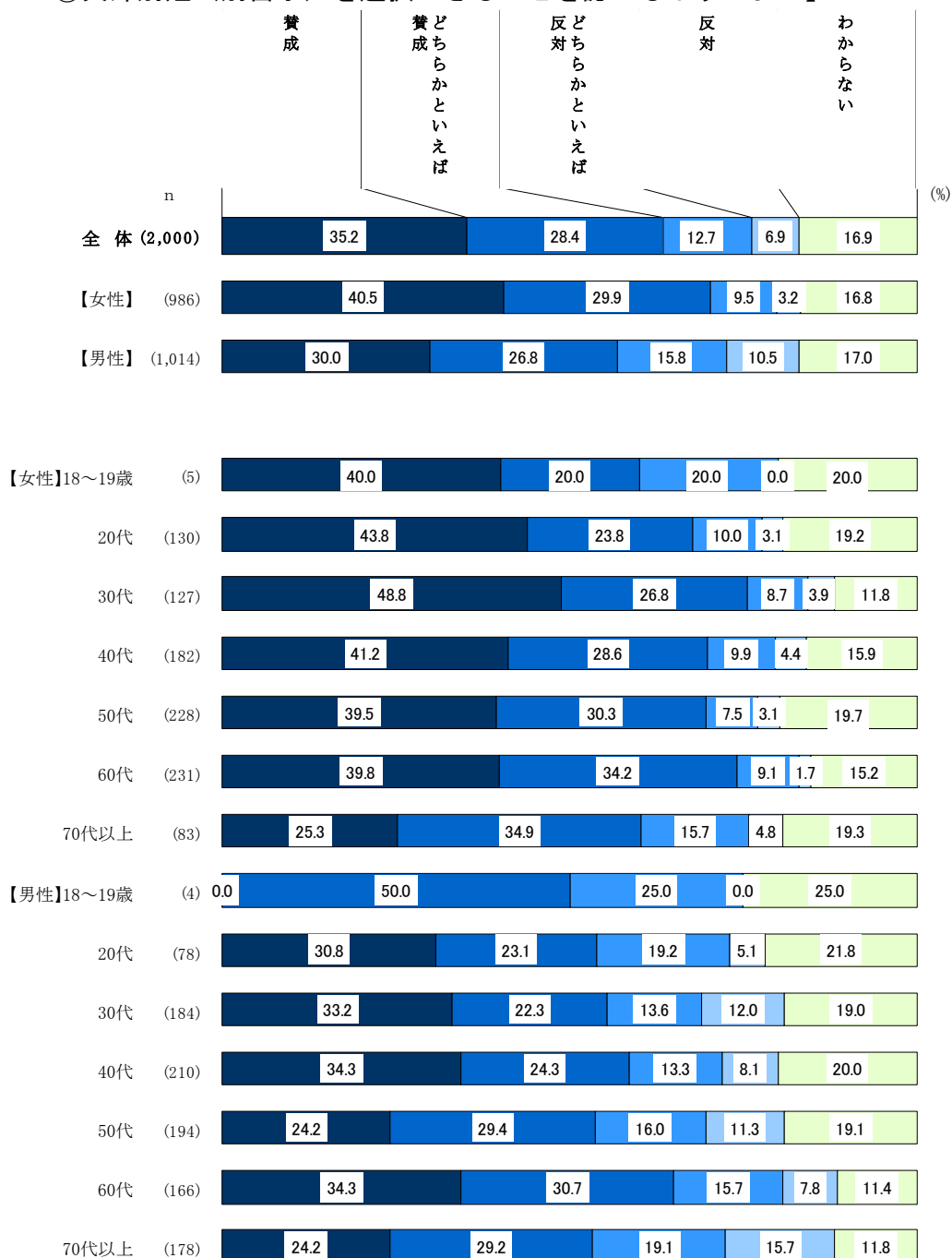
問 11 ④夫婦別姓（別苗字）を選択できることを認めるほうがよい

●《賛成（計）》は女性7割、男性約6割

男女とも「賛成」が最も高く、女性（40.5%）が男性（30.0%）より10.5ポイント高くなっている。《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、女性（70.4%）が男性（56.8%）より13.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性70代以上、男性50代、男性70代以上を除くすべての年代で「賛成」が最も高く、女性70代以上、男性50代、男性70代以上は「どちらかといえば賛成」が最も高くなっている。《反対（計）》（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計値）はすべての年代で男性が女性より高く、男性70代以上（34.8%）で3割以上と特に高くなっている。

【問 11 ④夫婦別姓（別苗字）を選択できることを認めるほうがよい】



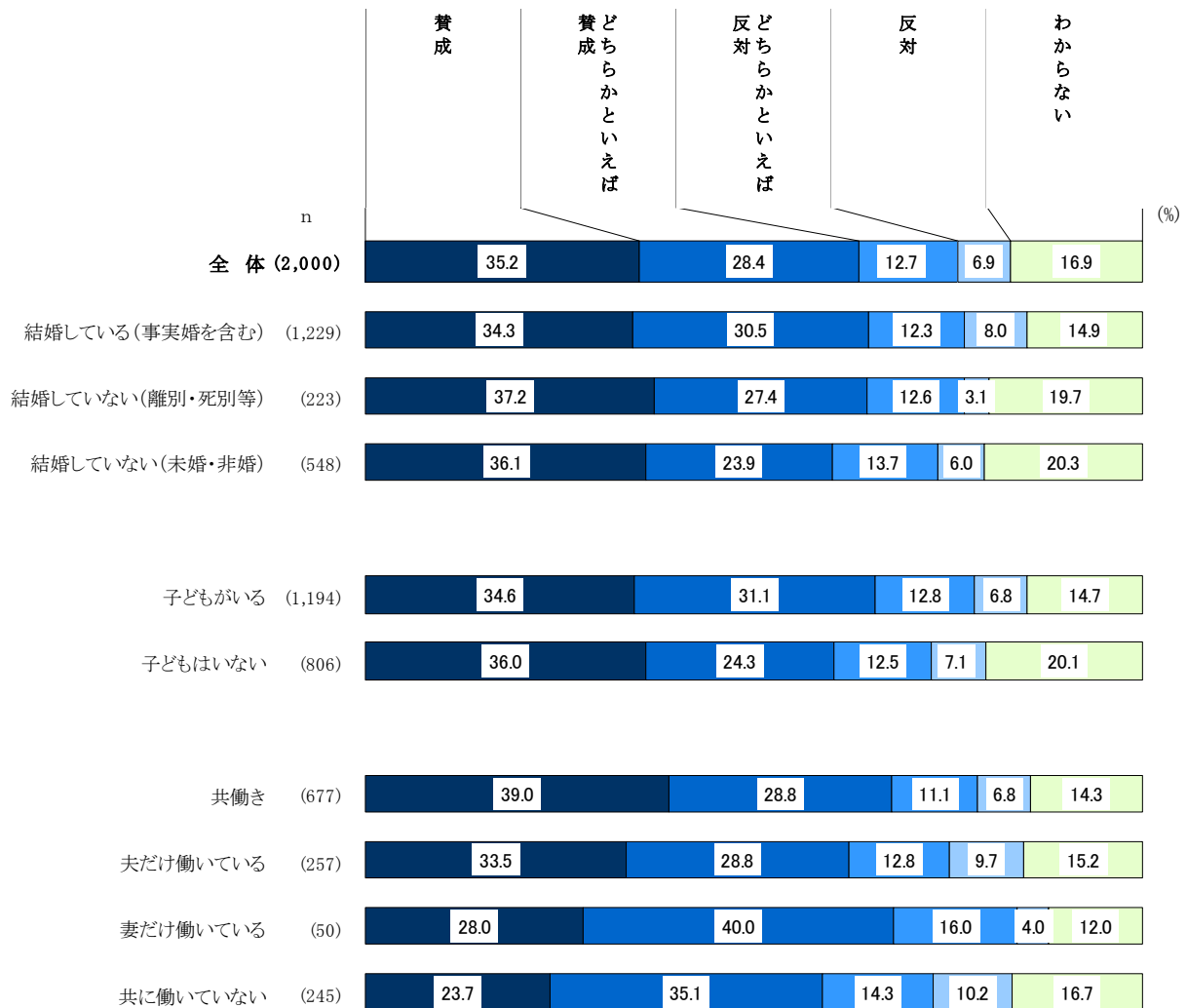
◇未既婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

●既婚、子どもがいる場合で《賛成（計）》が高い

未既婚別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、『結婚している（事実婚を含む）』（64.8%）で最も高くなっている。

子どもの有無別で見ると、《賛成（計）》は、『子どもがいる』（65.7%）が『子どもはいない』（60.3%）より5.4ポイント高くなっている。

夫婦の働き方別で見ると、《賛成（計）》は、「妻だけ働いている」（68.0%）が最も高く、「共に働いていない」（58.8%）が最も低くなっている。

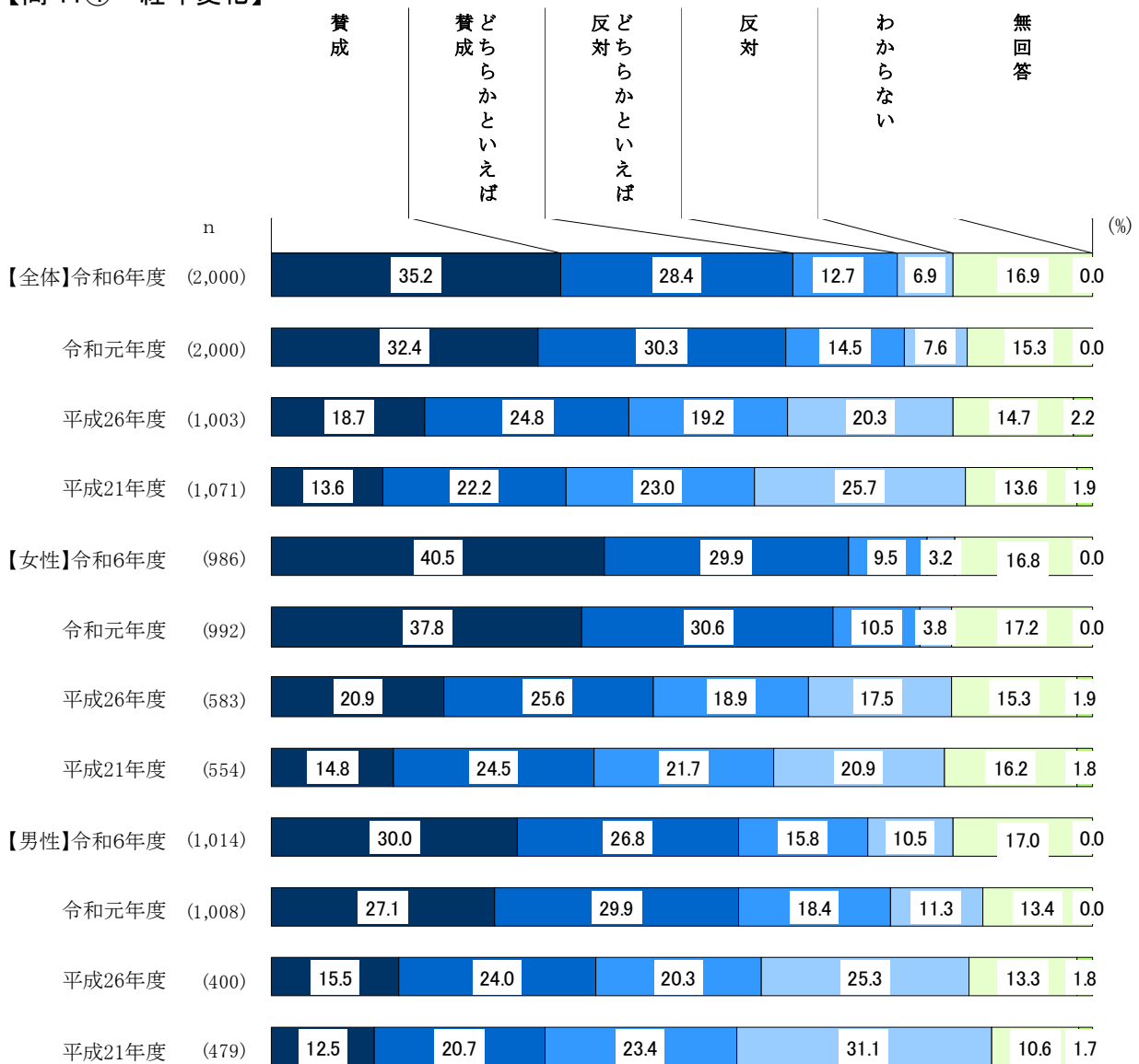


◇経年変化

- 《賛成（計）》は前回と同程度
- 《反対（計）》は男性で前回より低い

経年変化を性別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、全体、男女ともに令和元年度と同程度だが、令和元年度（全体62.7%、女性68.4%、男性57.0%）より全体は0.9ポイント、女性は2.0ポイントそれぞれ高くなっており、男性は0.2ポイント低くなっている。その内訳を見ると、「賛成」が令和元年度（全体32.4%、女性37.8%、男性27.1%）より全体は2.8ポイント、女性は2.7ポイント、男性は2.9ポイントそれぞれ高くなっている。《反対（計）》（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計値）は、女性は令和元年度と同程度だが、男性は令和元年度（29.7%）より3.4ポイント低くなっている。

【問 11④ 経年変化】



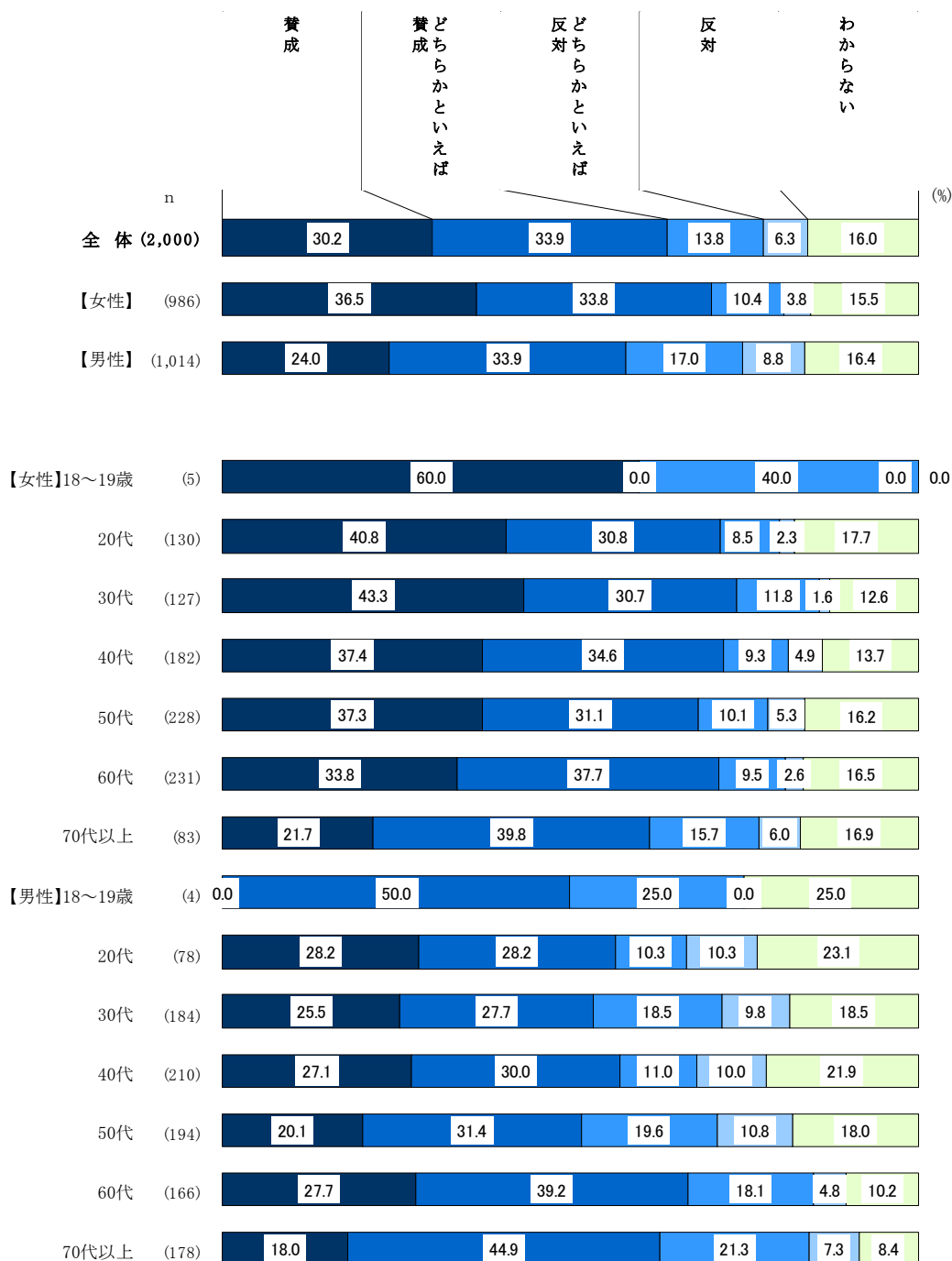
問 11 ⑤事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい

●《賛成（計）》は女性7割、男性約6割

女性は「賛成」(36.5%)、男性は「どちらかといえば賛成」(33.9%)が最も高くなっている。《賛成（計）》(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値)は、女性(70.3%)が男性(57.9%)より12.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性60代・70代以上と男性のすべての年代で「どちらかといえば賛成」が最も高く(男性20代は「賛成」(28.2%)と同値)、女性20代から女性50代は「賛成」が最も高くなっている。《賛成（計）》は70代以上を除き女性が男性より高く、男女差は30代(女性74.0%、男性53.2%)が20.8ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

【問 11 ⑤事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい】



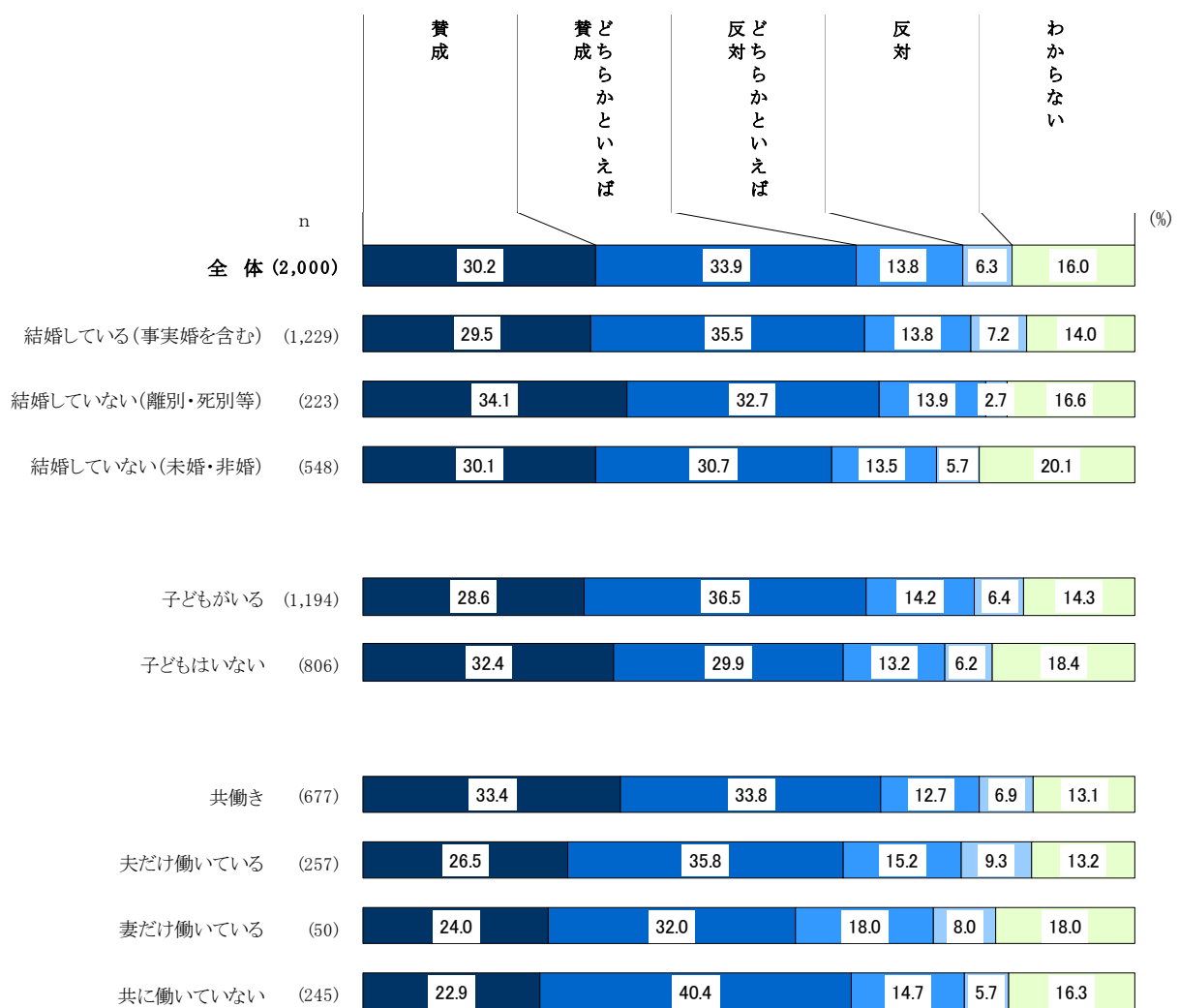
◇未既婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

●結婚していない（離別・死別等）、子どもがいる、共働きの場合で《賛成（計）》が高い

未既婚別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、『結婚していない（離別・死別等）』（66.8%）で最も高くなっている。

子どもの有無別で見ると、《賛成（計）》は、同程度だが、「どちらかといえば賛成」は『子どもがいる』（36.5%）が『子どもはいない』（29.9%）より6.6ポイント高くなっている。

夫婦の働き方別で見ると、《賛成（計）》は、『共働き』（67.2%）で最も高くなっている。「賛成」は『共働き』（33.4%）で最も高く、『共に働いていない』（22.9%）で最も低くなっている。

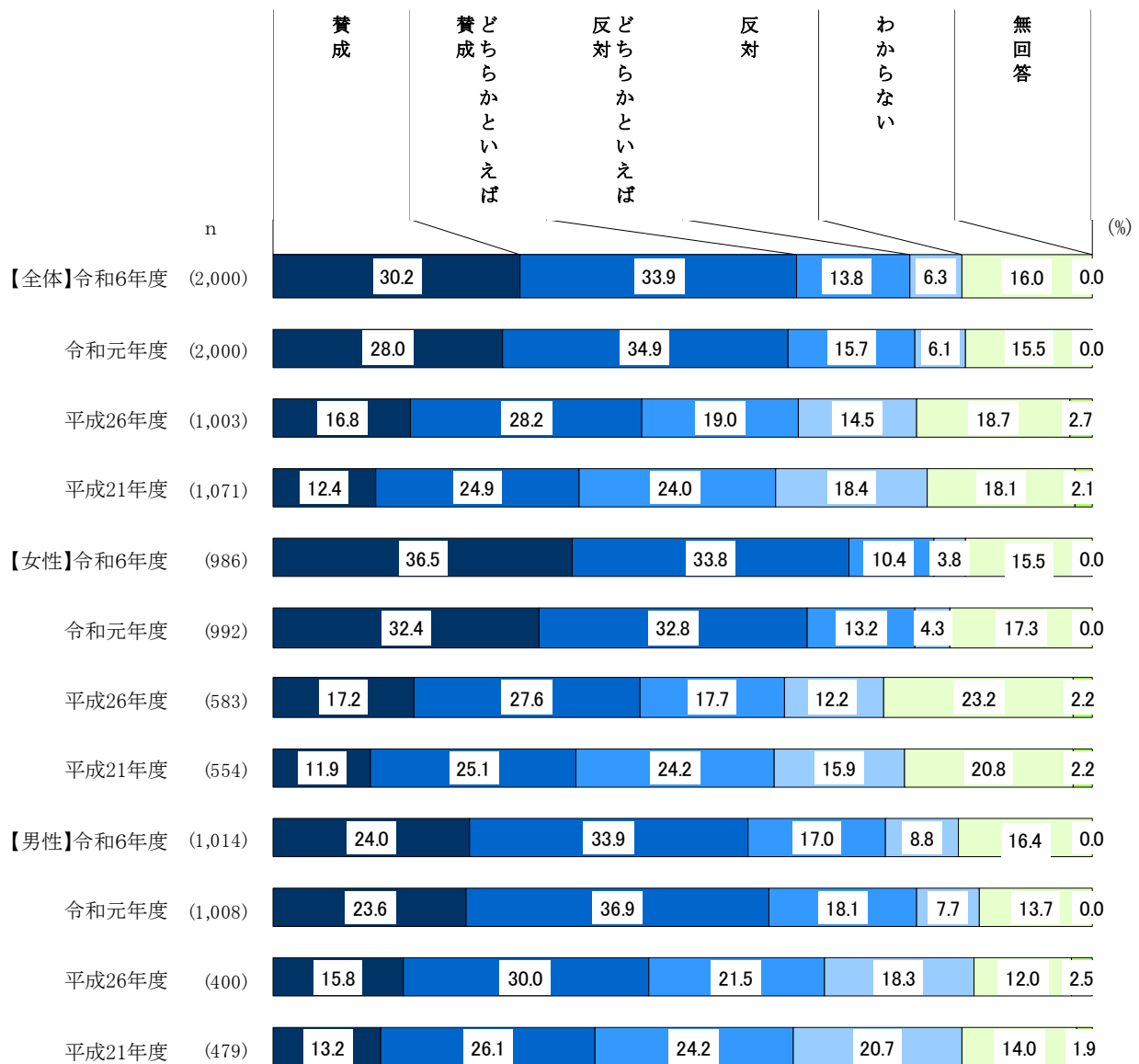


◇経年変化

●《賛成（計）》が女性は前回より高く、男性は前回より低い

経年変化を性別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、令和元年度（全体62.9%、女性65.2%、男性60.5%）より全体は1.2ポイント、女性は5.1ポイントそれぞれ高くなっており、男性は2.6ポイント低くなっている。その内訳を見ると、「賛成」が令和元年度（全体28.0%、女性32.4%、男性23.6%）より全体は2.2ポイント、女性は4.1ポイント、男性は0.4ポイントそれぞれ高くなっている。

【問 11⑤ 経年変化】



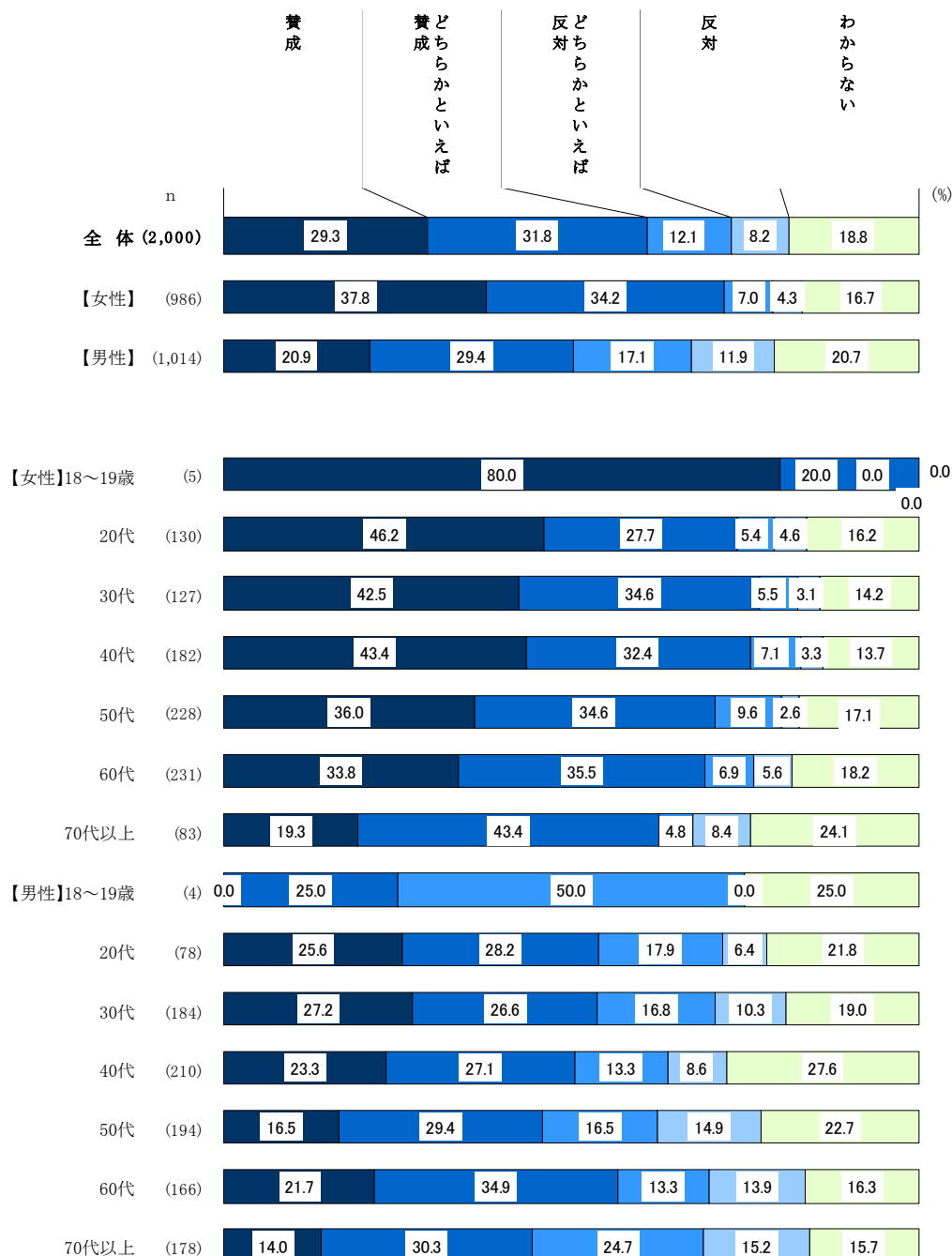
問 11 ⑥同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい

- 《賛成（計）》は女性で7割以上、男性で5割
- 女性は若い年代ほど「賛成」が高い傾向

女性は「賛成」（37.8%）、男性は「どちらかといえば賛成」（29.4%）が最も高くなっている。《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、女性（72.0%）が男性（50.3%）より21.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性20代・30代・40代・50代と男性30代を除き「どちらかといえば賛成」が最も高く、女性20代・30代・40代・50代と男性30代は「賛成」が最も高くなっている。《賛成（計）》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は40代（女性75.8%、男性50.4%）が25.4ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

【問 11 ⑥同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい】



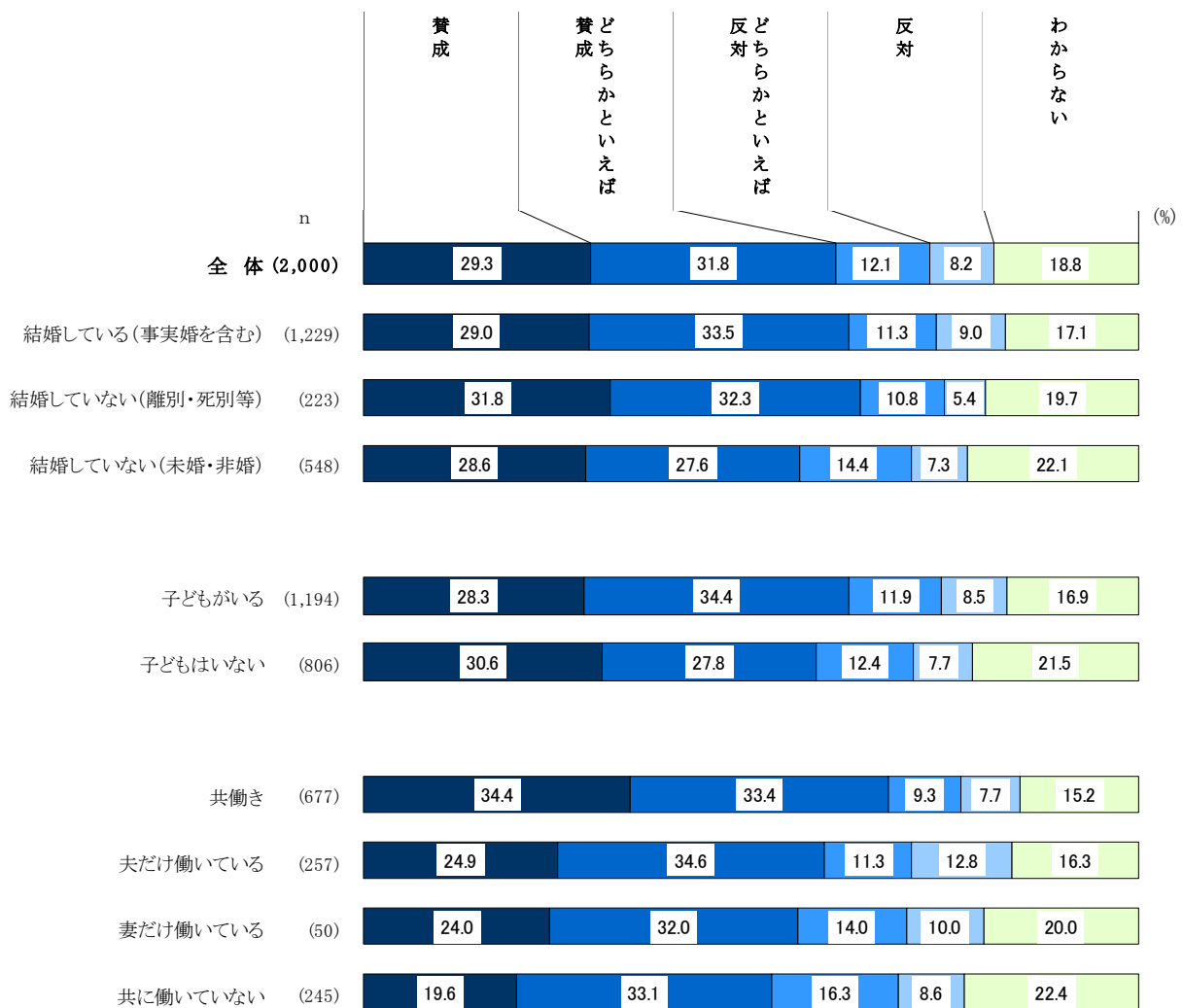
◇未既婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

●結婚していない（離別・死別等）、子どもがいる、共働きの場合で《賛成（計）》が高い

未既婚別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、『結婚していない（離別・死別等）』（64.1%）で最も高くなっている。

子どもの有無別で見ると、《賛成（計）》は、『子どもがいる』（62.7%）が『子どもはいない』（58.4%）より4.3ポイント高くなっている。

夫婦の働き方別で見ると、《賛成（計）》は、『共働き』（67.8%）で最も高くなっている。「賛成」は『共働き』（34.4%）で最も高く、『共に働いていない』（19.6%）で最も低くなっている。

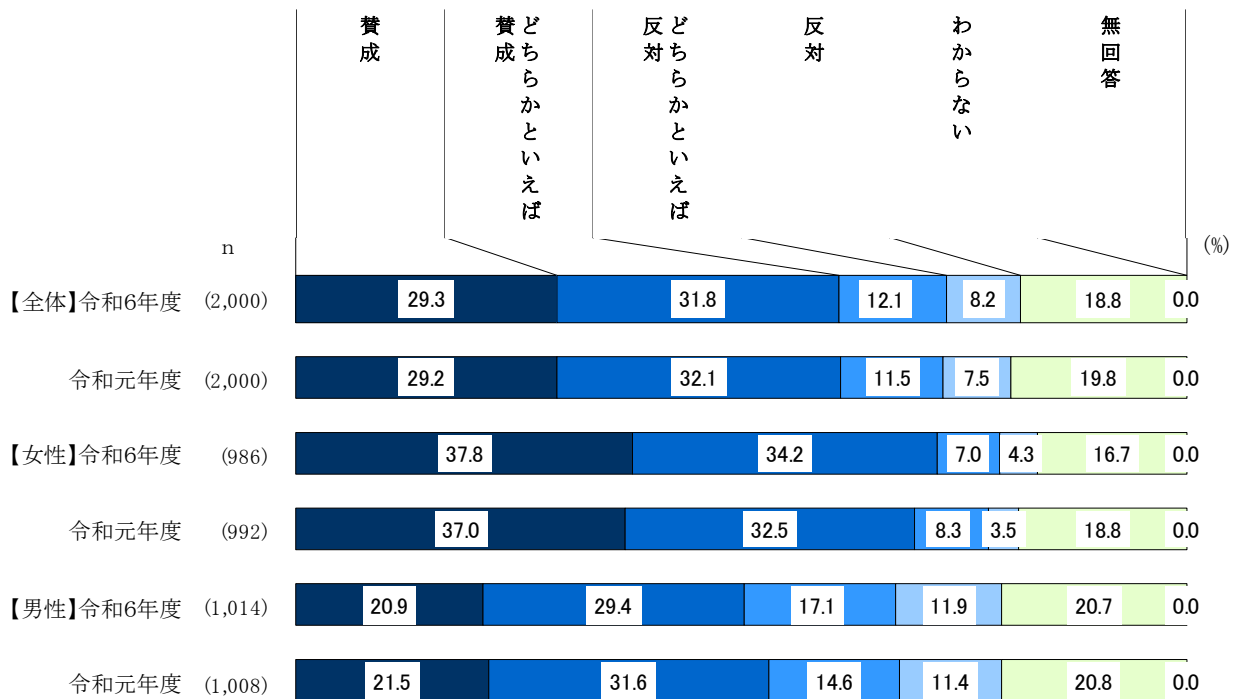


◇経年変化

●《賛成（計）》が女性は前回より高く、男性は前回より低い

経年変化を性別で見ると、男女ともに前回と同程度であるが、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、令和元年度（女性69.5%、男性53.1%）より女性は2.5ポイント高く、男性は2.8ポイント低くなっている。

【問 11⑥ 経年変化】



(2)「男は仕事、女は家庭」という考え方

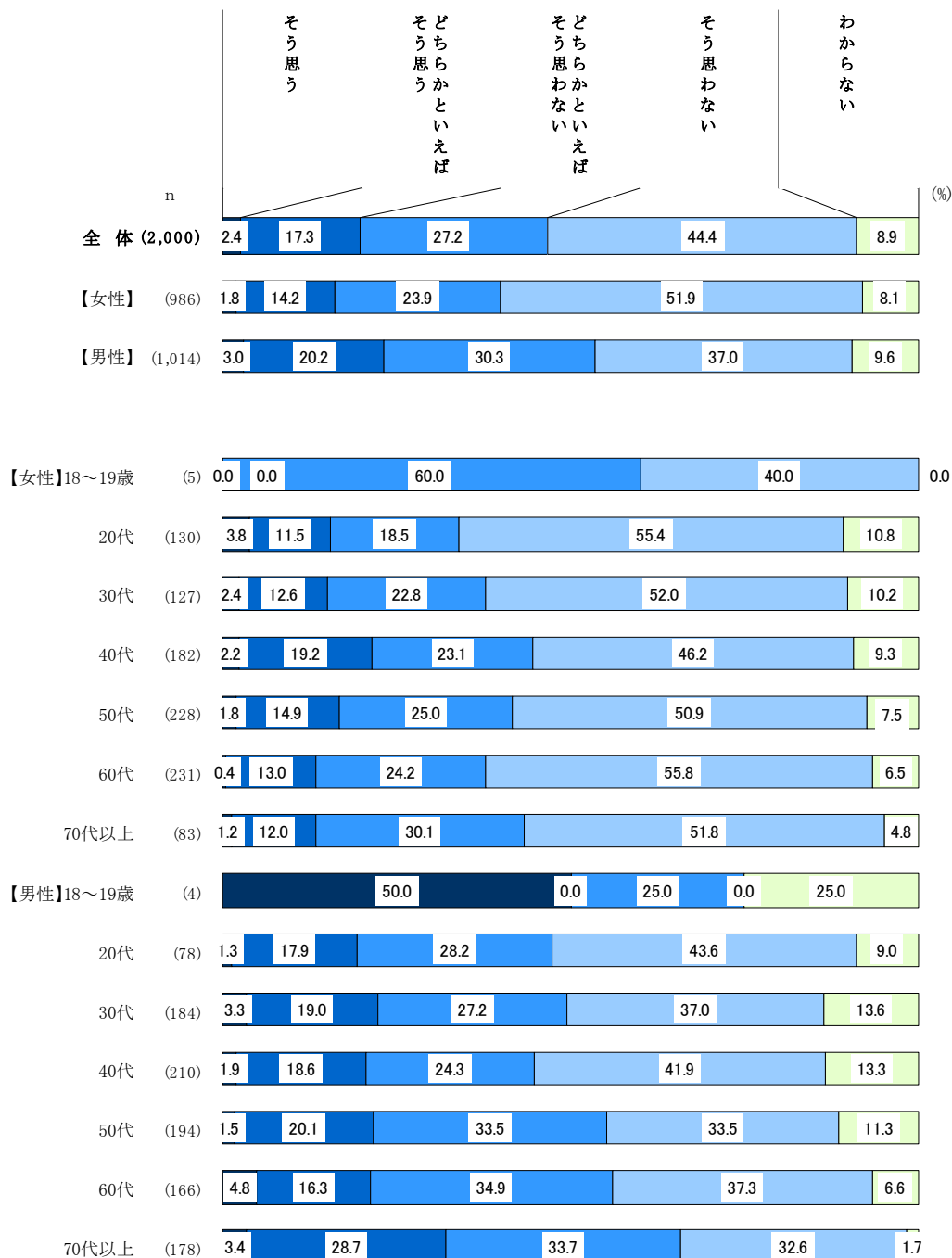
問12 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。(1つに○)

●《思わない(計)》が女性約8割、男性約7割

男女とも「そう思わない」(女性51.9%、男性37.0%)が最も高くなっている。

《思わない(計)》(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値)は、女性(75.8%)が男性(67.3%)より8.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男性50代・70代以上を除くすべての年代で「そう思わない」が最も高く、男性50代は「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」が同値(33.5%)、男性70代以上は「どちらかといえばそう思わない」(33.7%)が最も高くなっている。《思わない(計)》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は70代以上(女性81.9%、男性66.3%)が15.6ポイントで最も大きくなっている。



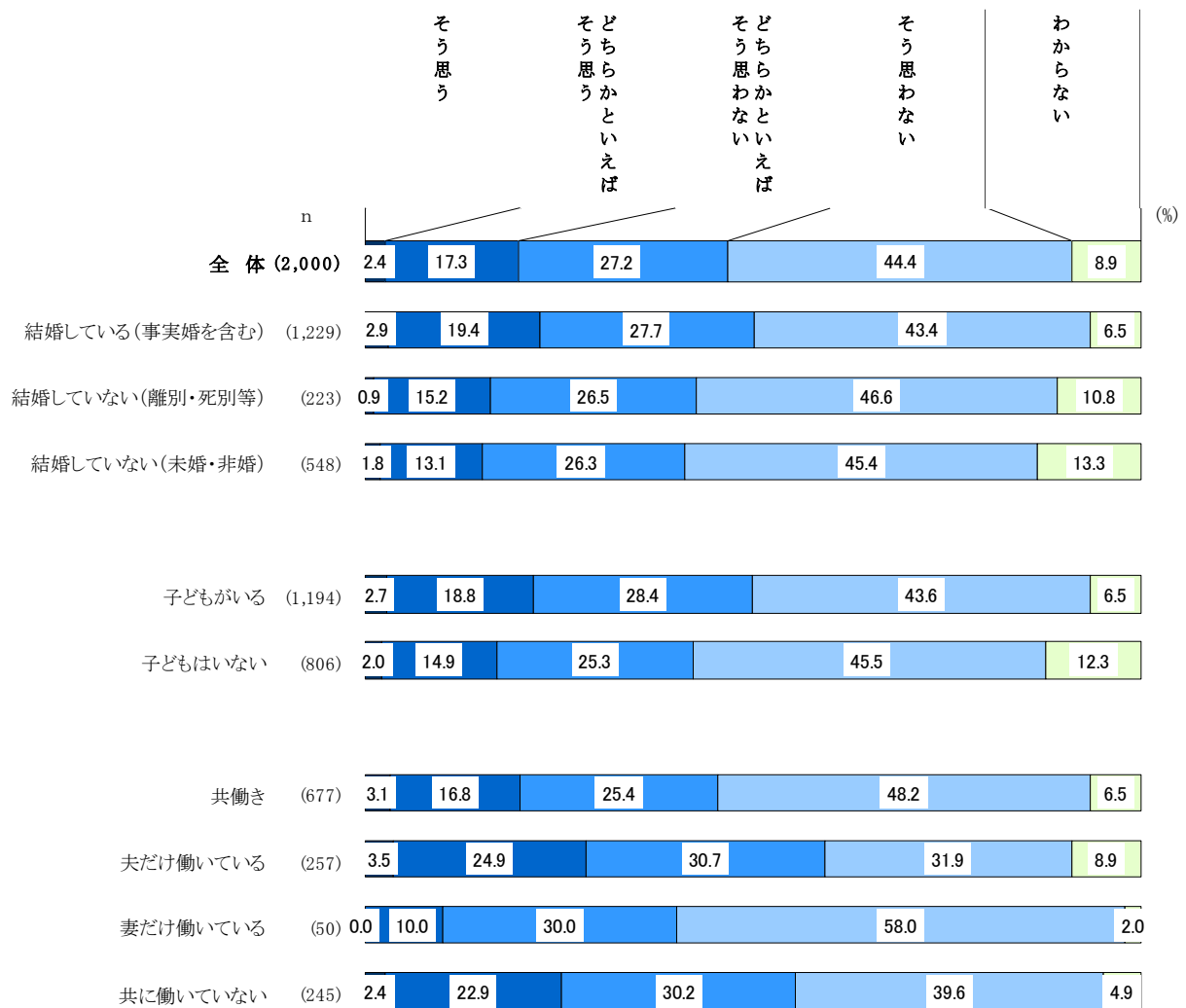
◇未既婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

●結婚していない（離別・死別等）、子どもがいる、妻だけ働いている場合で《思わない（計）》が高い

未既婚別で見ると、《思わない（計）》（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値）は、『結婚していない（離別・死別等）』（73.1%）で最も高くなっている。

子どもの有無別で見ると、《思う（計）》（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値）は、『子どもがいる』（21.5%）が『子どもはいない』（16.9%）より4.6ポイント高くなっている。

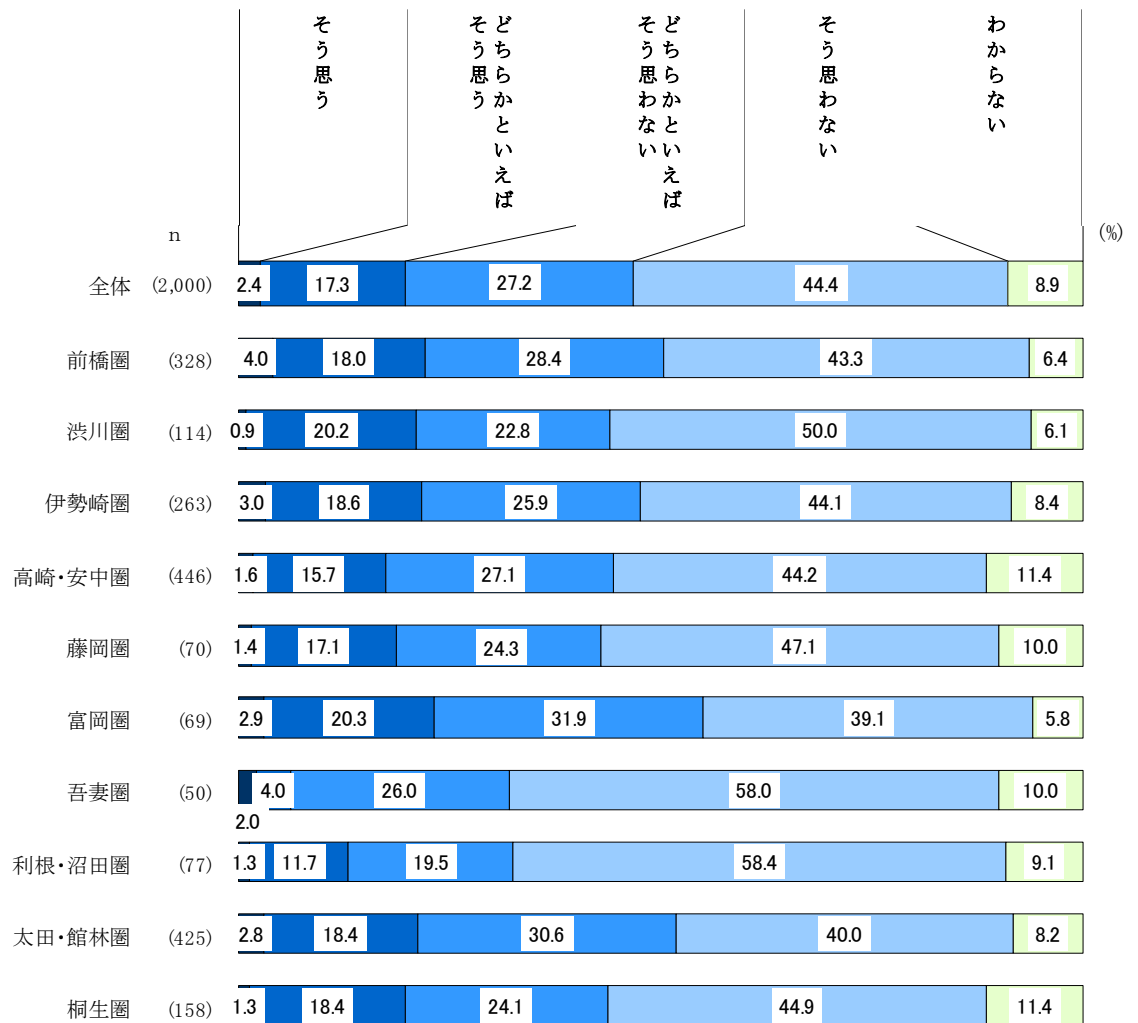
夫婦の働き方別で見ると、《思わない（計）》は、『妻だけ働いている』（88.0%）で最も高く、『夫だけ働いている』（62.6%）で最も低くなっている。



◇圏域別

- 《思わない（計）》はすべての圏域で過半数を占めている
- 《思わない（計）》は吾妻圏で8割以上と最も高い

圏域別で見ると、すべての圏域で「そう思わない」が最も高く、利根・沼田圏（58.4%）が最も高く、次いで吾妻圏（58.0%）となっており、上記2項目で約6割を占めている。《思わない（計）》（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値）は、すべての圏域で過半数を占めており、吾妻圏（84.0%）が最も高く、最も低い桐生圏（69.0%）より15.0ポイント高くなっている。

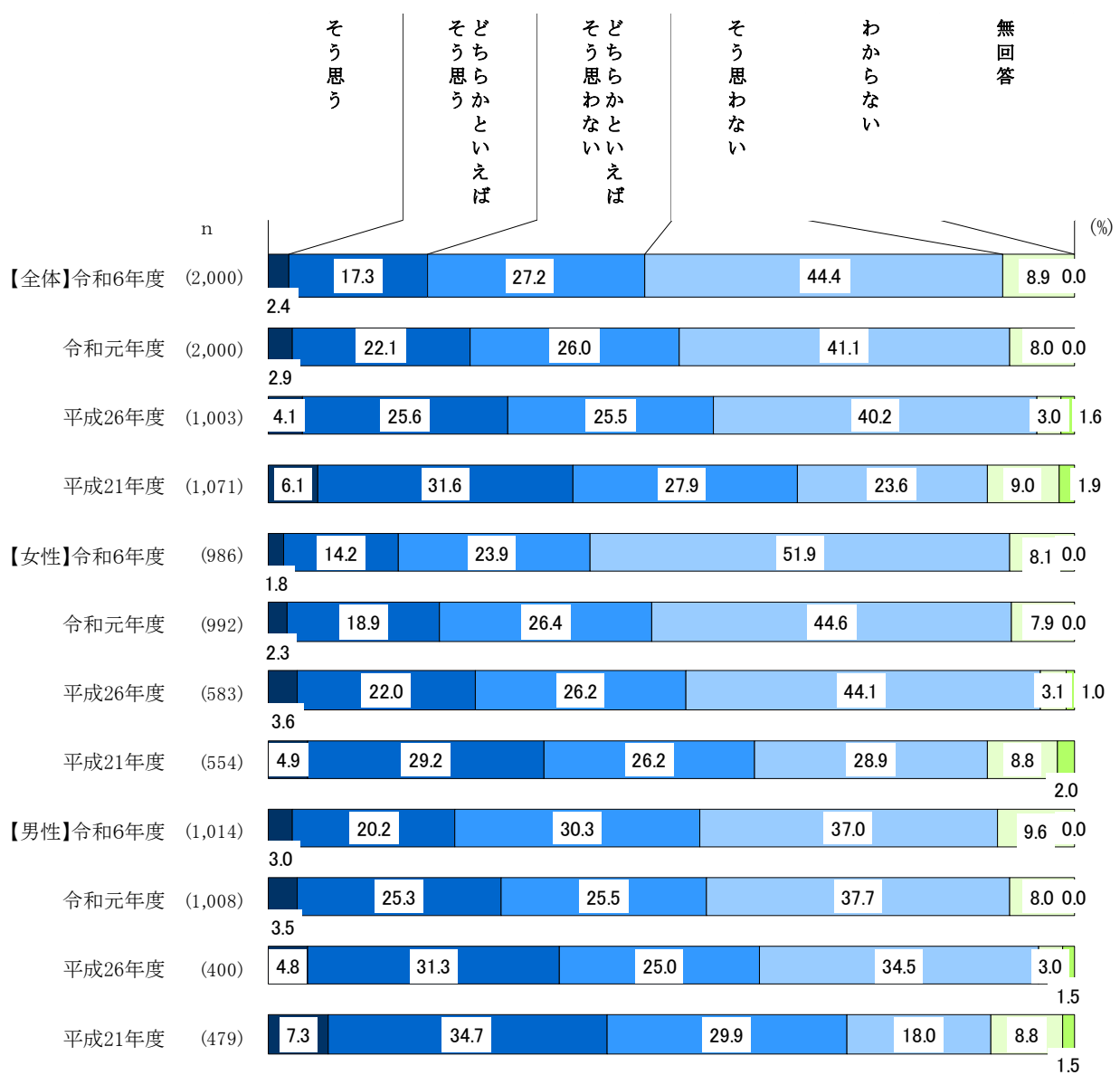


◇経年変化

●《思わない（計）》は増加傾向

令和元年度とは文章表現等が異なることを考慮する必要があるが、経年変化を性別で見ると、《思わない（計）》（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値）は、令和元年度（全体67.1%、女性71.0%、男性63.2%）より、全体は4.5ポイント、女性は4.8ポイント、男性は4.1ポイントそれぞれ高くなっている。《思う（計）》（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値）は、令和元年度（全体25.0%、女性21.2%、男性28.8%）より全体は5.3ポイント、女性は5.2ポイント、男性は5.6ポイントそれぞれ低くなっている。

【問12 経年変化】

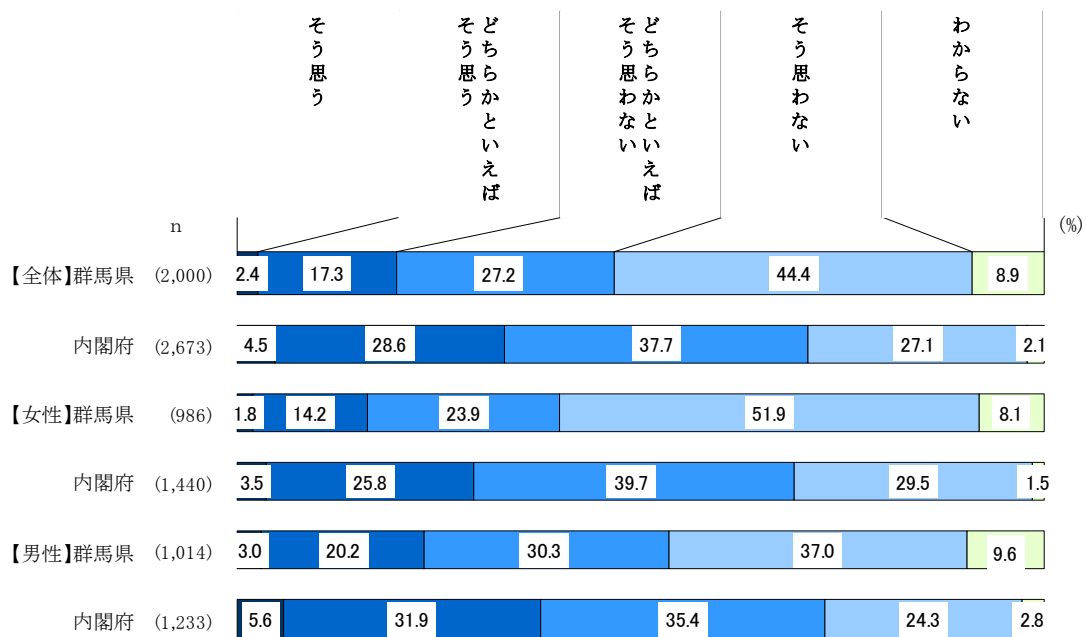


◇国の調査との比較

●男女とも《思わない（計）》が国より高い

内閣府の調査とは文章表現等が異なることを考慮する必要がある。

《思わない（計）》（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値）は、内閣府（全体64.8%、女性69.2%、男性59.7%）より全体は6.8ポイント、女性は6.6ポイント、男性は7.6ポイントそれぞれ高くなっている。



(3) 子どものころの家庭内の状況

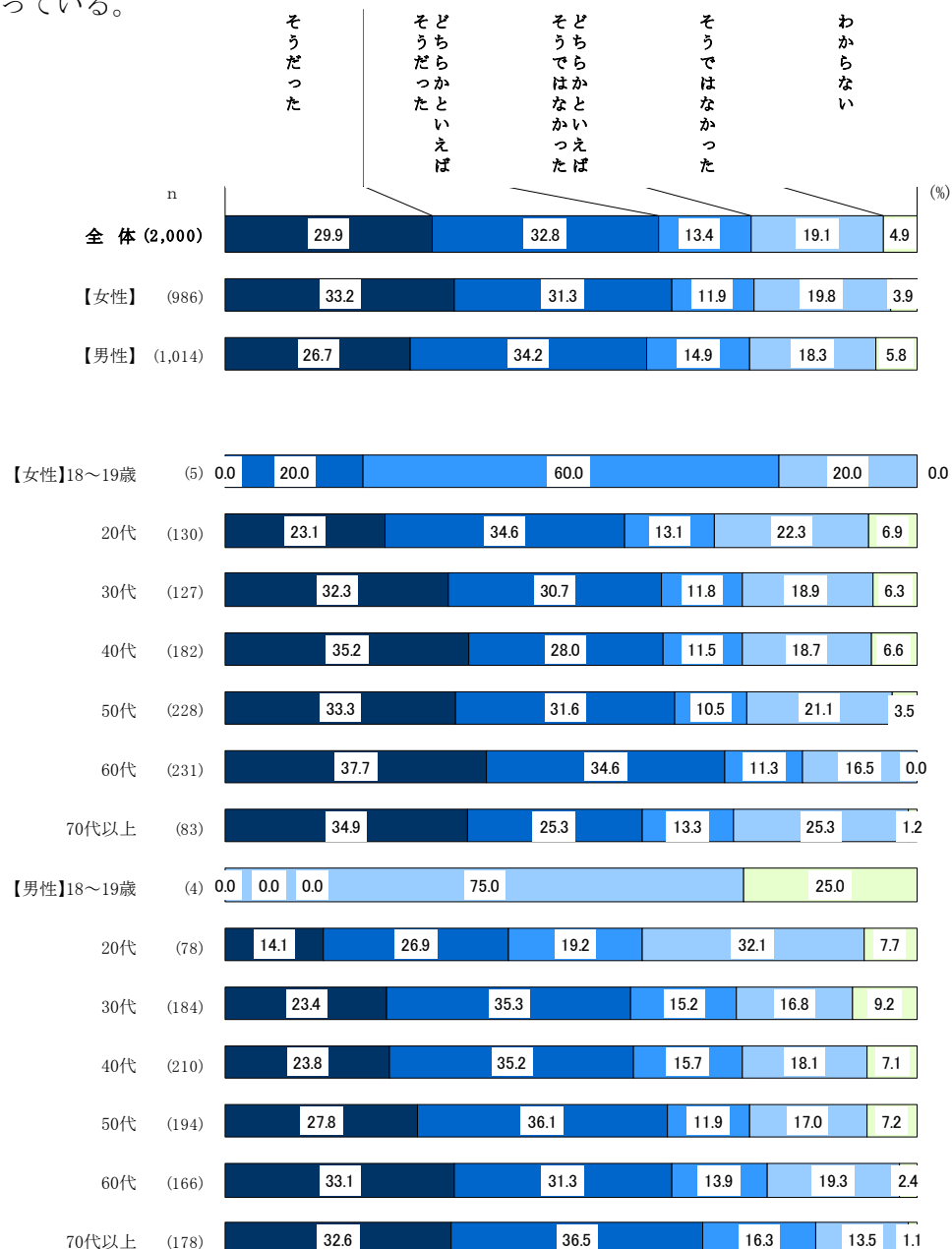
問13 子どもころ、あなたの家庭では、「男は仕事、女は家庭」という状況でしたか。
(1つに○)

●《そうだった(計)》が男女とも6割以上

女性は「そうだった」(33.2%)、男性は「どちらかといえばそうだった」(34.2%)が最も高くなっている。

《そうだった(計)》(「そうだった」と「どちらかといえばそうだった」の合計値)は、女性(64.5%)が男性(60.9%)より3.6ポイント高くなっている。

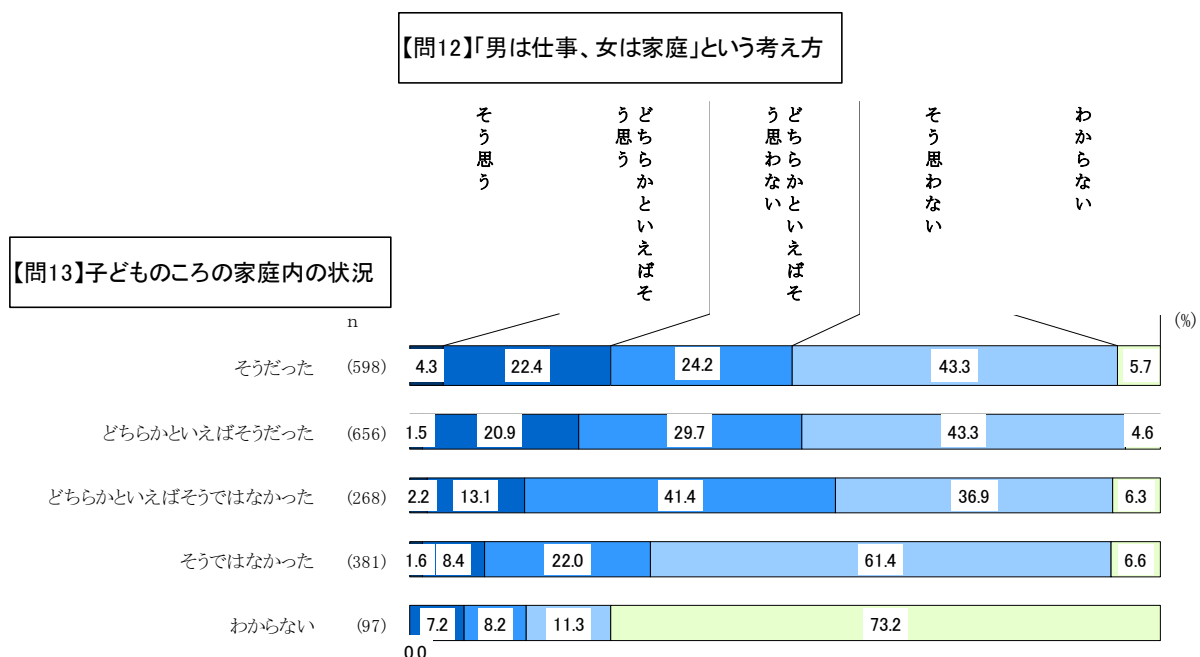
性・年代別で見ると、《そうだった(計)》は女性60代(72.3%)で7割以上と最も高くなっている。《そうだった(計)》は、男性70代以上を除き女性が男性より高くなっており、男女差は20代(女性57.7%、男性41.0%)が16.7ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。また、男性20代は、《そうではなかった(計)》(「そうではなかった」と「そうではなかった」の合計値)(51.3%)が《そうだった(計)》(41.0%)より高くなっている。



◇現在の考え方との関係

●子どものころの家庭等の環境が現在の考え方に影響していることがうかがえる

問12（あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか）との関係で見ると、問12（現在）における《思う（計）》（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値）は、問13（子どものころの家庭等の環境）における『そうだった』（26.7%）、『どちらかといえばそうだった』（22.4%）の場合に高くなっている。一方、問12（現在）における《思わない（計）》（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値）は、問13（子どものころの家庭等の環境）における『そうではなかった』（83.4%）の場合に高くなっている。これらのことを考え合わせると、子どもの頃の家庭等における環境が、成長後の考え方に影響していることがうかがえる。



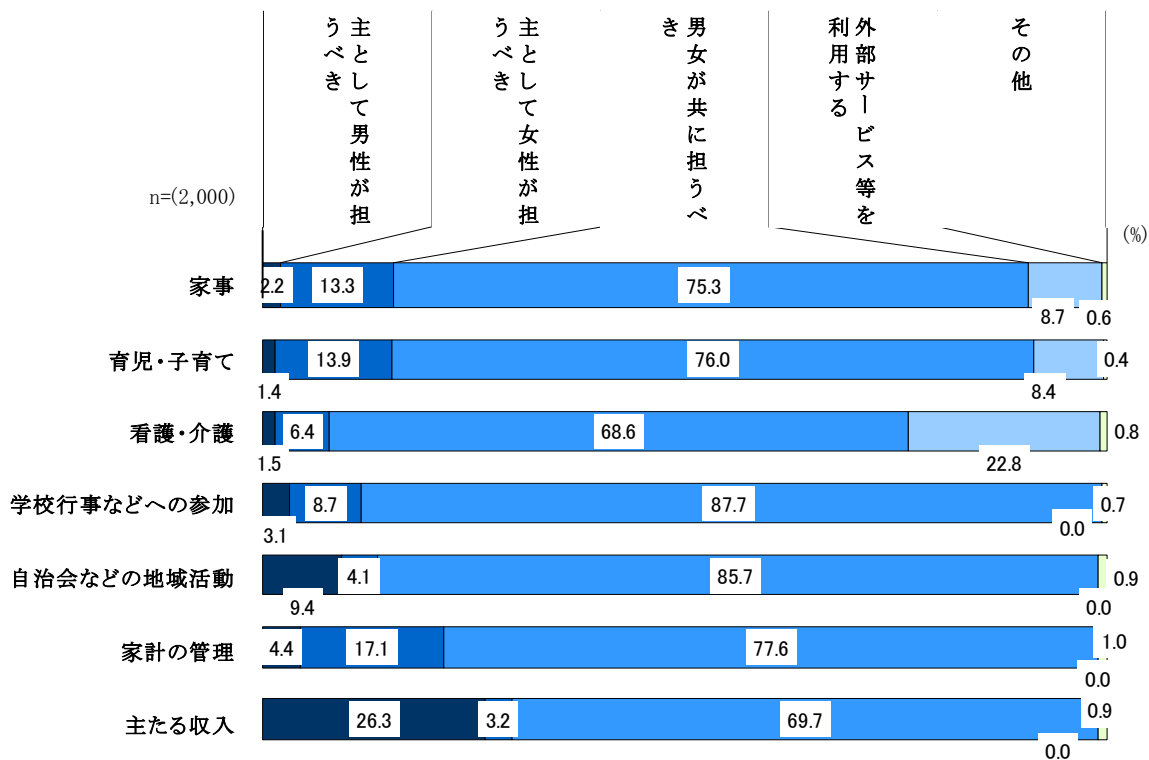
(4) 家庭内の役割分担の理想

問14 あなたは、以下の家庭内における理想の役割について、どのように担うべきだと思いますか。（それぞれ1つに○）

- すべての項目で「男女が共に担うべき」が最も高い
- 『主たる収入』は「主として男性が担うべき」が約3割
- 『看護・介護』は「外部サービス等を利用する」が2割以上
- 『家事』、『育児・子育て』、『家計の管理』では「主として女性が担うべき」が比較的高い

全体では、すべての項目で「男女が共に担うべき」が最も高く、『学校行事などへの参加』（87.7%）、『自治会などの地域活動』（85.7%）の2項目で約9割となっている。『主たる収入』で「主として男性が担うべき」（26.3%）が約3割と比較的高くなっている。『看護・介護』で「外部サービス等を利用する」（22.8%）が2割以上と比較的高くなっている。また、『家計の管理』（17.1%）、『育児・子育て』（13.9%）、『家事』（13.3%）では「主として女性が担うべき」が1割以上と比較的高くなっている。

【問14】



※「家事」「育児・子育て」は令和元年度調査から選択肢の文言を一部変更している。

※新規調査項目：「外部サービス等を利用する」

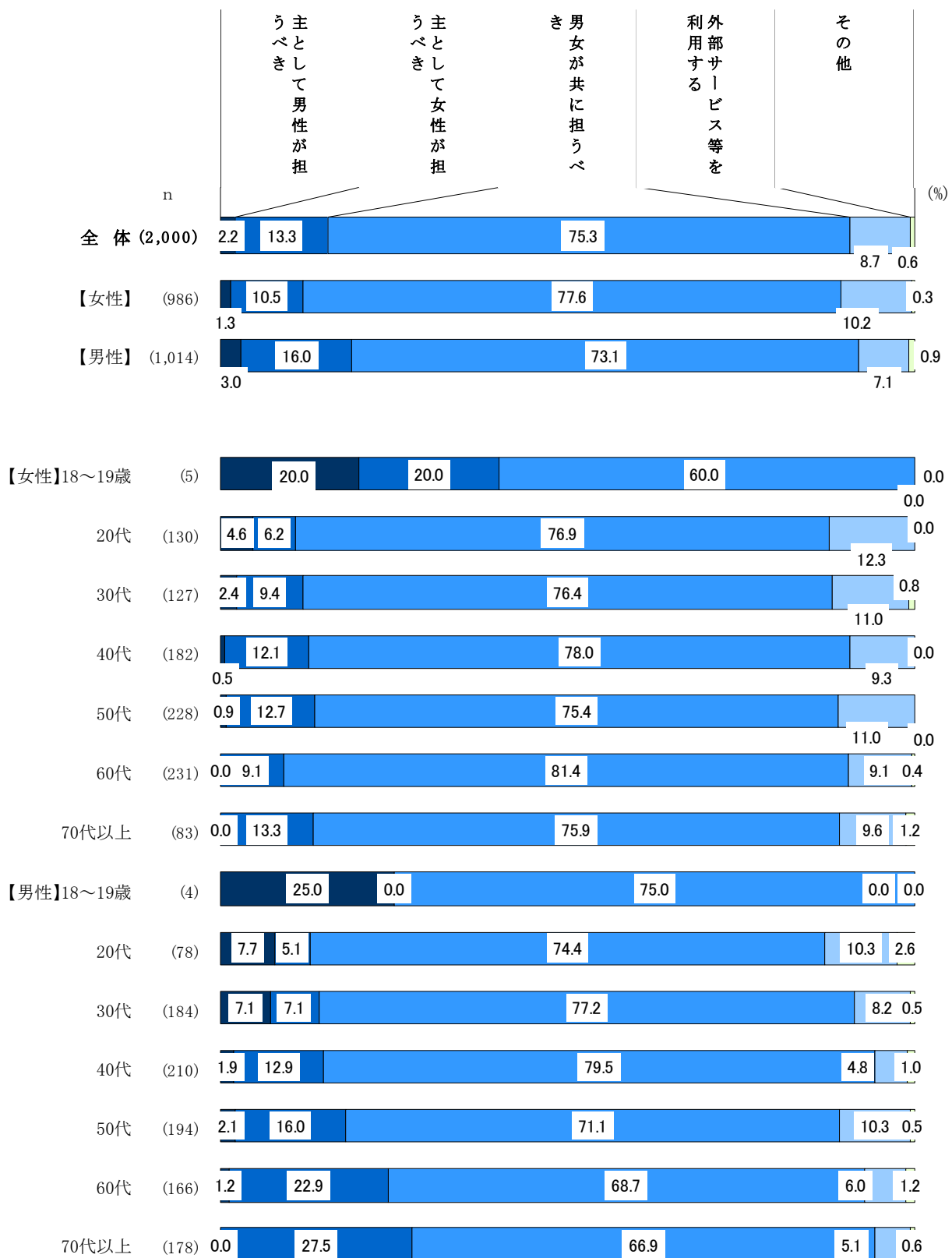
問14 ①家事をどう担うべきか

- 「男女が共に」が女性約8割、男性7割以上
- 男性70代以上で「主として女性」が約3割

男女とも「男女が共に担うべき」（女性77.6%、男性73.1%）が最も高く、女性が男性より4.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高くなっており、特に女性60代（81.4%）で8割以上と高くなっている。また、「主として女性が担うべき」は男性60代（60代22.9%）で2割以上、男性70代以上（27.5%）で約3割と比較的高くなっている。男女差は「男女が共に担うべき」で60代（女性81.4%、男性68.7%）が12.7ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

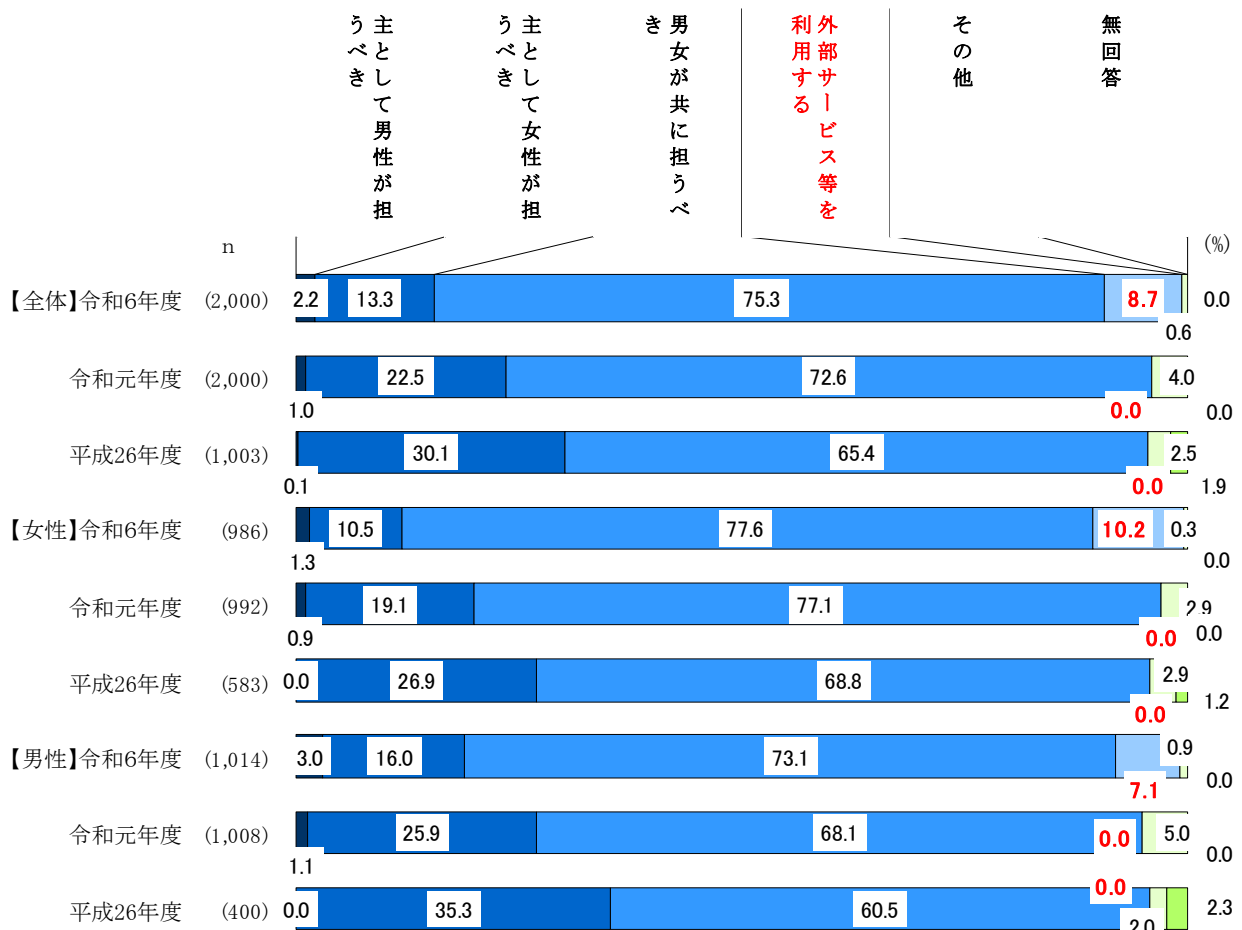
【問14 ①家事をどう担うべきか】



◇経年変化

●男女とも「男女が共に」が前回より高い

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担うべき」は、令和元年度（女性77.1%、男性68.1%）より女性は0.5ポイント、男性は5.0ポイントそれぞれ高くなっている。「主として女性が担うべき」は、令和元年度（女性19.1%、男性25.9%）より女性は8.6ポイント、男性は9.9ポイントそれぞれ低くなっている。



※新規調査項目（赤色）：「外部サービス等を利用する」

問14 ②育児・子育てをどう担うべきか

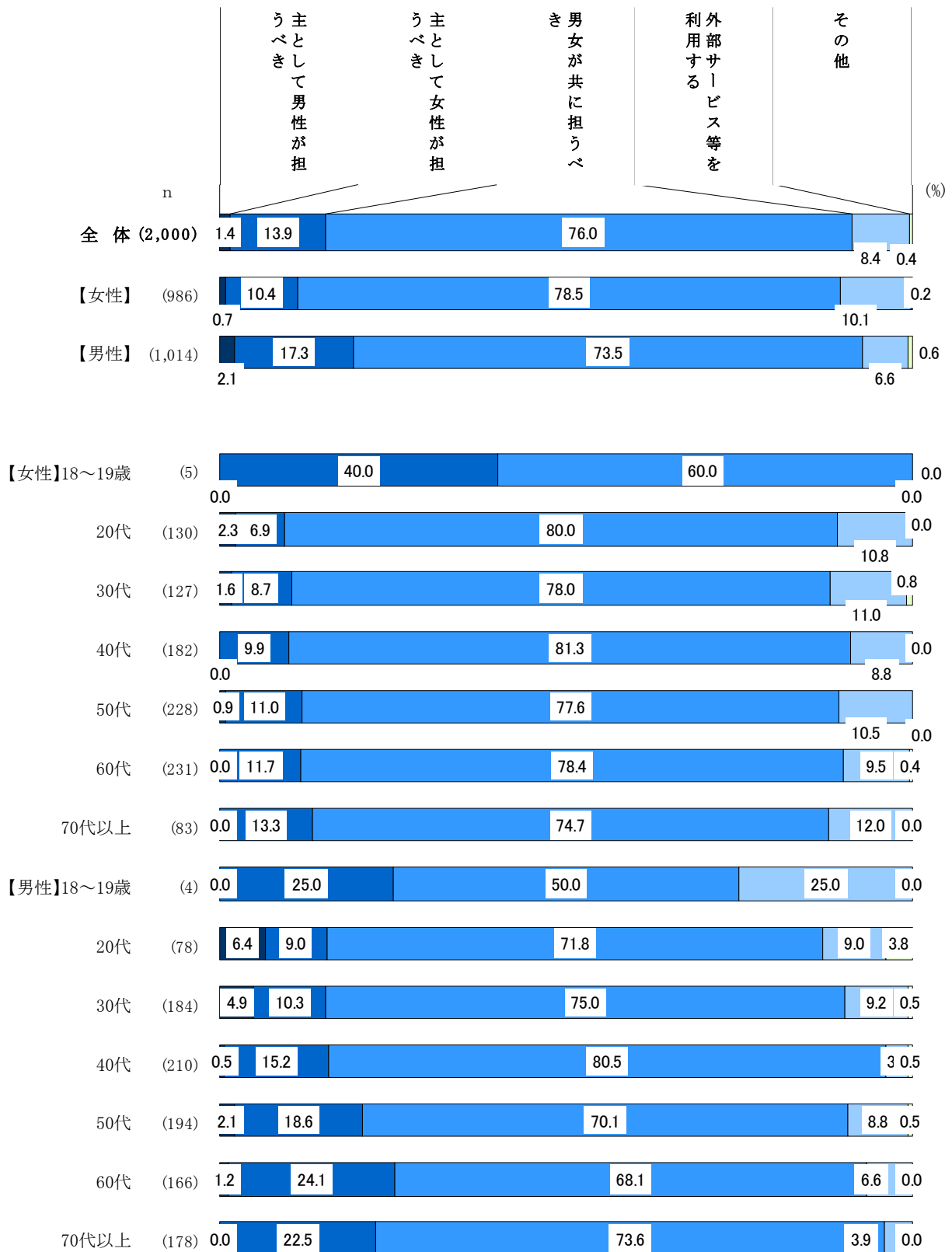
●「男女が共に」が女性約8割、男性7割以上

●男性60代・70代以上では「主として女性」が2割以上

男女とも「男女が共に担うべき」（女性78.5%、男性73.5%）が最も高く、女性が男性より5.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高くなっており、すべての年代で女性が男性より高く、特に女性では20代・40代（20代80.0%、40代81.3%）、男性では40代（80.5%）が8割で高くなっている。一方、男性60代・70代以上は、「主として女性が担うべき」（60代24.1%、70代以上22.5%）が2割以上見られる。男女差は「主として女性が担うべき」で60代（女性11.7%、男性24.1%）が12.4ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。

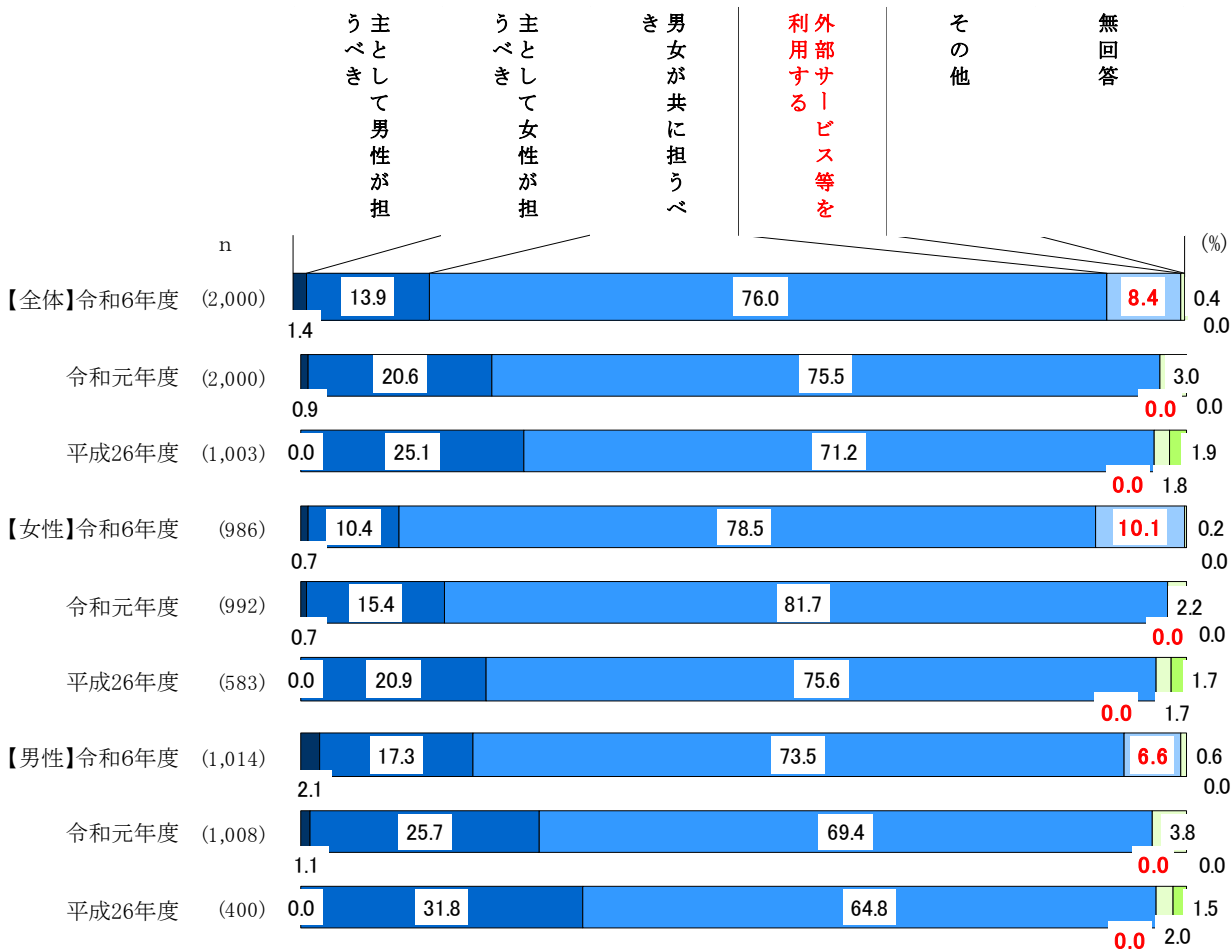
【問14 ②育児・子育てをどう担うべきか】



◇経年変化

●「男女が共に」は前回より女性は低く、男性は高い

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担うべき」は、令和元年度（女性81.7%、男性69.4%）より女性は3.2ポイント低くなっており、男性は4.1ポイント高くなっている。
「主として女性が担うべき」は、令和元年度（女性15.4%、男性25.7%）より女性は5.0ポイント、男性は8.4ポイント低くなっている。



※新規調査項目（赤色）：「外部サービス等を利用する」

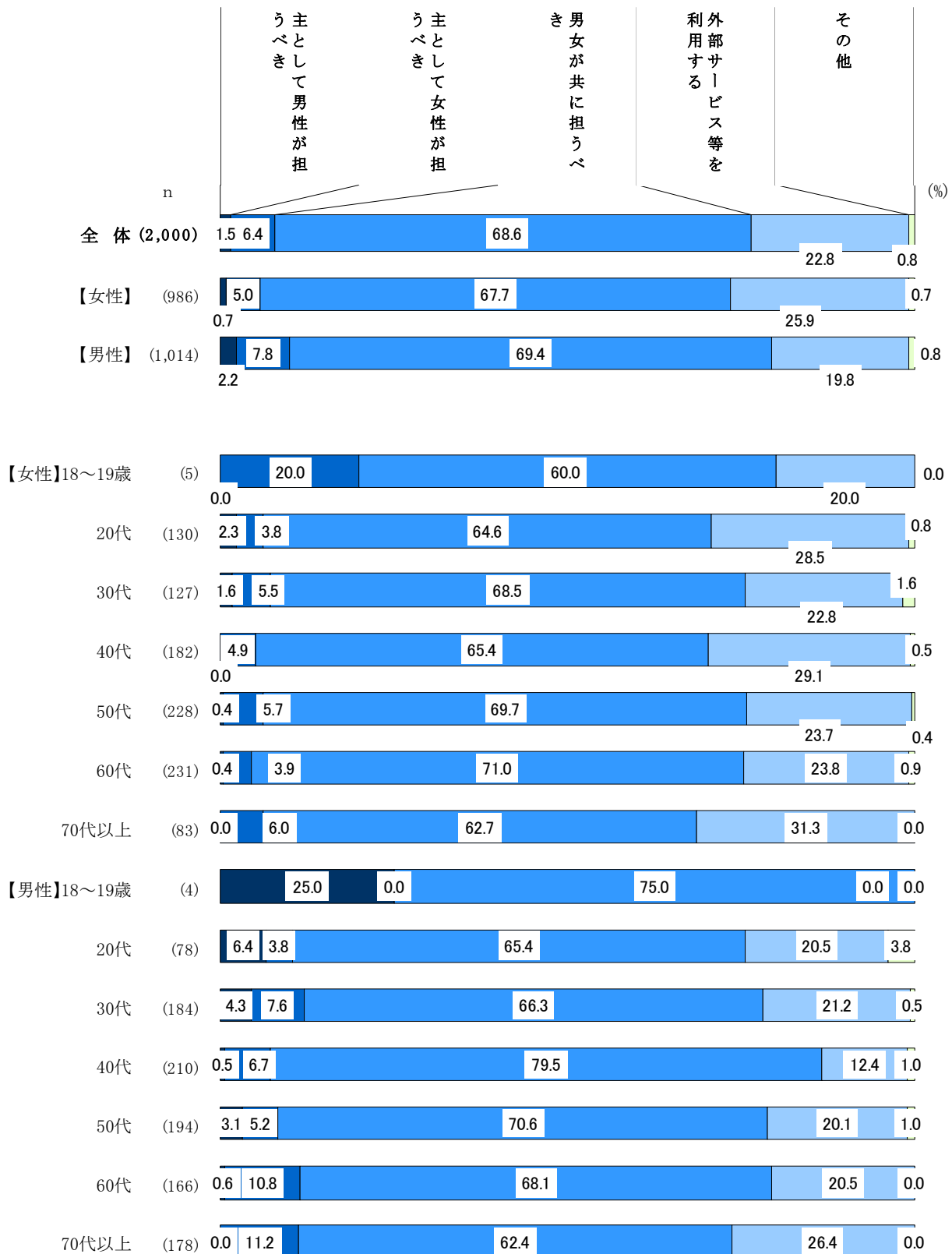
問 14 ③看護・介護をどう担うべきか

- 「男女が共に」が男女ともに約7割
- 「外部サービス等を利用する」は40代で男女差が大きい

男女とも「男女が共に担うべき」（女性67.7%、男性69.4%）が最も高く、男性が女性より1.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高く、特に男性40代（79.5%）で約8割となっている。男女差は「外部サービス等を利用する」で40代（女性29.1%、男性12.4%）が16.7ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

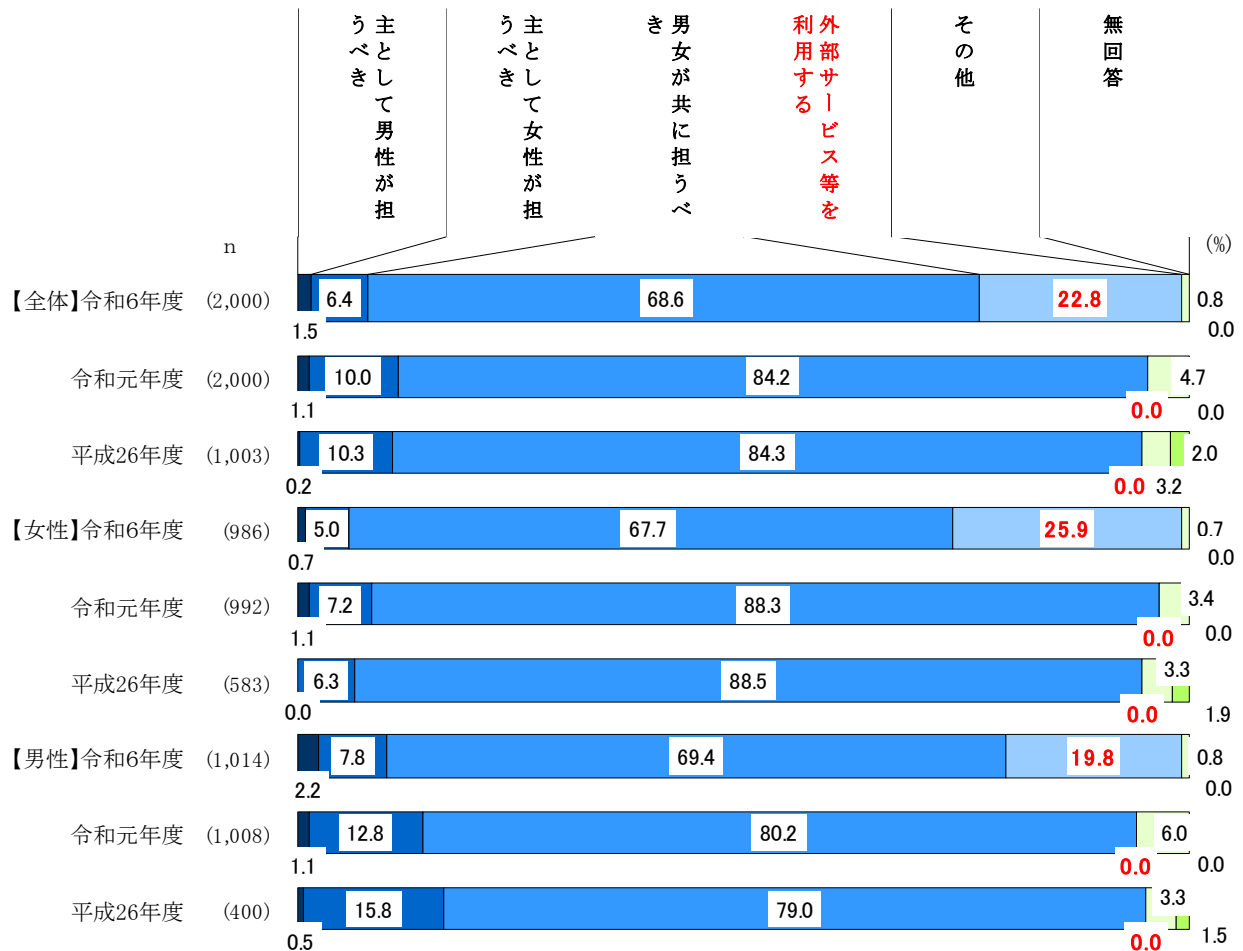
【問14 ③看護・介護をどう担うべきか】



◇経年変化

●男女ともに「男女が共に」が大きく減少

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担うべき」は、令和元年度（女性88.3%、男性80.2%）より女性は20.6ポイント、男性は10.8ポイントそれぞれ低くなっている。



※新規調査項目（赤色）：「外部サービス等を利用する」

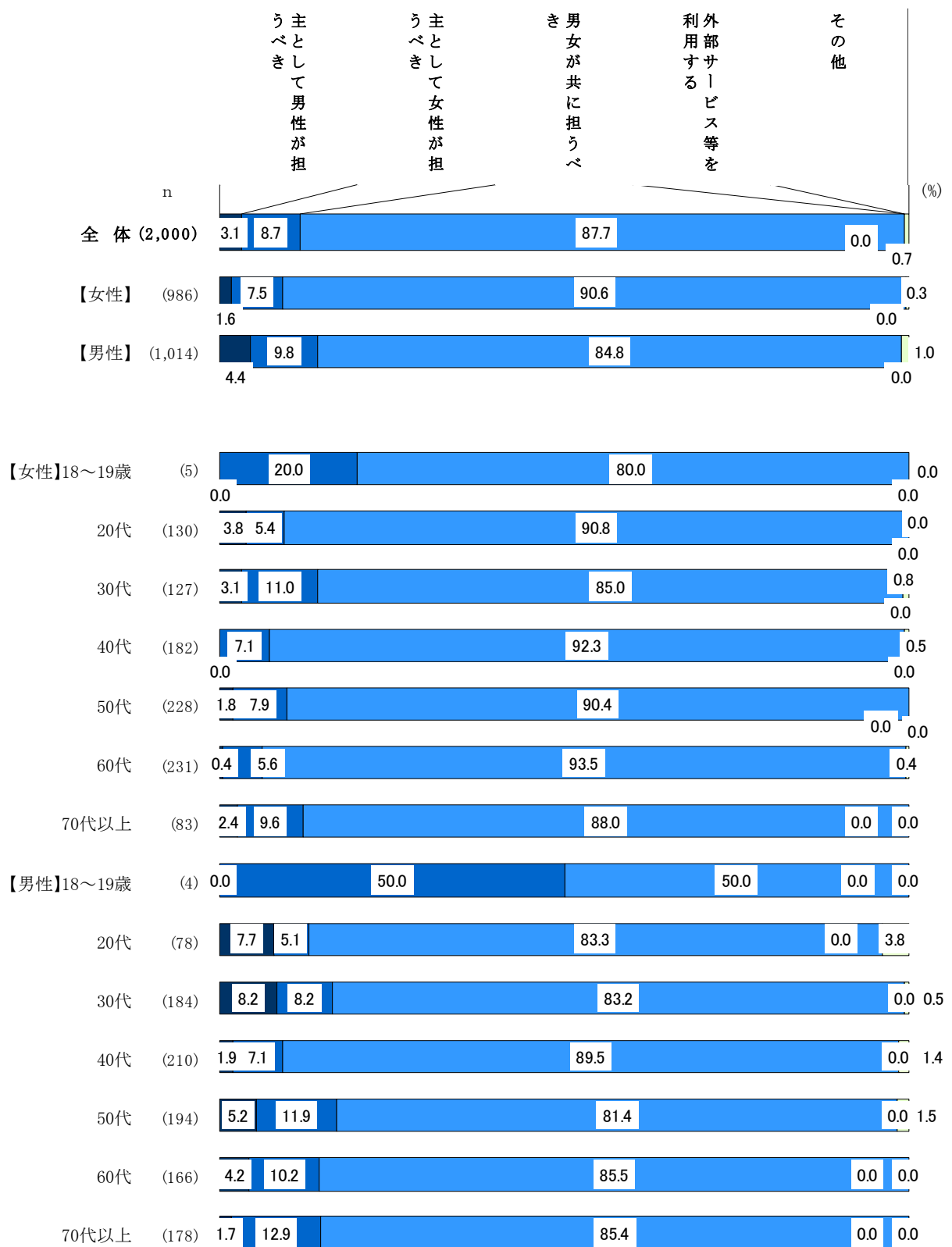
問 14 ④学校行事などへの参加をどう担うべきか

●「男女が共に担うべき」が女性9割、男性8割以上

男女とも「男女が共に担うべき」（女性90.6%、男性84.8%）が最も高く、女性が男性より5.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高くなっており、すべての年代で女性が男性より高く、男女差は50代（女性90.4%、男性81.4%）が9.0ポイントで最も大きくなっている。

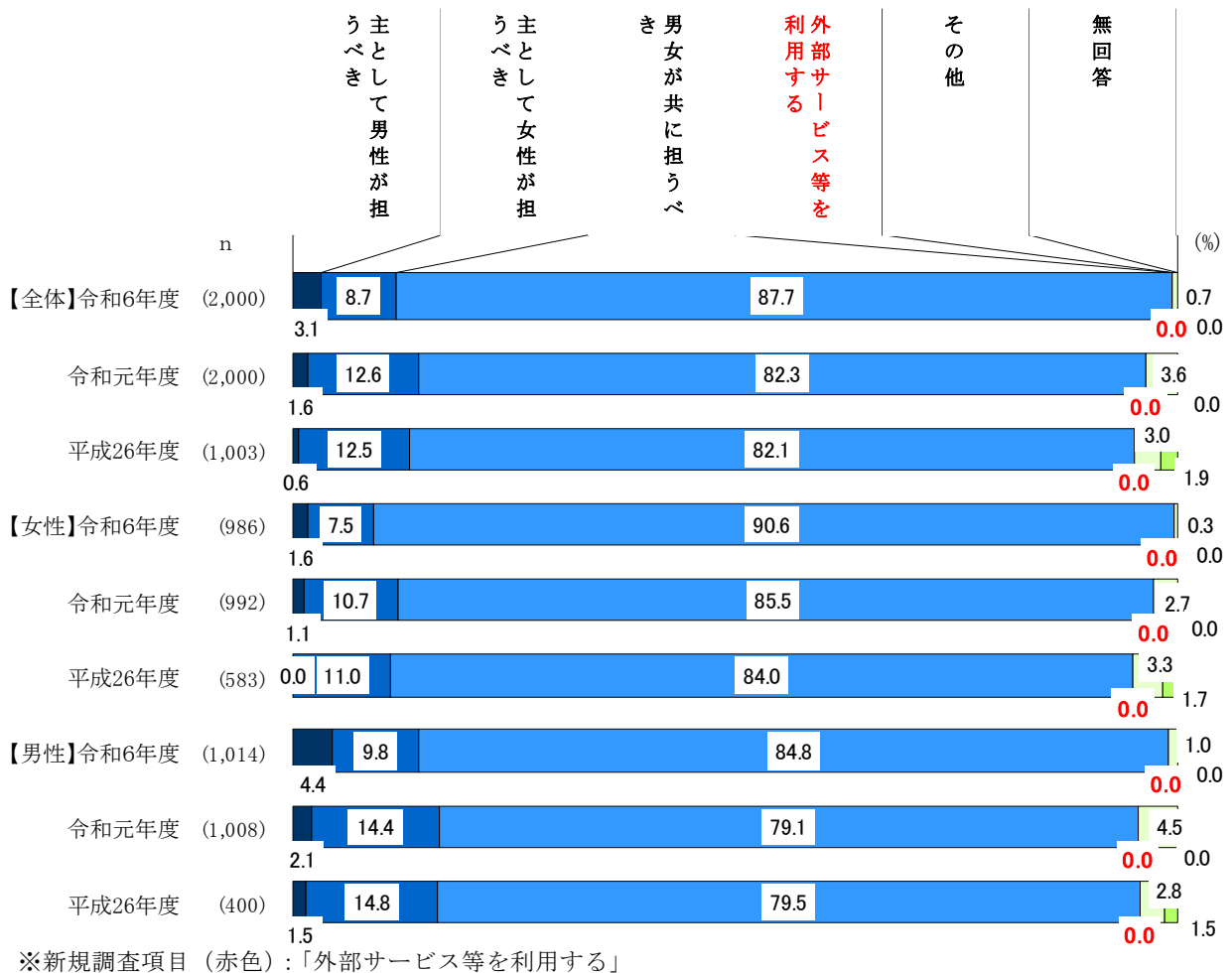
【問14 ④学校行事などへの参加をどう担うべきか】



◇経年変化

●「男女が共に」が男女ともに前回より高い

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担うべき」は男女ともに令和元年度（女性85.5%、男性79.1%）より、女性は5.1ポイント、男性は5.7ポイントそれぞれ高くなっている。「主として女性が担うべき」は男女ともに初めて1割以下となっている。



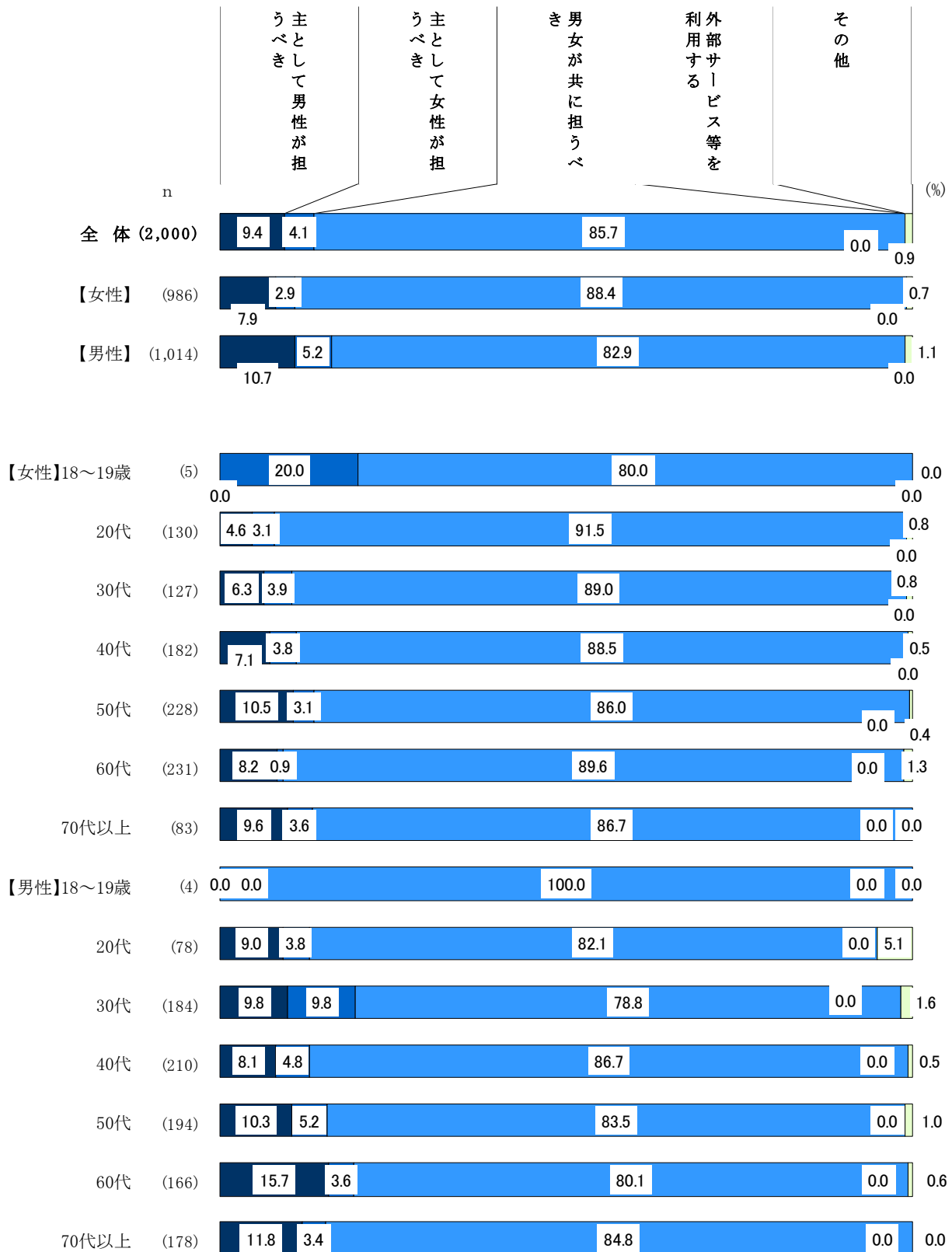
問 14 ⑤自治会などの地域活動をどう担うべきか

●「男女が共に担うべき」が女性約9割、男性8割以上

男女とも「男女が共に担うべき」（女性88.4%、男性82.9%）が最も高く、女性が男性より5.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高くなっており、男女差は30代（女性89.0%、男性78.8%）が10.2ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

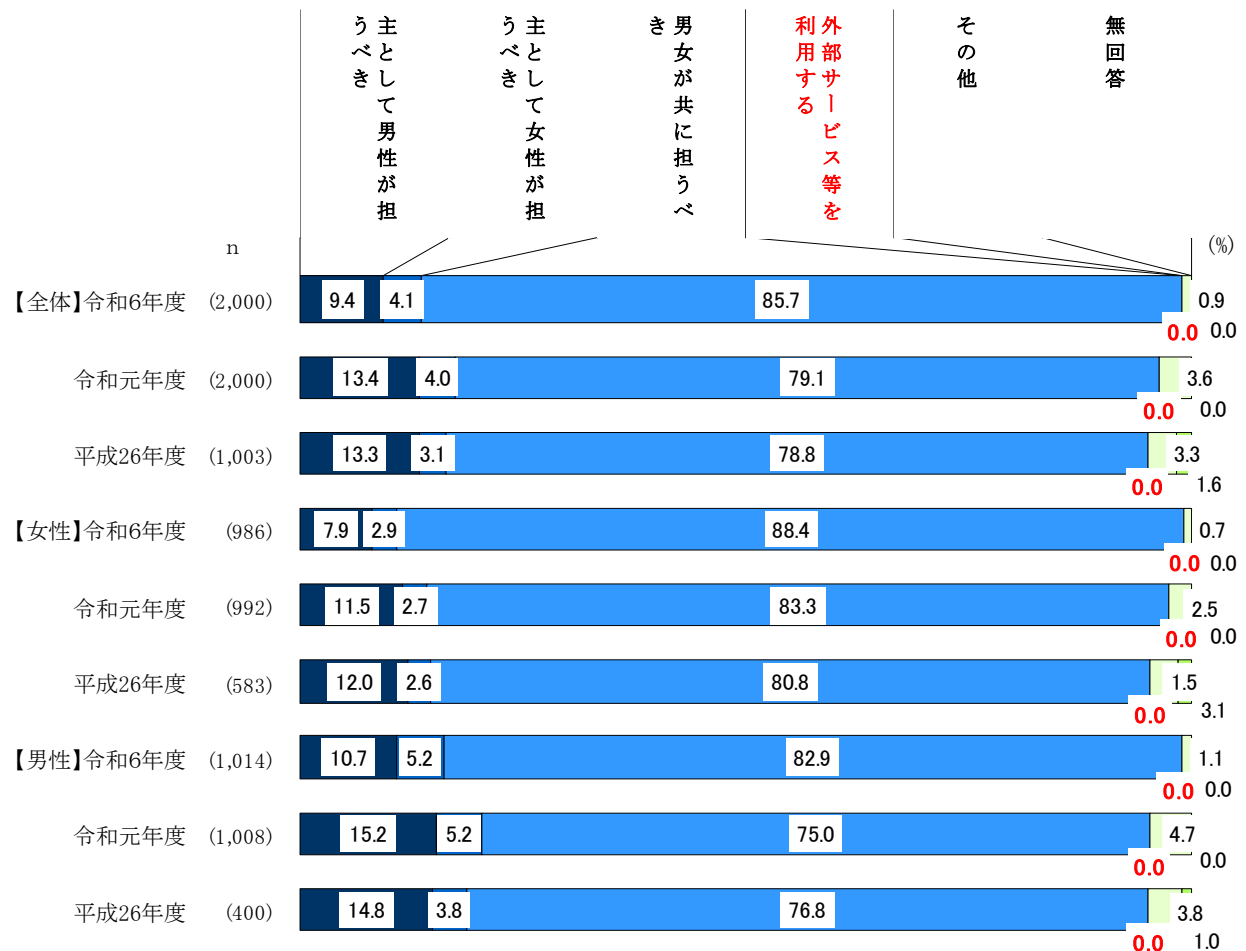
【問14 ⑤自治会などの地域活動をどう担うべきか】



◇経年変化

●「男女が共に」が男女ともに前回より高い

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担うべき」は男女ともに令和元年度（女性83.3%、男性75.0%）より、女性は5.1ポイント、男性は7.9ポイントそれぞれ高くなっている。「主として女性が担うべき」は男性が令和元年度（5.2%）と同値で、女性は令和元年度（2.7%）より0.2ポイント高く、前回と同程度となっている。



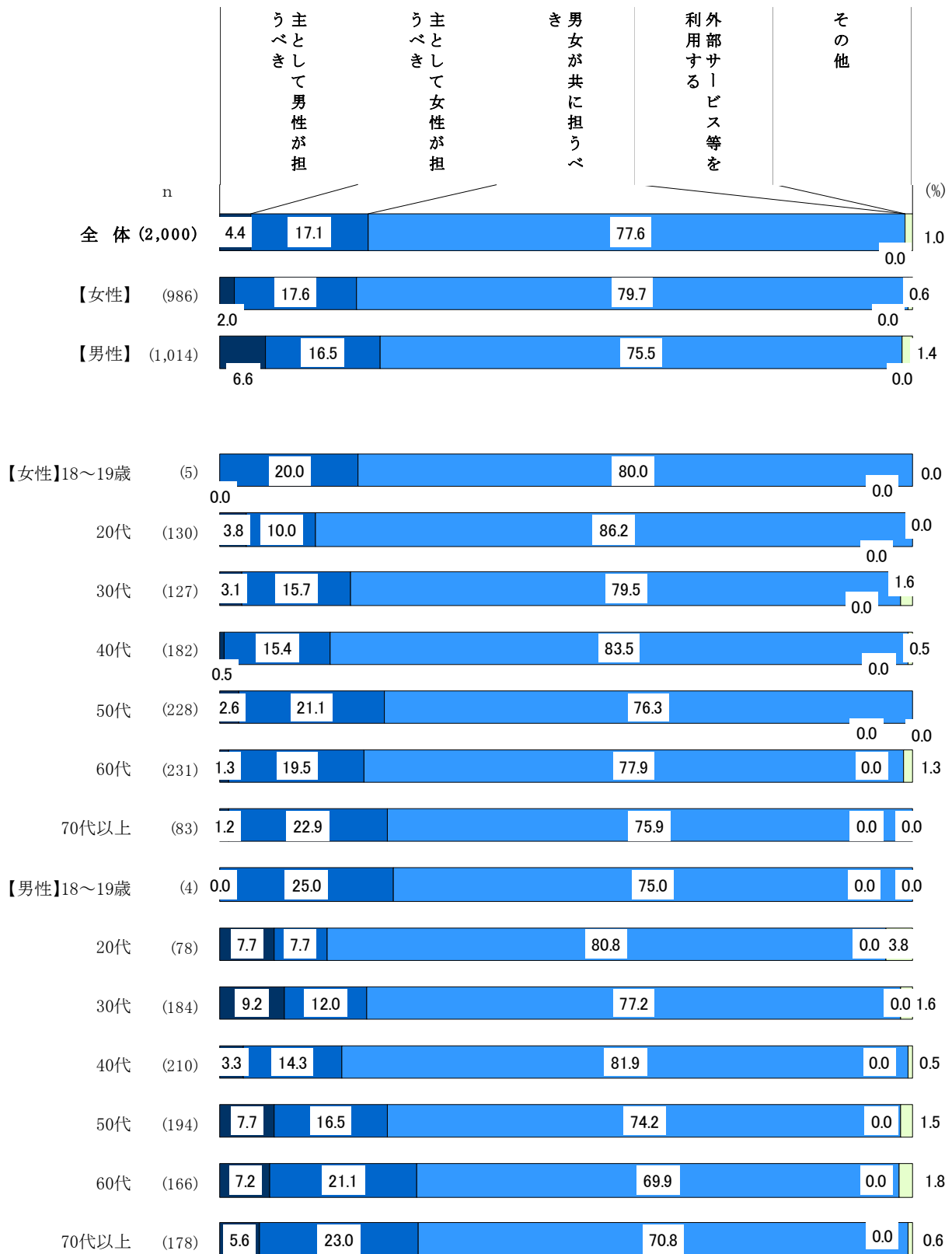
問14 ⑥家計の管理をどう担うべきか

●男女とも「男女が共に」が約8割

男女とも「男女が共に担うべき」（女性79.7%、男性75.5%）が最も高く、女性が男性より4.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高くなっており、すべての年代で女性が男性より高く、男女差は60代（女性77.9%、男性69.9%）が8.0ポイントで最も大きくなっている。一方で、「主として女性が担うべき」は、男性20代（7.7%）で1割未満と低くなっている。

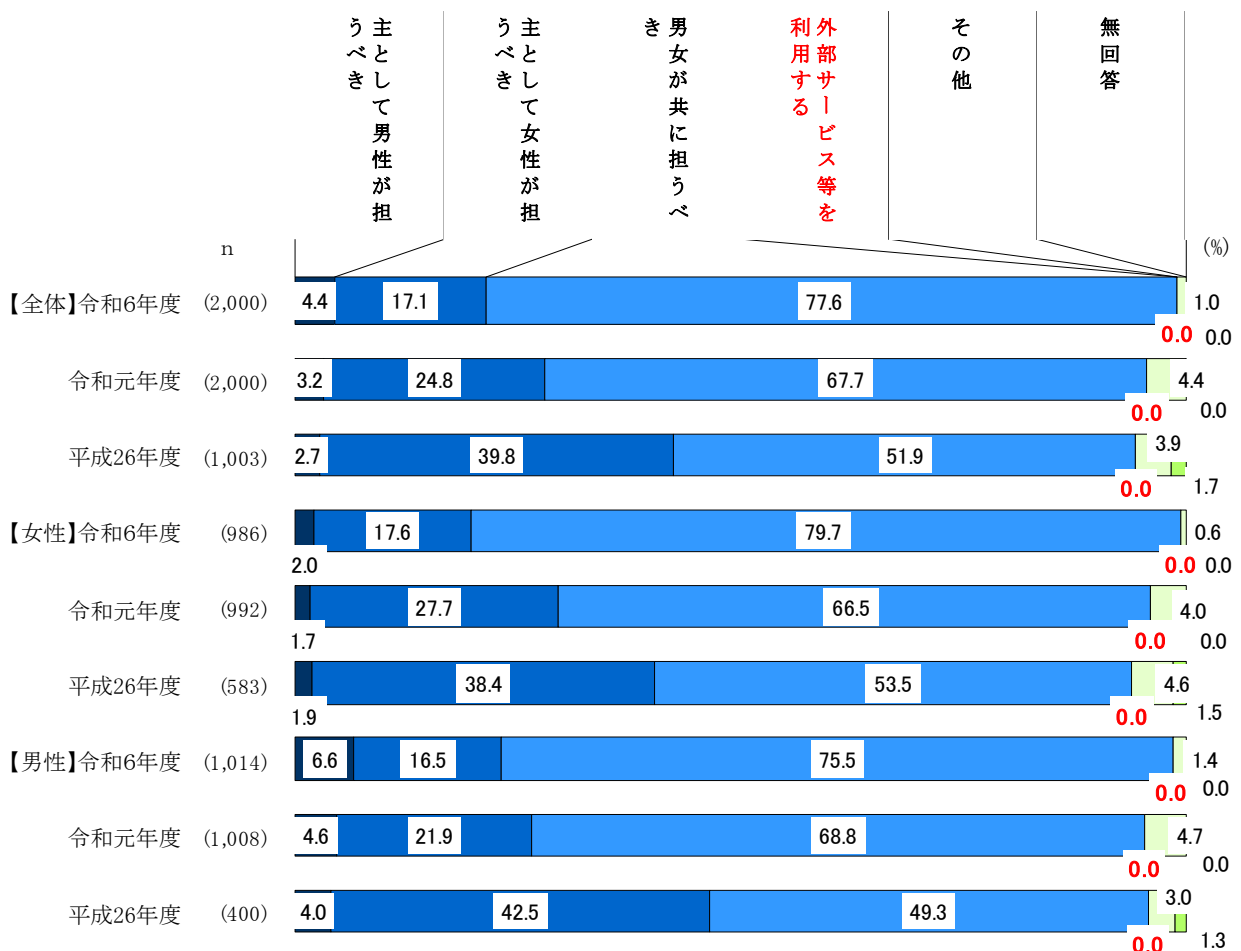
【問14 ⑥家計の管理をどう担うべきか】



◇経年変化

●「男女が共に」は男女とも前回より高い

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担うべき」は、令和元年度（女性66.5%、男性68.8%）より女性は13.2ポイント、男性は6.7ポイントそれぞれ高くなっている。



※新規調査項目（赤色）：「外部サービス等を利用する」

問 14 ⑦主たる収入をどう担うべきか

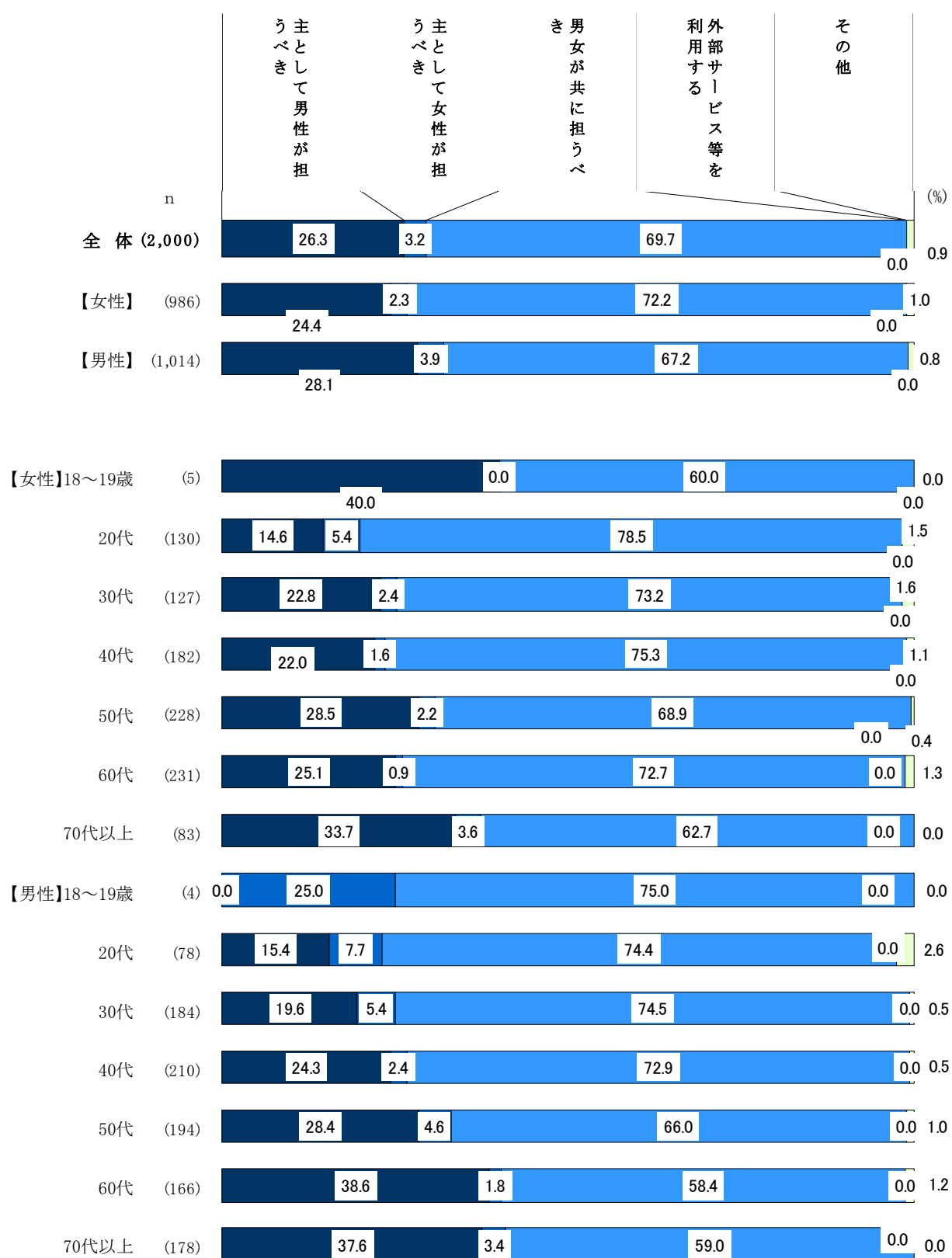
●「男女が共に担うべき」が女性7割以上、男性約7割

●男性60代以上で「主として男性」が約4割

男女とも「男女が共に担うべき」（女性72.2%、男性67.2%）が最も高く、女性が男性より5.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともにすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高くなっており、男性30代を除くすべての年代で女性が男性より高くなっている。男性は若い年代ほど「男女が共に担うべき」が高くなっている。また、「男女が共に担うべき」の男女差を見ると、60代（女性72.7%、男性58.4%）が14.3ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

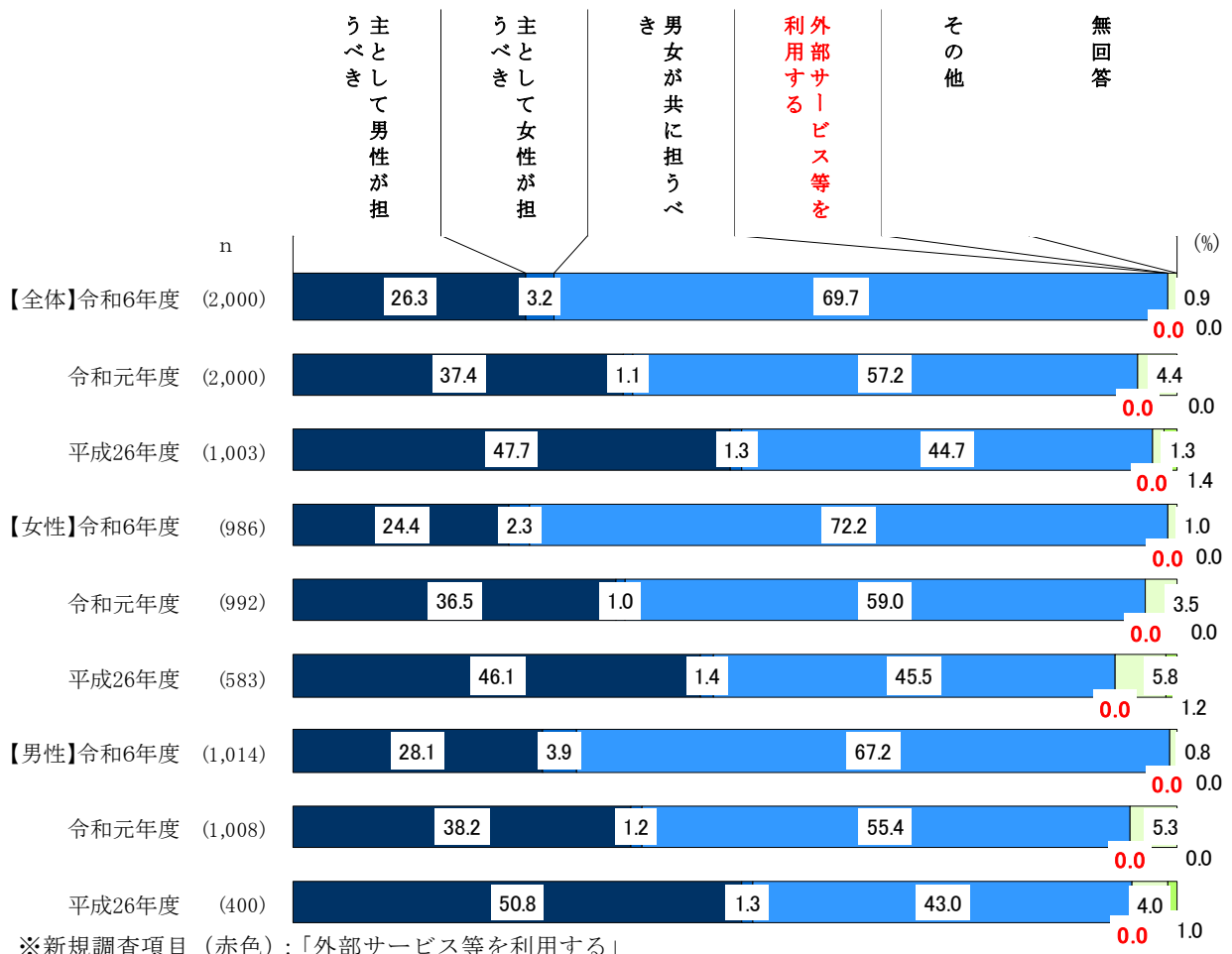
【問14 ⑦主たる収入をどう担うべきか】



◇経年変化

●男女とも前回より「男女が共に」が高く、「主として男性」が低い

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担うべき」は、令和元年度（女性59.0%、男性55.4%）より女性は13.2ポイント、男性は11.8ポイントそれぞれ高くなっている。「主として男性が担うべき」は、令和元年度（女性36.5%、男性38.2%）より女性は12.1ポイント、男性は10.1ポイントそれぞれ低くなっている。



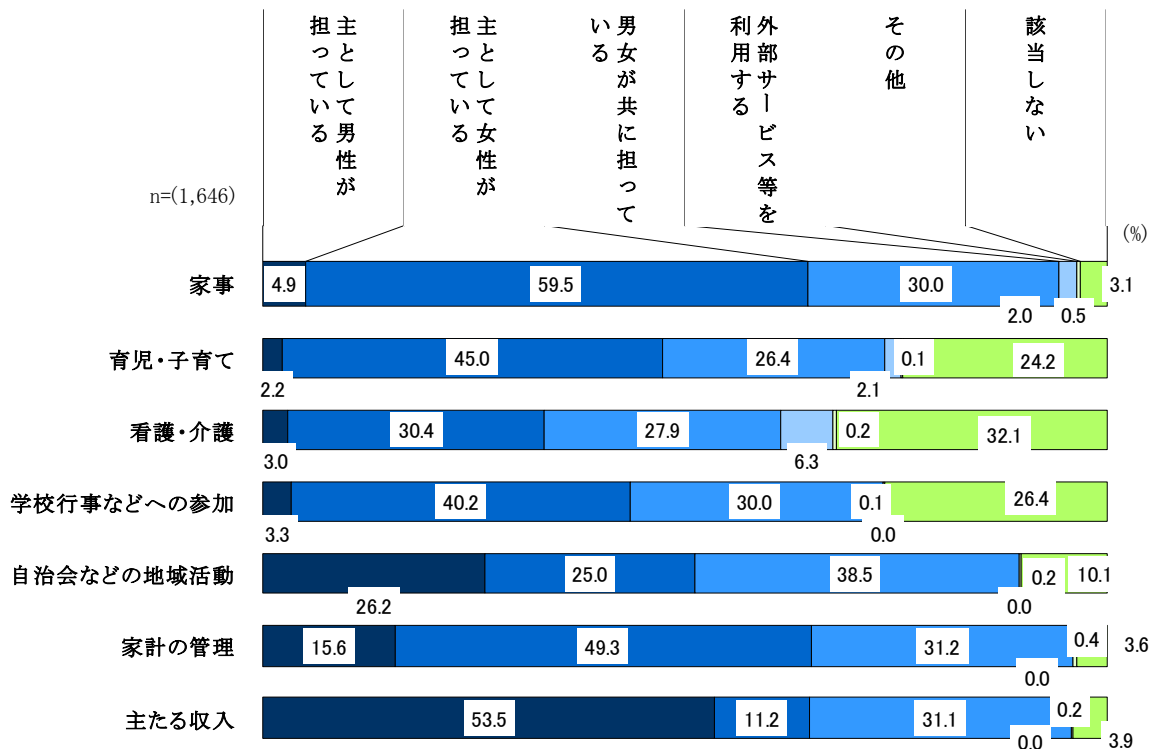
(5) 家庭内の役割分担の現状

問15 あなたの家庭内における現状の役割について、どのように担っていますか。
(それぞれ1つに○)

- 『自治会などの地域活動』、『主たる収入』を除き「主として女性」が最も高い
- 『自治会などの地域活動』では「男女が共に」が約4割、『主たる収入』では「主として男性」が5割以上で最も高い

全体では、『自治会などの地域活動』、『主たる収入』を除き「主として女性が担っている」が最も高く、特に『家事』(59.5%)は約6割と高くなっている。『自治会などの地域活動』では「男女が共に担っている」(38.5%)、『主たる収入』では「主として男性が担っている」(53.5%)が最も高くなっている。また、『看護・介護』で「外部サービス等を利用する」(6.3%)が他項目に比べ比較的高くなっている。

【問15】



※「家事」「育児・子育て」は令和元年度調査から選択肢の文言を一部変更している。

※新規調査項目：「外部サービス等を利用する」

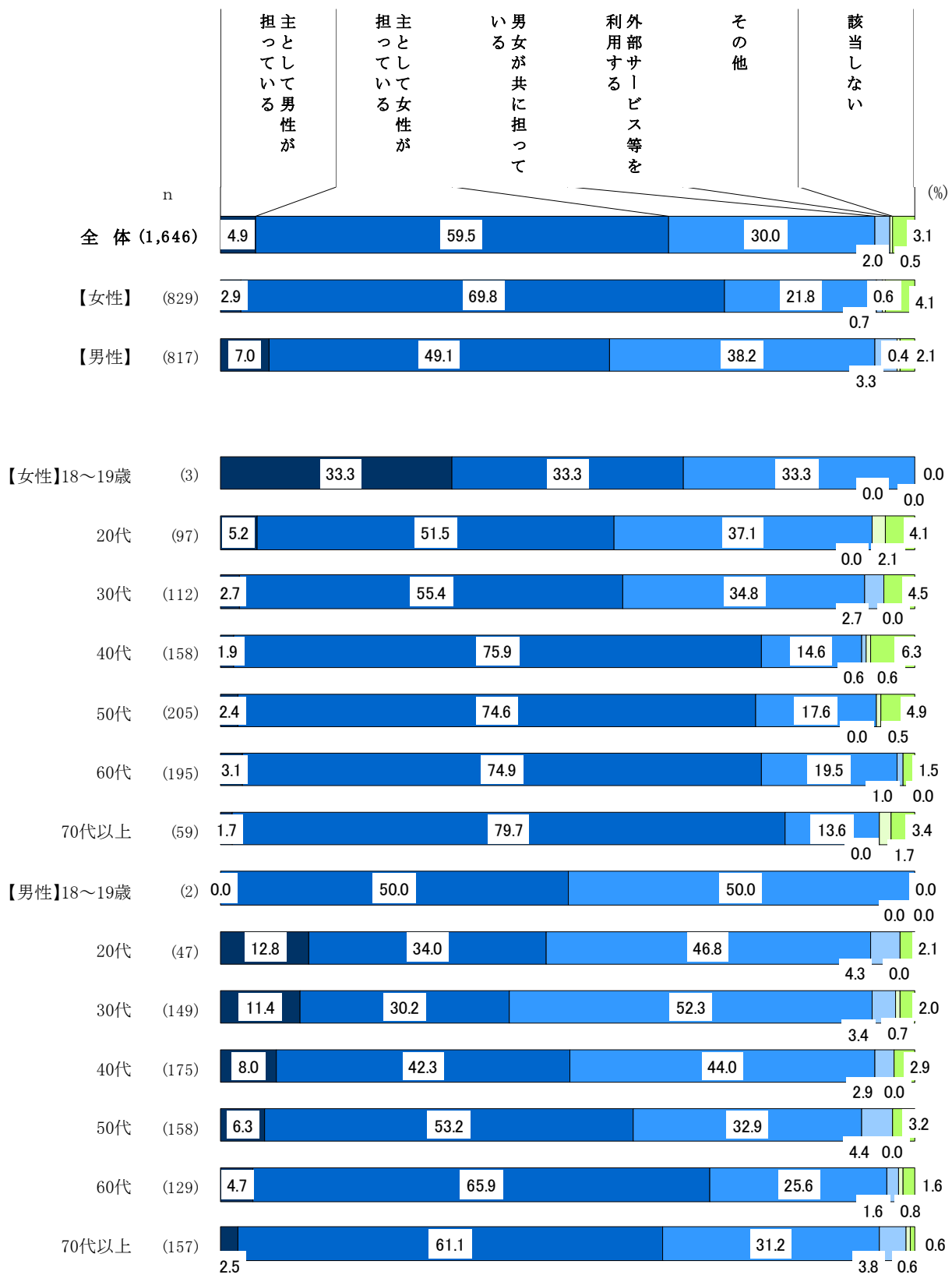
問15 ①家事をどう担っているか

- 「主として女性」が女性約7割、男性約5割
- 男性は若い年代ほど「男女がともに」が高い傾向

男女とも「主として女性が担っている」（女性69.8%、男性49.1%）が最も高く、女性が男性より20.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男性20代・30代・40代を除くすべての年代で「主として女性が担っている」が最も高く、男性20代・30代・40代は「男女が共に担っている」が最も高くなっている。「男女が共に担っている」は、すべての年代で男性が女性より高くなっており、特に男性30代（52.3%）で最も高くなっている。男女差は「主として女性が担っている」で40代（女性75.9%、男性42.3%）が33.6ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

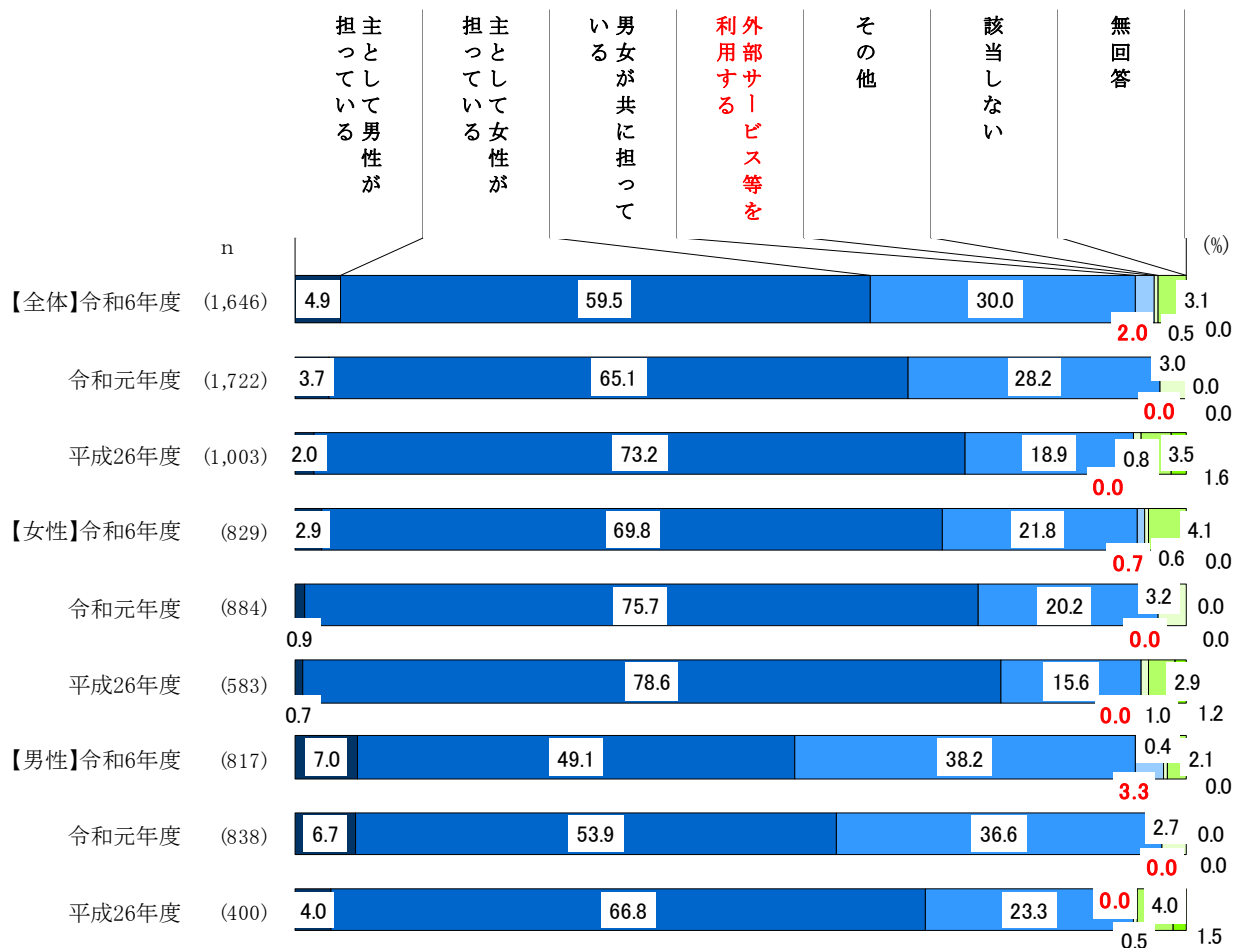
【問15 ①家事をどう担っているか】



◇経年変化

- 男女ともに「男女が共に」は前回と同程度
- 男女ともに「主として女性」が前回より低い

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担っている」は、令和元年度（女性20.2%、男性36.6%）より女性は1.6ポイント、男性は1.6ポイントと増加傾向となっている。一方で、「主として女性が担っている」は、令和元年度（女性75.7%、男性53.9%）より女性は5.9ポイント、男性は4.8ポイントそれぞれ低くなっている。



※新規調査項目（赤色）：「外部サービス等を利用する」

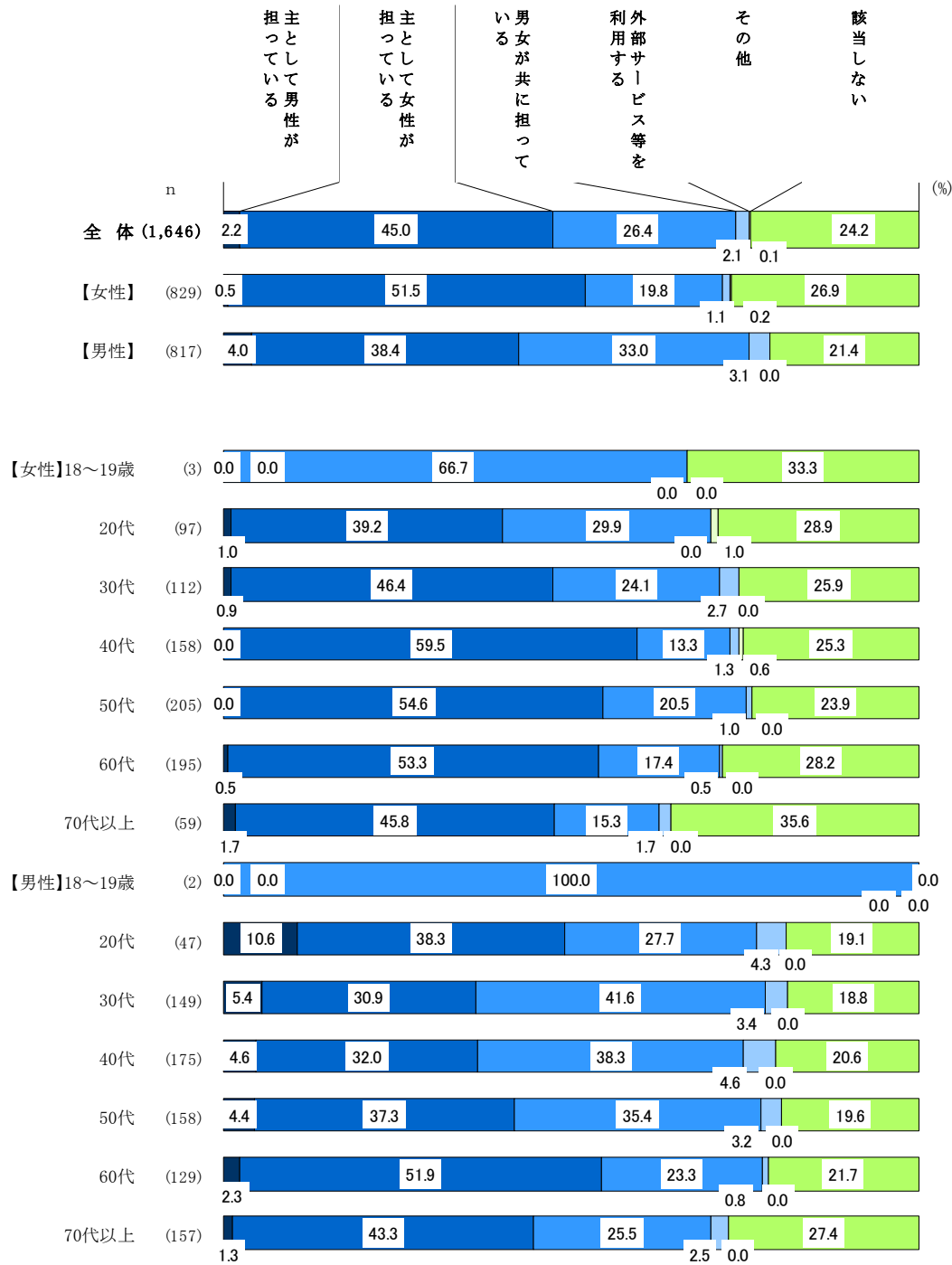
問 15 ②育児・子育てをどう担っているか

- 「主として女性」は女性5割以上、男性約4割
- 「男女が共に」は男性30代・40代で高い

男女とも「主として女性が担っている」（女性51.5%、男性38.4%）が最も高く、女性が男性より13.1ポイント高くなっている。

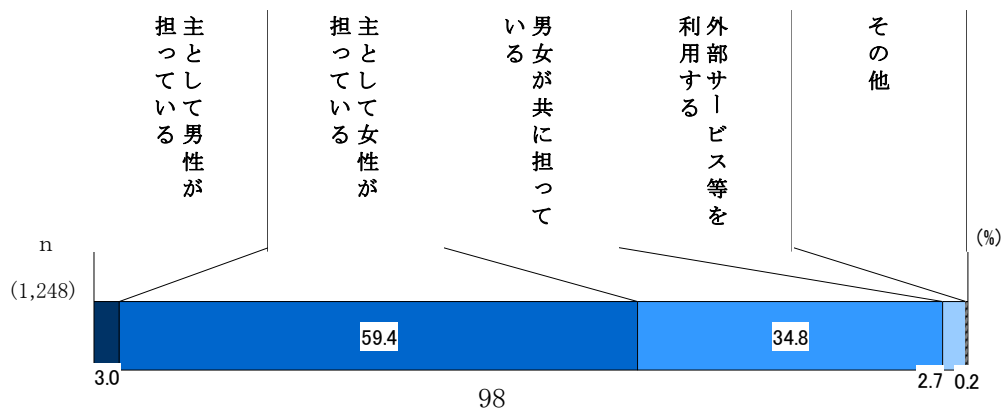
性・年代別で見ると、男性30代・40代を除くすべての年代で「主として女性が担っている」が最も高くなっており、男性30代・40代では「男女が共に担っている」（30代41.6%、40代38.3%）が最も高く4割前後となっている。「主として女性が担っている」は、すべての年代で女性が男性より高く、男女差は40代（女性59.5%、男性32.0%）が27.5ポイントで最も大きくなっている。

【問15 ②育児・子育てをどう担っているか】



◇夫婦が同じくらい育児を分担する家庭の割合

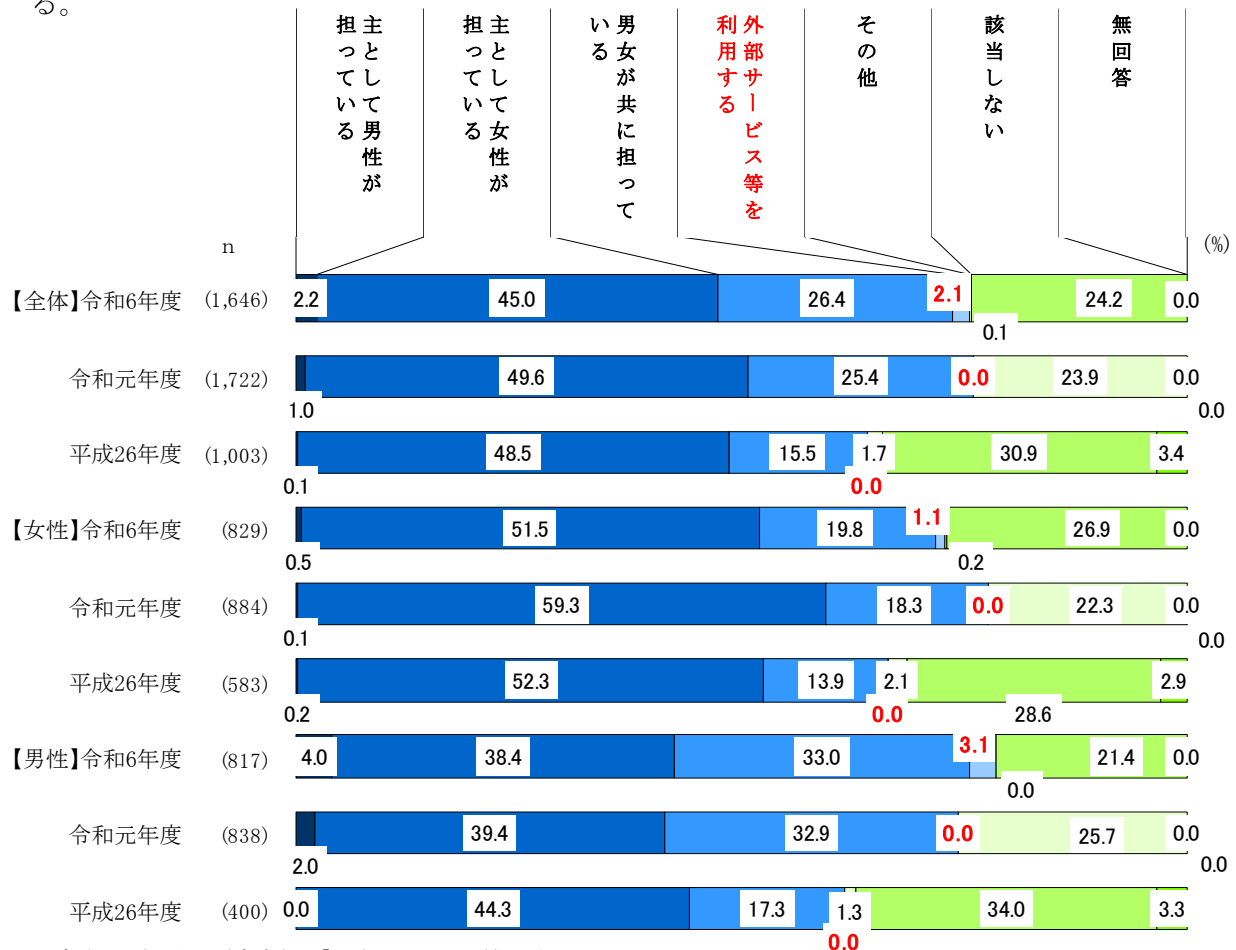
『育児・子育て』について、「該当しない」を除いた夫婦のみで見ると、「主として女性が担っている」(59.4%)が最も高く、次いで「男女が共に担っている」(34.8%)となっています。



◇経年変化

●男女ともに「男女が共に」は前回と同程度

経年変化を性別で見ると、「主として女性が担っている」は、令和元年度（女性59.3%、男性39.4%）より、女性は7.8ポイント、男性は1.0ポイント低くなっている。一方で、「男女が共に担っている」は、男女ともに前回と同程度となっており、令和元年度（女性18.3%、男性32.9%）より女性は1.5ポイント、男性は0.1ポイントそれぞれ高くなっている。



※新規調査項目（赤色）：「外部サービス等を利用する」

問15 ③看護・介護をどう担っているか

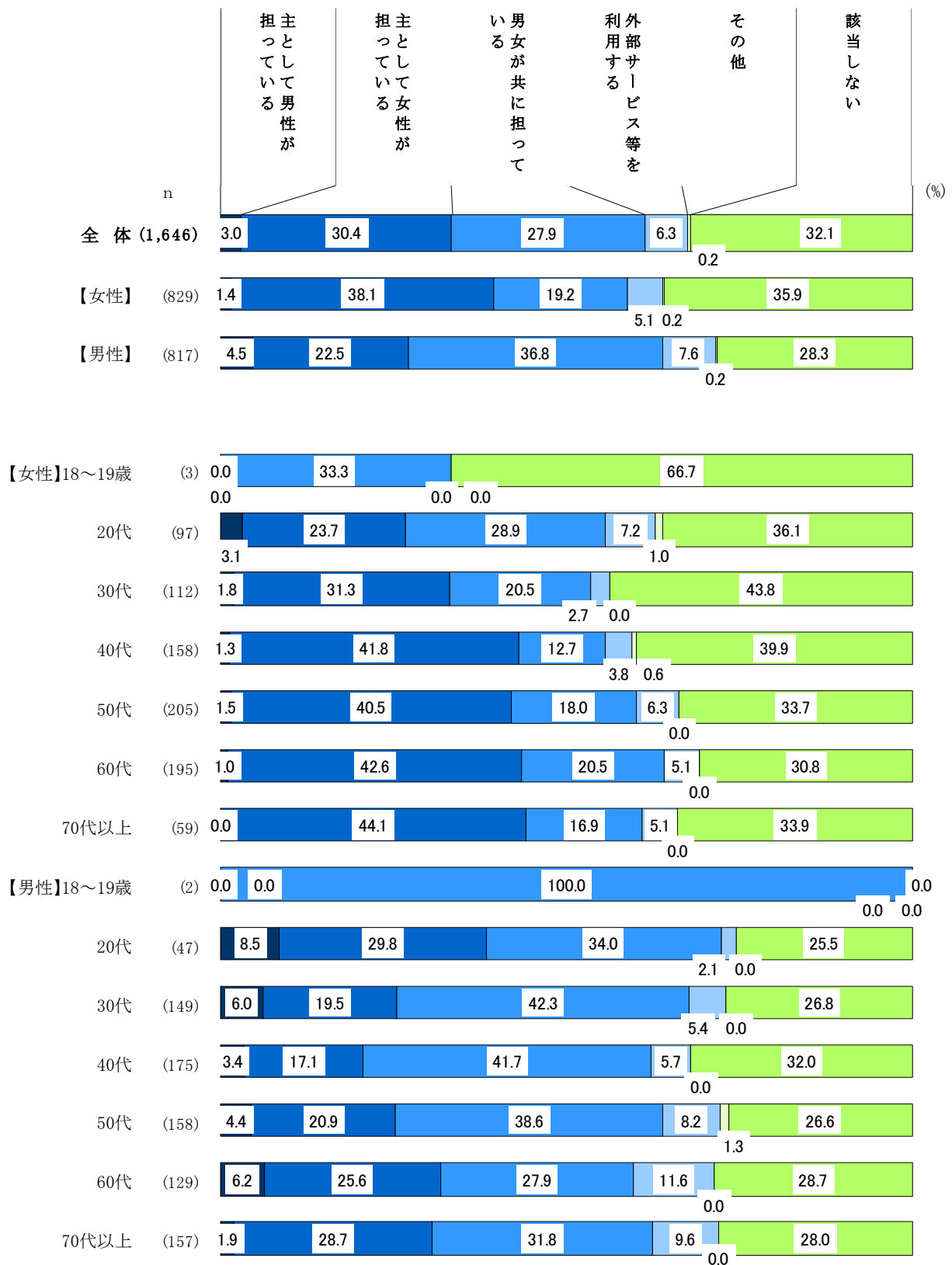
●「主として女性」は女性が高く、「男女が共に」は男性が高い

●「外部サービス等を利用する」は女性60代で比較的高い

女性で「主として女性が担っている」（38.1%）、男性で「男女が共に担っている」（36.8%）が最も高くなっている。「男女が共に担っている」は、男性が女性（19.2%）より17.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性は20代を除きすべての年代で「主として女性が担っている」、男性はすべての年代で「男女が共に担っている」が最も高くなっている。女性20代は「男女が共に担っている」（28.9%）が約3割で最も高い。男女差は「男女が共に担っている」で40代（女性12.7%、男性41.7%）が29.0ポイントで最も大きくなっている。また、女性60代で「外部サービス等を利用する」（11.6%）が1割以上と比較的高くなっている。

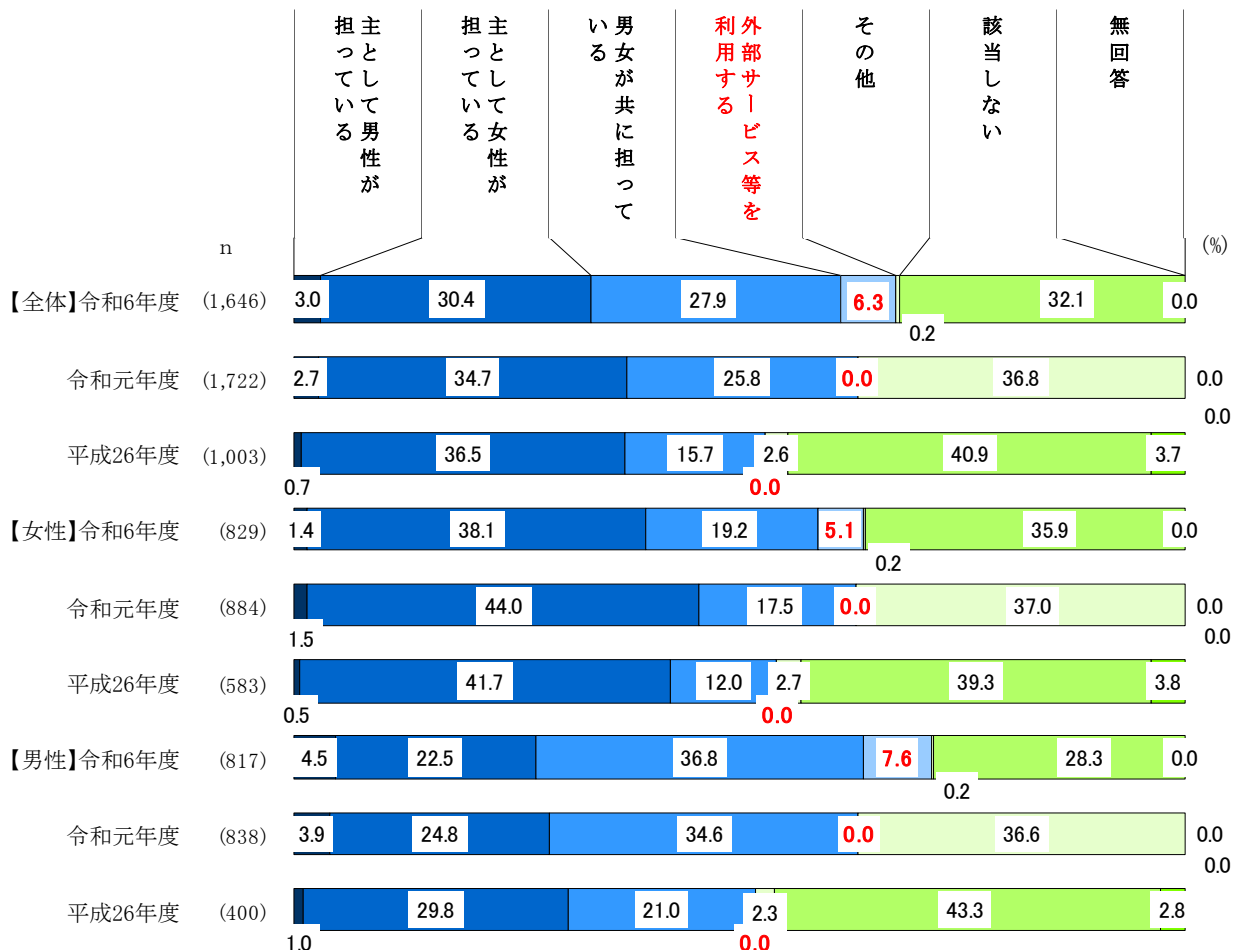
【問15 ③看護・介護をどう担っているか】



◇経年変化

●男女ともに「男女が共に」が前回と同程度

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担うべき」は、前回と同程度となっており、令和元年度（女性17.5%、男性34.6%）より女性は1.7ポイント、男性は2.2ポイントそれぞれ高くなっている。



※新規調査項目（赤色）：「外部サービス等を利用する」

問15 ④学校行事などへの参加をどう担っているか

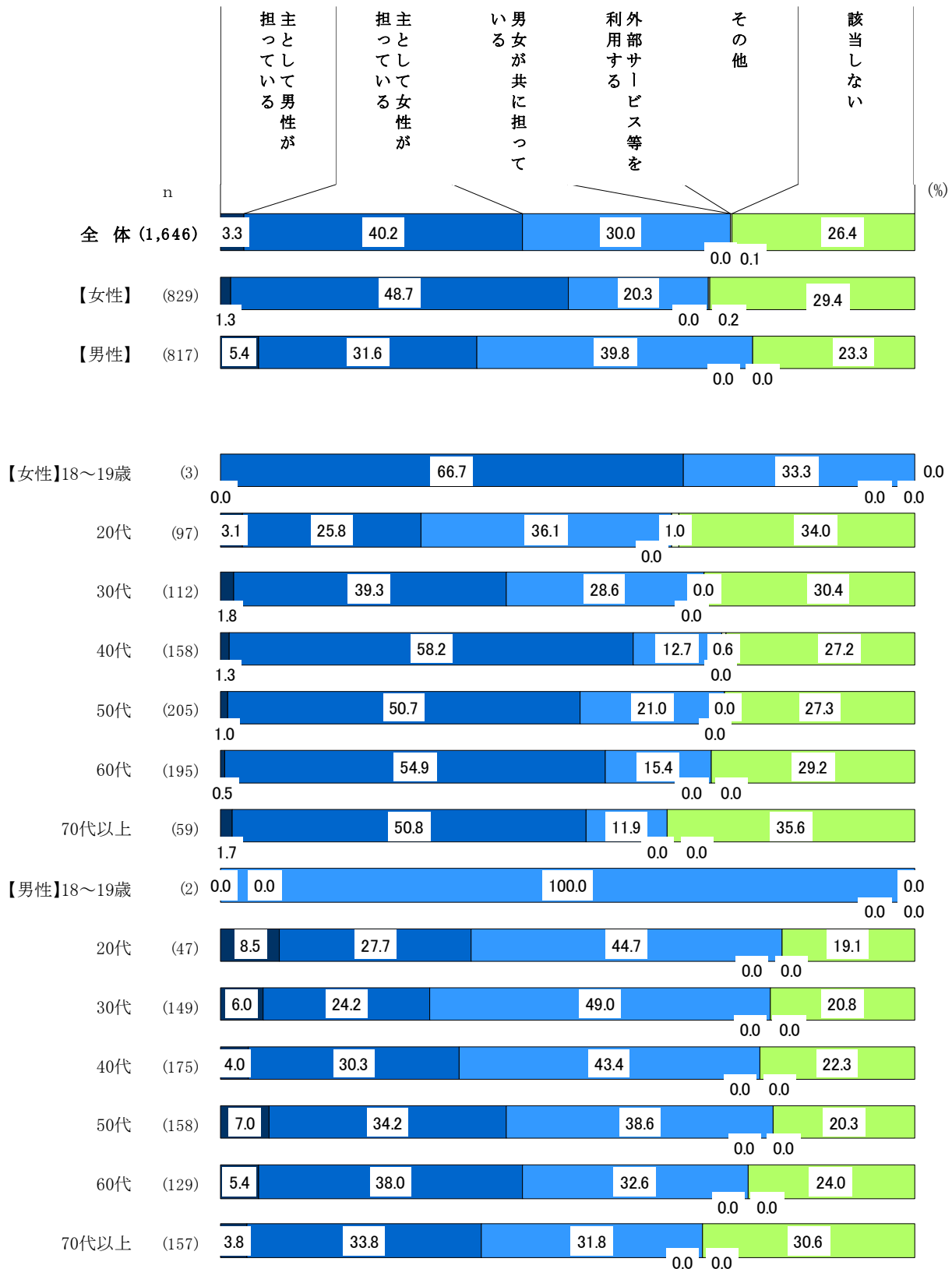
●「男女が共に」が女性2割、男性約4割

●「主として女性」は女性約5割

女性は「主として女性が担っている」（48.7%）、男性は「男女が共に担っている」（39.8%）が最も高くなっており、「主として女性が担っている」は女性が男性（31.6%）より17.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性は20代を除くすべての年代で「主として女性が担っている」が最も高く、男性は60代・70代以上を除くすべての年代で「男女が共に担っている」が最も高くなっている。女性20代は「男女が共に担っている」が最も高くなっており、男性60代・70代以上は「主として女性が担っている」が最も高くなっている。特に女性40代では「主として女性が担っている」（58.2%）が約6割と高くなっている。

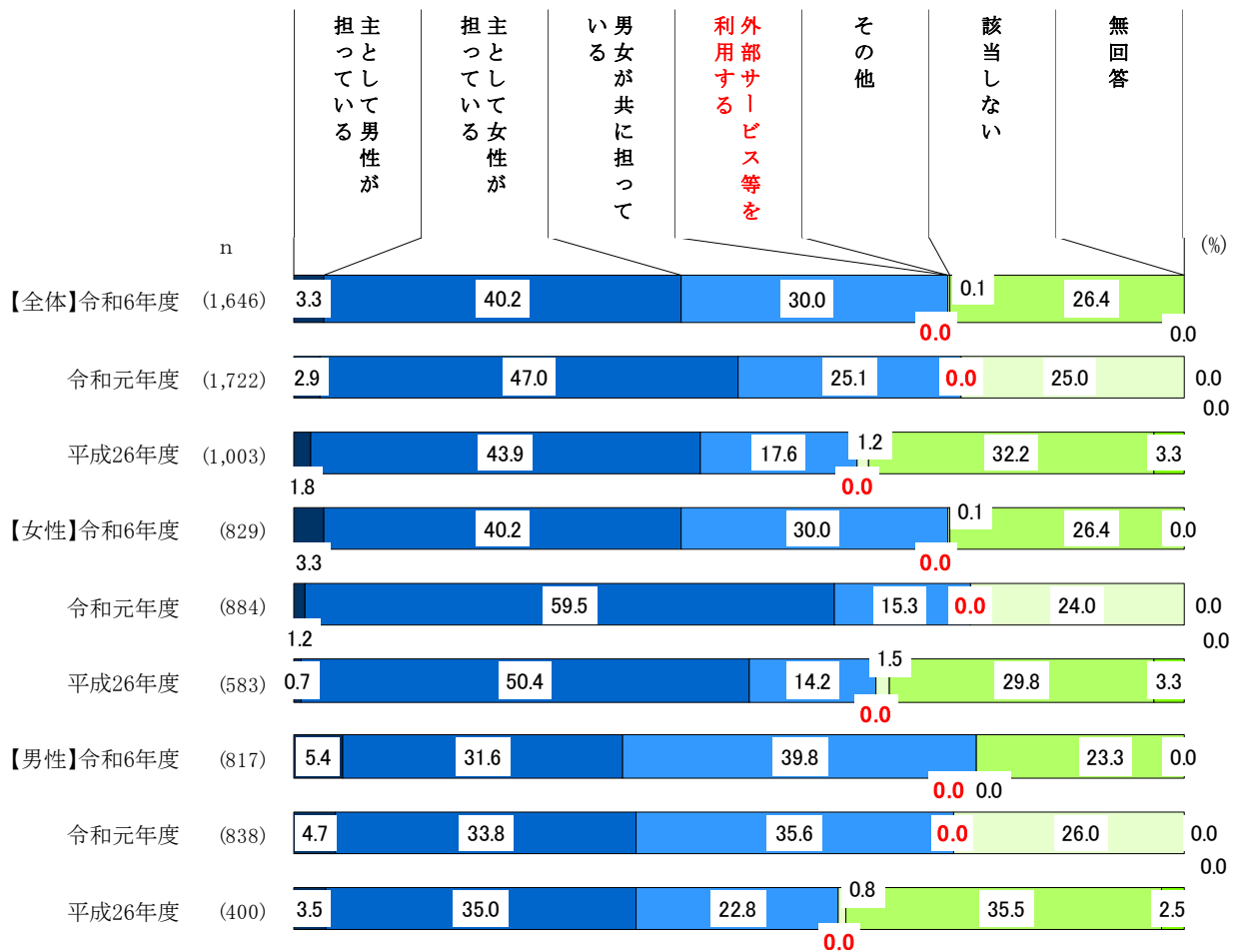
【問15 ④学校行事などへの参加をどう担っているか】



◇経年変化

●女性は「男女が共に」が大きく上昇

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担っている」は、令和元年度（女性15.3%、男性35.6%）より女性で14.7ポイント、男性で4.2ポイント高くなっている。



※新規調査項目（赤色）：「外部サービス等を利用する」

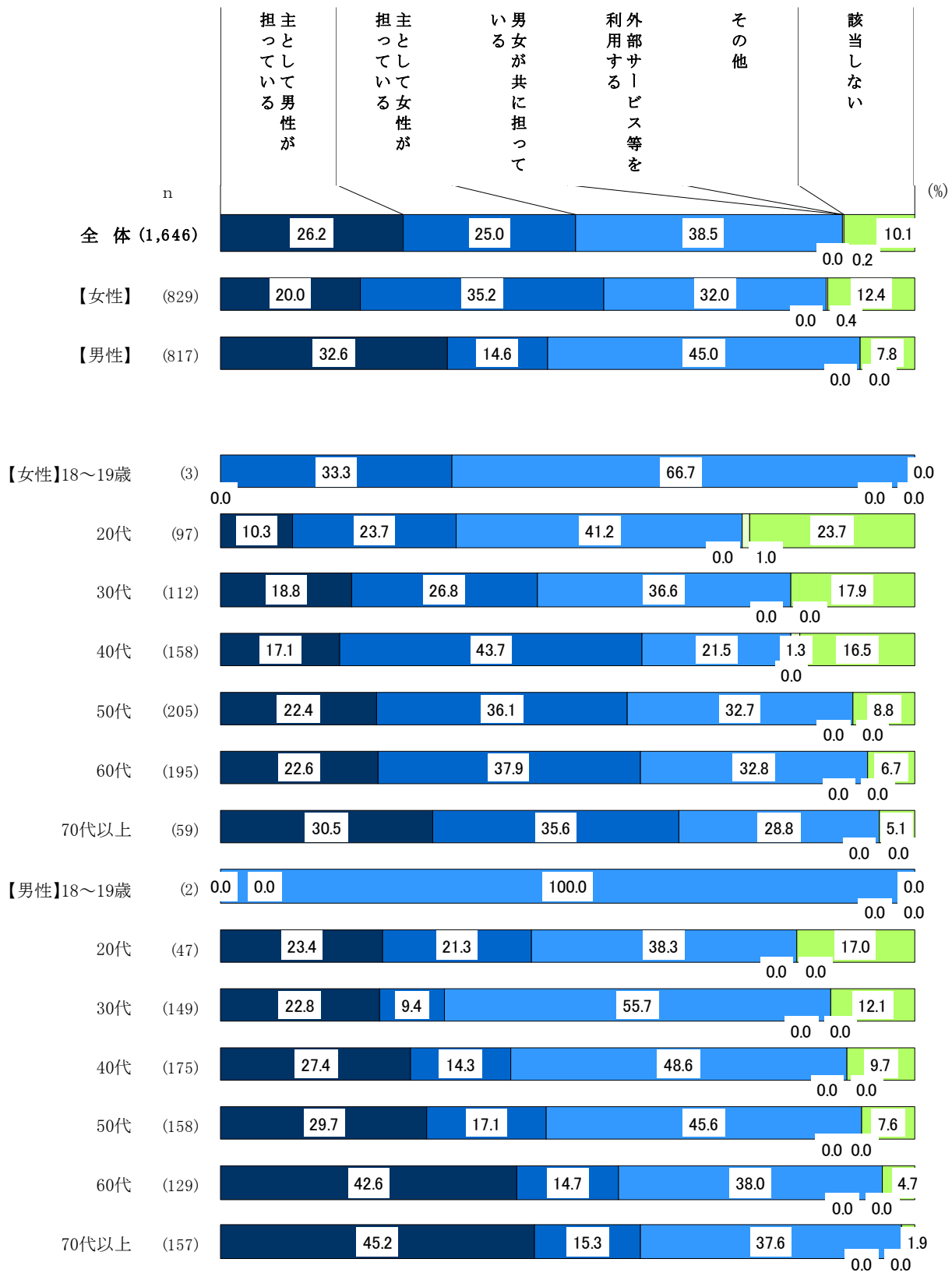
問15 ⑤自治会などの地域活動をどう担っているか

●女性は「主として女性」が約4割、男性は「男女が共に」が約5割で最も高い

女性は「主として女性が担っている」（35.2%）、男性は「男女が共に担っている」（45.0%）が最も高くなっており、「主として女性が担っている」は女性が男性（14.6%）より20.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性は20代・30代を除くすべての年代で「主として女性が担っている」が最も高く、男性は60代・70代以上を除くすべての年代で「男女が共に担っている」が最も高くなっている。女性20代・30代は「男女が共に担っている」が最も高くなっており、男性60代・70代以上は「主として男性が担っている」が最も高くなっている。特に男性70代以上では「主として男性が担っている」（45.2%）が約5割と高くなっている。

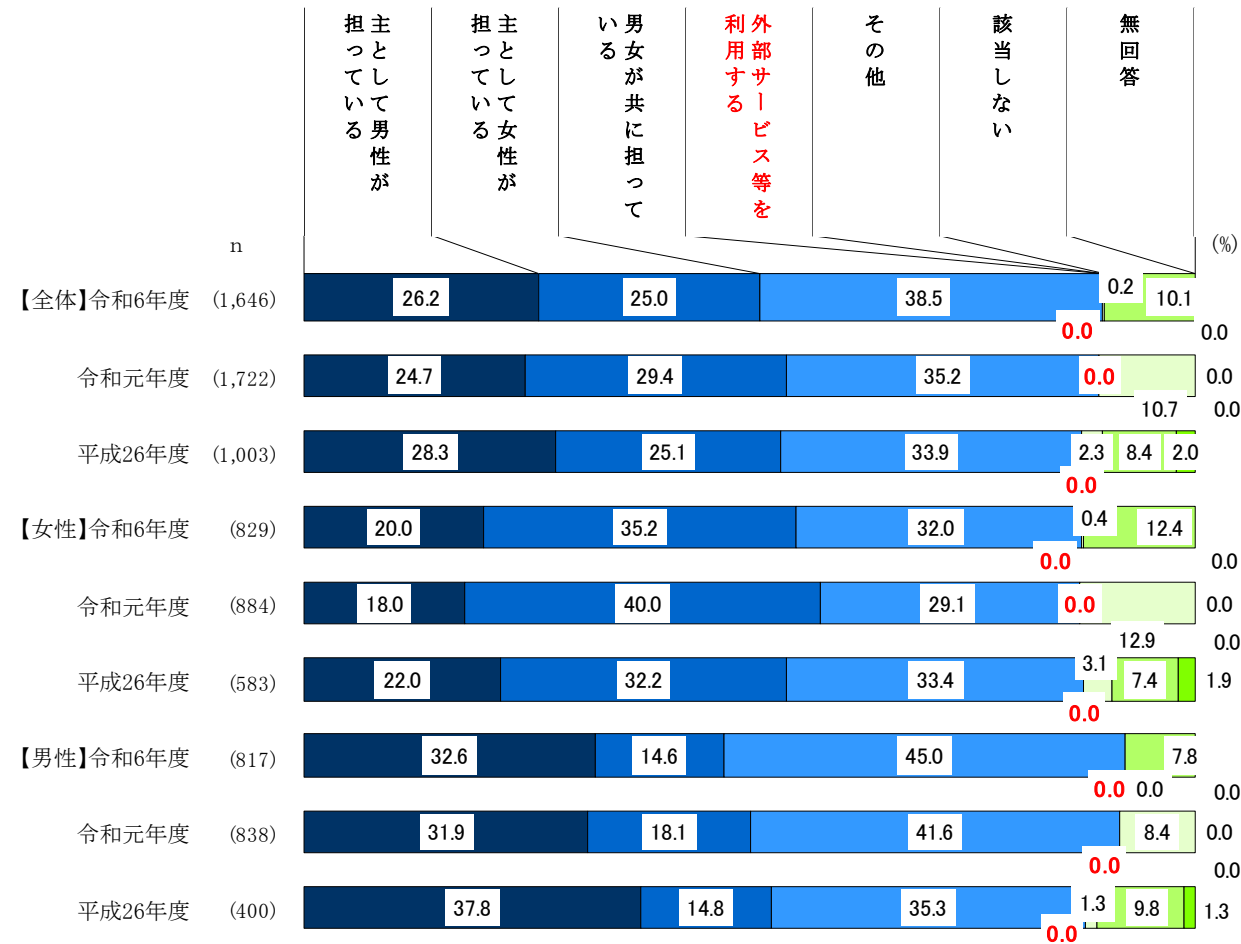
【問15 ⑤自治会などの地域活動をどう担っているか】



◇経年変化

●男女ともに「男女が共に」が上昇

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担っている」は、女性は令和元年度（29.1%）より2.9ポイント、男性は令和元年度（41.6%）より3.4ポイント高くなっている。



※新規調査項目（赤色）：「外部サービス等を利用する」

問15 ⑥家計の管理をどう担っているか

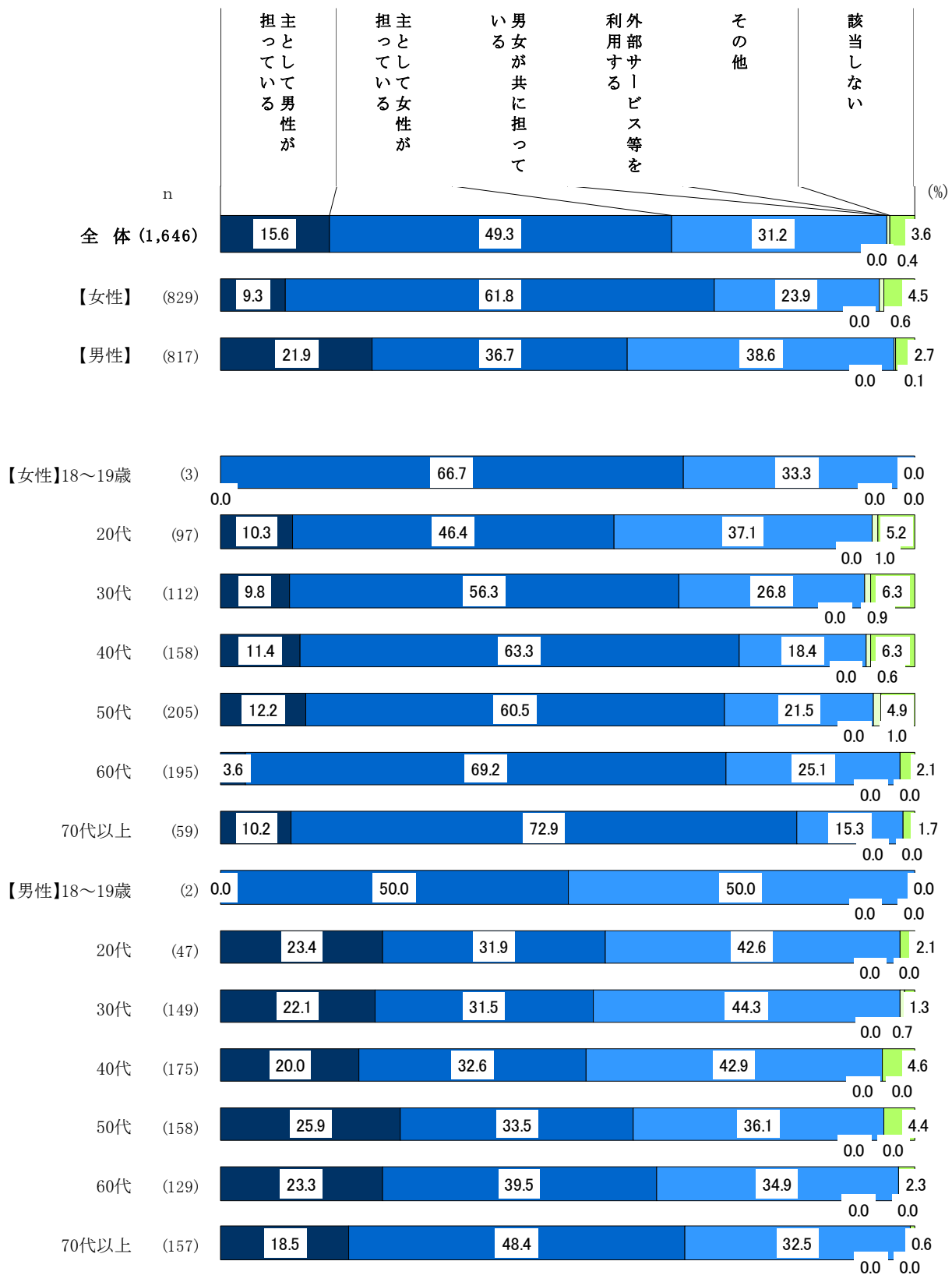
.....

- 「男女が共に」が女性2割以上、男性約4割
- 「主として女性が担っている」は40代で男女差が特に大きい

女性は「主として女性が担っている」（61.8%）、男性は「男女が共に担っている」（38.6%）が最も高くなっている。「主として女性が担っている」は、女性が男性（36.7%）より25.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性はすべての年代で「主として女性が担っている」が最も高くなっており、特に70代以上（72.9%）で7割以上と高く、男女差は40代（女性63.3%、男性32.6%）が30.7ポイントで最も大きくなっている。

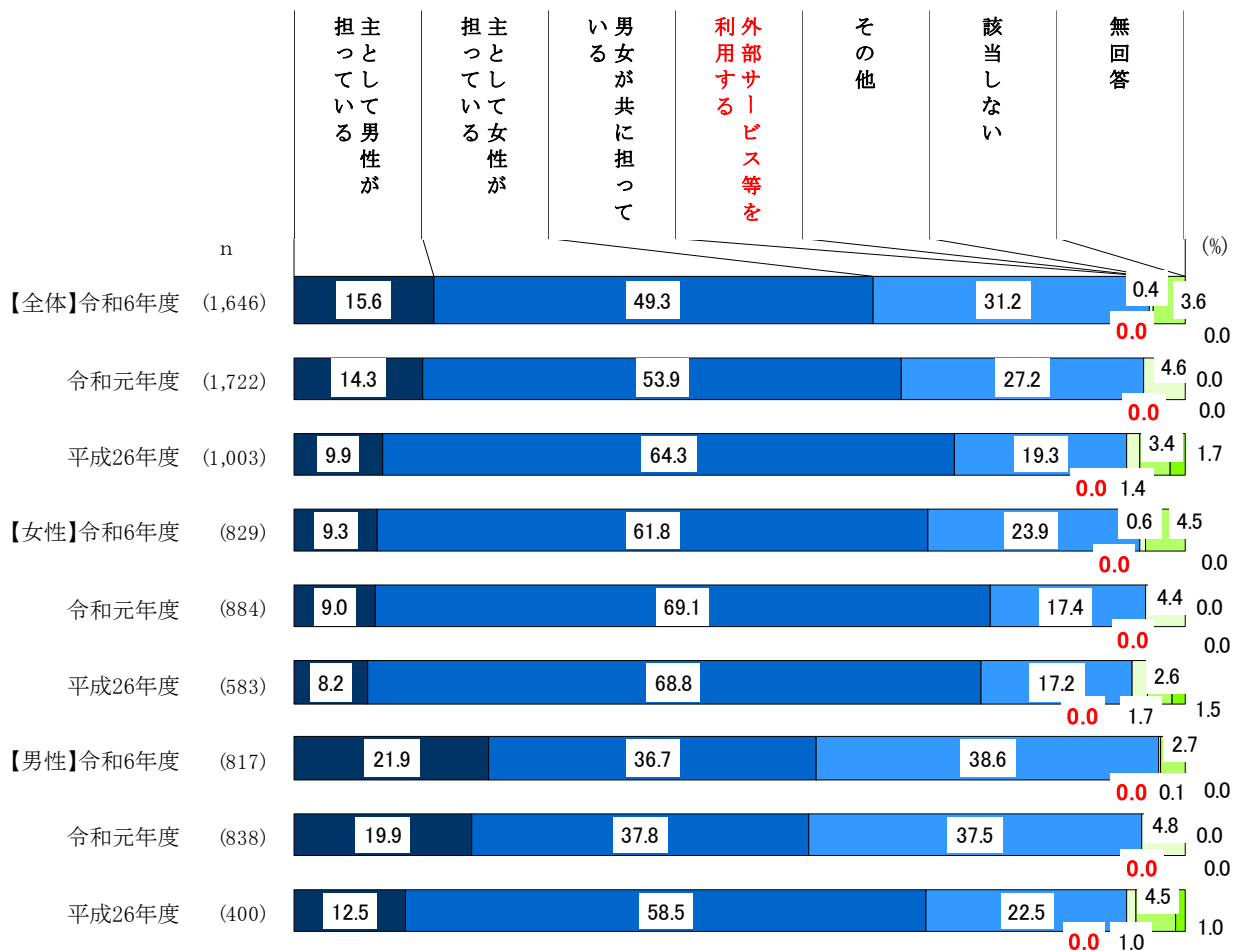
【問15 ⑥家計の管理をどう担っているか】



◇経年変化

●男女ともに「男女が共に」が上昇、「主として女性」が低下

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担っている」は、女性は令和元年度（17.4%）より6.5ポイント、男性で令和元年度（37.5%）より1.1ポイント高くなっている。



※新規調査項目（赤色）：「外部サービス等を利用する」

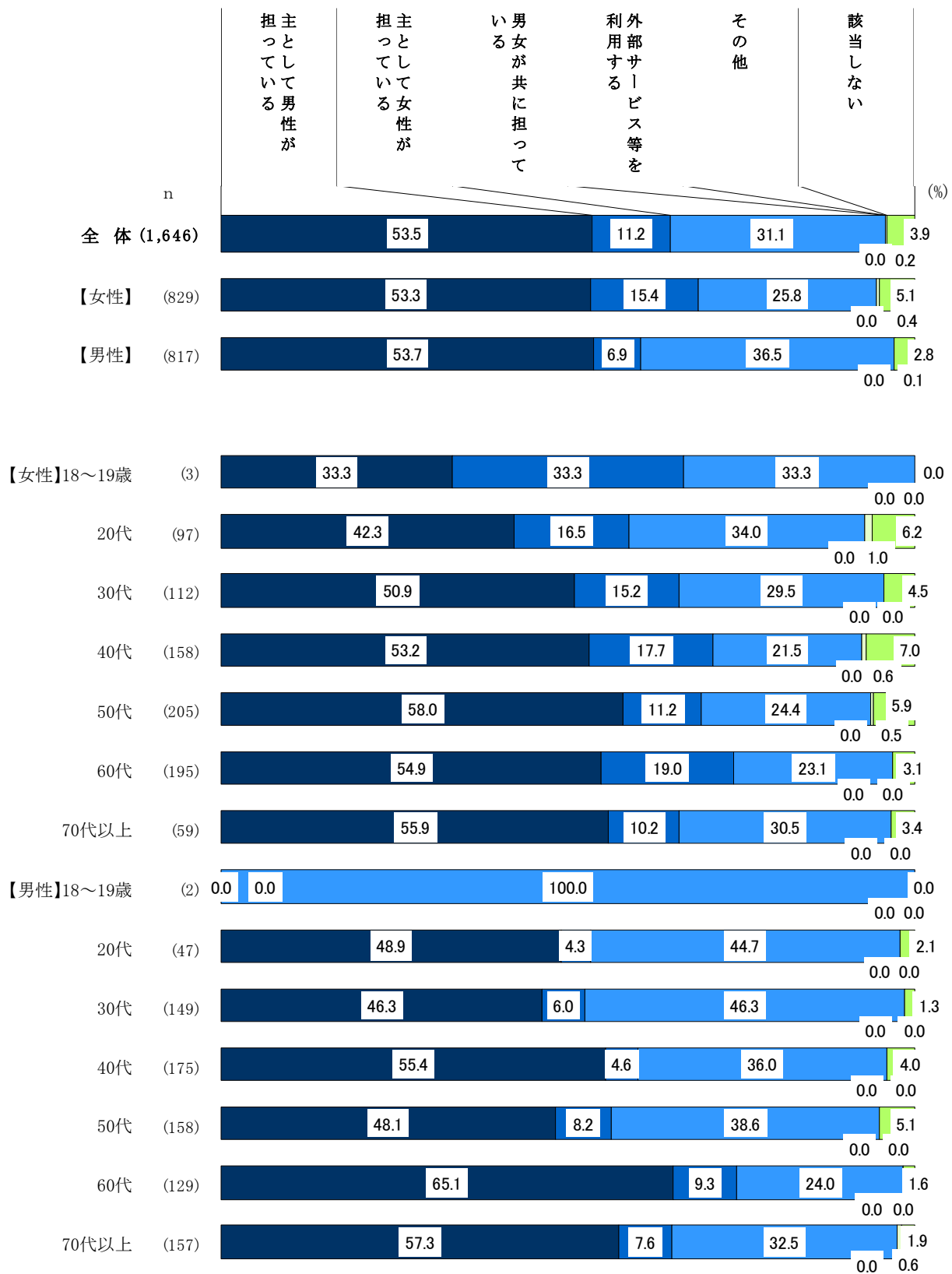
問15 ⑦主たる収入をどう担っているか

- 「主として男性」が男女ともに5割以上
- 「男女が共に」はすべての年代で男性が女性より高い

男女とも「主として男性が担っている」（女性53.3%、男性53.7%）が最も高く、大きな差は見られない。「男女が共に担っている」（女性25.8%、男性36.5%）は男性が女性より10.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「主として男性が担っている」が最も高く、女性は50代（58.0%）、男性は60代（65.1%）で最も高くなっている。「男女が共に担っている」はすべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差を見ると、30代（女性29.5%、男性46.3%）が16.8ポイントで最も大きくなっている。

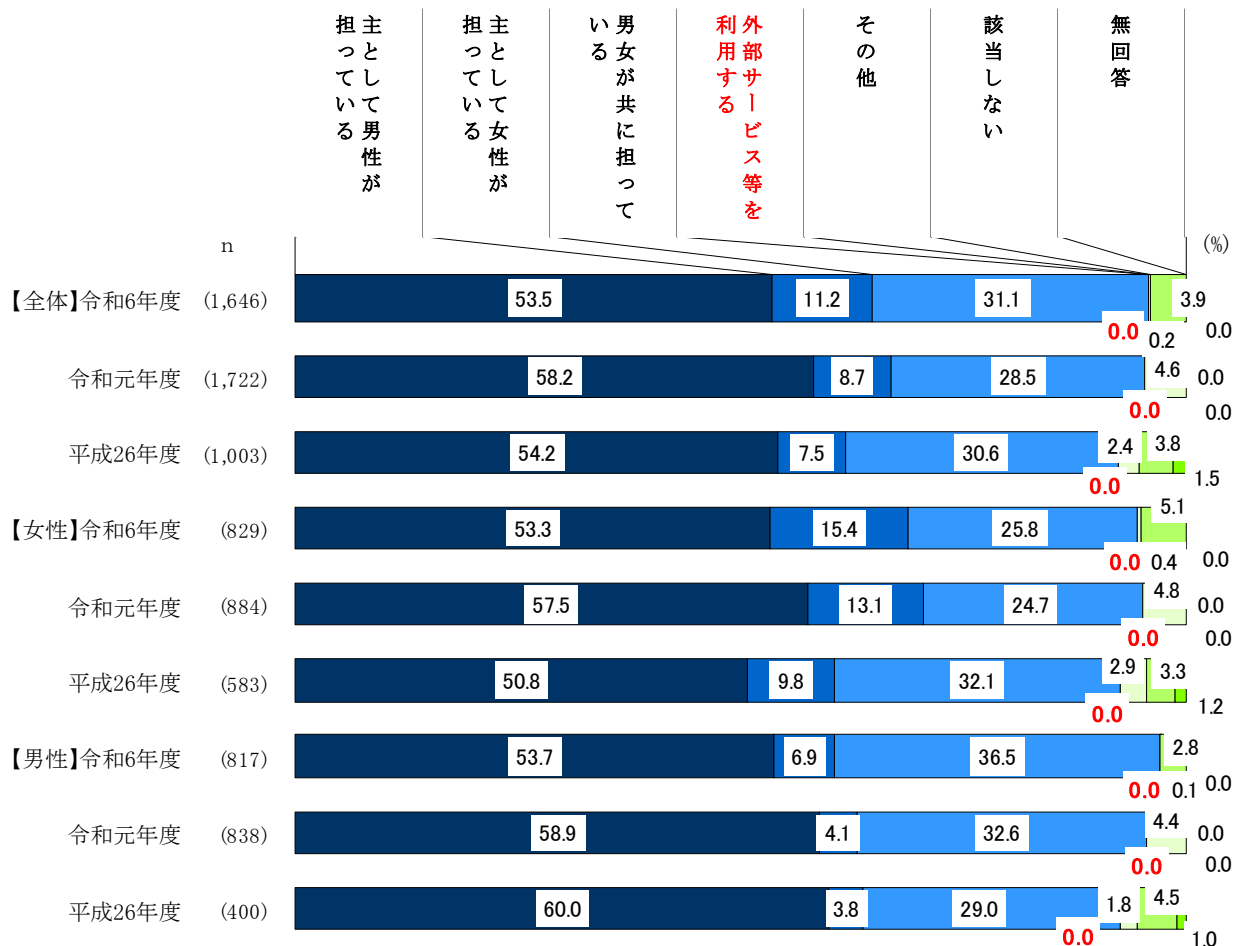
【問15 ⑦主たる収入をどう担っているか】



◇経年比較

●男女ともに「男女が共に」が上昇

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担っている」は、女性で令和元年度（24.7%）より1.1ポイント、男性で令和元年度（32.6%）より3.9ポイント高くなっている。



※新規調査項目（赤色）：「外部サービス等を利用する」

(6) 男性の育児休業取得への意識

問16-1 あなたは、子の出産・育児に係る男性の休暇取得（育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等）についてどう思いますか。（1つに○）

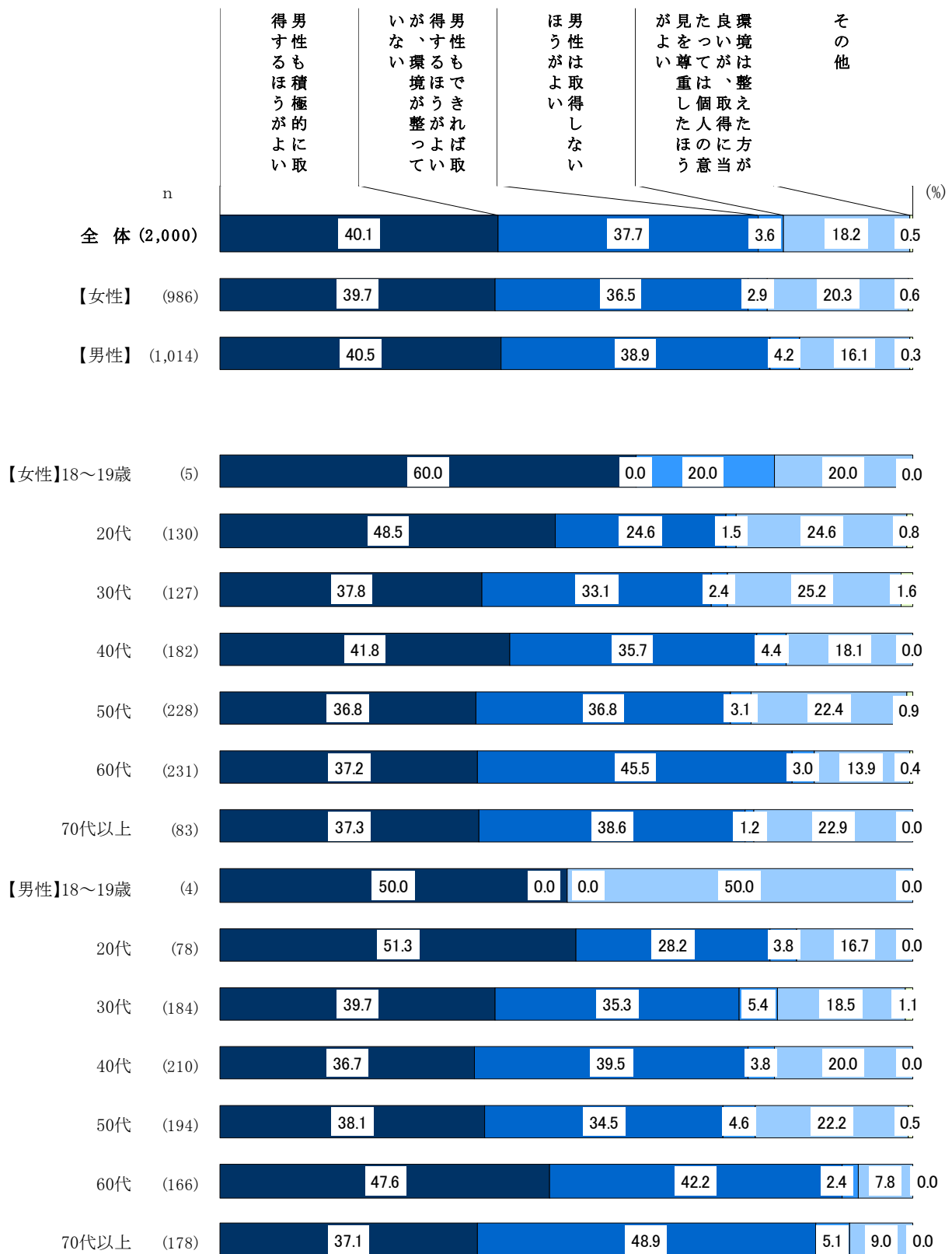
●男女とも「積極的に取得」が4割前後、「環境が整っていない」が約4割

●男性20代で「積極的に取得」が過半数を占める

全体、男女とも「男性も積極的に取得するほうがよい」（全体40.1%、女性39.7%、男性40.5%）が4割前後で最も高く、次いで「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」（全体37.7%、女性36.5%、男性38.9%）が約4割となっている。

性・年代別で見ると、女性60代・70代以上と男性40代・70代以上を除くすべての年代で「男性も積極的に取得するほうがよい」が最も高くなっており、特に男性20代（51.3%）が過半数を占めている。女性60代・70代以上と男性40代・70代以上では「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」が最も高くなっている。

【問16-1】

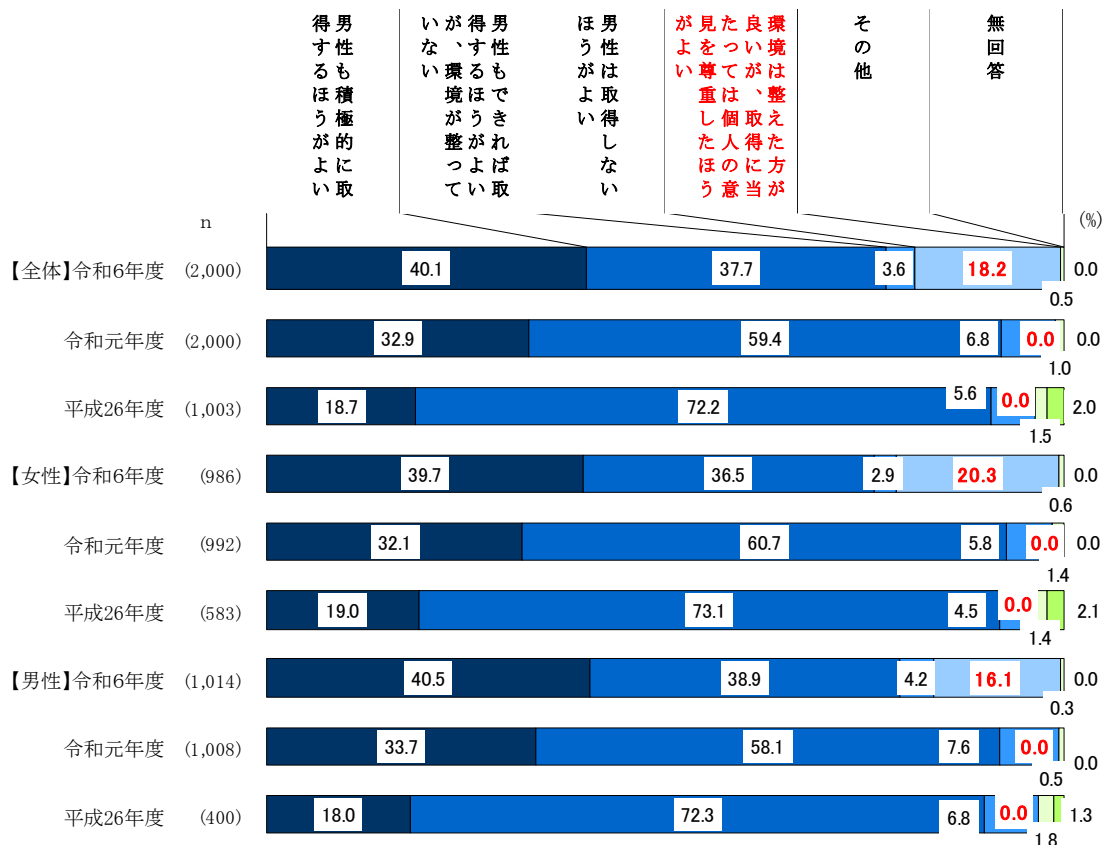


※新規調査項目：「環境は整えた方がいいが、取得に当たっては個人の意見を尊重した方がいい」

◇経年変化

●「積極的に取得」は男女とも前回より高い

経年変化を性別で見ると、「男性も積極的に取得するほうがよい」は、令和元年度（全体32.9%、女性32.1%、男性33.7%）より全体は7.2ポイント、女性は7.6ポイント、男性は6.8ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」は、令和元年度（全体59.4%、女性60.7%、男性58.1%）より全体は21.7ポイント、女性は24.2ポイント、男性は19.2ポイントそれぞれ低くなっている。



※新規調査項目（赤色）：「環境は整えた方がよいが、取得に当たっては個人の意見を尊重したほうがよい」

(7) 男性が育児休業を取得しない理由

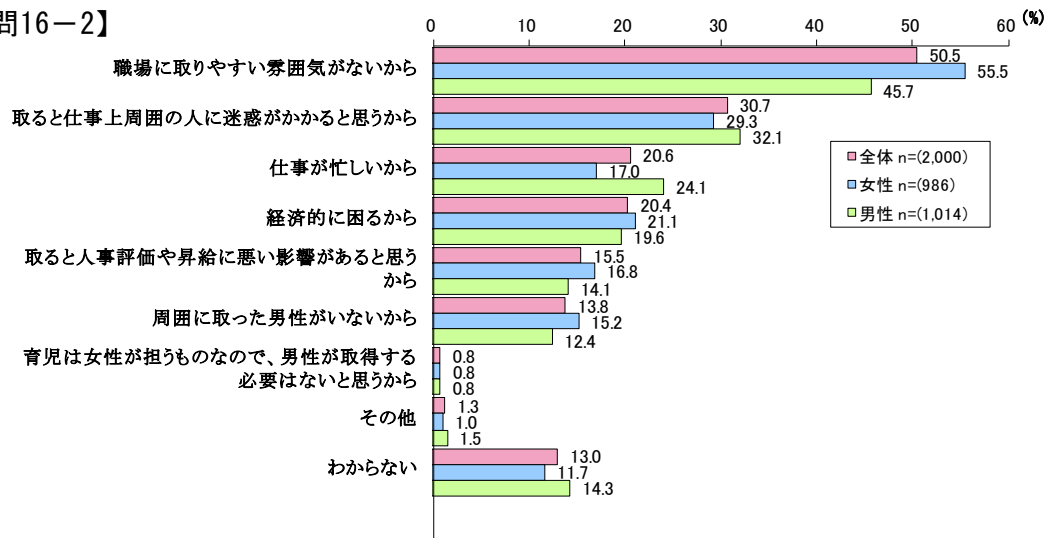
問16-2 あなたは、子の出産・育児に係る男性の休暇取得（育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等）しない（できない）理由は何だと思えますか。（2つまで選択可）

●男女とも「職場に取りやすい雰囲気がないから」が約5割

全体では「職場に取りやすい雰囲気がないから」（50.5%）が5割と特に高く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから」（30.7%）が3割となっている。

性別で見ると、男女ともに「職場に取りやすい雰囲気がないから」（女性55.5%、男性45.7%）が最も高く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」（女性29.3%、男性32.1%）が男女とも3割前後となっている。「職場に取りやすい雰囲気がないから」は女性が男性より9.8ポイント高くなっている。一方、「仕事が忙しいから」は男性（24.1%）が女性（17.0%）より7.1ポイント高くなっている。

【問16-2】



※「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから」「取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから」「育児は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから」は令和元年度調査から選択肢の文言を一部変更している。

◇性・年代別

●すべての年代で「職場に取りやすい雰囲気がない」が最も高い

性・年代別で見ると、男女ともにすべての年代で「職場に取りやすい雰囲気がないから」が最も高くなっている。次いで女性30代と男性20代・30代を除き「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから」が高くなっている。女性30代と男性20代・30代では「仕事が忙しいから」が次いで高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	127	182	228	231	83
職場に取りやすい雰囲気がないから	40.0	53.1	52.8	52.2	54.8	58.4	65.1
取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから	20.0	27.7	23.6	27.5	31.1	31.6	33.7
仕事が忙しいから	60.0	13.8	24.4	14.8	16.7	15.6	18.1
経済的に困るから	-	15.4	20.5	20.3	25.4	23.4	15.7
取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから	-	20.8	16.5	17.0	14.0	17.7	16.9
周囲に取った男性がいないから	20.0	16.2	16.5	16.5	14.9	13.9	13.3
育児は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから	-	0.8	-	1.6	0.4	1.3	-
その他	-	0.8	0.8	1.1	1.3	0.9	1.2
わからない	-	16.2	13.4	13.7	9.2	8.7	13.3

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

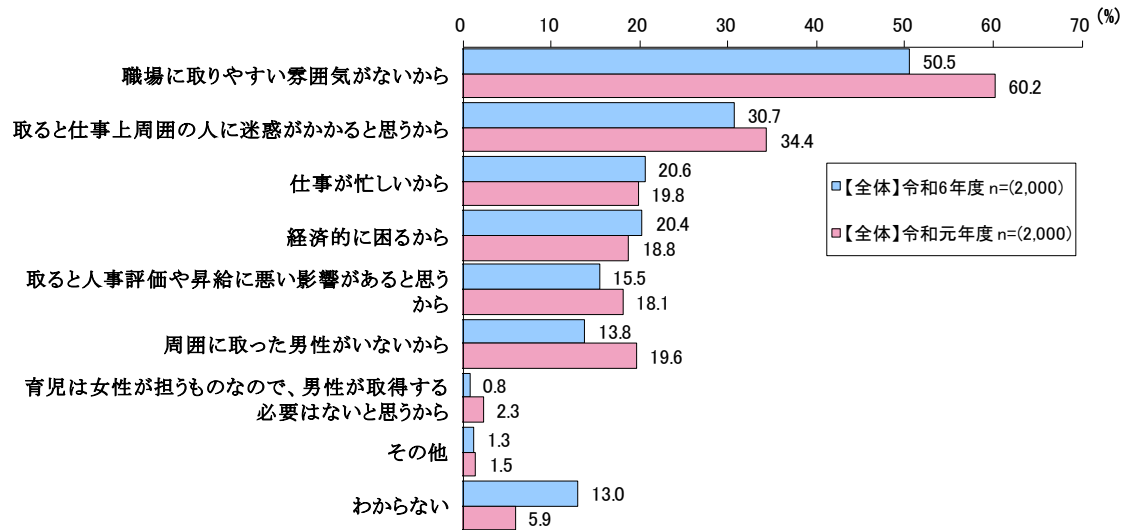
男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	78	184	210	194	166	178
職場に取りやすい雰囲気がないから	-	38.5	40.8	41.9	41.8	53.6	56.2
取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから	-	25.6	20.7	30.5	31.4	35.5	46.6
仕事が忙しいから	-	29.5	27.2	22.9	28.4	21.7	18.0
経済的に困るから	-	17.9	23.9	24.8	17.0	19.3	13.5
取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから	50.0	15.4	16.8	14.8	8.8	14.5	14.6
周囲に取った男性がいないから	-	16.7	15.2	15.7	13.4	9.6	5.6
育児は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから	-	-	0.5	-	1.0	1.8	1.1
その他	-	-	1.1	1.4	3.1	1.2	1.1
わからない	50.0	20.5	15.8	14.8	13.9	10.2	12.9

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

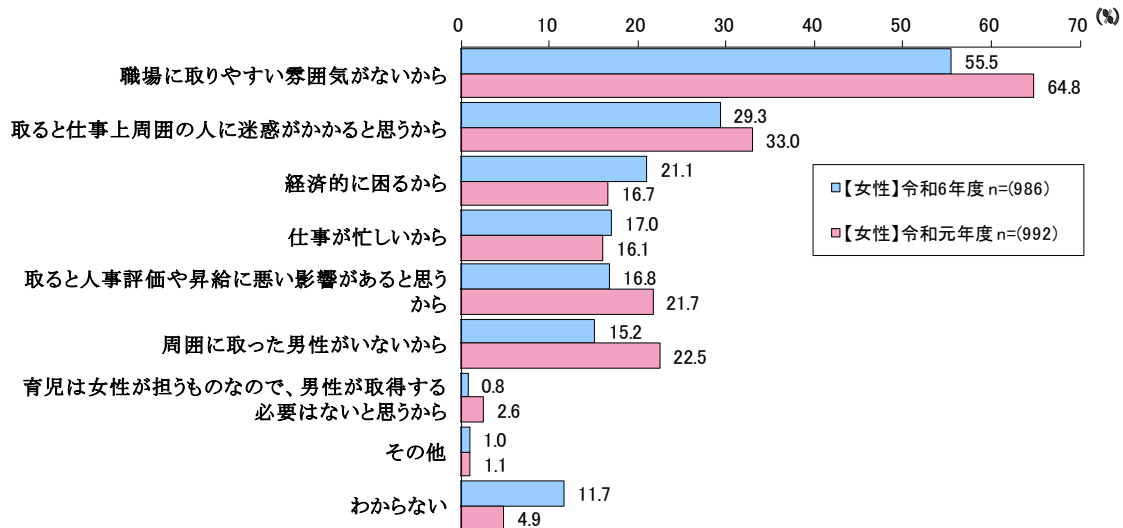
◇経年変化

●「職場に取りやすい雰囲気がない」は男女とも前回より低い

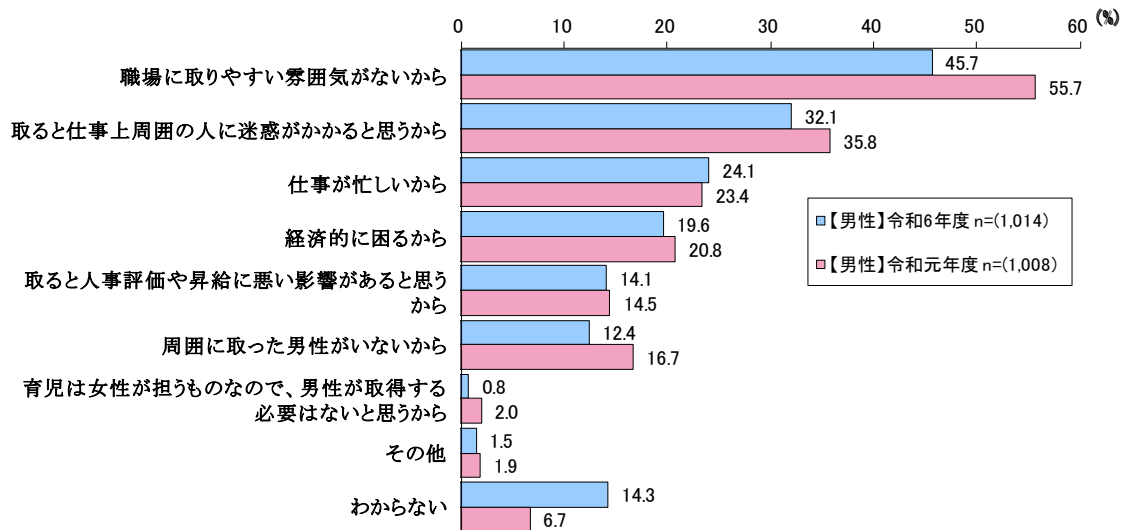
経年変化を性別で見ると、全体、男女ともに「職場に取りやすい雰囲気がないから」は、令和元年度（全体60.2%、女性64.8%、男性55.7%）より全体は9.7ポイント、女性は9.3ポイント、男性は10.0ポイントそれぞれ低くなっている。一方、「経済的に困るから」は、令和元年度（女性16.7%、男性20.8%）より女性は4.4ポイント高く、男性は1.2ポイント低くなっている。



【女性】



【男性】



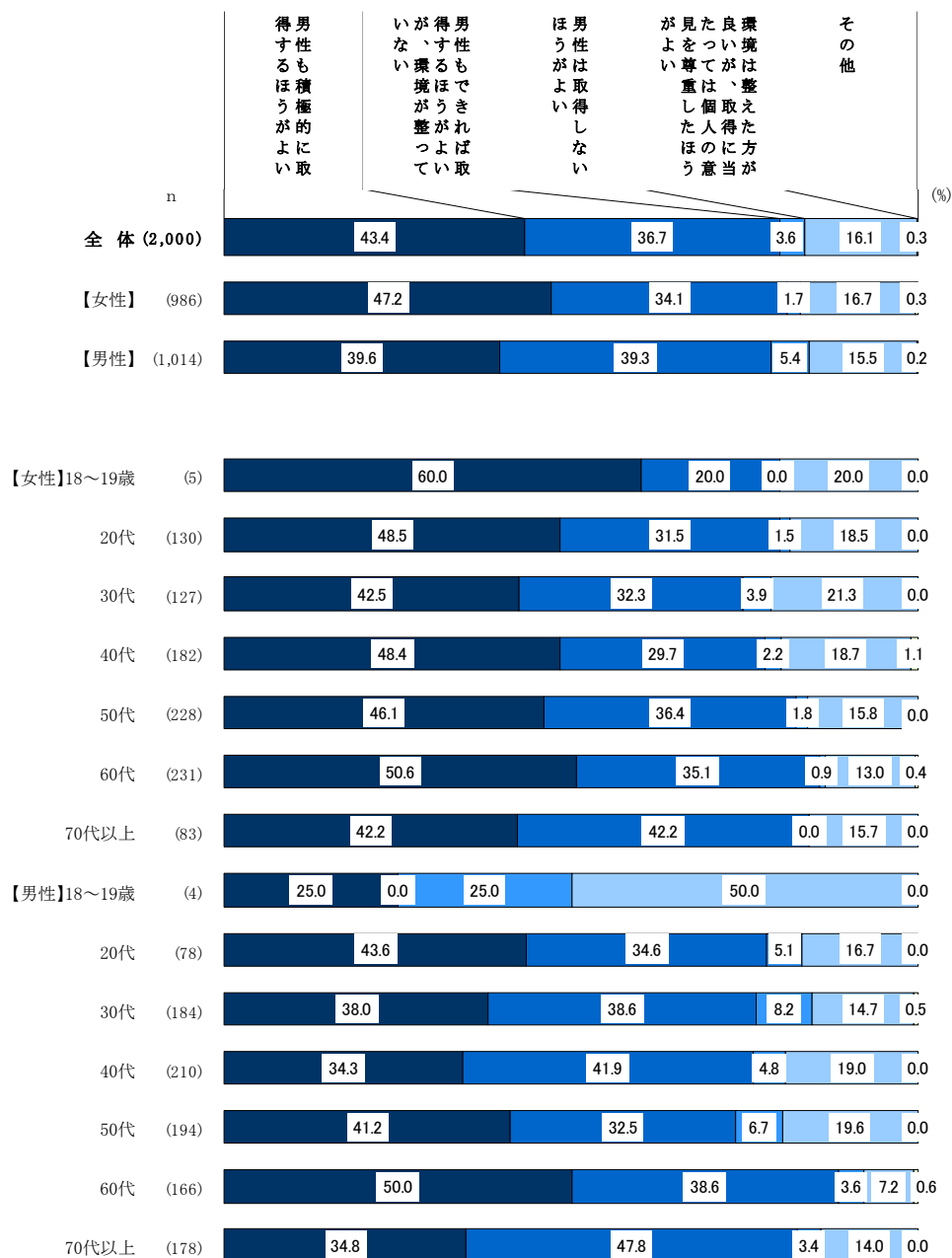
(8) 男性の介護休業取得への意識

問16-3 あなたは、男性の介護休業取得についてどう思いますか。(1つに○)

- 「積極的に取得」が女性約5割、男性約4割
- 「積極的に取得」は40代で男女差が特に大きい

全体、男女とも「男性も積極的に取得するほうがよい」(全体43.4%、女性47.2%、男性39.6%)が特に高く、次いで「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」(全体36.7%、女性34.1%、男性39.3%)となっている。

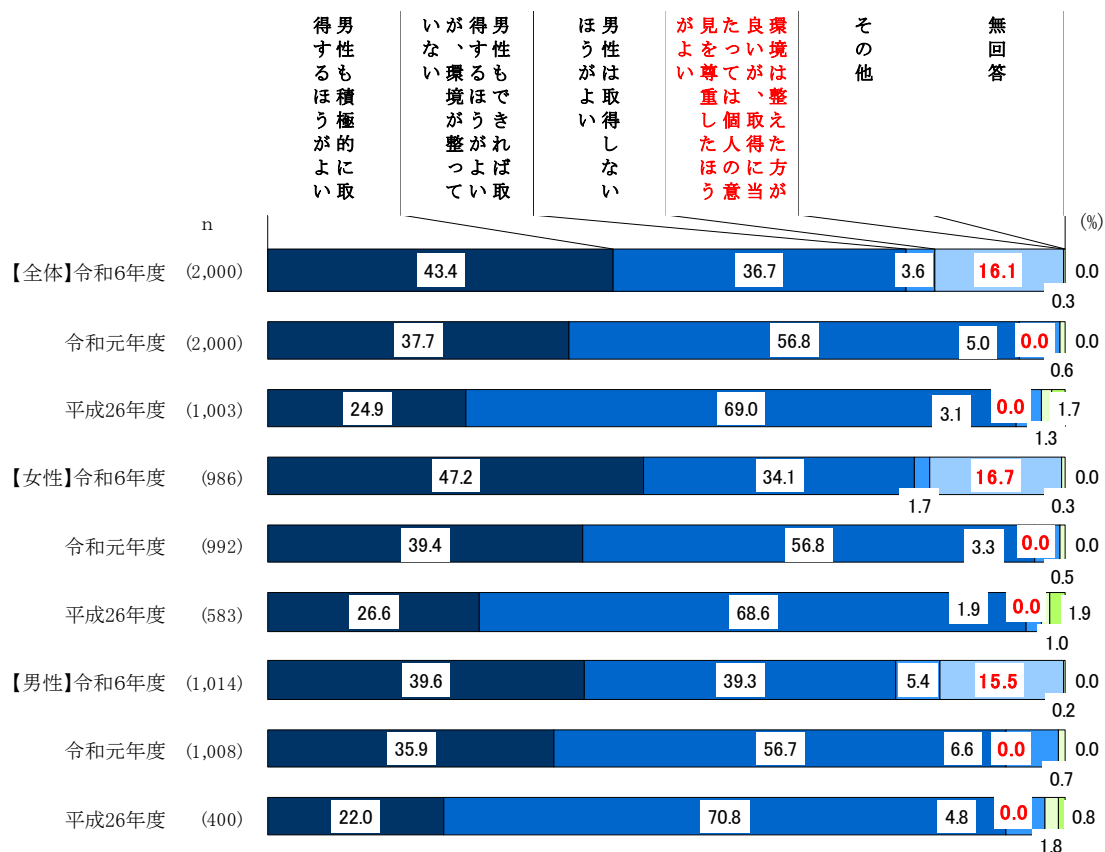
性・年代別で見ると、男性30代・40代・70代以上を除くすべての年代で「男性も積極的に取得するほうがよい」が最も高くなっており、男女ともに60代(女性50.6%、男性50.0%)は5割と特になくなっている。男性30代・40代・70代以上では「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」が最も高くなっている。男女差は「男性も積極的に取得するほうがよい」で40代(女性48.4%、男性34.3%)が14.1ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。



◇経年変化

●男女とも「積極的に取得」が前回より高く、「環境が整っていない」が前回より低い

経年変化を性別で見ると、「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」は、令和元年度（全体56.8%、女性56.8%、男性56.7%）より全体は20.1ポイント、女性は22.7ポイント、男性は17.4ポイントそれぞれ低くなっている。「男性も積極的に取得するほうがよい」は、令和元年度（全体37.7%、女性39.4%、男性35.9%）より全体は5.7ポイント、女性は7.8ポイント、男性は3.7ポイントそれぞれ高くなっている。



※新規調査項目（赤色）：「環境は整えたほうが良いが、取得に当たっては個人の意見を尊重したほうがよい」

(9) 男性が介護休業を取得しない理由

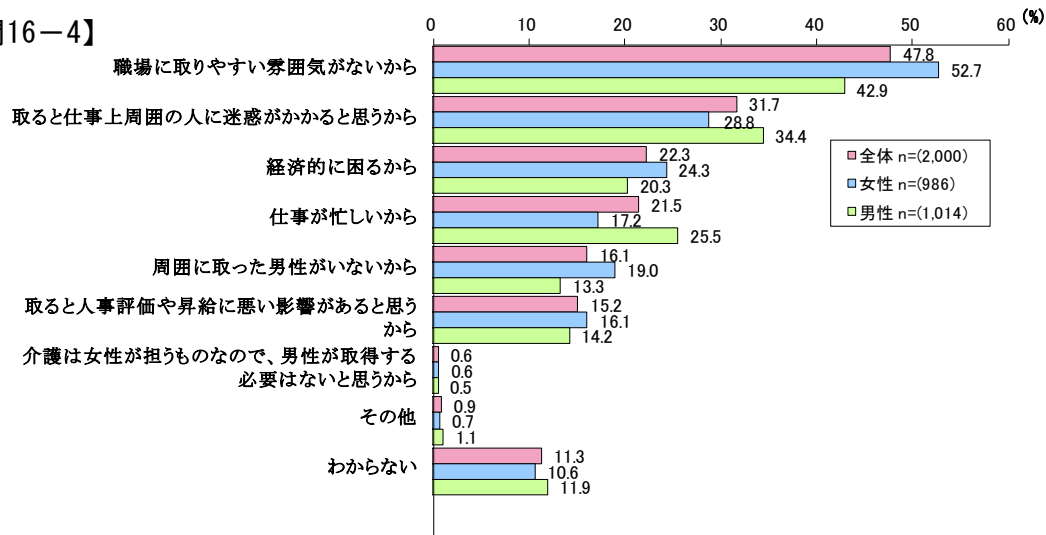
問16-4 あなたは、男性が介護休業を取得しない（できない）理由は何だと思いますか。（2つまで選択可）

●「職場に取りやすい雰囲気がない」が女性5割以上、男性4割以上で最も高い

●女性は職場の雰囲気や慣習を、男性は仕事の忙しさや周囲への迷惑等を理由に挙げている割合が高い

全体、男女とも「職場に取りやすい雰囲気がないから」（全体47.8%、女性52.7%、男性42.9%）が特に高く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから」（全体31.7%、女性28.8%、男性34.4%）となっている。「職場に取りやすい雰囲気がないから」は女性が男性より9.8ポイント高くなっている。一方、「仕事が忙しいから」は男性（25.5%）が女性（17.2%）より8.3ポイント高くなっている。

【問16-4】



※「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから」「取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから」「介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから」は令和元年度調査から選択肢の文言を一部変更している。

◇性・年代別

●すべての年代で「職場に取りやすい雰囲気がない」が高い

性・年代別で見ると、すべての年代で「職場に取りやすい雰囲気がないから」が最も高くなっており、特に女性70代以上（60.2%）で6割となっている。次いで男女30代を除くすべての年代で「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから」が高く、男性20代では「仕事が忙しいから」と同値（26.9%）となっている。男性30代は「仕事が忙しいから」（29.3%）が次いで高く、女性30代は「周囲に取った男性がいないから」と「仕事が忙しいから」が同値（21.3%）となっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	127	182	228	231	83
職場に取りやすい雰囲気がないから	40.0	44.6	48.8	55.5	53.1	54.5	60.2
取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから	40.0	27.7	20.5	24.7	29.8	32.5	38.6
経済的に困るから	20.0	16.9	20.5	23.1	28.9	28.6	20.5
仕事が忙しいから	60.0	17.7	21.3	13.2	16.7	17.3	18.1
周囲に取った男性がいないから	20.0	22.3	21.3	22.5	19.7	15.2	10.8
取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから	-	15.4	18.1	15.9	14.5	15.2	22.9
介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから	-	0.8	0.8	0.5	0.4	0.4	1.2
その他	-	0.8	-	0.5	0.9	1.3	-
わからない	-	16.9	14.2	11.0	6.6	9.5	9.6

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

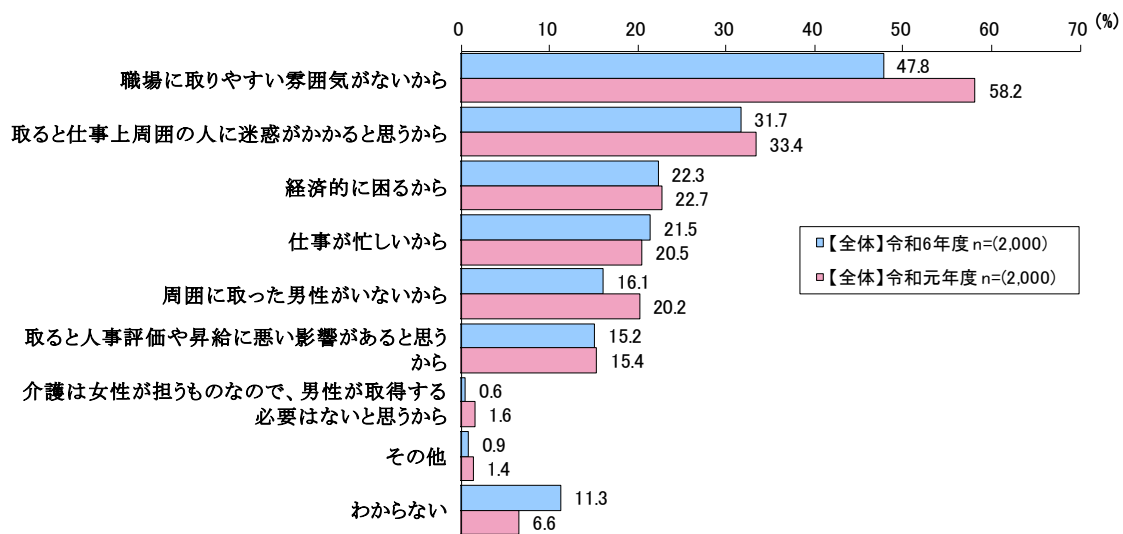
男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	78	184	210	194	166	178
職場に取りやすい雰囲気がないから	-	37.2	32.1	41.0	37.6	56.0	53.4
取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから	25.0	26.9	20.1	32.4	32.5	41.0	51.1
経済的に困るから	-	15.4	27.7	22.9	20.1	19.3	13.5
仕事が忙しいから	25.0	26.9	29.3	25.2	29.4	22.3	20.2
周囲に取った男性がいないから	-	15.4	18.5	14.3	13.9	10.8	7.9
取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから	25.0	16.7	16.8	14.8	10.8	10.2	16.9
介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから	-	-	1.1	-	1.5	-	-
その他	-	-	0.5	1.0	2.1	0.6	1.7
わからない	25.0	20.5	13.0	13.8	11.3	8.4	8.4

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

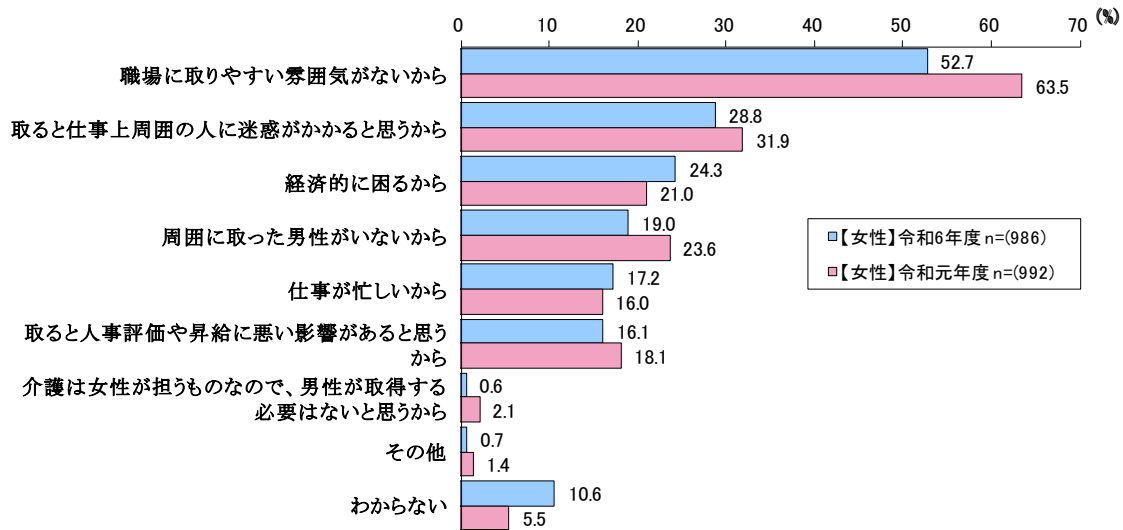
◇経年変化

●「職場に取りやすい雰囲気がない」は男女とも前回より低い

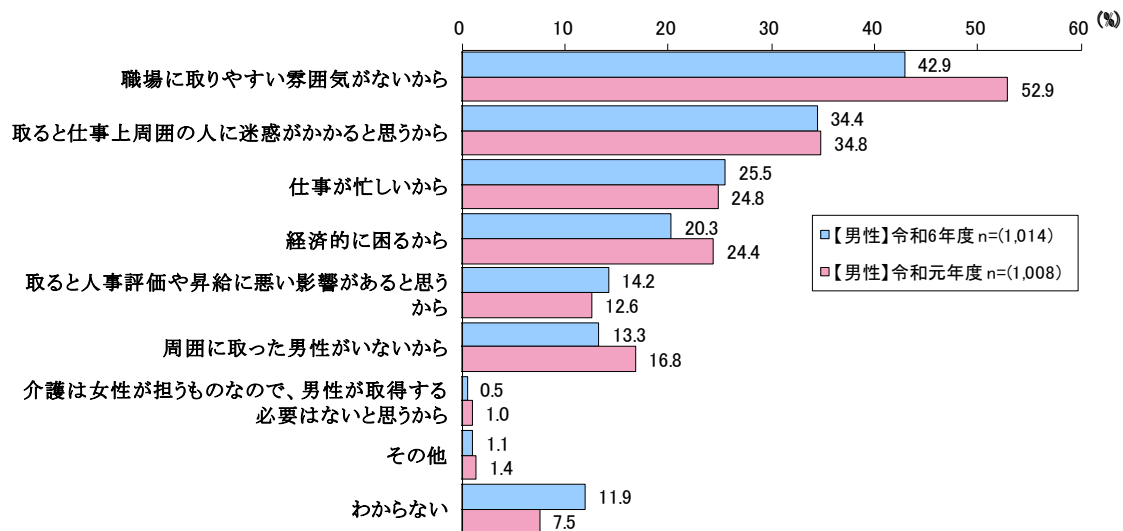
経年変化を性別で見ると、全体、男女ともに「職場に取りやすい雰囲気がないから」は、令和元年度（全体58.2%、女性63.5%、男性52.9%）より全体は10.4ポイント、女性は10.8ポイント、男性は10.0ポイントそれぞれ低くなっている。一方、「経済的に困るから」は、令和元年度（女性21.0%、男性24.4%）より女性は3.3ポイント高く、男性は4.1ポイント低くなっている。



【女性】



【男性】



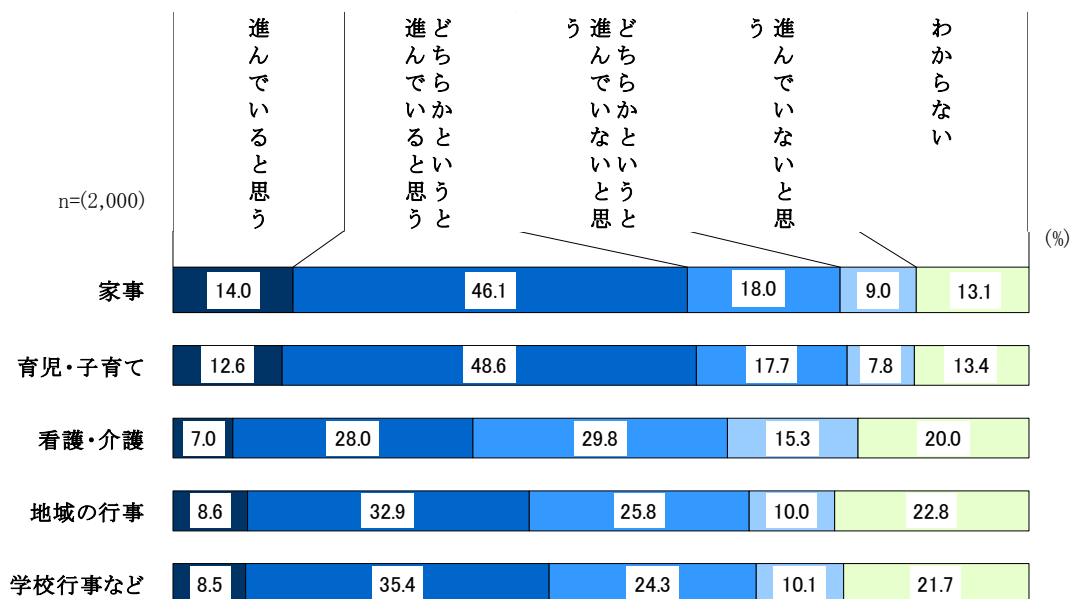
4. 男性の参画について

(1) 男性の参画が進んだ分野

問17 あなたは各分野で男性の参画が数年前と比べて進んでいると思いますか。
(それぞれ1つに○)

- 『看護・介護』を除き「どちらかというに進んでいると思う」が最も高い
- 『看護・介護』では《進んでいないと思う(計)》が《進んでいると思う(計)》より高い

全体では、『看護・介護』を除くすべての項目で「どちらかというに進んでいると思う」が最も高く、『看護・介護』では「どちらかというに進んでいないと思う」(29.8%)が最も高くなっている。《進んでいると思う(計)》(「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値)は、『家事』(60.1%)、『育児・子育て』(61.2%)の2項目が6割以上と高くなっている。一方、《進んでいないと思う(計)》(「どちらかというに進んでいないと思う」と「進んでいないと思う」の合計値)は、『看護・介護』(45.1%)が約5割と高くなっている。『看護・介護』は《進んでいないと思う(計)》が《進んでいると思う(計)》(35.0%)より10.1ポイント高くなっている。



※「家事」「育児・子育て」「学校行事など」は令和元年度調査から選択肢の文言を一部変更している。

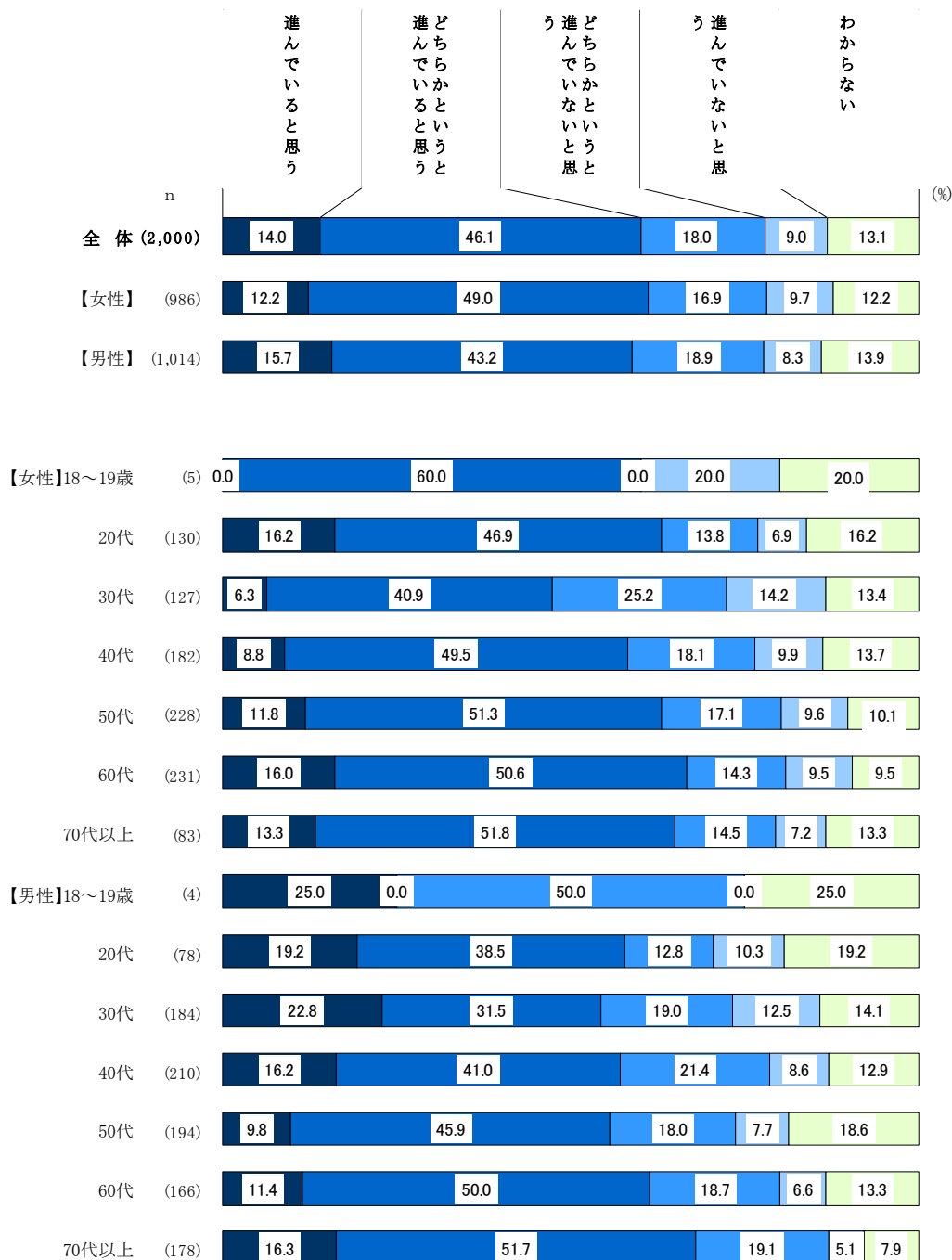
問17 ①家事への男性の参画

●《進んでいると思う（計）》は女性6割以上、男性約6割

男女とも「どちらかというに進んでいると思う」（女性49.0%、男性43.2%）が最も高く、4割台となっている。

《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値）は、女性（61.2%）と男性（58.9%）が同程度となっている。

性・年代別で見ると、すべての年代で「どちらかというに進んでいると思う」が最も高くなっている。《進んでいると思う（計）》は、30代・70代以上を除き女性が男性より高くなっている。

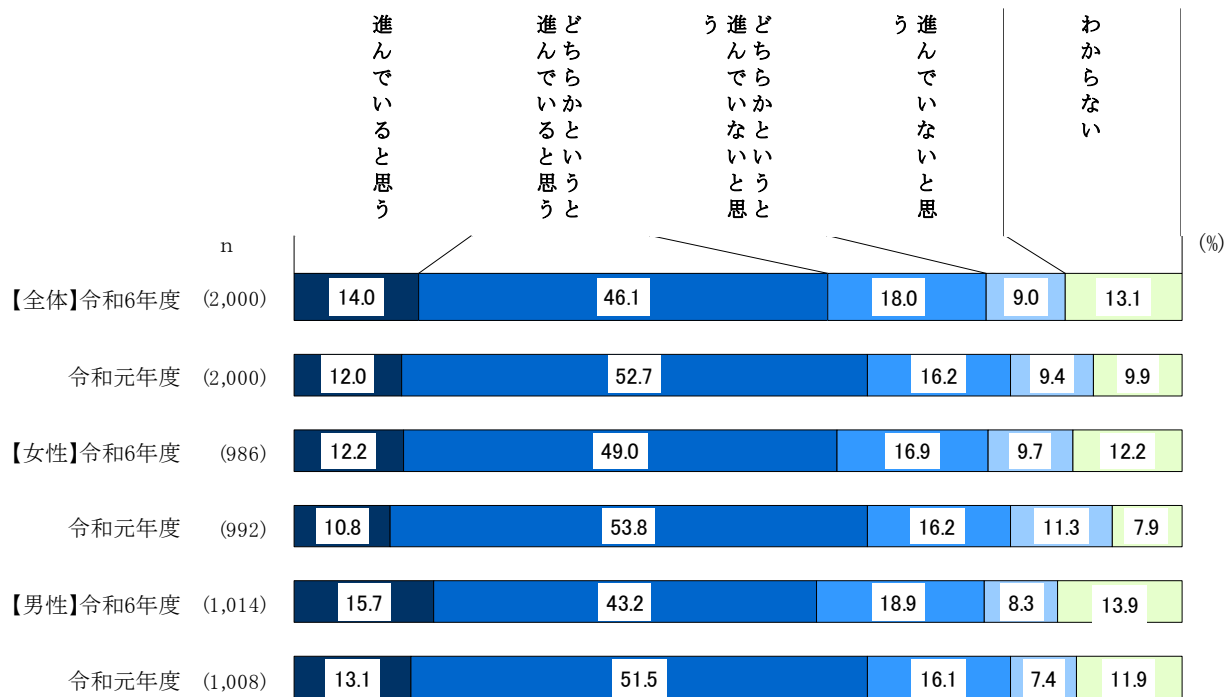


◇経年変化

●《進んでいると思う（計）》は男女ともに前回より低い

経年変化を性別で見ると、《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値）は、令和元年度（全体64.7%、女性64.6%、男性64.6%）より全体は4.6ポイント、女性は3.4ポイント、男性は5.7ポイントそれぞれ低くなっている。

【問 17① 経年変化】

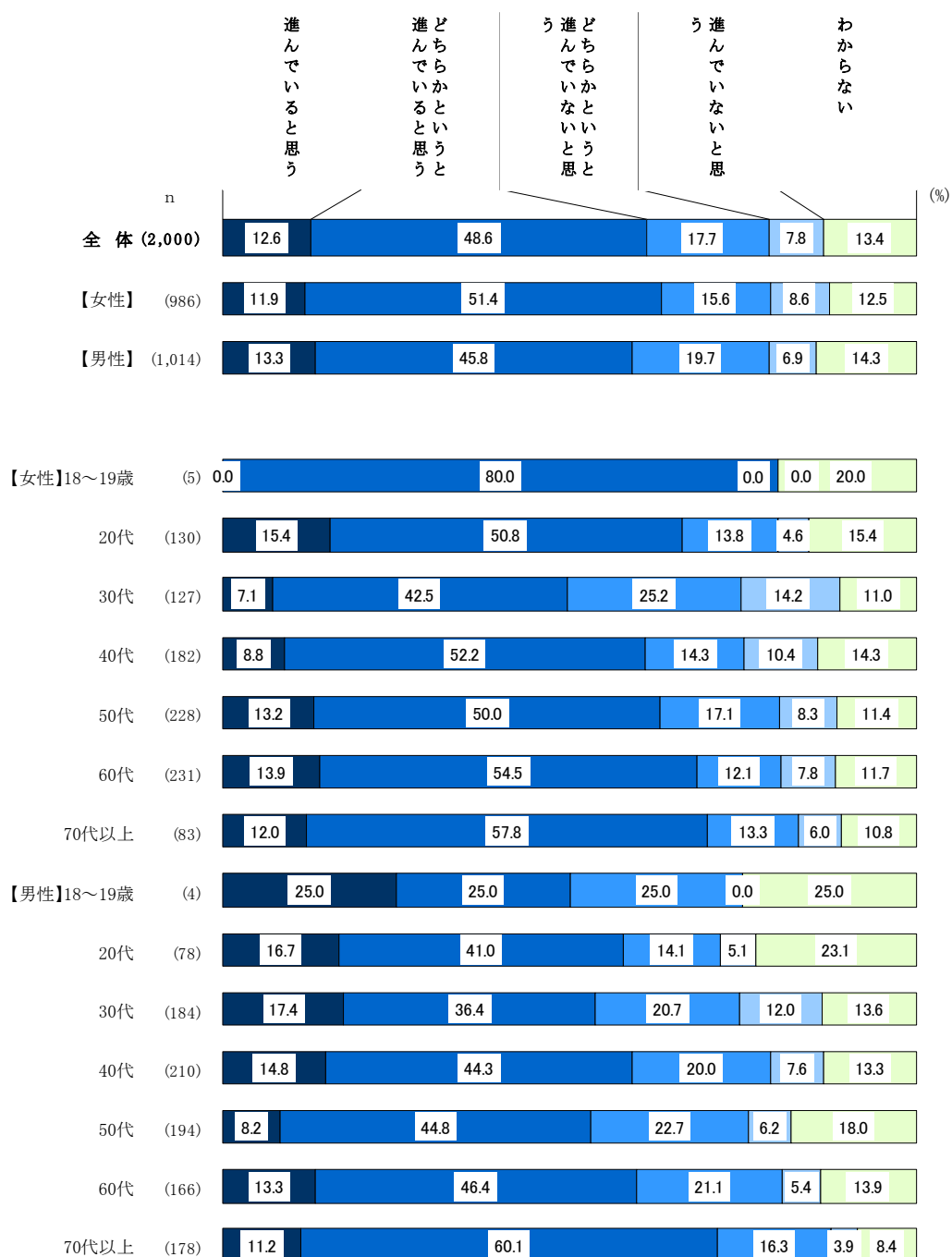


問17 ②育児・子育てへの男性の参画

●《進んでいると思う（計）》は女性6割以上、男性約6割

男女とも「どちらかというに進んでいると思う」（女性51.4%、男性45.8%）が最も高くなっている。《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値）は、女性（63.3%）が男性（59.1%）より4.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、すべての年代で「どちらかというに進んでいると思う」が最も高くなっている。《進んでいると思う（計）》は、30代・70代以上を除くすべての年代で女性が男性より高くなっており、30代は男性（53.8%）が女性（49.6%）より4.2ポイント、70代以上は男性（71.3%）が女性（69.8%）より1.5ポイント高くなっている。

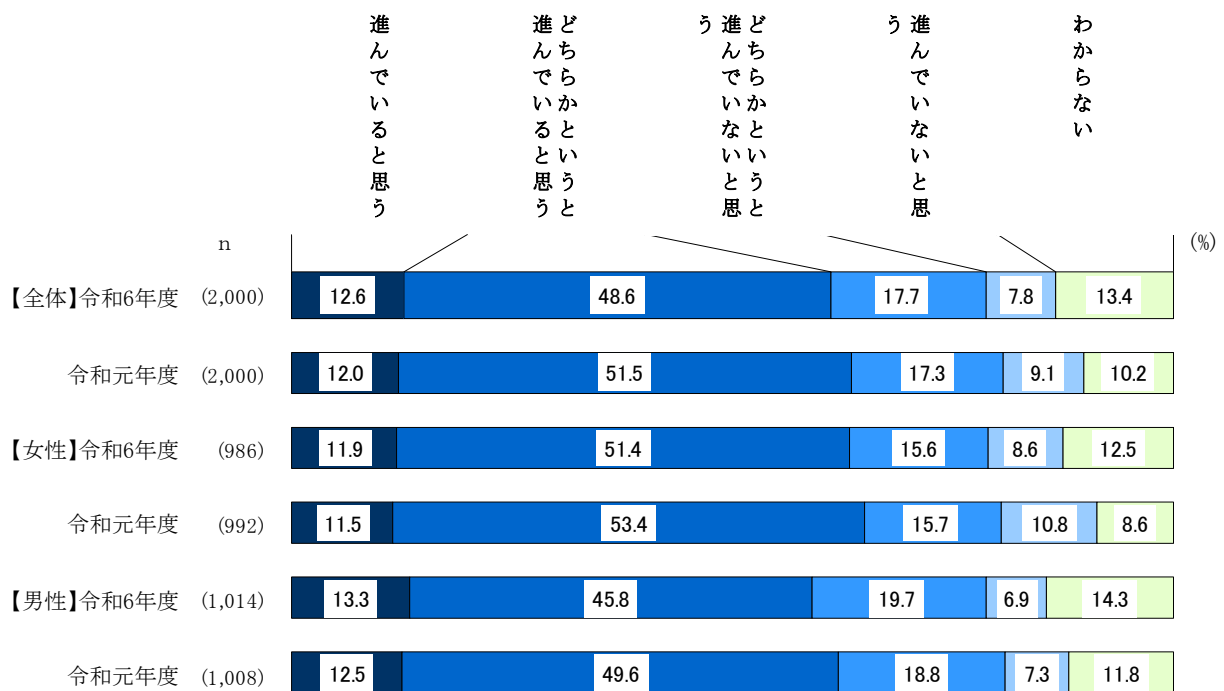


◇経年変化

●《進んでいると思う（計）》は男女ともに前回と同程度

経年変化を性別で見ると、《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値）は、男女ともに前回と同程度となっており、令和元年度（全体63.5%、女性64.9%、男性62.1%）より全体は2.3ポイント、女性は1.6ポイント、男性は3.0ポイントそれぞれ低くなっている。

【問 17② 経年変化】

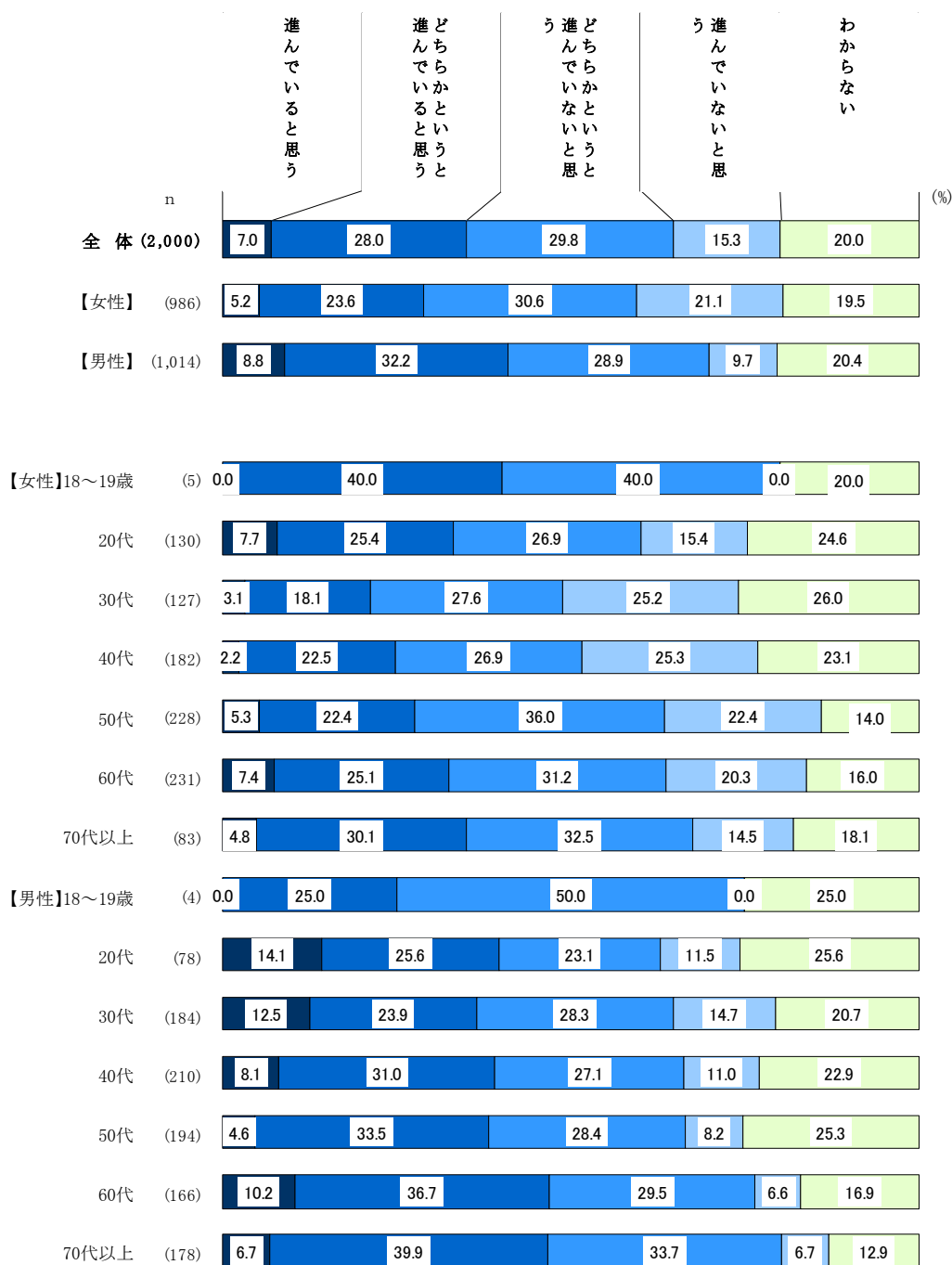


問17 ③看護・介護への男性の参画

●《進んでいないと思う（計）》は女性で過半数を占めている

女性は「どちらかというに進んでいないと思う」（30.6%）、男性は「どちらかというに進んでいると思う」（32.2%）が最も高くなっている。また、女性は《進んでいないと思う（計）》（「どちらかというに進んでいないと思う」と「進んでいないと思う」の合計値）（51.7%）が過半数を占めており、女性が男性（38.6%）より13.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性はすべての年代で「どちらかというに進んでいないと思う」が最も高くなっている。《進んでいないと思う（計）》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は50代（女性58.4%、男性36.6%）が21.8ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

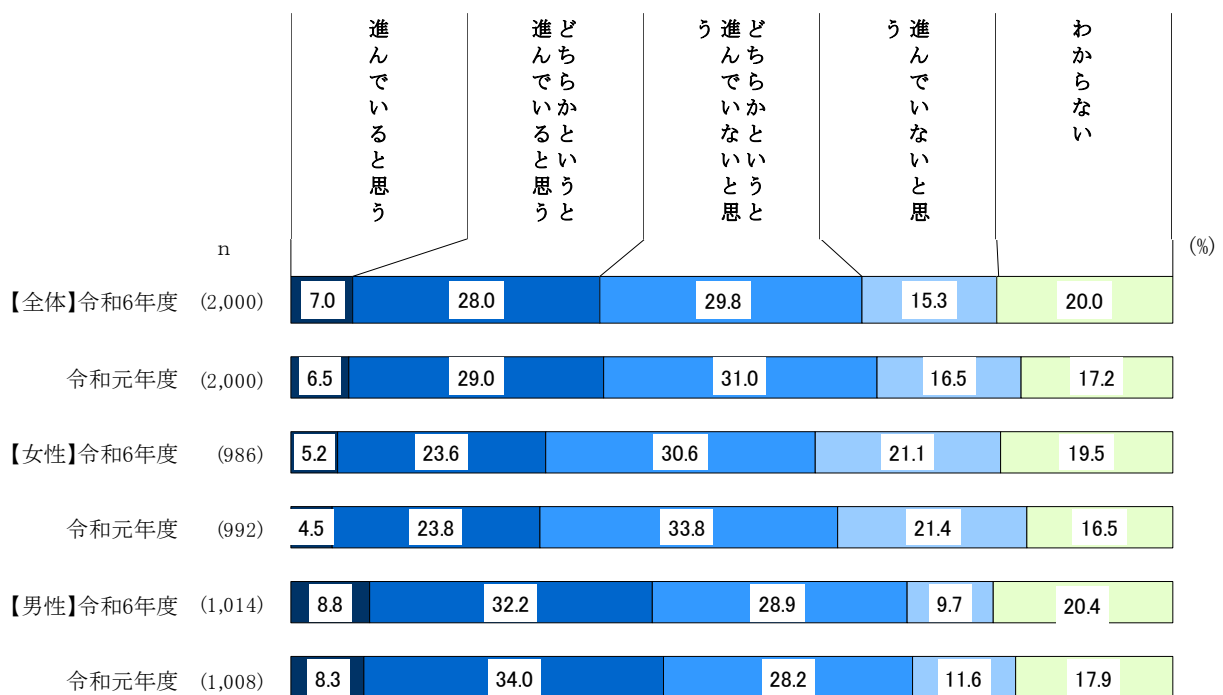


◇経年変化

●《進んでいると思う（計）》は男女ともに前回と同程度

経年変化を性別で見ると、《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値）は、男女ともに前回と同程度となっており、令和元年度（全体35.5%、女性28.3%、男性42.3%）より全体は0.5ポイント、男性は1.3ポイント低く、女性は0.5ポイント高くなっている。

【問 17③ 経年変化】

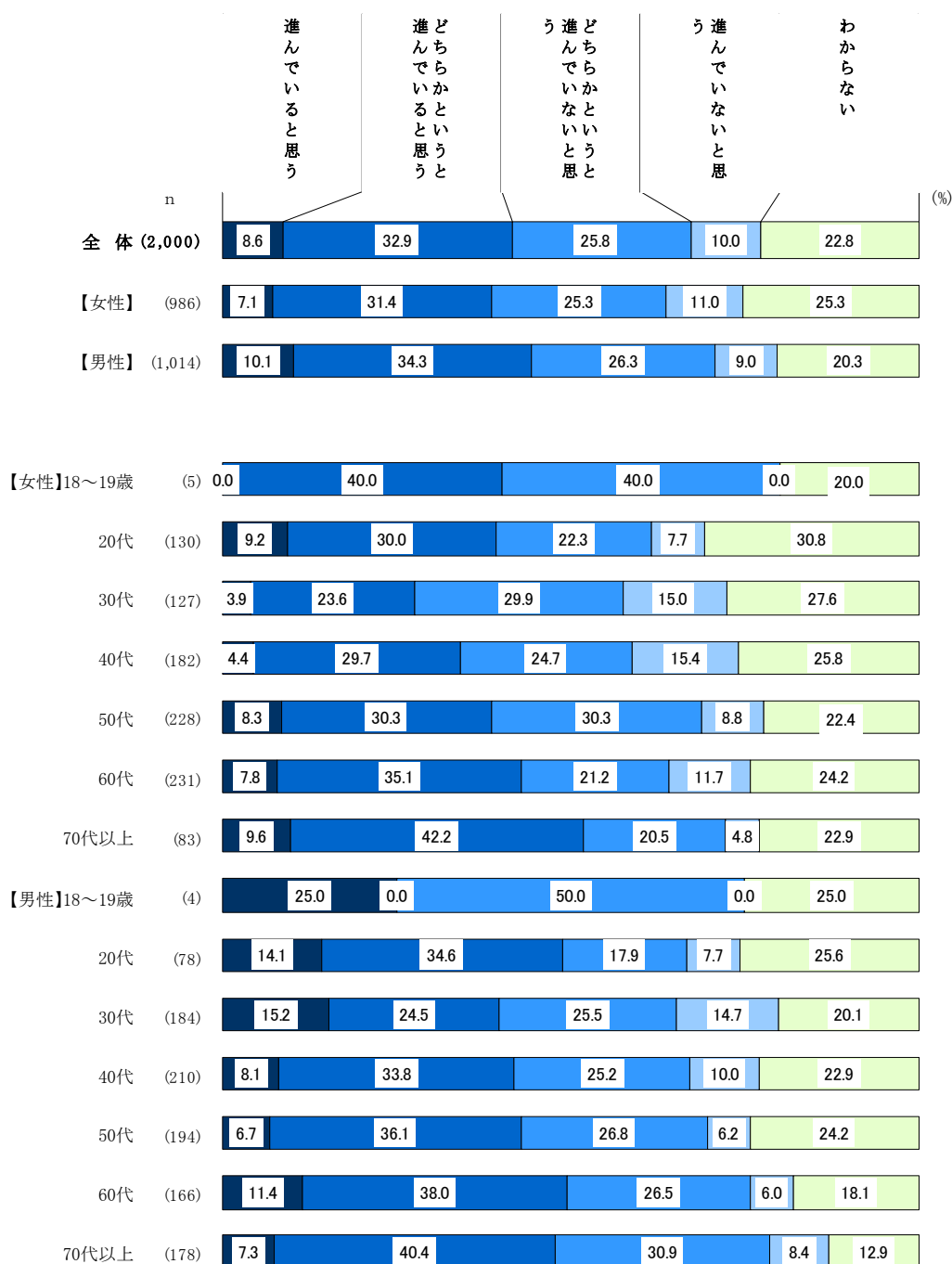


問17 ④地域の行事への男性の参画

- 女性《進んでいると思う（計）》と《進んでいないと思う（計）》が同程度
- 《進んでいないと思う（計）》は70代上の男女差が大きい

男女とも「どちらかというに進んでいると思う」（女性31.4%、男性34.3%）が最も高くなっている。女性は《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値）（38.5%）と《進んでいないと思う（計）》（「どちらかというに進んでいないと思う」と「進んでいないと思う」の合計値）（36.3%）が同程度となっており、男性は《進んでいると思う（計）》（44.4%）が4割以上となっている。

性・年代別で見ると、《進んでいると思う（計）》は70代以上を除くすべての年代で男性が女性より高くなっている。男女差は《進んでいないと思う（計）》で70代以上（女性25.3%、男性39.3%）が14.0ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。

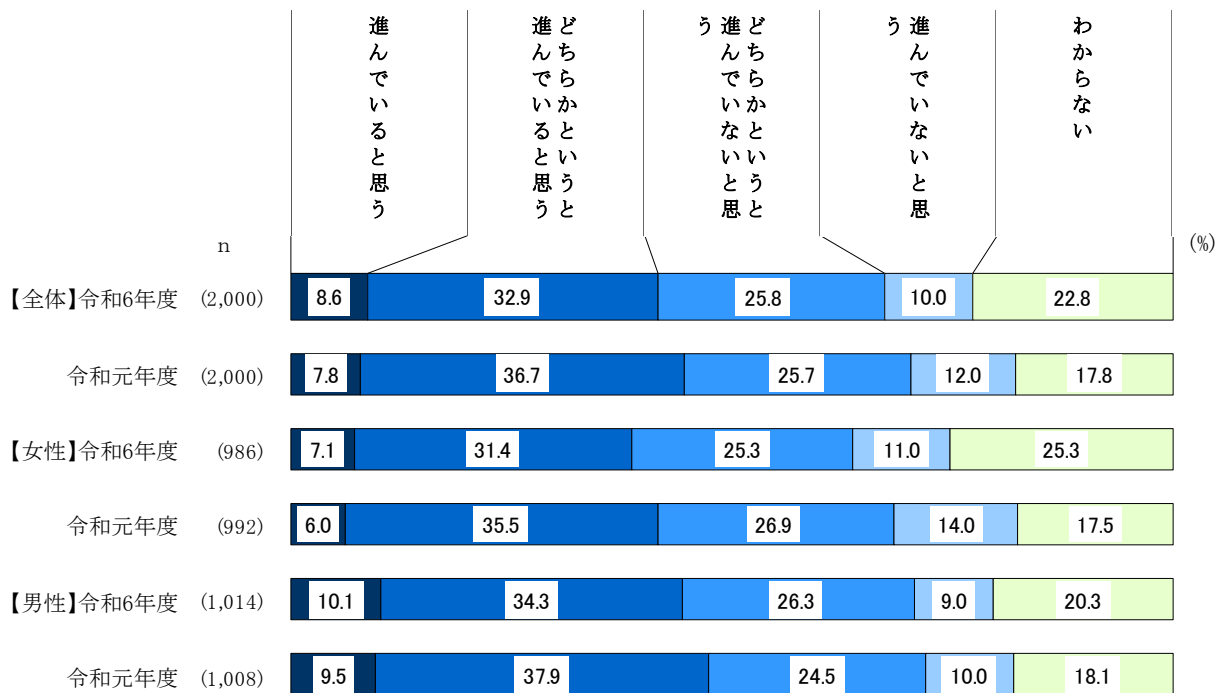


◇経年変化

●《進んでいると思う（計）》は男女ともに低下

経年変化を性別で見ると、《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値）は、男女ともに前回と同程度となっており、令和元年度（全体44.5%、女性41.5%、男性47.4%）より全体は3.0ポイント、女性は3.0ポイント、男性は3.0ポイントそれぞれ低くなっている。

【問 17④ 経年変化】

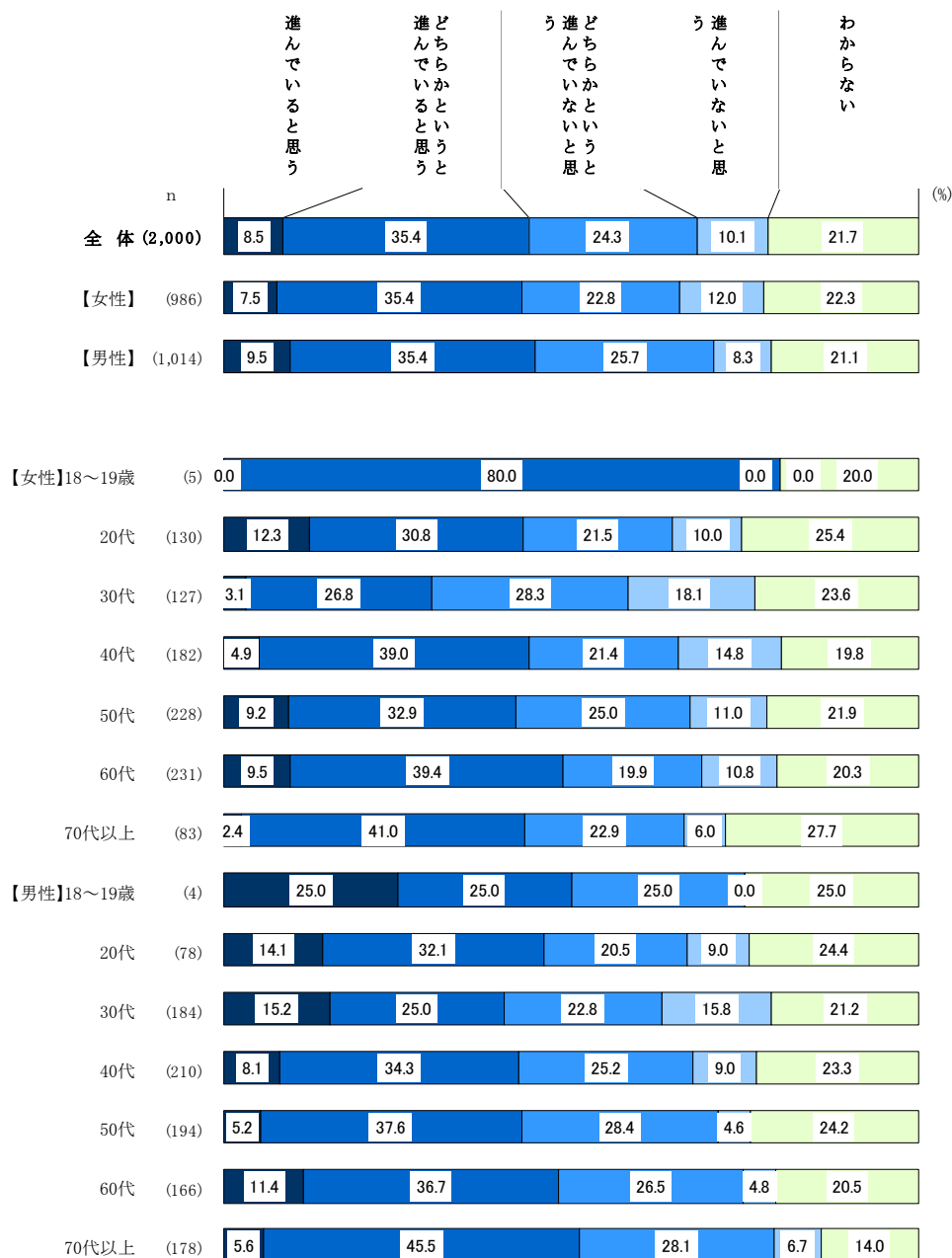


問17 ⑤学校行事への男性の参画

●《進んでいると思う（計）》は男女ともに4割以上

全体、男女とも「どちらかというに進んでいると思う」（全体35.4%、女性35.4%、男性35.4%）が最も高く、次いで「どちらかというに進んでいないと思う」（全体24.3%、女性22.8%、男性25.7%）となっている。《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」）は、女性（42.9%）と男性（44.9%）で同程度であり、《進んでいないと思う（計）》（「どちらかというに進んでいないと思う」と「進んでいないと思う」の合計値）も、女性（34.8%）と男性（34.0%）で同程度となっている。

性・年代別で見ると、女性30代を除き「どちらかというに進んでいると思う」が最も高く、女性30代は「どちらかというに進んでいないと思う」が最も高くなっている。《進んでいると思う（計）》は、40代・60代を除くすべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差は30代（女性29.9%、男性40.2%）が10.3ポイントで最も大きくなっている。

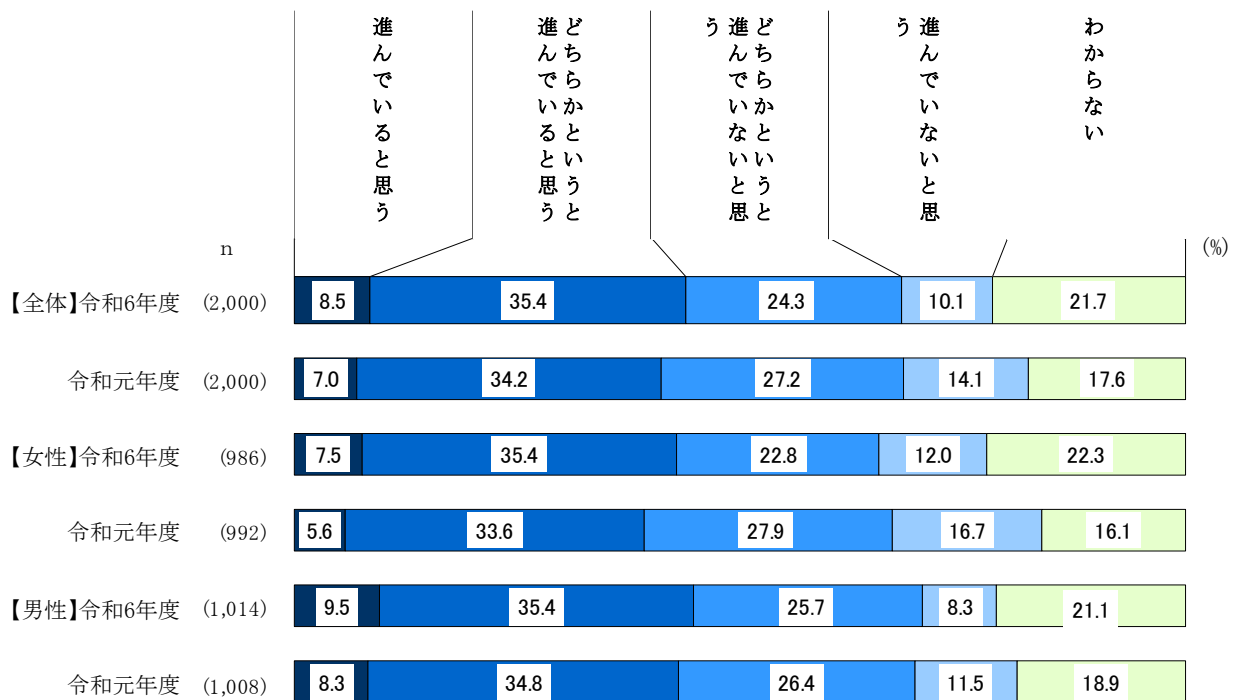


◇経年変化

●《進んでいないと思う（計）》は男女ともに前回より低い

経年変化を性別で見ると、《進んでいないと思う（計）》（「どちらかというに進んでいないと思う」と「進んでいないと思う」の合計値）は、令和元年度（全体41.3%、女性44.6%、男性37.9%）より全体は6.9ポイント、女性は9.8ポイント、男性は3.9ポイントそれぞれ低くなっている。

【問 17⑤ 経年変化】



(2) 男性の参画に必要なこと

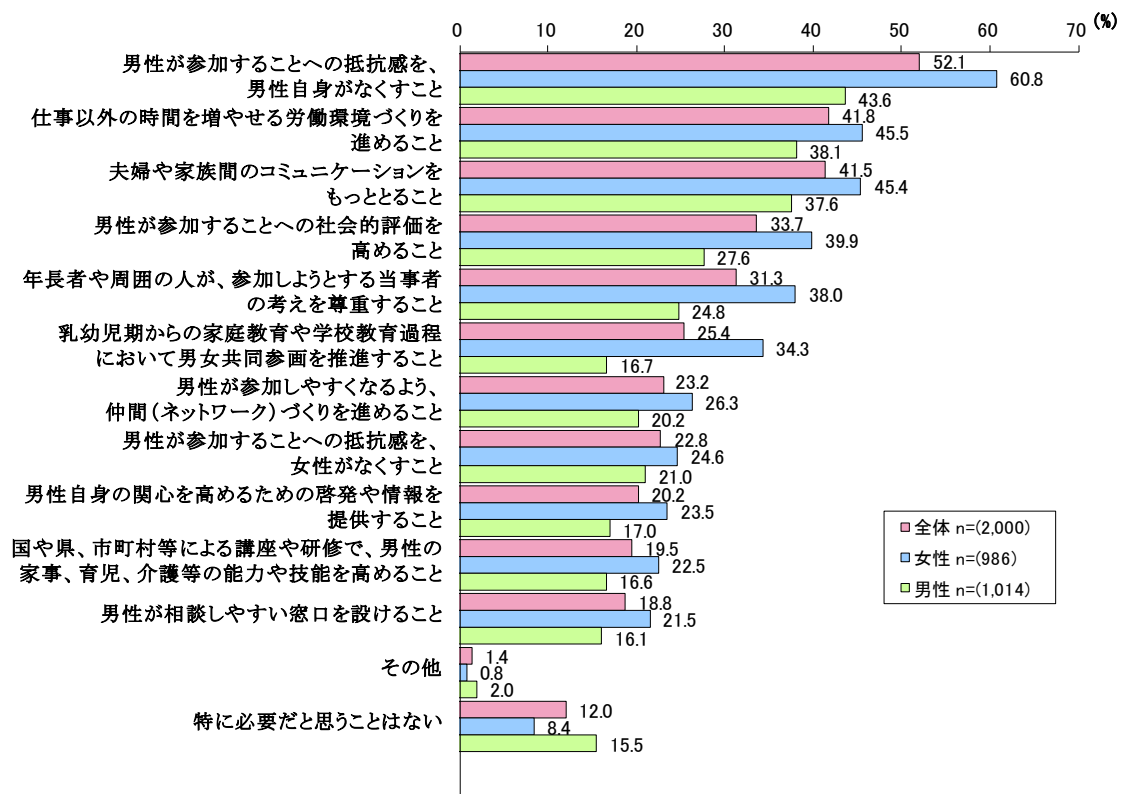
問18 あなたは、今後、男性が、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものを全て選択可)

●男女とも「男性自身が抵抗感をなくすこと」が最も高い

●その他以外の項目で女性が男性より高い

全体では「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」(52.1%)が5割以上で最も高く、次いで「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」(41.8%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること」(41.5%)の2項目で4割以上となっている。

性別で見ると、男女とも「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」(女性60.8%、男性43.6%)が最も高く、次いで「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」(女性45.5%、男性38.1%)が高くなっている。「その他」、「特に必要だと思うことはない」を除くすべての項目で、女性が男性より高くなっており、男女差は「乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程において男女共同参画を推進すること」で最も大きく、女性(34.3%)が男性(16.7%)より17.6ポイント高くなっている。



※新規調査項目：「乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程において男女共同参画を推進すること」

◇性・年代別

●女性はずべての年代で「男性自身が抵抗感をなくすこと」が最も高い

性・年代別で見ると、女性はずべての年代で「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」が最も高くなっている。次いで20代・50代・60代では「夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること」が高く、30代・40代では「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」が高く、70代以上では「男性が参加することへの社会的評価を高めること」が高くなっている。男性は20代を除くすべての年代で「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」が最も高く、20代では「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	127	182	228	231	83
男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと	-	53.1	55.9	61.0	61.0	64.9	71.1
仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること	60.0	47.7	48.8	41.8	48.2	44.2	41.0
夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること	40.0	50.8	47.2	37.4	48.7	46.3	41.0
男性が参加することへの社会的評価を高めること	20.0	36.9	34.6	41.2	36.8	43.7	48.2
年長者や周囲の人が、参加しようとする当事者の考えを尊重すること	20.0	36.9	33.9	36.8	41.2	39.0	38.6
乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程において男女共同参画を推進すること	-	25.4	38.6	28.6	36.0	38.5	39.8
男性が参加しやすくなるよう、仲間(ネットワーク)づくりを進めること	20.0	25.4	26.8	30.2	24.6	24.2	28.9
男性が参加することへの抵抗感を、女性がなくすこと	-	23.1	28.3	23.1	22.8	28.6	20.5
男性自身の関心を高めるための啓発や情報を提供すること	-	20.0	29.1	23.6	22.4	22.5	27.7
国や県、市町村等による講座や研修で、男性の家事、育児、介護等の能力や技能を高めること	20.0	22.3	29.9	24.7	21.9	20.3	14.5
男性が相談しやすい窓口を設けること	20.0	25.4	18.9	25.8	18.9	20.8	19.3
その他	-	-	0.8	1.1	1.3	0.9	-
特に必要だと思うことはない	-	13.1	11.8	9.3	7.0	5.6	6.0

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

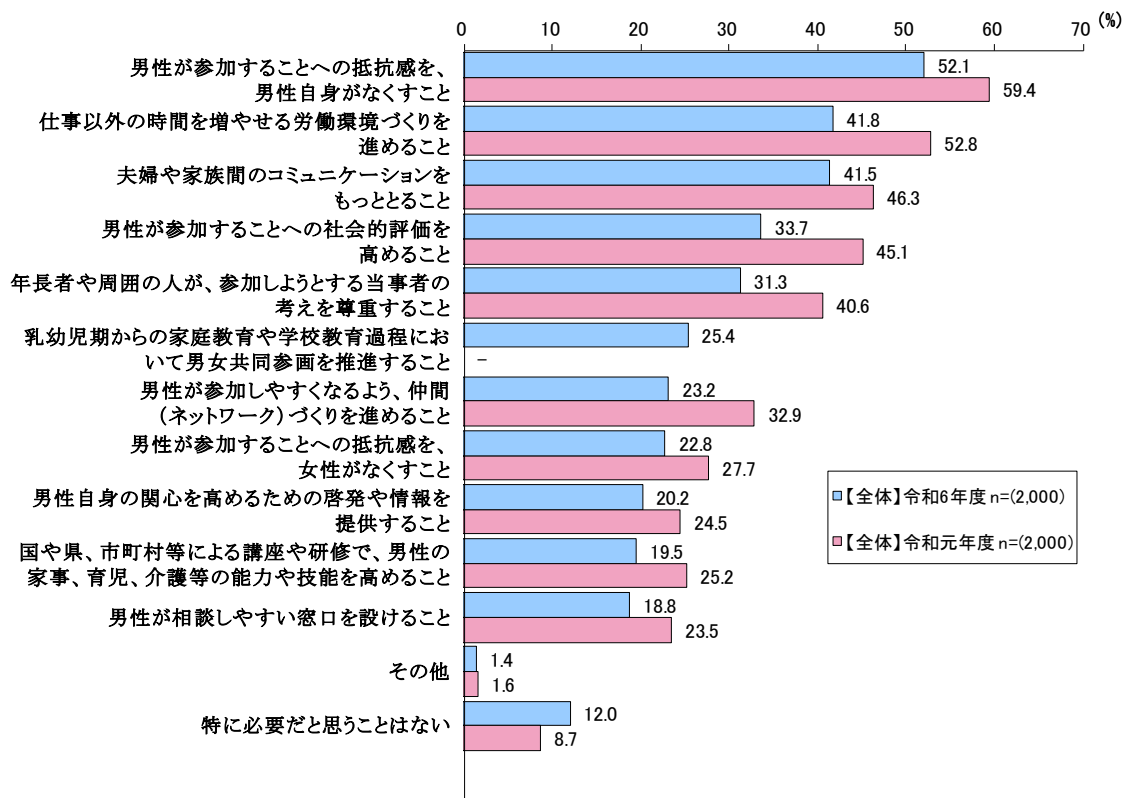
男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	78	184	210	194	166	178
男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと	25.0	34.6	37.0	43.3	37.6	54.2	51.7
仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること	50.0	37.2	32.1	33.8	36.1	42.2	47.8
夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること	-	32.1	35.3	32.9	31.4	42.8	50.6
男性が参加することへの社会的評価を高めること	-	26.9	21.2	25.7	27.3	28.9	36.5
年長者や周囲の人が、参加しようとする当事者の考えを尊重すること	-	29.5	21.2	21.4	29.9	17.5	32.0
乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程において男女共同参画を推進すること	-	16.7	9.2	13.8	14.9	19.3	27.5
男性が参加しやすくなるよう、仲間(ネットワーク)づくりを進めること	-	21.8	16.8	18.1	18.0	25.9	23.0
男性が参加することへの抵抗感を、女性がなくすこと	-	26.9	22.8	23.3	20.1	20.5	15.7
男性自身の関心を高めるための啓発や情報を提供すること	-	20.5	12.0	19.0	17.5	15.7	19.1
国や県、市町村等による講座や研修で、男性の家事、育児、介護等の能力や技能を高めること	-	12.8	14.7	10.5	14.9	23.5	23.0
男性が相談しやすい窓口を設けること	-	16.7	15.2	16.7	15.5	15.1	18.0
その他	-	5.1	4.3	0.5	1.0	1.8	1.1
特に必要だと思うことはない	25.0	23.1	14.7	21.0	13.9	12.7	10.7

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

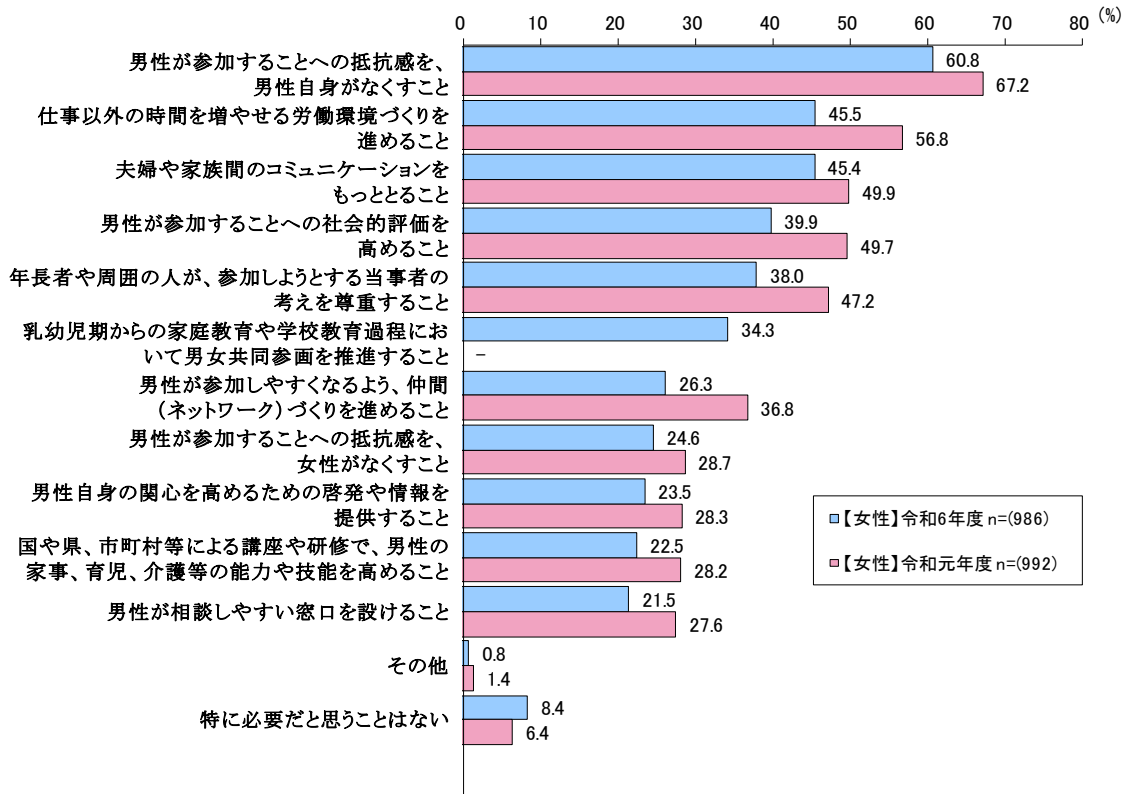
◇経年変化（参考）

- 「特に必要だと思うことはない」が前回より高い
- 上記以外の項目で前回より低い

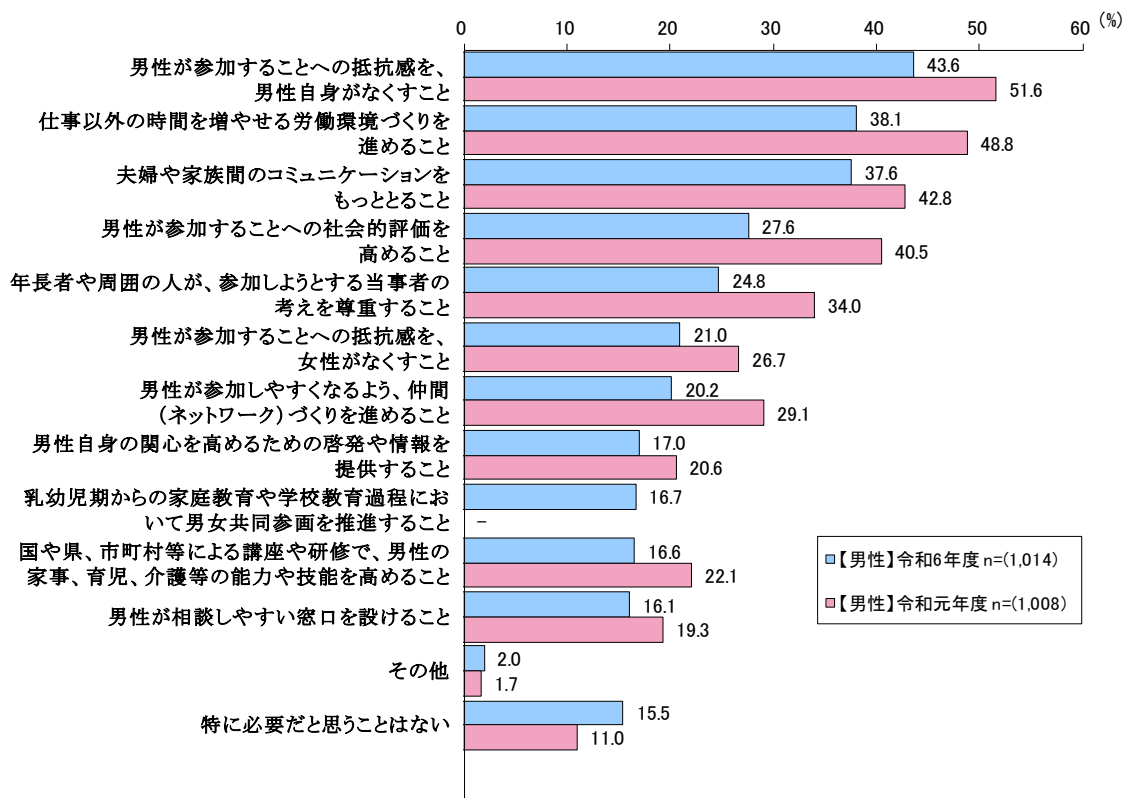
令和元年度とは項目数が異なるため参考として見ると、「特に必要だと思うことはない」が令和元年度（8.7%）より3.3ポイント高くなっており、その他全ての項目では低くなっている。



【女性】



【男性】



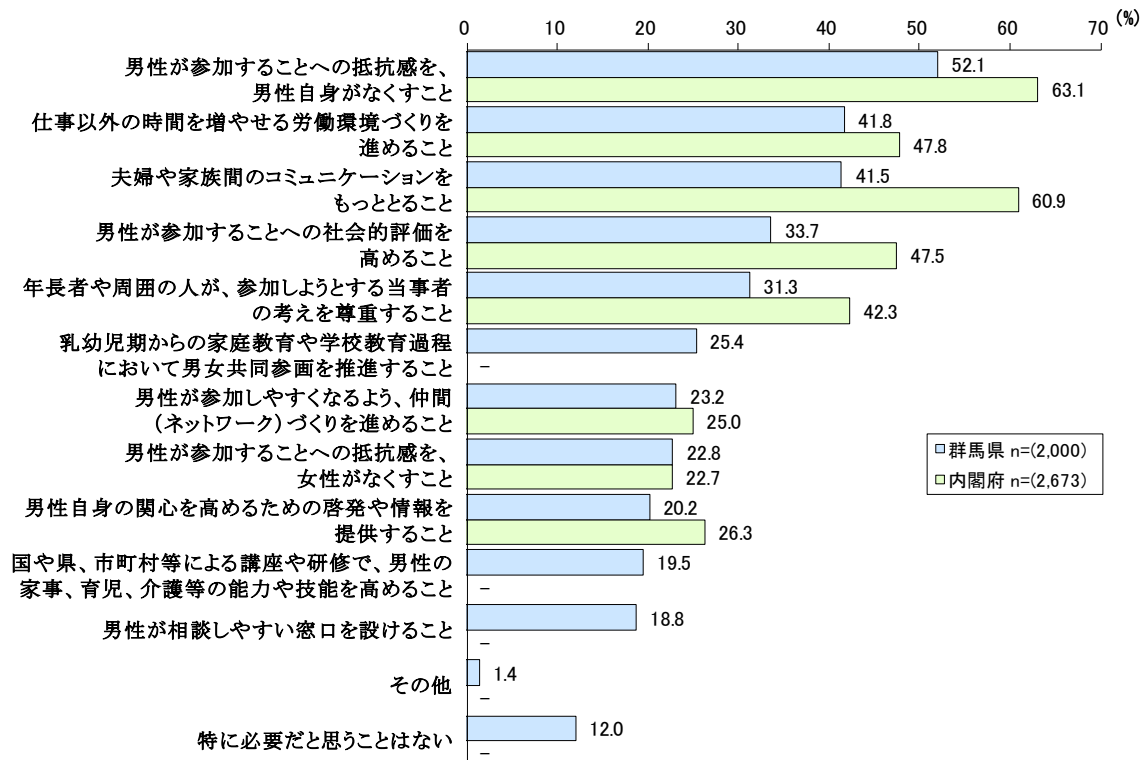
◇国の調査との比較（参考）

●ほとんどの項目において国より低い

内閣府の調査とは文章表現等が異なることを考慮する必要がある。

内閣府は「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」（63.1%）が最も高く、次いで「夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること」（60.9%）となっており、ほとんどの項目で内閣府より低くなっている。

【問 18 国の調査との比較（参考）】



※「乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程において男女共同参画を推進すること」、「国や県、市町村等による講座や研修で、男性の家事、育児、介護等の能力や技能を高めること」、「男性が相談しやすい窓口を設けること」は群馬県のための項目

5. 職場や働き方について

(1) 「女性の働き方」への意識

問19 「女性の働き方」について、あなたはどのように思いますか。(1つに○)

- 男女とも「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」、「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」の2項目が高い
- 「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」は、60代で男女差が大きい

全体では「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」(27.8%)が最も高く、次いで「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」(27.2%)の2項目で約3割となっている。

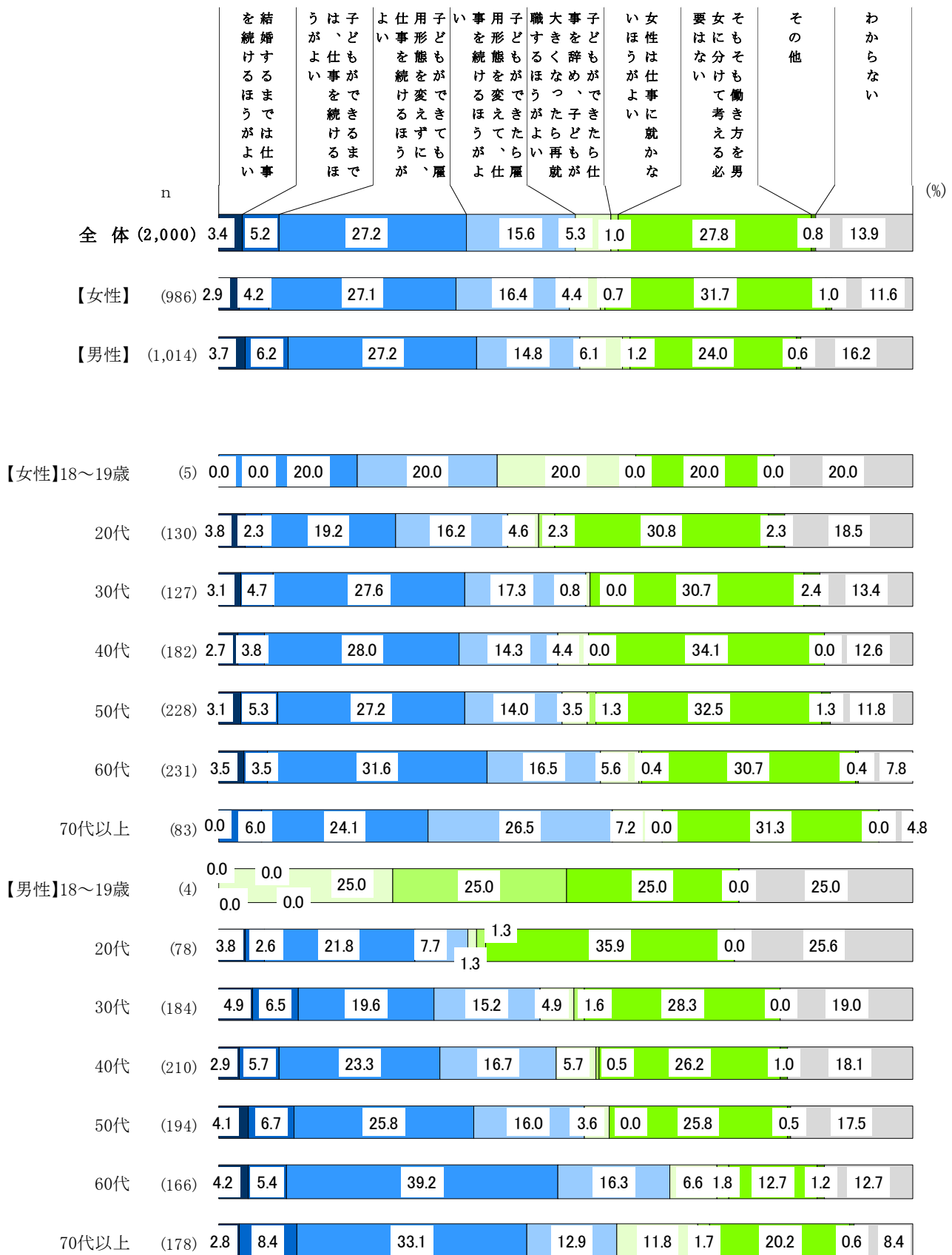
性・年代別で見ると、女性60代、男性60代・70代以上を除くすべての年代で「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」が最も高く、女性60代、男性60代・70代以上は、「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」が最も高くなっている。

「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」は、20代を除き女性が男性より高く、男女差は60代(女性30.7%、男性12.7%)が18.0ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」は、30代・40代・50代で女性が男性より高くなっている。60代は男女ともに高くなっており、女性(31.6%)が3割以上、男性(39.2%)が約4割となっている。

「子どもができた雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい」は、40代・50代を除くすべての年代で女性が男性より高く、男女差は70代以上(女性26.5%、男性12.9%)が13.6ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

【問19】

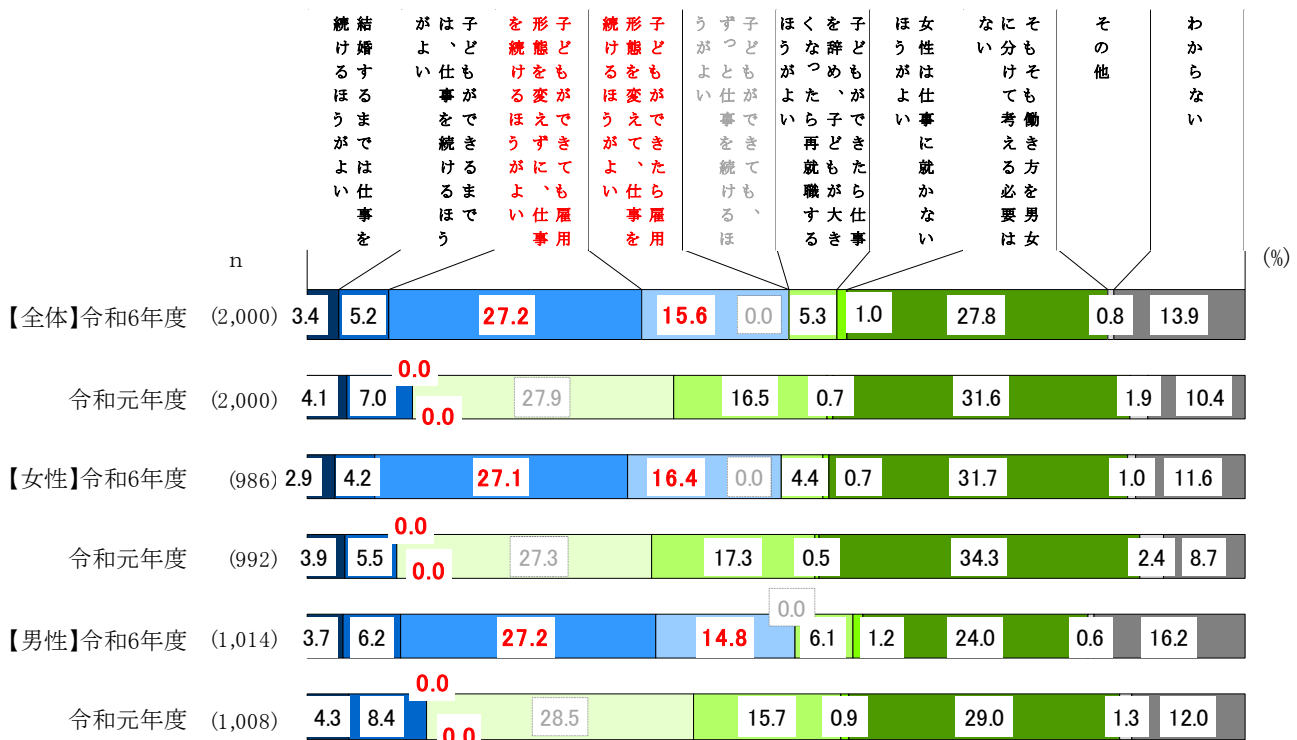


◇経年変化（参考）

●「子どもが大きくなったら再就職」が男女ともに前回より低い

令和元年度とは項目数や文章表現等が異なるため参考として見ると、「子どもができた
ら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい」は、令和元年度（全体
16.5%、女性17.3%、男性15.7%）より全体は11.2ポイント、女性は12.9ポイント、男性
は9.6ポイントそれぞれ低くなっている。

【問 19 経年変化】



※**新規調査項目（赤色）**：「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」「子どもができたらず雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい（正規雇用から非正規雇用に変える等）」

※今回削除項目（灰色）：「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」

(2) 進路・職業選択の際の性別意識

問20 あなたは、進路や職業を選択する際に、自分の性別を意識したことがありますか。
(1つに○)

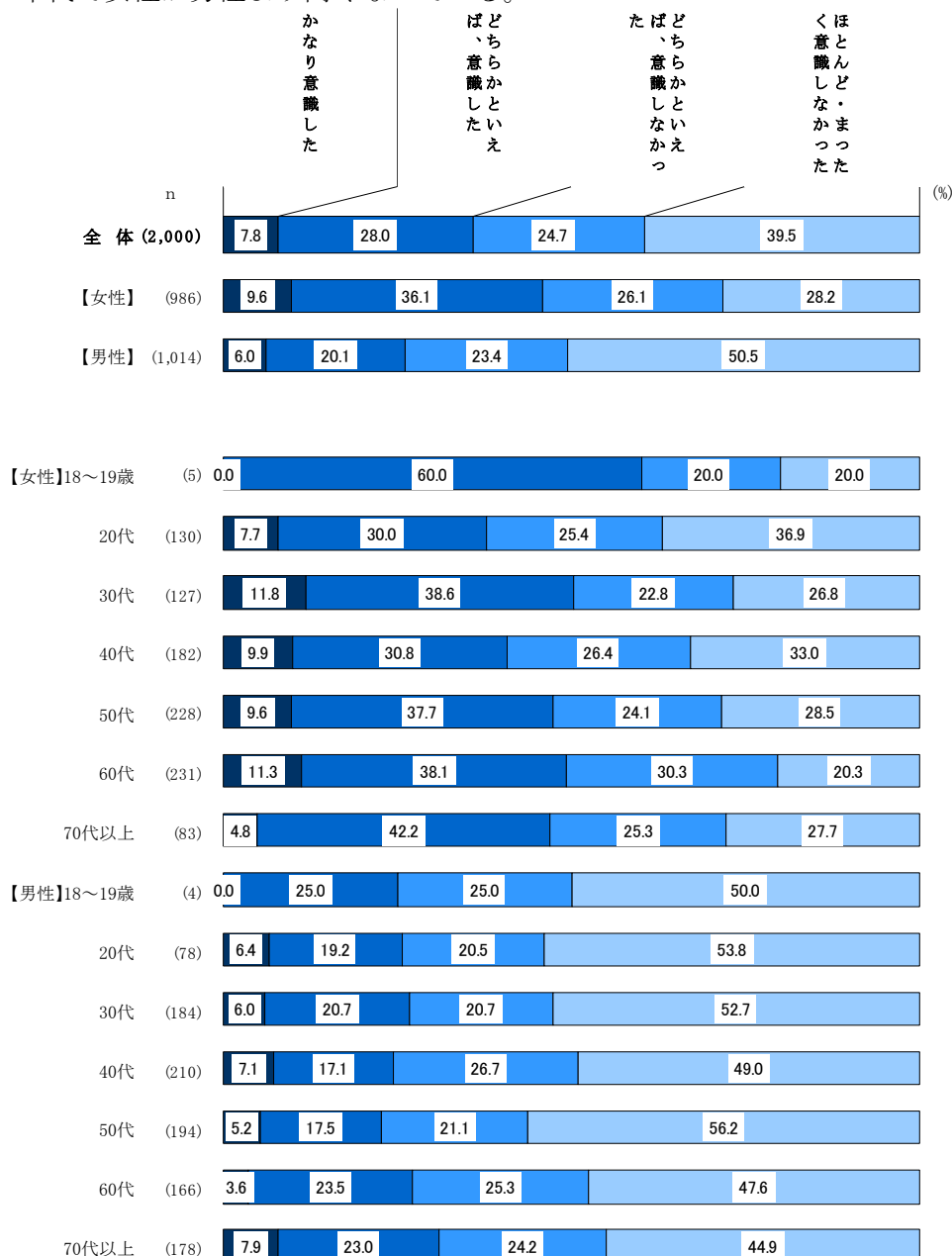
●《意識した(計)》は女性約5割、男性約3割

●男性はすべての年代で「ほとんど・まったく意識しなかった」が最も高い

男性は「ほとんど・まったく意識しなかった」(50.5%)、女性は「どちらかといえば、意識した」(36.1%)が最も高くなっている。

《意識した(計)》(「かなり意識した」と「どちらかといえば、意識した」の合計値)は、女性(45.7%)が男性(26.1%)より19.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性は20代・40代を除くすべての年代で「どちらかといえば、意識した」が最も高くなっている。一方、男性はすべての年代で「ほとんど・まったく意識しなかった」が最も高く、50代(56.2%)で約6割となっている。《意識した(計)》はすべての年代で女性が男性より高くなっている。

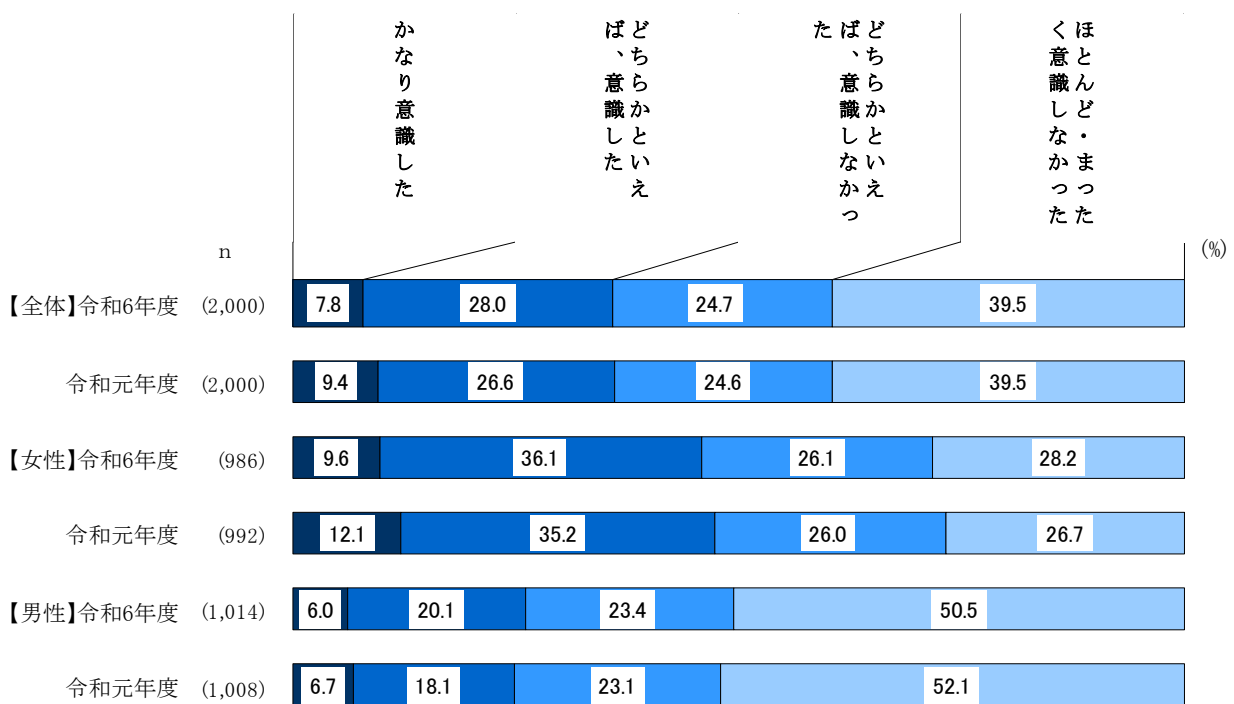


◇経年変化

●《意識した（計）》は男女ともに前回と同程度

経年変化を性別で見ると、《意識した（計）》（「かなり意識した」と「どちらかといえば、意識した」の合計値）は、男女ともに前回と同程度となっており、令和元年度（全体36.0%、女性47.3%、男性24.8%）より全体は0.2ポイント、女性は1.6ポイントそれぞれ低くなっており、男性は1.3ポイント高くなっている。

【問 20 経年変化】



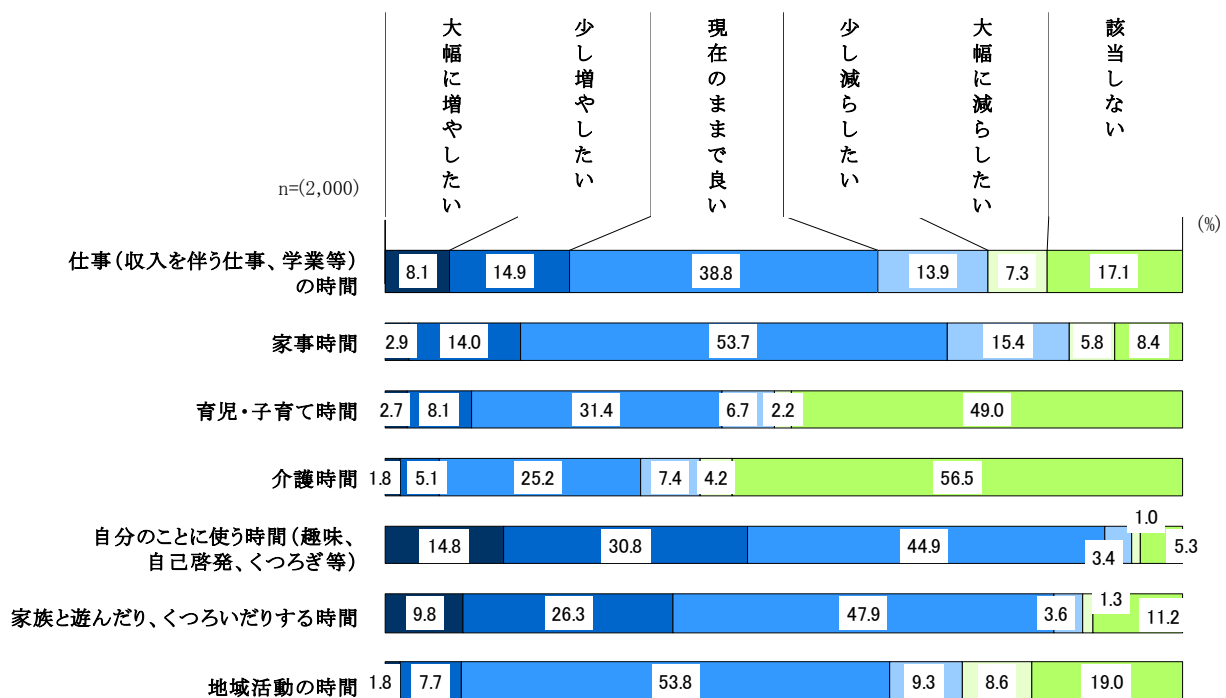
(3)「仕事」「家庭生活」「地域活動」等の時間についての希望

問21 生活中的時間について、増やしたいか、減らしたいか、当てはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。(それぞれ1つに○)

●《増やしたい(計)》は『自分の時間』が約5割

全体では、「該当しない」を除くとすべての項目で「現在のままで良い」が最も高くなっている。《増やしたい(計)》(「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値)は、『自分のことに使う時間(趣味、自己啓発、くつろぎ等)』(45.6%)が約5割、『家族と遊んだり、くつろいだりする時間』(36.1%)が約4割と高くなっている。一方、《減らしたい(計)》(「少し減らしたい」と「大幅に減らしたい」の合計値)は、『仕事(収入を伴う仕事、学業等)の時間』(21.2%)、『家事時間』(21.2%)の2項目が比較的高くなっている。

【問 21】



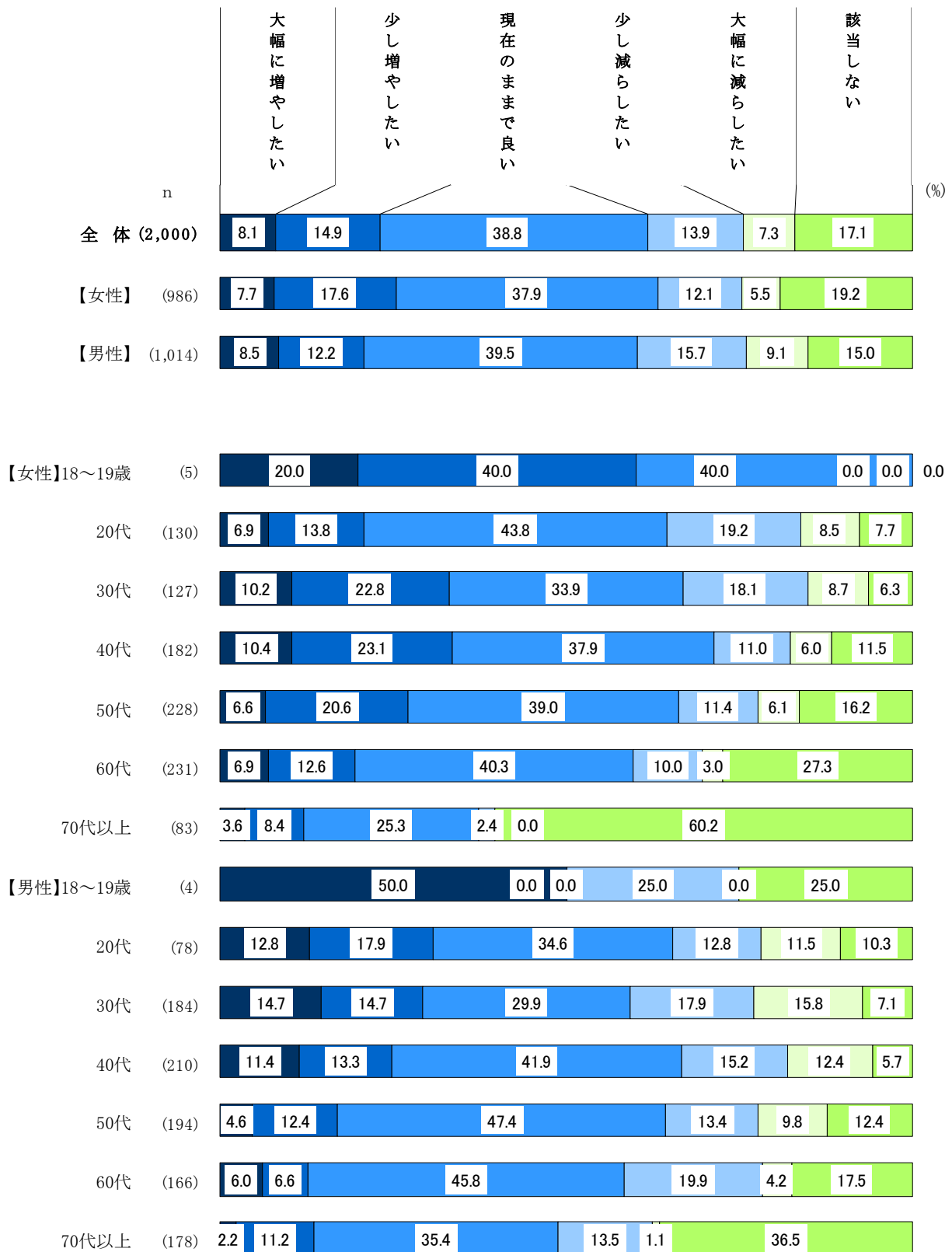
問21 ①仕事（収入を伴う仕事、学業等）の時間

- 男女ともに「現在のままで良い」が約4割
- 《増やしたい（計）》は20代・70代以上を除くすべての年代で女性が男性より高い

全体、男女ともに「現在のままで良い」（全体38.8%、女性37.9%、男性39.5%）が最も高くなっている。《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）は、女性（25.3%）が男性（20.7%）より4.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、《増やしたい（計）》は20代・70代以上を除くすべての年代で女性が男性より高くなっている。女性では《増やしたい（計）》が30代（33.0%）・40代（33.5%）で他年代に比べ高く、男性では《減らしたい（計）》（「少し減らしたい」と「大幅に減らしたい」の合計値）が30代（33.7%）・40代（27.6%）で、他世代と比べ高くなっている。

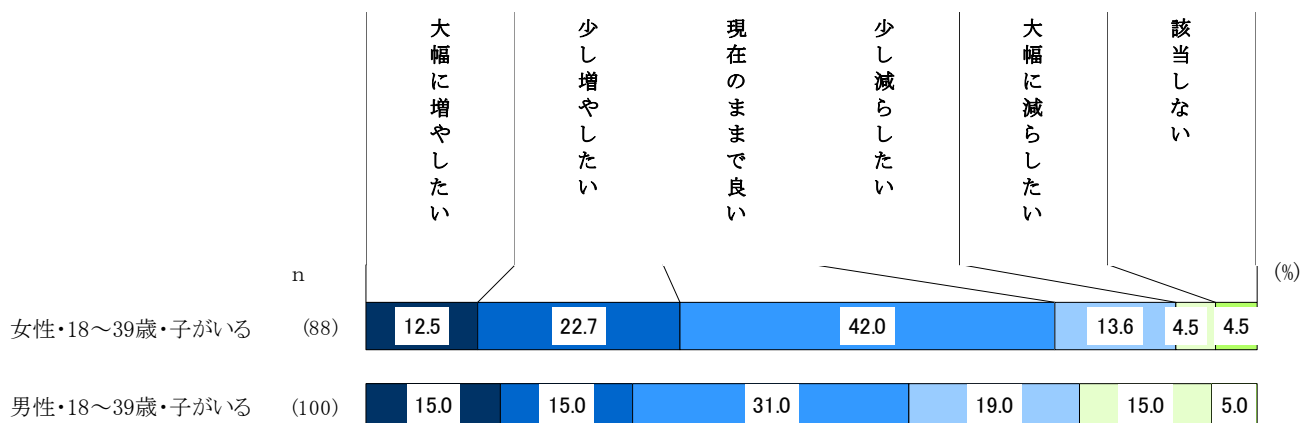
【問21 ①仕事（収入を伴う仕事、学業等）の時間】



◇性・年代の子ども有の場合

- 《増やしたい（計）》は女性が約4割、男性が3割
- 《減らしたい（計）》は女性が約2割、男性が3割以上

18～39歳の子どもがいる場合で見ると、男女ともに「現在のままで良い」（女性42.0%、男性31.0%）が最も高くなっている。《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）は、女性（35.2%）が男性（30.0%）より5.2ポイント高くなっている。一方、《減らしたい（計）》（「少し減らしたい」と「大幅に減らしたい」の合計値）は、男性（34.0%）が女性（18.1%）より15.9ポイント高くなっている。



問21 ②家事時間

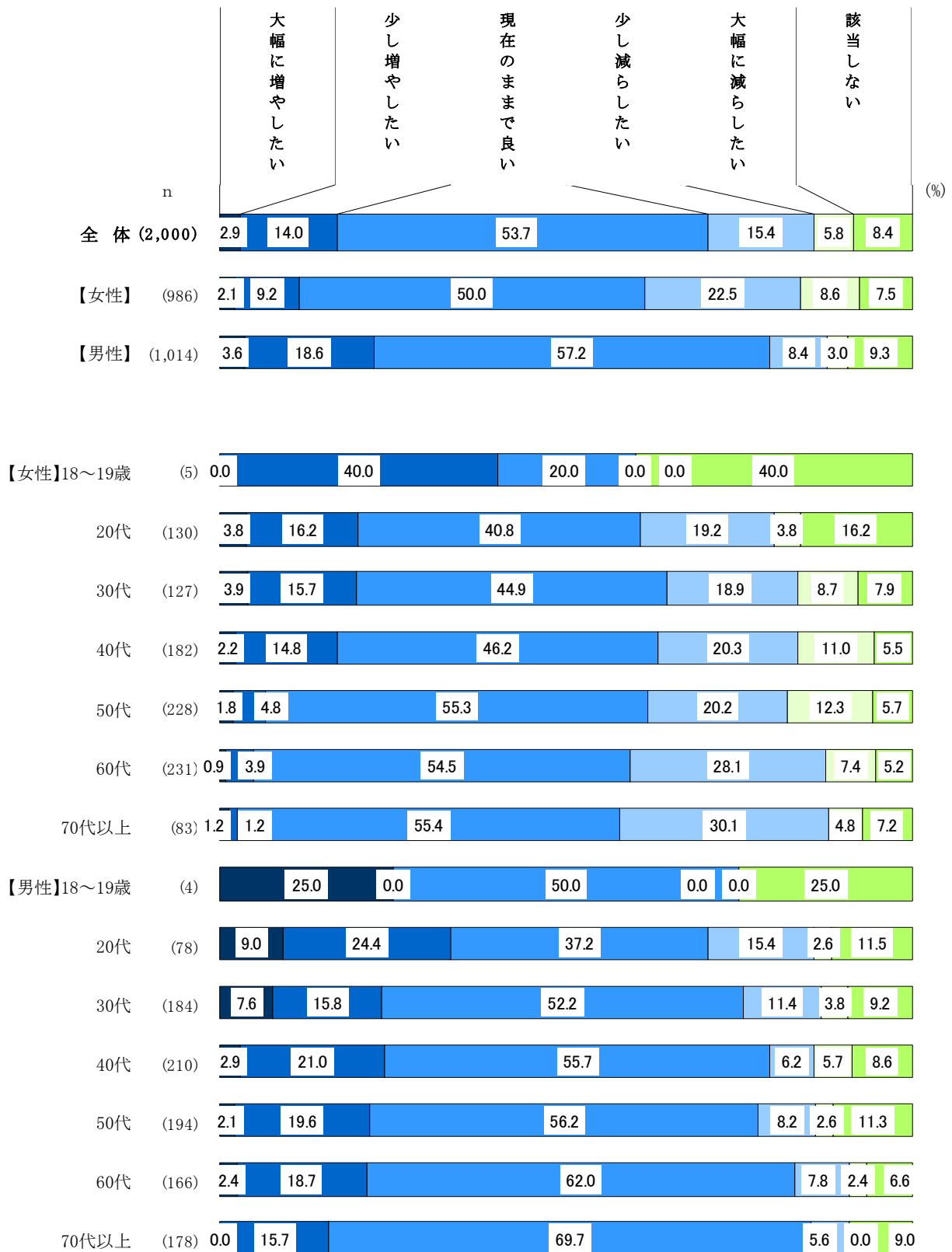
- 男女ともに「現在のままで良い」が過半数
- 《減らしたい（計）》はすべての年代で女性が男性より高い

全体、男女ともに「現在のままで良い」（全体53.7%、女性50.0%、男性57.2%）が最も高くなっており、過半数を占めている。《減らしたい（計）》（「少し減らしたい」と「大幅に減らしたい」の合計値）は、女性（31.1%）が男性（11.4%）より19.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、《減らしたい（計）》はすべての年代で女性が男性より高くなっている。一方で《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）が最も高かったのは20代男性（33.4%）となる。

男女問わず年代が上がるにつれ、《増やしたい（計）》は減少傾向にあり、20代が最も高くなっている。

【問21 ②家事時間】

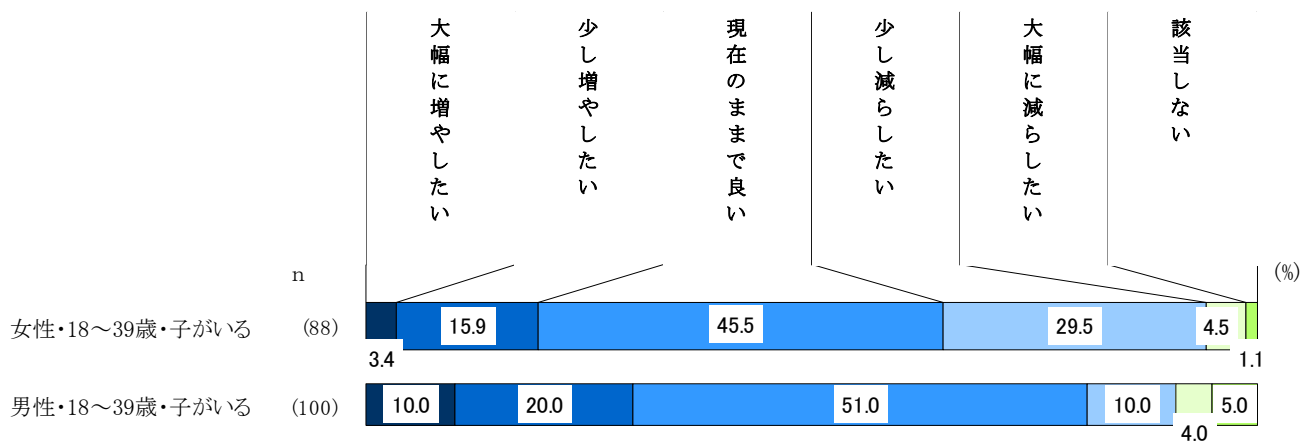


◇性・年代の子ども有の場合

●《増やしたい（計）》は男性が3割、女性が約2割

●《減らしたい（計）》は女性が3割以上、男性が1割以上

18～39歳の子どもがいる場合で見ると、男女ともに「現在のままで良い」（女性45.5%、男性51.0%）が最も高くなっている。《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）は、男性（30.0%）が女性（19.3%）より10.7ポイント高くなっている。一方、《減らしたい（計）》（「少し減らしたい」と「大幅に減らしたい」の合計値）は、女性（34.0%）が男性（14.0%）より20.0ポイント高くなっている。



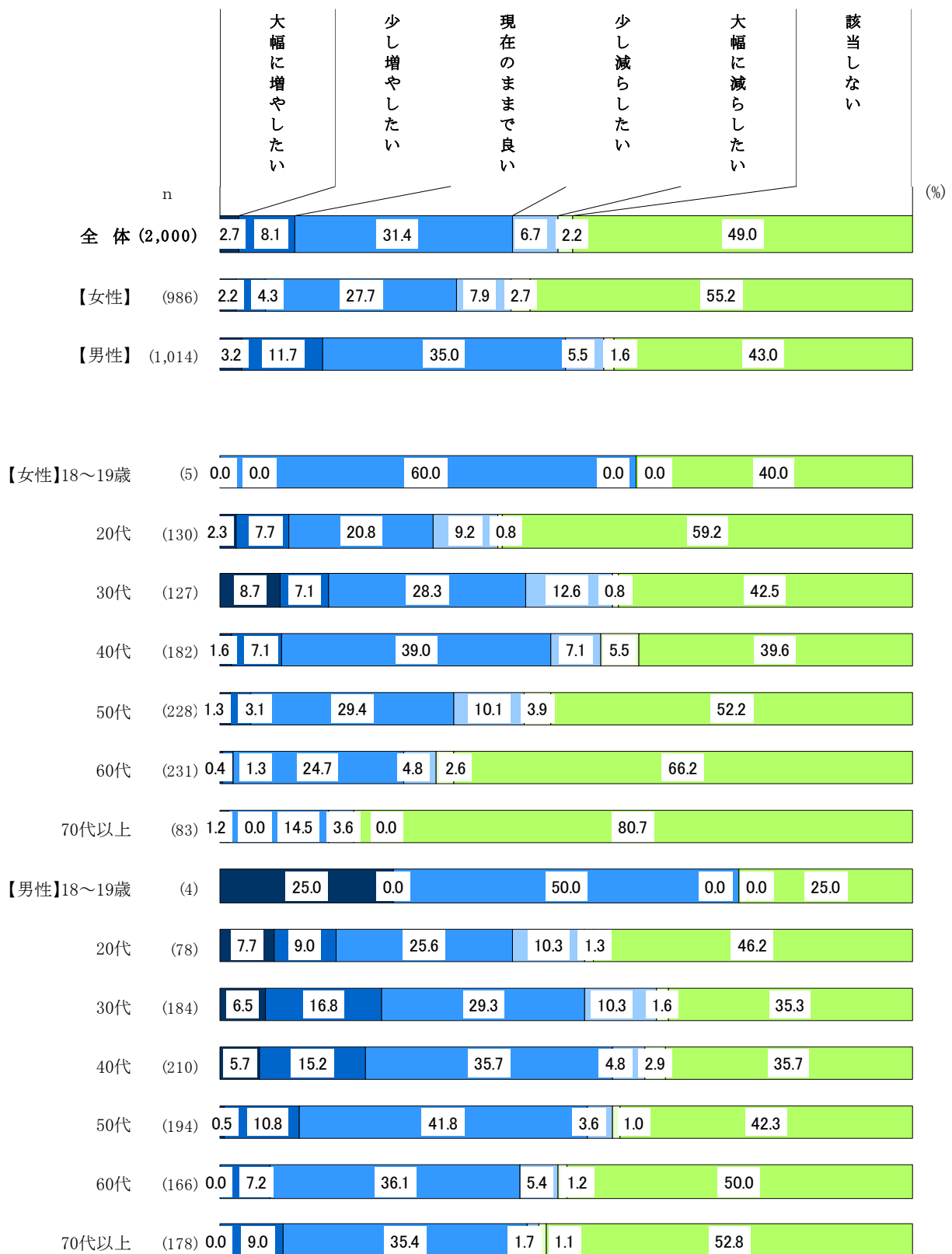
問21 ③育児・子育て時間

- 《増やしたい（計）》は男性の方が高い
- 《減らしたい（計）》は20代を除くすべての年代で女性の方が高い

全体、男女ともに「該当しない」を除くと「現在のままで良い」（全体31.4%、女性27.7%、男性35.0%）が最も高くなっている。《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）は、男性（14.9%）が女性（6.5%）より8.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、《増やしたい（計）》はすべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差は《増やしたい（計）》で40代（女性8.7%、男性20.9%）が12.2ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。一方、《減らしたい（計）》（「大幅に減らしたい」と「少し減らしたい」の合計値）は、20代を除くすべての年代で女性が男性より高くなっている。

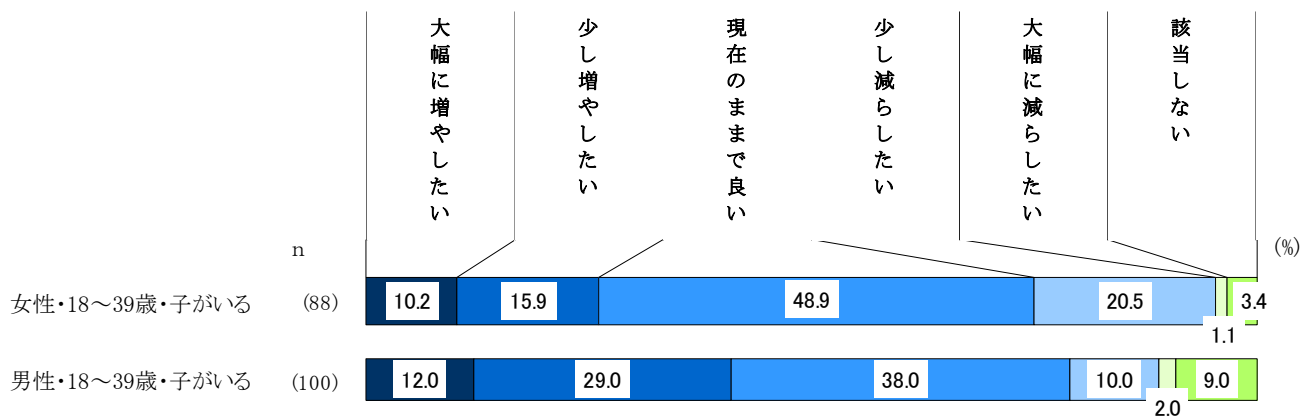
【問21 ③育児・子育て時間】



◇性・年代の子ども有の場合

- 《増やしたい（計）》は女性が約3割、男性が4割以上
- 《減らしたい（計）》は女性が2割以上、男性が1割以上

18～39歳の子どもがいる場合で見ると、男女ともに「現在のままで良い」（女性48.9%、男性38.0%）が最も高くなっている。《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）は、男性（41.0%）が女性（26.1%）より14.9ポイント高くなっている。一方、《減らしたい（計）》（「少し減らしたい」と「大幅に減らしたい」の合計値）は、女性（21.6%）が男性（12.0%）より9.6ポイント高くなっている。



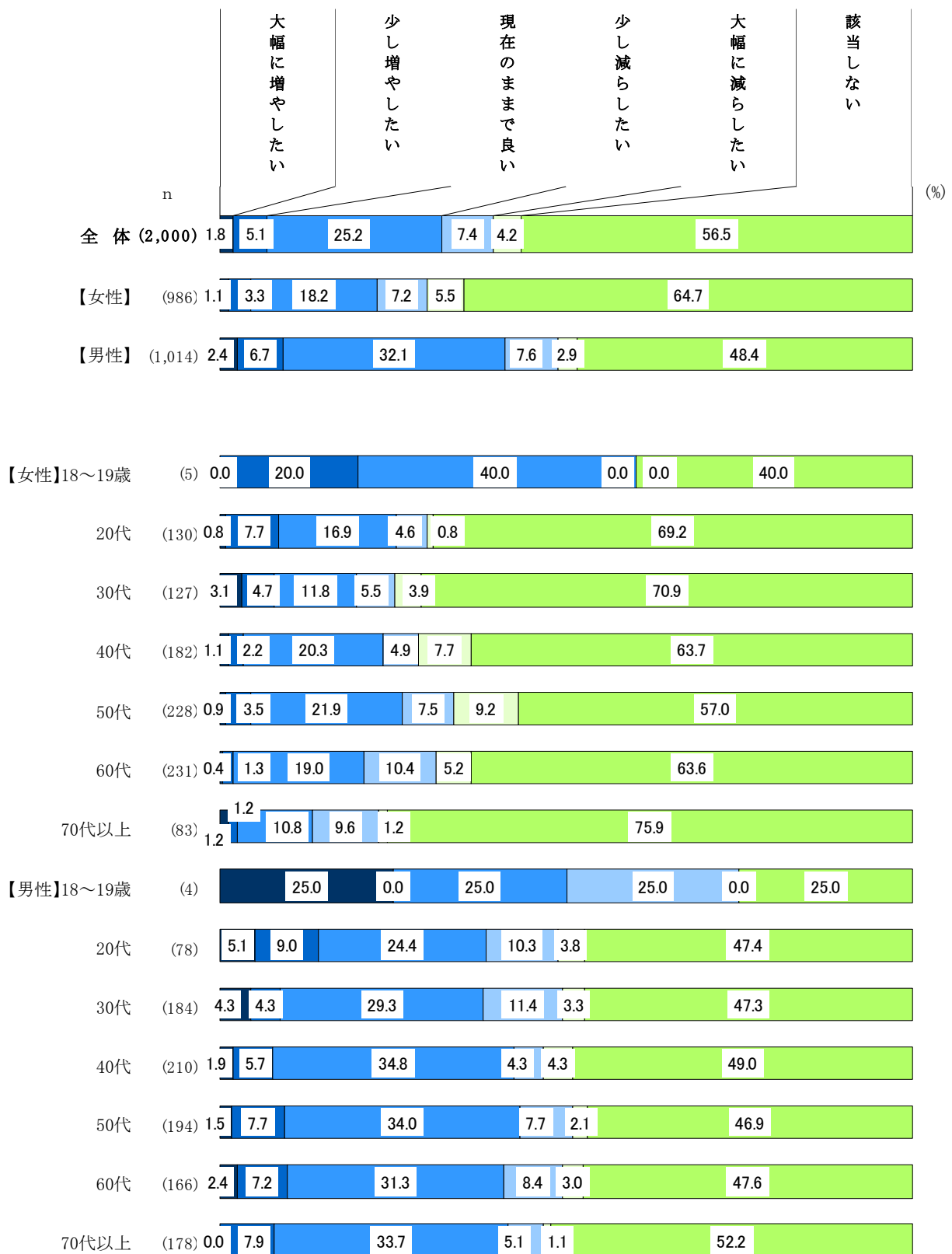
問21 ④介護時間

●《増やしたい（計）》はすべての年代で男性の方が高い

全体、男女ともに「該当しない」を除くと「現在のままで良い」（全体25.2%、女性18.2%、男性32.1%）が最も高くなっている。《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）は、男性（9.1%）が女性（4.4%）より4.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、《増やしたい（計）》はすべての年代で男性が女性より高くなっており、《減らしたい（計）》（「少し減らしたい」と「大幅に減らしたい」の合計値）は20代・30代を除くすべての年代で男性より女性が高くなっている。男女差は《減らしたい（計）》で20代（女性5.4%、男性14.1%）が8.7ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。

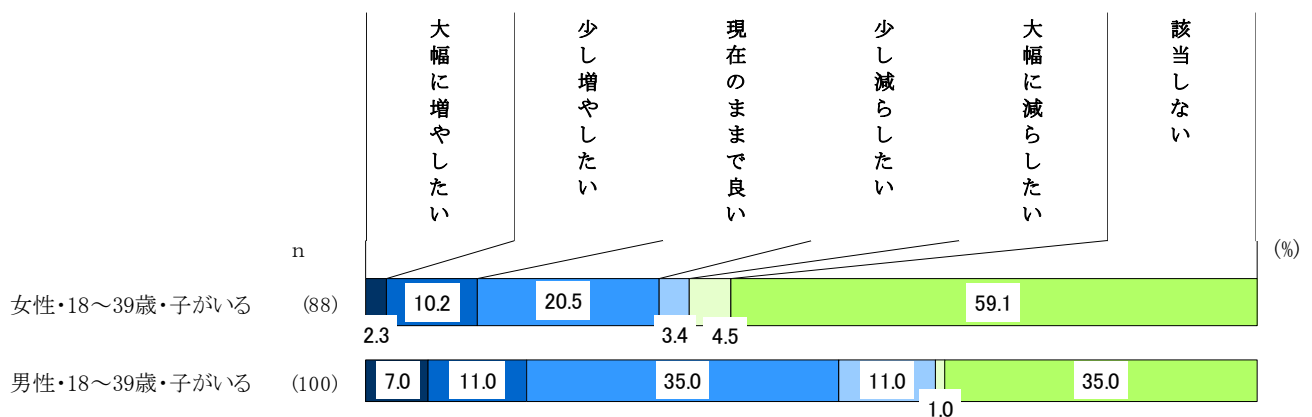
【問21 ④介護時間】



◇性・年代の子ども有の場合

●《増やしたい（計）》は女性が1割以上、男性が約2割

18～39歳の子どもがいる場合で見ると、男女ともに「該当しない」（女性59.1％、男性35.0％）が最も高くなっている（男性は「現在のままで良い」と同値）。《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）は、男性（18.0％）が女性（12.5％）より5.5ポイント高くなっている。《減らしたい（計）》（「少し減らしたい」と「大幅に減らしたい」の合計値）は、男性（12.0％）が女性（7.9％）より4.1ポイント高くなっている。



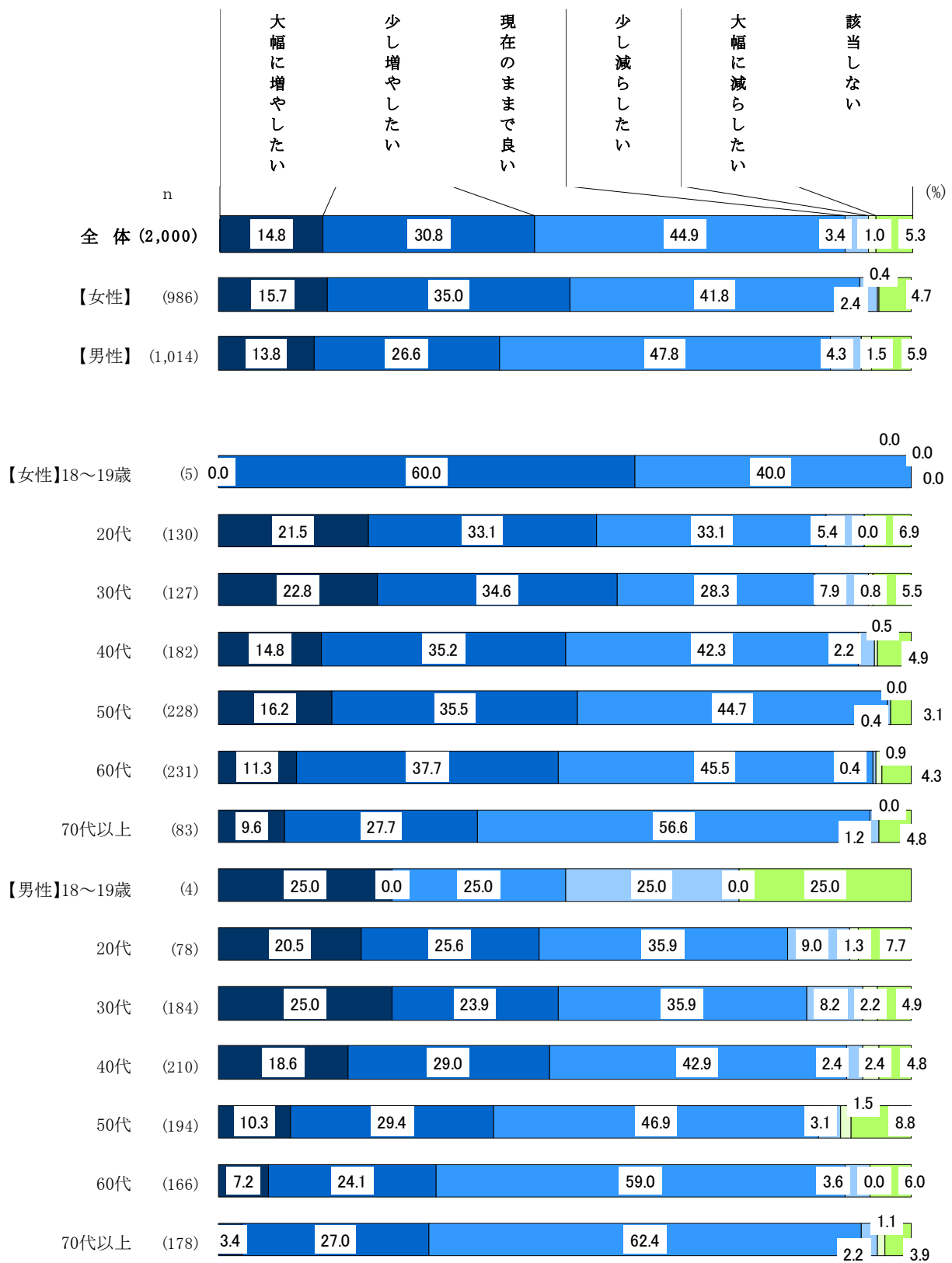
問21 ⑤自分のことに使う時間（趣味、自己啓発、くつろぎ等）

- 《増やしたい（計）》は女性の方が高い
- 《増やしたい（計）》は60代の男女差が大きく、男女とも若い世代ほど高い

全体、男女ともに「現在のままで良い」（全体44.9%、女性41.8%、男性47.8%）が最も高くなっている。《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）は、女性（50.7%）が男性（40.4%）より10.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「現在のままで良い」は男女ともに70代以上（女性56.6%、男性62.4%）で最も高くなっている。《増やしたい（計）》はすべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は《増やしたい（計）》で60代（女性49.0%、男性31.3%）が17.7ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。男女とも若い世代ほど《増やしたい（計）》が高い傾向にある。

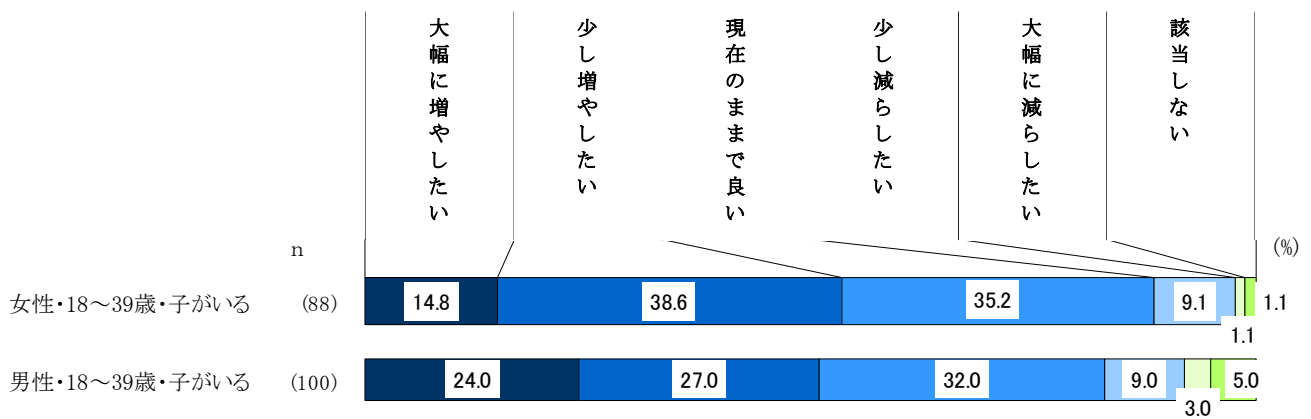
【問21 ⑤自分のことに使う時間（趣味、自己啓発、くつろぎ等）】



◇性・年代の子ども有の場合

●《増やしたい（計）》は男女ともに5割以上で同程度

18～39歳の子どもがいる場合で見ると、女性は「少し増やしたい」（38.6％）が最も高く、男性は「現在のままで良い」（32.0％）が最も高くなっている。《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）は、男女ともに同程度だが、女性（53.4％）が男性（51.0％）より2.4ポイント高くなっている。一方、《減らしたい（計）》（「少し減らしたい」と「大幅に減らしたい」の合計値）は、男女ともに同程度だが、男性（12.0％）が女性（10.2％）より1.8ポイント高くなっている。



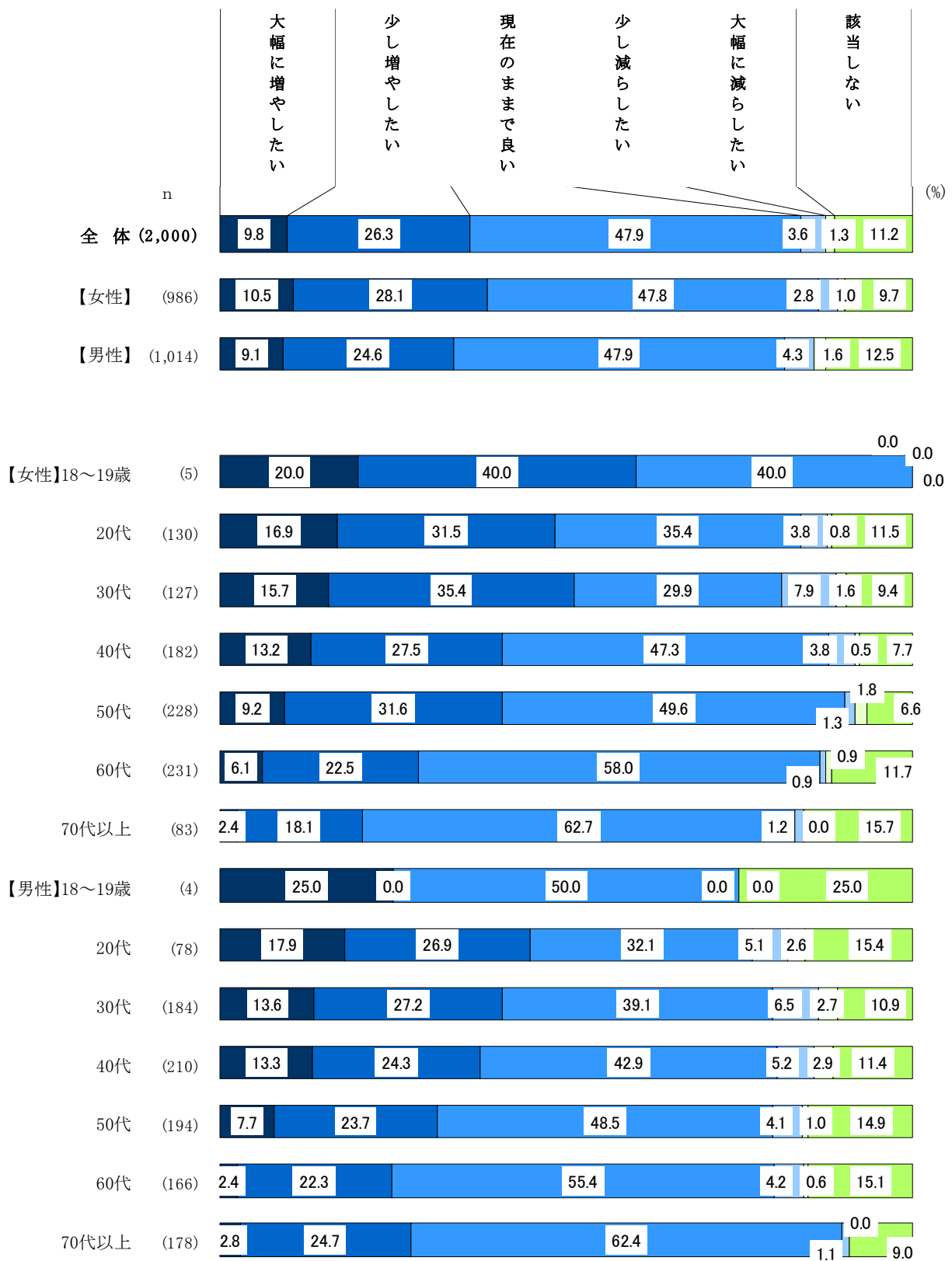
問21 ⑥家族と遊んだり、くつろいだりする時間

- 《増やしたい（計）》は女性の方が高い
- 《増やしたい（計）》は30代の男女差が大きく、男女とも若い世代ほど高い

全体、男女ともに「現在のままで良い」（全体47.9%、女性47.8%、男性47.9%）が最も高くなっている。《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）は、女性（38.6%）が男性（33.7%）より4.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「現在のままで良い」は男女ともに70代以上（女性62.7%、男性62.4%）で最も高く、6割以上となっている。《増やしたい（計）》は70代以上を除くすべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は《増やしたい（計）》で30代（女性51.1%、男性40.8%）が10.3ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。男女とも若い世代ほど《増やしたい（計）》が高い傾向にある。

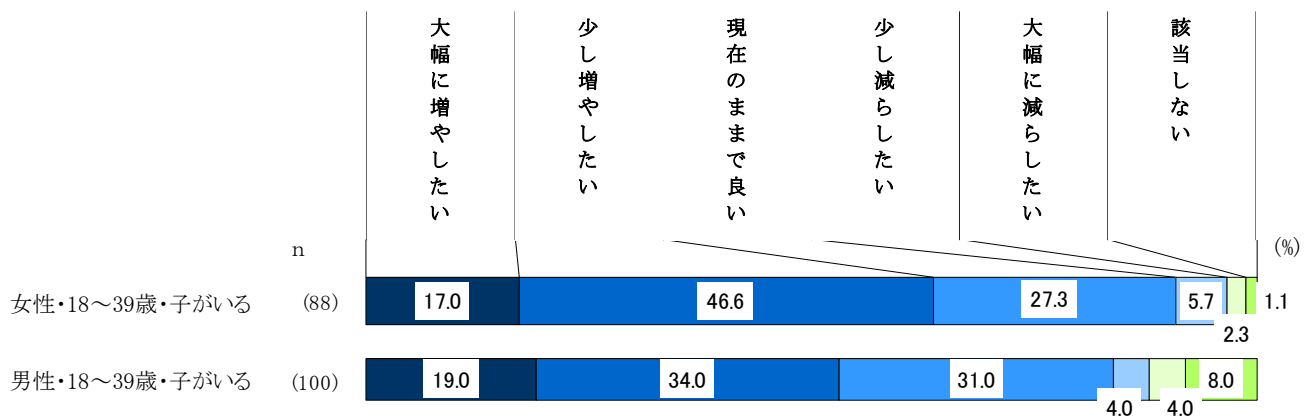
【問21 ⑥家族と遊んだり、くつろいだりする時間】



◇性・年代の子ども有の場合

●《増やしたい（計）》は女性6割以上、男性5割以上

18～39歳の子どもがいる場合で見ると、男女ともに「少し増やしたい」（女性46.6%、男性34.0%）が最も高くなっている。《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）は、女性（63.6%）が男性（53.0%）より10.6ポイント高くなっている。また、《減らしたい（計）》（「少し減らしたい」と「大幅に減らしたい」の合計値）は、男女ともに同値（女性8.0%、男性8.0%）となっている。



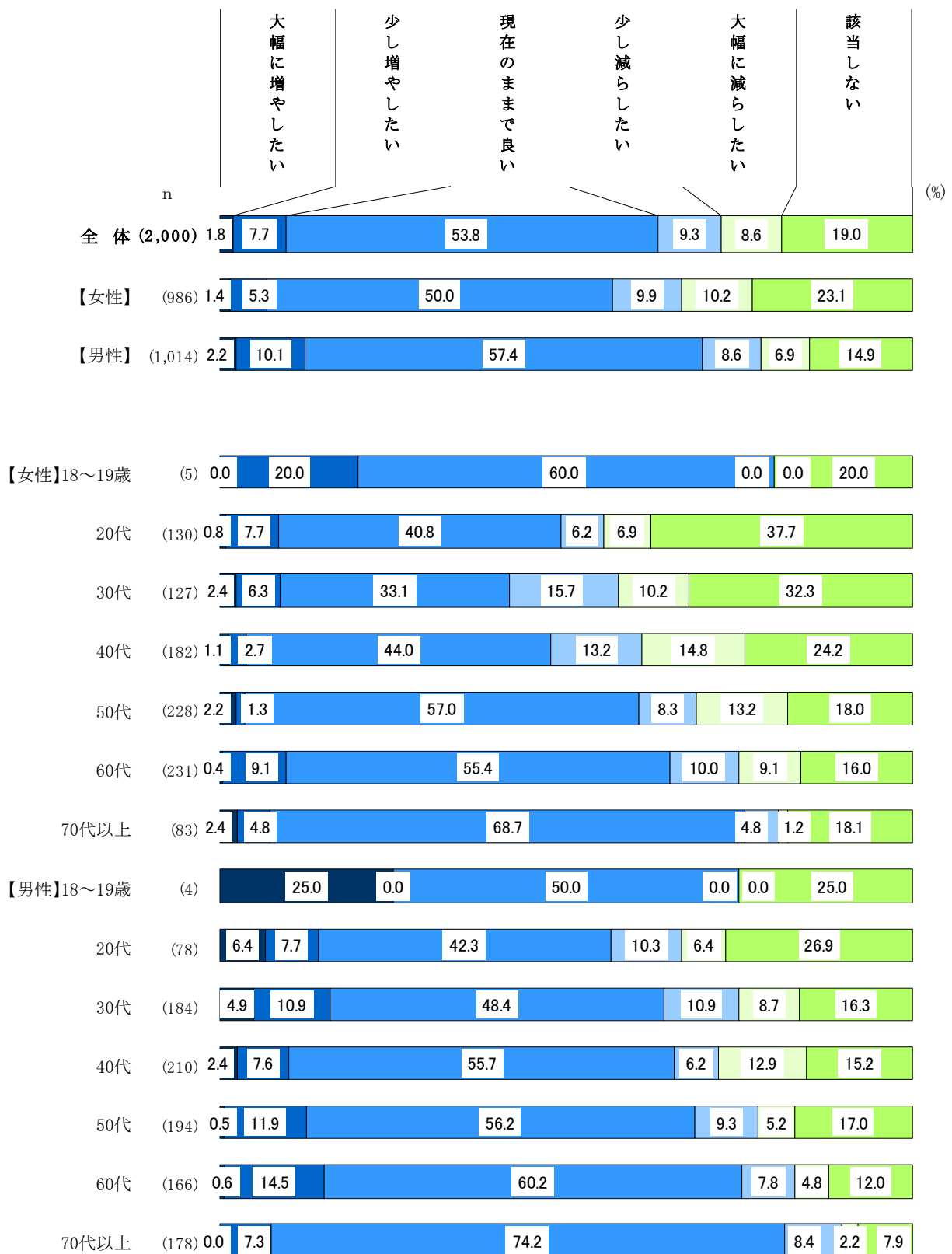
問21 ⑦地域活動の時間

- 男女ともに「現在のままで良い」が5割台
- 《増やしたい（計）》は50代の男女差が大きい

全体、男女ともに「現在のままで良い」（全体53.8%、女性50.0%、男性57.4%）が最も高くなっている。《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）は、女性（6.7%）が男性（12.3%）より5.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「現在のままで良い」は男女ともに70代以上（女性68.7%、男性74.2%）で最も高くなっている。《増やしたい（計）》はすべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差は《増やしたい（計）》で50代（女性3.5%、男性12.4%）が8.9ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。

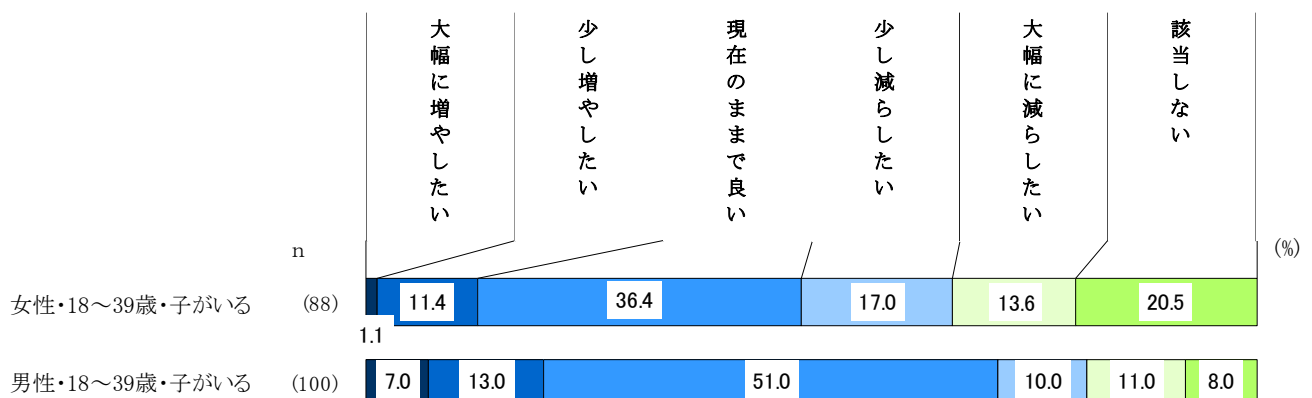
【問21 ⑦地域活動の時間】



◇性・年代の子ども有の場合

- 《増やしたい（計）》は男性のほうが高い
- 《減らしたい（計）》は女性のほうが高い

18～39歳の子どもがいる場合で見ると、男女ともに「現在のままで良い」（女性36.4%、男性51.0%）が最も高くなっている。《増やしたい（計）》（「大幅に増やしたい」と「少し増やしたい」の合計値）は、男性（20.0%）が女性（12.5%）より7.5ポイント高くなっている。一方、《減らしたい（計）》（「少し減らしたい」と「大幅に減らしたい」の合計値）は、女性（30.6%）が男性（21.0%）より9.6ポイント高くなっている。



(4) これまでの働き方

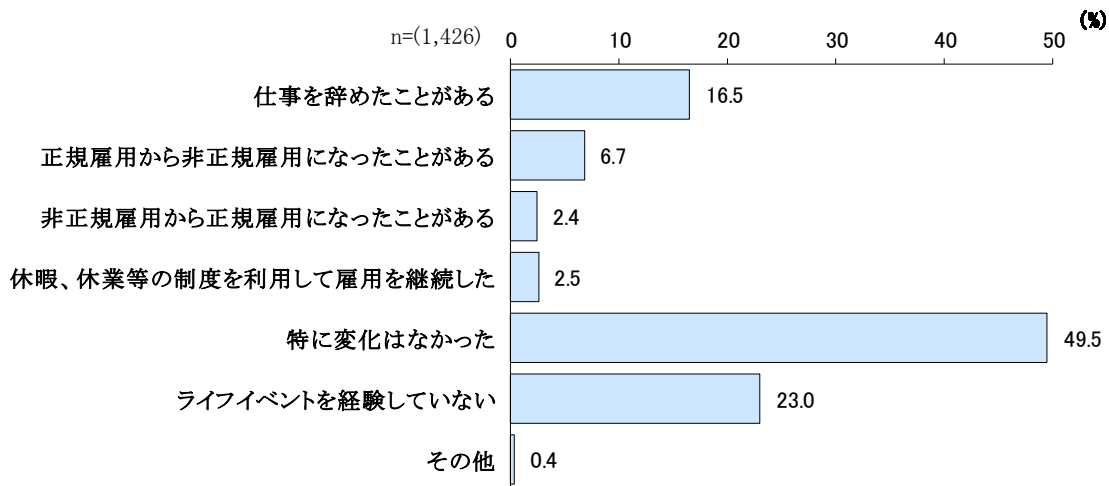
※現在働いている方のみ

問22-1 あなたの働き方が変化したことがありますか。以下のライフイベントに当てはまるものを全てお選びください。(あてはまるものを全て選択可)

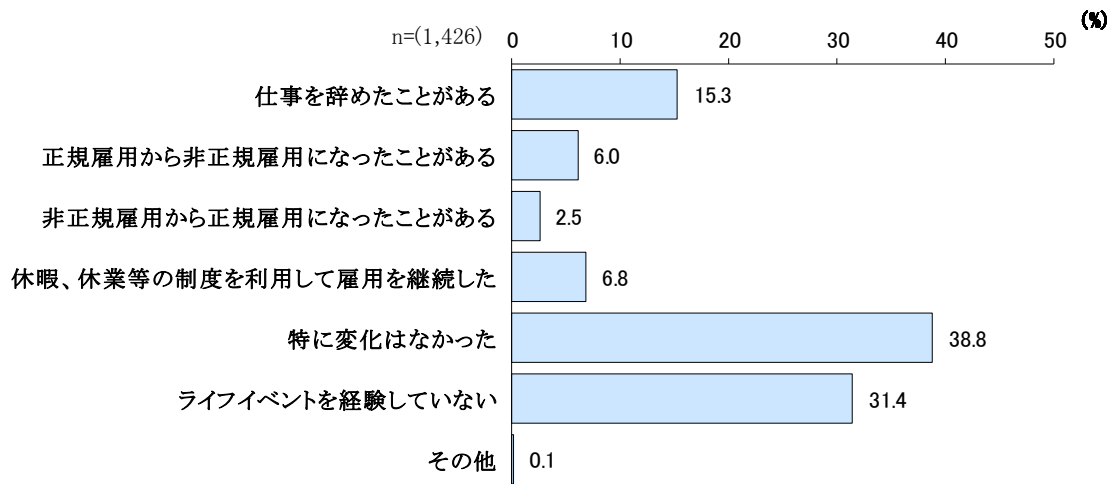
- すべての項目で「特に変化はなかった」が最も高い
- 『介護』を除き「仕事を辞めたことがある」が高い

全体では、「ライフイベントを経験していない」を除き、すべての項目で「特に変化はなかった」が高く、特に『結婚』(49.5%)が約5割と最も高く、『出産』(38.8%)、『育児・子育て』(40.5%)、『介護』(37.2%)も約4割と高くなっている。続いて『介護』を除き「仕事を辞めたことがある」が高く、特に『結婚』(16.5%)、『出産(ご自身または配偶者の出産)』(15.3%)がそれぞれ約2割と高くなっている。一方、「ライフイベントを経験していない」は『介護』(48.0%)で約5割となっている。

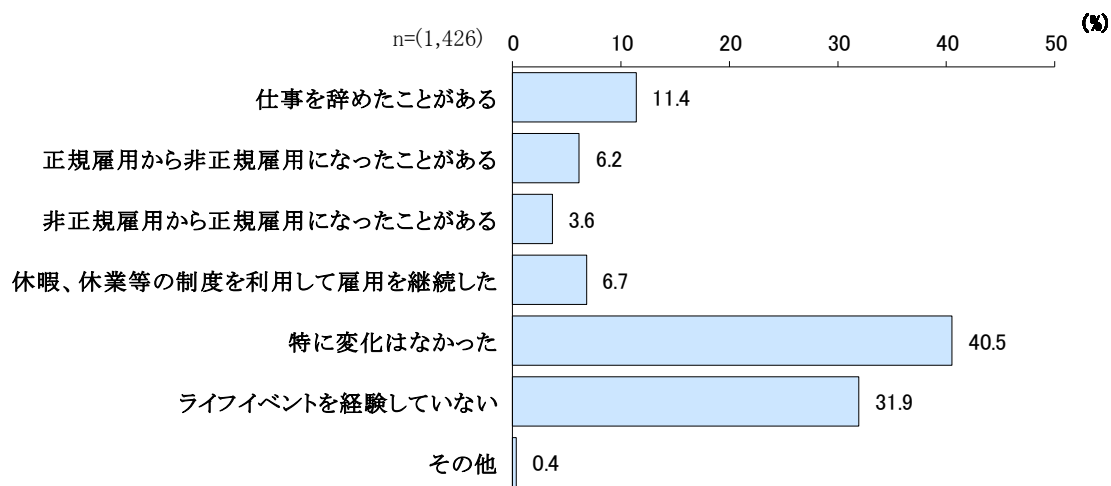
【① 結婚】



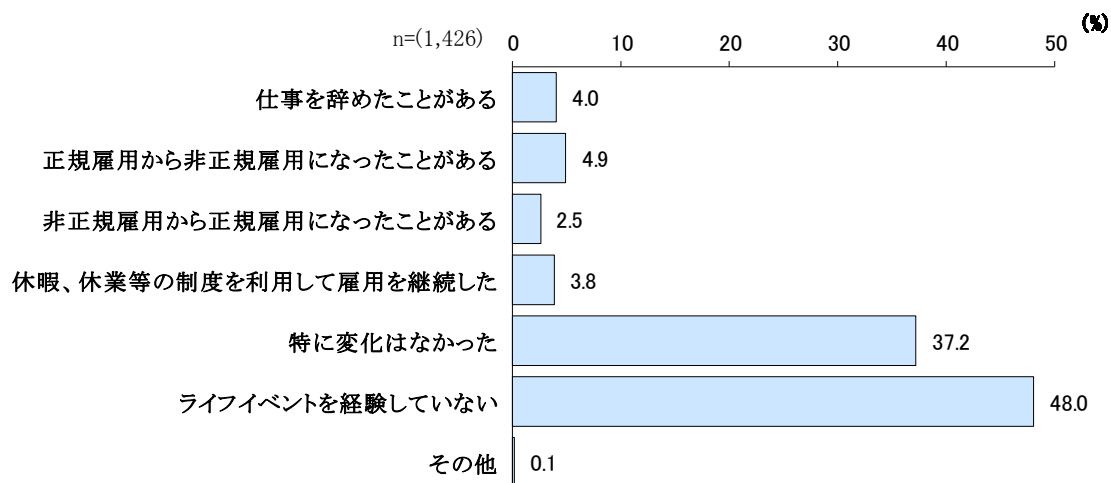
【② 出産（ご自身または配偶者の出産）】



【③ 育児・子育て】



【④ 介護】



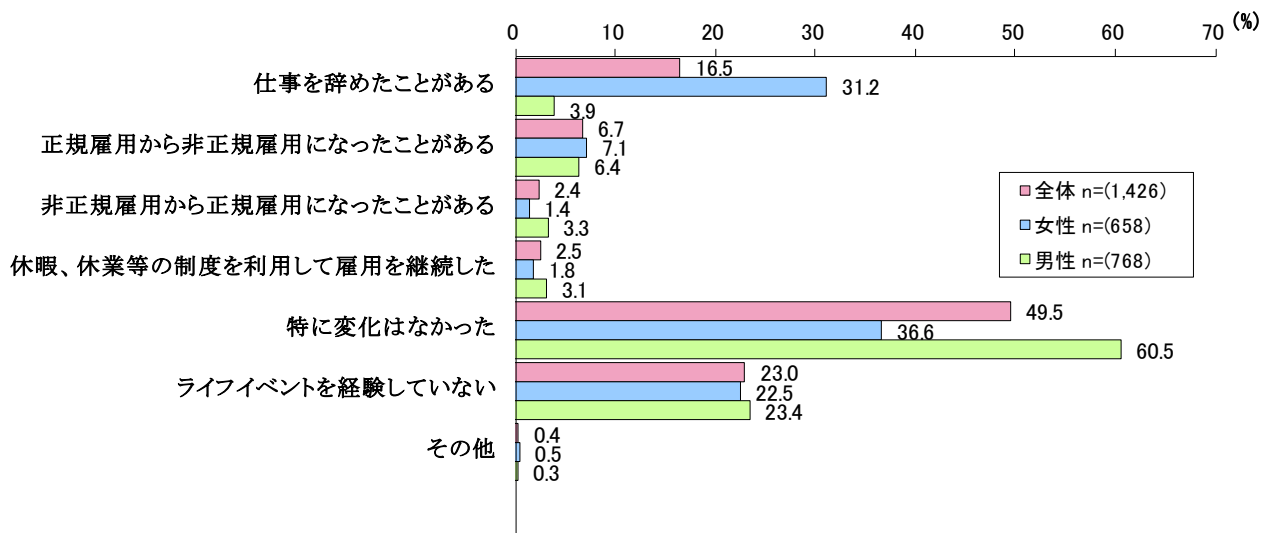
問 22-1 ①結婚

- 「仕事を辞めた」は女性が高く、「特に変化はなかった」は男性が高い
- 「仕事を辞めた」「特に変化はなかった」で男女差が大きい

「ライフイベントを経験していない」を除き、男女とも「特に変化はなかった」（全体49.5%、女性36.6%、男性60.5%）が最も高くなっているが、次に高い項目は、全体、女性が「仕事を辞めたことがある」（全体16.5%、女性31.2%）で、男性は「正規雇用から非正規雇用になったことがある」（6.4%）となっている。

「仕事を辞めたことがある」は女性が男性（3.9%）より27.3ポイント、「特に変化はなかった」は女性が男性より23.9ポイント高く、男女差が大きくなっている。

「ライフイベントを経験していない」は、全体、女性、男性いずれも2割以上となっている。



◇性・年代別

- 女性は50代以上で「仕事を辞めたことがある」が高い
- 男性は30代以上で「特に変化はなかった」が高い

「ライフイベントを経験したことがない」を除き、性・年代別で見ると、女性は50代・60代・70代以上では「仕事を辞めたことがある」（70代以上は「特に変化はなかった」と同値）、20代・30代・40代では「特に変化はなかった」がそれぞれ高くなっている。男性はすべての年代で「特に変化はなかった」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	-	103	107	141	165	126	16
仕事を辞めたことがある	-	7.8	17.8	31.9	40.0	48.4	37.5
正規雇用から非正規雇用になったことがある	-	8.7	8.4	7.1	5.5	7.1	6.3
非正規雇用から正規雇用になったことがある	-	-	2.8	3.5	-	0.8	-
休暇、休業等の制度を利用して雇用を継続した	-	-	-	1.4	4.2	1.6	6.3
特に変化はなかった	-	26.2	46.7	41.1	36.4	31.7	37.5
ライフイベントを経験していない	-	58.3	24.3	17.0	13.3	11.1	12.5
その他	-	-	-	0.7	1.2	-	-

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	58	166	195	179	118	49
仕事を辞めたことがある	-	6.9	6.0	4.1	1.7	2.5	4.1
正規雇用から非正規雇用になったことがある	33.3	6.9	9.0	6.2	7.3	2.5	2.0
非正規雇用から正規雇用になったことがある	-	3.4	5.4	2.6	3.9	1.7	-
休暇、休業等の制度を利用して雇用を継続した	-	1.7	2.4	2.6	2.8	6.8	2.0
特に変化はなかった	66.7	29.3	50.0	56.4	67.0	78.0	83.7
ライフイベントを経験していない	-	51.7	27.1	29.2	19.0	8.5	8.2
その他	-	-	-	0.5	0.6	-	-

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

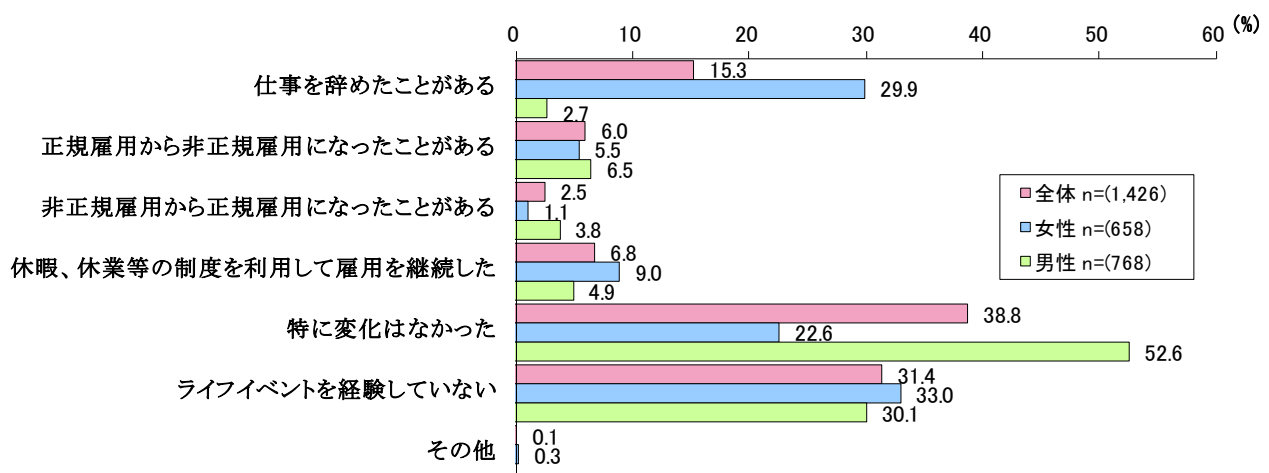
問 22-1 ②出産（ご自身または配偶者の出産）

- 「仕事を辞めた」は女性が高く、「特に変化はなかった」は男性が高い
- 「仕事を辞めた」「特に変化はなかった」で男女差が大きい

「ライフイベントを経験していない」を除き、女性は「仕事を辞めたことがある」（29.9％）が最も高く、男性は「特に変化はなかった」（52.6％）が最も高くなっている。

「仕事を辞めたことがある」は女性が男性（2.7％）より27.2ポイント高くなっている。一方、「特に変化はなかった」（女性22.6％）は、女性は2割以上、男性は5割以上で、男性が30.0ポイント高くなっている。

「ライフイベントを経験していない」は、全体、女性、男性いずれも3割台となっている。



◇性・年代別

- 女性は40代・50代・60代で「仕事を辞めたことがある」が高い
- 男性は30代以上で「特に変化はなかった」が高い

「ライフイベントを経験したことがない」を除き、性・年代別で見ると、女性は40代・50代・60代では「仕事を辞めたことがある」、20代・30代・70代以上では「特に変化はなかった」がそれぞれ最も高くなっている。男性はすべての年代で「特に変化はなかった」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	-	103	107	141	165	126	16
仕事を辞めたことがある	-	2.9	15.0	36.9	40.0	44.4	25.0
正規雇用から非正規雇用になったことがある	-	8.7	4.7	6.4	4.2	4.8	-
非正規雇用から正規雇用になったことがある	-	-	1.9	2.1	0.6	0.8	-
休暇、休業等の制度を利用して雇用を継続した	-	7.8	13.1	9.9	7.3	5.6	25.0
特に変化はなかった	-	17.5	17.8	18.4	24.2	32.5	31.3
ライフイベントを経験していない	-	63.1	47.7	27.7	25.5	13.5	18.8
その他	-	-	-	1.4	-	-	-

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	58	166	195	179	118	49
仕事を辞めたことがある	-	10.3	2.4	3.6	0.6	2.5	-
正規雇用から非正規雇用になったことがある	-	6.9	10.8	6.7	7.3	1.7	-
非正規雇用から正規雇用になったことがある	33.3	3.4	5.4	2.6	4.5	2.5	2.0
休暇、休業等の制度を利用して雇用を継続した	-	3.4	7.8	3.6	3.9	6.8	2.0
特に変化はなかった	66.7	24.1	41.0	51.3	57.0	68.6	75.5
ライフイベントを経験していない	-	53.4	32.5	34.4	26.8	17.8	20.4
その他	-	-	-	-	-	-	-

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

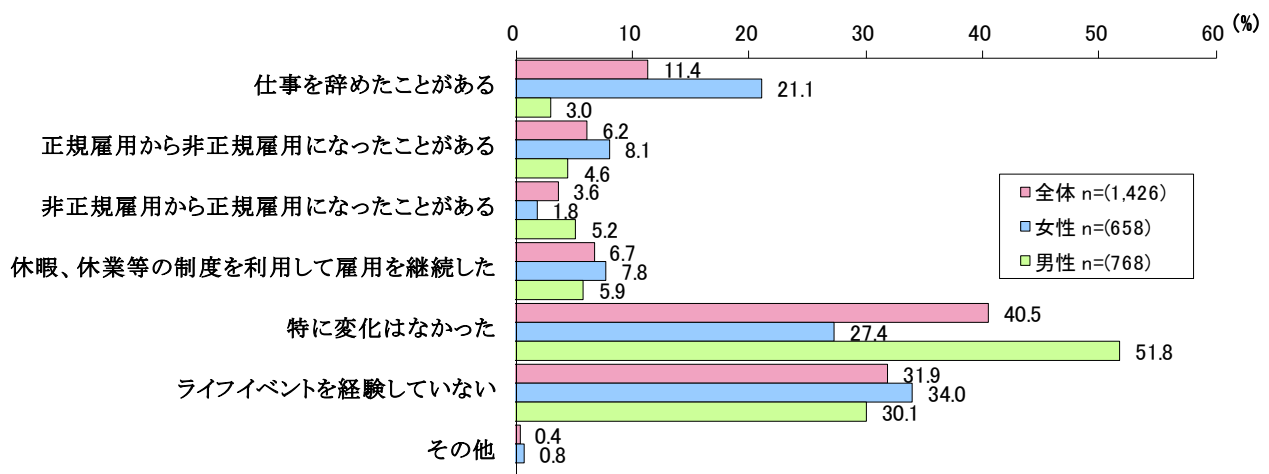
問 22-1 ③育児・子育て

- 「仕事を辞めた」は女性が高く、「特に変化はなかった」は男性が高い
- 「仕事を辞めた」「特に変化はなかった」で男女差が大きい

「ライフイベントを経験していない」を除き、全体、男女とも「特に変化はなかった」が最も高く、次に全体、女性は「仕事を辞めたことがある」（全体11.4%、女性21.1%）、男性は「休暇、休業等の制度を利用して雇用を継続した」（5.9%）が高くなっている。

「仕事を辞めたことがある」は女性が男性（3.0%）より18.1ポイント、「特に変化はなかった」は、女性は約3割、男性は5割以上で、男性が24.4ポイント高く、男女差が大きくなっている。

「ライフイベントを経験していない」は、全体、女性、男性いずれも3割台となっている。



◇性・年代別

- 女性は60代で「仕事を辞めたことがある」が高い
- 男性は30代以上で「特に変化はなかった」が高い

「ライフイベントを経験していない」を除き、性・年代別で見ると、女性は60代を除くすべての年代で「特に変化はなかった」、60代では「仕事を辞めたことがある」がそれぞれ最も高くなっている。男性はすべての年代で「特に変化はなかった」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	-	103	107	141	165	126	16
仕事を辞めたことがある	-	3.9	9.3	23.4	27.3	35.7	12.5
正規雇用から非正規雇用になったことがある	-	6.8	6.5	11.3	7.3	7.9	6.3
非正規雇用から正規雇用になったことがある	-	-	1.9	2.1	1.8	3.2	-
休暇、休業等の制度を利用して雇用を継続した	-	7.8	11.2	9.2	5.5	4.8	18.8
特に変化はなかった	-	16.5	22.4	24.1	32.7	34.9	43.8
ライフイベントを経験していない	-	65.0	48.6	29.1	25.5	15.1	18.8
その他	-	-	-	1.4	1.8	-	-

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

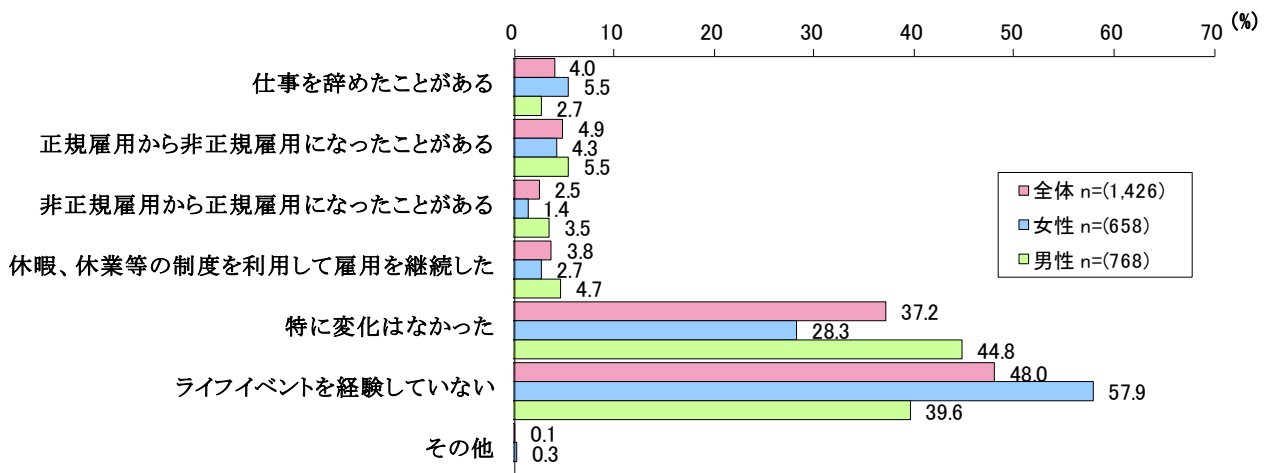
男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	58	166	195	179	118	49
仕事を辞めたことがある	-	8.6	4.2	4.1	-	2.5	-
正規雇用から非正規雇用になったことがある	-	6.9	6.0	3.6	6.1	1.7	2.0
非正規雇用から正規雇用になったことがある	33.3	5.2	9.0	6.2	4.5	0.8	-
休暇、休業等の制度を利用して雇用を継続した	-	3.4	7.2	6.2	4.5	9.3	-
特に変化はなかった	66.7	24.1	41.0	45.6	58.7	67.8	81.6
ライフイベントを経験していない	-	53.4	32.5	35.4	26.8	17.8	16.3
その他	-	-	-	-	-	-	-

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

問 22-1 ④介護

●男女とも「特に変化はなかった」が高い

「ライフイベントを経験していない」を除き、全体、男女ともに「特に変化はなかった」（女性28.3%、男性44.8%）が最も高く、女性は約3割、男性は4割以上で、男性が16.5ポイント高くなっている。「ライフイベントを経験していない」は、女性が約6割、男性が約4割となっている。そのほかは男女とも1割未満となっている。



◇性・年代別

●男女ともにすべての年代で「特に変化はなかった」が高い

「ライフイベントを経験していない」を除き、性・年代別で見ると、男女ともにすべての年代で「特に変化はなかった」がそれぞれ最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	-	103	107	141	165	126	16
仕事を辞めたことがある	-	1.9	3.7	3.5	4.8	11.9	12.5
正規雇用から非正規雇用になったことがある	-	7.8	2.8	2.1	4.8	4.8	-
非正規雇用から正規雇用になったことがある	-	1.9	2.8	2.1	-	0.8	-
休暇、休業等の制度を利用して雇用を継続した	-	-	0.9	2.1	3.0	5.6	12.5
特に変化はなかった	-	16.5	20.6	24.1	32.7	41.3	43.8
ライフイベントを経験していない	-	71.8	69.2	65.2	53.9	37.3	31.3
その他	-	-	-	0.7	0.6	-	-

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	58	166	195	179	118	49
仕事を辞めたことがある	-	8.6	1.8	2.1	2.2	4.2	-
正規雇用から非正規雇用になったことがある	-	5.2	9.0	4.6	7.3	1.7	-
非正規雇用から正規雇用になったことがある	33.3	5.2	6.0	2.1	3.9	0.8	2.0
休暇、休業等の制度を利用して雇用を継続した	-	3.4	6.6	5.1	2.2	5.9	4.1
特に変化はなかった	66.7	22.4	33.1	40.0	52.5	59.3	65.3
ライフイベントを経験していない	-	56.9	44.0	46.7	33.5	28.0	28.6
その他	-	-	-	-	-	-	-

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

(5) 職場における男女間の不公平・未整備の状況

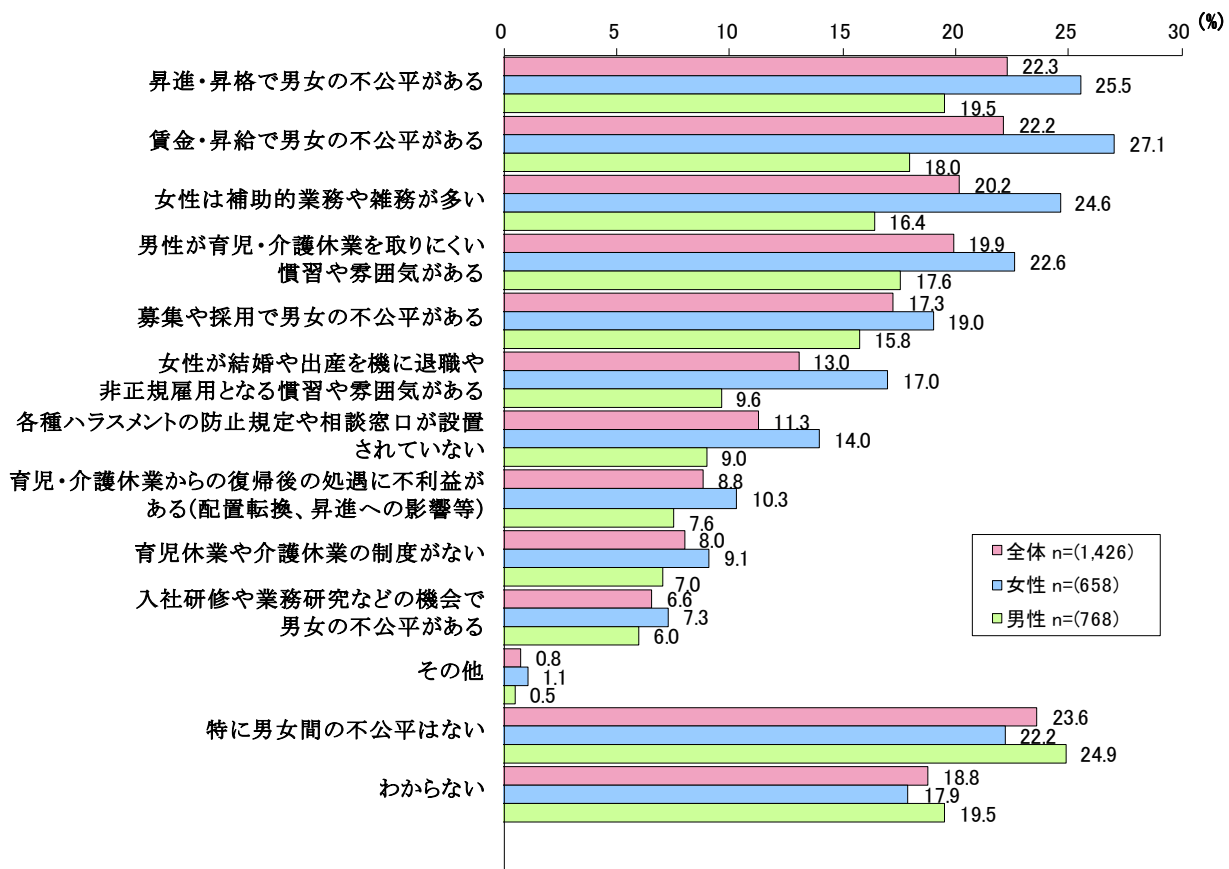
※現在働いている方

問22-2 あなたの職場では、次のような男女間の不公平や、制度の未整備はありますか。(あてはまるものを全て選択可)

- 「昇進・昇格で男女の不公平がある」「賃金・昇給で男女の不公平がある」「女性は補助的業務や雑務が多い」が2割台。「特に男女の不公平はない」が2割以上
- 女性は「賃金・昇給で男女の不公平がある」、男性は「特に男女間の不公平はない」が最も高い

全体では、「昇進・昇格で男女の不公平がある」(22.3%)が高く、次いで「賃金・昇給で男女の不公平がある」(22.2%)、「女性は補助的業務や雑務が多い」(20.2%)となっている。一方、「特に男女間の不公平はない」(23.6%)も2割以上となっている。上記4項目以外はいずれも2割未満となっている。

性別で見ると、女性は「賃金・昇給で男女の不公平がある」(27.1%)が最も高く、次いで「昇進・昇格で男女の不公平がある」(25.5%)、「女性は補助的業務や雑務が多い」(24.6%)となっている。男性は「特に男女間の不公平はない」(24.9%)が最も高く、次いで「昇進・昇格で男女の不公平がある」(19.5%)が高くなっている。男女差は「賃金・昇給で男女の不公平がある」で最も大きく、女性(27.1%)が男性(18.0%)より9.1ポイント高くなっている。



※「女性が結婚や出産を機に退職や非正規雇用となる慣習や雰囲気がある」「各種ハラスメント(パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント等)の防止規定や相談窓口が設置されていない」は令和元年度調査から選択肢の文言を一部変更している。

◇性・年代別

●女性の若い年代で「女性は補助的業務や雑務が多い」が高い

●男性30代で、「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」が最も高い

性・年代別で見ると、女性は20代・30代・40代では「女性は補助的業務や雑務が多い」が最も高く、50代は「賃金・昇給で男女の不公平がある」、60代・70代以上は「特に男女間の不公平はない」が高くなっている。男性は30代・40代を除きすべての年代で「特に男女間の不公平はない」が高くなっている。男性30代では「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	-	103	107	141	165	126	16
昇進・昇格で男女の不公平がある	-	21.4	28.0	26.2	24.8	27.8	18.8
賃金・昇給で男女の不公平がある	-	14.6	30.8	29.8	31.5	25.4	25.0
女性は補助的業務や雑務が多い	-	25.2	32.7	30.5	21.2	18.3	-
男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある	-	23.3	28.0	23.4	22.4	17.5	18.8
募集や採用で男女の不公平がある	-	19.4	23.4	24.1	13.9	15.9	18.8
女性が結婚や出産を機に退職や非正規雇用となる慣習や雰囲気がある	-	19.4	23.4	17.7	15.8	12.7	-
各種ハラスメント(パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント等)の防止規定や相談窓口が設置されていない	-	7.8	18.7	14.2	17.6	11.9	-
育児・介護休業からの復帰後の処遇に不利益がある(配置転換、昇進への影響等)	-	7.8	15.9	9.2	10.3	8.7	12.5
育児休業や介護休業の制度がない	-	5.8	12.1	7.8	7.3	13.5	6.3
入社研修や業務研究などの機会が男女の不公平がある	-	2.9	9.3	9.2	7.3	7.1	6.3
その他	-	1.9	0.9	-	1.2	0.8	6.3
特に男女間の不公平はない	-	19.4	19.6	22.0	20.0	28.6	31.3
わからない	-	20.4	15.9	18.4	17.6	17.5	18.8

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	58	166	195	179	118	49
昇進・昇格で男女の不公平がある	-	17.2	19.3	20.0	19.6	20.3	20.4
賃金・昇給で男女の不公平がある	-	15.5	14.5	20.5	16.2	22.0	20.4
女性は補助的業務や雑務が多い	-	12.1	18.1	15.9	14.0	17.8	24.5
男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある	33.3	10.3	27.7	15.4	15.1	14.4	16.3
募集や採用で男女の不公平がある	-	12.1	16.3	21.5	8.9	16.1	20.4
女性が結婚や出産を機に退職や非正規雇用となる慣習や雰囲気がある	-	12.1	12.0	6.7	7.3	11.0	16.3
各種ハラスメント(パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント等)の防止規定や相談窓口が設置されていない	-	10.3	9.6	11.3	6.1	5.9	14.3
育児・介護休業からの復帰後の処遇に不利益がある(配置転換、昇進への影響等)	-	10.3	12.0	6.2	5.0	5.1	10.2
育児休業や介護休業の制度がない	-	10.3	6.0	5.6	6.7	5.9	16.3
入社研修や業務研究などの機会が男女の不公平がある	-	6.9	8.4	6.2	4.5	4.2	6.1
その他	-	-	0.6	1.0	-	0.8	-
特に男女間の不公平はない	33.3	27.6	19.9	17.9	28.5	30.5	38.8
わからない	33.3	20.7	18.7	22.1	20.7	16.1	14.3

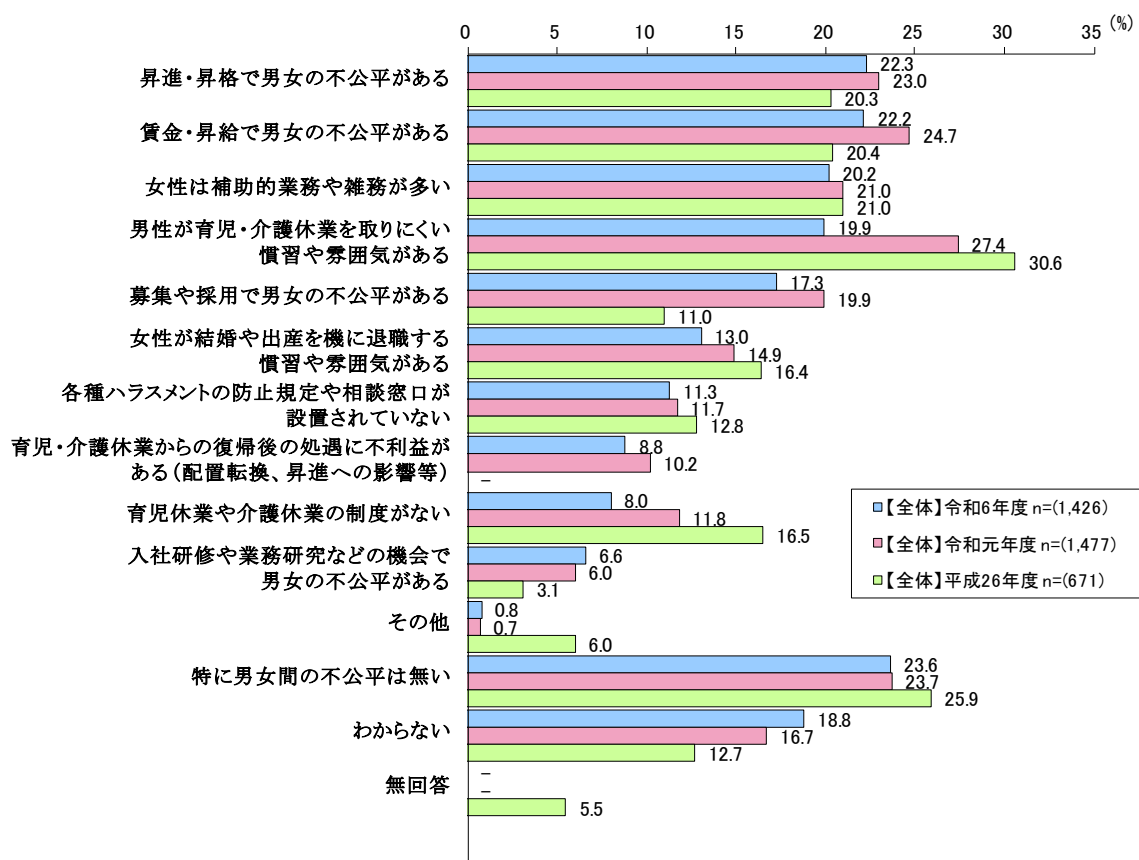
※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

◇経年変化（参考）

●「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」は男女とも前回より低い

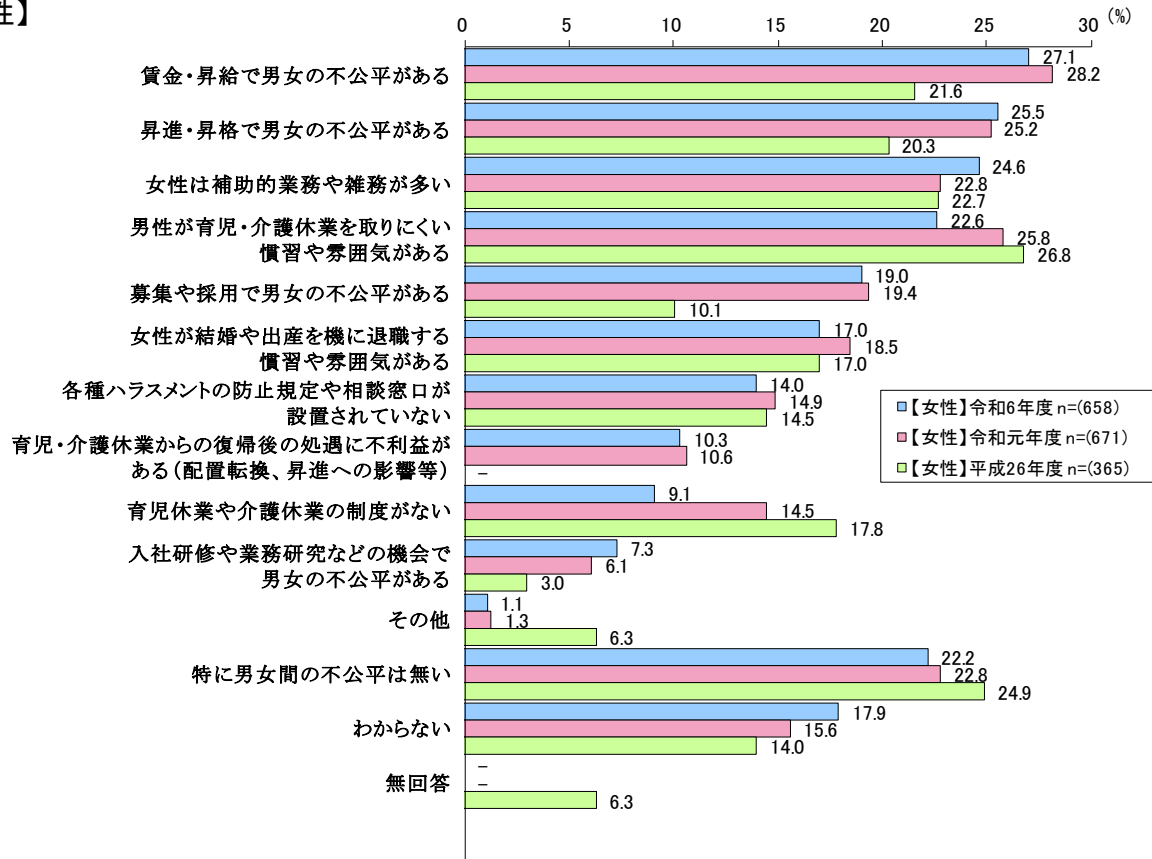
令和元年度とは項目数や文章表現等が異なるため参考として見ると、「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」が令和元年度（全体27.4%、女性25.8%、男性28.8%）より全体は7.5ポイント、女性は3.2ポイント、男性は11.2ポイントそれぞれ低くなっている。

「募集や採用で男女の不公平がある」は、女性で前回と同程度であるが、男性では令和元年度（20.3%）より4.5ポイント低くなっている。一方で、「育児休業や介護休業の制度がない」は、男性で前回と同程度であるが、女性では令和元年度（14.5%）より5.4ポイント低くなっている。

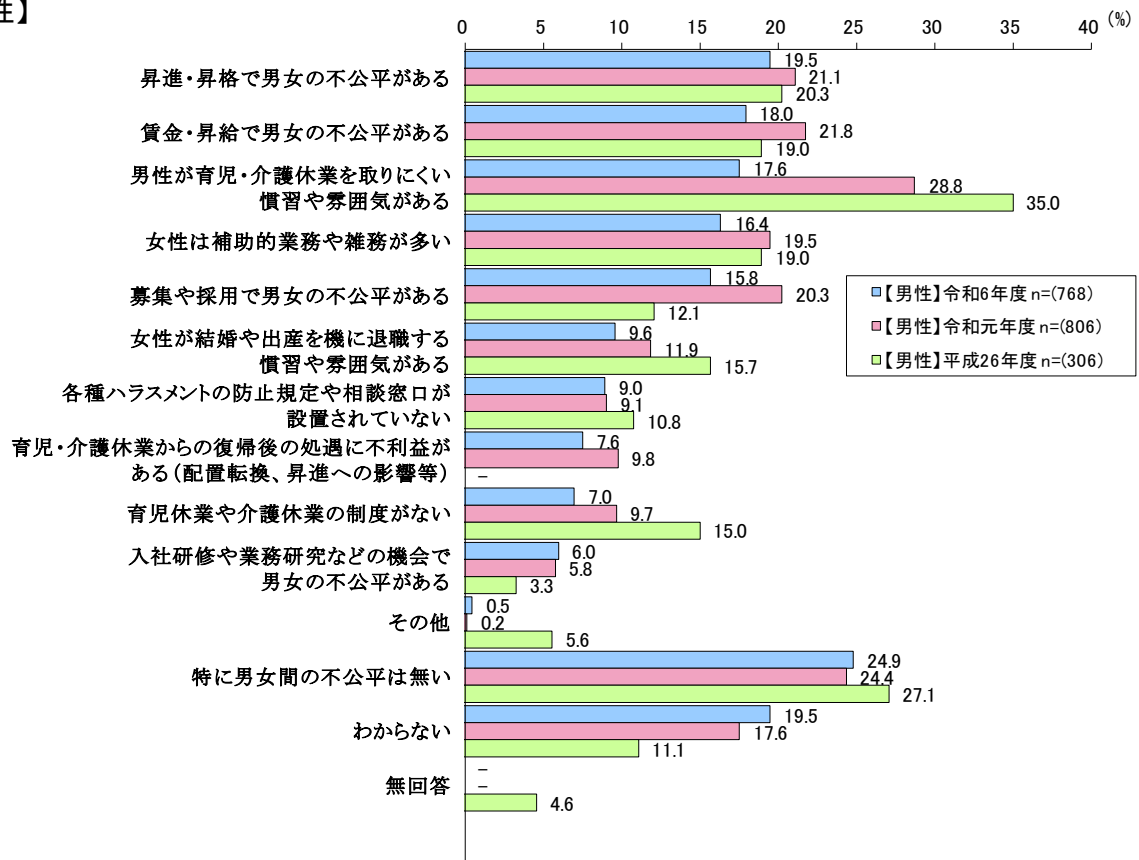


※「女性が結婚や出産を機に退職や非正規雇用となる慣習や雰囲気がある」は令和元年度調査から選択肢の文言を一部変更している。

【女性】



【男性】



(6) 職場における女性の採用・管理職への登用状況

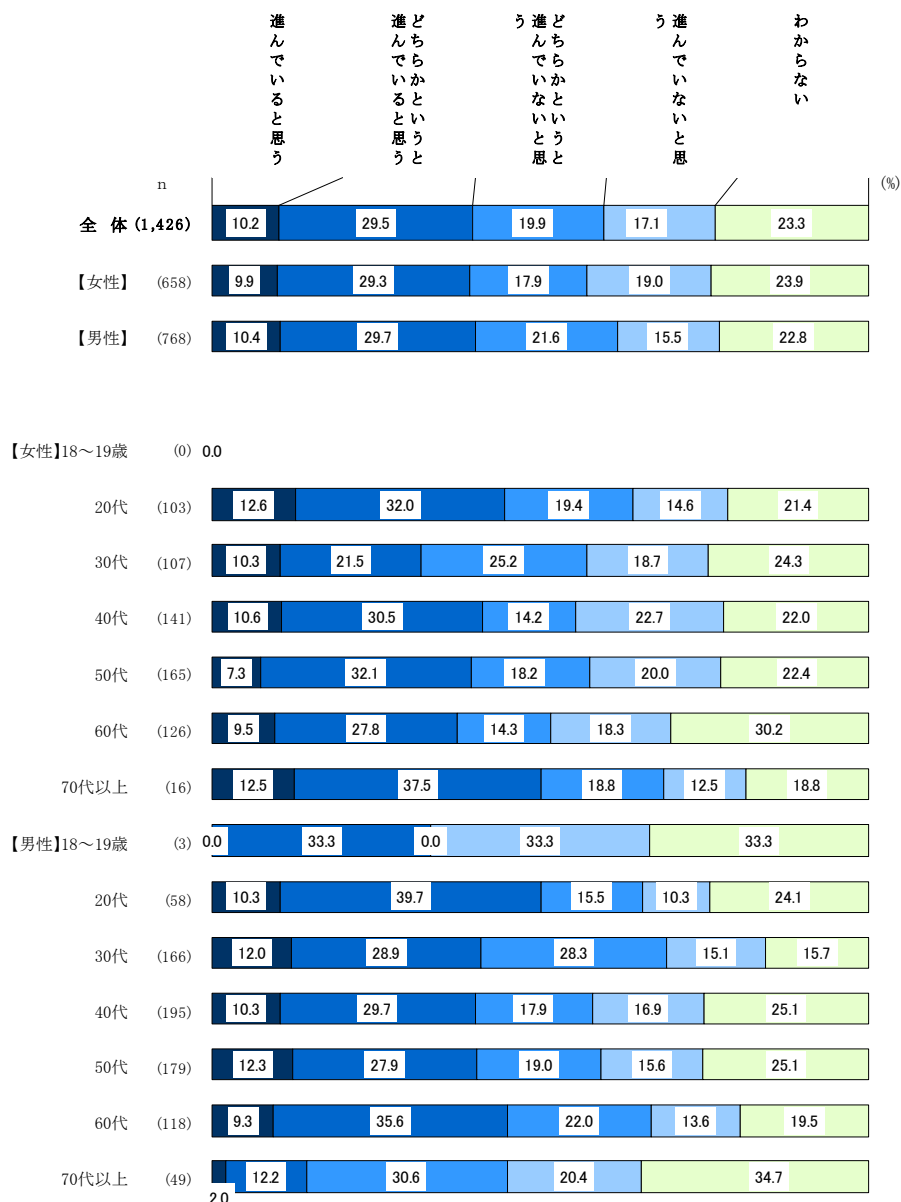
※現在働いている方

問22-3 あなたの職場では、女性の採用や管理職登用が進んでいると思いますか。
(1つに○)

- 男女ともに《進んでいると思う(計)》は同程度
- 《進んでいると思う(計)》は70代以上で男女差が大きい

全体、男女ともに「どちらかというに進んでいると思う」(全体29.5%、女性29.3%、男性29.7%)が最も高くなっている。《進んでいると思う(計)》(「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値)(全体39.7%、女性39.2%、男性40.1%)は、全体、男女ともに4割前後で同程度となっている。

性・年代別で見ると、《進んでいると思う(計)》は女性70代以上と男性20代(いずれも50.0%)で最も高くなっている。一方、《進んでいないと思う(計)》(「進んでいないと思う」と「どちらかというに進んでいないと思う」の合計値)は、男性70代以上(51.0%)で最も高くなっている。男女差は、《進んでいると思う(計)》で70代以上が35.8ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

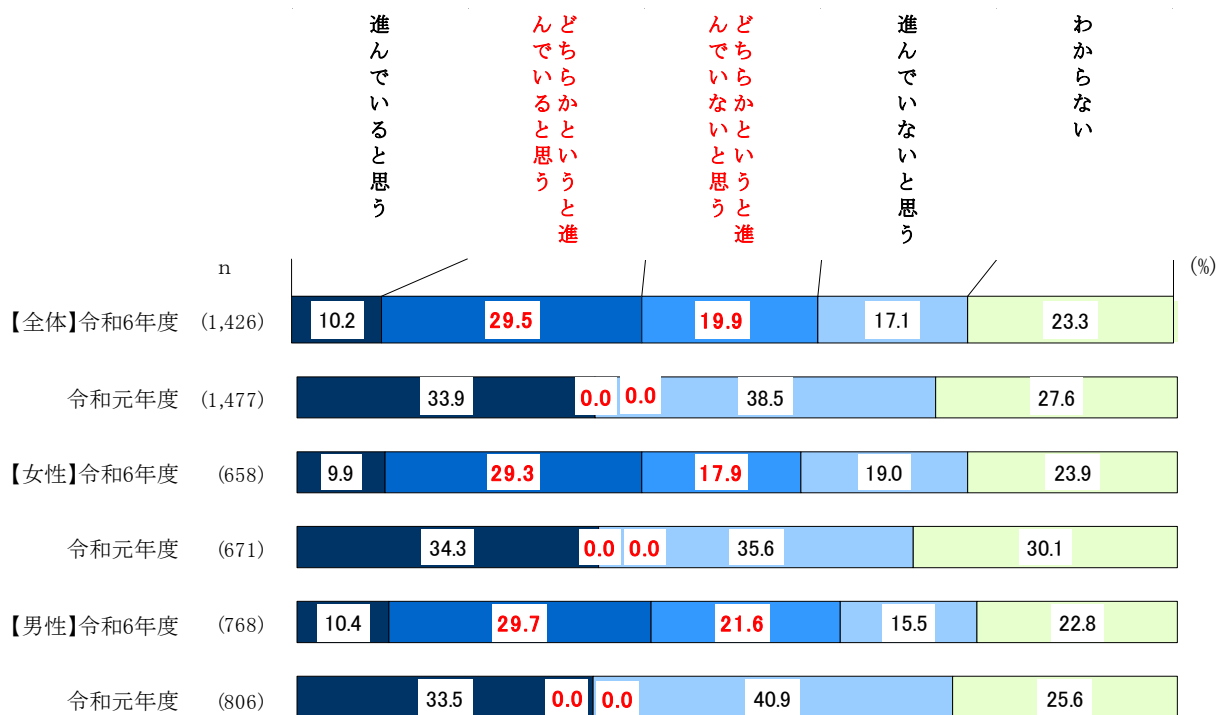


◇経年変化

●《進んでいると思う（計）》は男女とも前回より高い

経年変化を性別で見ると、《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値）は、令和元年度（全体33.9%、女性34.3%、男性33.5%）より全体は5.8ポイント、女性は4.9ポイント、男性は6.6ポイントそれぞれ高くなっている。一方、《進んでいないと思う（計）》（「進んでいないと思う」と「どちらかというに進んでいないと思う」の合計値）は前回と同程度となっているが、女性のみ令和元年度（女性35.6%）より1.3ポイント高くなっており、わずかに増加している。

【問 22-3 経年変化】



※新規調査項目（赤色）：「どちらかというに進んでいると思う」「どちらかというに進んでいないと思う」

(7) 女性が管理職に登用されるために必要なこと

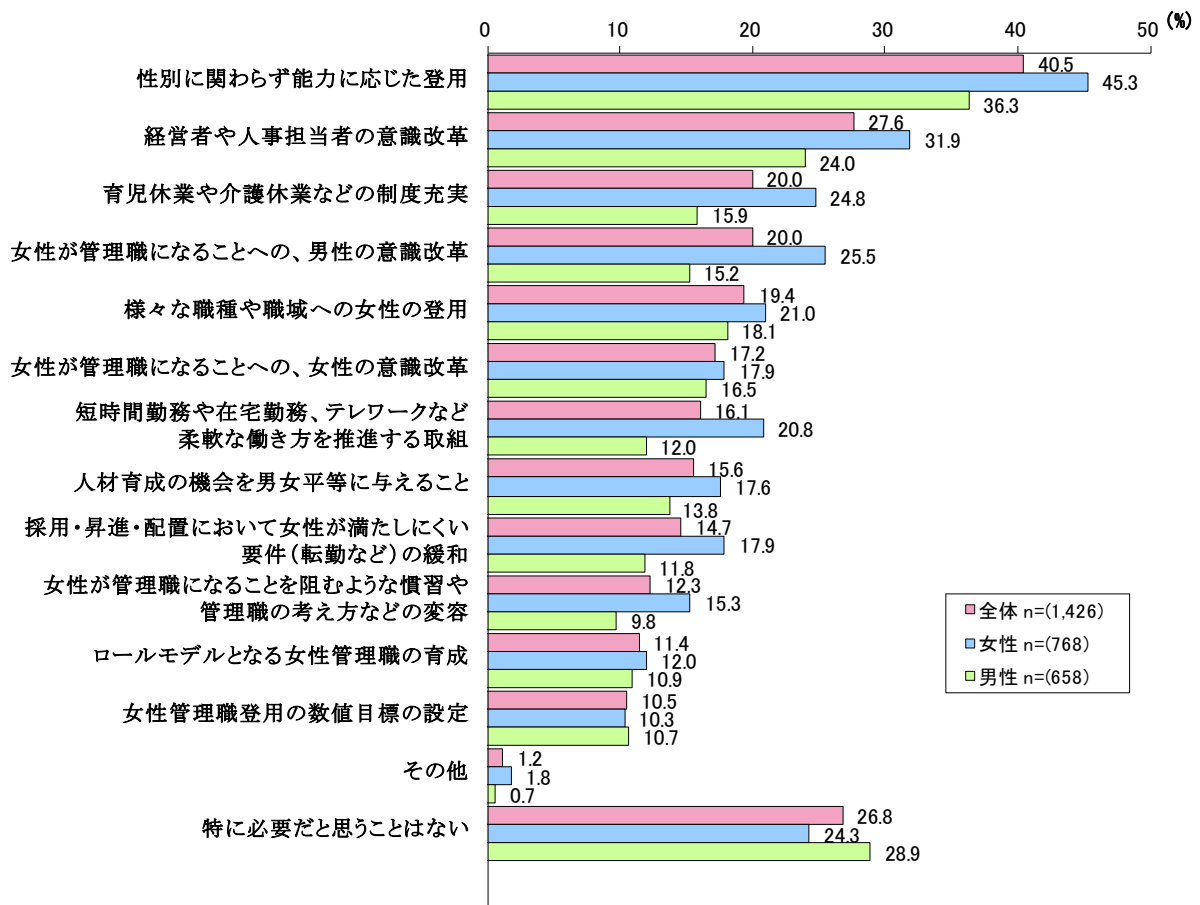
※現在働いている方

問22-4 あなたの職場で、女性の管理職に登用されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数選択可)

- 全体、男女ともに「性別に関わらず能力に応じた登用」が高い
- 「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」は男女差が最も大きい

全体、男女ともに「性別に関わらず能力に応じた登用」(全体40.5%、女性45.3%、男性36.3%)が最も高く、次いで「経営者や人事担当者の意識改革」(全体27.6%、女性31.9%、男性24.0%)となっている。また、「特に必要だと思うことはない」(全体26.8%、女性24.3%、男性28.9%)も高くなっている。

男女差は、「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」が女性(25.5%)が男性(15.2%)より10.3ポイント高くなっている。



※新規調査項目：「性別に関わらず能力に応じた登用」「短時間勤務や在宅勤務、テレワークなど柔軟な働き方を推進する取組」「人材育成の機会を男女平等に与えること」「採用・昇進・配置において女性が満たしにくい要件(転勤など)の緩和」「女性が管理職になることを阻むような慣習や管理職の考え方などの変容」

◇性・年代別

●ほとんどの年代で「性別に関わらず能力に応じた登用」が最も高い

性・年代別で見ると、男性20代を除くすべての年代で「性別に関わらず能力に応じた登用」が最も高くなっている。男性20代は「特に必要だと思うことはない」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
N	-	103	107	141	165	126	16
性別に関わらず能力に応じた登用	-	46.6	45.8	43.3	46.1	43.7	56.3
経営者や人事担当者の意識改革	-	33.0	30.8	36.9	28.5	28.6	50.0
育児休業や介護休業などの制度充実	-	28.2	32.7	22.7	18.2	27.0	18.8
女性が管理職になることへの、男性の意識改革	-	22.3	29.0	29.8	21.8	27.0	12.5
様々な職種や職域への女性の登用	-	19.4	29.0	21.3	19.4	16.7	25.0
女性が管理職になることへの、女性の意識改革	-	18.4	25.2	17.0	14.5	15.1	31.3
短時間勤務や在宅勤務、テレワークなど柔軟な働き方を推進する取組	-	33.0	28.0	18.4	18.2	11.9	12.5
人材育成の機会を男女平等に与えること	-	19.4	21.5	14.2	15.8	19.8	12.5
採用・昇進・配置において女性が満たしにくい要件(転勤など)の緩和	-	24.3	25.2	17.0	15.2	12.7	6.3
女性が管理職になることを阻むような慣習や管理職の考え方などの変容	-	18.4	17.8	17.0	11.5	14.3	12.5
ロールモデルとなる女性管理職の育成	-	12.6	17.8	11.3	10.3	9.5	12.5
女性管理職登用の数値目標の設定	-	11.7	13.1	12.8	6.1	8.7	18.8
その他	-	1.0	1.9	0.7	1.8	3.2	6.3
特に必要だと思うことはない	-	23.3	29.0	25.5	23.0	22.2	18.8

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

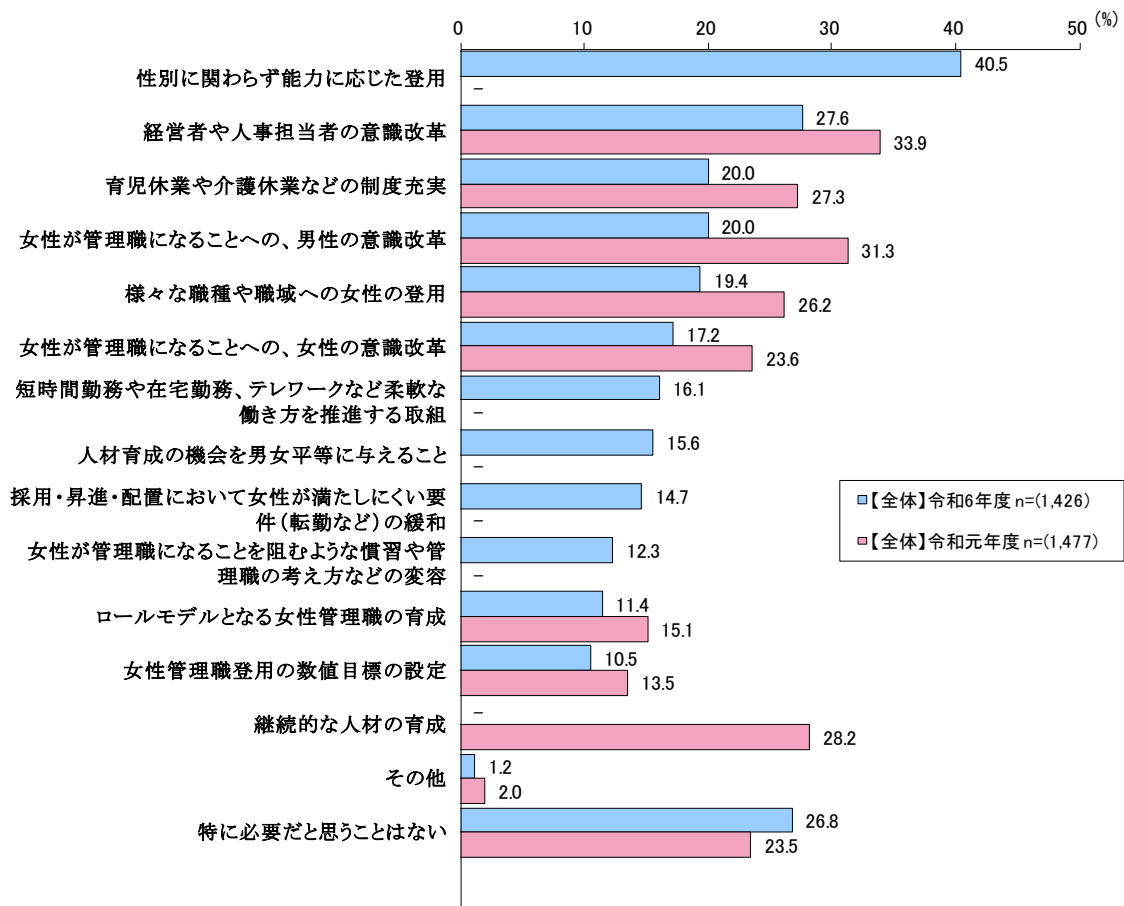
男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
N	3	58	166	195	179	118	49
性別に関わらず能力に応じた登用	-	17.2	31.9	36.9	37.4	44.1	51.0
経営者や人事担当者の意識改革	-	25.9	20.5	26.2	17.9	30.5	32.7
育児休業や介護休業などの制度充実	-	15.5	14.5	15.4	14.5	18.6	22.4
女性が管理職になることへの、男性の意識改革	-	12.1	13.9	14.4	15.1	18.6	20.4
様々な職種や職域への女性の登用	-	13.8	18.7	17.4	15.6	20.3	28.6
女性が管理職になることへの、女性の意識改革	-	12.1	16.3	15.4	16.8	22.0	14.3
短時間勤務や在宅勤務、テレワークなど柔軟な働き方を推進する取組	33.3	13.8	9.0	12.3	11.2	16.9	8.2
人材育成の機会を男女平等に与えること	-	13.8	13.3	10.8	15.1	16.1	18.4
採用・昇進・配置において女性が満たしにくい要件(転勤など)の緩和	-	15.5	12.7	10.8	10.1	12.7	14.3
女性が管理職になることを阻むような慣習や管理職の考え方などの変容	-	5.2	9.0	11.3	9.5	8.5	16.3
ロールモデルとなる女性管理職の育成	-	13.8	12.7	11.3	10.1	9.3	8.2
女性管理職登用の数値目標の設定	-	17.2	10.2	7.7	11.2	10.2	16.3
その他	-	-	1.2	-	1.1	0.8	-
特に必要だと思うことはない	66.7	29.3	25.3	29.2	30.7	28.8	30.6

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

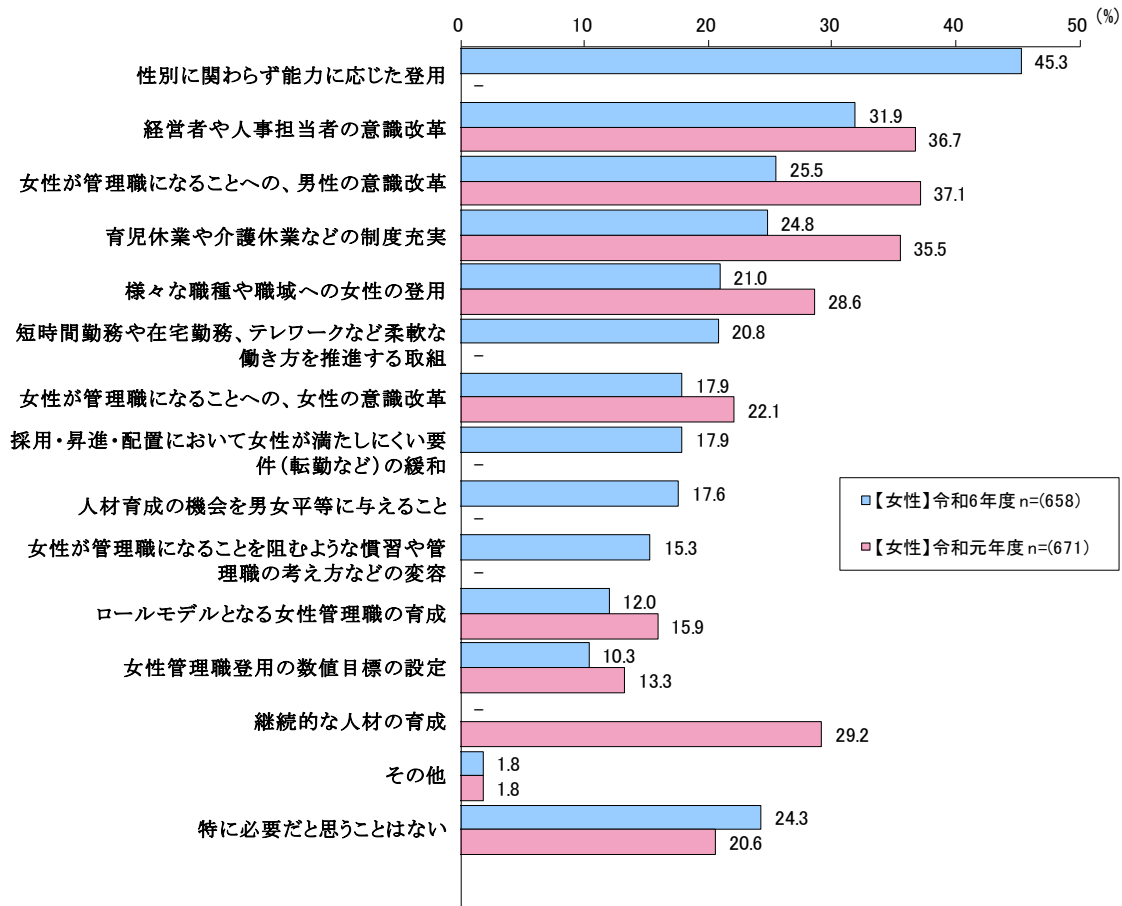
◇経年変化（参考）

●「男性の意識改革」が男女ともに前回より低い

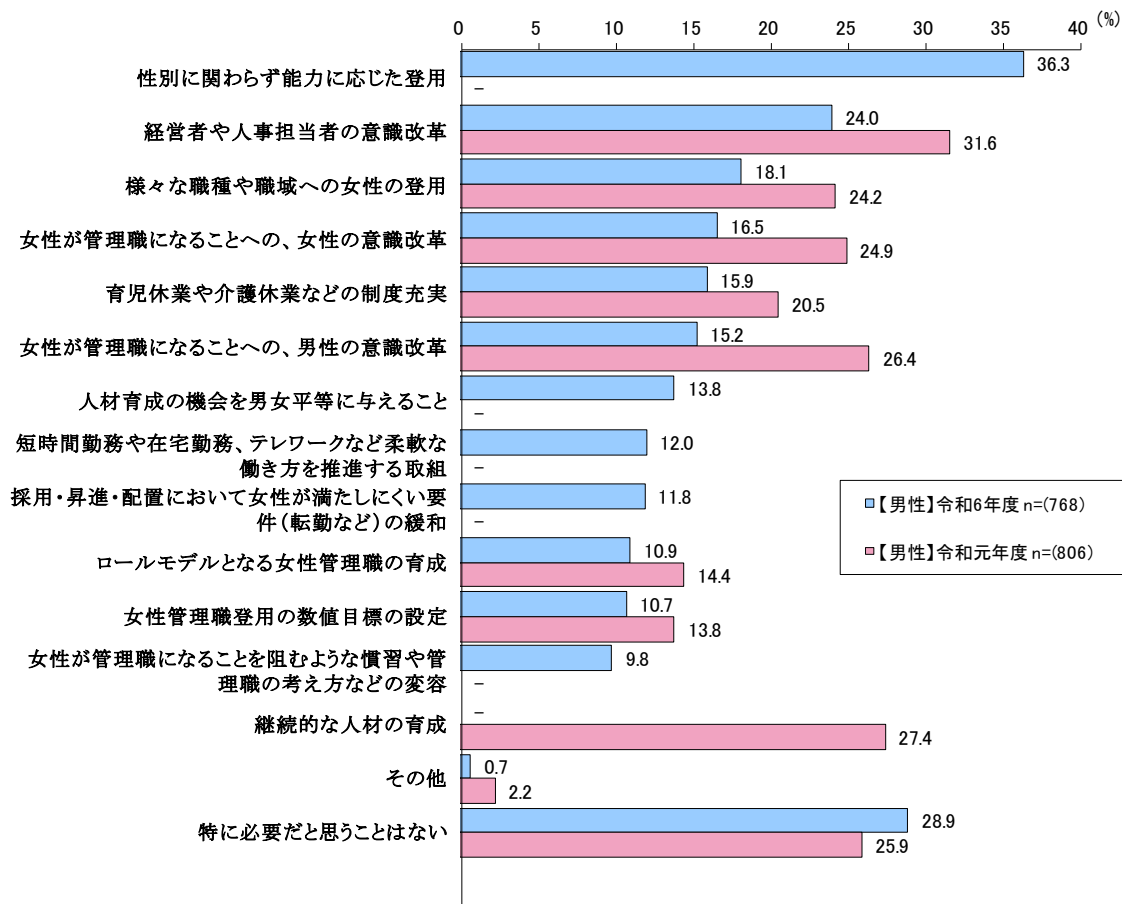
令和元年度とは項目数や文章表現等が異なるため参考として見ると、「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」は、令和元年度（全体31.3%、女性37.1%、男性26.4%）より全体は11.3ポイント、女性は11.6ポイント、男性は11.2ポイントそれぞれ低くなっている。



【女性】



【男性】



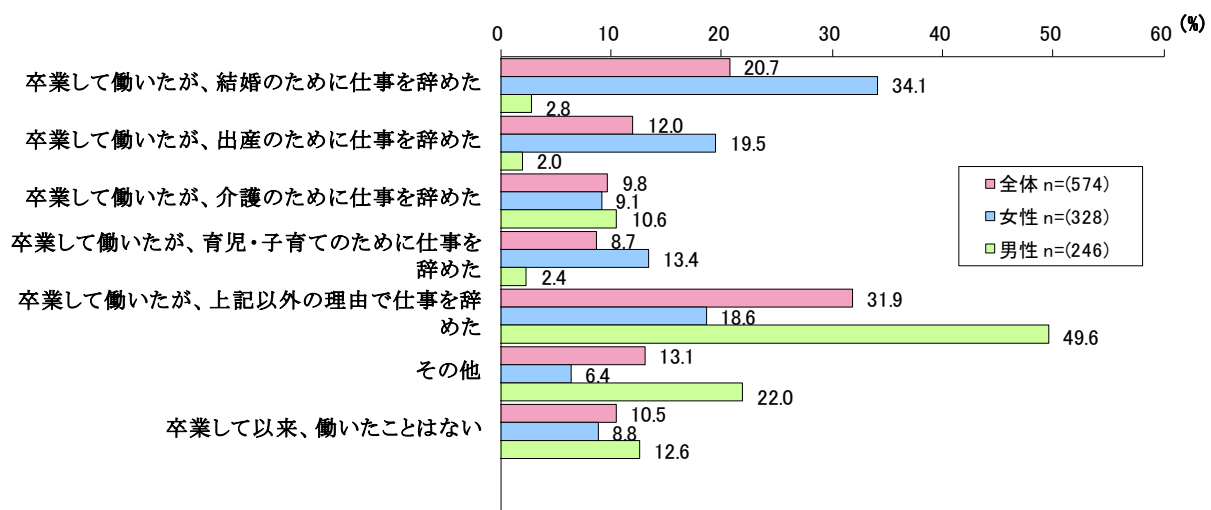
(8) これまでの働き方

※現在働いていない方

問23-1 あなたのこれまでの働き方はどれですか。あてはまるものを全てお選びください。(複数選択可)

●「結婚のため仕事を辞めた」は女性3割以上

全体、男性は「卒業して働いたが、上記以外の理由で仕事を辞めた」(全体31.9%、男性49.6%)が最も高く、男性が女性(18.6%)より31.0ポイント高くなっている。女性は「卒業して働いたが、結婚のために仕事を辞めた」(34.1%)が最も高く、女性が男性(2.8%)より31.3ポイント高くなっている。



※新規調査項目：「卒業して働いたが、結婚のために仕事を辞めた」「卒業して働いたが、出産のために仕事を辞めた」「卒業して働いたが、育児・子育てのために仕事を辞めた」「卒業して働いたが、介護のために仕事を辞めた」「卒業して働いたが、上記以外の理由で仕事を辞めた」

◇性・年代別

●女性は40代以上の年代で「結婚のため仕事を辞めた」が高い

回答者に占める女性の割合が高く、男性の該当者の多くが60代以上であることを考慮する必要がある。

性・年代別で見ると、女性40代・50代・60代・70代以上では「卒業して働いたが、結婚のために仕事を辞めた」、20代では「卒業して以来、働いたことはない」、30代では「卒業して働いたが、育児・子育てのために仕事を辞めた」がそれぞれ高くなっている。男性は30代・40代・50代・60代・70代以上では「卒業して働いたが、上記以外の理由で仕事を辞めた」、20代では「卒業して以来、働いたことはない」がそれぞれ高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	27	20	41	63	105	67
卒業して働いたが、結婚のために仕事を辞めた	20.0	7.4	20.0	36.6	36.5	35.2	44.8
卒業して働いたが、出産のために仕事を辞めた	20.0	22.2	25.0	2.4	28.6	23.8	11.9
卒業して働いたが、介護のために仕事を辞めた	40.0	11.1	-	9.8	11.1	6.7	10.4
卒業して働いたが、育児・子育てのために仕事を辞めた	-	18.5	35.0	12.2	12.7	14.3	6.0
卒業して働いたが、上記以外の理由で仕事を辞めた	-	7.4	30.0	34.1	15.9	22.9	7.5
その他	20.0	11.1	-	-	3.2	3.8	16.4
卒業して以来、働いたことはない	40.0	37.0	5.0	9.8	4.8	2.9	9.0

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

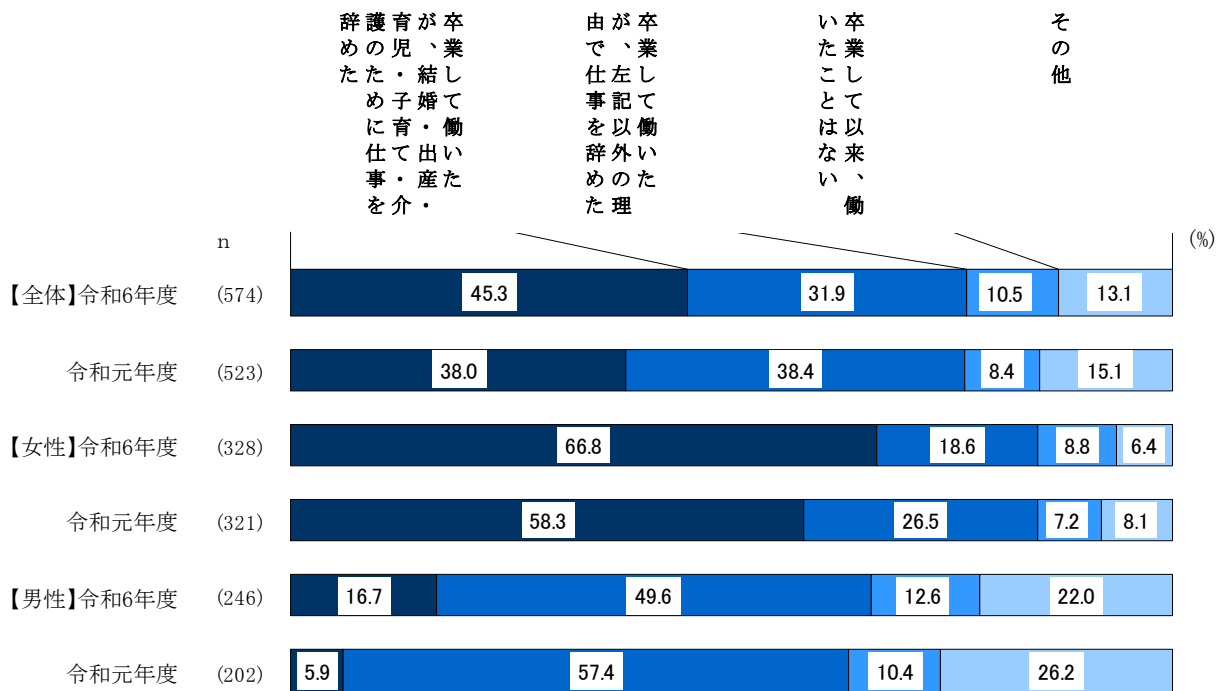
男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	1	20	18	15	15	48	129
卒業して働いたが、結婚のために仕事を辞めた	100.0	10.0	-	-	-	4.2	1.6
卒業して働いたが、出産のために仕事を辞めた	100.0	5.0	-	-	-	-	2.3
卒業して働いたが、介護のために仕事を辞めた	-	10.0	-	13.3	26.7	16.7	7.8
卒業して働いたが、育児・子育てのために仕事を辞めた	100.0	5.0	5.6	-	6.7	2.1	0.8
卒業して働いたが、上記以外の理由で仕事を辞めた	-	5.0	55.6	53.3	60.0	50.0	54.3
その他	-	30.0	-	-	-	22.9	28.7
卒業して以来、働いたことはない	-	40.0	38.9	33.3	6.7	4.2	6.2

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

◇経年変化（参考）

●「結婚・出産・育児・介護のため仕事を辞めた」は前回より高い

令和元年度とは項目数や文章表現が異なるため参考として経年変化を見ると、全体、男女ともに「卒業して働いたが、結婚・出産・育児・子育て・介護のために仕事を辞めた」が令和元年度（全体38.0%、女性58.3%、男性5.9%）より全体は7.3ポイント、女性は8.5ポイント、男性は10.8ポイントそれぞれ高くなっている。



※「卒業して働いたが、結婚・出産・育児・子育て・介護のために仕事を辞めた」は令和元年度調査から選択肢の文言を一部変更し、「卒業して働いたが、結婚のために仕事を辞めた」「卒業して働いたが、出産のために仕事を辞めた」「卒業して働いたが、育児・子育てのために仕事を辞めた」「卒業して働いたが、介護のために仕事を辞めた」の合計としている。

(9) 就労意向

※現在働いていない方

問23-2 あなたは、今後働きたいと思いますか。(1つに○)

- 「今後も、働きたいとは思わない」は女性約4割、男性約6割
- 若い年代ほど働く意向が強く、《働きたい(計)》は男性20代で最も高い

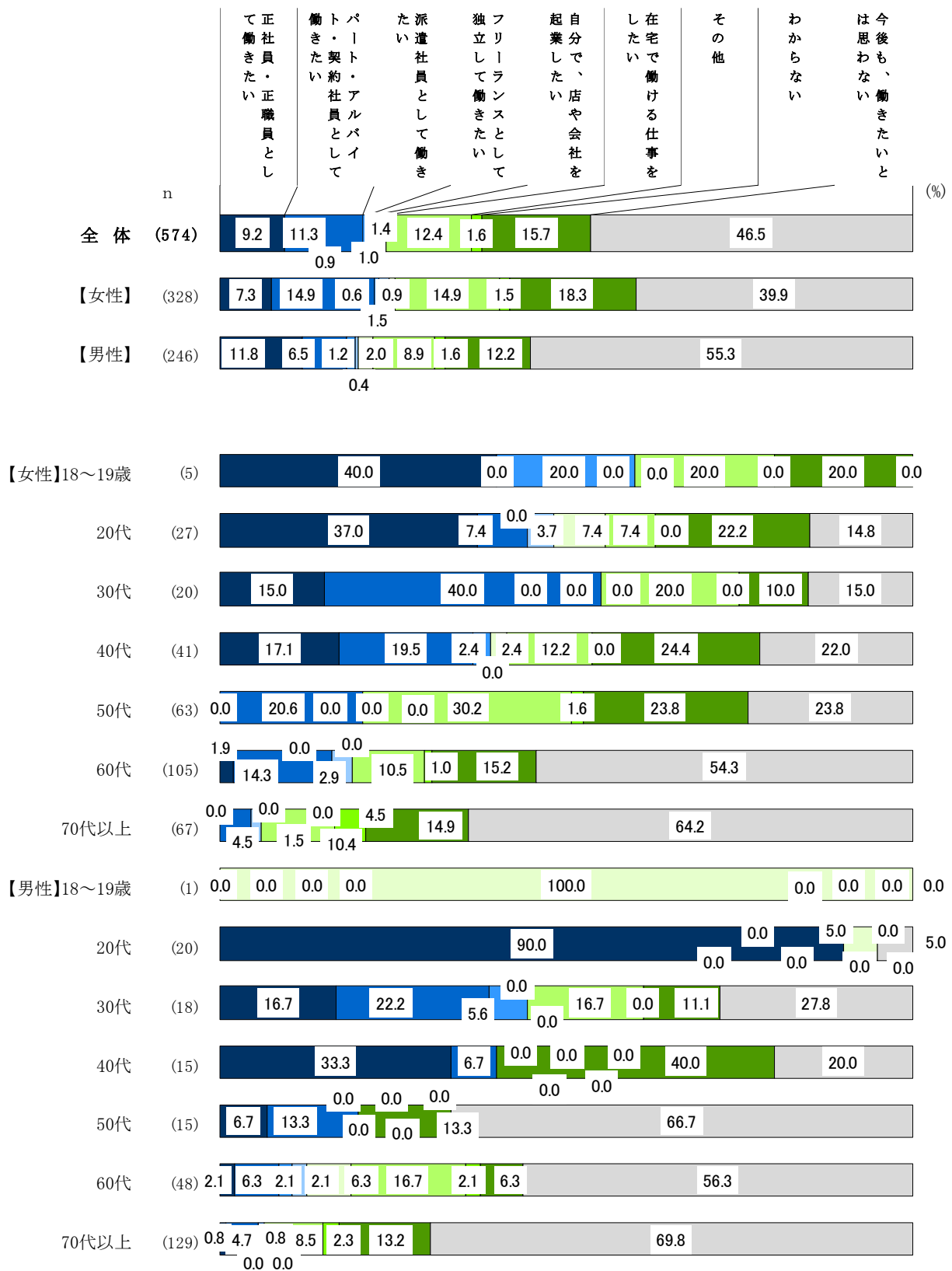
回答者に占める女性の割合が高く、男性の該当者の多くが60代以上であることを考慮する必要があるが、全体、男女とも「今後も、働きたいとは思わない」(全体46.5%、女性39.9%、男性55.3%)が最も高く、次いで「わからない」(全体15.7%、女性18.3%、男性12.2%)、次いで全体、女性は「在宅で働ける仕事をしたい」(全体12.4%、女性14.9%)、男性は「正社員・正職員として働きたい」(11.8%)となっている(女性は「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」(女性14.9%)も同値)。

《働きたい(計)》(「正社員・正職員として働きたい」「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」「派遣社員として働きたい」「フリーランスとして独立して働きたい」「自分で、店や会社を起業したい」「在宅で働ける仕事をしたい」の合計値)は、女性(40.1%)が男性(30.8%)より9.3ポイント高くなっている。また、「今後も、働きたいとは思わない」は、男性(55.3%)が女性(39.9%)より15.4ポイント高くなっている。

女性について年代別に見ると、20代は「正社員・正職員として働きたい」(37.0%)、30代は「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」(40.0%)、40代は「わからない」(24.4%)、50代は「在宅で働ける仕事をしたい」(30.2%)、60代・70代以上は「今後も、働きたいとは思わない」(60代54.3%、70代以上64.2%)がそれぞれ最も高くなっている。

男性について年代別に見ると、20代は「正社員・正職員として働きたい」(90.0%)、30代・50代・60代・70代以上は「今後も、働きたいとは思わない」(30代27.8%、50代66.7%、60代56.3%、70代以上69.8%)、40代は「わからない」(40.0%)がそれぞれ最も高くなっている。《働きたい(計)》を見ると、男性20代(95.0%)、女性30代(75.0%)となっており、若い年代ほど高い傾向がうかがえる。

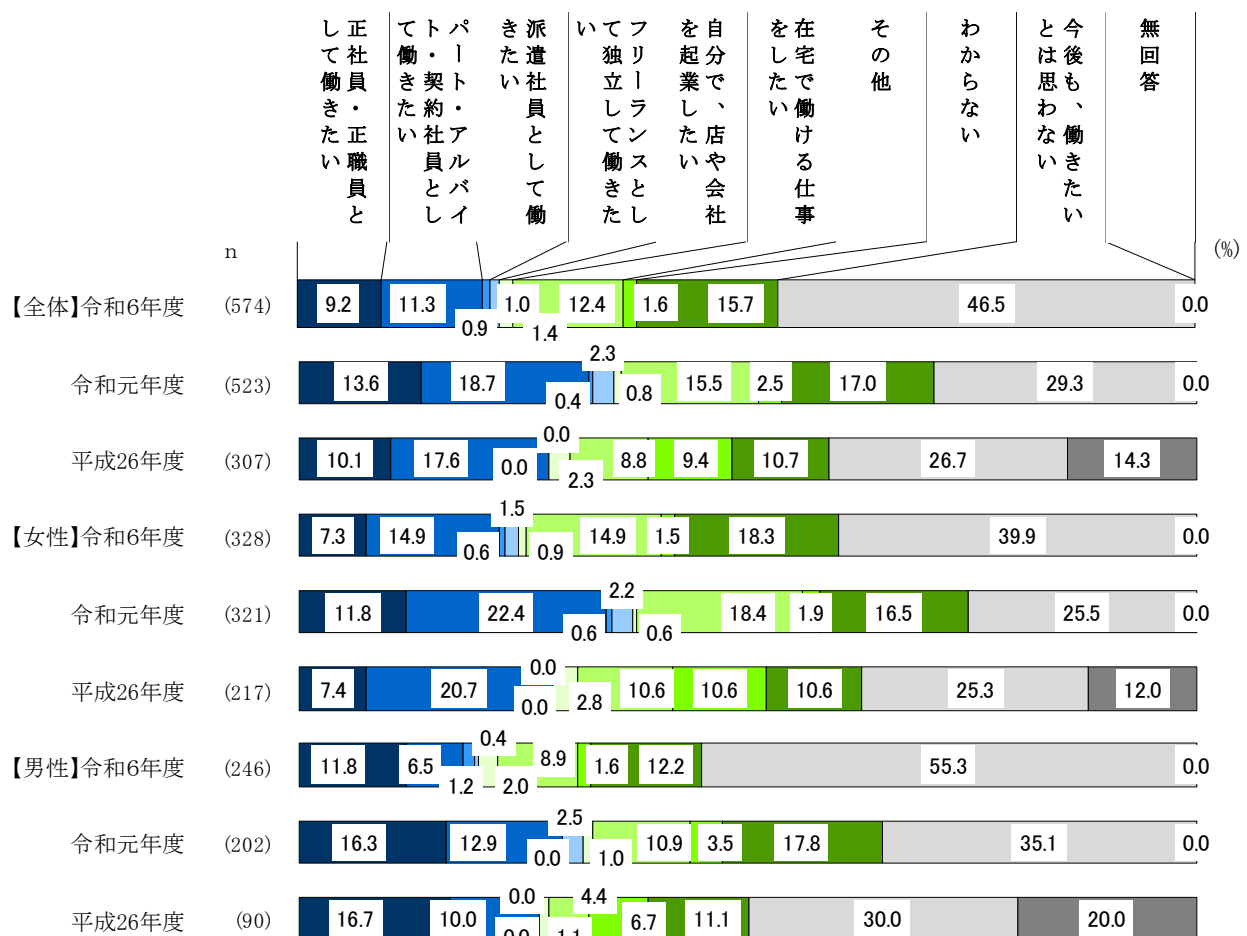
【問23-2】



◇経年変化

●男女とも《働きたい（計）》が前回より低い

《働きたい（計）》（「正社員・正職員として働きたい」「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」「派遣社員として働きたい」「フリーランスとして独立して働きたい」「自分で、店や会社を起業したい」「在宅で働ける仕事をしたい」の合計値）は、令和元年度（全体51.3%、女性56.0%、男性43.6%）より全体は15.1ポイント、女性は15.9ポイント、男性は12.8ポイントそれぞれ低くなっている。一方、「今後も、働きたいとは思わない」は、全体で令和元年度（29.3%）より17.2ポイントと大幅に高くなっている。



(10) 育児等に女性が費やす時間と職業面での女性活躍

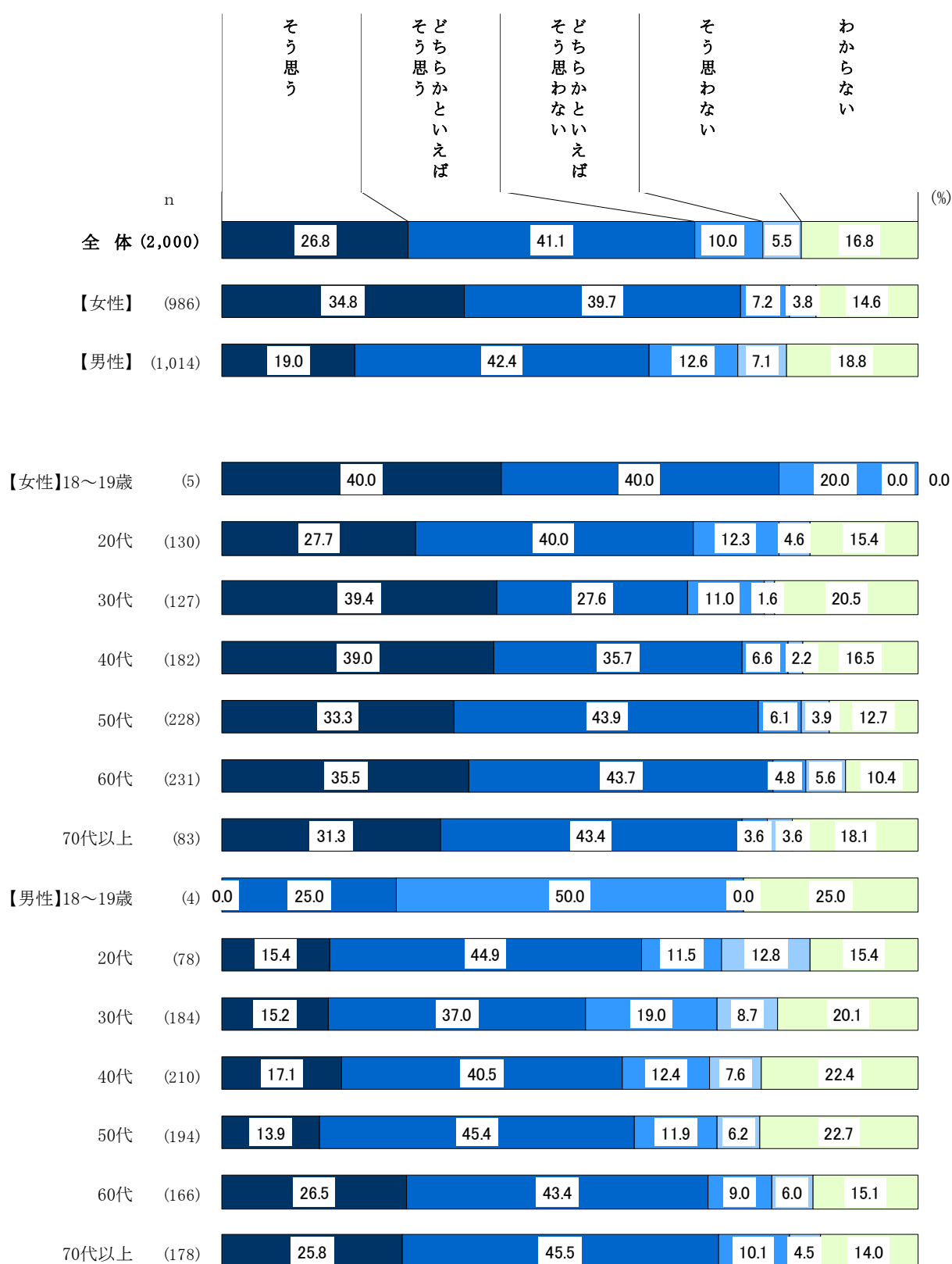
問24-1 「令和3年社会生活基本調査」によると、夫婦共働き世帯において、1日の中で家事・育児・介護等に費やす時間が、男性は53分、女性は4時間18分と、女性の方が家庭内のことにより多くの時間を費やしていることが分かっています。このことが、職業生活における女性の活躍が進まない要因の1つだという意見がありますが、この意見についてあなたはどのように思いますか。(1つに○)

- 「どちらかといえばそう思う」が男女ともに高い
- 《そう思う(計)》は女性が7割以上、男性が6割以上で、男女差は50代で大きい

全体、男女ともに「どちらかといえばそう思う」(全体41.1%、女性39.7%、男性42.4%)が最も高くなっている。《そう思う(計)》(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値)は、女性(74.5%)が男性(61.4%)より13.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、《そう思う(計)》はすべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は50代(女性77.2%、男性59.3%)が17.9ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

第3章 調査結果の詳細



(11) 女性が活躍するために必要な支援

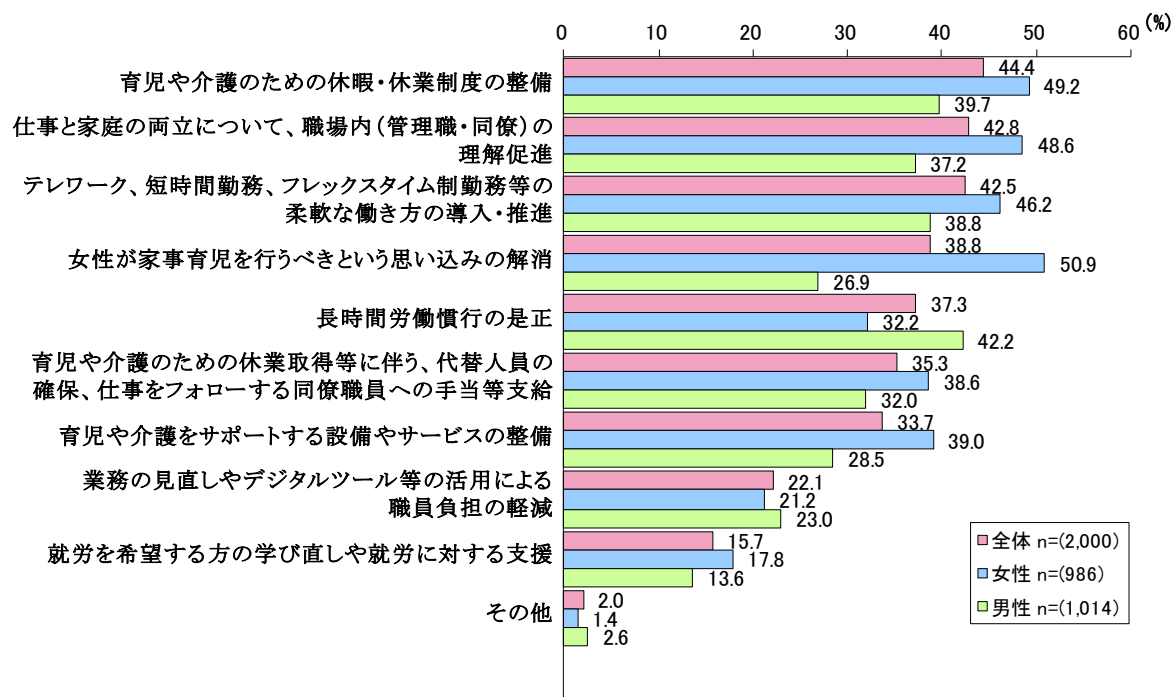
※現在働いている方

問24-2 家事・育児・介護等に費やす時間を男女間でバランスのとれたものとし、職業生活における女性の活躍を更に推進するためには、特にどのような取組への支援が必要だと思いますか。あてはまるものを全てお選びください。

(あてはまるものを全て選択可)

- 女性は「女性が家事育児を行うべきという思い込みの解消」が5割で高い
- 男性は「長時間労働慣行の是正」が4割以上で高い

全体は「育児や介護のための休暇・休業制度の整備」(44.4%)が最も高く、次いで「仕事と家庭の両立について、職場内(管理職・同僚)の理解促進」(42.8%)が高くなっている。女性は「女性が家事育児を行うべきという思い込みの解消」(50.9%)が最も高く、女性が男性(26.9%)より24.0ポイント高くなっている。男性は「長時間労働慣行の是正」(42.2%)が最も高く、男性が女性(32.2%)より10.0ポイント高くなっている。



◇性・年代別

- 「休暇・休業制度の整備」は男女ともに70代以上で高い
- 「女性が家事育児を行うべきという思い込みの解消」は女性40代・50代で高い
- 「長時間労働慣行の是正」は男性60代以下が高い

性・年代別で見ると、女性は60代・70代以上では「育児や介護のための休暇・休業制度の整備」（70代以上は「仕事と家庭の両立について、職場内（管理職・同僚）の理解促進」と同値）、40代・50代では「女性が家事育児を行うべきという思い込みの解消」、30代では「テレワーク、短時間勤務、フレックスタイム制勤務等の柔軟な働き方の導入・推進」、20代では「仕事と家庭の両立について、職場内（管理職・同僚）の理解促進」がそれぞれ高くなっている。男性は70代以上を除くすべての年代で「長時間労働慣行の是正」が最も高く、70代以上では「育児や介護のための休暇・休業制度の整備」が高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	127	182	228	231	83
育児や介護のための休暇・休業制度の整備	40.0	44.6	46.5	46.2	44.3	57.6	57.8
仕事と家庭の両立について、職場内（管理職・同僚）の理解促進	20.0	48.5	48.8	46.7	48.2	47.6	57.8
テレワーク、短時間勤務、フレックスタイム制勤務等の柔軟な働き方の導入・推進	60.0	46.2	55.9	47.8	42.1	43.7	45.8
女性が家事育児を行うべきという思い込みの解消	40.0	39.2	49.6	54.9	55.3	51.1	50.6
長時間労働慣行の是正	40.0	33.1	38.6	36.3	26.8	31.2	28.9
育児や介護のための休業取得等に伴う、代替人員の確保、仕事をフォローする同僚職員への手当等支給	20.0	37.7	42.5	38.5	36.8	38.5	41.0
育児や介護をサポートする設備やサービスの整備	20.0	24.6	33.9	31.3	38.2	54.1	48.2
業務の見直しやデジタルツール等の活用による職員負担の軽減	20.0	26.9	25.2	23.1	17.5	18.6	19.3
就労を希望する方の学び直しや就労に対する支援	-	15.4	18.1	19.8	16.2	18.6	20.5
その他	-	-	0.8	1.1	1.8	2.2	2.4

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	78	184	210	194	166	178
育児や介護のための休暇・休業制度の整備	25.0	35.9	31.5	35.2	33.0	45.2	57.9
仕事と家庭の両立について、職場内（管理職・同僚）の理解促進	-	32.1	29.9	30.5	39.7	40.4	50.0
テレワーク、短時間勤務、フレックスタイム制勤務等の柔軟な働き方の導入・推進	-	37.2	35.3	36.7	36.6	44.0	43.8
女性が家事育児を行うべきという思い込みの解消	25.0	16.7	25.5	26.2	28.9	27.1	31.5
長時間労働慣行の是正	50.0	41.0	44.0	41.0	42.3	47.0	37.6
育児や介護のための休業取得等に伴う、代替人員の確保、仕事をフォローする同僚職員への手当等支給	50.0	29.5	22.3	28.1	31.4	34.9	44.9
育児や介護をサポートする設備やサービスの整備	-	16.7	19.6	25.2	26.8	36.7	41.6
業務の見直しやデジタルツール等の活用による職員負担の軽減	25.0	17.9	25.5	19.5	22.2	24.1	26.4
就労を希望する方の学び直しや就労に対する支援	-	11.5	13.0	10.0	12.4	13.9	20.8
その他	-	5.1	2.7	1.9	1.5	3.0	2.8

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

6. 男女共同参画社会づくりのための施策について

(1) 男女共同参画に関連する事項の認知度

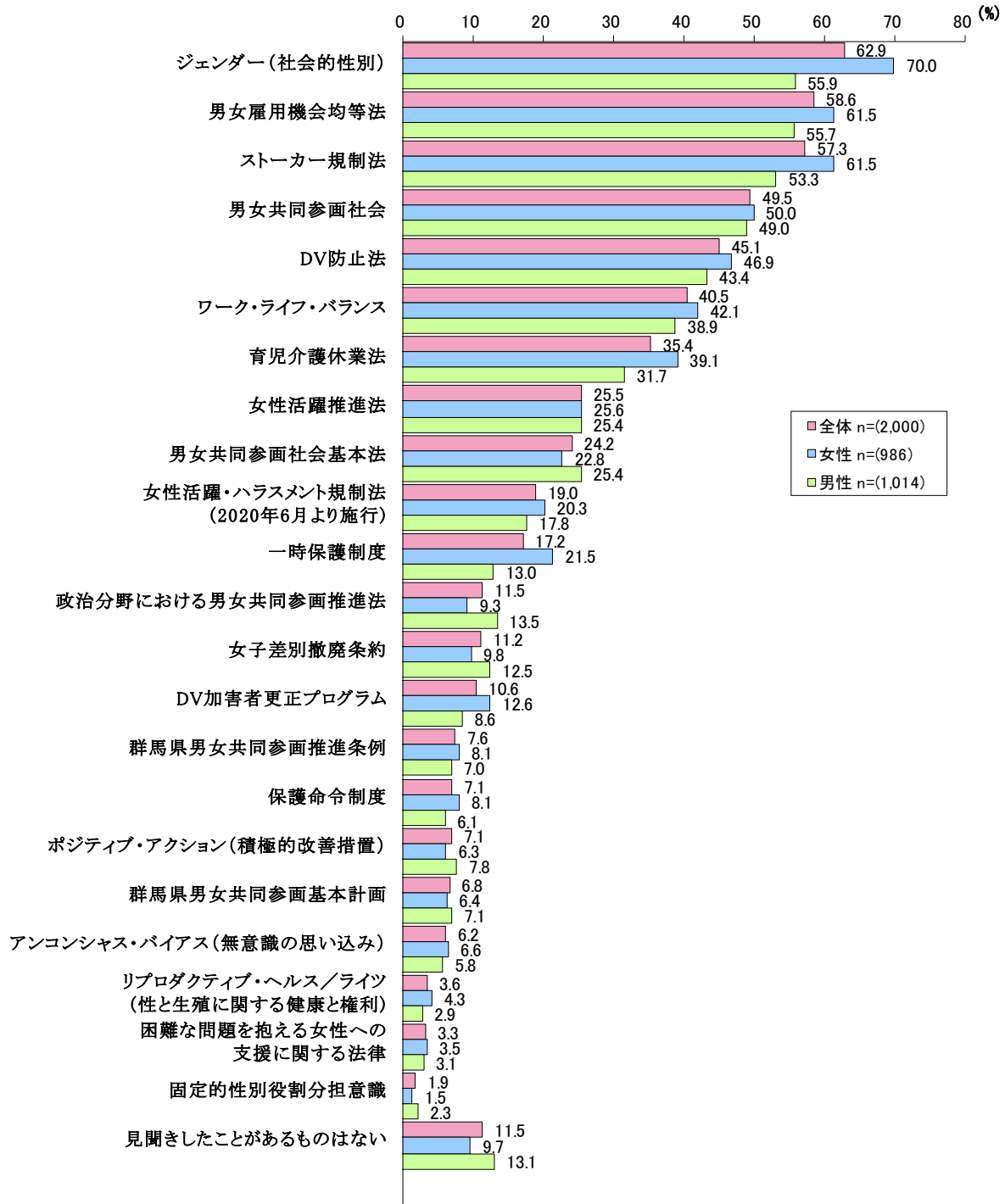
問25 あなたは、次のうち、見聞きしたことがあるものはありますか。

(あてはまるものを全て選択可)

- 「ジェンダー（社会的性別）」が女性7割以上、男性約6割で最も高い
- 「ジェンダー（社会的性別）」で男女差が最も大きい

全体、男女ともに「ジェンダー（社会的性別）」(全体62.9%、女性70.0%、男性55.9%)が最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」(全体58.6%、女性61.5%、男性55.7%)、「ストーカー規制法」(全体57.3%、女性61.5%、男性53.3%)と高くなっている。男女差は「ジェンダー（社会的性別）」が最も高く、女性が男性より14.1ポイント高くなっている。

【問25】



※新規調査項目：「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）」「固定的性別役割分担意識」「DV防止法」「ストーカー規制法」「一時保護制度」「保護命令制度」「DV加害者更正プログラム」「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」

◇性・年代別

●女性は50代を除き「ジェンダー（社会的性別）」が最も高い

性・年代別で見ると、女性は50代を除き「ジェンダー（社会的性別）」が最も高く、女性50代は「ストーカー規制法」（71.9%）が最も高くなっている。男性は30代・40代・50代では「ジェンダー（社会的性別）」が最も高く、20代では「男女共同参画社会」（51.3%）、60代では「男女雇用機会均等法」（62.7%）、70代以上では「ストーカー規制法」（72.5%）が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	127	182	228	231	83
ジェンダー(社会的性別)	80.0	63.1	66.9	70.3	71.5	71.4	75.9
男女雇用機会均等法	20.0	48.5	54.3	61.0	65.4	66.7	71.1
ストーカー規制法	-	39.2	48.8	64.3	71.9	68.8	63.9
男女共同参画社会	60.0	54.6	52.0	33.5	46.1	59.3	60.2
DV防止法	-	32.3	39.4	48.4	55.7	47.2	55.4
ワーク・ライフ・バランス	40.0	55.4	47.2	44.5	45.6	34.2	20.5
育児介護休業法	20.0	43.1	41.7	35.2	39.5	37.7	42.2
女性活躍推進法	20.0	33.1	31.5	19.8	25.4	22.5	26.5
男女共同参画社会基本法	80.0	49.2	33.9	12.1	13.2	19.5	20.5
女性活躍・ハラスメント規制法(2020年6月より施行)	20.0	30.8	20.5	15.4	18.9	17.7	25.3
一時保護制度	-	13.1	21.3	17.0	22.8	24.2	34.9
政治分野における男女共同参画推進法	-	16.9	12.6	5.5	4.4	10.4	12.0
女子差別撤廃条約	-	17.7	13.4	7.1	6.6	7.8	13.3
DV加害者更正プログラム	-	6.2	10.2	10.4	16.2	13.0	20.5
群馬県男女共同参画推進条例	20.0	6.9	7.9	4.9	5.7	9.5	19.3
保護命令制度	-	6.9	9.4	7.1	10.5	6.9	7.2
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	-	14.6	7.1	5.5	4.4	4.8	3.6
群馬県男女共同参画基本計画	20.0	6.2	7.9	4.4	5.3	7.8	7.2
アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)	-	10.0	11.0	4.4	7.0	5.2	2.4
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	-	9.2	7.1	2.7	3.1	3.0	2.4
困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	-	0.8	3.1	4.9	4.4	2.6	6.0
固定的性別役割分担意識	-	2.3	2.4	1.1	1.3	1.3	1.2
聞いたことがあるものはない	-	13.1	13.4	11.5	9.2	5.6	8.4

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

第3章 調査結果の詳細

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
N	4	78	184	210	194	166	178
ジェンダー(社会的性別)	-	50.0	48.9	53.8	56.7	60.2	64.6
男女雇用機会均等法	25.0	42.3	45.1	53.3	54.1	62.7	71.3
ストーカー規制法	25.0	29.5	38.6	51.4	54.1	62.0	72.5
男女共同参画社会	50.0	51.3	45.7	37.6	40.7	60.8	62.9
DV防止法	25.0	24.4	35.3	37.6	46.9	47.6	59.6
ワーク・ライフ・バランス	-	44.9	41.3	37.6	41.2	40.4	32.0
育児介護休業法	-	23.1	26.1	28.6	27.8	42.8	39.3
女性活躍推進法	50.0	16.7	27.2	25.2	25.8	28.9	23.6
男女共同参画社会基本法	25.0	46.2	41.3	18.6	17.5	22.9	19.1
女性活躍・ハラスメント規制法(2020年6月より施行)	25.0	19.2	19.6	13.8	18.0	22.3	15.2
一時保護制度	50.0	10.3	10.9	11.0	14.4	13.9	15.7
政治分野における男女共同参画推進法	25.0	17.9	14.1	11.4	10.3	13.9	16.3
女子差別撤廃条約	25.0	12.8	16.3	11.9	13.9	10.8	9.0
DV加害者更正プログラム	-	5.1	7.6	8.1	7.7	9.0	12.4
群馬県男女共同参画推進条例	-	7.7	5.4	4.3	7.2	10.8	7.9
保護命令制度	-	2.6	10.3	3.8	5.2	4.8	8.4
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	-	14.1	9.8	7.1	7.2	6.0	6.2
群馬県男女共同参画基本計画	-	7.7	7.1	3.8	8.2	9.0	7.9
アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)	-	7.7	9.2	4.8	6.2	4.2	3.9
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	-	10.3	4.9	0.5	2.1	1.8	2.2
困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	-	1.3	4.3	1.9	2.6	4.8	2.8
固定的性別役割分担意識	-	2.6	5.4	1.4	1.0	2.4	1.1
見聞きしたことがあるものはない	-	14.1	15.2	18.1	13.4	9.6	7.9

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目(単位:%)

◇圏域別

●渋川圏と吾妻圏を除き「ジェンダー（社会的性別）」が最も高い

圏域別でみると、渋川圏と吾妻圏を除き「ジェンダー（社会的性別）」が最も高くなっている。渋川圏は「男女雇用機会均等法」が最も高く、次いで「ジェンダー（社会的性別）」となっている。吾妻圏は「ストーカー規制法」が最も高く、次いで「ジェンダー（社会的性別）」となっている。

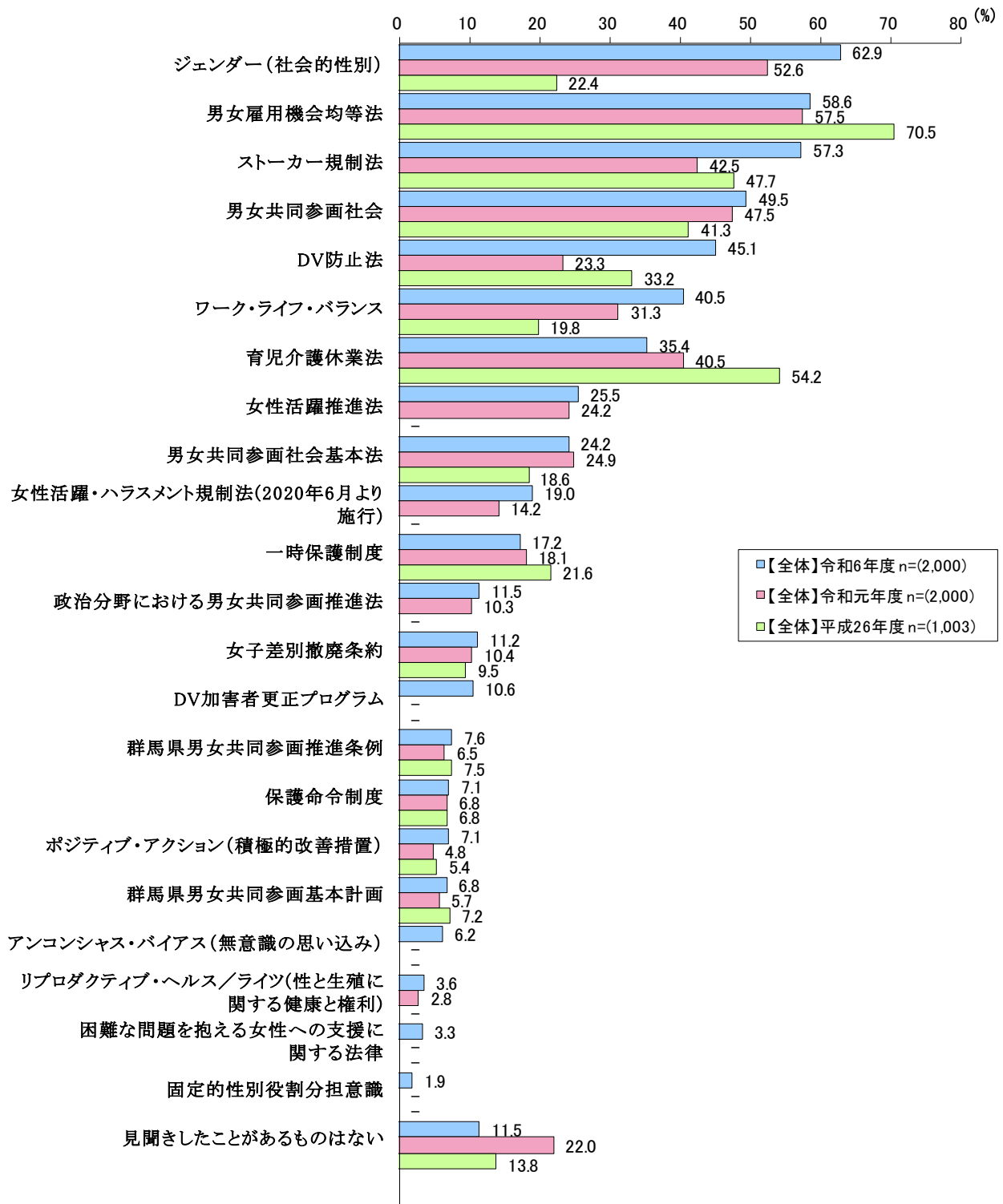
圏域	前橋圏	渋川圏	伊勢崎圏	高崎・安中圏	藤岡圏	富岡圏	吾妻圏	利根・沼田圏	太田・館林圏	桐生圏
N	328	114	263	446	70	69	50	77	425	158
ジェンダー(社会的性別)	63.4	62.3	62.0	65.0	68.6	62.3	58.0	67.5	60.5	60.8
男女雇用機会均等法	62.8	63.2	55.5	60.1	62.9	58.0	50.0	64.9	53.9	57.6
ストーカー規制法	54.6	58.8	57.8	59.2	64.3	59.4	62.0	63.6	53.4	57.6
男女共同参画社会	51.5	53.5	49.0	50.9	48.6	43.5	44.0	59.7	44.7	51.9
DV防止法	46.3	48.2	43.3	47.1	50.0	39.1	46.0	44.2	42.1	46.2
ワーク・ライフ・バランス	41.2	44.7	41.1	44.6	35.7	34.8	34.0	53.2	38.4	29.1
育児介護休業法	38.7	39.5	35.7	37.0	27.1	27.5	18.0	36.4	35.1	32.9
女性活躍推進法	24.4	22.8	24.7	26.0	22.9	20.3	28.0	32.5	26.1	27.2
男女共同参画社会基本法	25.0	24.6	24.3	25.6	22.9	14.5	14.0	31.2	23.3	24.7
女性活躍・ハラスメント規制法(2020年6月より施行)	18.3	19.3	22.1	20.4	15.7	20.3	16.0	18.2	18.1	15.8
一時保護制度	19.5	15.8	16.0	17.7	14.3	14.5	16.0	19.5	16.2	18.4
政治分野における男女共同参画推進法	14.6	9.6	11.4	12.8	11.4	7.2	2.0	9.1	11.5	8.2
女子差別撤廃条約	10.4	9.6	13.3	10.8	11.4	5.8	14.0	13.0	11.8	10.8
DV加害者更正プログラム	11.6	10.5	12.2	11.0	12.9	11.6	8.0	9.1	8.9	8.9
群馬県男女共同参画推進条例	10.7	7.0	7.6	8.1	5.7	8.7	6.0	10.4	5.6	4.4
保護命令制度	7.6	4.4	6.5	6.7	8.6	7.2	8.0	11.7	7.1	7.0
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	8.2	8.8	6.1	8.1	4.3	2.9	4.0	3.9	8.2	4.4
群馬県男女共同参画基本計画	8.8	7.0	6.8	7.2	7.1	7.2	8.0	11.7	3.8	5.7
アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)	7.0	7.9	4.9	6.3	8.6	5.8	2.0	3.9	7.1	4.4
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	4.6	5.3	2.3	4.5	7.1	1.4	2.0	0.0	3.5	1.3
困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	3.7	5.3	3.8	2.7	2.9	1.4	4.0	5.2	2.6	3.8
固定的性別役割分担意識	3.0	2.6	0.8	1.3	1.4	0.0	2.0	2.6	2.4	1.9
見聞きしたことがあるものはない	11.0	9.6	12.2	10.3	10.0	15.9	10.0	7.8	12.9	12.7

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

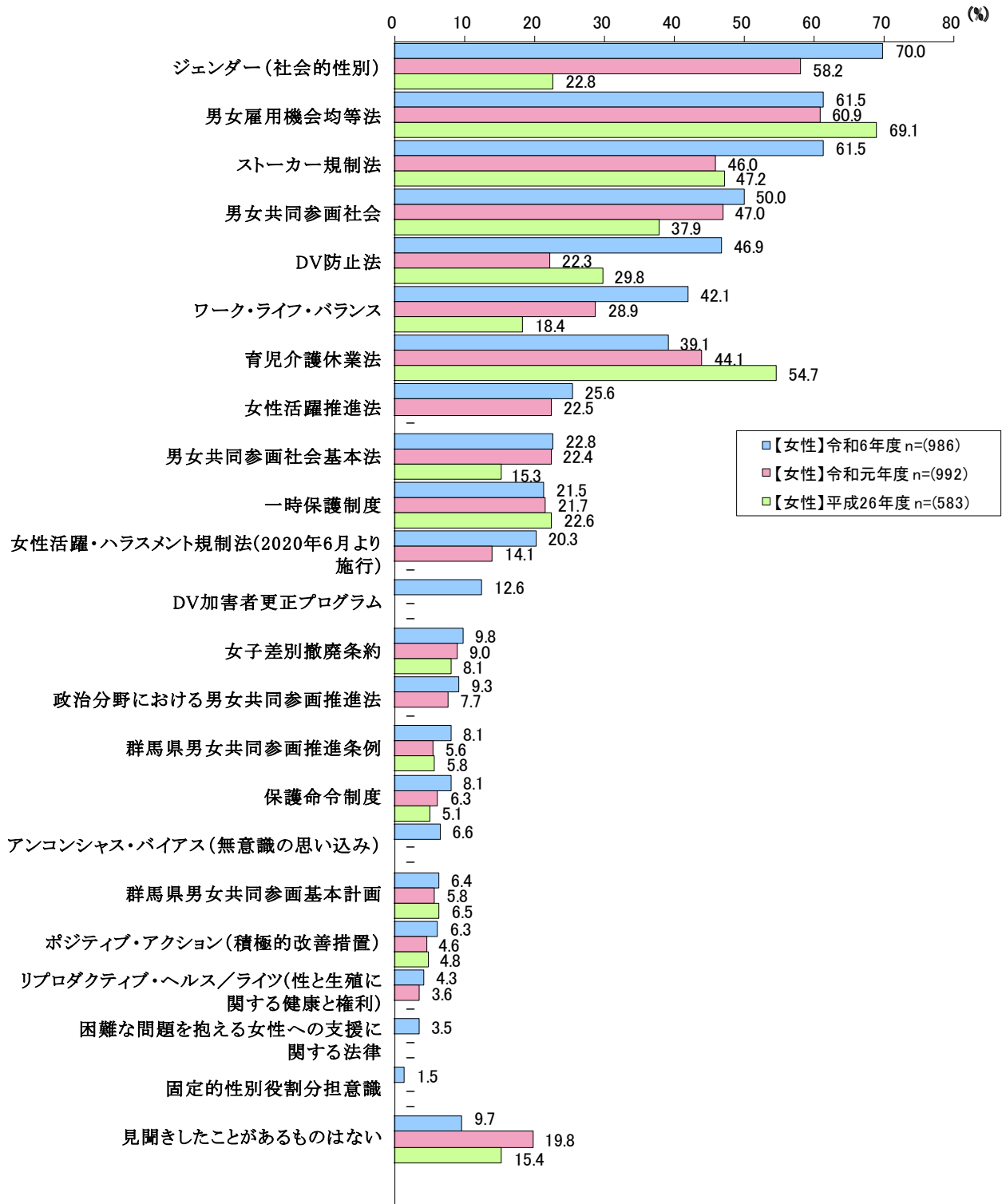
◇経年変化（参考）

●「ジェンダー（社会的性別）」は前回調査より男女とも高くなっている

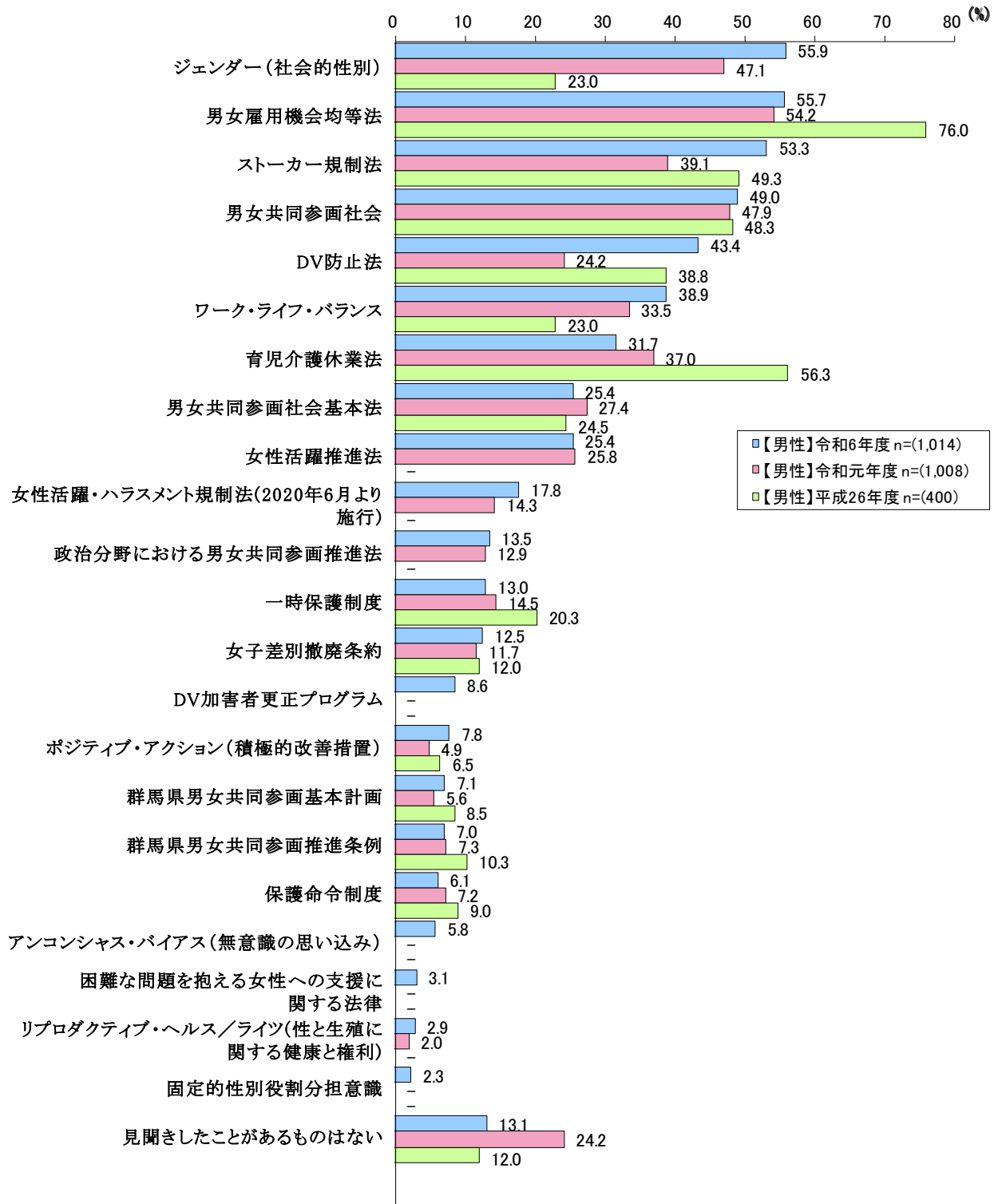
経年変化を性別で見ると、「ジェンダー（社会的性別）」は、令和元年度（全体52.6%、女性58.2%、男性47.1%）より、全体は10.3ポイント、女性は11.8%、男性は8.8ポイントそれぞれ高くなっている。



【女性】



【男性】



(2) 男女共同参画社会づくりの実感

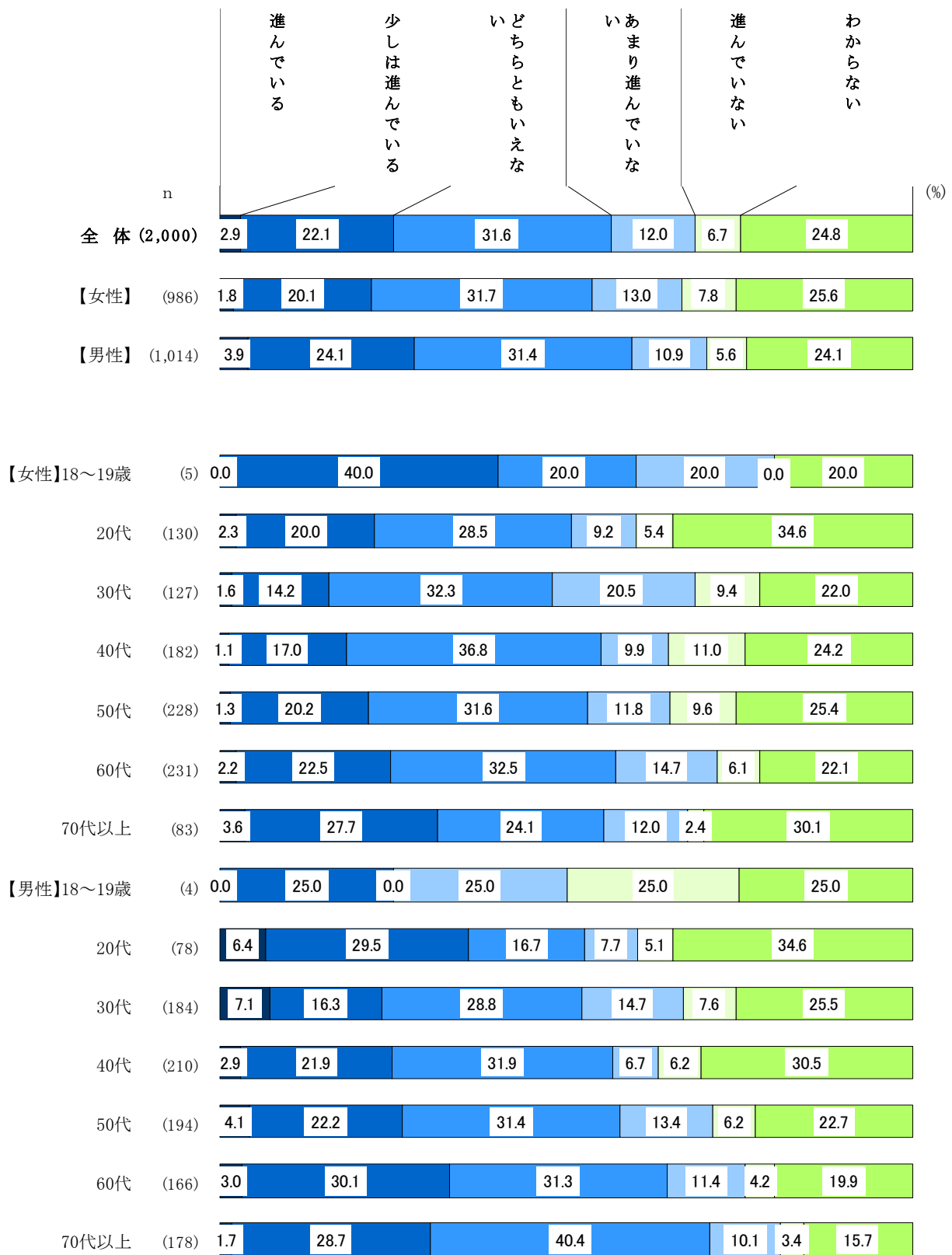
問26 あなたは、数年前と比べて、群馬県の男女共同参画の社会づくりが進んでいると感じますか。(1つに○)

- 全体、男女ともに「どちらともいえない」が3割以上
- 《進んでいる(計)》は、男性70代以上を除くすべての年代で男性が女性より高い
- 《進んでいる(計)》の男女差は20代が大きい

全体、男女ともに「どちらともいえない」(全体31.6%、女性31.7%、男性31.4%)が最も高く、次いで全体、女性は「わからない」(全体24.8%、女性25.6%)、男性は「わからない」と「少しは進んでいる」が同値(24.1%)となっている。《進んでいる(計)》(「進んでいる」と「少しは進んでいる」の合計値)は、男性(28.0%)が女性(21.9%)より6.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性20代・70代以上、男性20代を除くすべての年代で「どちらともいえない」が最も高く、女性20代・70代以上、男性20代は「わからない」が最も高くなっている。《進んでいる(計)》は、70代以上を除くすべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差は20代(女性22.3%、男性35.9%)が13.6ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。

【問26】

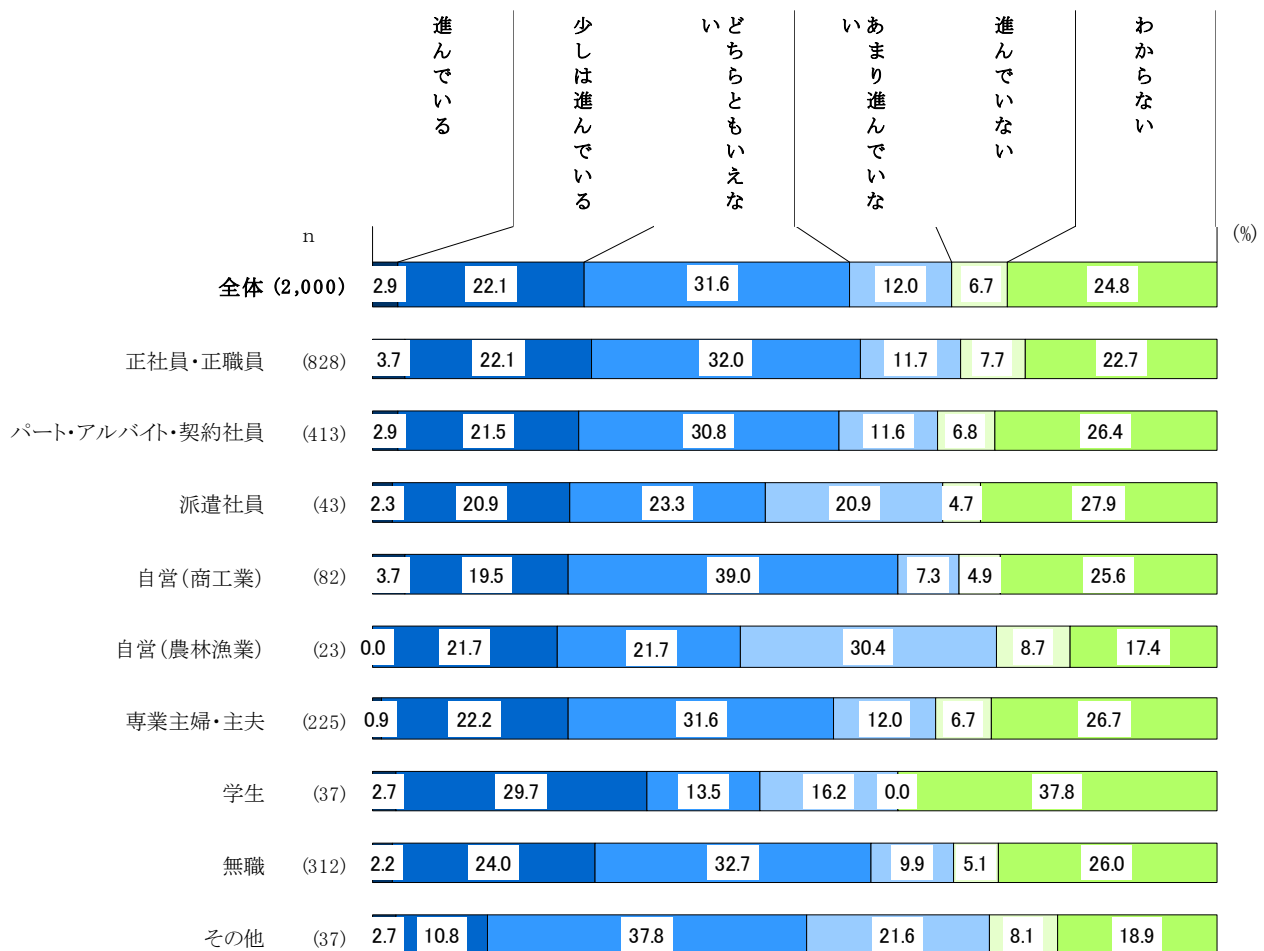


◇職業別

●《進んでいる（計）》は学生で3割以上

職業別で見ると、『自営（農林漁業）』と『学生』を除くすべての職業で「どちらともいえない」が最も高く、『自営（農林漁業）』は「あまり進んでいない」（30.4%）で最も高く、『学生』は「少しは進んでいる」（29.7%）で最も高くなっている。

《進んでいる（計）》（「進んでいる」と「少しは進んでいる」の合計値）は、『学生』（32.4%）が3割以上で最も高く、次いで『無職』（26.2%）、『正社員・正職員』（25.8%）の2項目が約3割となっている。



◇圏域別

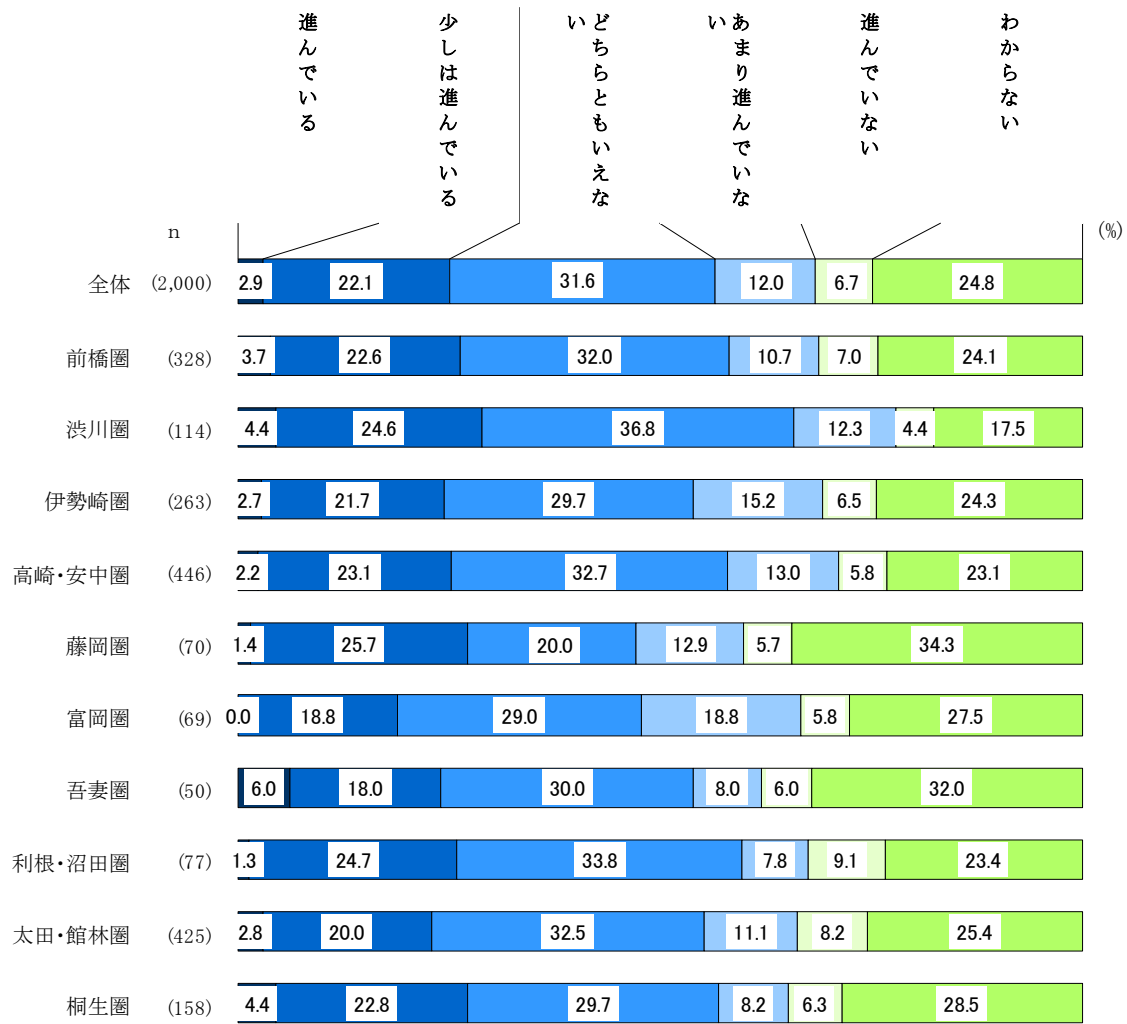
●すべての圏域で「どちらともいえない」、「わからない」が高い

●《進んでいる（計）》は渋川圏が最も高い

圏域別で見ると、藤岡圏、吾妻圏を除くすべての圏域で「どちらともいえない」が最も高く、藤岡圏、吾妻圏は「わからない」が最も高くなっている。

《進んでいる（計）》は富岡圏を除くすべての圏域で2割台となっており、渋川圏（29.0%）が最も高くなっている。

【問 26 圏域別】

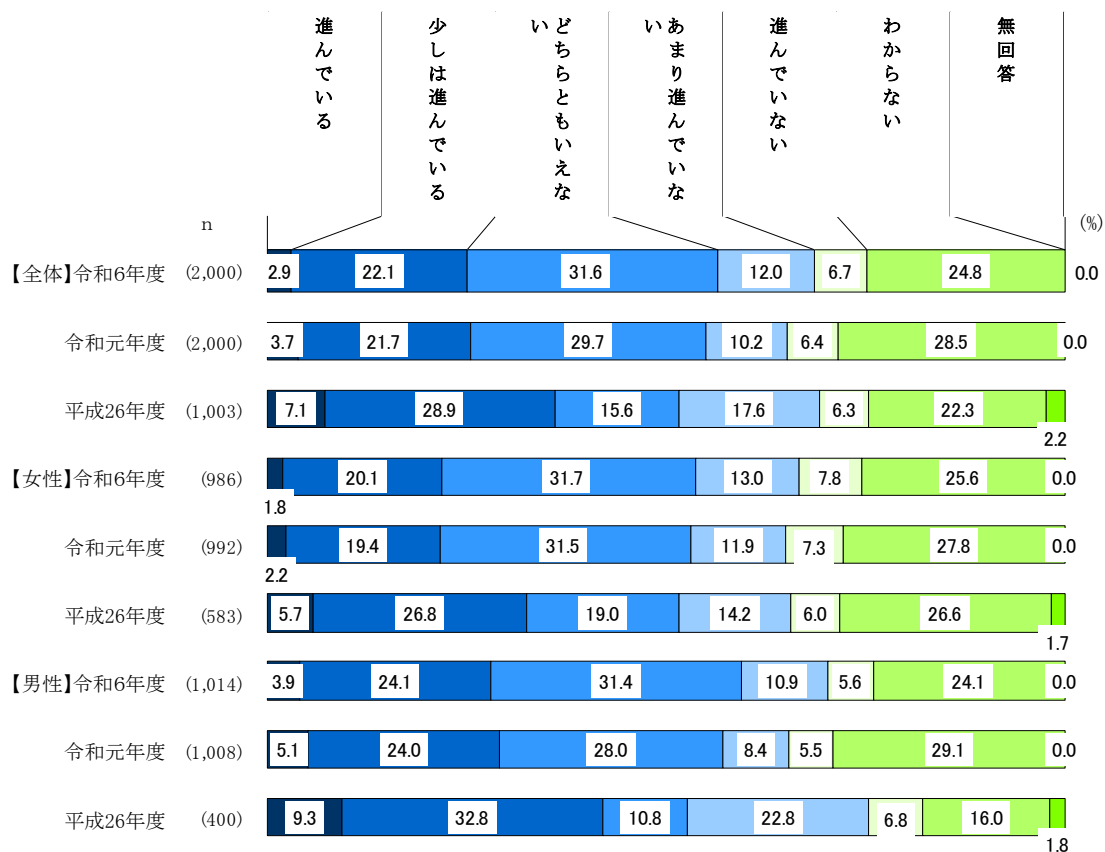


◇経年変化（参考）

●「どちらともいえない」は男女とも前回より高い

《進んでいる（計）》（「進んでいる」と「少しは進んでいる」の合計値）は、令和元年度と同程度だが、「どちらともいえない」は、男性が令和元年度（28.0%）より3.4ポイント高くなっている。

【問 26 経年変化】



(3) 男女共同参画の社会づくりによって生じると思われる変化や効果

問27 あなたは、男女共同参画の社会づくりが進むと社会にどのような変化や効果が現れると思いますか。(3つまで選択可)

●「仕事と家庭のバランスが取れ、暮らしやすくなる」が女性4割以上、男性3割以上

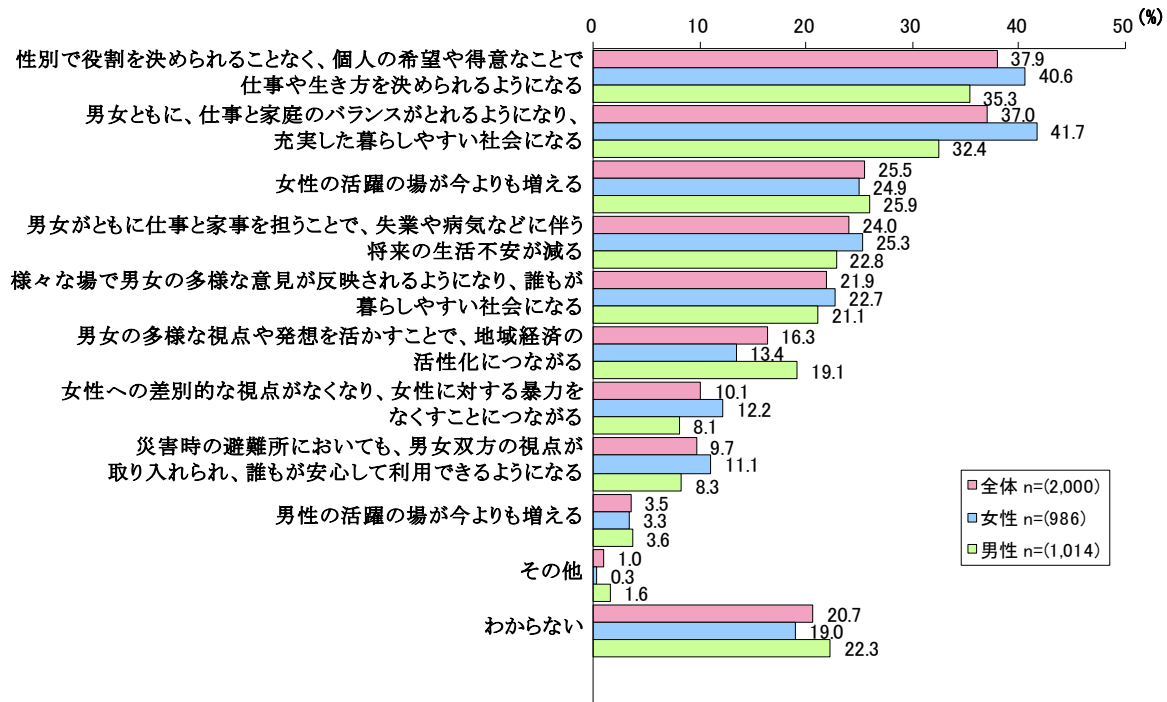
全体では、「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる」(37.9%)が最も高く、次いで「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」(37.0%)となっている。

女性は「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」(41.7%)が最も高く、次いで僅差で「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる」(40.6%)となっている。

男性は「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる」(35.3%)が最も高く、次いで「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」(32.4%)となっている。

男女差は「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」が最も大きく、女性が男性より9.3ポイント高くなっている。

【問27】



◇性・年代別

●「仕事と家庭のバランスが取れ、暮らしやすくなる」と「性別によらず個人で仕事や生き方を決められる」が高い

性・年代別で見ると、女性20代・30代・40代、男性20代・40代は「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」が最も高くなっている。女性60代・70代以上、男性30代・50代・60代は「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なこと仕事や生き方を決められるようになる」が最も高く、特に女性70代以上（51.8%）で5割以上と高くなっている。女性50代は「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なこと仕事や生き方を決められるようになる」と「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」が同値（40.8%）で高くなっており、男性70代以上は「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なこと仕事や生き方を決められるようになる」と「女性の活躍の場が今よりも増える」が同値（41.6%）で高くなっている。

第3章 調査結果の詳細

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
N	5	130	127	182	228	231	83
性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる	40.0	35.4	34.6	33.5	40.8	48.1	51.8
男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる	40.0	41.5	46.5	44.0	40.8	40.3	36.1
女性の活躍の場が今よりも増える	20.0	21.5	16.5	24.7	25.0	26.4	39.8
男女がともに仕事と家事を担うことで、失業や病気などに伴う将来の生活不安が減る	-	23.1	26.0	23.1	24.1	26.0	34.9
様々な場で男女の多様な意見が反映されるようになり、誰もが暮らしやすい社会になる	40.0	23.1	21.3	20.3	23.2	23.4	25.3
男女の多様な視点や発想を活かすことで、地域経済の活性化につながる	40.0	10.0	8.7	12.6	15.4	16.0	13.3
女性への差別的な視点がなくなり、女性に対する暴力をなくすことにつながる	-	7.7	11.0	11.5	11.8	16.0	13.3
災害時の避難所においても、男女双方の視点を取り入れられ、誰もが安心して利用できるようになる	-	10.0	11.8	6.0	12.7	11.3	18.1
男性の活躍の場が今よりも増える	20.0	6.2	5.5	4.4	1.8	2.2	-
その他	-	-	0.8	0.5	0.4	-	-
わからない	-	20.8	22.8	24.7	18.0	14.7	13.3

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

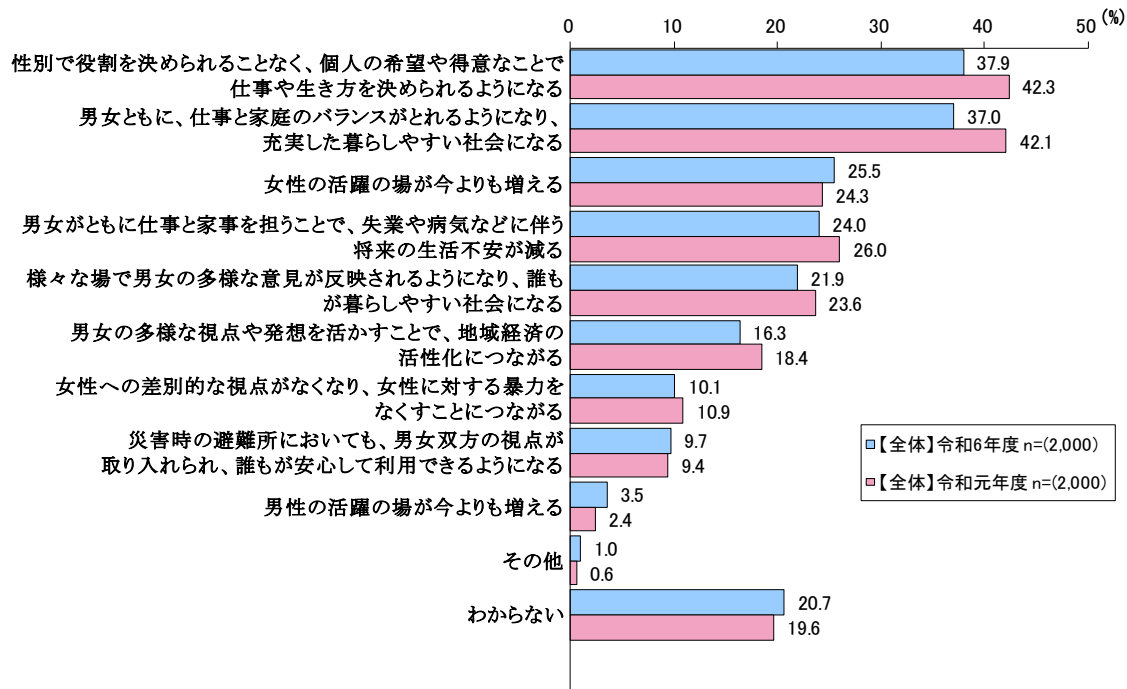
男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
N	4	78	184	210	194	166	178
性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる	25.0	32.1	31.0	27.1	32.5	48.8	41.6
男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる	25.0	33.3	29.9	32.9	30.4	29.5	39.3
女性の活躍の場が今よりも増える	50.0	21.8	13.6	21.9	22.2	33.7	41.6
男女がともに仕事と家事を担うことで、失業や病気などに伴う将来の生活不安が減る	25.0	14.1	23.4	21.0	24.2	23.5	25.8
様々な場で男女の多様な意見が反映されるようになり、誰もが暮らしやすい社会になる	25.0	24.4	15.8	18.1	22.2	22.9	25.8
男女の多様な視点や発想を活かすことで、地域経済の活性化につながる	-	14.1	17.9	15.2	16.5	24.1	25.8
女性への差別的な視点がなくなり、女性に対する暴力をなくすことにつながる	-	2.6	7.1	8.6	8.2	7.2	11.8
災害時の避難所においても、男女双方の視点を取り入れられ、誰もが安心して利用できるようになる	-	11.5	6.5	7.6	6.7	9.6	10.1
男性の活躍の場が今よりも増える	-	6.4	8.2	1.4	3.6	2.4	1.7
その他	-	1.3	1.6	2.4	-	2.4	1.7
わからない	25.0	28.2	24.5	28.6	24.2	16.3	13.5

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

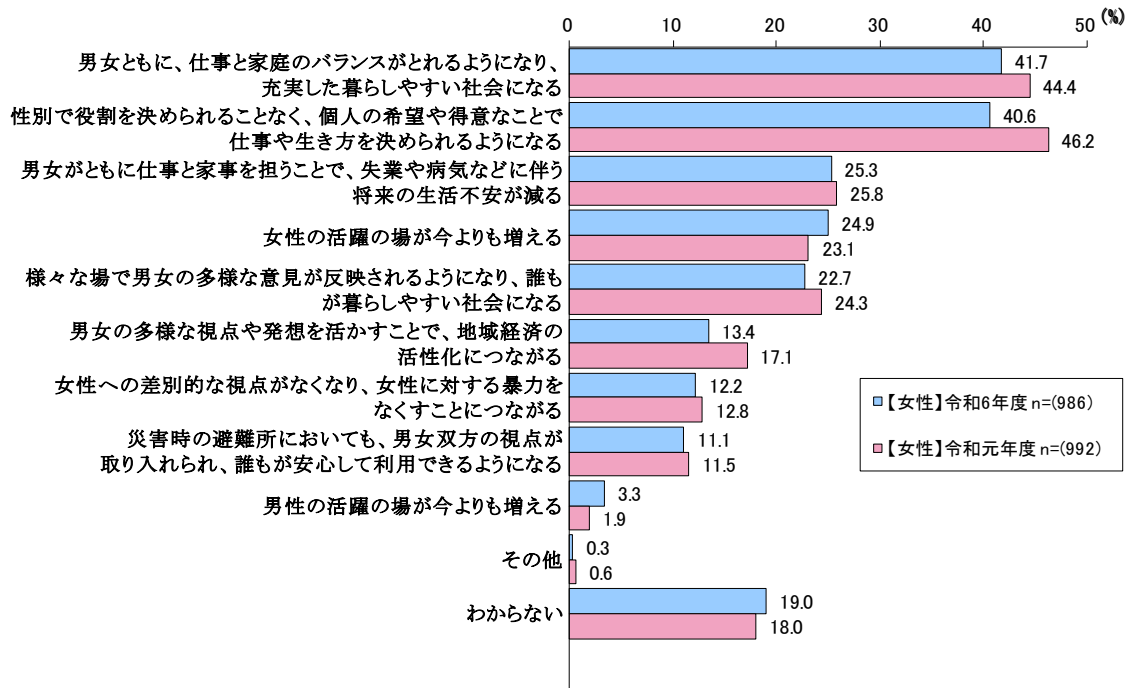
◇経年変化

●「仕事と家庭のバランスが取れ、暮らしやすくなる」が男女ともに前回より低い

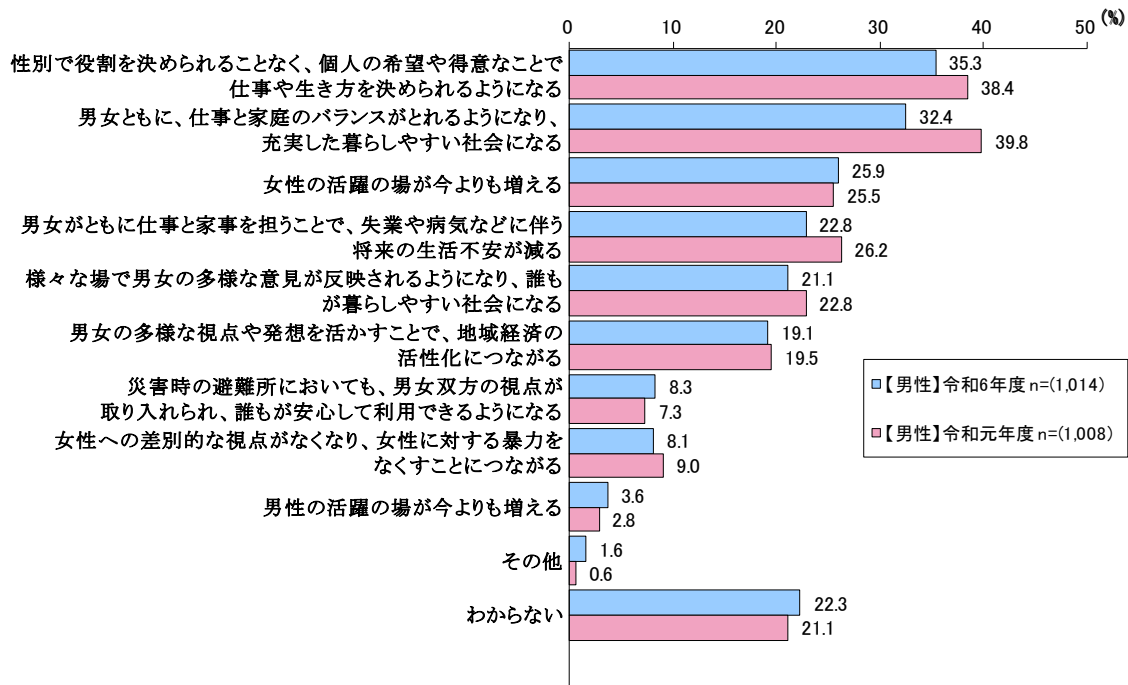
経年変化を性別で見ると、「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」は、令和元年度（全体42.1%、女性44.4%、男性39.8%）より全体は5.1ポイント、女性は2.7ポイント、男性は7.4ポイントそれぞれ低くなっている。



【女性】



【男性】



(4) 地域活動にかかわるリーダーの性別意識

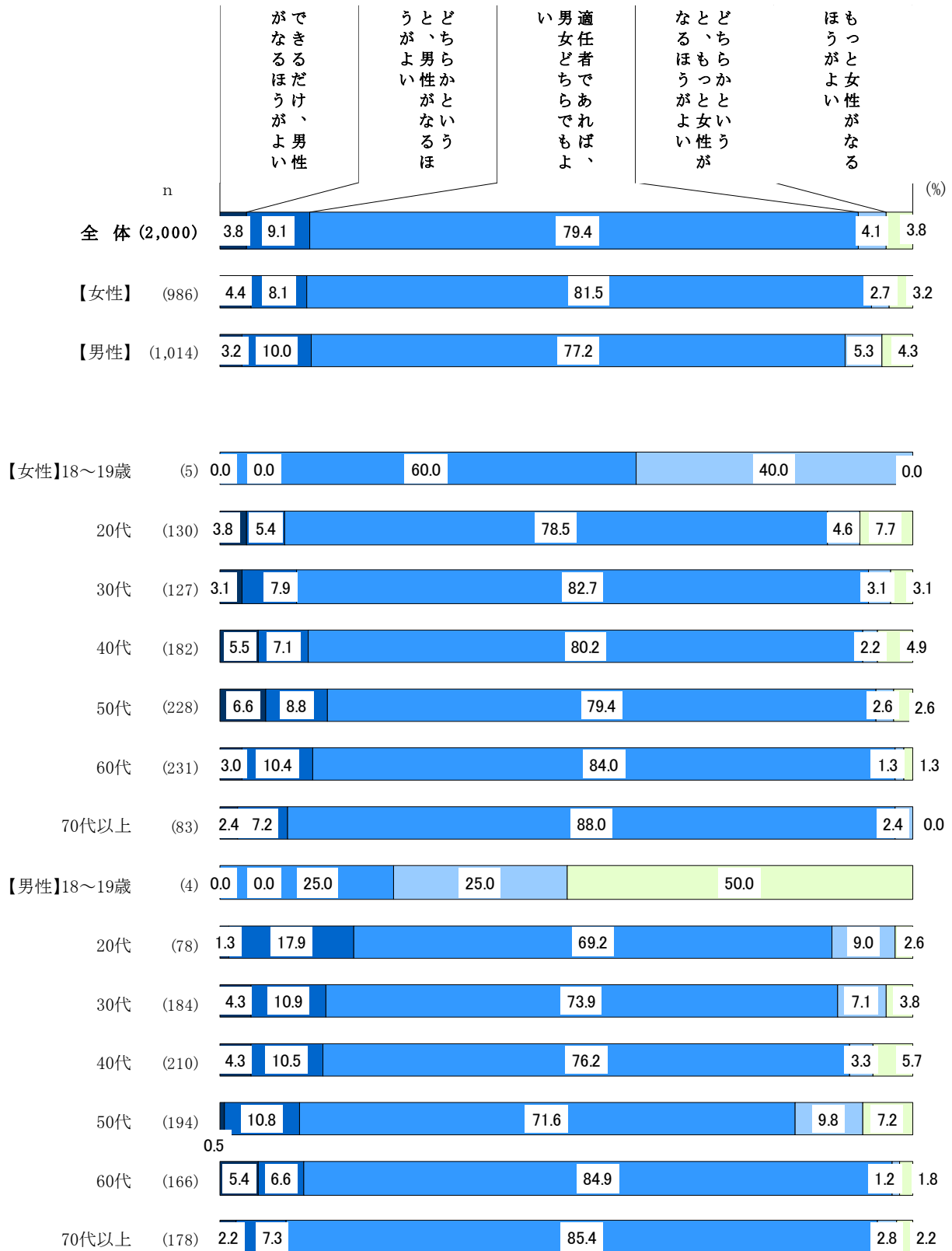
問28 あなたは、自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、地域活動にかかわる役職についてどう思いますか。(1つに○)

- 「適任者であれば男女どちらでもよい」が女性8割以上、男性7割以上
- 《男性になるほうがよい(計)》は男女ともに1割以上
- 《女性になるほうがよい(計)》の男女差が50代で大きい

全体、男女とも「適任者であれば、男女どちらでもよい」(全体79.4%、女性81.5%、男性77.2%)が最も高く、次いで「どちらかという、男性になるほうがよい」(全体9.1%、女性8.1%、男性10.0%)となっている。《女性になるほうがよい(計)》(「もっと女性になるほうがよい」と「どちらかという、もっと女性になるほうがよい」の合計値)は男女とも1割未満となっている。《男性になるほうがよい(計)》(「できるだけ、男性になるほうがよい」と「どちらかという、男性になるほうがよい」の合計値)は、女性(12.5%)と男性(13.2%)で同程度となっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「適任者であれば、男女どちらでもよい」が最も高く、70代以上(女性88.0%、男性85.4%)と約9割と高くなっている。《女性になるほうがよい(計)》の男女差は50代(女性5.2%、男性17.0%)が11.8ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。《男性になるほうがよい(計)》の男女差は20代(女性9.2%、男性19.2%)が10.0ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。

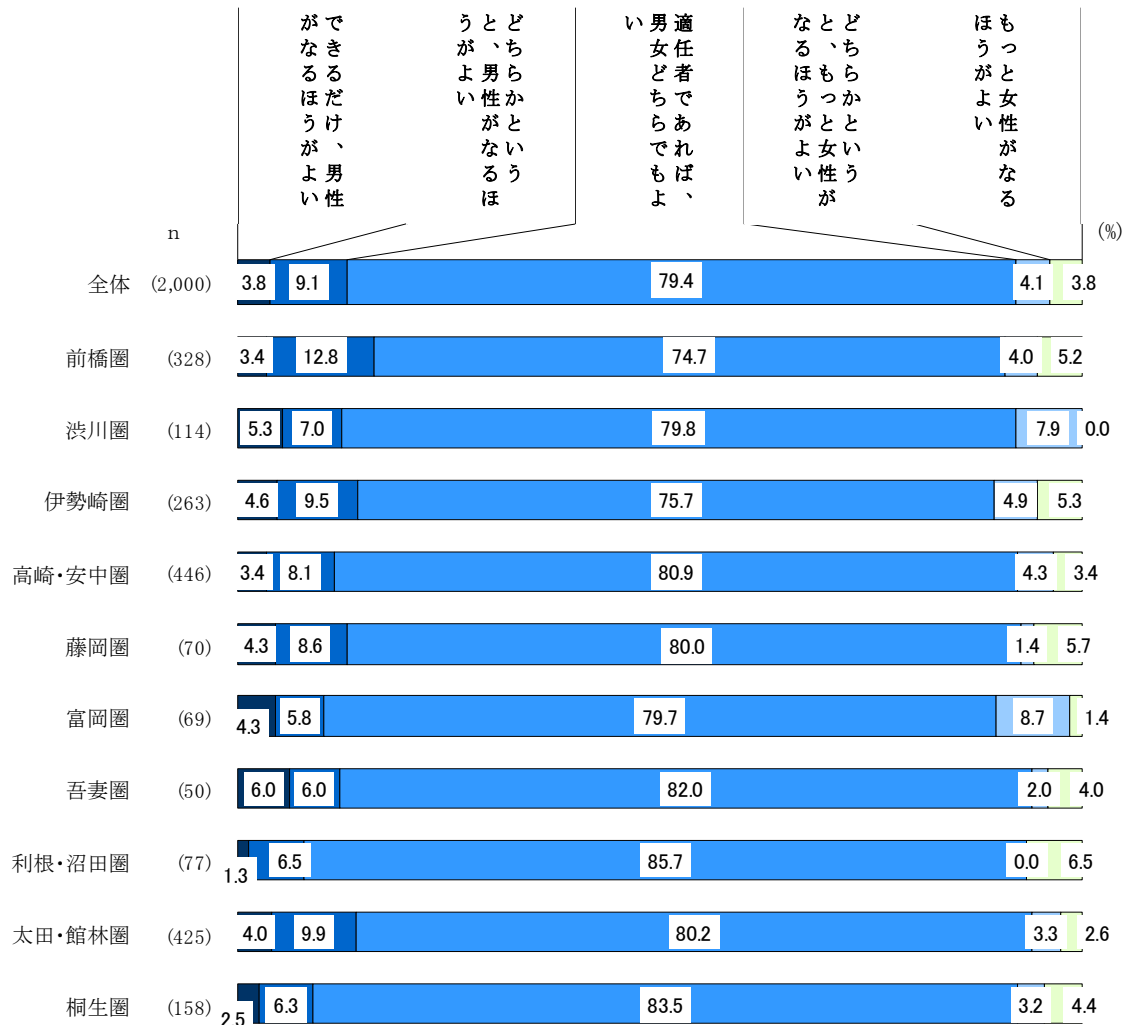
【問28】



◇圏域別

●前橋圏は《男性になるほうがよい（計）》が比較的高い

圏域別で見ると、すべての圏域で「適任者であれば、男女どちらでもよい」が最も高くなっている。《男性になるほうがよい（計）》（「できるだけ、男性になるほうがよい」と「どちらかという、男性になるほうがよい」の合計値）は、前橋圏（16.2%）が約2割で最も高く、次いで伊勢崎圏（14.1%）となっている。

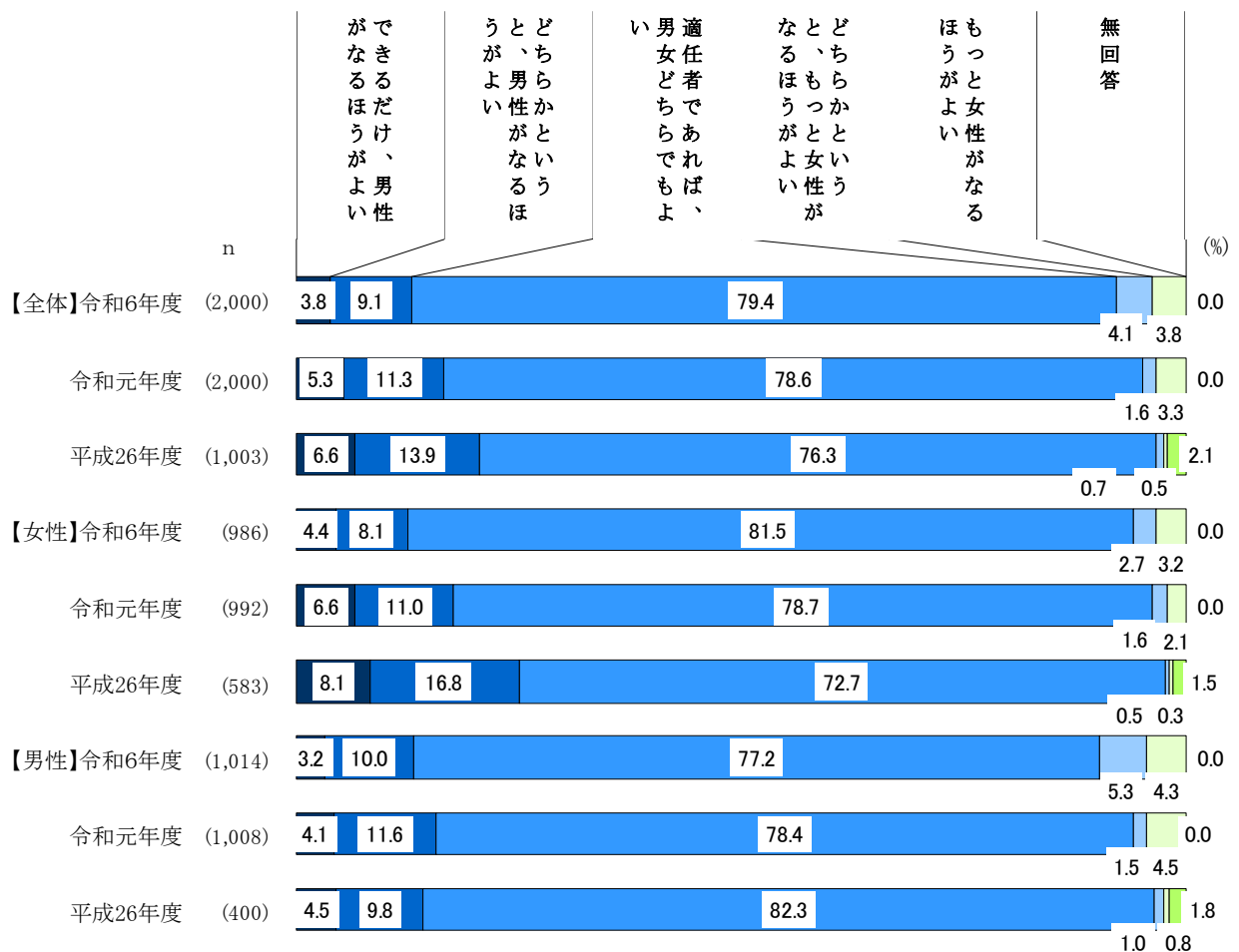


◇経年変化

●「適任者であれば、男女どちらでもよい」は女性で前回より高い

経年変化を性別で見ると、女性は「適任者であれば、男女どちらでもよい」が令和元年度（78.7%）より2.8ポイント高くなっている。《男性がなるほうがよい（計）》（「できるだけ、男性がなるほうがよい」と「どちらかというと、男性がなるほうがよい」の合計値）は、全体、男女ともに低くなっている。

【問 28 経年変化】



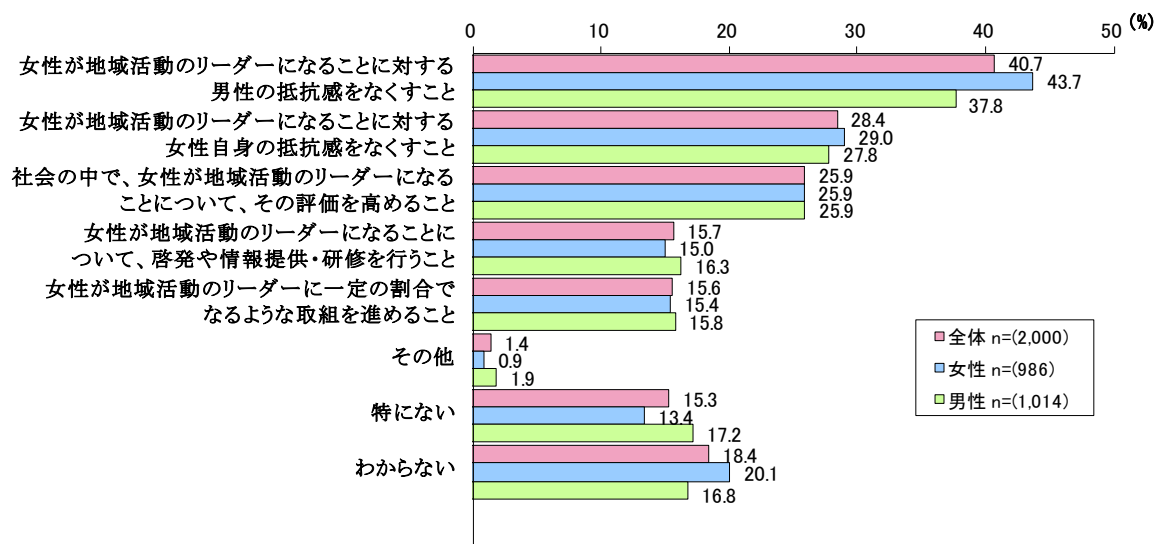
(5) 女性が地域活動のリーダーに登用されるために必要なこと

問29 あなたは、自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものを全て選択可)

●「女性リーダーへの男性の抵抗感をなくすこと」が男女ともに最も高い

全体、男女ともに「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」(全体40.7%、女性43.7%、男性37.8%)が最も高く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」(全体28.4%、女性29.0%、男性27.8%)が約3割と高くなっている。男女差は「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も大きく、女性が男性より5.9ポイント高くなっており、それ以外の項目ではあまり大きな差は見られない。



◇性・年代別

●男性20代を除き「男性の抵抗感をなくす」が高い

性・年代別で見ると、男性20代を除き「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も高く、特に男性70代以上（51.7%）が5割以上で高くなっている。男性20代は「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」（24.4%）が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	127	182	228	231	83
女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	20.0	31.5	36.2	44.5	46.9	49.4	49.4
女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	-	27.7	27.6	28.6	25.4	33.3	33.7
社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること	80.0	17.7	22.8	23.6	26.3	30.3	31.3
女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	20.0	16.9	17.3	13.7	10.5	16.9	18.1
女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること	-	16.9	11.8	18.7	13.6	15.6	16.9
その他	-	-	0.8	0.5	1.3	1.3	1.2
特にない	-	13.1	19.7	10.4	12.3	14.3	12.0
わからない	20.0	26.2	21.3	22.5	20.2	15.6	15.7

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

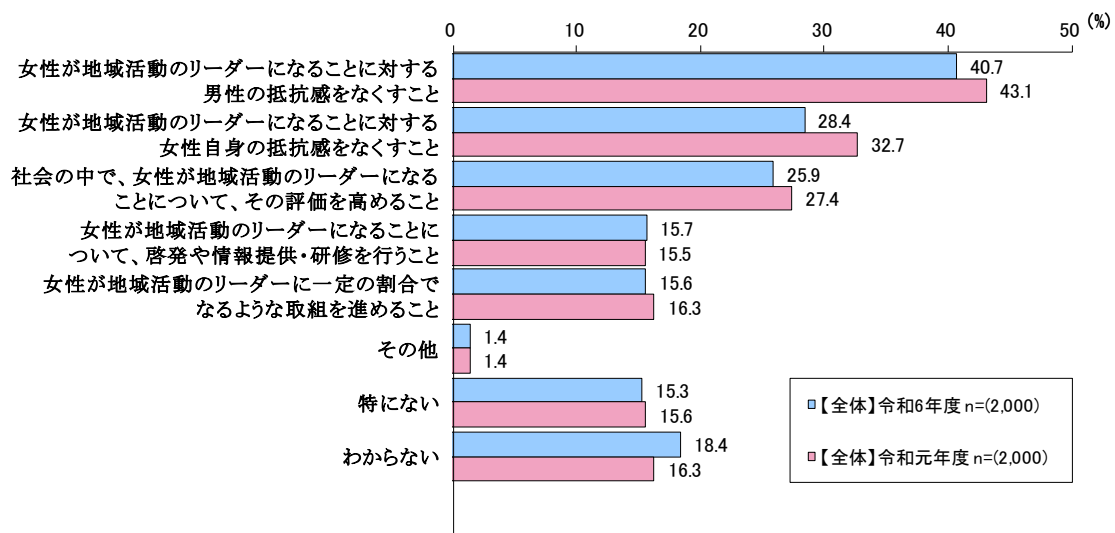
男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	78	184	210	194	166	178
女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	-	21.8	35.3	30.5	34.5	47.0	51.7
女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	-	21.8	19.6	26.7	28.4	32.5	36.0
社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること	25.0	24.4	23.9	19.5	23.2	25.9	39.3
女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	50.0	23.1	13.6	10.5	13.4	16.3	25.3
女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること	-	12.8	9.2	11.9	17.0	18.1	25.3
その他	-	1.3	2.2	3.8	0.5	1.8	1.1
特にない	25.0	21.8	27.7	15.7	15.5	13.3	11.2
わからない	25.0	23.1	13.6	21.4	20.6	14.5	9.6

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

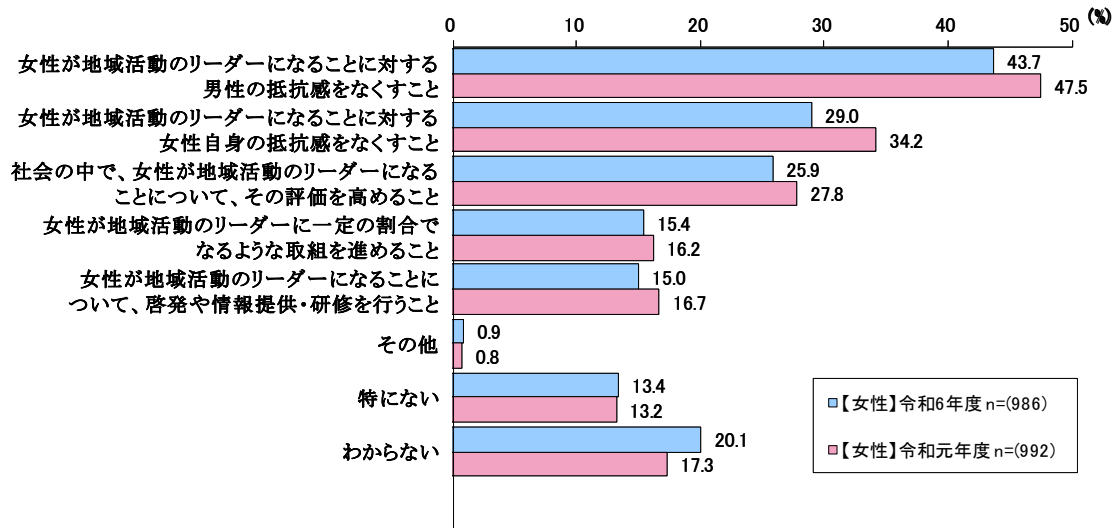
◇経年変化

●男女ともほとんどの項目で前回より低い

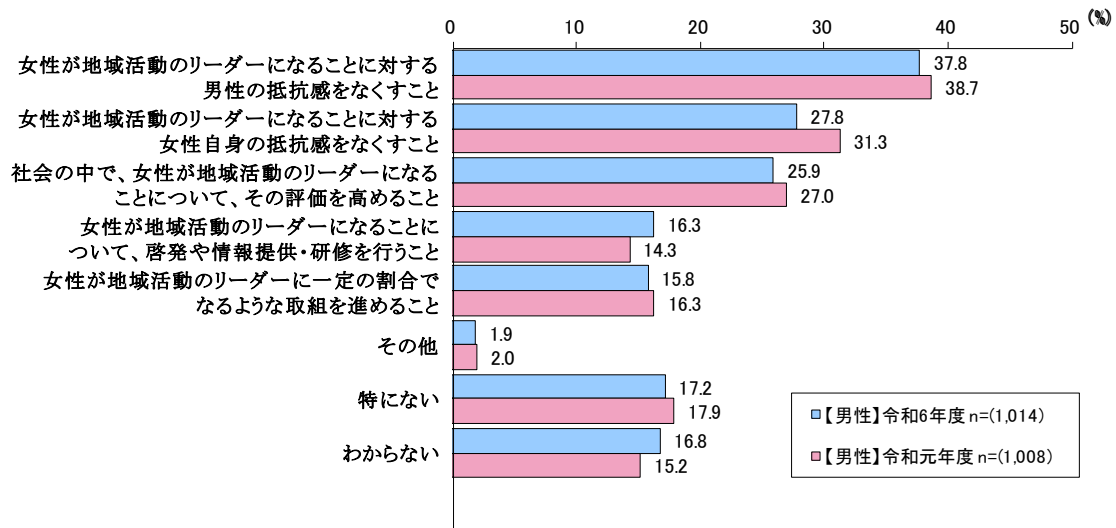
経年変化を性別で見ると、ほとんどの項目で前回より低くなっている。特に「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」は、令和元年度（全体32.7%、女性34.2%、男性31.3%）より全体は4.3ポイント、女性は5.2ポイント、男性は3.5ポイントそれぞれ低くなっている。



【女性】



【男性】



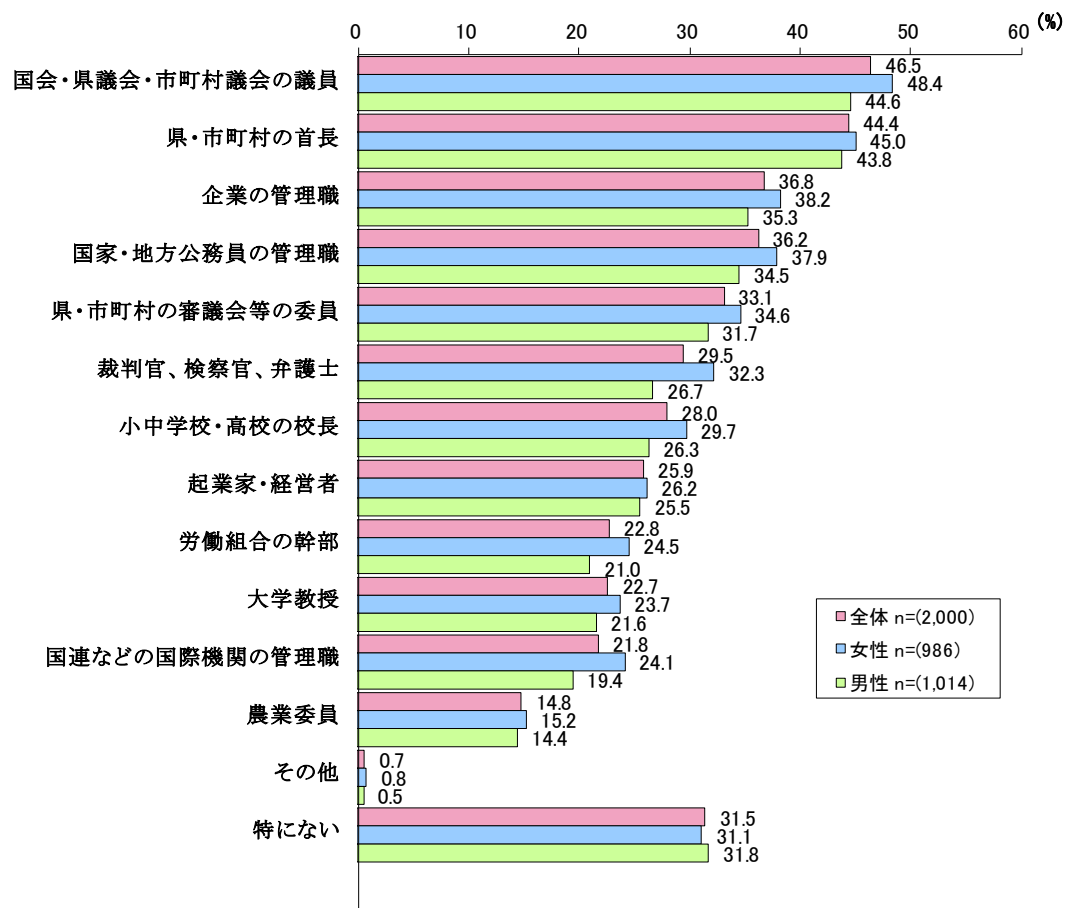
(6) 女性が増えると思う役職・職業

問30 あなたが、次にあげるような政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性がもっと増えるほうがよいと思うものはどれですか。(あてはまるものを全て選択可)

- 「国会・県議会・市町村議会の議員」が男女ともに最も高い
- 「裁判官、検察官、弁護士」で男女差が大きい

全体、男女ともに「国会・県議会・市町村議会の議員」(全体46.5%、女性48.4%、男性44.6%)が最も高く、次いで「県・市町村の首長」(全体44.4%、女性45.0%、男性43.8%)で4割以上、「企業の管理職」(全体36.8%、女性38.2%、男性35.3%)で約4割となっている。

男女差は「裁判官、検察官、弁護士」が最も大きく、女性(32.3%)が男性(26.7%)より5.6ポイント高くなっている。また、「その他」を除くすべての項目で女性が男性より高くなっている。



※新規調査項目：「特にない」

◇性・年代別

●「国会・県議会・市町村議会の議員」と「県・市町村の首長」が70代以上で6割以上

性・年代別で見ると、女性は30代を除き「国会・県議会・市町村議会の議員」が最も高く（70代以上は「県・市町村の首長」と同値（61.4%））、30代では「国家・地方公務員の管理職」が高くなっている。男性は20代・50代以上の年代は「国会・県議会・市町村議会の議員」が最も高く（20代は「国家・地方公務員の管理職」と同値（29.5%））、特に70代以上（62.4%）が6割以上で高くなっている。30代・40代では「県・市町村の首長」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	127	182	228	231	83
国会・県議会・市町村議会の議員	40.0	41.5	34.6	46.2	50.0	55.4	61.4
県・市町村の首長	60.0	36.2	35.4	45.6	45.6	48.1	61.4
企業の管理職	20.0	28.5	33.1	37.9	38.6	43.3	48.2
国家・地方公務員の管理職	20.0	33.8	36.2	36.8	36.0	42.0	44.6
県・市町村の審議会等の委員	40.0	33.8	30.7	33.0	33.3	37.7	39.8
裁判官、検察官、弁護士	40.0	25.4	24.4	32.4	34.2	37.2	34.9
小中学校・高校の校長	40.0	24.6	29.9	34.1	28.9	29.0	31.3
起業家・経営者	40.0	19.2	25.2	26.4	27.2	29.0	26.5
労働組合の幹部	60.0	17.7	22.0	23.1	27.2	27.3	25.3
大学教授	40.0	19.2	25.2	19.2	22.4	29.4	25.3
国連などの国際機関の管理職	20.0	20.8	18.9	23.1	23.2	28.6	30.1
農業委員	20.0	13.1	15.0	13.2	17.1	16.9	13.3
その他	-	1.5	0.8	0.5	0.9	0.9	-
特になし	-	39.2	41.7	31.3	28.9	27.7	19.3

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	78	184	210	194	166	178
国会・県議会・市町村議会の議員	-	29.5	29.9	41.4	39.7	59.6	62.4
県・市町村の首長	-	26.9	31.0	42.9	38.1	56.6	60.7
企業の管理職	-	21.8	19.6	28.6	34.5	50.0	53.4
国家・地方公務員の管理職	-	29.5	25.5	28.1	32.0	41.6	50.6
県・市町村の審議会等の委員	25.0	28.2	26.6	25.2	31.4	38.0	40.4
裁判官、検察官、弁護士	-	23.1	15.2	22.4	25.3	33.7	41.0
小中学校・高校の校長	-	23.1	19.0	22.4	24.2	30.1	39.3
起業家・経営者	-	17.9	14.1	25.2	24.2	33.1	36.0
労働組合の幹部	-	19.2	13.0	14.8	21.6	30.7	28.1
大学教授	25.0	20.5	12.0	16.2	22.2	30.7	29.2
国連などの国際機関の管理職	-	21.8	13.6	17.1	18.6	19.9	28.1
農業委員	-	12.8	9.8	12.9	18.0	15.1	17.4
その他	-	1.3	0.5	1.0	0.5	-	-
特になし	50.0	39.7	40.8	32.4	33.5	24.1	23.0

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

◇圏域別

●「国会・県議会・市町村議会の議員」は渋川圏で5割以上

圏域別で見ると、前橋圏・伊勢崎圏・富岡圏を除き「国会・県議会・市町村議会の議員」が最も高く、特に渋川圏（53.5%）が5割以上で高くなっている。前橋圏・伊勢崎圏・富岡圏は「県・市町村の首長」が最も高くなっている。

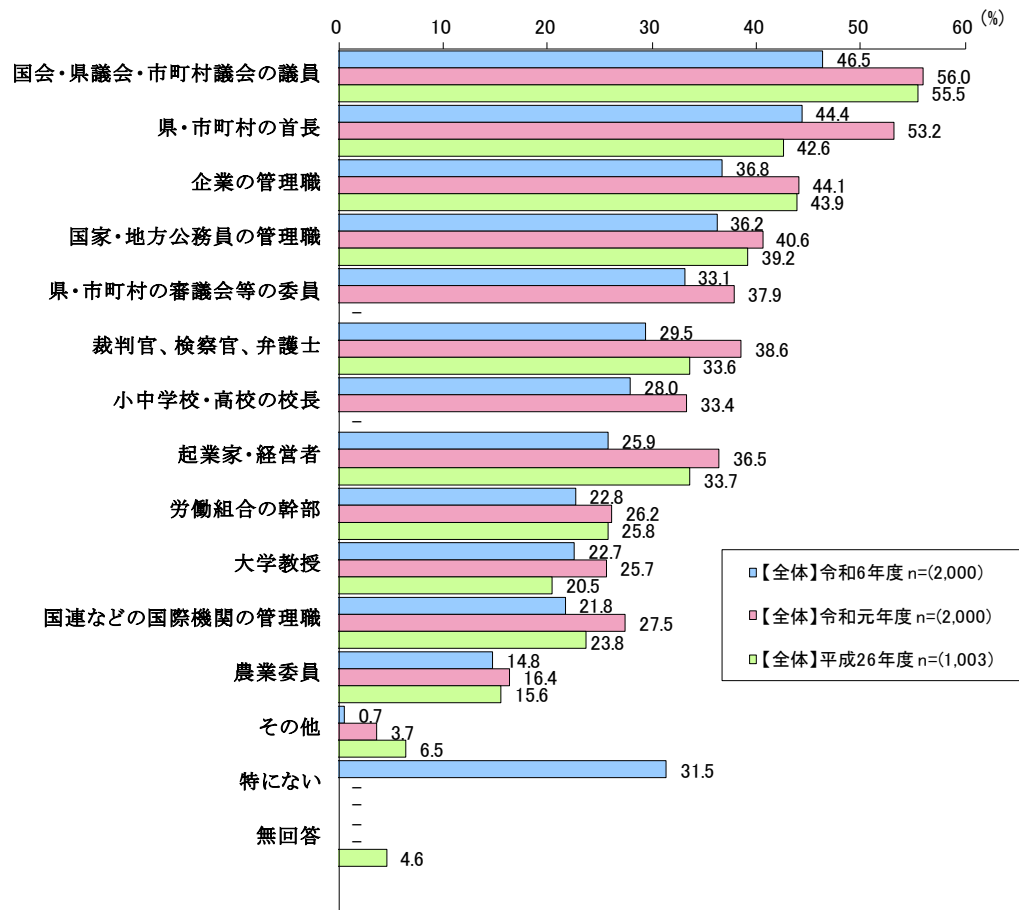
圏域	前橋圏	渋川圏	伊勢崎圏	高崎・安中圏	藤岡圏	富岡圏	吾妻圏	利根・沼田圏	太田・館林圏	桐生圏
N	328	114	263	446	70	69	50	77	425	158
国会・県議会・市町村議会の議員	43.0	53.5	46.8	47.3	41.4	47.8	46.0	46.8	46.4	47.5
県・市町村の首長	43.9	49.1	48.7	46.0	40.0	49.3	38.0	45.5	40.5	42.4
企業の管理職	40.2	41.2	37.6	36.1	37.1	34.8	30.0	35.1	35.8	32.9
国家・地方公務員の管理職	34.8	32.5	39.5	36.1	37.1	36.2	26.0	36.4	36.9	37.3
県・市町村の審議会等の委員	30.5	34.2	36.1	35.2	34.3	37.7	20.0	39.0	30.8	31.6
裁判官、検察官、弁護士	30.8	32.5	32.7	30.5	31.4	26.1	22.0	26.0	27.1	27.2
小中学校・高校の校長	25.6	27.2	31.9	26.5	28.6	29.0	26.0	24.7	30.4	26.6
起業家・経営者	25.9	28.9	25.1	26.0	25.7	29.0	28.0	28.6	23.5	27.2
労働組合の幹部	24.4	21.9	25.1	20.0	27.1	20.3	14.0	24.7	22.6	25.3
大学教授	24.1	25.4	24.7	21.1	24.3	24.6	10.0	22.1	22.6	21.5
国連などの国際機関の管理職	22.6	20.2	22.8	20.0	22.9	15.9	14.0	23.4	24.5	20.9
農業委員	15.2	14.0	16.0	13.2	18.6	17.4	16.0	20.8	13.9	13.3
その他	-	-	-	0.9	-	-	-	-	1.9	0.6
特になし	31.7	29.8	31.2	28.5	35.7	27.5	38.0	32.5	32.5	35.4

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

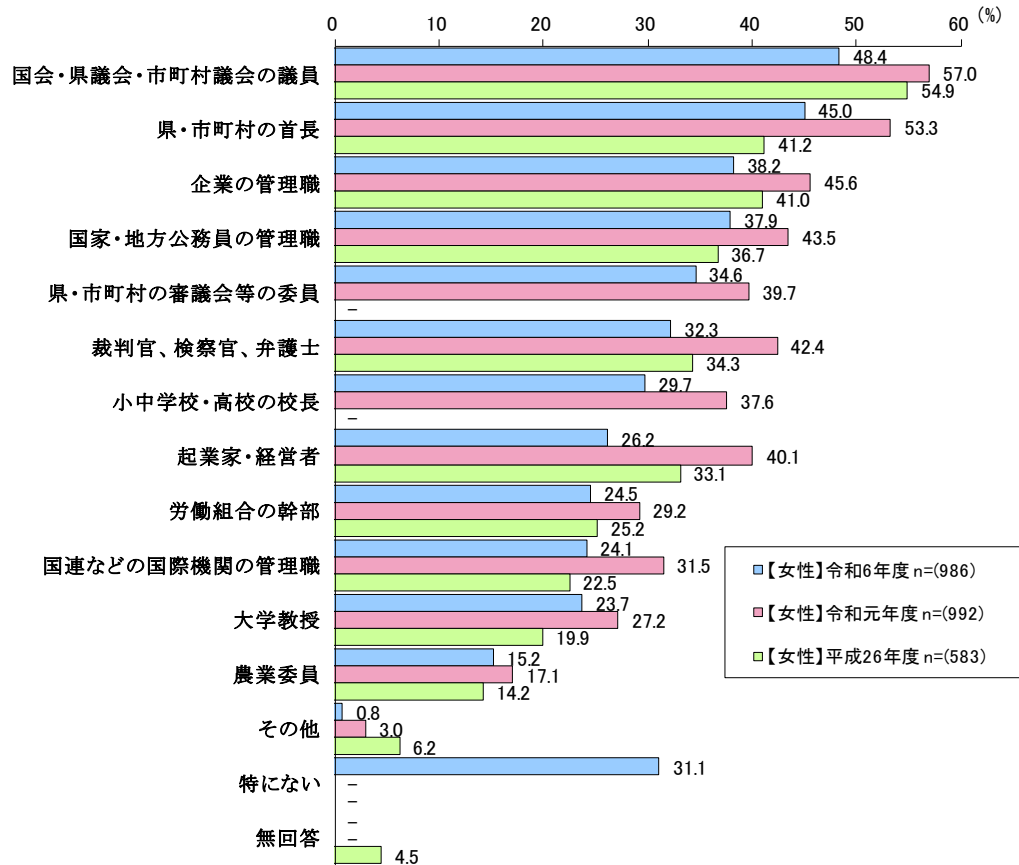
◇経年変化

●男女ともに前回より低下した項目が多い

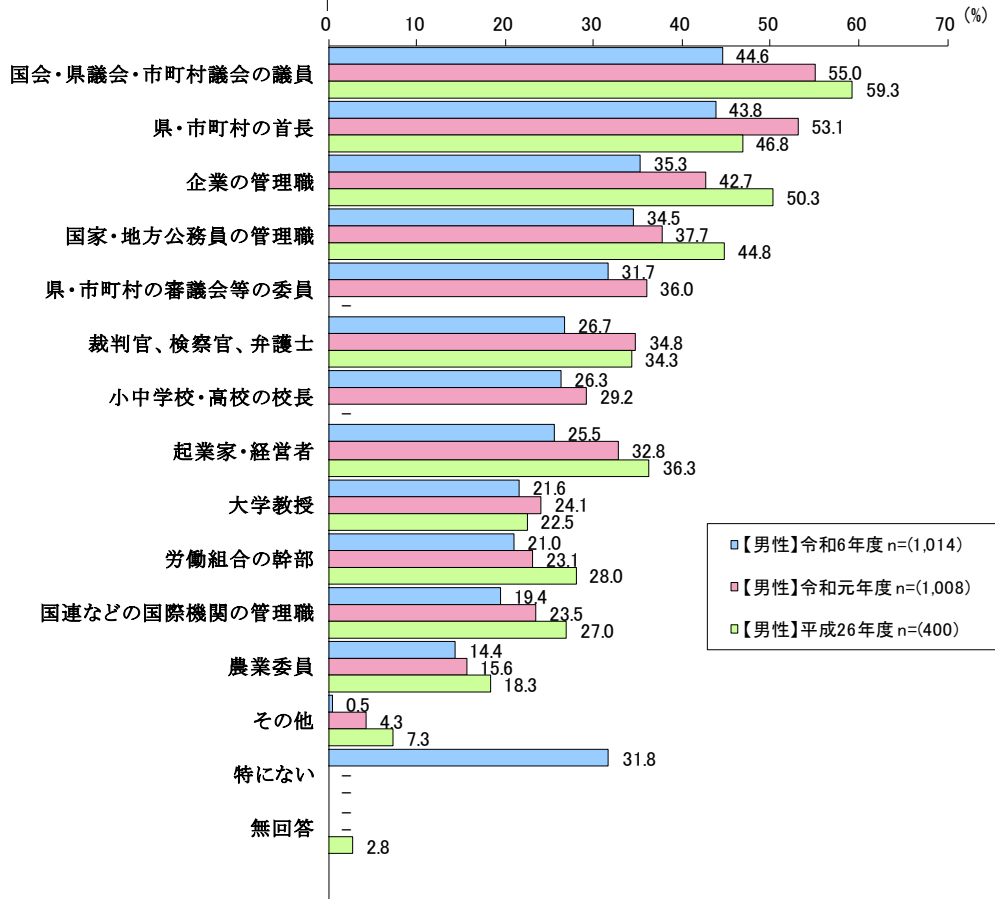
経年変化を性別で見ると、男女とも「国会・県議会・市町村議会の議員」が令和元年度（女性57.0%、男性55.0%）より女性は8.6ポイント、男性は10.4ポイント低くなっている。「起業家・経営者」は男性ではあまり大きな変化は見られないが、女性では令和元年度（40.1%）より13.9ポイント低くなっている。



【女性】



【男性】



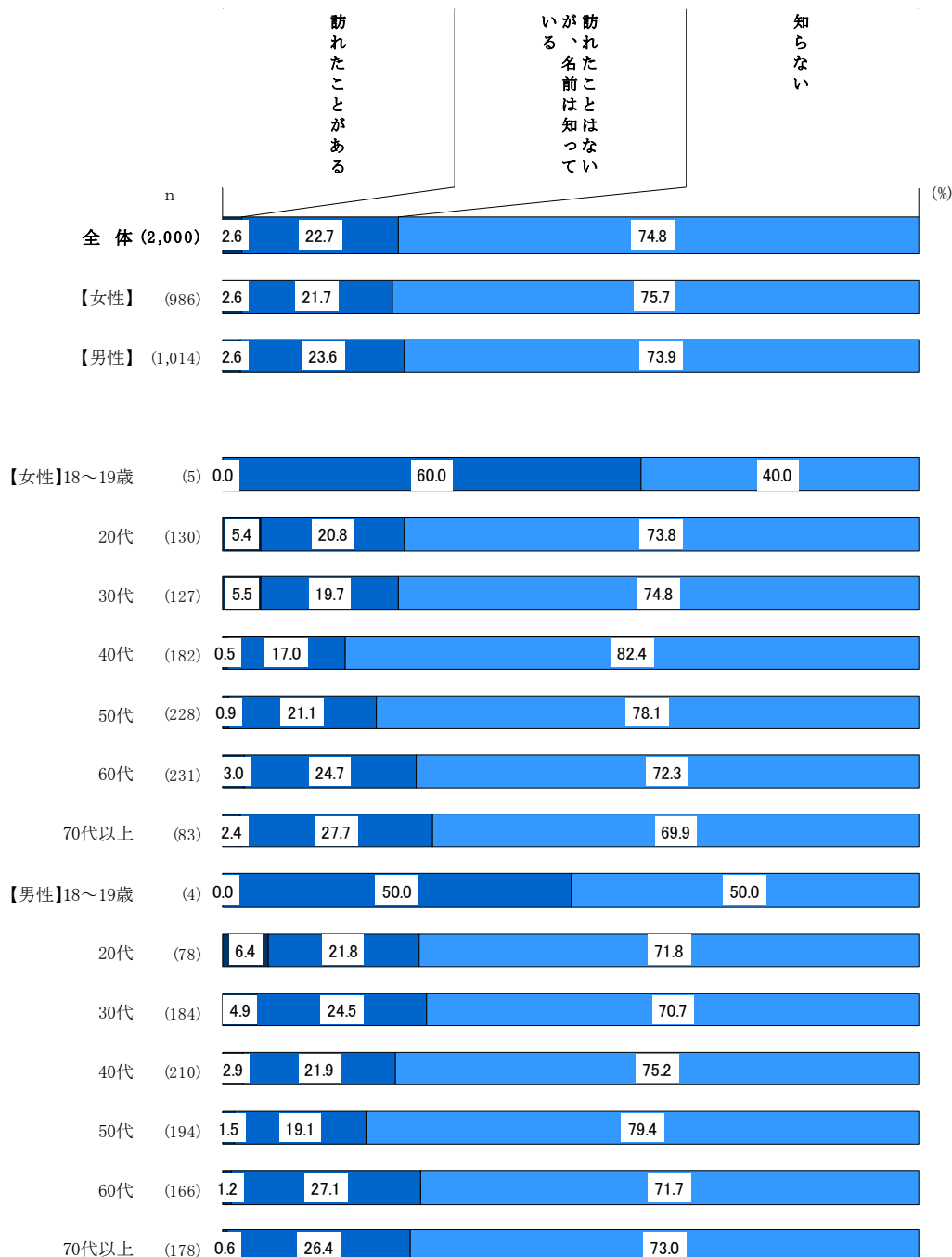
(7)「ぐんま男女共同参画センター」の認知度

問31 あなたは、男女共同参画社会づくりを推進するための拠点施設「ぐんま男女共同参画センター」を知っていますか。(1つに○)

- 男女とも《知っている（計）》は2割以上
- 《知っている（計）》は女性70代以上が3割

全体、男女とも「知らない」（全体74.8%、女性75.7%、男性73.9%）が特に高くなっている。《知っている（計）》（「訪れたことがある」と「訪れたことはないが、名前は知っている」の合計値）は、男女ともに2割以上（女性24.3%、男性26.2%）となっている。

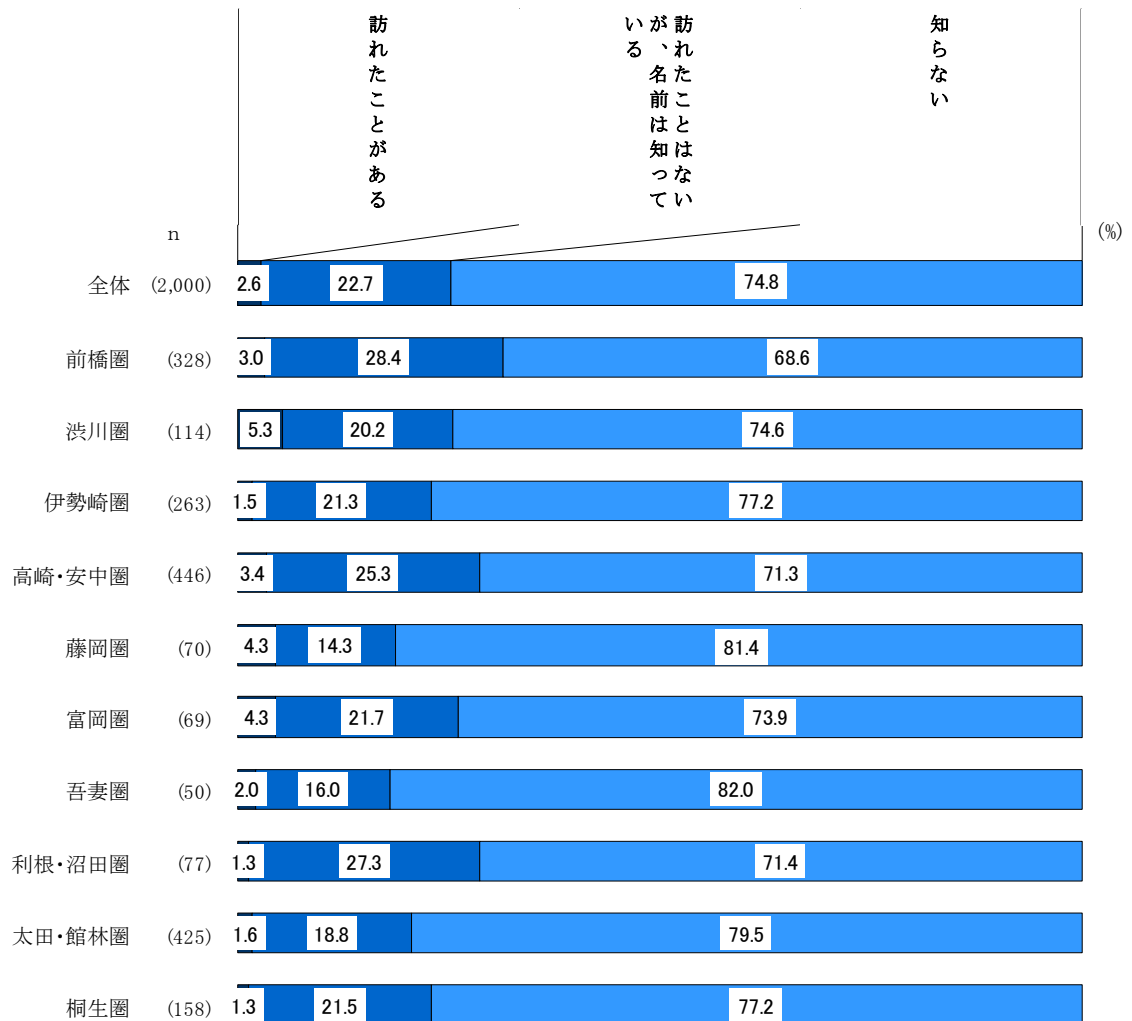
性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「知らない」が最も高くなっている。《知っている（計）》は、女性70代以上（30.1%）が特に高く、3割となっている。男女差は40代（女性17.5%、男性24.8%）が7.3ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。



◇圏域別

●前橋圏は《知っている（計）》が3割以上

圏域別で見ると、すべての圏域で「知らない」が最も高く、特に吾妻圏（82.0%）、次いで藤岡圏（81.4%）が高く、8割以上となっている。《知っている（計）》（「訪れたことがある」と「訪れたことはないが、名前は知っている」の合計値）は、前橋圏（31.4%）が3割以上で最も高く、吾妻圏（18.0%）が最も低くなっている。

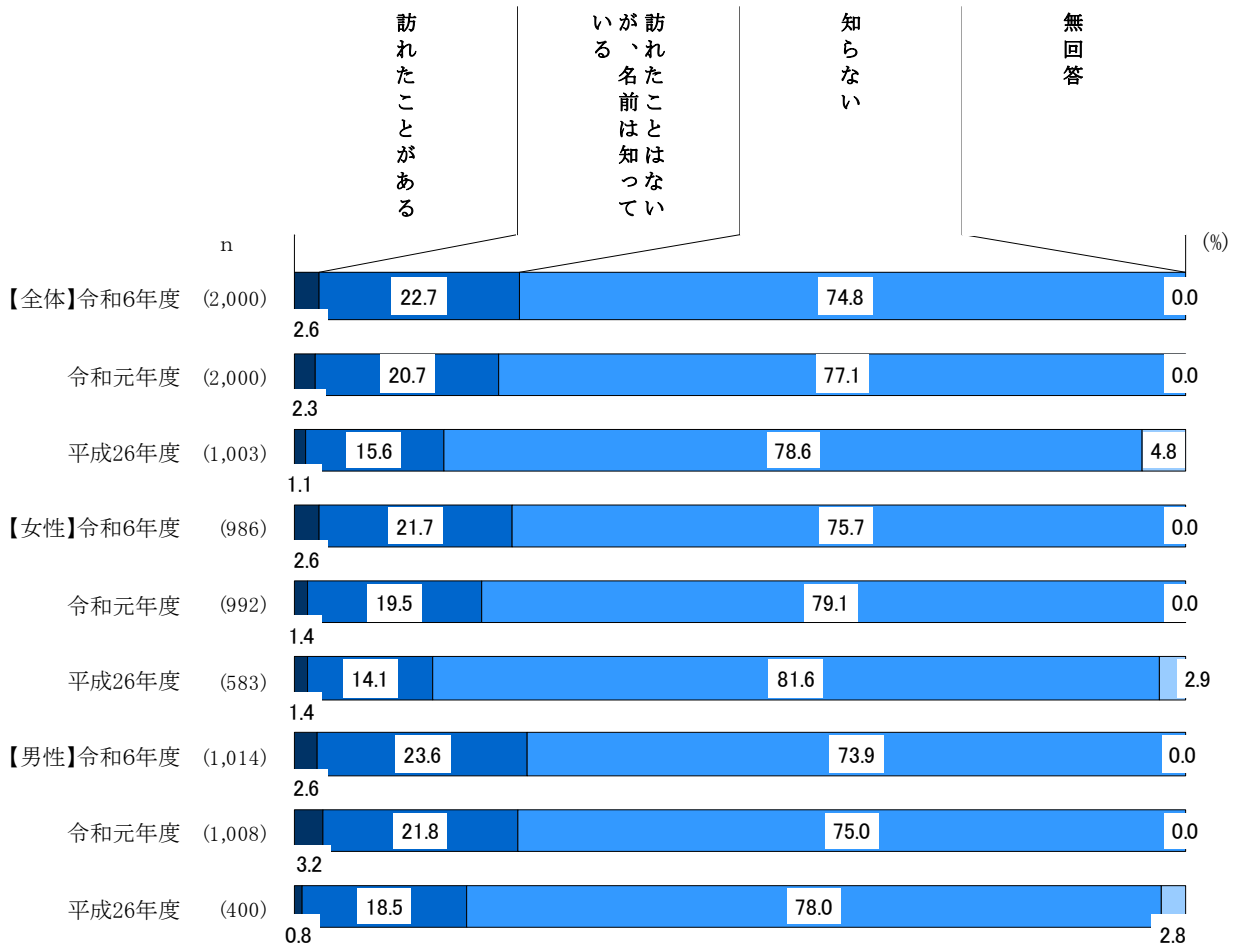


◇経年変化

●《知っている（計）》が前回より高い

経年変化を性別で見ると、《知っている（計）》（「訪れたことがある」と「訪れたことはないが、名前は知っている」の合計値）は、令和元年度（全体23.0%、女性20.9%、男性25.0%）より全体は2.3ポイント、女性は3.4ポイント、男性は1.2ポイント高くなっている。

【問31 経年変化】



(8) 「ぐんま男女共同参画センター」が今後担うべき役割

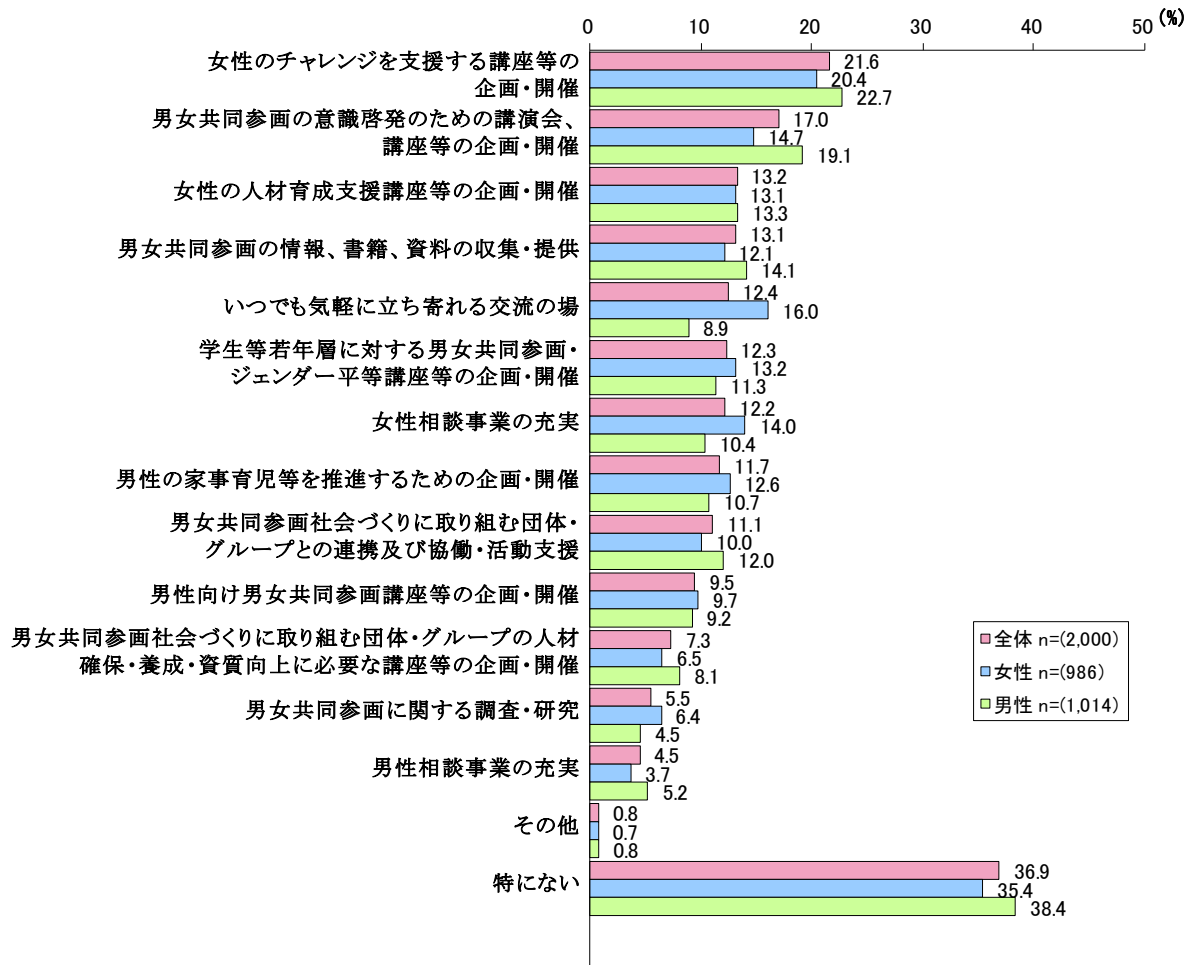
問32 あなたは、「ぐんま男女共同参画センター」が今後どのような役割を担うべきだと思いますか。(3つまで選択可)

- 男女ともに「女性のチャレンジ支援」が2割以上
- 「特にない」は約4割
- 「いつでも気軽に立ち寄れる交流の場」で男女差が大きい

全体では、「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」(21.6%)で2割以上、次いで「男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催」(17.0%)、「女性の人材育成支援講座等の企画・開催」(13.2%)となっている。

性別で見ると、男女ともに「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」(女性20.4%、男性22.7%)が最も高く、次いで女性は「いつでも気軽に立ち寄れる交流の場」(16.0%)、「男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催」(14.7%)となっている。男性は「男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催」(19.1%)、「男女共同参画の情報、書籍、資料の収集・提供」(14.1%)となっている。一方、「特にない」(女性35.4%、男性38.4%)は、男女ともに約4割を占めている。男女差は「いつでも気軽に立ち寄れる交流の場」で最も大きく、女性(16.0%)が男性(8.9%)より7.1ポイント高くなっている。

【問32】



※新規調査項目：「男性の家事育児等を推進するための企画・開催」、「学生等若年層に対する男女共同参画・ジェンダー平等講座等の企画・開催」「男性相談事業の充実」「男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループとの連携及び協働・活動支援」「男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループの人材確保・養成・資質向上に必要な講座等の企画・開催」

◇性・年代別

●女性は「女性のチャレンジ支援」が比較的高い

性・年代別で見ると、女性は20代を除き「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」が高く、20代では「いつでも気軽に立ち寄れる交流の場」と「学生等若年層に対する男女共同参画・ジェンダー平等講座等の企画・開催」が同値（15.4%）で高くなっている。男性は20代・60代以上の年代を除き「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」が高く、20代では「男女共同参画の情報、書籍、資料の収集・提供」、60代以上の年代では「男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催」が高くなっている。またすべての年代で「特にない」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	127	182	228	231	83
女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催	40.0	13.1	18.9	21.4	22.8	20.3	24.1
男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催	-	13.1	9.4	9.3	14.9	19.5	24.1
女性の人材育成支援講座等の企画・開催	-	13.8	11.0	13.7	11.0	16.9	9.6
男女共同参画の情報、書籍、資料の収集・提供	-	12.3	11.0	12.6	13.6	11.3	10.8
いつでも気軽に立ち寄れる交流の場	20.0	15.4	10.2	18.1	15.8	16.9	19.3
学生等若年層に対する男女共同参画・ジェンダー平等講座等の企画・開催	40.0	15.4	8.7	10.4	14.5	12.6	19.3
女性相談事業の充実	-	8.5	12.6	15.9	14.9	14.7	16.9
男性の家事育児等を推進するための企画・開催	-	13.8	7.1	12.6	11.8	13.4	19.3
男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループとの連携及び協働・活動支援	20.0	7.7	12.6	8.2	10.1	10.8	10.8
男性向け男女共同参画講座等の企画・開催	20.0	11.5	7.9	8.2	8.3	10.0	15.7
男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループの人材確保・養成・資質向上に必要な講座等の企画・開催	-	3.1	3.9	7.1	5.7	8.2	12.0
男女共同参画に関する調査・研究	-	7.7	3.9	3.8	5.3	8.7	10.8
男性相談事業の充実	20.0	8.5	5.5	2.7	3.1	1.7	1.2
その他	-	0.8	0.8	0.5	0.9	0.4	1.2
特にない	20.0	36.2	43.3	40.1	35.1	31.6	24.1

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

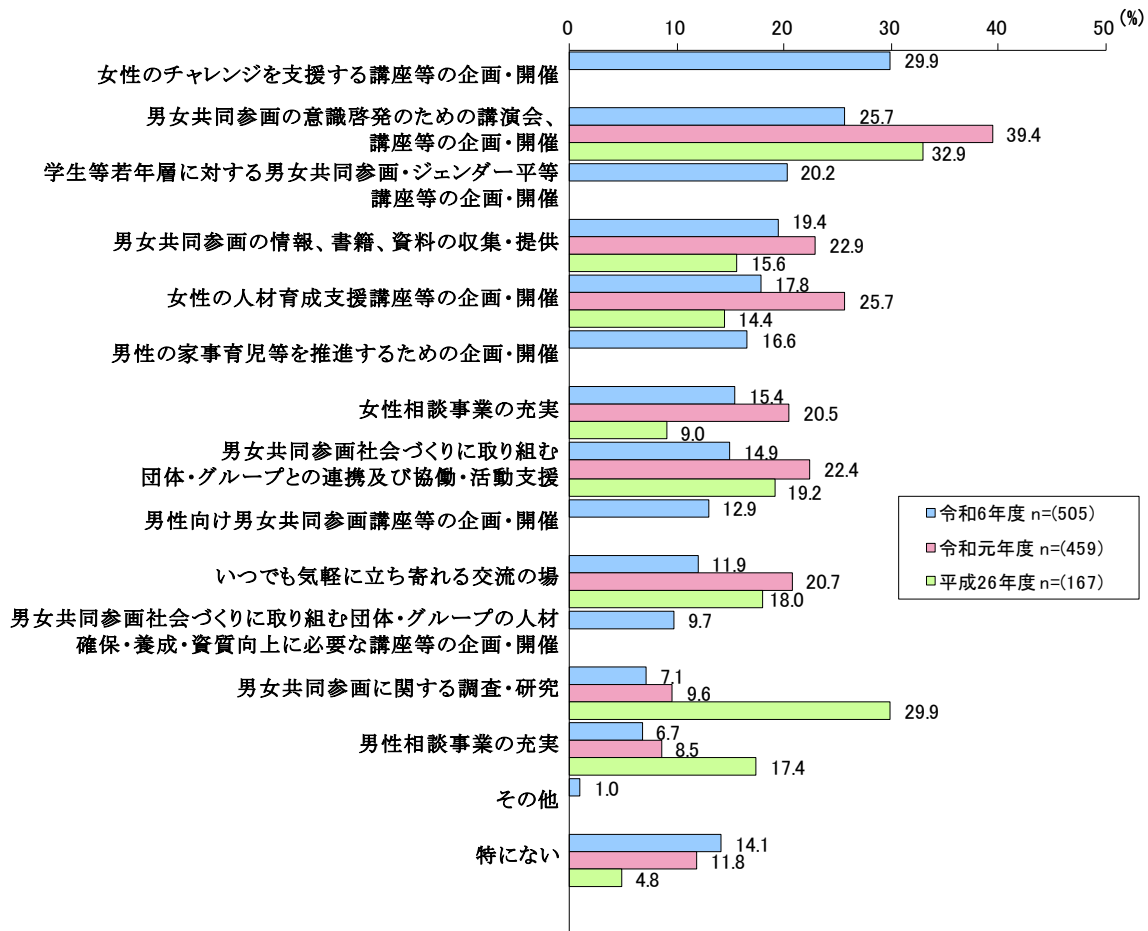
男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	78	184	210	194	166	178
女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催	-	17.9	21.2	22.9	20.6	24.1	27.5
男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催	-	11.5	16.3	13.3	18.0	25.3	28.1
女性の人材育成支援講座等の企画・開催	25.0	14.1	12.0	12.4	10.8	16.3	15.2
男女共同参画の情報、書籍、資料の収集・提供	-	20.5	17.9	13.3	10.3	13.9	12.9
いつでも気軽に立ち寄れる交流の場	-	11.5	10.9	9.0	5.7	10.2	7.9
学生等若年層に対する男女共同参画・ジェンダー平等講座等の企画・開催	25.0	3.8	13.0	10.5	9.8	10.8	15.7
女性相談事業の充実	-	9.0	8.2	12.9	8.8	15.1	7.9
男性の家事育児等を推進するための企画・開催	50.0	10.3	9.2	9.0	13.9	9.6	11.2
男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループとの連携及び協働・活動支援	-	6.4	7.6	7.6	12.4	16.3	20.2
男性向け男女共同参画講座等の企画・開催	25.0	6.4	9.2	9.0	8.2	7.8	12.4
男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループの人材確保・養成・資質向上に必要な講座等の企画・開催	-	2.6	6.0	6.2	6.7	10.2	14.6
男女共同参画に関する調査・研究	-	5.1	4.3	2.9	3.1	3.6	9.0
男性相談事業の充実	-	11.5	7.6	6.7	4.1	3.6	1.1
その他	-	1.3	1.6	0.5	-	1.2	0.6
特にない	25.0	43.6	36.4	43.3	41.8	35.5	31.5

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

◇経年変化（参考）

- ほとんどの項目で前回より低い
- 「男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催」は前回より特に低い

令和元年度とは文章表現が異なることを考慮する必要があるが、「男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催」が令和元年度（39.4%）より13.7ポイント低くなっている。「男女共同参画に関する調査・研究」「男性相談事業の充実」は令和元年度から続いて低くなっている。



※新規調査項目：「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」、「男性向け男女共同参画講座等の企画・開催」

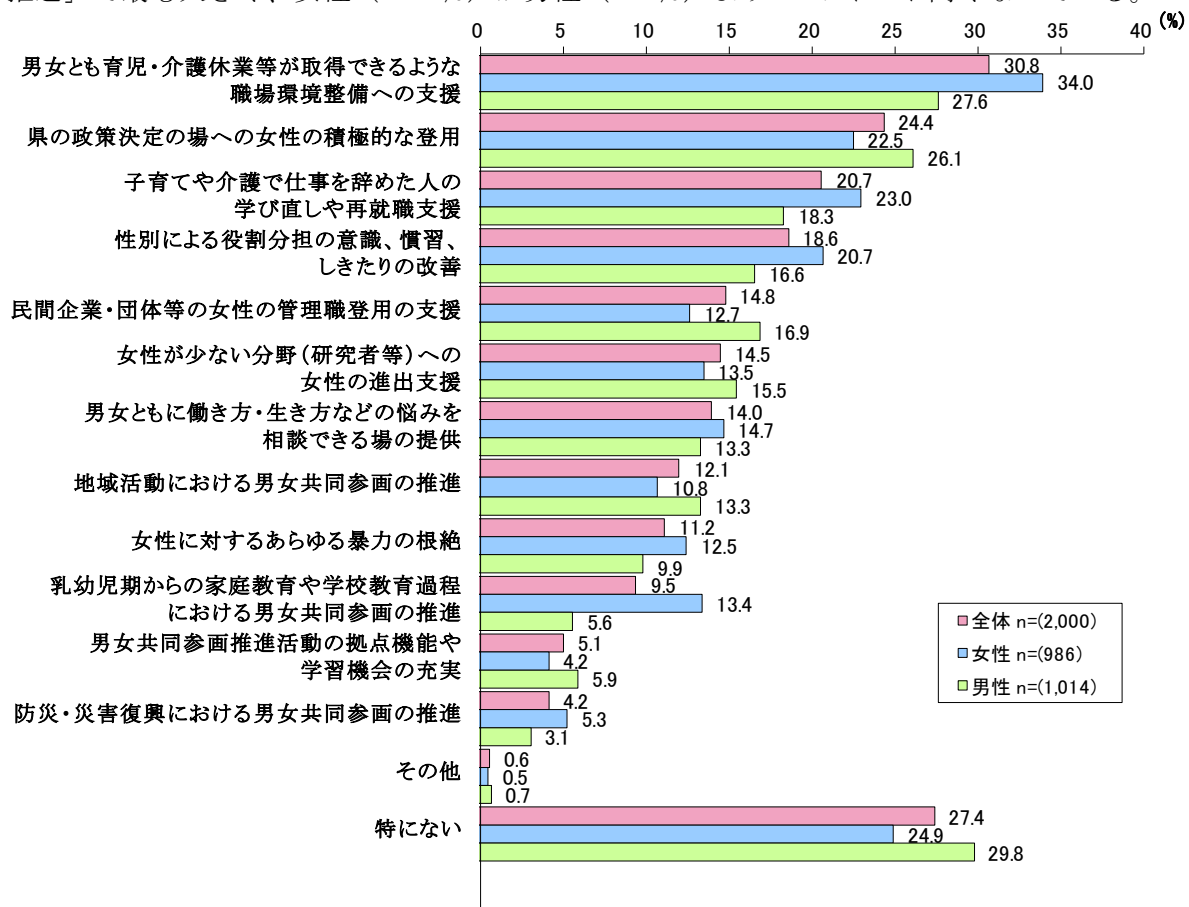
(9) 男女共同参画社会実現のために群馬県が力を入れるべきこと

問33 男女共同参画社会を実現するために、今後、群馬県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(3つまで選択可)

- 男女とも「育児・介護休業の取得可能な環境整備」が最も高い
- 「再就職支援」は女性2割以上、男性約2割
- 「特にない」は男性が女性より高い

全体では、「特にない」を除き、「男女とも育児・介護休業等が取得できるような職場環境整備への支援」(30.8%)が最も高く、次いで「県の政策決定の場への女性の積極的な登用」(24.4%)、「子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援」(20.7%)となっている。

性別で見ると、男女ともに「男女とも育児・介護休業等が取得できるような職場環境整備への支援」(女性34.0%、男性27.6%)が最も高く、次いで女性は「子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援」(23.0%)、「県の政策決定の場への女性の積極的な登用」(22.5%)となっている。男性は「県の政策決定の場への女性の積極的な登用」(26.1%)、「子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援」(18.3%)となっている。一方、「特にない」(女性24.9%、男性29.8%)は、女性で2割以上、男性で約3割を占めている。男女差は「乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程における男女共同参画の推進」で最も大きく、女性(13.4%)が男性(5.6%)より7.8ポイント高くなっている。



※新規調査項目：「乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程における男女共同参画の推進」

※「男女とも育児・介護休業等が取得できるような職場環境整備への支援」「子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援」は令和元年度調査から選択肢の文言を一部変更している。

◇性・年代別

●女性は「育児・介護休業の取得可能な環境整備」が最も高い

「特になし」を除き、性・年代別で見ると、女性はすべての年代で「男女とも育児・介護休業等が取得できるような職場環境整備への支援」が最も高く、特に70代以上（42.2%）が4割以上で高くなっている。男性は20代・60代では「男女とも育児・介護休業等が取得できるような職場環境整備への支援」、30代では「子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援」、40代・50代・70代以上では「県の政策決定の場への女性の積極的な登用」（40代は「子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援」と同値（21.0%））がそれぞれ高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	127	182	228	231	83
男女とも育児・介護休業等が取得できるような職場環境整備への支援	40.0	30.8	35.4	31.9	32.0	35.5	42.2
県の政策決定の場への女性の積極的な登用	-	21.5	15.7	20.9	22.4	22.9	38.6
子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援	-	19.2	30.7	24.2	25.9	19.5	18.1
性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善	40.0	12.3	17.3	19.8	23.7	22.9	25.3
民間企業・団体等の女性の管理職登用の支援	-	11.5	9.4	15.4	11.4	12.6	18.1
女性が少ない分野（研究者等）への女性の進出支援	40.0	18.5	7.1	17.0	11.4	13.9	10.8
男女ともに働き方・生き方などの悩みを相談できる場の提供	60.0	13.8	14.2	13.7	13.6	16.9	13.3
地域活動における男女共同参画の推進	-	9.2	9.4	7.7	11.0	11.3	20.5
女性に対するあらゆる暴力の根絶	-	15.4	12.6	11.0	13.2	13.9	6.0
乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程における男女共同参画の推進	-	11.5	10.2	13.2	14.9	15.6	12.0
男女共同参画推進活動の拠点機能や学習機会の充実	-	2.3	3.1	2.2	3.5	6.5	8.4
防災・災害復興における男女共同参画の推進	-	6.2	2.4	4.9	7.0	3.9	8.4
その他	-	-	-	0.5	0.9	0.4	1.2
特になし	-	28.5	30.7	26.9	23.7	22.1	19.3

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	78	184	210	194	166	178
男女とも育児・介護休業等が取得できるような職場環境整備への支援	-	30.8	21.7	20.0	21.6	36.7	39.9
県の政策決定の場への女性の積極的な登用	-	14.1	17.9	21.0	24.2	34.3	41.0
子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援	25.0	19.2	22.3	21.0	16.0	15.1	16.3
性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善	25.0	7.7	15.2	12.9	19.6	15.7	23.6
民間企業・団体等の女性の管理職登用の支援	-	19.2	16.3	14.8	15.5	20.5	17.4
女性が少ない分野（研究者等）への女性の進出支援	-	15.4	12.5	16.2	19.1	13.9	15.7
男女ともに働き方・生き方などの悩みを相談できる場の提供	25.0	19.2	10.9	16.7	10.3	10.8	14.6
地域活動における男女共同参画の推進	25.0	7.7	8.2	10.0	10.8	19.9	21.3
女性に対するあらゆる暴力の根絶	-	9.0	13.0	9.0	9.8	7.8	10.1
乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程における男女共同参画の推進	25.0	3.8	7.6	3.8	4.1	6.6	6.7
男女共同参画推進活動の拠点機能や学習機会の充実	-	6.4	4.3	5.2	4.6	7.8	7.9
防災・災害復興における男女共同参画の推進	-	1.3	5.4	2.4	3.1	3.0	2.2
その他	-	1.3	0.5	1.4	-	1.2	-
特になし	25.0	35.9	28.8	36.2	33.5	25.3	20.8

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

◇圏域別

●「育児・介護休業の取得可能な環境整備」と「女性の積極的な登用」が高い

「特になし」を除き、圏域別で見ると、「男女とも育児・介護休業等が取得できるような職場環境整備への支援」と「県の政策決定の場への女性の積極的な登用」が上位2項目となっている。その他の項目では、利根・沼田圏、伊勢崎圏で「子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援」（利根・沼田圏24.7%、伊勢崎圏23.6%）、高崎・安中圏で「性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善」（23.1%）がそれぞれ高くなっている。

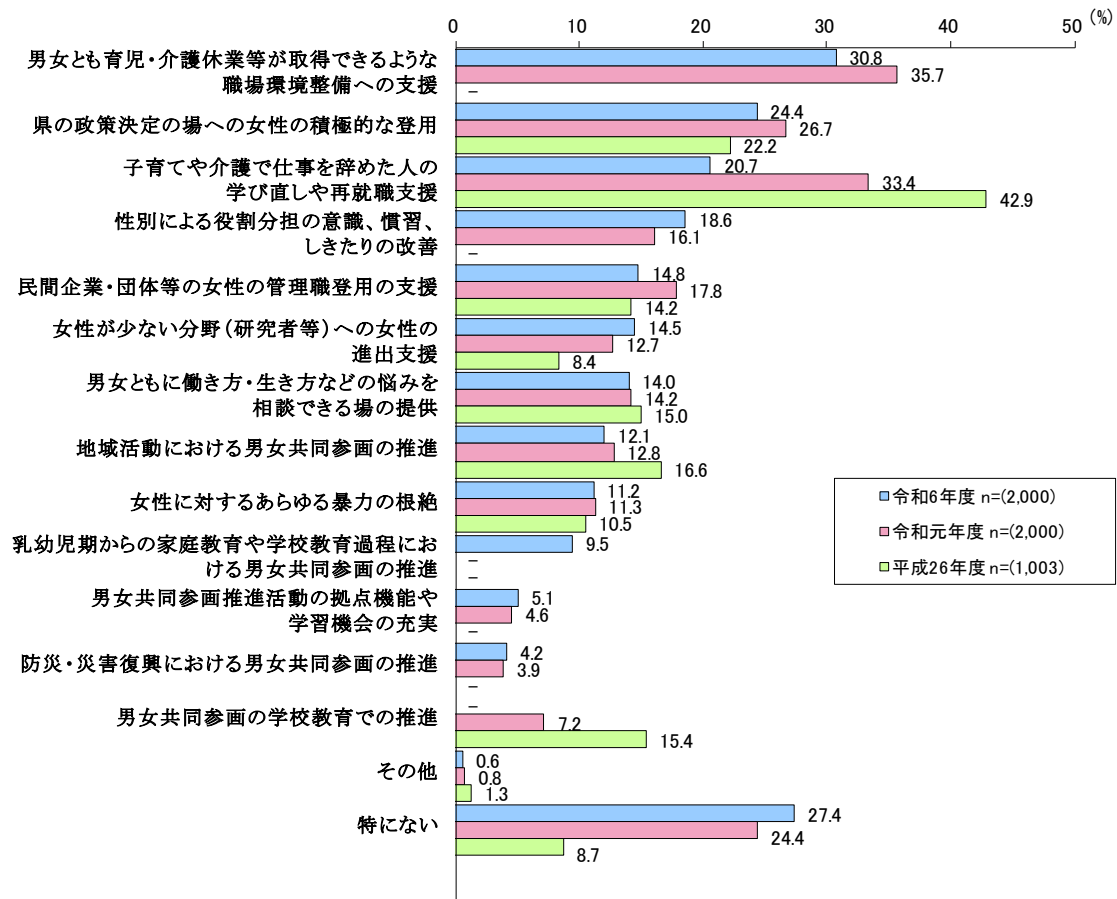
圏域	前橋圏	渋川圏	伊勢崎圏	高崎・安中圏	藤岡圏	富岡圏	吾妻圏	利根・沼田圏	太田・館林圏	桐生圏
N	328	114	263	446	70	69	50	77	425	158
男女とも育児・介護休業等が取得できるような職場環境整備への支援	32.3	30.7	28.5	33.2	32.9	33.3	18.0	32.5	29.6	28.5
県の政策決定の場への女性の積極的な登用	25.9	24.6	24.7	25.6	17.1	11.6	28.0	24.7	23.3	27.2
子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援	21.0	21.1	23.6	21.7	20.0	14.5	12.0	24.7	19.5	18.4
性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善	18.3	14.0	17.9	23.1	12.9	18.8	12.0	20.8	16.7	19.6
民間企業・団体等の女性の管理職登用の支援	16.5	20.2	13.7	16.4	15.7	8.7	4.0	14.3	14.4	12.0
女性が少ない分野(研究者等)への女性の進出支援	18.3	16.7	17.1	13.5	11.4	11.6	12.0	13.0	11.3	16.5
男女ともに働き方・生き方などの悩みを相談できる場の提供	11.9	11.4	12.5	14.8	4.3	17.4	6.0	16.9	17.9	13.9
地域活動における男女共同参画の推進	9.5	14.0	14.1	12.1	8.6	13.0	10.0	11.7	13.6	10.1
女性に対するあらゆる暴力の根絶	11.6	9.6	10.3	12.8	11.4	18.8	10.0	9.1	8.9	12.0
乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程における男女共同参画の推進	9.1	9.6	11.4	9.9	12.9	11.6	4.0	6.5	8.2	9.5
男女共同参画推進活動の拠点機能や学習機会の充実	5.5	4.4	6.5	4.3	4.3	5.8	8.0	2.6	4.9	5.1
防災・災害復興における男女共同参画の推進	3.7	7.0	4.2	3.8	7.1	2.9	-	6.5	4.7	1.9
その他	-	-	0.8	0.4	-	1.4	2.0	1.3	0.9	0.6
特になし	25.3	27.2	25.1	24.2	35.7	26.1	40.0	27.3	30.4	29.7

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

◇経年変化（参考）

- 「再就職支援」、「学校教育での推進」が前回より特に低い
- 「特にない」が前回より高い

令和元年度とは項目数や文章表現等が異なるため参考として見ると、「女性が少ない分野（研究者等）への女性の進出支援」が令和元年度より高くなっている一方で、「子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援」が令和元年度より12.7ポイント低くなっている。また「特にない」は令和元年度（24.4%）より3.0ポイント高くなっている。



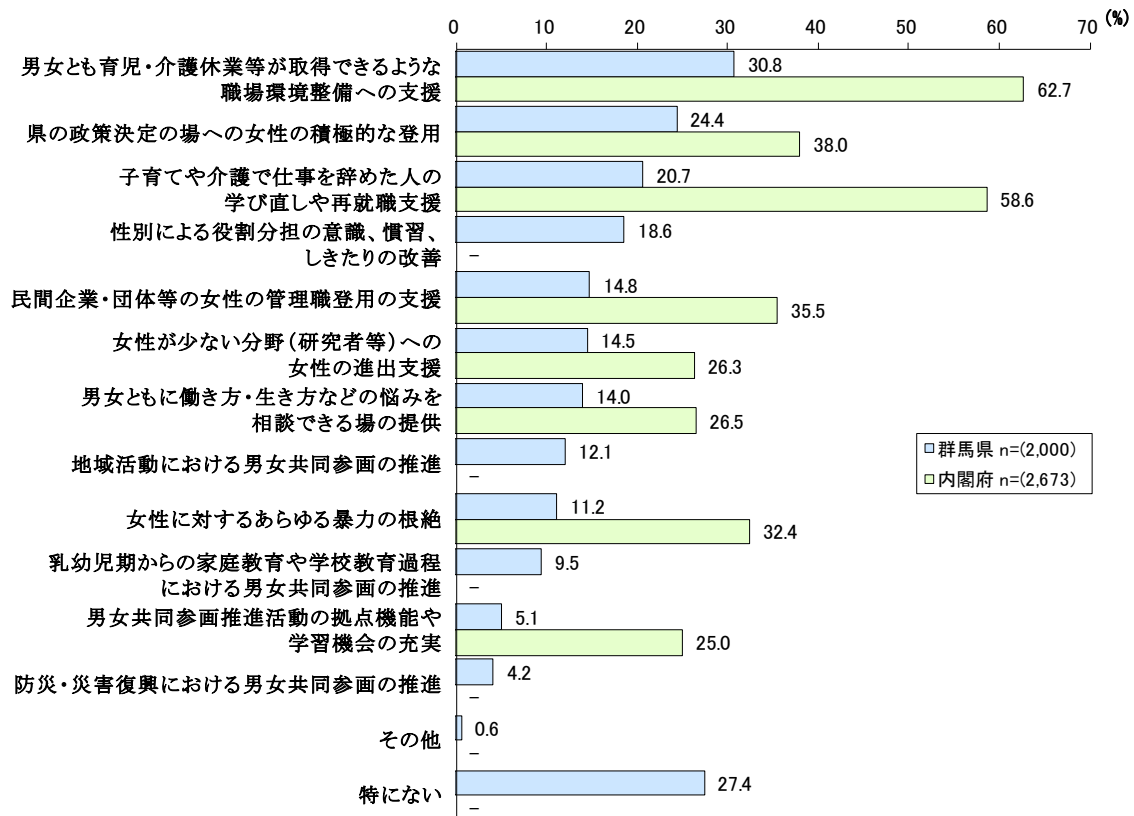
※新規調査項目：「乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程における男女共同参画の推進」

◇国の調査との比較（参考）

●すべての項目で国より低い

内閣府の調査とは文章表現等が異なることを考慮する必要がある。

内閣府は「男女とも育児・介護休業等が取得できるような職場環境整備への支援」（62.7%）が最も高く、次いで「子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援」（58.6%）となっている。「子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援」が内閣府より37.9ポイント低くなっているなど、すべての項目で国より低くなっている。



※「性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善」、「地域活動における男女共同参画の推進」、「乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程における男女共同参画の推進」、「防災・災害復興における男女共同参画の推進」は群馬県のための項目となっている。

7. ドメスティック・バイオレンス（DV）及び困難な問題を抱える男女について

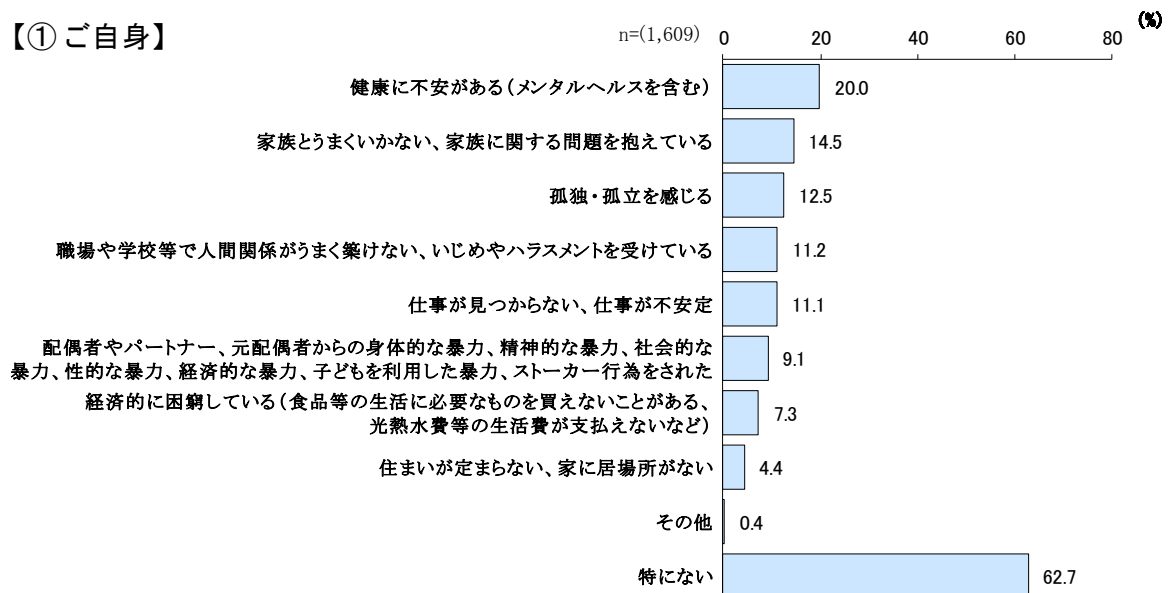
（1）＜抱えている困難や悩みの有無＞

問34 あなたは、困ったり、悩みを抱えていること・抱えたことはありますか。または、家族や知人が抱えている悩みとして、見たり聞いたり相談されたりしたことがあるものはありますか。あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。（それぞれ1つに○）

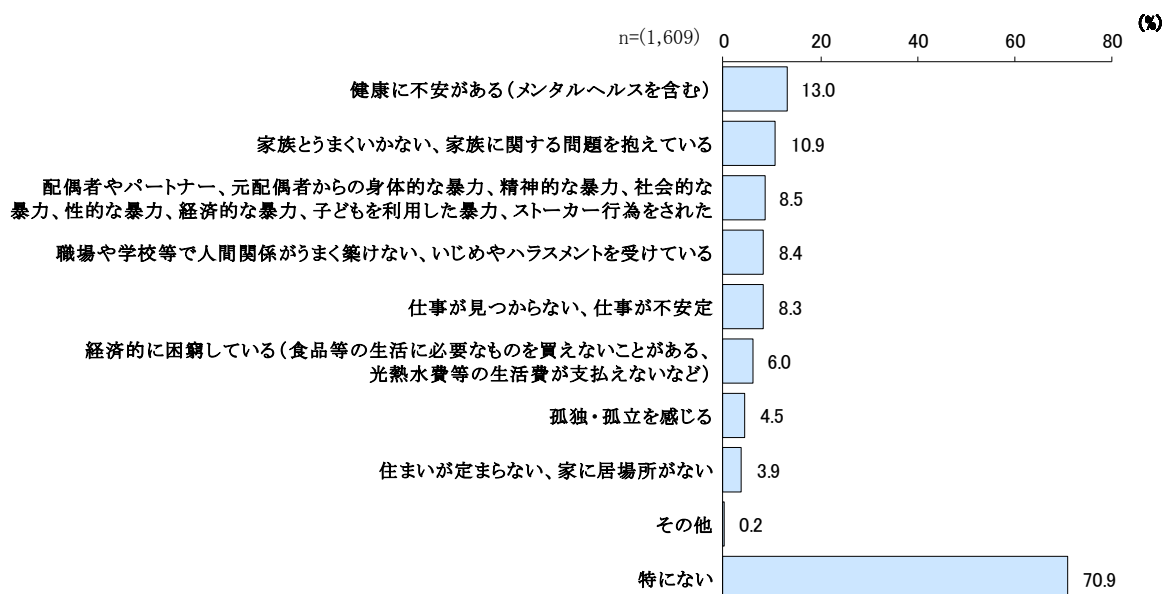
- 「健康に不安」が高い
- 「特にない」は『ご自身』6割以上、『家族や知人』は7割

全体では、「健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）」が高く、次いで「家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている」となっている。一方、「特にない」は『ご自身』（62.7%）は6割以上、『家族や知人』（70.9%）は7割と高くなっている。

【① ご自身】



【② 家族や知人】

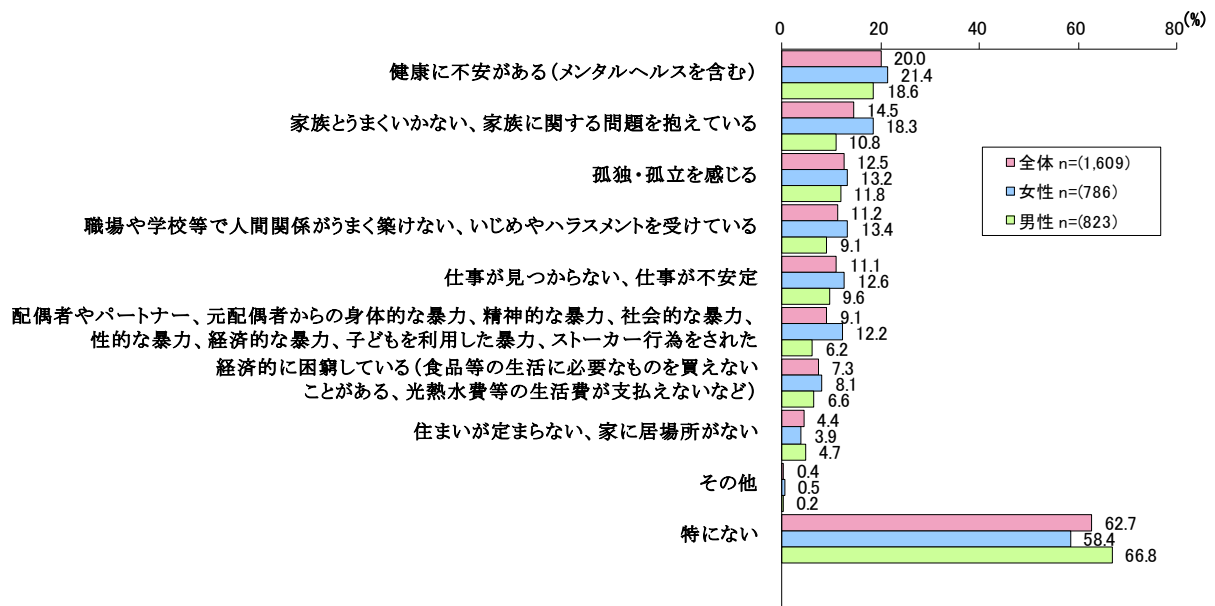


問34 ①ご自身

●男女ともに「健康に不安」が高い

全体、男女ともに「健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）」（全体20.0%、女性21.4%、男性18.6%）が高く、次いで全体と女性は「家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている」（全体14.5%、女性18.3%）、男性は「孤独・孤立を感じる」（11.8%）となっている。一方、「特にない」（全体62.7%、女性58.4%、男性66.8%）は過半数を占めている。

【問34 ①ご自身】



◇性・年代別

●男女ともに「健康に不安」が高い

性・年代別で見ると、男女ともに「健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）」（女性40代は「家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている」と同値、男性20代は「仕事が見つからない、仕事が不安定」と同値）が高くなっている。またすべての年代で「特にない」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	109	105	143	175	185	65
健康に不安がある(メンタルヘルスを含む)	-	22.9	26.7	20.3	24.6	17.3	16.9
家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている	-	20.2	21.0	20.3	23.4	13.5	7.7
孤独・孤立を感じる	-	17.4	16.2	11.2	18.3	9.7	3.1
職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている	-	21.1	17.1	12.6	17.7	7.0	3.1
仕事が見つからない、仕事が不安定	-	15.6	14.3	14.7	17.1	7.6	3.1
配偶者やパートナー、元配偶者からの身体的な暴力、精神的な暴力、社会的な暴力、性的な暴力、経済的な暴力、子どもを利用した暴力、ストーカー行為をされた	25.0	12.8	15.2	14.7	13.1	8.6	7.7
経済的に困窮している(食品等の生活に必要なものを買えないことがある、光熱水費等の生活費が支払えないなど)	-	9.2	12.4	9.8	9.7	4.3	3.1
住まいが定まらない、家に居場所がない	-	3.7	6.7	5.6	3.4	2.2	3.1
その他	-	-	-	0.7	1.1	0.5	-
特にない	75.0	56.9	48.6	56.6	50.9	68.6	70.8

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	2	67	145	174	154	133	148
健康に不安がある(メンタルヘルスを含む)	50.0	22.4	20.7	18.4	15.6	19.5	16.9
家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている	50.0	16.4	16.6	8.6	9.1	9.0	8.1
孤独・孤立を感じる	50.0	16.4	14.5	15.5	11.0	9.8	4.7
職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている	50.0	11.9	11.7	13.8	5.8	8.3	3.4
仕事が見つからない、仕事が不安定	50.0	22.4	13.1	9.2	7.1	6.8	5.4
配偶者やパートナー、元配偶者からの身体的な暴力、精神的な暴力、社会的な暴力、性的な暴力、経済的な暴力、子どもを利用した暴力、ストーカー行為をされた	50.0	10.4	11.7	5.2	5.8	3.0	2.7
経済的に困窮している(食品等の生活に必要なものを買えないことがある、光熱水費等の生活費が支払えないなど)	50.0	13.4	9.7	6.9	3.2	6.0	3.4
住まいが定まらない、家に居場所がない	50.0	7.5	6.9	4.0	3.2	3.8	4.1
その他	-	-	-	-	-	0.8	0.7
特にない	50.0	58.2	60.0	67.2	69.5	69.2	72.3

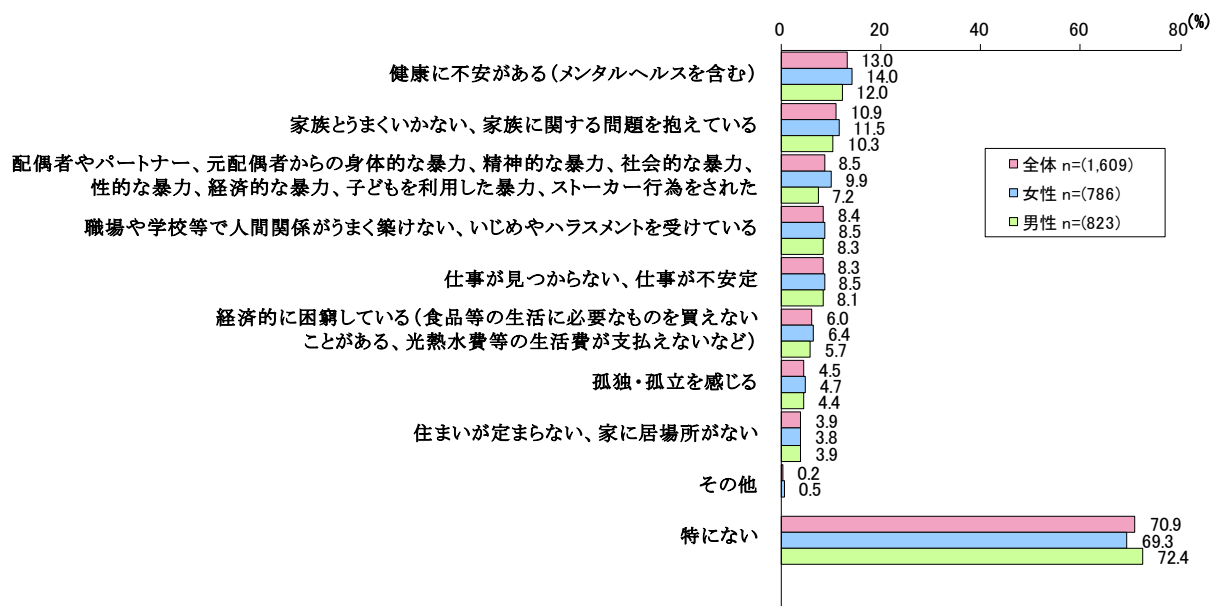
※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

問34 ②家族や知人

●男女ともに「健康に不安」が高い

全体、男女ともに「健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）」（全体13.0％、女性14.0％、男性12.0％）が高く、次いで「家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている」（全体10.9％、女性11.5％、男性10.3％）となっており、上記2項目以外は1割未満となっている。一方、「特にない」（全体70.9％、女性69.3％、男性72.4％）は7割前後となっている。

【問34 ②家族や知人】



◇性・年代別

- 女性は30代を除き「健康に不安」が高い
- 男性は40代以上の年代で「健康に不安」が高い

性・年代別で見ると、女性は30代を除き「健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）」が高く（70代以上は「職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている」と同値）、30代では「家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている」が高くなっている。男性は40代・50代・60代・70代以上では「健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）」が高く、20代・30代では「家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている」が高くなっている。またすべての年代で「特にない」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	109	105	143	175	185	65
健康に不安がある(メンタルヘルスを含む)	-	12.8	11.4	12.6	20.0	11.9	13.8
家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている	-	10.1	16.2	10.5	10.9	11.4	10.8
配偶者やパートナー、元配偶者からの身体的な暴力、精神的な暴力、社会的な暴力、性的な暴力、経済的な暴力、子どもを利用した暴力、ストーカー行為をされた	25.0	8.3	11.4	7.7	10.9	10.3	10.8
職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている	-	8.3	11.4	4.2	9.1	8.1	13.8
仕事が見つからない、仕事不安定	-	7.3	9.5	4.9	9.7	10.3	9.2
経済的に困窮している(食品等の生活に必要なものを買えないことがある、光熱水費等の生活費が支払えないなど)	-	7.3	6.7	4.2	9.1	4.9	6.2
孤独・孤立を感じる	-	5.5	6.7	4.2	4.6	3.2	6.2
住まいが定まらない、家に居場所がない	-	4.6	5.7	3.5	2.9	2.2	7.7
その他	-	-	-	0.7	-	1.1	1.5
特にない	75.0	74.3	65.7	74.8	61.1	71.4	70.8

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	2	67	145	174	154	133	148
健康に不安がある(メンタルヘルスを含む)	-	9.0	9.0	13.8	14.3	11.3	12.8
家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている	-	14.9	9.7	8.0	11.7	9.8	10.8
配偶者やパートナー、元配偶者からの身体的な暴力、精神的な暴力、社会的な暴力、性的な暴力、経済的な暴力、子どもを利用した暴力、ストーカー行為をされた	-	9.0	5.5	5.7	9.7	7.5	6.8
職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている	-	7.5	7.6	6.3	11.7	9.8	6.8
仕事が見つからない、仕事不安定	-	7.5	8.3	6.9	9.7	9.8	6.8
経済的に困窮している(食品等の生活に必要なものを買えないことがある、光熱水費等の生活費が支払えないなど)	-	10.4	4.8	4.6	9.1	5.3	2.7
孤独・孤立を感じる	-	7.5	3.4	4.0	3.9	6.0	3.4
住まいが定まらない、家に居場所がない	50.0	6.0	5.5	1.7	5.2	3.8	2.0
その他	-	-	-	-	-	-	-
特にない	50.0	73.1	73.8	74.7	70.1	72.9	70.3

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

(2) 相談経験・相談先

※DVの項目は、回答への同意をいただいた方のみ

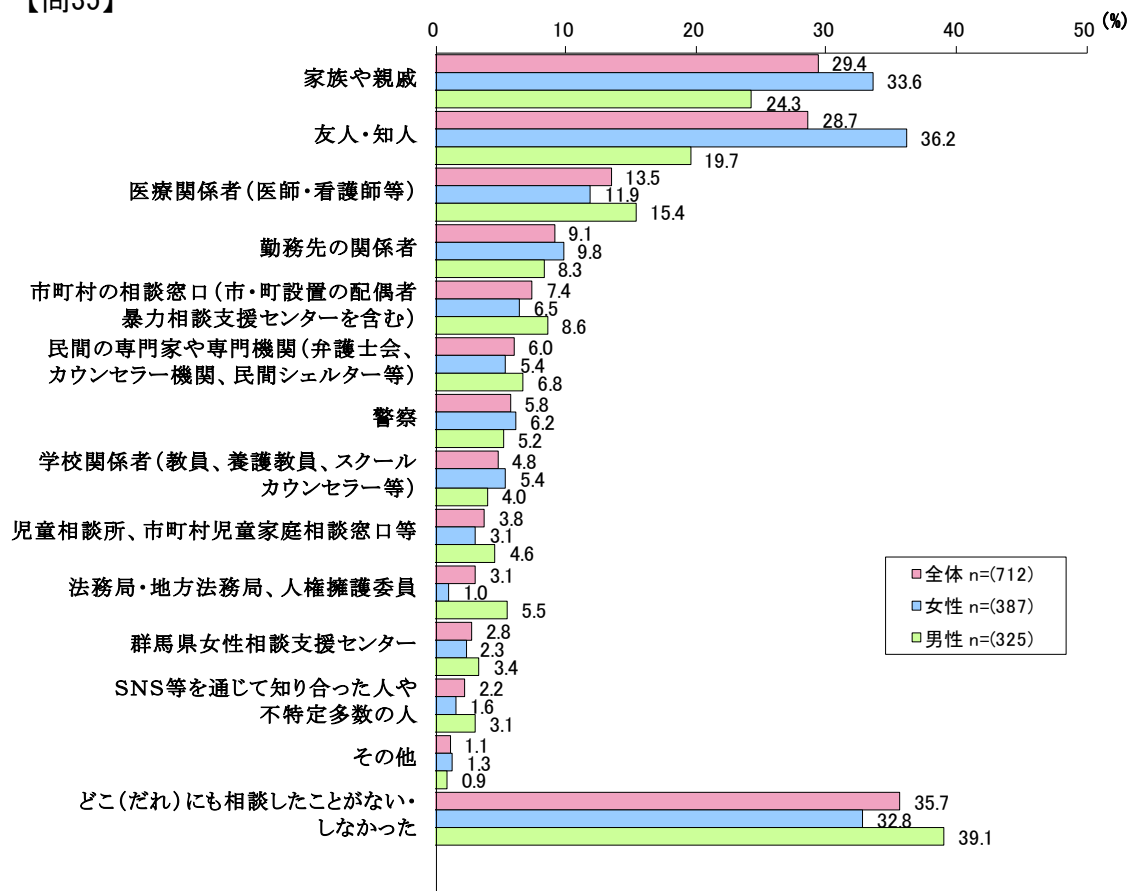
【問34で、ご自身か家族や知人について、抱えている困難や悩みがあると答えた方】
問35 次のような機関や人に相談したことがありますか。(あてはまるものを全て選択可)

- 全体では「相談したことがない・しなかった」が約4割
- 「友人・知人」で男女差が大きい

全体では、「家族や親戚」(29.4%)、「友人・知人」(28.7%)の2項目が約3割、次いで「医療関係者(医師・看護師等)」(13.5%)が1割以上となっている。

性別で見ると、女性は「友人・知人」(36.2%)が最も高く、次いで「家族や親戚」(33.6%)となっている。男性は「家族や親戚」(24.3%)が2割以上、次いで「友人・知人」(19.7%)となっている。一方、「どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった」(全体35.7%、女性32.8%、男性39.1%)は3割台となっており、全体と男性で最も高くなっている。男女差は「友人・知人」が最も大きく、女性が男性より16.5ポイント高くなっている。

【問35】



※「群馬県女性相談支援センター」「市町村の相談窓口(市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む)」は令和元年度調査から選択肢の文言を一部変更している。

※新規調査項目:「SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人」

◇性・年代別

●男性は「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」が最も高い

性・年代別で見ると、年代によっては回答者数が少ないことを考慮する必要があるが、女性は40代・50代・60代では「友人・知人」、20代・30代では「家族や親戚」、70代以上では「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」がそれぞれ高くなっている。男性はすべての年代で「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」が最も高く、次いで「家族や親戚」（40代・70代以上は「友人・知人」と同値）が高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	1	53	61	68	99	79	26
家族や親戚	-	54.7	32.8	36.8	29.3	29.1	15.4
友人・知人	-	39.6	29.5	38.2	36.4	41.8	23.1
医療関係者（医師・看護師等）	-	11.3	11.5	11.8	9.1	11.4	26.9
勤務先の関係者	-	7.5	13.1	10.3	10.1	11.4	-
市町村の相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）	-	5.7	11.5	2.9	8.1	6.3	-
民間の専門家や専門機関（弁護士会、カウンセラー機関、民間シェルター等）	-	5.7	6.6	4.4	6.1	5.1	3.8
警察	-	3.8	3.3	5.9	7.1	8.9	7.7
学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラー等）	-	7.5	4.9	2.9	5.1	7.6	3.8
児童相談所、市町村児童家庭相談窓口等	100.0	1.9	3.3	2.9	3.0	2.5	3.8
法務局・地方法務局、人権擁護委員	-	-	1.6	1.5	1.0	-	3.8
群馬県女性相談支援センター	-	1.9	1.6	2.9	4.0	1.3	-
SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人	-	1.9	4.9	-	1.0	1.3	-
その他	-	1.9	-	4.4	1.0	-	-
どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった	-	24.5	31.1	29.4	35.4	35.4	46.2

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	1	29	63	68	62	47	55
家族や親戚	-	27.6	28.6	26.5	19.4	29.8	16.4
友人・知人	-	17.2	20.6	26.5	17.7	17.0	16.4
医療関係者（医師・看護師等）	-	17.2	12.7	19.1	16.1	19.1	9.1
勤務先の関係者	100.0	10.3	7.9	8.8	8.1	8.5	5.5
市町村の相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）	-	6.9	6.3	5.9	12.9	10.6	9.1
民間の専門家や専門機関（弁護士会、カウンセラー機関、民間シェルター等）	-	6.9	12.7	2.9	-	8.5	10.9
警察	-	10.3	4.8	4.4	8.1	4.3	1.8
学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラー等）	-	13.8	3.2	4.4	3.2	2.1	1.8
児童相談所、市町村児童家庭相談窓口等	100.0	10.3	4.8	1.5	3.2	6.4	3.6
法務局・地方法務局、人権擁護委員	-	17.2	4.8	1.5	4.8	8.5	3.6
群馬県女性相談支援センター	-	-	6.3	2.9	3.2	2.1	3.6
SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人	-	6.9	6.3	1.5	3.2	2.1	-
その他	-	-	1.6	1.5	-	-	1.8
どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった	-	31.0	31.7	33.8	45.2	36.2	54.5

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

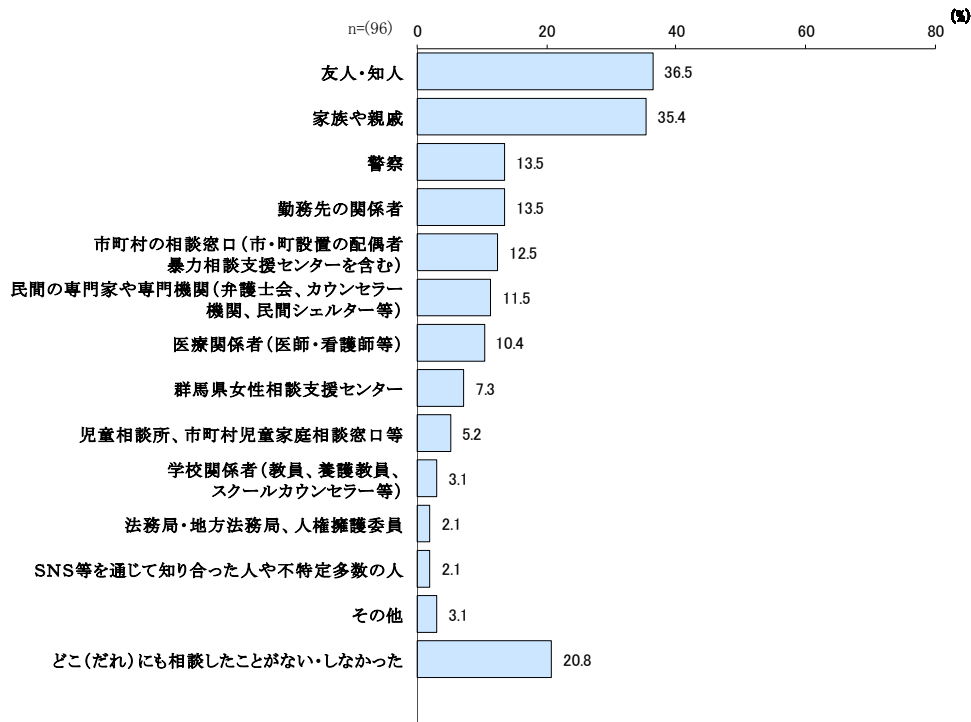
◇ DV被害者・支援対象者（性別）

【支援対象者…抱えている困難や悩みがあると答えた方（以降も同様の定義）】

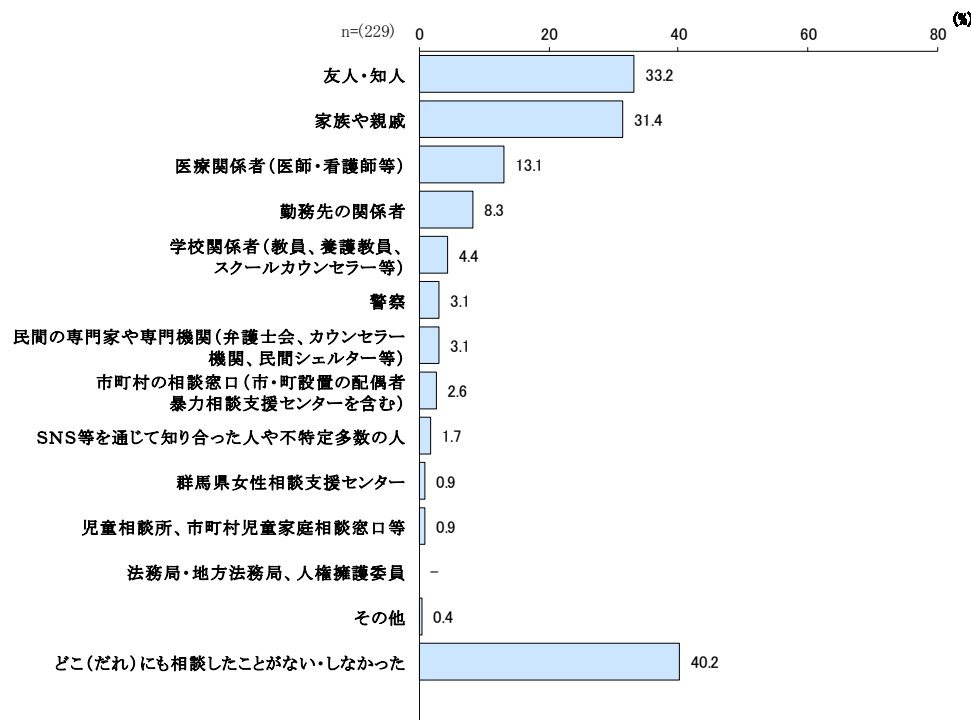
●女性「友人・知人」、男性「家族や親戚」が高い

女性のDV被害者と女性の支援対象者は「友人・知人」、男性のDV被害者と男性の支援対象者は「家族や親戚」がそれぞれ高くなっている。男女ともに支援対象者は「どこ（だれ）にも相談」したことがない・しなかった」が最も高くなっている。

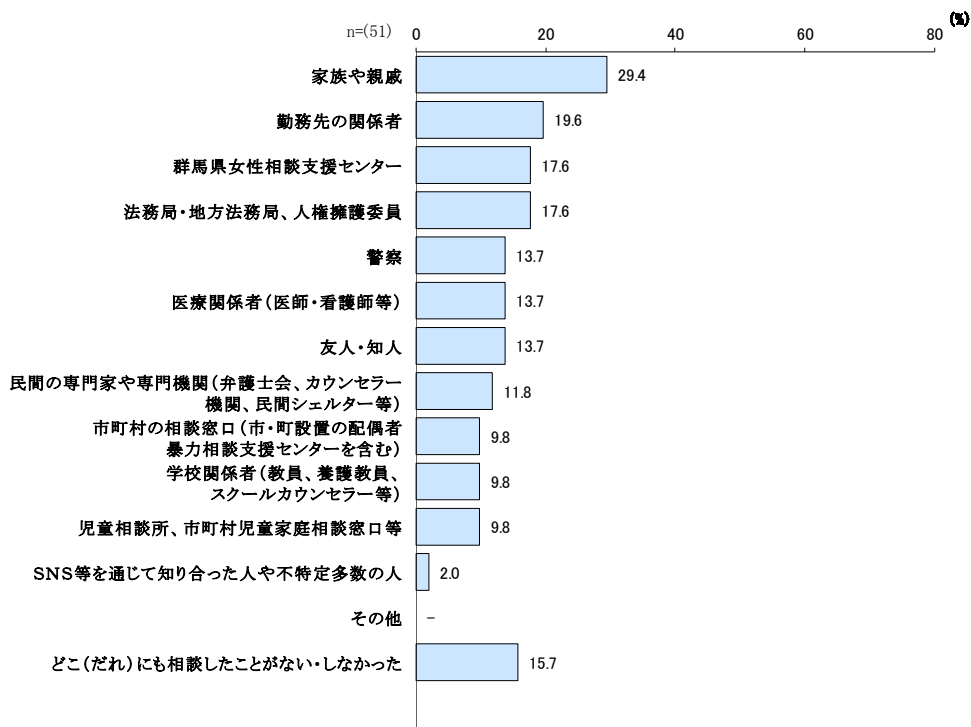
【女性のDV被害者】



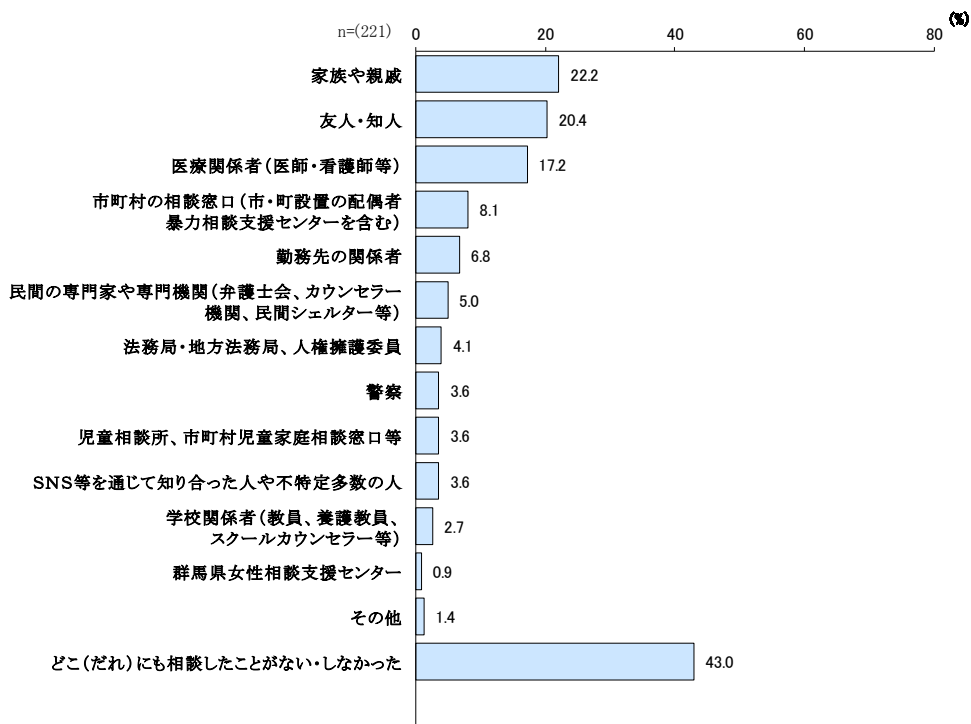
【女性の支援対象者】



【男性のDV被害者】



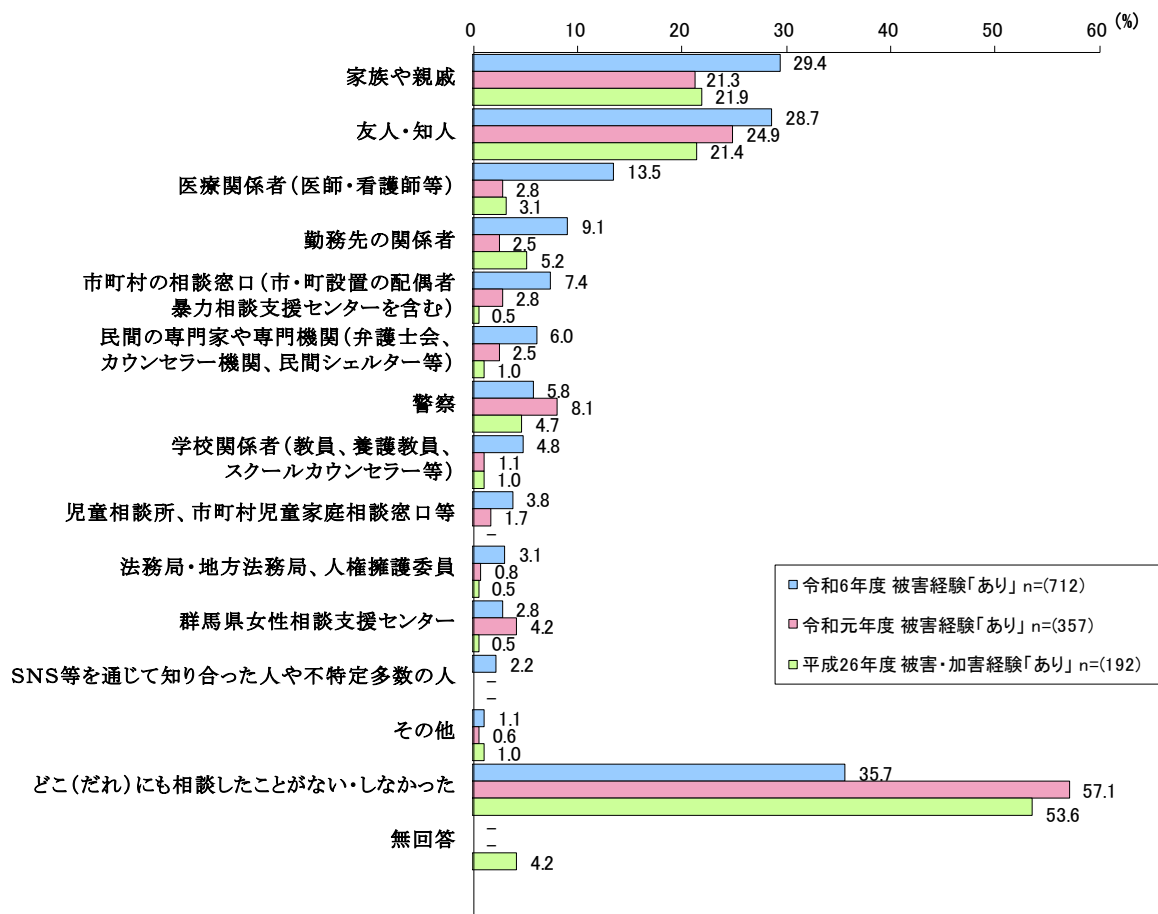
【男性の支援対象者】



◇経年変化（参考）

- 全体では「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」が前回よりも低くなった
- 「医療関係者（医師・看護師）」が前回より特に高い

特に「医療関係者（医師・看護師等）」は令和元年度（2.8%）より10.7ポイント高く、13.5%となっている。一方で、「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」は令和元年度より21.4ポイント低くなっている。



※平成26年度調査時は、被害・加害経験時の相談に関する設問となっている。

※令和元年度調査時は、DV被害の相談に関する設問となっている。

※新規調査項目：「市町村DV等相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）」、「児童相談所、市町村児童家庭相談窓口等」

(3) 相談をしない・しなかった理由

※DVの項目では、回答への同意をいただいた方のみ

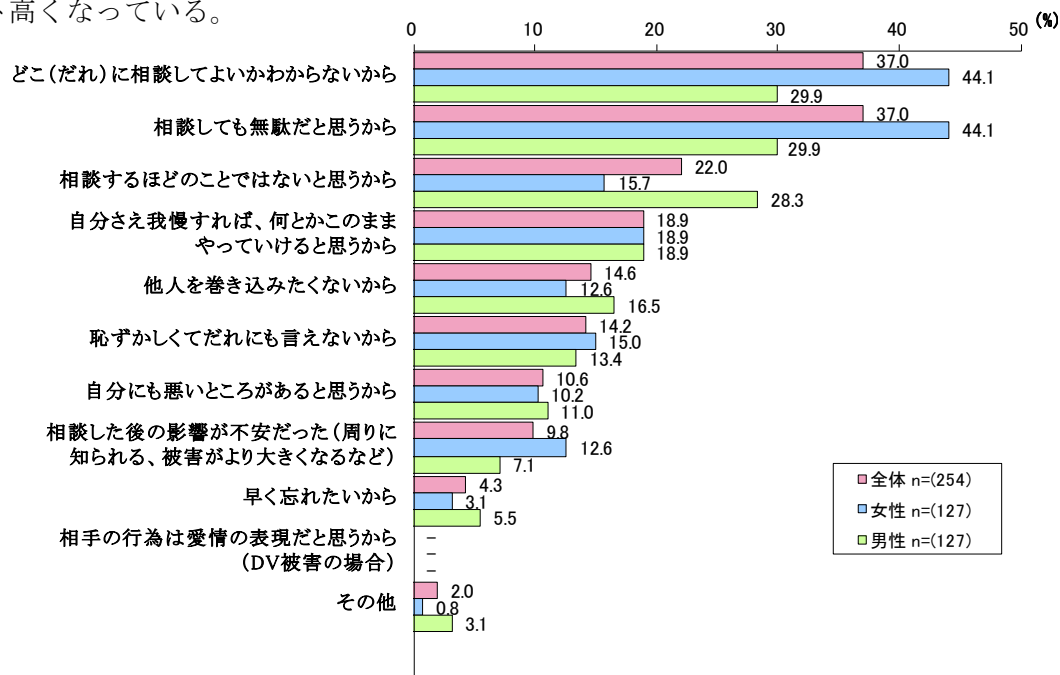
【問35で「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」と回答した方】

問36 相談しない・しなかった理由は何ですか。（あてはまるものを全て選択可）

●「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」と「相談しても無駄だと思うから」がいずれも同値で約4割

全体では、「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」と「相談しても無駄だと思うから」が同値（37.0%）で最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思うから」（22.0%）となっている。

性別で見ると、男女ともに「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」と「相談しても無駄だと思うから」が同値（女性44.1%、男性29.9%）で最も高く、女性で4割以上、男性で約3割となっている。次いで女性は「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから」（18.9%）が高くなっている。男性は「相談するほどのことではないと思うから」（28.3%）が高くなっている。男女差は「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」と「相談しても無駄だと思うから」で女性が男性より14.2ポイント高くなっている。



※「相手の行為は愛情の表現だと思うから（DV被害の場合）」は令和元年度調査から選択肢の文言を一部変更している。

※新規調査項目：「相談した後の影響が不安だった（周りに知られる、被害がより大きくなるなど）」

◇性・年代別

●「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」、「相談しても無駄」、「相談するほどのことではない」が高い

性・年代別では、年代によっては回答者数が十分でないため分析は行わないが、「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」、「相談しても無駄だと思うから」、「相談するほどのことではないと思うから」が上位項目となっている。

【問 36 性・年代別】

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
N	-	13	19	20	35	28	12
どこ(だれ)に相談してよいかわからないから	-	23.1	42.1	55.0	57.1	28.6	50.0
相談しても無駄だと思うから	-	38.5	36.8	55.0	54.3	39.3	25.0
相談するほどのことではないと思うから	-	23.1	10.5	5.0	11.4	21.4	33.3
自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから	-	30.8	31.6	20.0	20.0	7.1	8.3
他人を巻き込みたくないから	-	23.1	15.8	10.0	5.7	21.4	-
恥ずかしくてだれにも言えないから	-	23.1	15.8	5.0	11.4	14.3	33.3
自分にも悪いところがあると思うから	-	15.4	10.5	15.0	8.6	7.1	8.3
相談した後の影響が不安だった(周りに知られる、被害がより大きくなるなど)	-	-	-	15.0	11.4	21.4	25.0
早く忘れたいから	-	-	-	15.0	-	3.6	-
相手の行為は愛情の表現だと思うから(DV被害の場合)	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	3.6	-

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目(単位:%)

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
N	-	9	20	23	28	17	30
どこ(だれ)に相談してよいかわからないから	-	-	25.0	43.5	28.6	47.1	23.3
相談しても無駄だと思うから	-	22.2	30.0	39.1	14.3	52.9	26.7
相談するほどのことではないと思うから	-	66.7	25.0	13.0	39.3	11.8	30.0
自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから	-	11.1	20.0	21.7	7.1	29.4	23.3
他人を巻き込みたくないから	-	22.2	15.0	17.4	10.7	11.8	23.3
恥ずかしくてだれにも言えないから	-	11.1	10.0	26.1	14.3	17.6	3.3
自分にも悪いところがあると思うから	-	11.1	15.0	17.4	7.1	5.9	10.0
相談した後の影響が不安だった(周りに知られる、被害がより大きくなるなど)	-	-	10.0	17.4	3.6	5.9	3.3
早く忘れたいから	-	11.1	15.0	4.3	3.6	-	3.3
相手の行為は愛情の表現だと思うから(DV被害の場合)	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	4.3	-	11.8	3.3

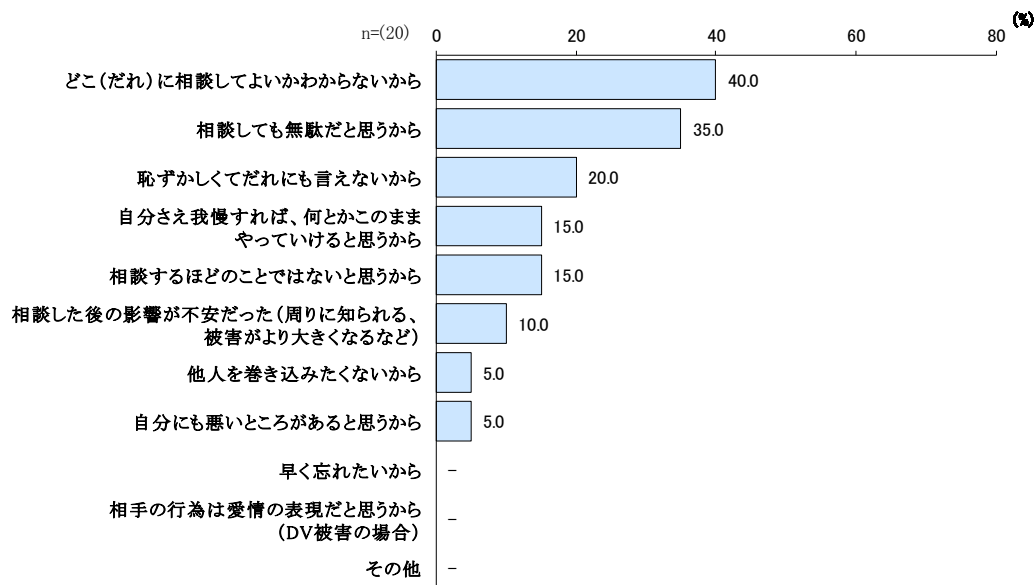
※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目(単位:%)

◇ DV被害者・支援対象者（性別）

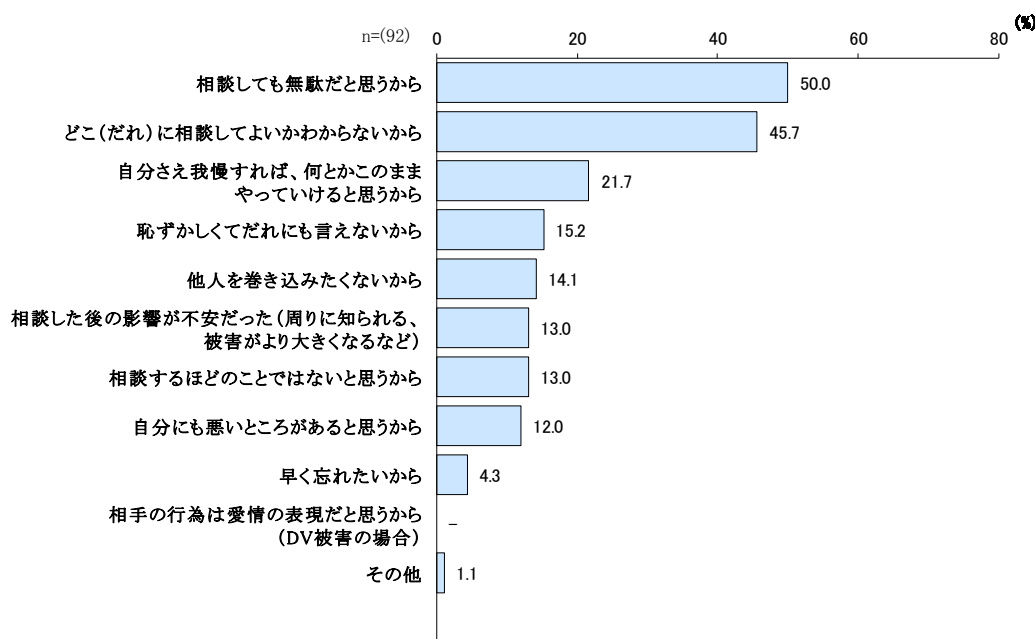
- 「早く忘れたいから」「相談するほどのことではないと思うから」は男性DV被害者で約4割
- 「相談しても無駄だと思うから」は男女ともに支援対象者で高い

女性のDV被害者は「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」、女性の支援対象者と男性の支援対象者は「相談しても無駄だと思うから」、男性のDV被害者は「早く忘れたいから」と「相談するほどのことではないと思うから」が同値でそれぞれ高くなっている。

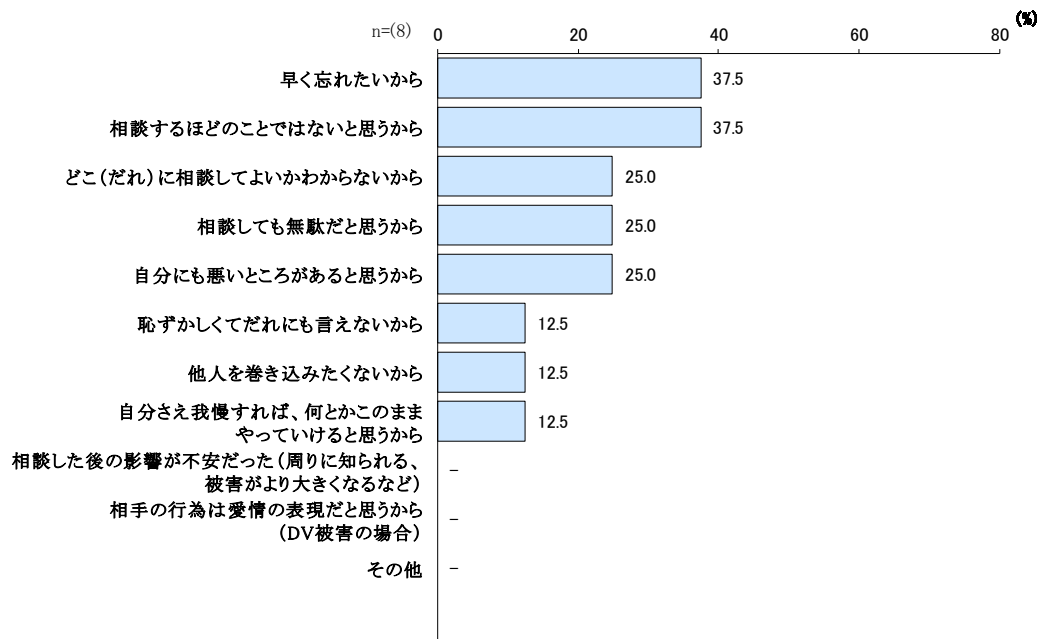
【女性のDV被害者】



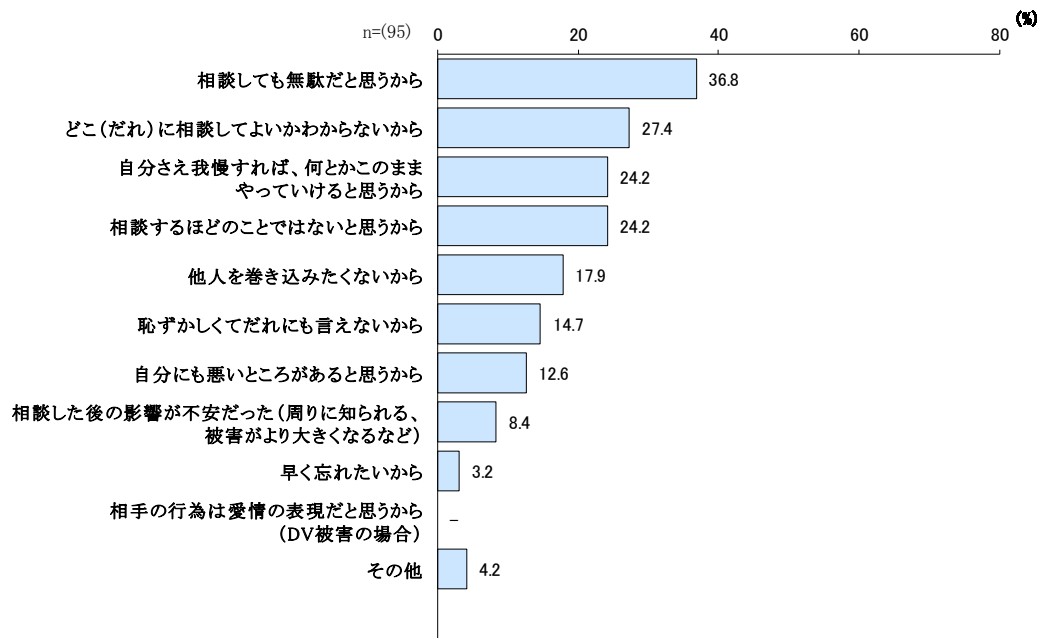
【女性の支援対象者】



【男性のDV被害者】



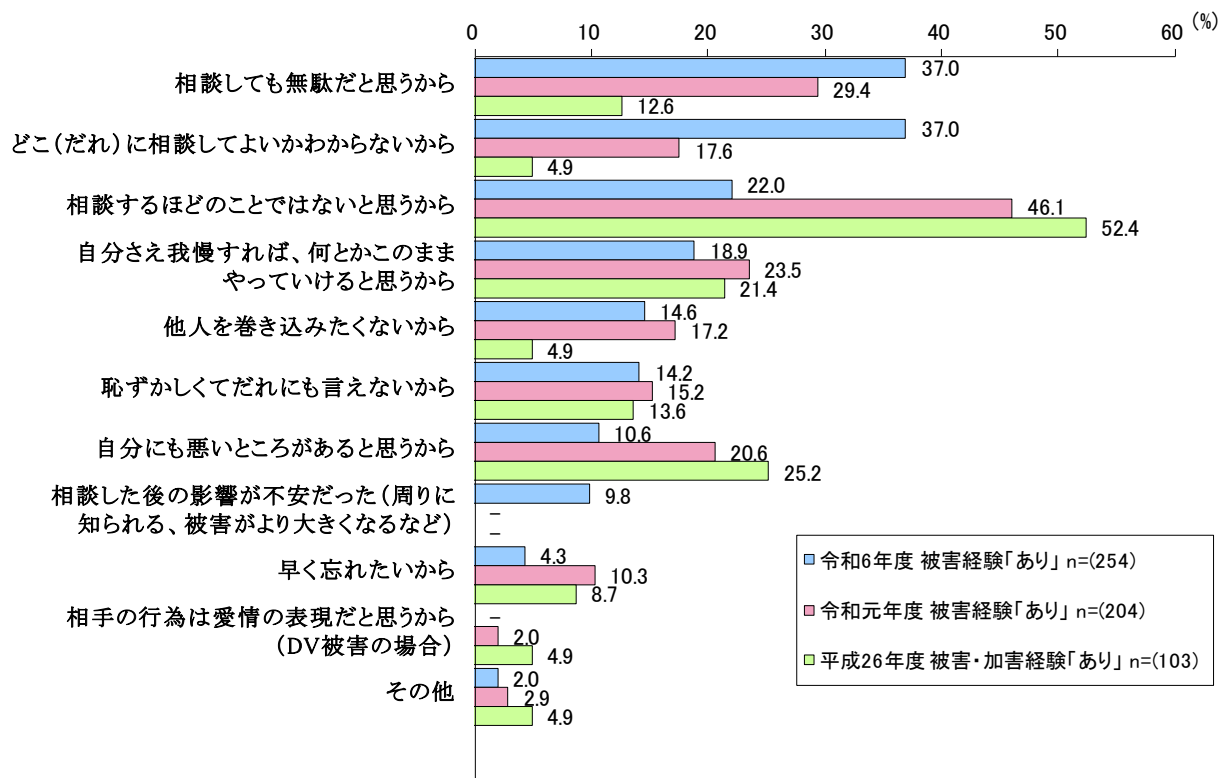
【男性の支援対象者】



◇経年変化（参考）

●「相談しても無駄だと思うから」と「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」が最も高い

令和元年度とは項目数や文章表現等が異なるため、参考値として見ると、「相談しても無駄だと思うから」と「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」が令和元年度よりも高くなっている。一方で「相談するほどのことではないと思うから」は令和元年度（46.1%）より24.1ポイント低くなっている。



※平成26年度調査時は、被害・加害経験時の相談に関する設問となっている。

※令和元年度調査時は、DV被害の相談に関する設問となっている。

※新規調査項目：「相談した後の影響が不安だった（周りに知られる、被害がより大きくなるなど）」

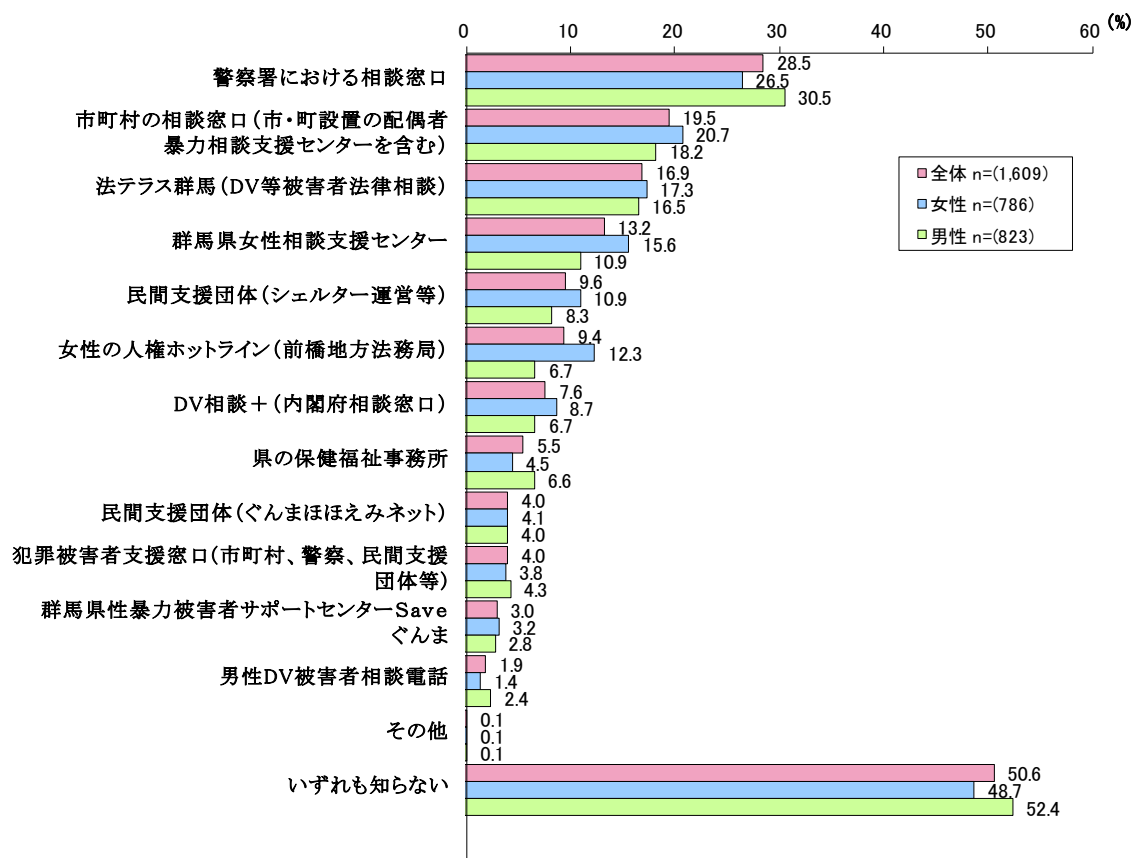
(4) 相談窓口の認知度

※DVの項目では、回答への同意をいただいた方のみ

問37 あなたは、次のようなドメスティック・バイオレンス（DV）や困ったり悩みを抱えていることなどの相談窓口を知っていますか。（あてはまるものを全て選択可）

- 「警察署における相談窓口」が男女ともに高い
- 「いずれも知らない」は男女5割前後

全体、男女ともに「警察署における相談窓口」（全体28.5%、女性26.5%、男性30.5%）が高く、次いで「市町村の相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）」（全体19.5%、女性20.7%、男性18.2%）、「法テラス群馬（DV等被害者法律相談）」（全体16.9%、女性17.3%、男性16.5%）となっている。一方、「いずれも知らない」（全体50.6%、女性48.7%、男性52.4%）は5割前後となっている。男女差は「女性の人権ホットライン（前橋地方法務局）」（女性12.3%、男性6.7%）で最も大きく、女性が5.6ポイント高くなっている。



◇性・年代別

●「いずれも知らない」は男女ともに高い

性・年代別で見ると、男女ともにすべての年代で「いずれも知らない」が最も高く、次いで「警察署における相談窓口」（女性20代は「市町村の相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）」と同値（17.4%））が高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	109	105	143	175	185	65
警察署における相談窓口	25.0	17.4	23.8	22.4	28.6	33.5	29.2
市町村の相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）	-	17.4	19.0	14.7	22.3	25.4	26.2
法テラス群馬（DV等被害者法律相談）	25.0	12.8	11.4	18.2	16.0	22.7	20.0
群馬県女性相談支援センター	-	8.3	17.1	14.7	18.3	14.1	26.2
民間支援団体（シェルター運営等）	25.0	2.8	10.5	7.0	12.6	15.7	15.4
女性の人権ホットライン（前橋地方法務局）	-	15.6	12.4	7.7	13.1	12.4	15.4
DV相談＋（内閣府相談窓口）	25.0	11.0	6.7	7.7	8.0	7.6	13.8
県の保健福祉事務所	25.0	2.8	4.8	0.7	3.4	7.0	9.2
民間支援団体（ぐんまほほえみネット）	-	5.5	5.7	1.4	3.4	4.3	6.2
犯罪被害者支援窓口（市町村、警察、民間支援団体等）	-	-	2.9	2.8	2.9	7.6	6.2
群馬県性暴力被害者サポートセンターSaveぐんま	-	2.8	3.8	2.1	1.1	4.9	6.2
男性DV被害者相談電話	-	1.8	2.9	-	-	2.7	1.5
その他	-	-	-	-	-	-	1.5
いずれも知らない	25.0	55.0	55.2	50.3	45.7	45.4	43.1

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	2	67	145	174	154	133	148
警察署における相談窓口	-	23.9	24.8	28.2	33.1	41.4	29.7
市町村の相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）	50.0	10.4	14.5	12.1	19.5	23.3	26.4
法テラス群馬（DV等被害者法律相談）	-	19.4	11.0	10.9	19.5	19.5	21.6
群馬県女性相談支援センター	50.0	4.5	11.7	8.6	9.1	16.5	12.2
民間支援団体（シェルター運営等）	-	10.4	6.9	9.8	7.8	8.3	7.4
女性の人権ホットライン（前橋地方法務局）	-	7.5	8.3	4.6	3.9	10.5	6.8
DV相談＋（内閣府相談窓口）	-	7.5	6.9	6.3	3.9	9.0	7.4
県の保健福祉事務所	-	10.4	8.3	6.3	3.9	4.5	8.1
民間支援団体（ぐんまほほえみネット）	-	10.4	3.4	4.6	1.9	3.8	3.4
犯罪被害者支援窓口（市町村、警察、民間支援団体等）	-	1.5	1.4	4.6	3.9	6.0	6.8
群馬県性暴力被害者サポートセンターSaveぐんま	-	4.5	3.4	2.3	3.2	2.3	2.0
男性DV被害者相談電話	50.0	6.0	2.8	2.3	0.6	2.3	2.0
その他	-	1.5	-	-	-	-	-
いずれも知らない	-	50.7	57.2	53.4	55.2	42.9	53.4

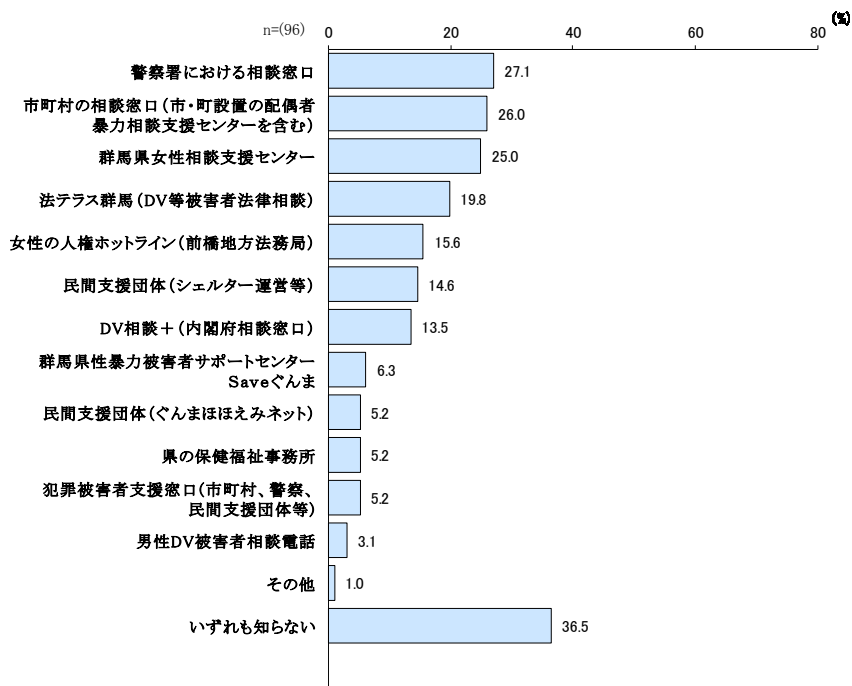
※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

◇ DV被害者・支援対象者（性別）

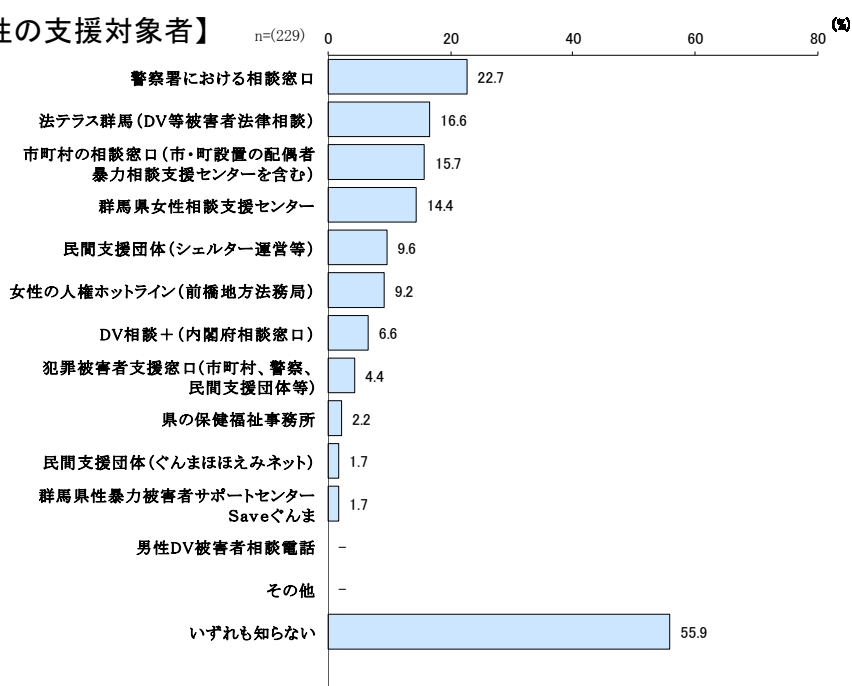
- 「群馬県女性相談支援センター」は男性DV被害者で高い
- 「いずれも知らない」は男女ともに高い

女性のDV被害者と女性の支援対象者と男性の支援対象者は「警察署における相談窓口」、男性のDV被害者は「群馬県女性相談支援センター」がそれぞれ高くなっている。また、男女ともに「いずれも知らない」が最も高く、特に女性の支援対象者（55.9%）は約6割となっている。

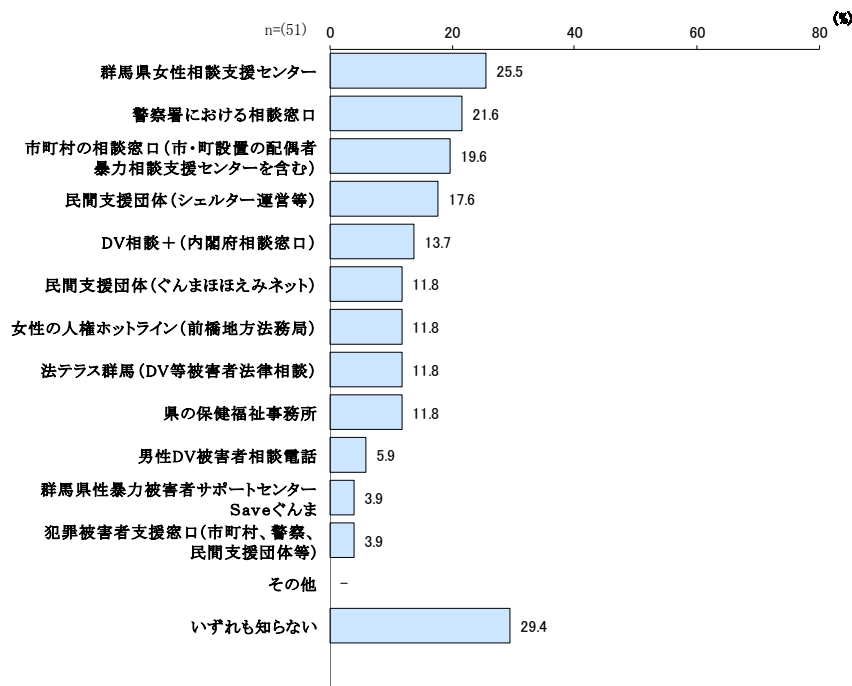
【女性のDV被害者】



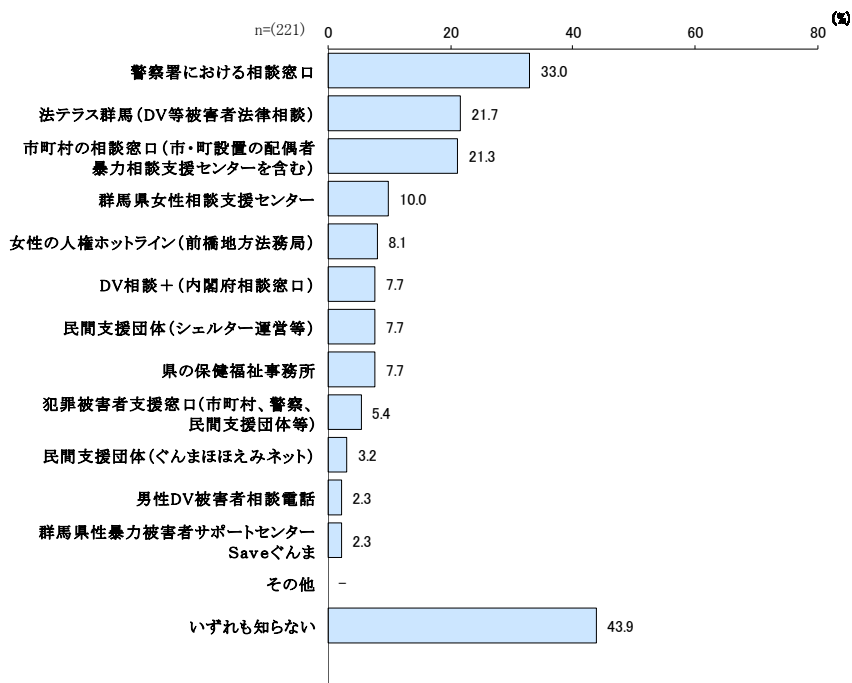
【女性の支援対象者】



【男性のDV 被害者】



【男性の支援対象者】



◇圏域別

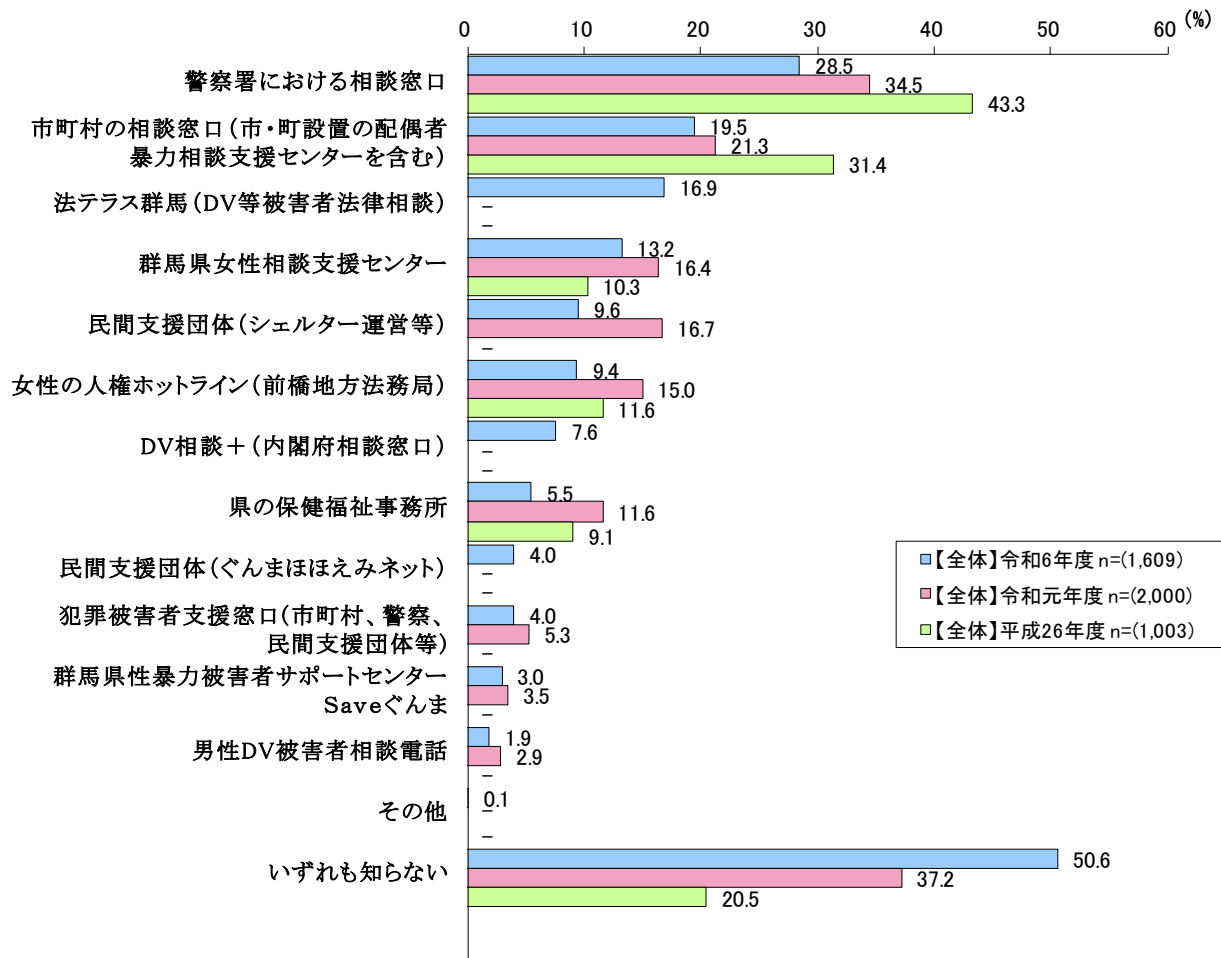
●すべての圏域で「いずれも知らない」が最も高い

圏域別で見ると、すべての圏域で「いずれも知らない」が最も高く、次いで利根・沼田圏を除き「警察署における相談窓口」が高くなっている。利根・沼田圏は「市町村の相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）」が高くなっている。

圏域	前橋圏	渋川圏	伊勢崎圏	高崎・安中圏	藤岡圏	富岡圏	吾妻圏	利根・沼田圏	太田・館林圏	桐生圏
N	271	90	215	372	55	53	40	61	331	121
警察署における相談窓口	31.0	25.6	32.1	27.4	25.5	28.3	30.0	21.3	26.3	33.1
市町村の相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）	17.3	21.1	22.8	22.0	14.5	15.1	10.0	24.6	16.6	21.5
法テラス群馬（DV等被害者法律相談）	19.9	20.0	17.7	14.5	10.9	22.6	7.5	23.0	12.7	25.6
群馬県女性相談支援センター	18.1	14.4	15.8	11.3	7.3	15.1	17.5	16.4	10.0	10.7
民間支援団体（シェルター運営等）	9.2	10.0	9.8	10.8	7.3	11.3	12.5	4.9	8.8	9.9
女性の人権ホットライン（前橋地方法務局）	9.2	15.6	13.0	6.7	5.5	11.3	10.0	16.4	7.6	9.9
DV相談＋（内閣府相談窓口）	7.0	4.4	11.6	8.1	7.3	7.5	5.0	9.8	5.7	8.3
県の保健福祉事務所	6.6	5.6	5.6	4.8	9.1	9.4	7.5	8.2	3.9	4.1
民間支援団体（ぐんまほほえみネット）	3.0	5.6	4.7	3.5	3.6	3.8	5.0	4.9	3.9	5.8
犯罪被害者支援窓口（市町村、警察、民間支援団体等）	2.6	8.9	2.8	5.1	3.6	1.9	5.0	6.6	3.0	5.0
群馬県性暴力被害者サポートセンターSaveぐんま	3.0	3.3	2.8	2.4	1.8	3.8	5.0	1.6	3.3	4.1
男性DV被害者相談電話	1.5	2.2	2.3	1.9	1.8	3.8	2.5	3.3	0.9	3.3
その他	-	-	-	0.5	-	-	-	-	-	-
いずれも知らない	48.0	46.7	46.5	50.3	54.5	56.6	60.0	45.9	57.7	43.0

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

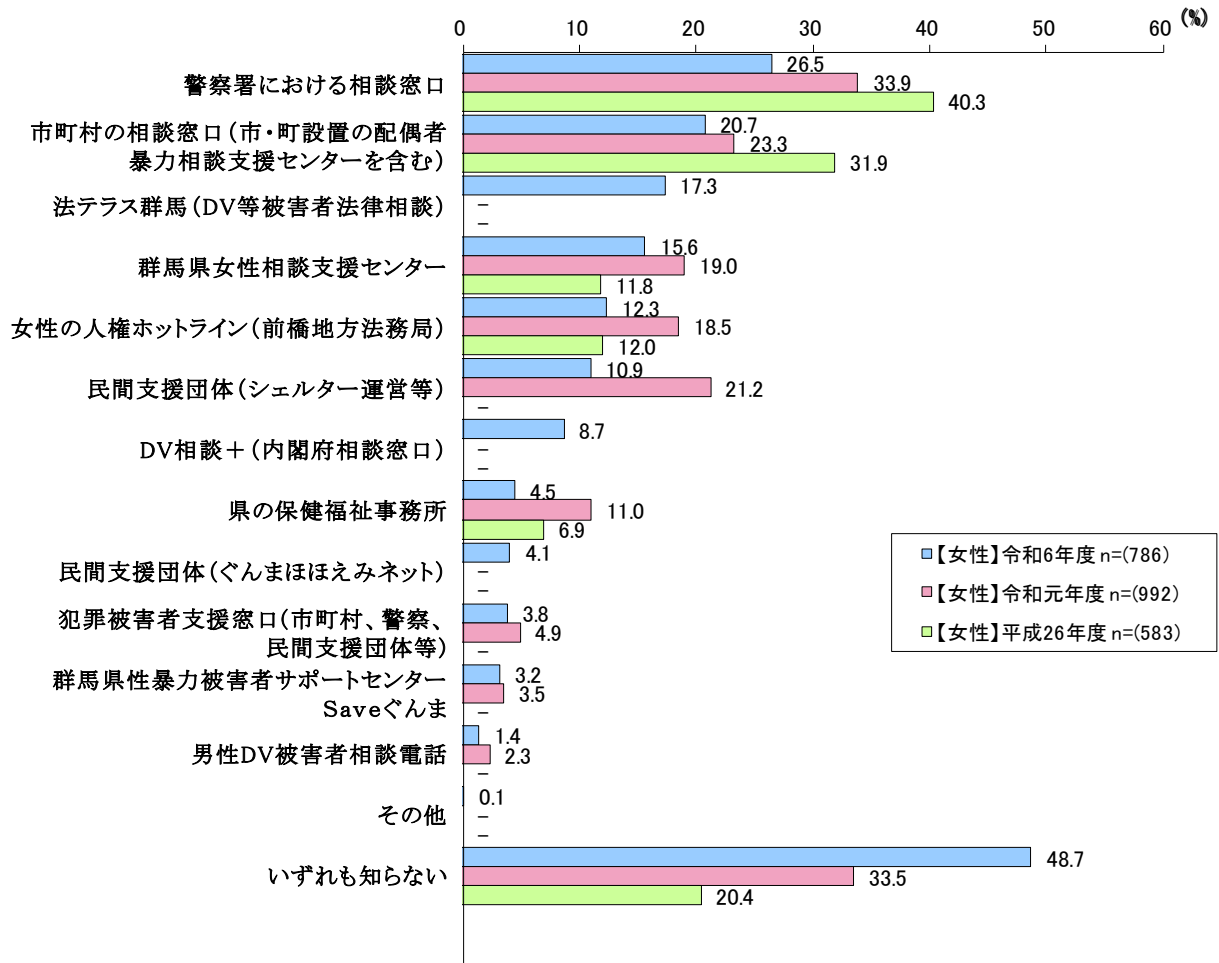
◇経年変化（参考）



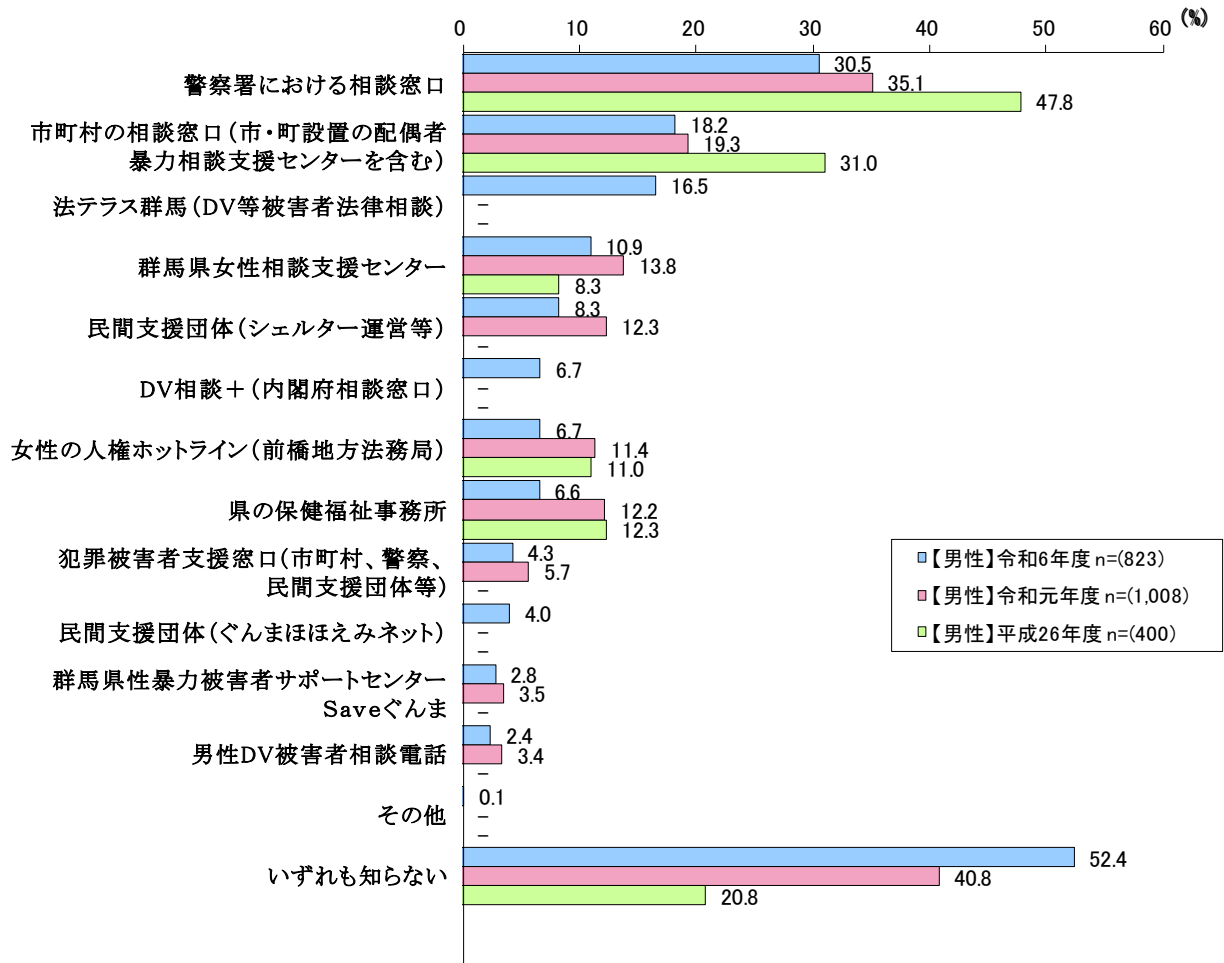
※令和元年度調査時は、DVやその他の被害者支援のための相談窓口、法律、制度等の認知度に関する設問となっているが、今回調査の調査項目は、DV被害者支援や抱えている困難や悩み等に関する「相談窓口」のみに限定している。なお、法律や制度についての調査項目は、問25で調査している。

※新規調査項目：「法テラス群馬（DV等被害者法律相談）」「DV相談+（内閣府相談窓口）」「民間支援団体（ぐんまほほえみネット）」

【女性】



【男性】

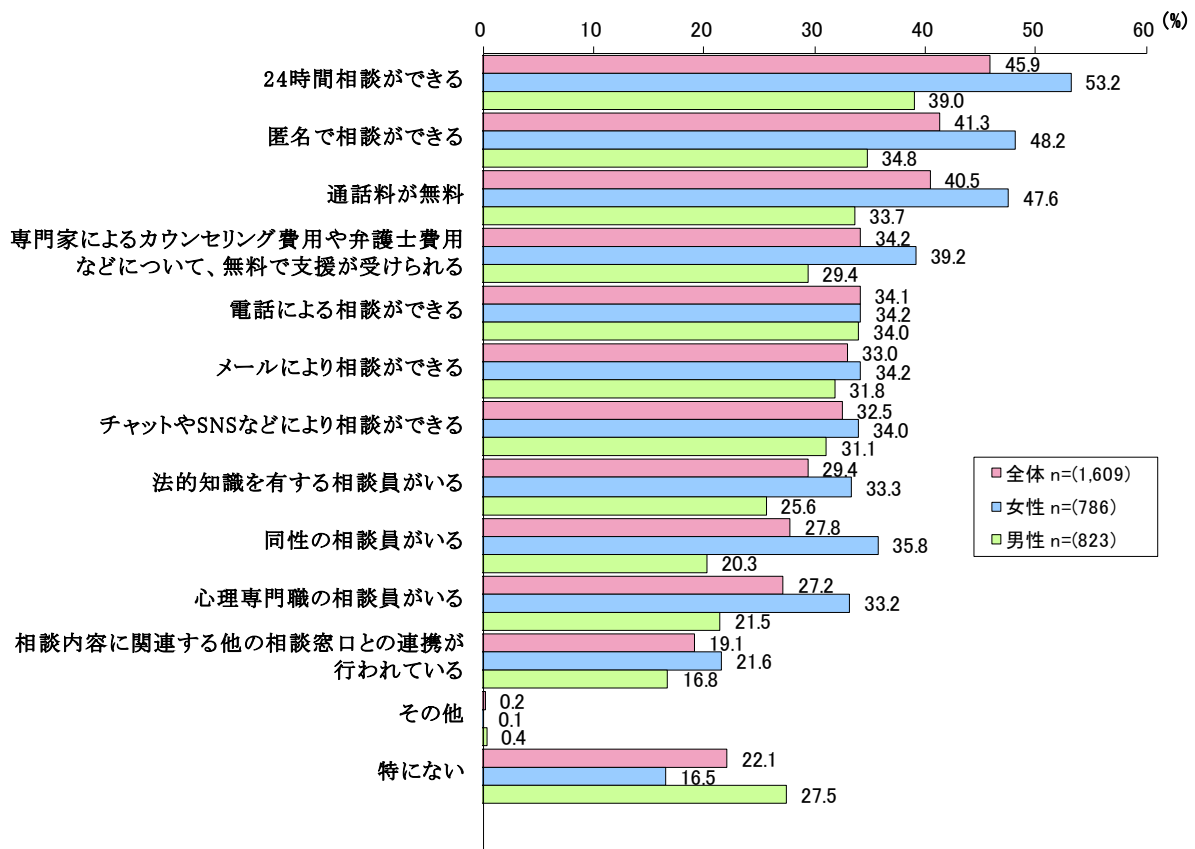


(5) DVや抱えている困難等を相談する窓口における必要な配慮

問38 あなたは、DV被害や、困ったり悩みを抱えていることについて、公的機関や民間団体の相談窓口に、今後相談するとしたら、どのような配慮をしてほしいですか。あてはまるものを全てお選びください。(あてはまるものを全て選択可)

●男女ともに「24時間相談ができる」が最も高い

全体、男女ともに「24時間相談ができる」(全体45.9%、女性53.2%、男性39.0%)が最も高く、次いで「匿名で相談ができる」(全体41.3%、女性48.2%、男性34.8%)となっている。男女差は「同性の相談員がいる」(女性35.8%、男性20.3%)で最も大きく、女性が15.5ポイント高くなっている。



◇性・年代別

●「24時間相談ができる」は30代～50代の男女で高い

性・年代別で見ると、女性は30代・40代・50代では「24時間相談ができる」、20代では「チャットやSNSなどにより相談ができる」、60代では「通話料が無料」、70代以上では「匿名で相談ができる」がそれぞれ高くなっている。

男性は30代・40代・50代では「24時間相談ができる」（50代は「電話による相談ができる」と同値）、60代・70代以上では「電話による相談ができる」、20代では「通話料が無料」がそれぞれ高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	109	105	143	175	185	65
24時間相談ができる	50.0	45.9	55.2	56.6	57.7	50.3	50.8
匿名で相談ができる	75.0	45.0	41.9	47.6	49.1	50.3	55.4
通話料が無料	75.0	36.7	43.8	53.8	44.6	54.6	44.6
専門家によるカウンセリング費用や弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる	-	26.6	30.5	41.3	45.7	44.9	38.5
電話による相談ができる	50.0	29.4	27.6	32.2	30.3	40.5	49.2
メールにより相談ができる	-	27.5	41.0	35.7	35.4	30.3	41.5
チャットやSNSなどにより相談ができる	25.0	47.7	44.8	44.1	30.9	21.1	16.9
法的知識を有する相談員がいる	25.0	19.3	20.0	32.9	34.3	44.9	44.6
同性の相談員がいる	100.0	33.0	31.4	35.0	40.0	33.0	41.5
心理専門職の相談員がいる	-	24.8	21.9	32.9	34.9	40.5	43.1
相談内容に関連する他の相談窓口との連携が行われている	25.0	19.3	18.1	20.3	27.4	23.2	13.8
その他	-	0.9	-	-	-	-	-
特になし	-	24.8	20.0	18.9	10.9	14.1	15.4

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	2	67	145	174	154	133	148
24時間相談ができる	-	37.3	37.2	41.4	37.0	40.6	39.9
匿名で相談ができる	50.0	26.9	32.4	33.3	35.1	33.1	43.2
通話料が無料	-	38.8	29.7	33.9	32.5	33.8	36.5
専門家によるカウンセリング費用や弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる	-	25.4	23.4	23.0	32.5	29.3	41.9
電話による相談ができる	50.0	26.9	22.1	27.0	37.0	41.4	47.3
メールにより相談ができる	50.0	20.9	26.9	29.9	36.4	30.8	39.9
チャットやSNSなどにより相談ができる	50.0	35.8	35.9	36.8	35.7	21.8	20.9
法的知識を有する相談員がいる	-	17.9	20.0	20.1	31.8	27.1	33.8
同性の相談員がいる	50.0	16.4	21.4	20.7	23.4	15.8	20.9
心理専門職の相談員がいる	-	13.4	17.2	18.4	27.9	24.8	23.6
相談内容に関連する他の相談窓口との連携が行われている	50.0	22.4	6.9	13.8	19.5	16.5	24.3
その他	-	-	0.7	1.1	-	-	-
特になし	-	32.8	31.7	29.9	25.3	25.6	22.3

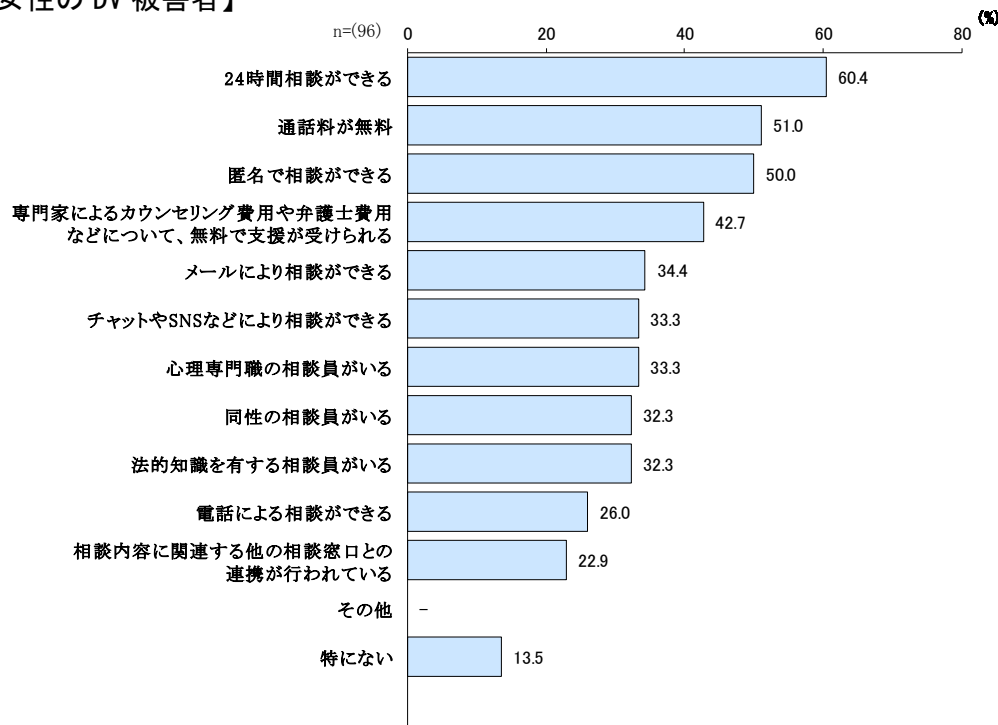
※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

◇ DV被害者・支援対象者（性別）

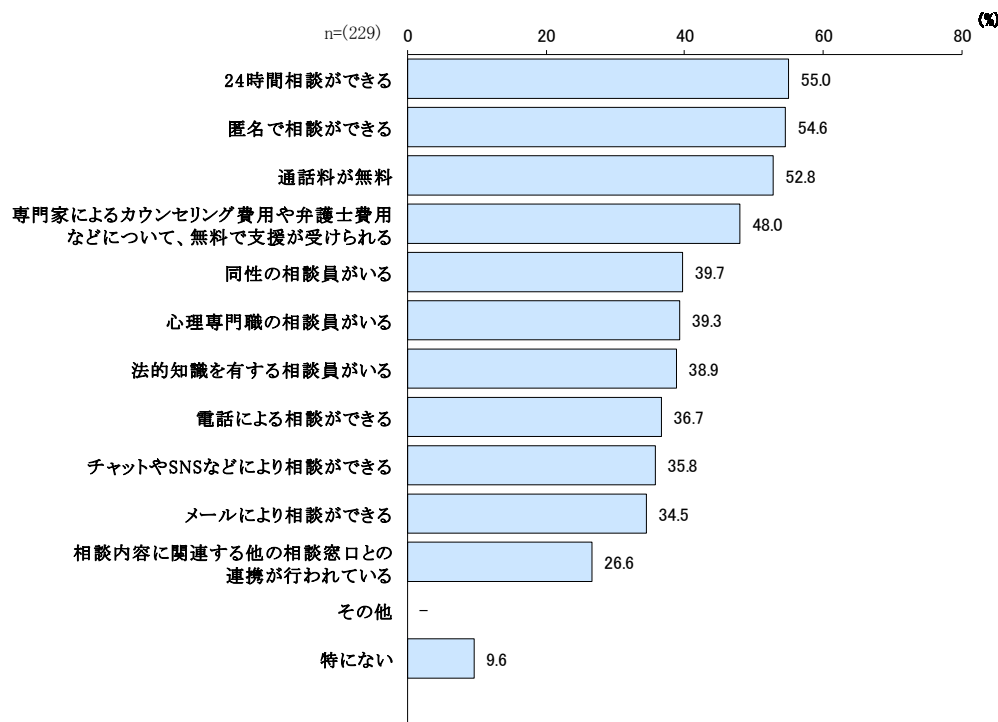
● 「24時間相談ができる」は男女ともに高い

男女ともに「24時間相談ができる」が最も高く、次いで女性のDV被害者は「通話料が無料」、女性の支援対象者と男性の支援対象者は「匿名で相談ができる」、男性のDV被害者は「メールにより相談ができる」がそれぞれ高くなっている。

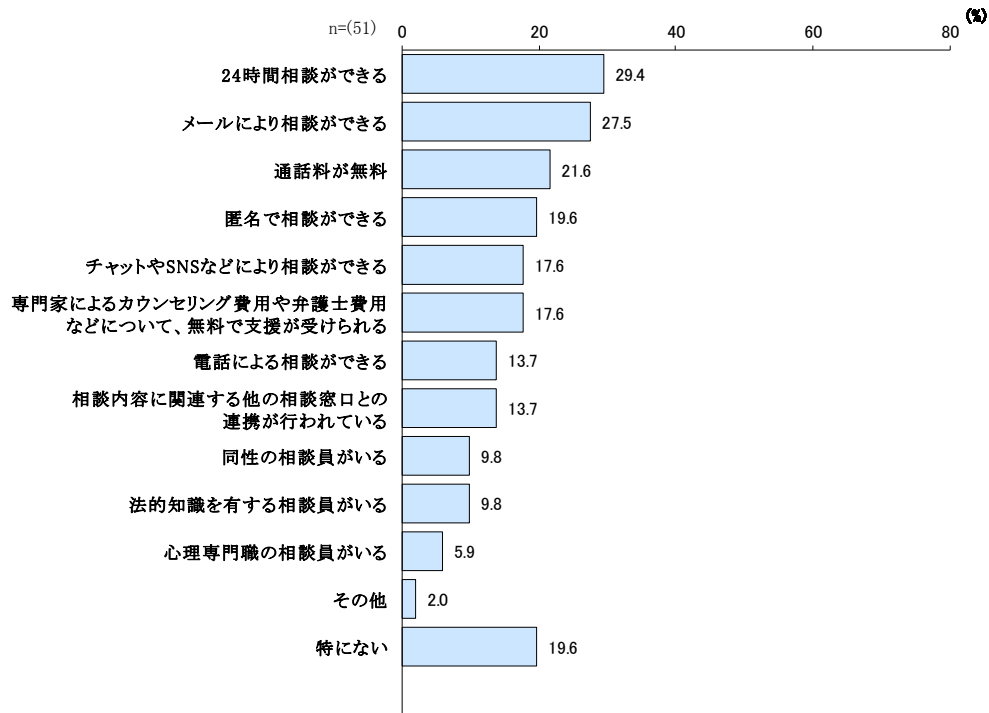
【女性のDV被害者】



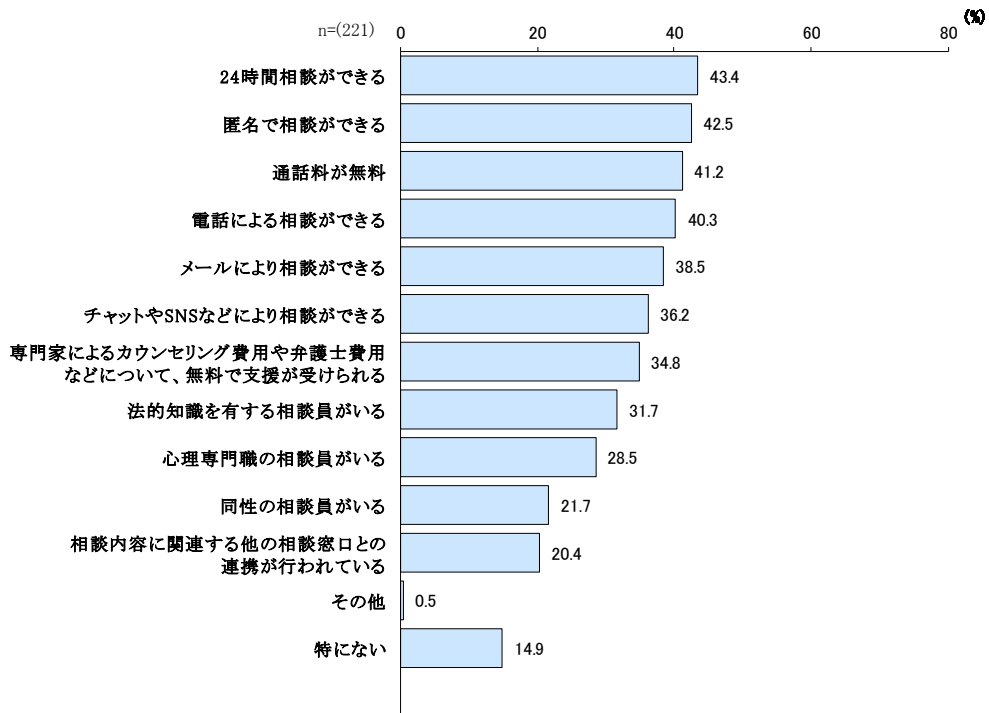
【女性の支援対象者】



【男性のDV被害者】



【男性の支援対象者】

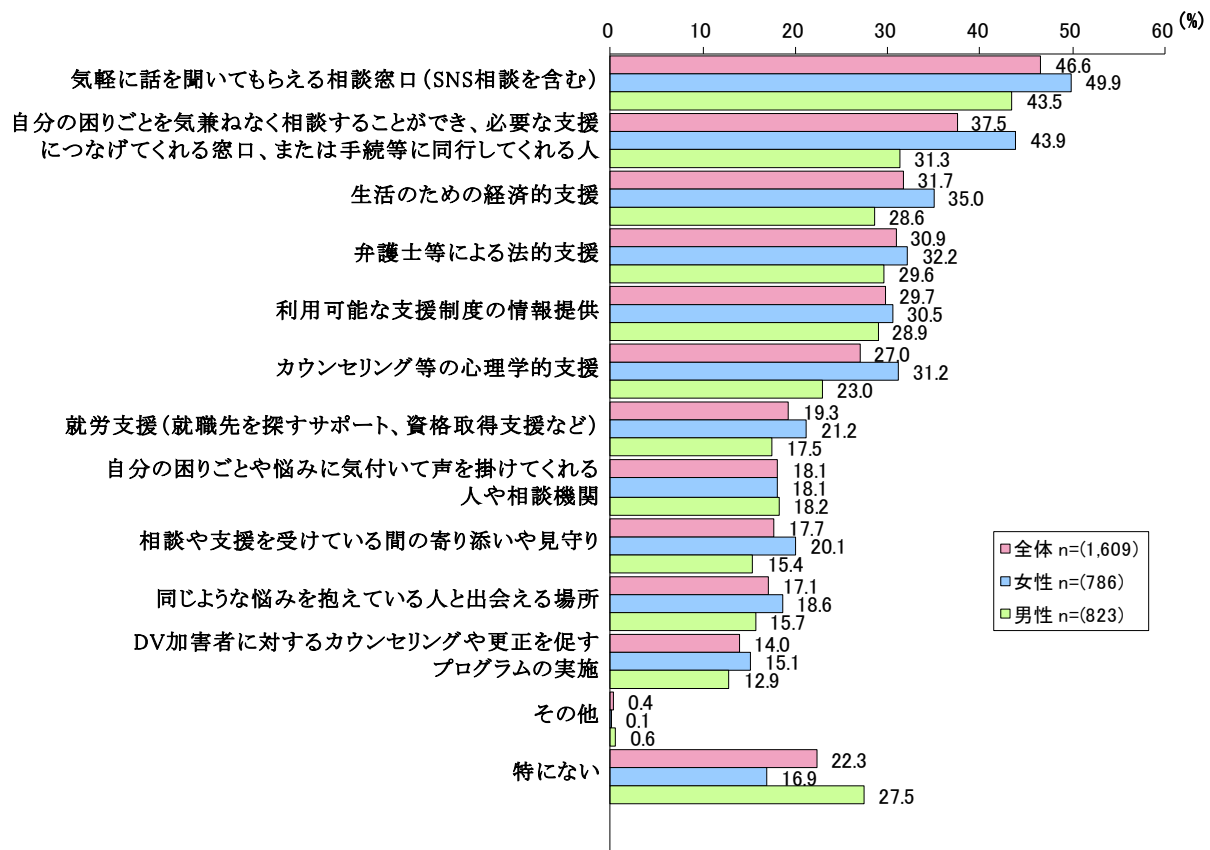


(6) DVや抱えている困難等を解決するために必要な支援等

問39 DV被害やあなたの困りごと・悩みについて解決するために、どのような環境や支援があるとよいと思いますか。あてはまるものを全てお選びください。(あてはまるものを全て選択可)

●男女ともに「相談窓口」が最も高い

全体、男女ともに「気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS相談を含む）」（全体46.6%、女性49.9%、男性43.5%）が最も高く、次いで「自分の困りごとを気兼ねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人」（全体37.5%、女性43.9%、男性31.3%）となっている。男女差は「自分の困りごとを気兼ねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人」で最も大きく、女性が12.6ポイント高くなっている。



◇性・年代別

●女性60代を除き「相談窓口」が最も高い

性・年代別で見ると、女性は60代を除き「気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS相談を含む）」が最も高く、60代では「自分の困りごとを気兼ねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人」が最も高くなっている。男性はすべての年代において「気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS相談を含む）」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	109	105	143	175	185	65
気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS相談を含む）	25.0	50.5	45.7	50.3	53.1	46.5	56.9
自分の困りごとを気兼ねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人	25.0	39.4	38.1	39.9	49.7	47.0	46.2
生活のための経済的支援	25.0	22.0	41.0	39.2	36.0	35.1	35.4
弁護士等による法的支援	25.0	24.8	26.7	37.8	36.0	30.3	36.9
利用可能な支援制度の情報提供	-	21.1	26.7	32.2	34.9	33.5	30.8
カウンセリング等の心理学的支援	50.0	28.4	21.0	28.7	37.1	32.4	36.9
就労支援（就職先を探すサポート、資格取得支援など）	-	18.3	19.0	24.5	22.9	22.7	15.4
自分の困りごとや悩みに気付いて声を掛けてくれる人や相談機関	-	17.4	15.2	18.2	18.9	19.5	18.5
相談や支援を受けている間の寄り添いや見守り	25.0	19.3	15.2	20.3	20.0	23.8	18.5
同じような悩みを抱えている人と出会える場所	75.0	14.7	14.3	21.0	16.6	18.9	27.7
DV加害者に対するカウンセリングや更正を促すプログラムの実施	-	11.9	11.4	16.8	15.4	17.8	15.4
その他	-	-	-	-	0.6	-	-
特になし	-	21.1	21.9	17.5	13.7	16.8	10.8

※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	2	67	145	174	154	133	148
気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS相談を含む）	50.0	38.8	39.3	38.5	44.2	52.6	46.6
自分の困りごとを気兼ねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人	-	26.9	20.7	24.1	31.8	43.6	41.2
生活のための経済的支援	-	23.9	25.5	25.9	29.9	30.8	33.8
弁護士等による法的支援	50.0	20.9	21.4	31.6	30.5	33.8	34.5
利用可能な支援制度の情報提供	-	35.8	22.1	23.6	26.6	34.6	36.5
カウンセリング等の心理学的支援	-	16.4	17.9	22.4	24.0	28.6	25.7
就労支援（就職先を探すサポート、資格取得支援など）	50.0	17.9	13.1	14.9	16.9	22.6	20.3
自分の困りごとや悩みに気付いて声を掛けてくれる人や相談機関	-	19.4	12.4	17.2	17.5	21.8	22.3
相談や支援を受けている間の寄り添いや見守り	-	19.4	15.2	12.1	16.2	15.8	16.9
同じような悩みを抱えている人と出会える場所	-	25.4	15.2	12.1	18.2	17.3	12.2
DV加害者に対するカウンセリングや更正を促すプログラムの実施	-	11.9	9.0	10.9	13.0	12.0	20.3
その他	-	-	-	1.7	1.3	-	-
特になし	-	32.8	31.7	31.0	24.7	23.3	23.6

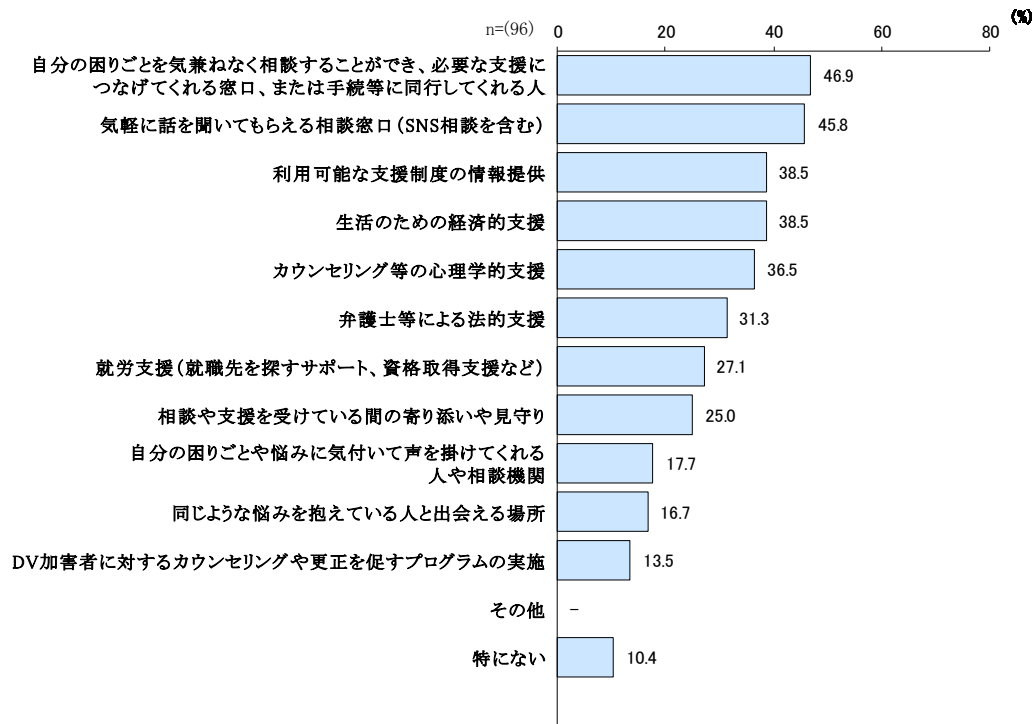
※濃青色表示は各属性で最も値が高い項目、淡青色表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

◇ DV被害者・支援対象者（性別）

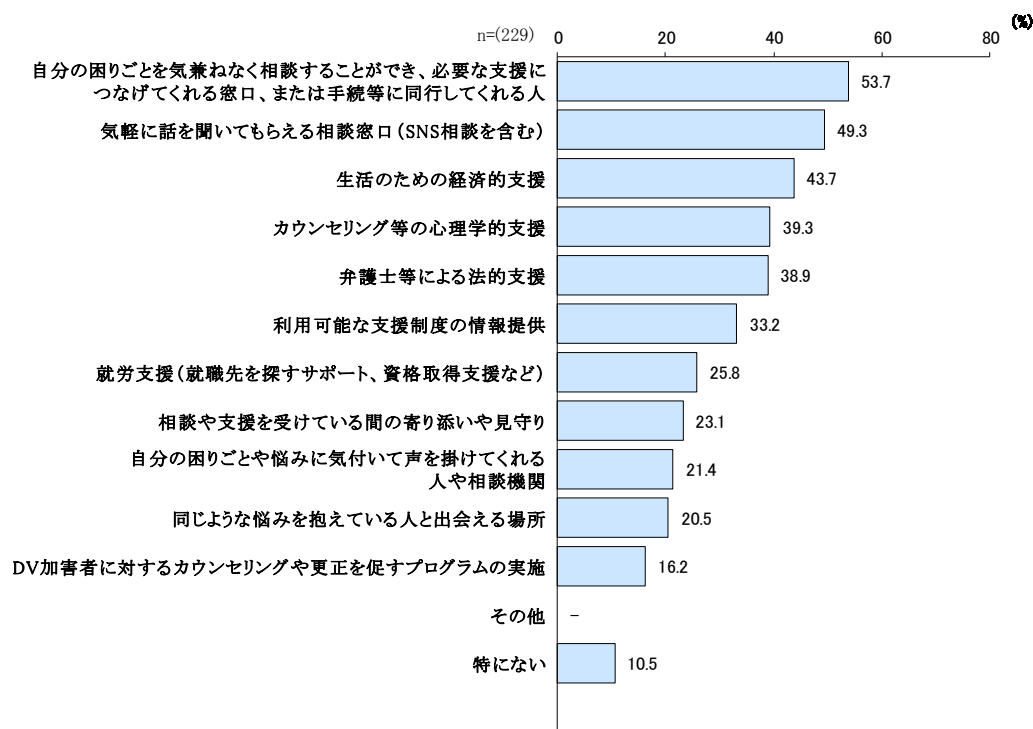
- 女性「必要な支援につなげてくれる窓口、手続等に同行してくれる人」が高い
- 男性「相談窓口」が高い

女性のDV被害者と女性の支援対象者は「自分の困りごとを気兼ねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人」、男性のDV被害者と男性の支援対象者は「気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS相談を含む）」がそれぞれ高くなっている。

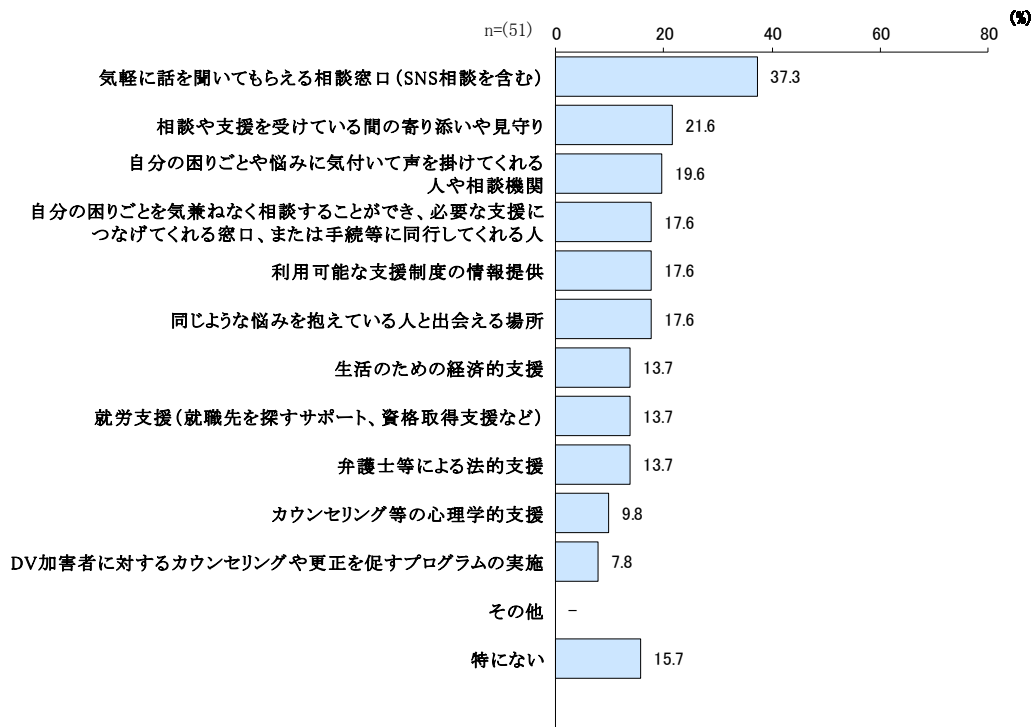
【女性のDV被害者】



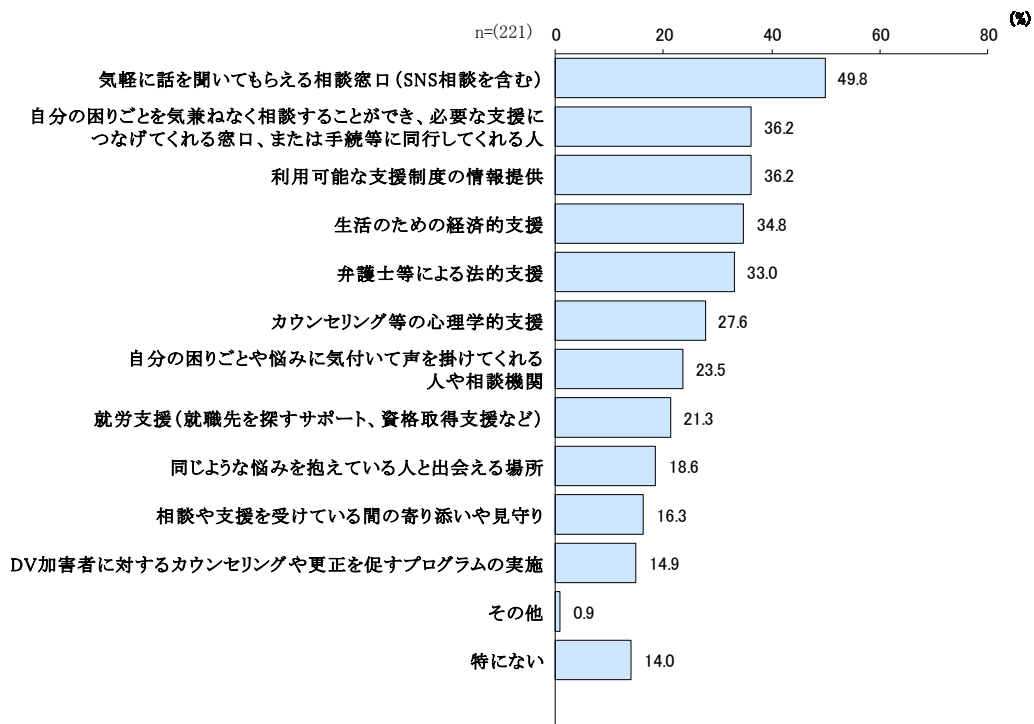
【女性の支援対象者】



【男性のDV被害者】



【男性の支援対象者】



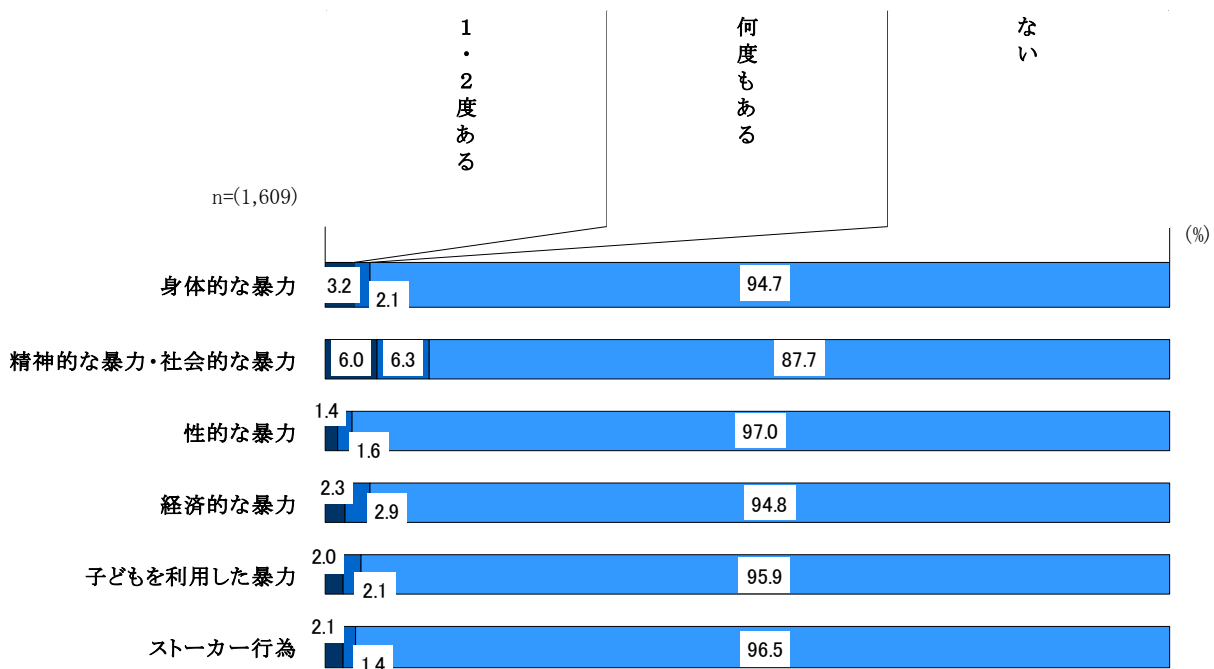
(7) DV被害経験

※DVの項目は、回答への同意をいただいた方のみ

問40-1 あなたは、この5年間に、次のようなことを配偶者や恋人等のパートナーからされたことがありますか。(それぞれ1つに○)

●「精神的・社会的な暴力」は《ある(計)》が約1割で最も高い

『精神的な暴力・社会的な暴力』は、「1・2度ある」(6.0%)が比較的高くなっている。《ある(計)》(「1・2度ある」と「何度もある」の合計値)を見ると、『精神的な暴力・社会的な暴力』(12.3%)が最も高く、上記項目以外は1割未満となっている。



◇何らかの被害経験「あり」

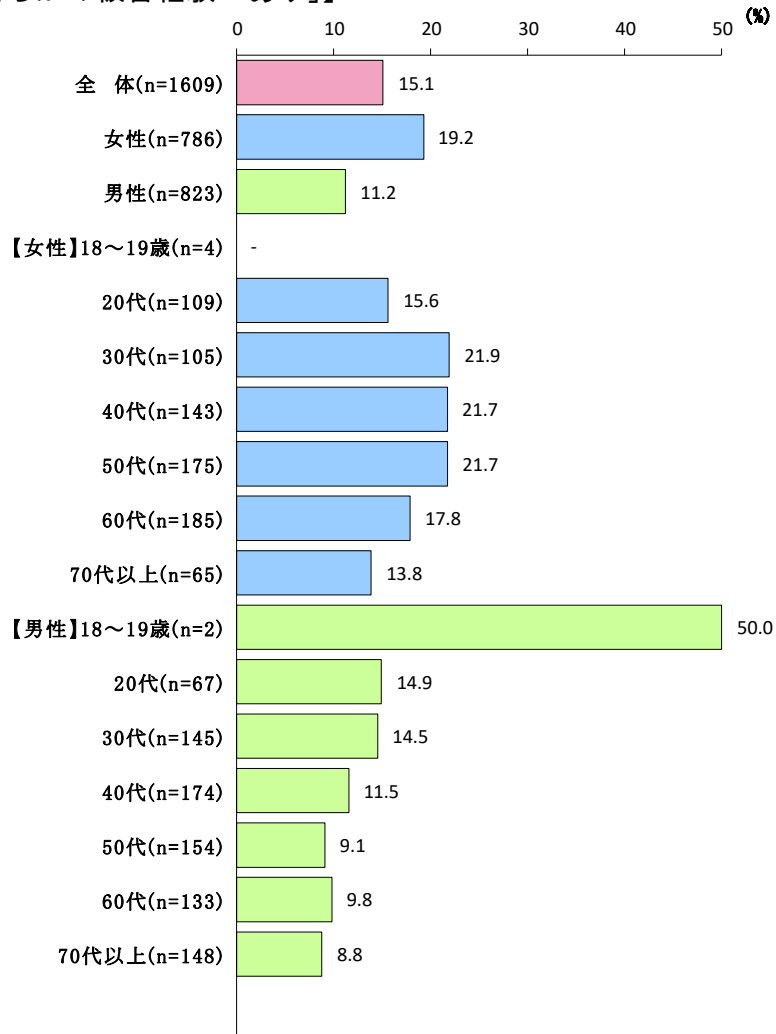
●被害経験は女性約2割、男性1割以上

●女性は30代、男性は20代での被害経験が最も多い

何らかの被害経験がある人は、女性(19.2%)が約2割、男性(11.2%)が1割以上となっており、女性が男性より8.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性は30代・40代・50代で2割以上となっており、30代(21.9%)が最も高くなっている。男性は20代・30代・40代が1割以上となっており、20代(14.9%)が最も高くなっている。すべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は50代(女性21.7%、男性9.1%)で最も大きく、女性が12.6ポイント高くなっている。

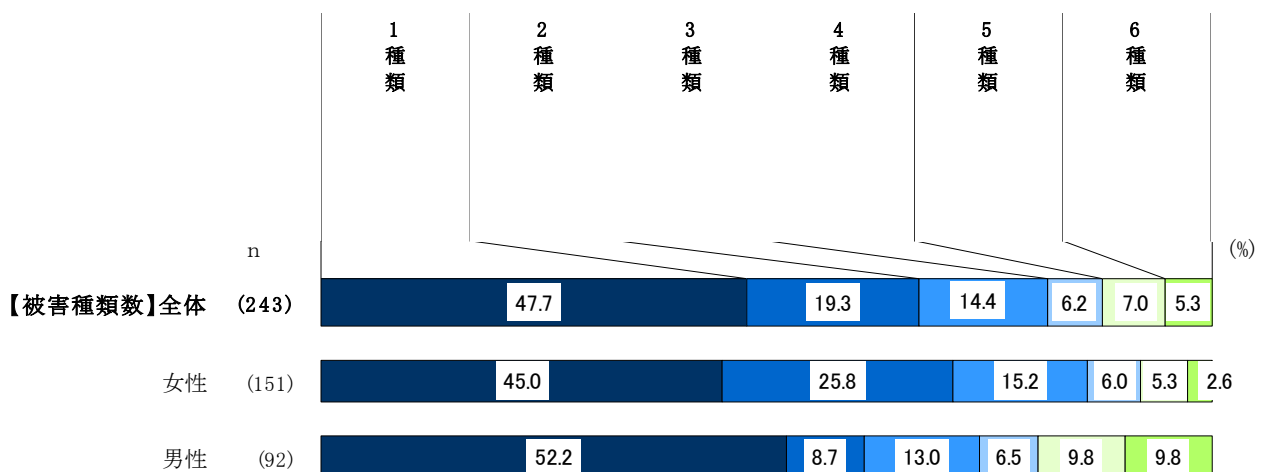
【問 40-1 何らかの被害経験「あり」】



◇被害の種類

●全体、男女ともに「1種類」が最も高い

加害の内容の種類数を見ると、「1種類」（全体47.7%、女性45.0%、男性52.2%）が最も高く、次いで全体、女性は「2種類」（全体19.3%、女性25.8%）、男性は「3種類」（13.0%）となっている。

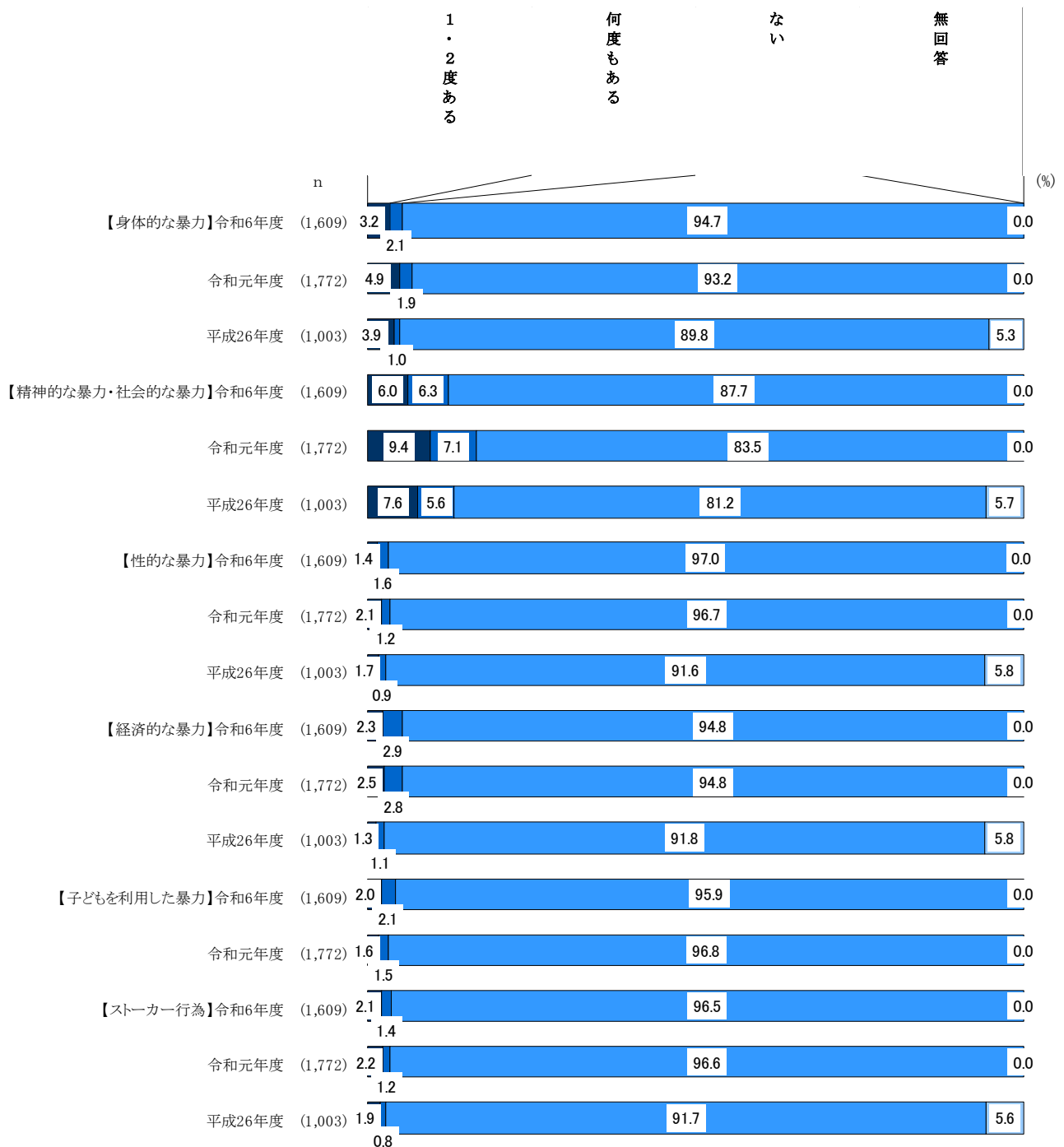


◇経年変化

●「精神的な暴力・社会的な暴力」が前回より低い

経年変化を項目で見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）はほとんどの項目で前回と同程度だが、『精神的な暴力・社会的な暴力』は令和元年度（16.5%）より4.2ポイント低くなっている。

【問 40－1 経年変化】



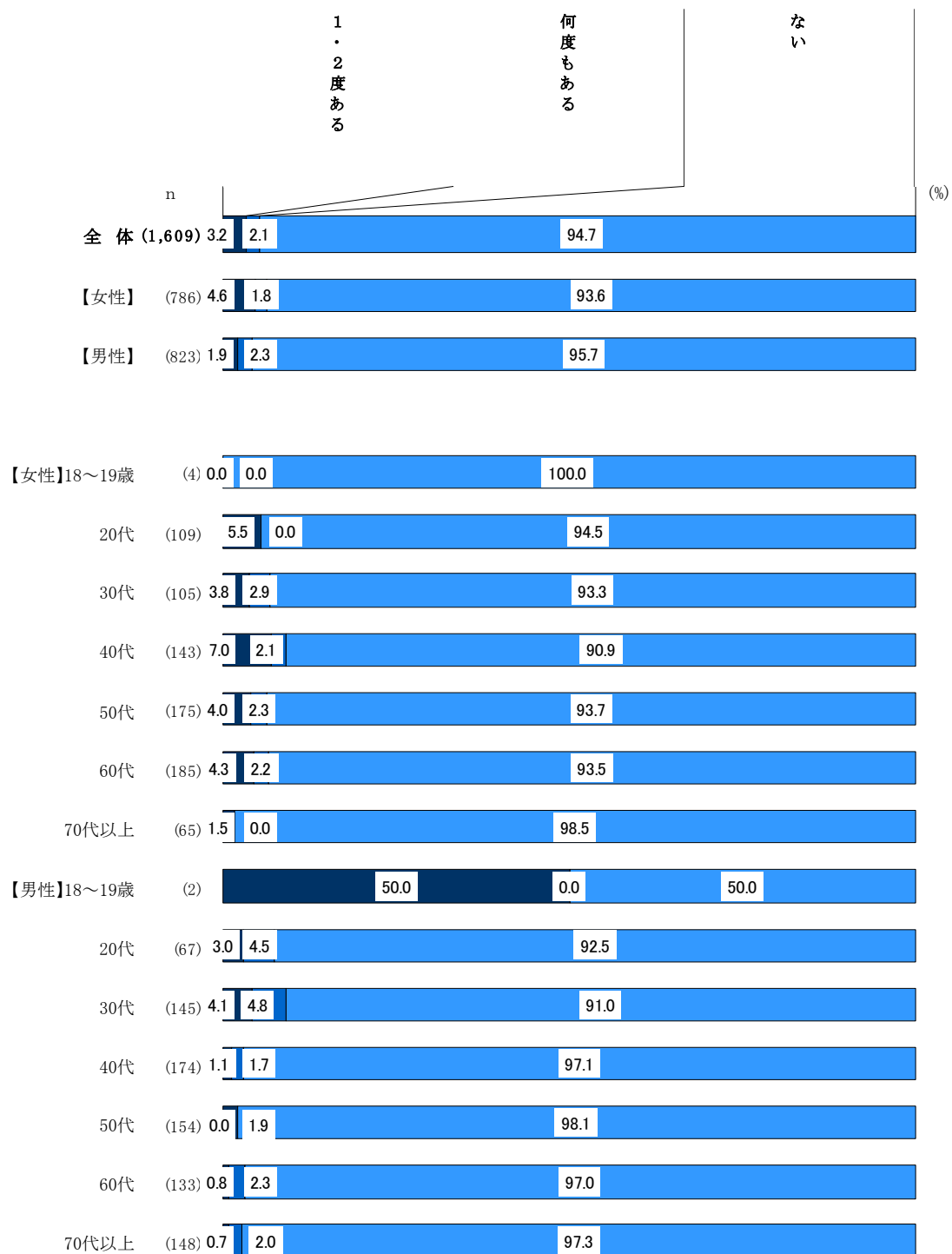
問40—1 ①身体的な暴力の被害経験

●《ある（計）》は女性40代、男性30代で最も高い

被害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（6.4%）、男性（4.2%）ともに1割未満で、女性が男性より2.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、被害経験が《ある（計）》は、女性は40代（9.1%）が最も高く、男性は30代（8.9%）で最も高くなっている。

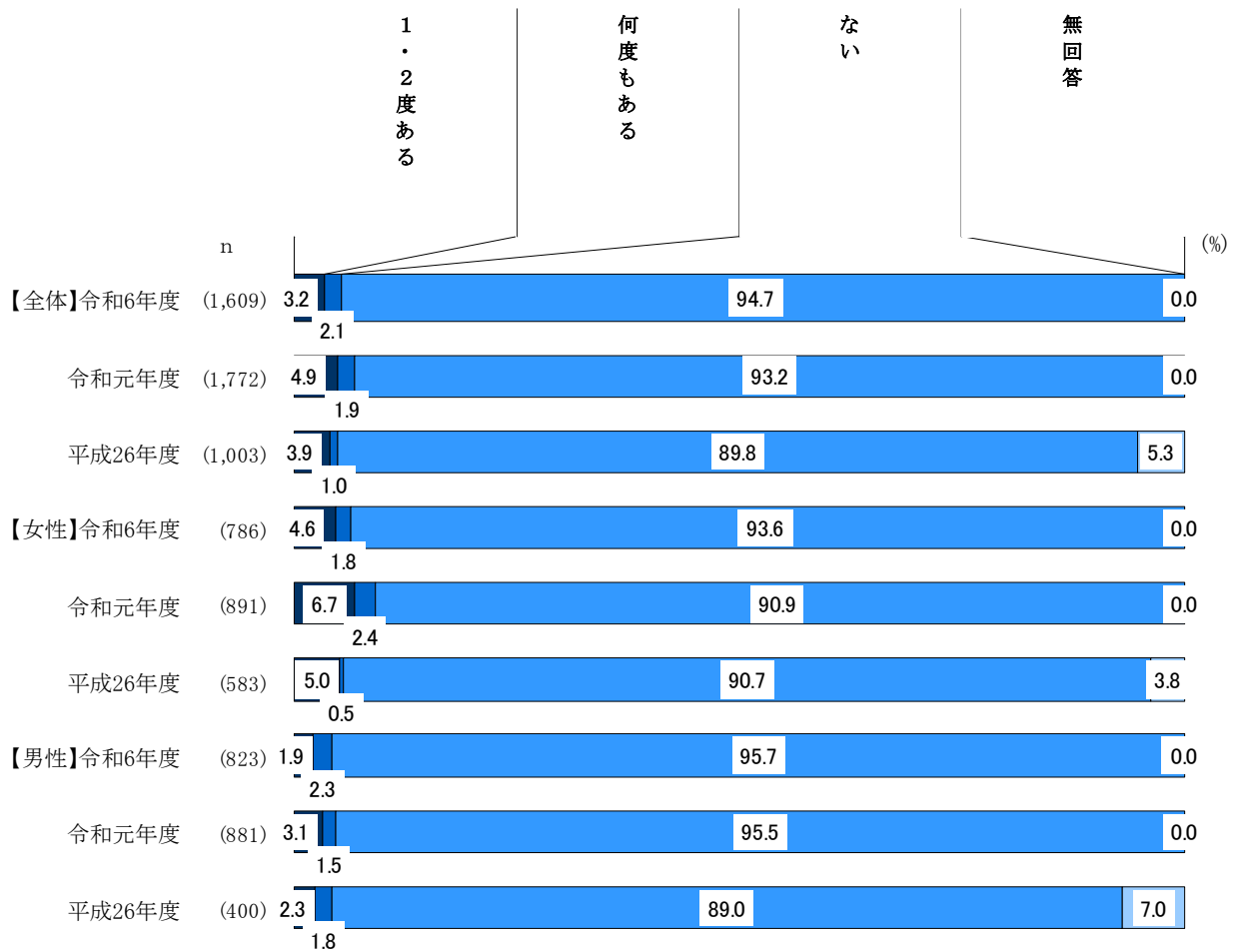
【問40—1 ①身体的な暴力の被害経験】



◇経年変化

●全体で被害経験は前回よりわずかに低下

身体的な暴力の被害経験の経年変化を性別で見ると、被害経験があるとの回答が全体、男女ともに令和元年度と比較し、わずかに低くなっている。

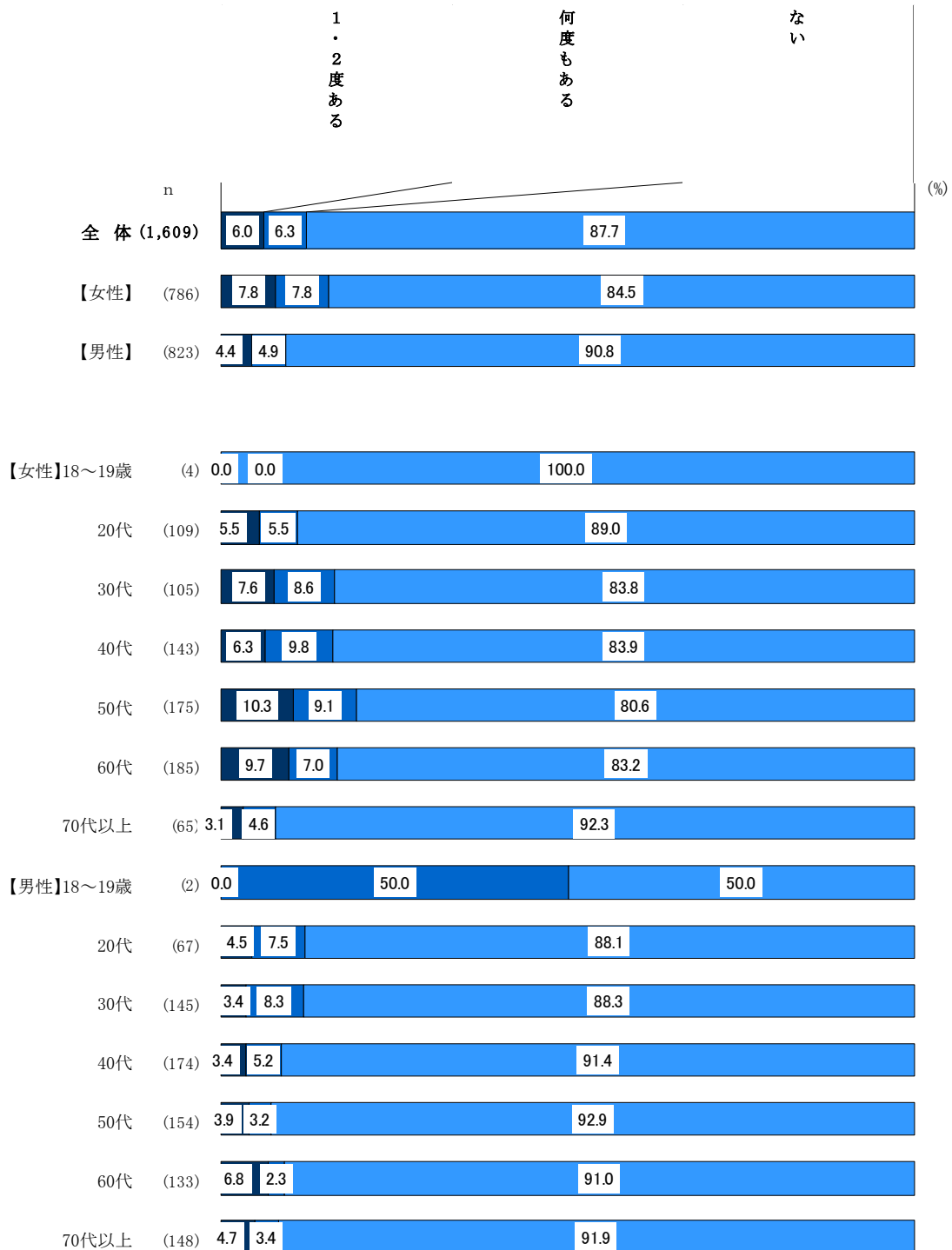


問40-1 ②精神的な暴力・社会的な暴力の被害経験

●被害経験は女性が約2割、男性が約1割

被害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（15.6％）が約2割、男性（9.3％）が約1割で、女性が男性より6.3ポイント高くなっている。

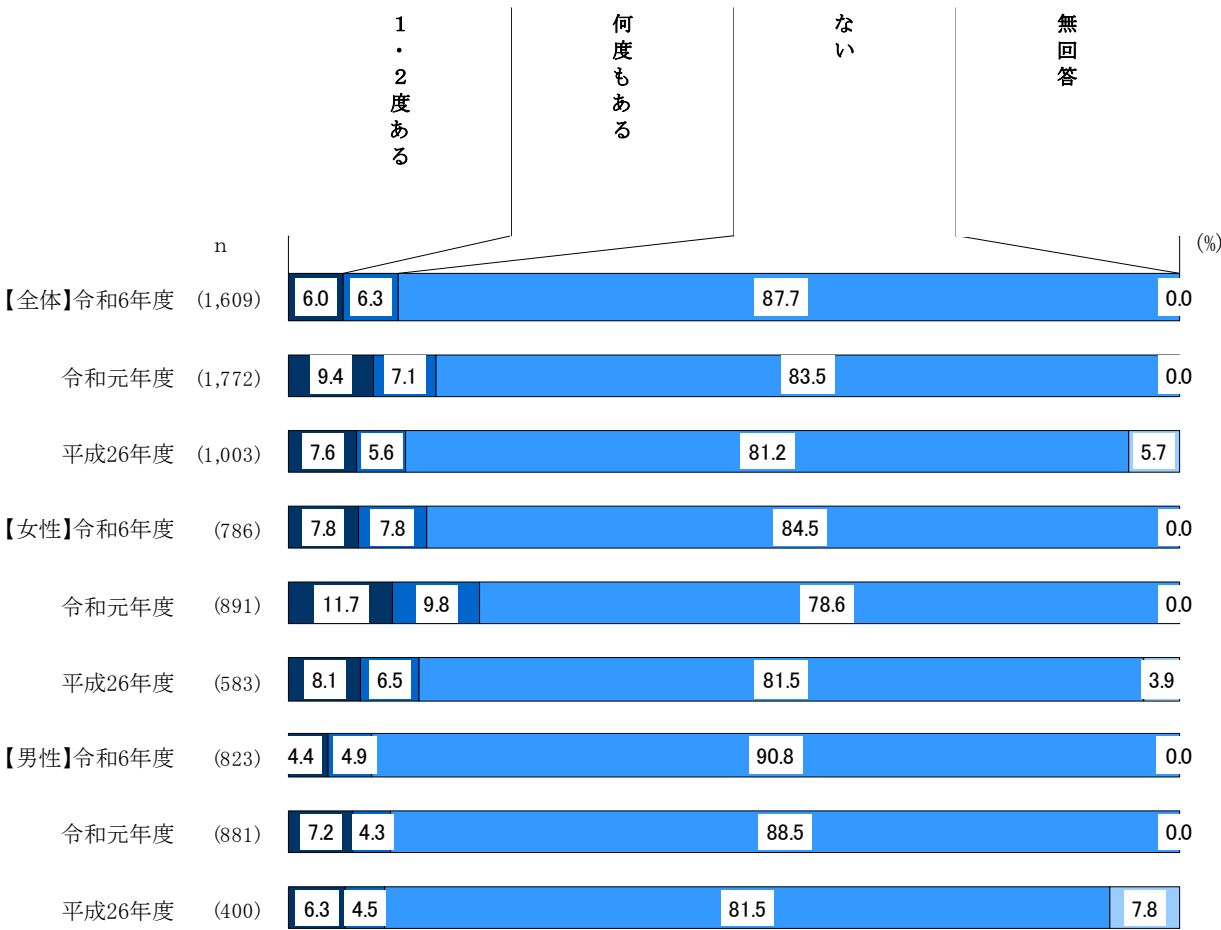
【問40-1 ②精神的な暴力・社会的な暴力の被害経験】



◇経年変化

●男女ともに被害経験が前回より低い

精神的な暴力・社会的な暴力の被害経験の経年変化を性別で見ると、被害経験があるとの回答が、全体、男女ともに令和元年度と比較し、低くなっている。



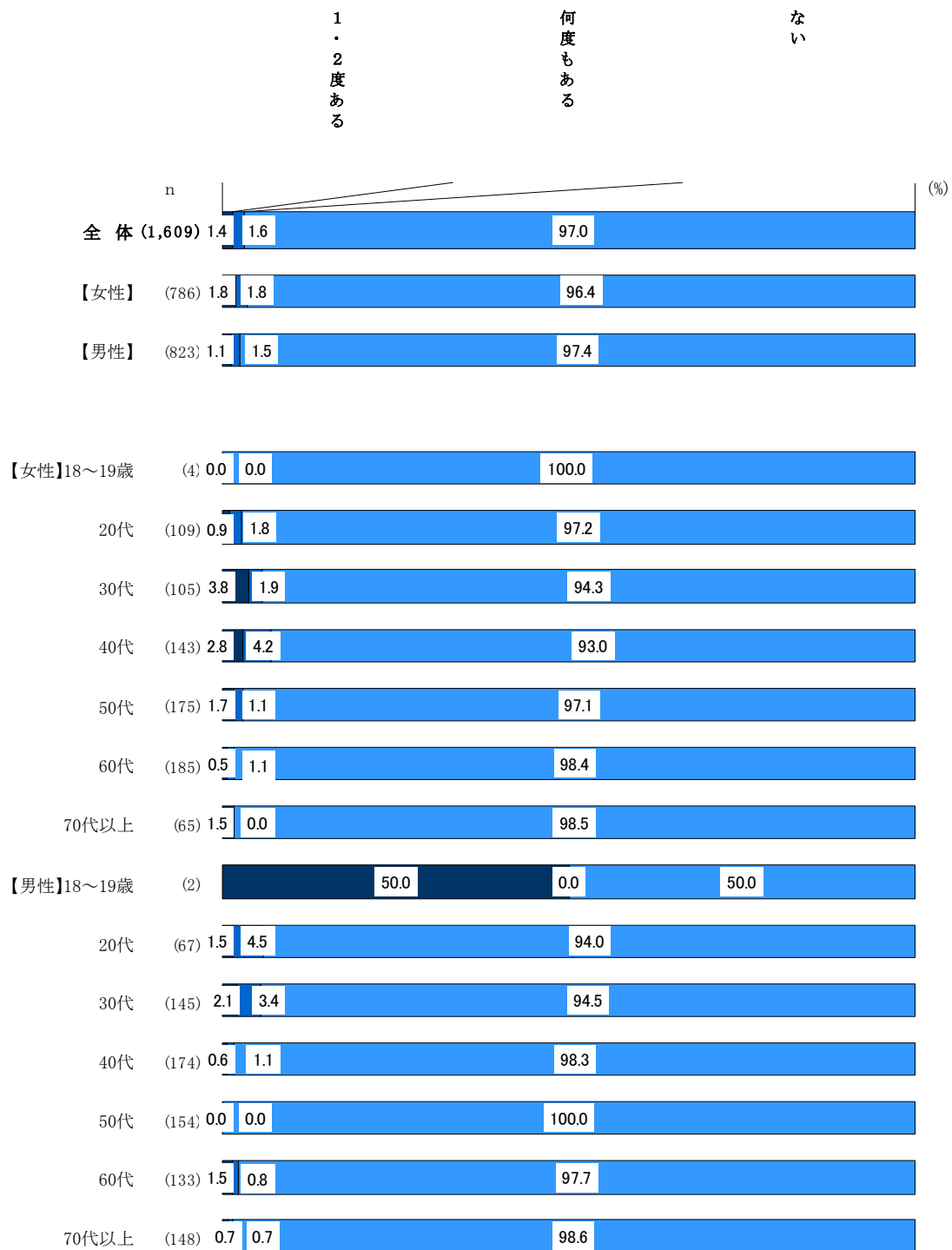
問40－1 ③性的な暴力の被害経験

●被害経験は男女ともに1割未満

被害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（3.6%）、男性（2.6%）と男女ともに1割未満で、同程度となっている。

性・年代別で見ると、被害経験が《ある（計）》は、20代・60代を除くすべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は40代（女性7.0%、男性1.7%）で最も大きく、女性が5.3ポイント高くなっている。

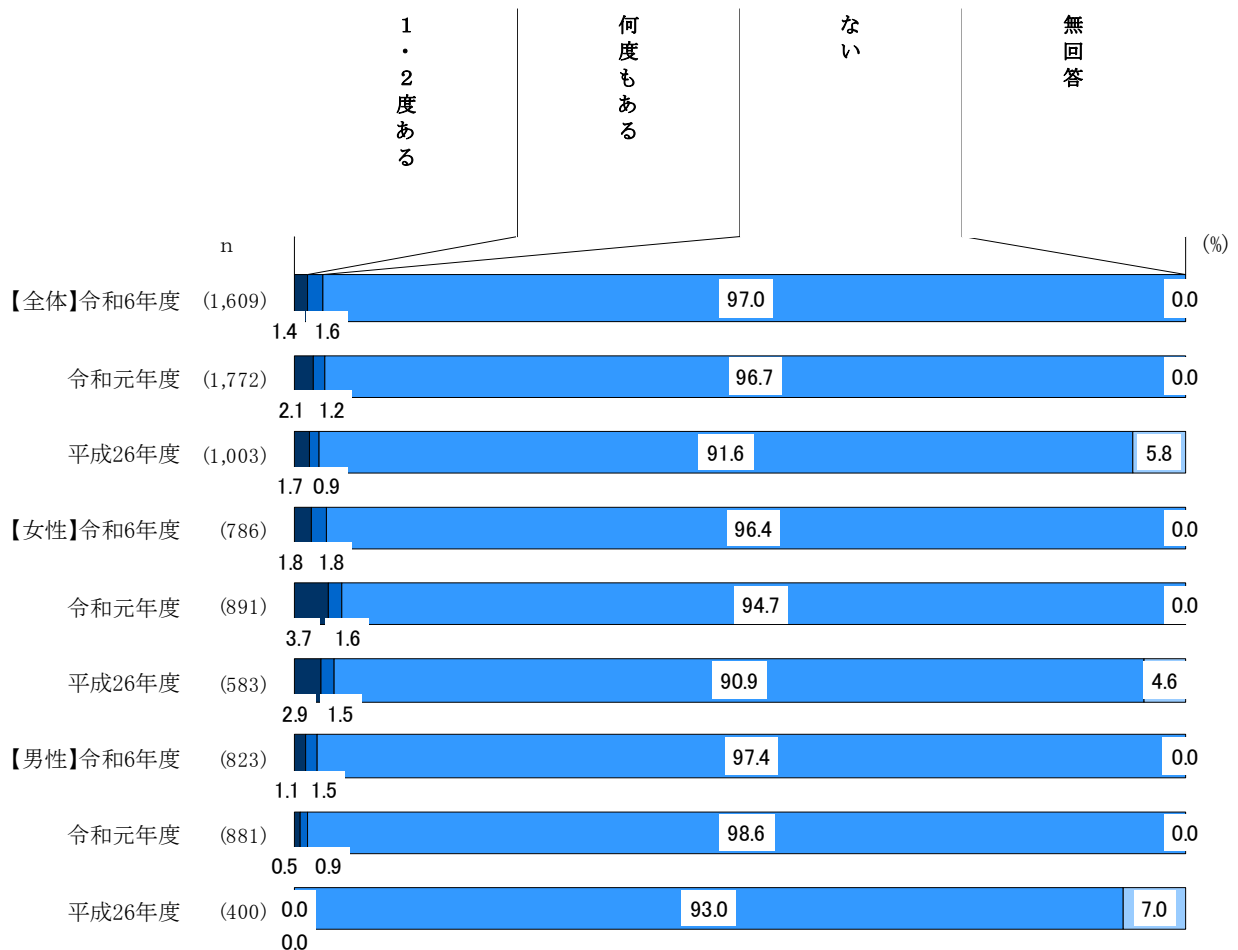
【問40－1 ③性的な暴力の被害経験】



◇経年変化

●男性の被害経験が前回よりも高い

性的な暴力の被害経験の経年変化を性別で見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、全体、女性では前回よりわずかに低くなっているが、男性は令和元年度（1.4%）より1.2ポイント高くなっている。



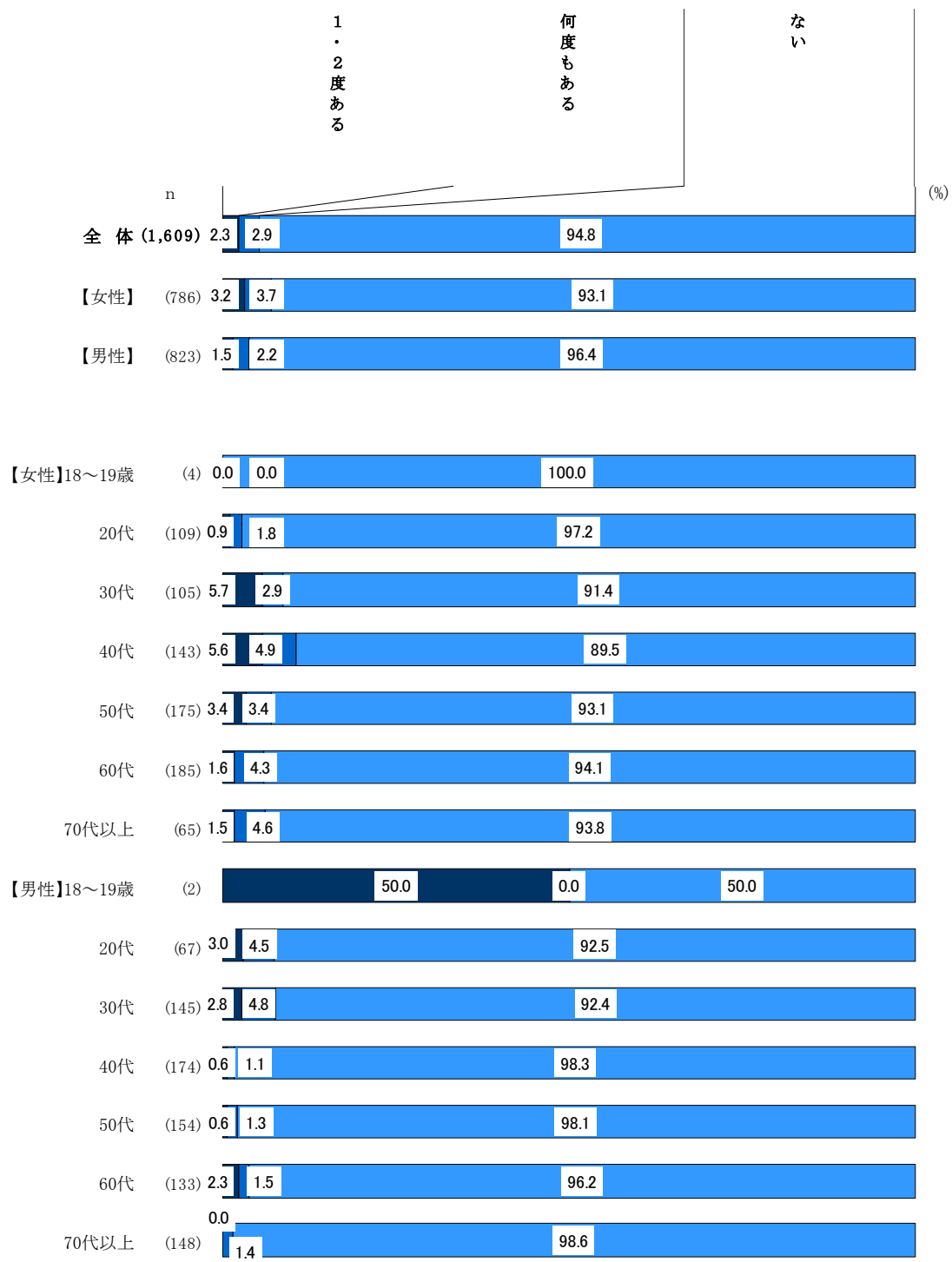
問40— 1 ④経済的な暴力の被害経験

●女性40代で被害経験は1割以上で最も高い

被害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（6.9%）、男性（3.7%）と男女ともに1割未満で、女性が男性より3.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、被害経験が《ある（計）》は、女性40代（10.5%）では1割以上と最も高くなっている。

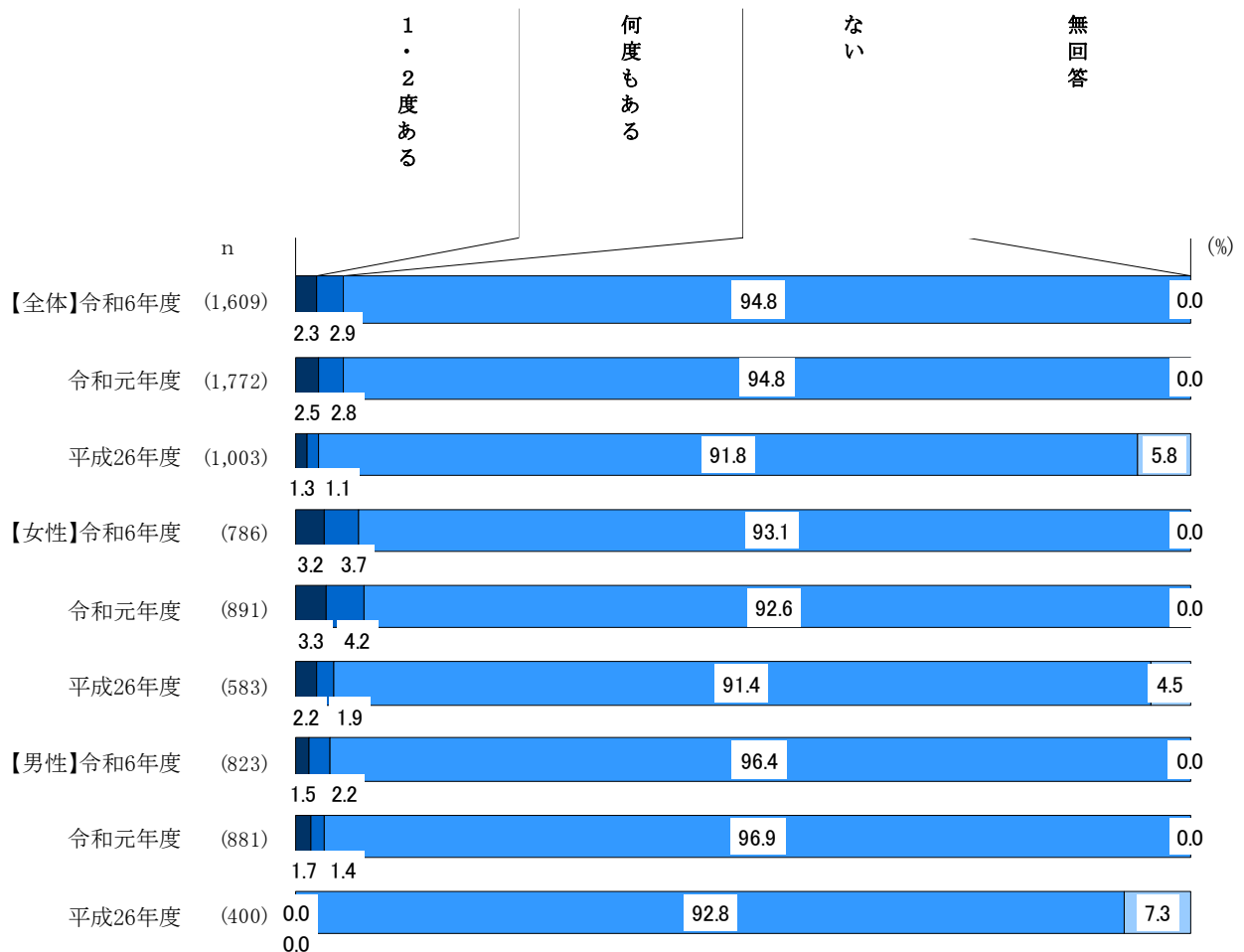
【問40—1 ④経済的な暴力の被害経験】



◇経年変化

●前回と同程度

経済的な暴力の被害経験の経年変化を性別で見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性で令和元年度（7.5%）より0.6ポイントとわずかに低くなっている。一方で、男性は令和元年度（3.1%）より0.6ポイント高くなっている。



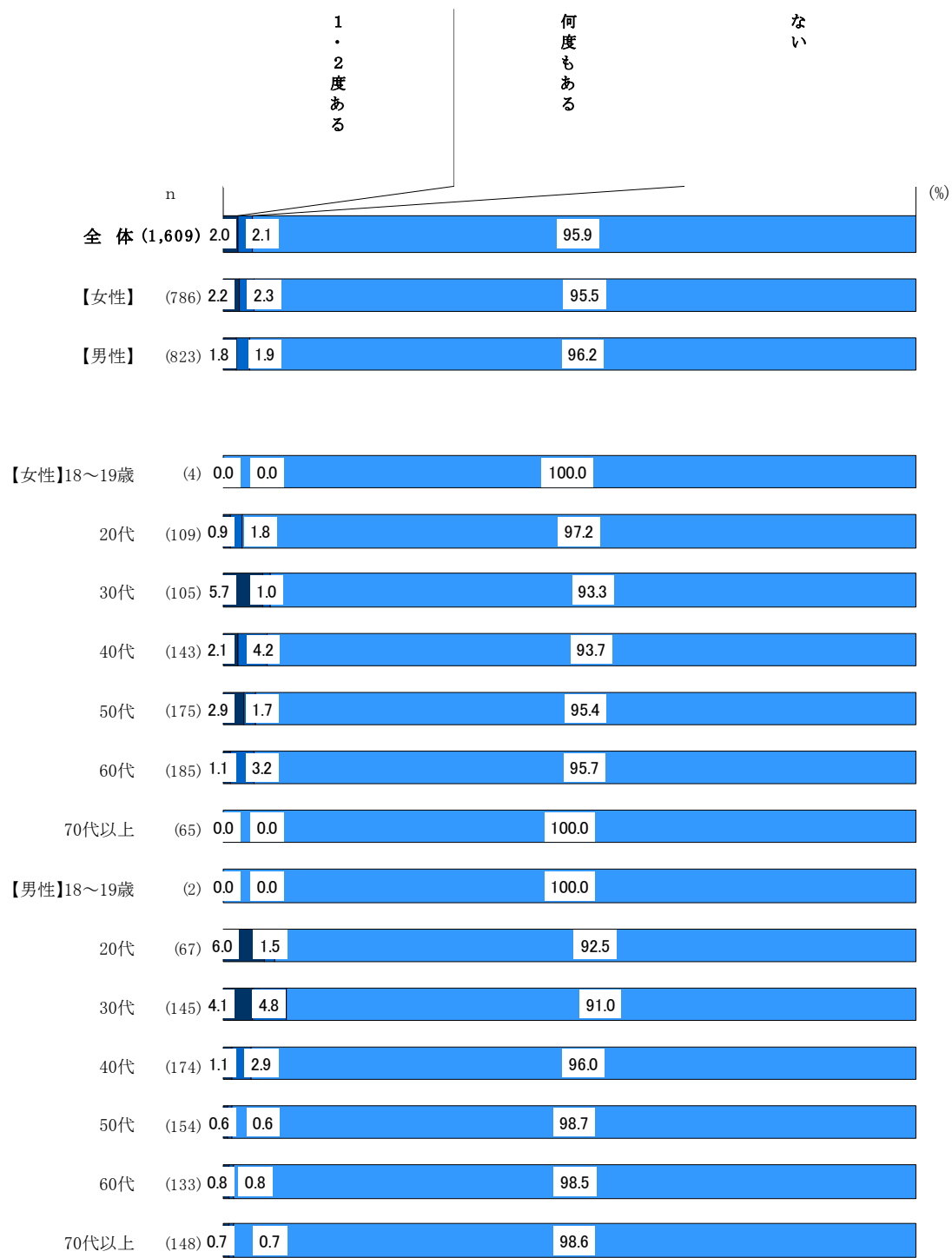
問40— 1 ⑤子どもを利用した暴力の被害経験

●被害経験は男女ともに1割未満

●《ある（計）》は20代で男女差が最も大きい

被害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（4.5%）、男性（3.7%）と男女ともに1割未満で、女性が男性より0.8ポイント高くなっている。性・年代別で見ると、被害経験が《ある（計）》は、男性30代（8.9%）で最も高くなっている。

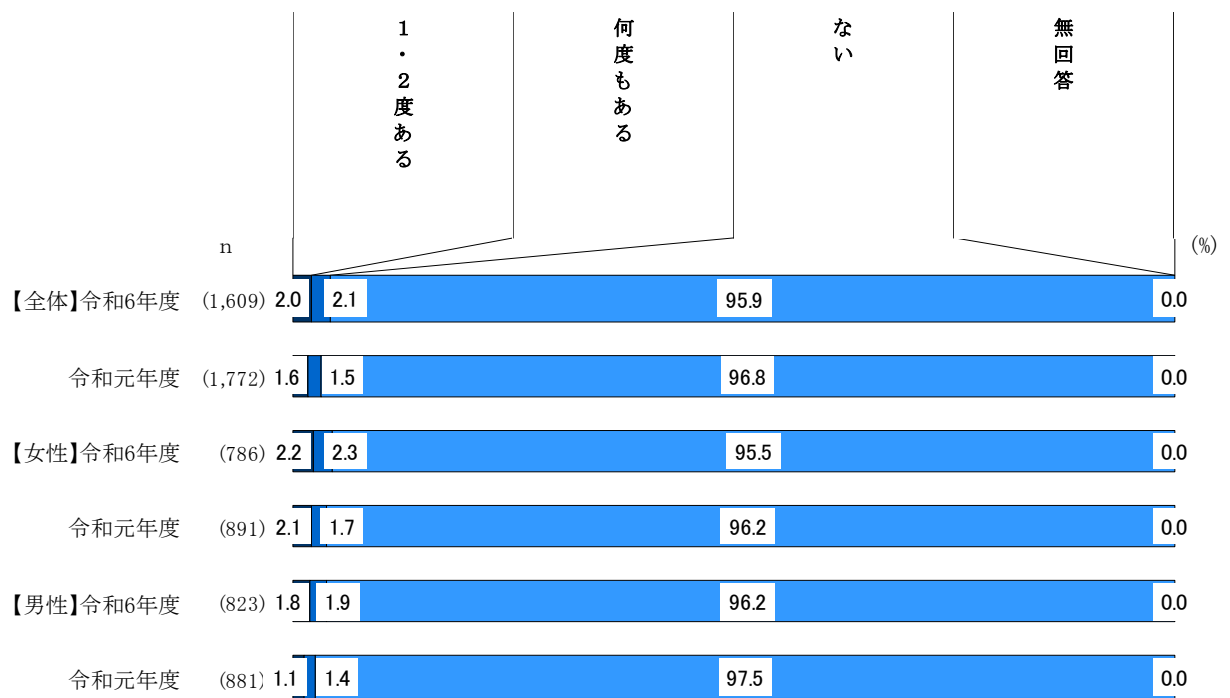
【問40—1 ⑤子どもを利用した暴力の被害経験】



◇経年変化

●前回と同程度

被害経験の経年変化を見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、前回と同程度となっているが、依然として被害経験があるとの回答があった。



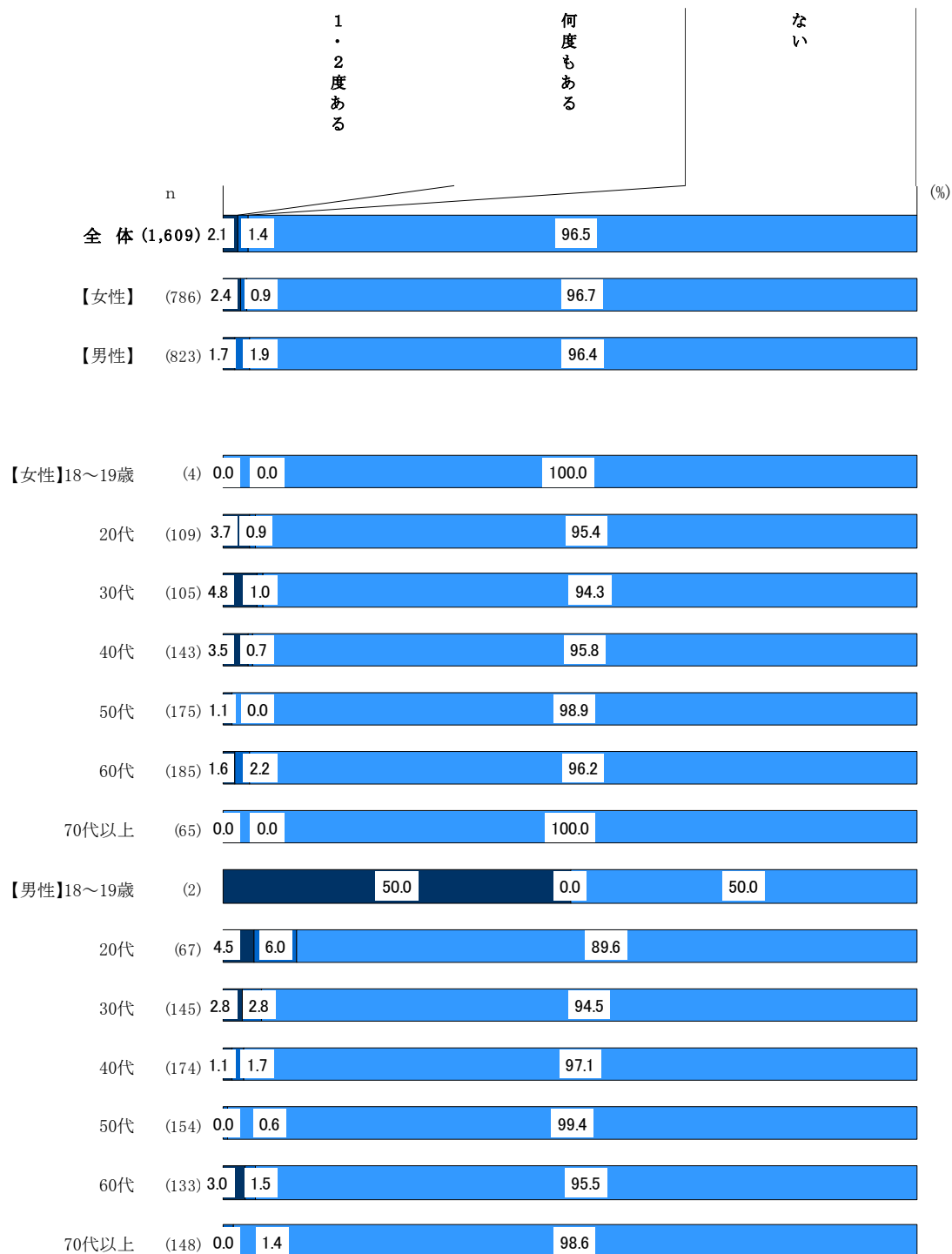
問40— 1 ⑥ストーカー行為の被害経験

●被害経験は男女で同程度

●《ある（計）》は20代で男女差が最も大きい

被害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（3.3%）、男性（3.6%）と男女ともに1割未満で、女性と男性で同程度となっている。

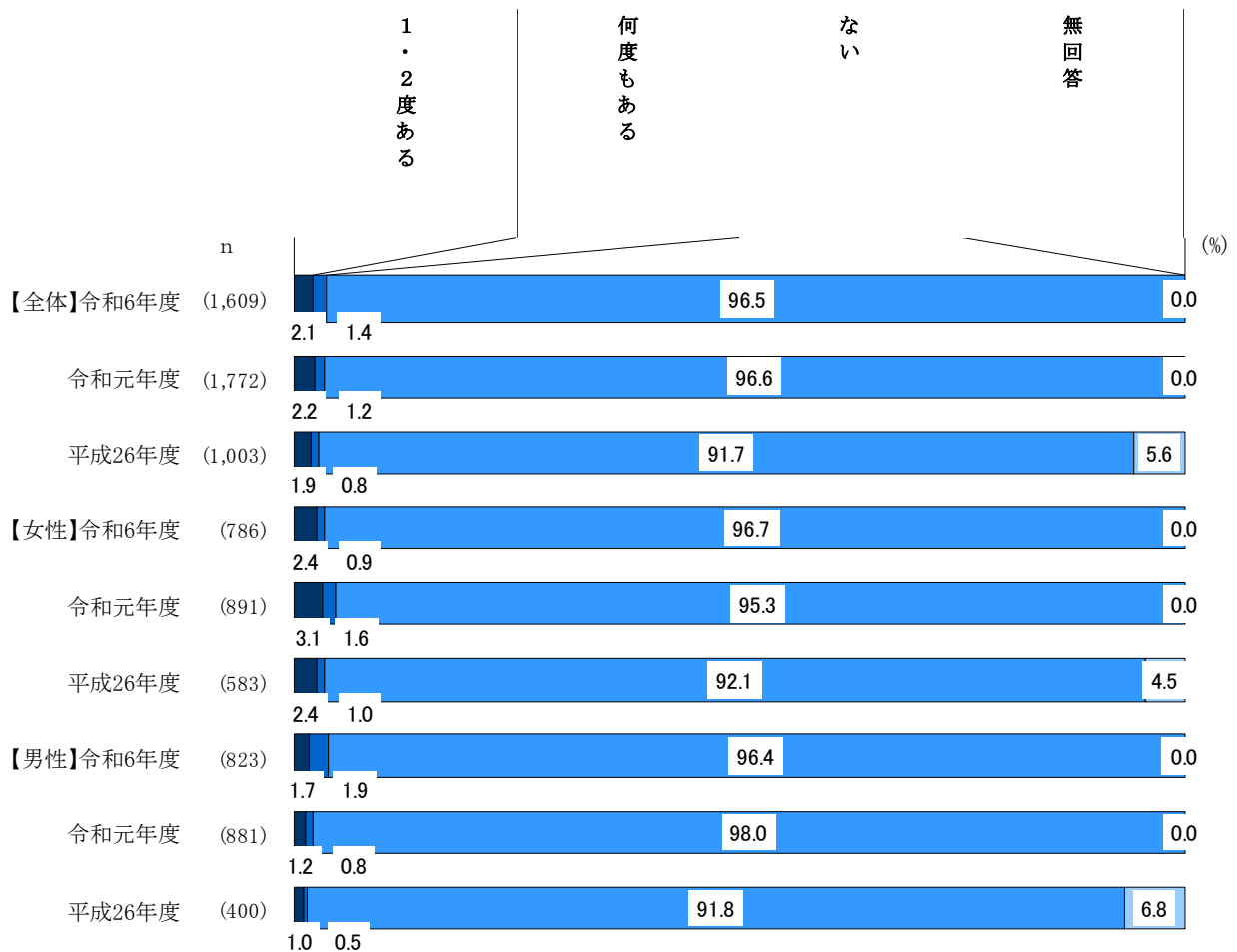
性・年代別で見ると、被害経験が《ある（計）》の男女差は20代（女性4.6%、男性10.5%）で最も大きく、男性が女性より5.9ポイント高くなっている。



◇経年変化

●前回と同程度

ストーカー行為の被害経験の経年変化を性別で見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、前回と同程度であるが、男性では平成26年度以降、令和元年度、令和6年度とわずかに増加している。



(8) DV加害経験

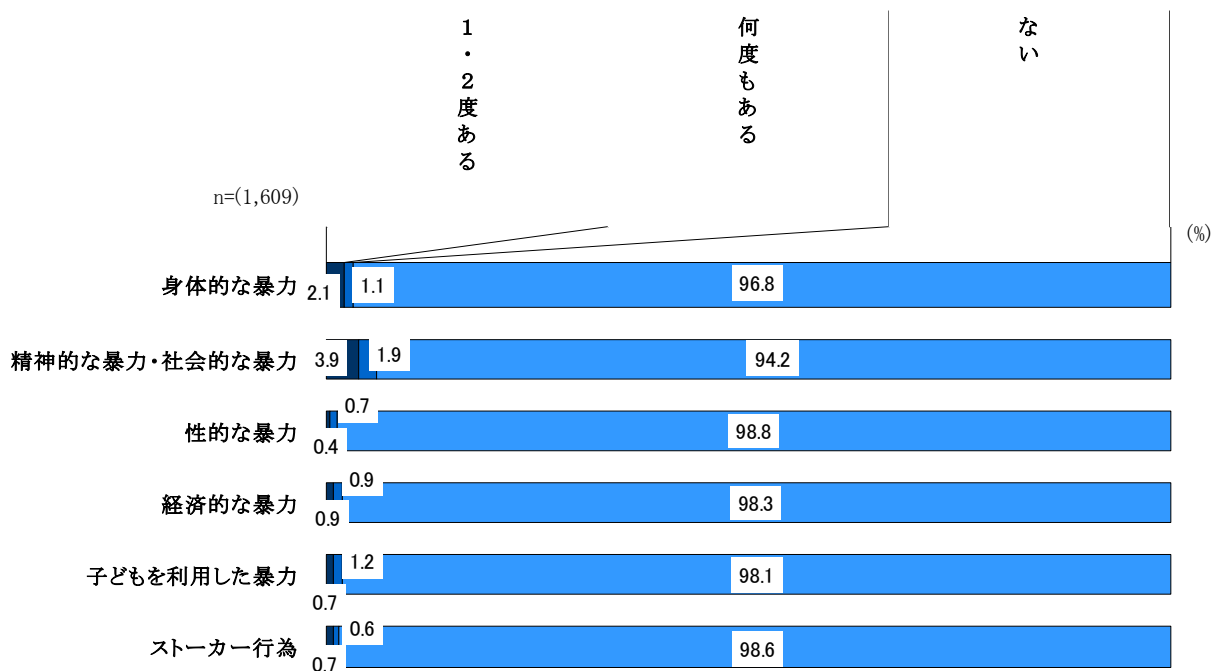
※DVの項目では、回答への同意をいただいた方のみ

問40-2 あなたは、この5年間に、次のようなことを配偶者や恋人等のパートナーにすることがありますか。(それぞれ1つに○)

- すべての項目で「ない」が9割以上
- 「精神的・社会的な暴力」で《ある(計)》が最も高い

すべての項目で「ない」が9割以上を占めている。その中で『精神的な暴力・社会的な暴力』は、「1・2度ある」(3.9%)が比較的高くなっている。《ある(計)》(「1・2度ある」と「何度もある」の合計値)を見ると、『精神的な暴力・社会的な暴力』(5.8%)が最も高く、『性的な暴力』(1.1%)が最も低くなっている。

【問 40-2】

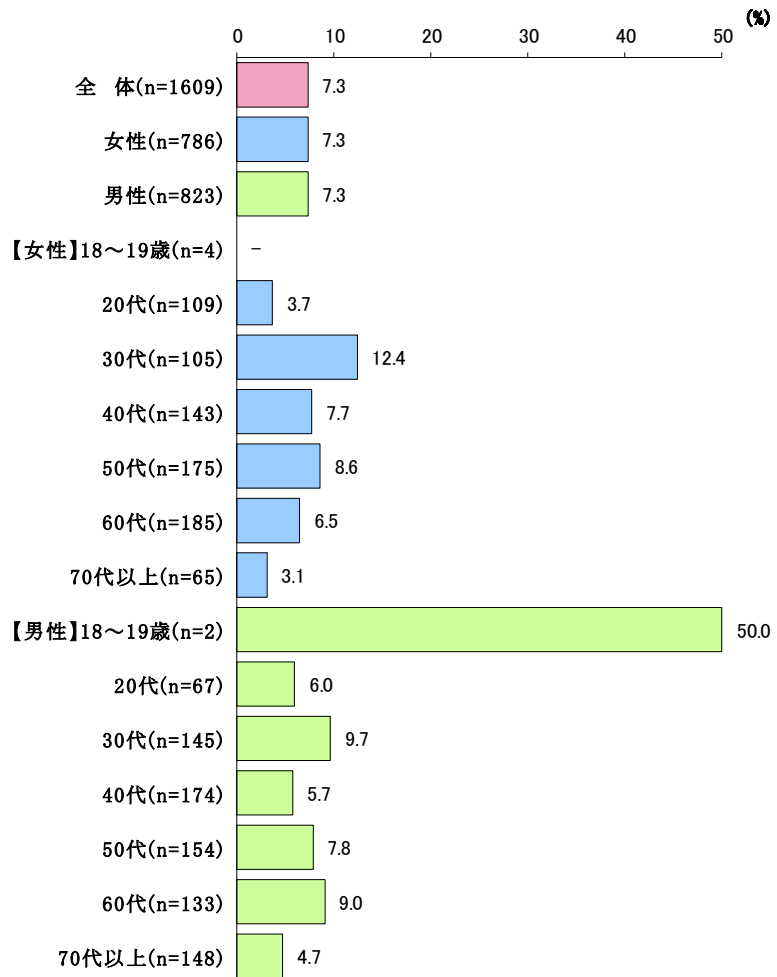


◇何らかの加害経験「あり」

- 加害経験は男女ともに1割未満
- 男女とも30代で最も高くなっている

何らかの加害経験がある人は、全体、男女ともに同値（7.3%）で1割未満となっている。

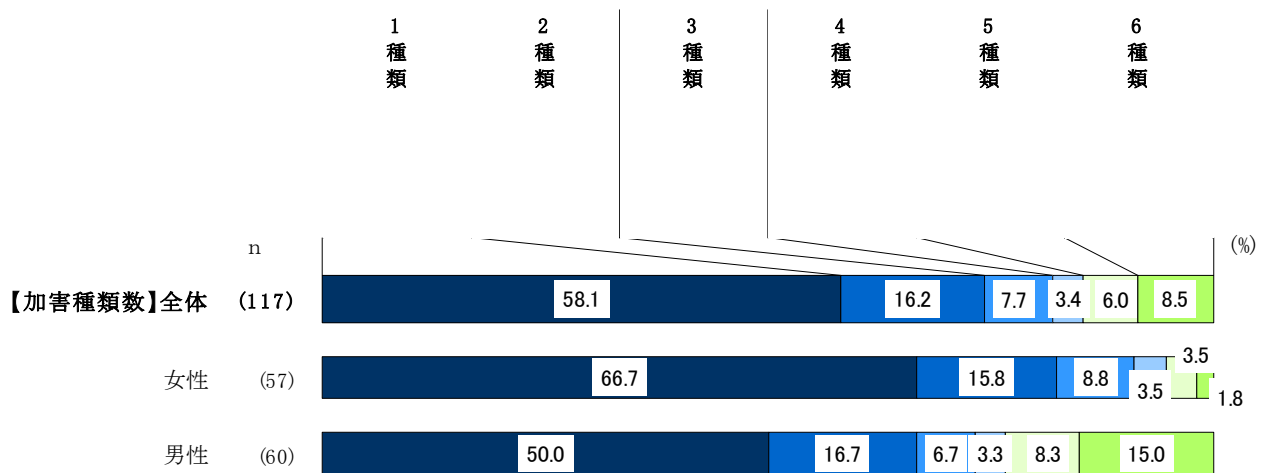
性・年代別で見ると、男女ともに30代（女性12.4%、男性9.7%）で最も高く、女性は1割以上となっている。



◇加害の種類

- 「1種類」が女性約7割、男性5割
- 「2種類」が男女ともに約2割

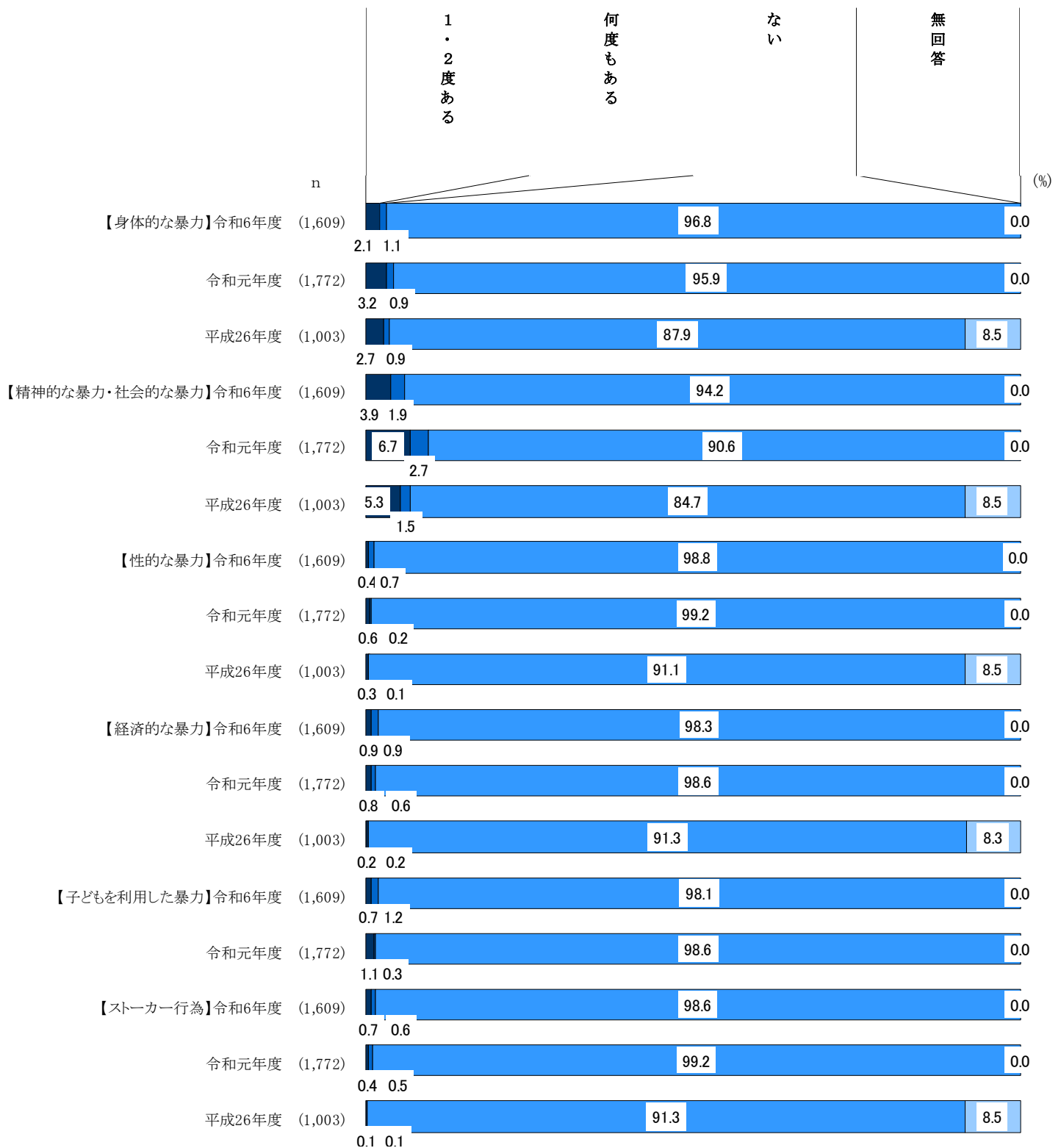
加害の内容の種類数を見ると、「1種類」（全体58.1%、女性66.7%、男性50.0%）が最も高く、次いで「2種類」（全体16.2%、女性15.8%、男性16.7%）となっている。



◇経年変化

●前回と同程度

加害経験の経年変化を見ると《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、前回と同程度となっているが、依然として加害経験があるとの回答があった。

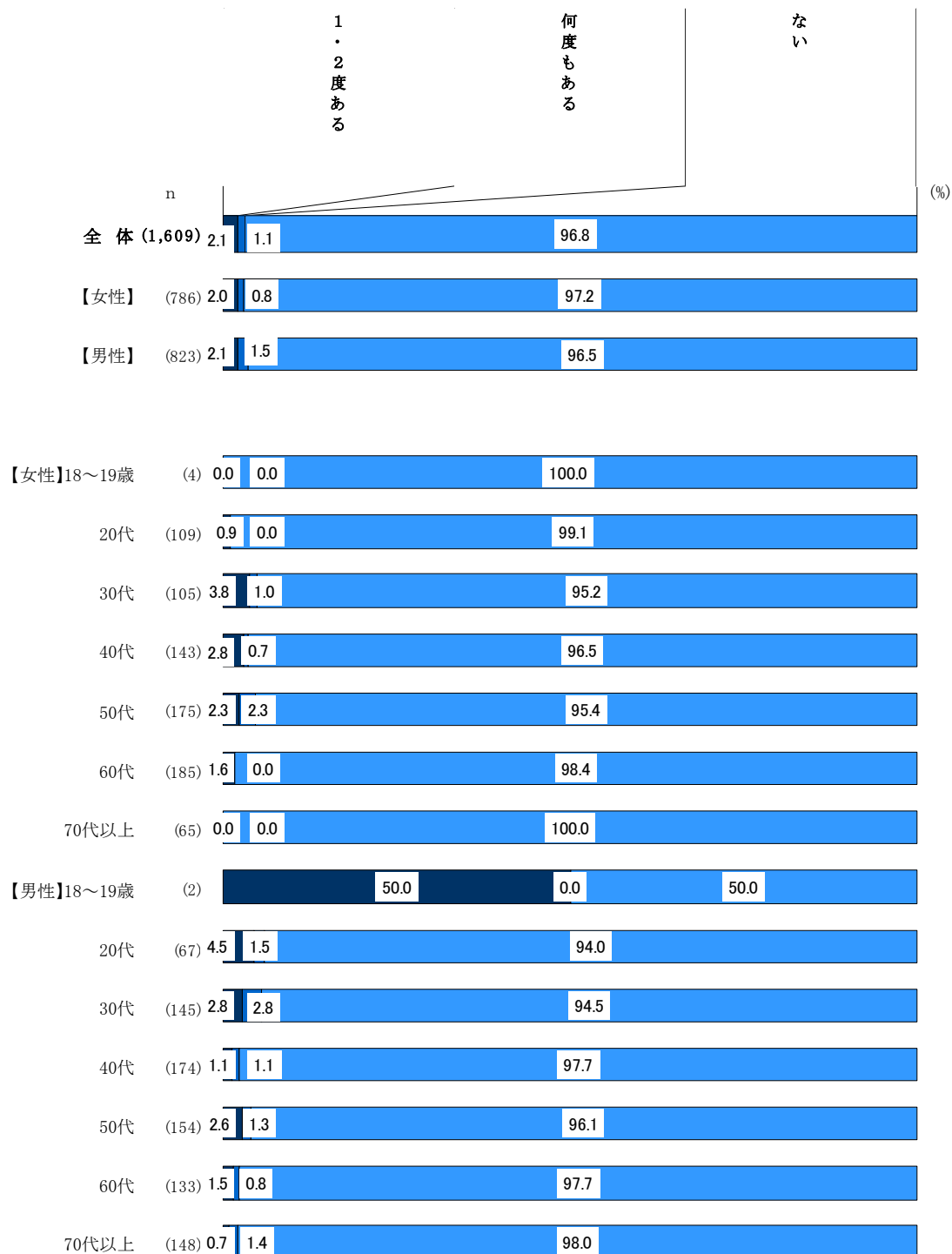


問40-2 ①身体的な暴力の加害経験

- 《ある（計）》は男女ともに1割未満
- 《ある（計）》は女性20代・60代を除きすべての年代で男性が女性より高い

加害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（2.8%）、男性（3.6%）で男女ともに1割未満で、同程度となっている。

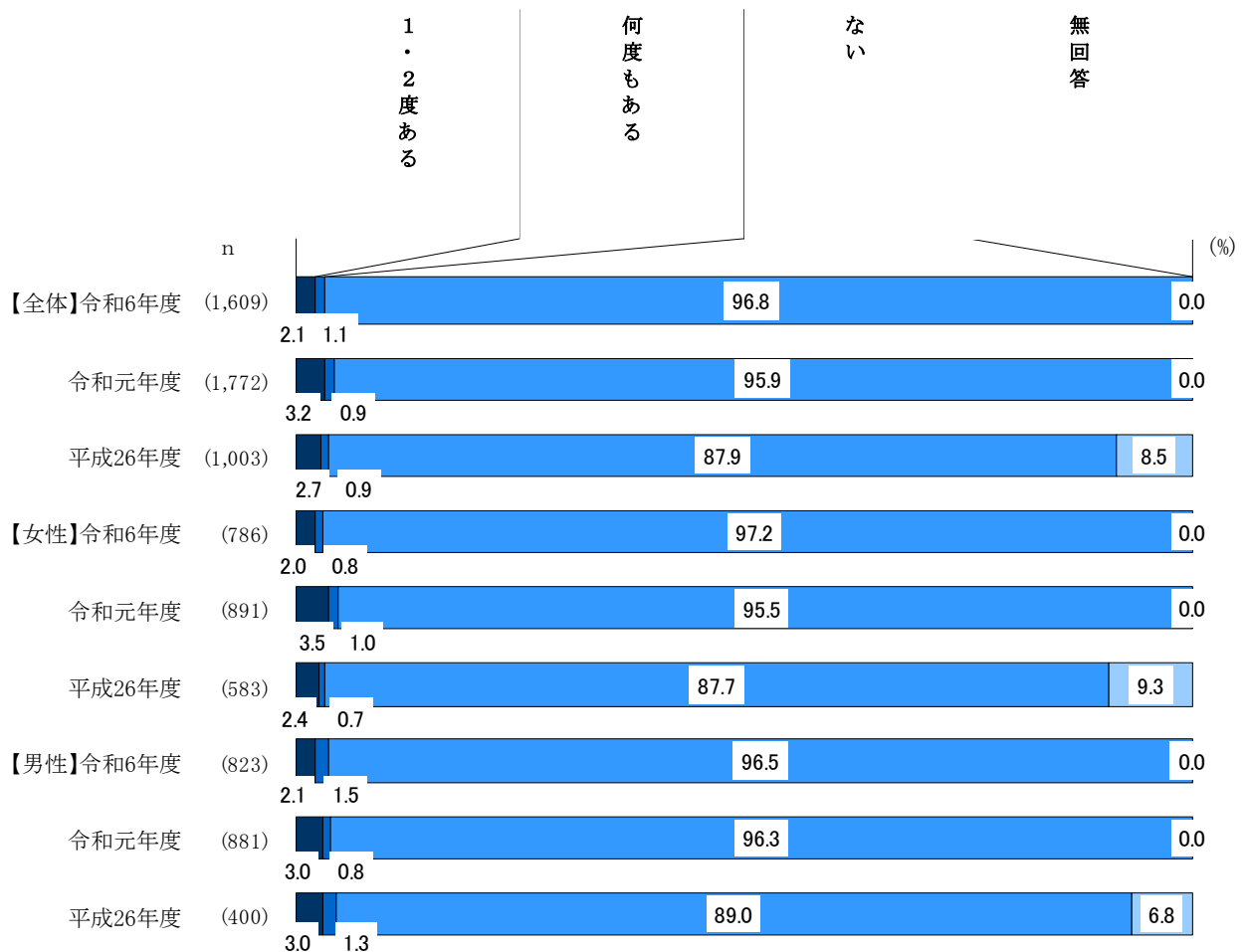
性・年代別で見ると、加害経験が《ある（計）》の男女差は20代（女性0.9%、男性6.0%）で最も大きく、男性が女性より5.1ポイント高くなっている。



◇経年変化

●全体で加害経験は前回と同程度

身体的な暴力の加害経験の経年変化を性別で見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、男女ともに前回と同程度となったが、依然として加害経験があるとの回答があった。



問40－2 ②精神的な暴力・社会的な暴力の加害経験

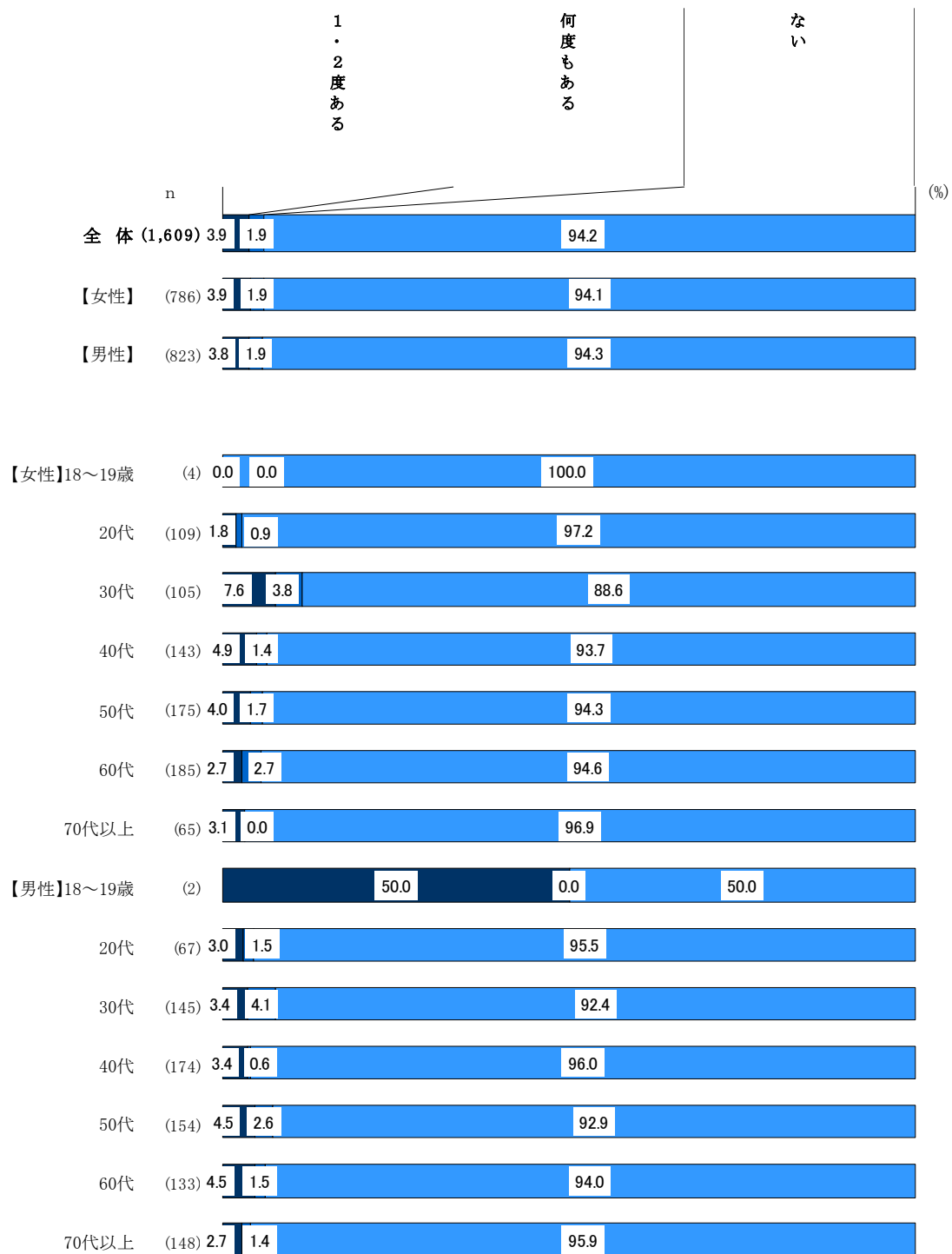
●男女で大きな差は見られない

●女性30代で1割以上と最も高い

加害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（5.8%）、男性（5.7%）で男女ともに1割未満で、同程度となっている。

性・年代別で見ると、《ある（計）》は女性30代（11.4%）で1割以上と最も高く、男女差は30代で最も大きく、女性が男性（7.5%）より3.9ポイント高くなっている。

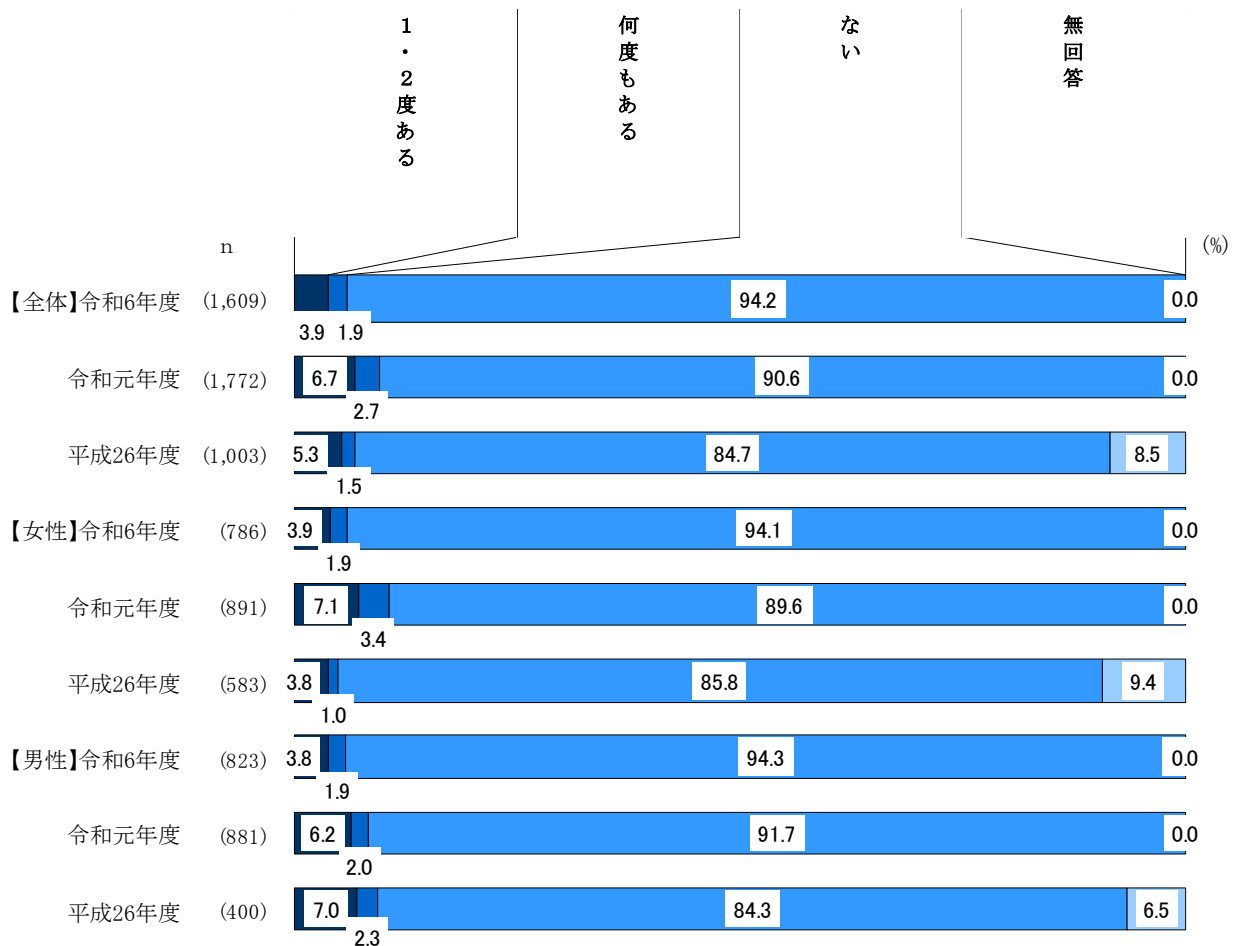
【問40-2 ②精神的な暴力・社会的な暴力の加害経験】



◇経年変化

●全体で加害経験が低下

精神的な暴力・社会的な暴力の加害経験の経年変化を性別で見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、全体で令和元年度（9.4%）より3.6ポイント低くなっている。



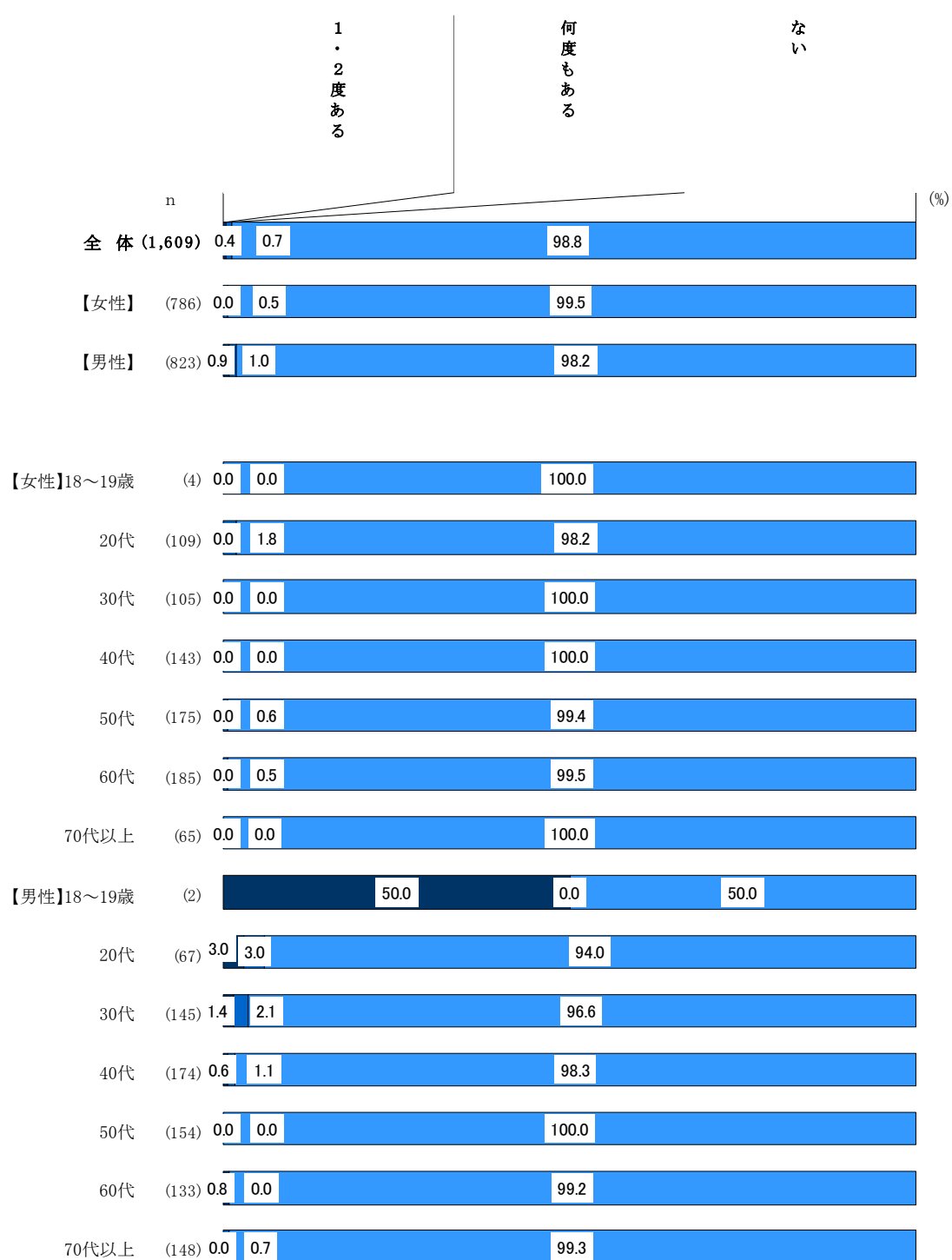
問 40－2 ③性的な暴力の加害経験

●男女ともに加害経験が《ある（計）》は一部の年代で僅かに見られる

加害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（0.5%）、男性（1.9%）と男女ともに1割未満となっている。

性・年代別で見ると、加害経験が《ある（計）》は、女性で20代・50代・60代で、男性は50代を除くすべての年代で回答があった。

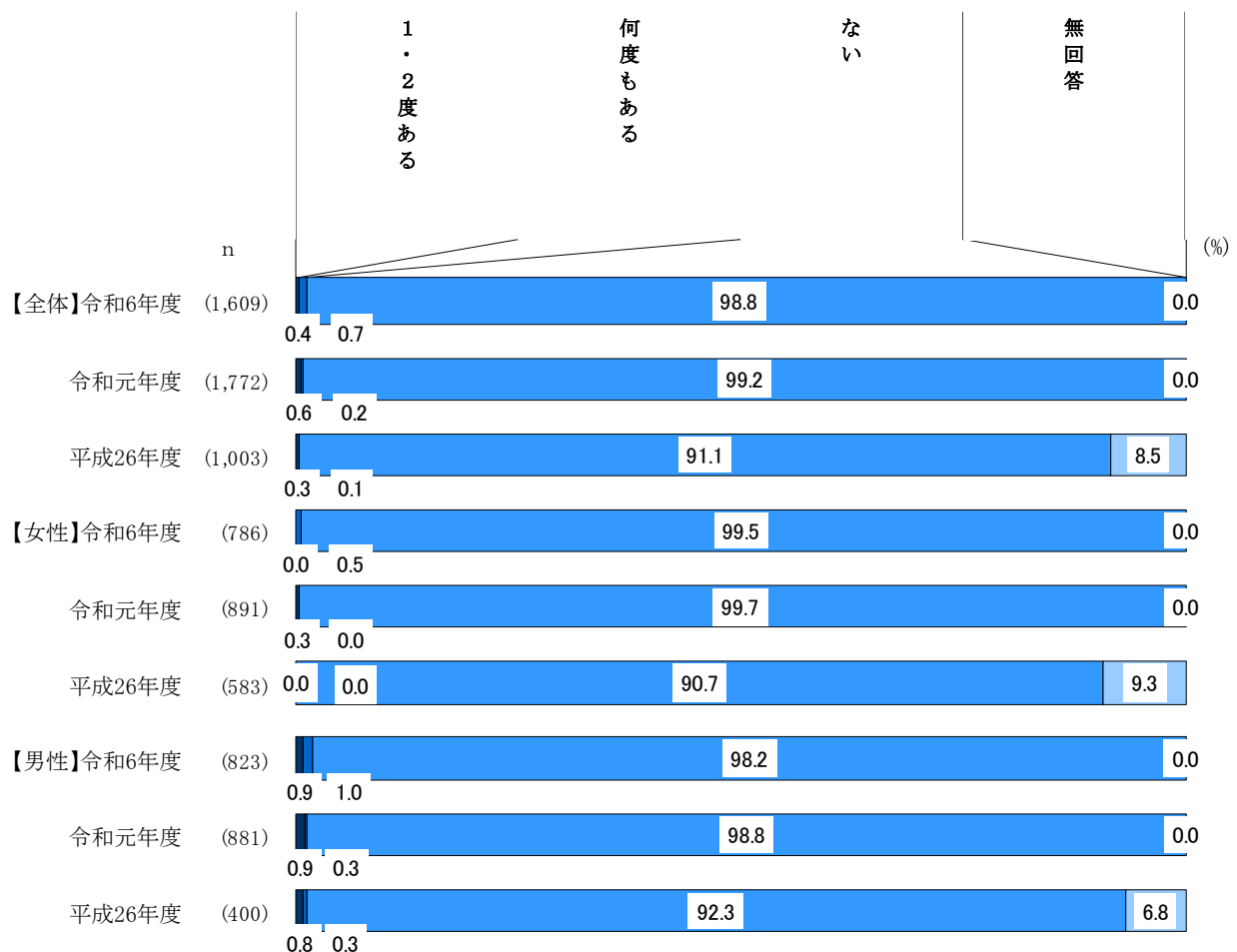
【問40-2 ③性的な暴力の加害経験】



◇経年変化

●全体で加害経験は前回と同程度

性的な暴力の加害経験の経年変化を性別で見ると、前回と同程度となったが、依然として加害経験があるとの回答があった。



問 40－2 ④経済的な暴力の加害経験

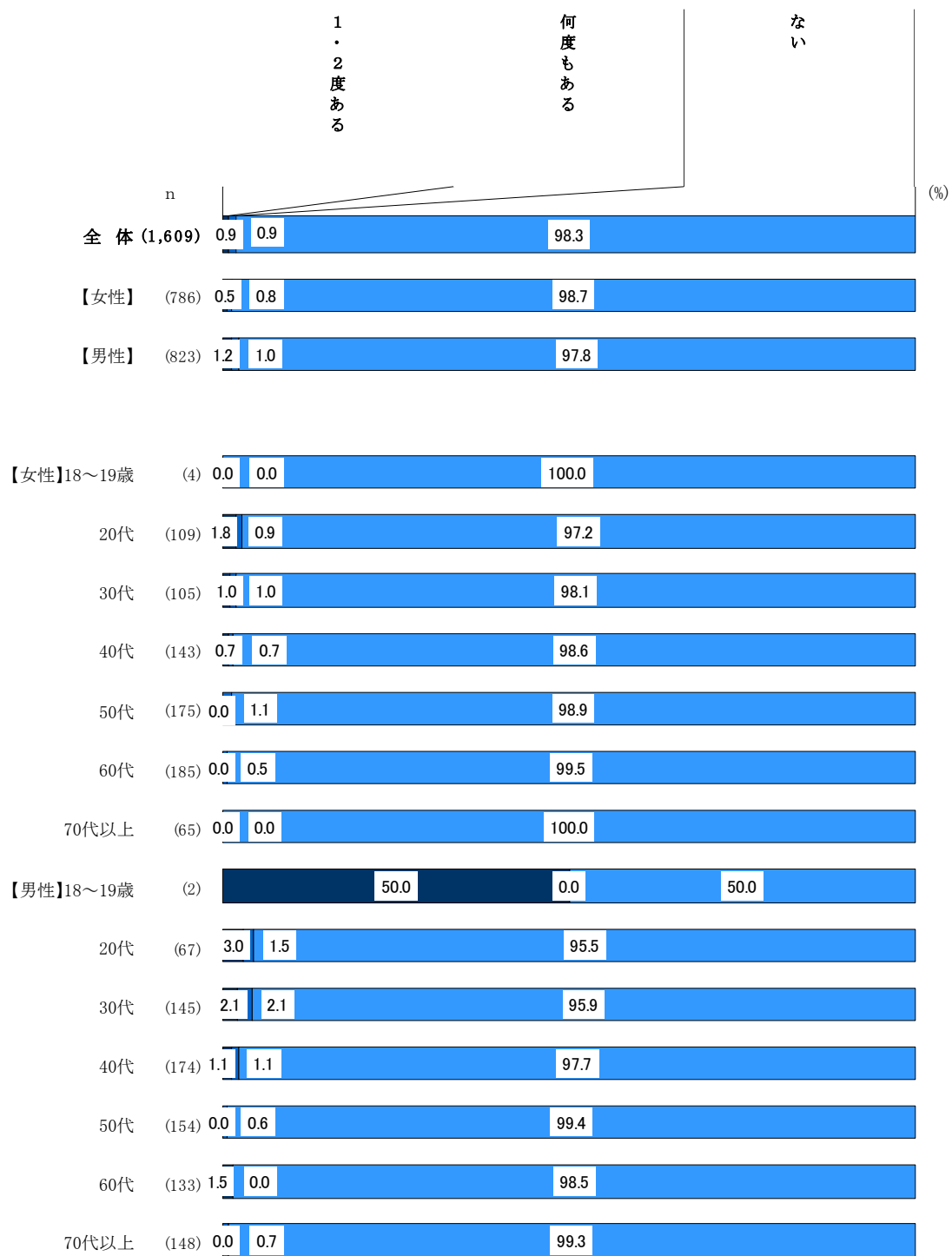
●加害経験は一部の年代で回答が僅かに見られる

●男性20代で最も高い

加害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（1.3%）、男性（2.2%）と男女ともに1割未満となっている。

性・年代別で見ると、加害経験が《ある（計）》は女性70代以上を除くすべての年代で回答があり、男性20代（4.5%）で最も高くなっている。

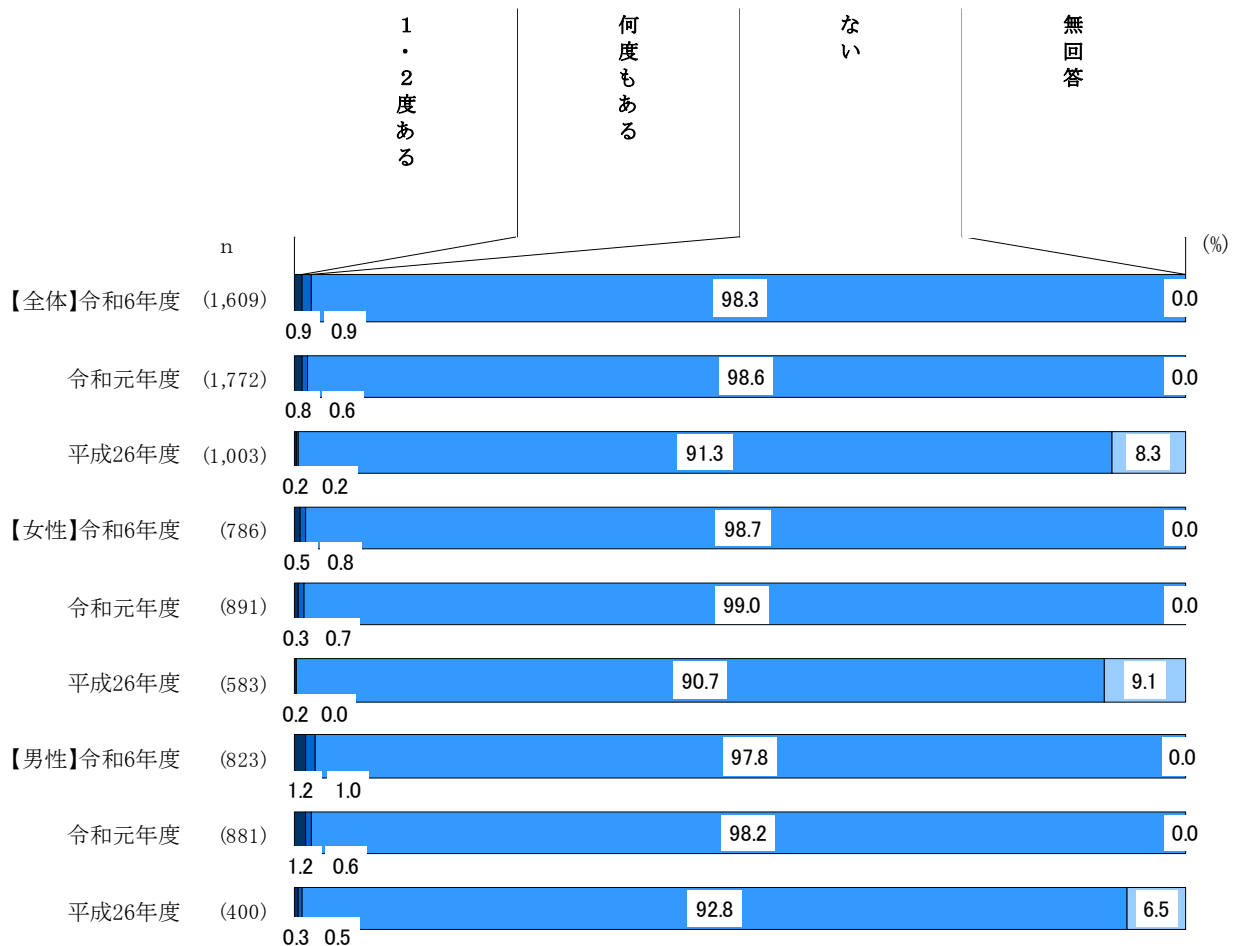
【問40-2 ④経済的な暴力の加害経験】



◇経年変化

●全体で加害経験は前回と同程度

経済的な暴力の加害経験の経年変化を性別で見ると、前回と同程度となったが、依然として加害経験があるとの回答があった。



問40－2 ⑤子どもを利用した暴力の加害経験

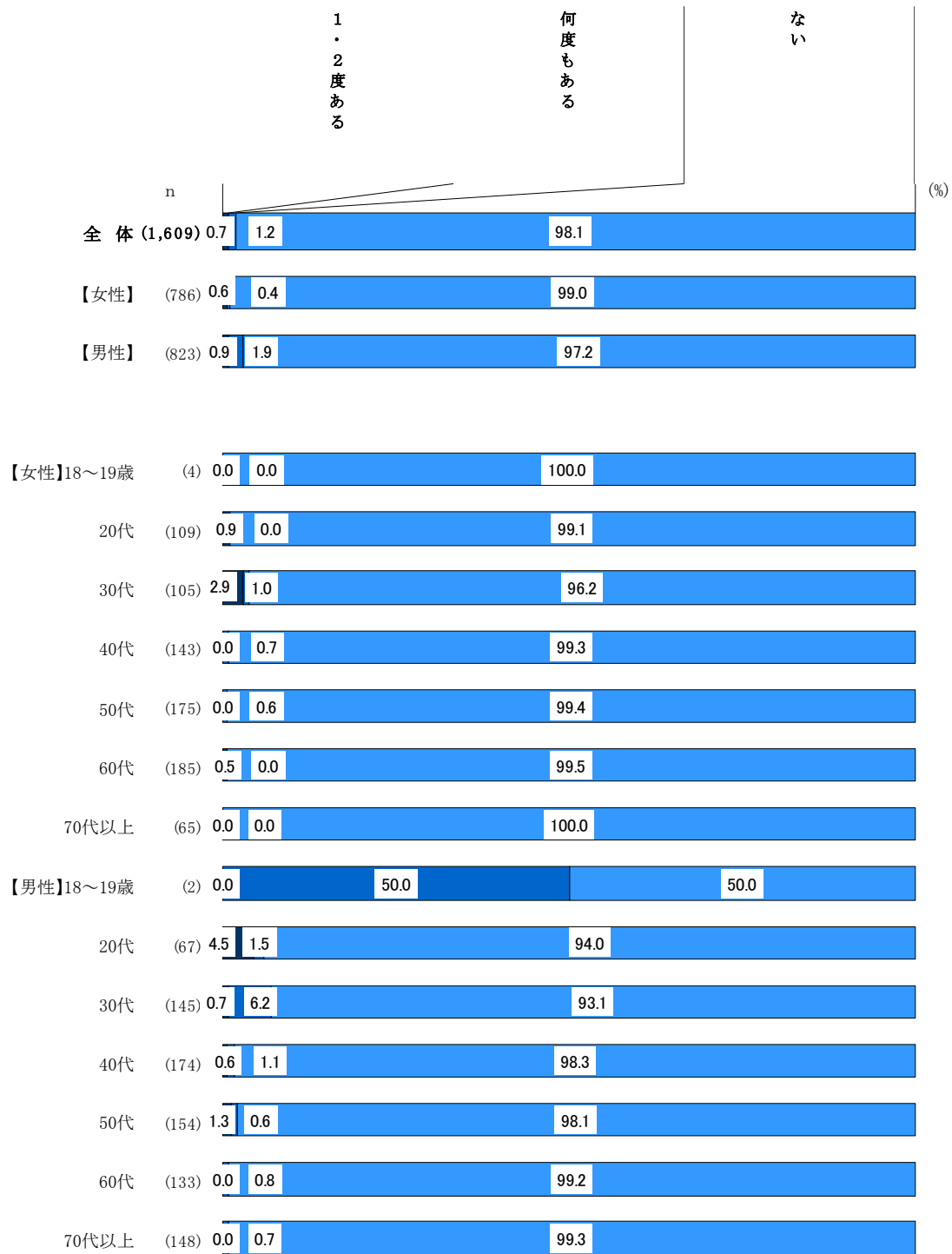
●一部の年代で加害経験があった

●男性30代で最も高い

加害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（1.0%）、男性（2.8%）と男女ともに1割未満となっている。

性・年代別で見ると、加害経験が《ある（計）》は女性70代以上を除くすべての年代で回答があり、男性30代（6.9%）で最も高くなっている。

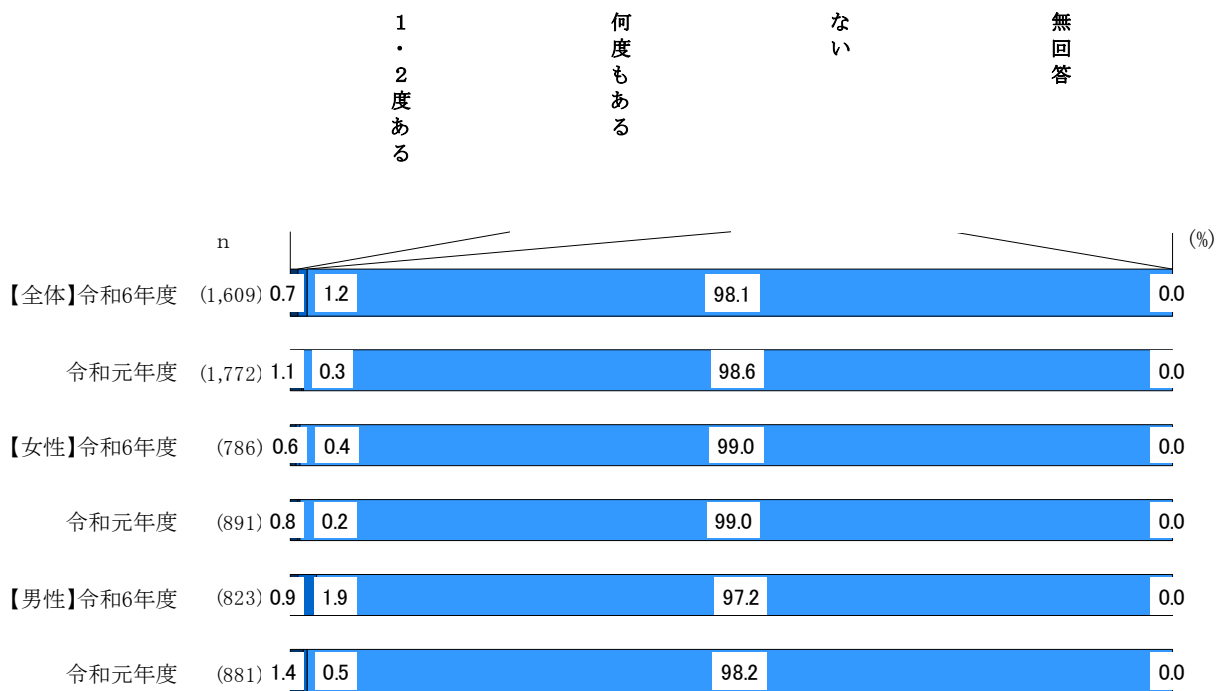
【問40-2 ⑤子どもを利用した暴力の加害経験】



◇経年変化

●前回と同程度

被害経験の経年変化を見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、前回と同程度となっている。



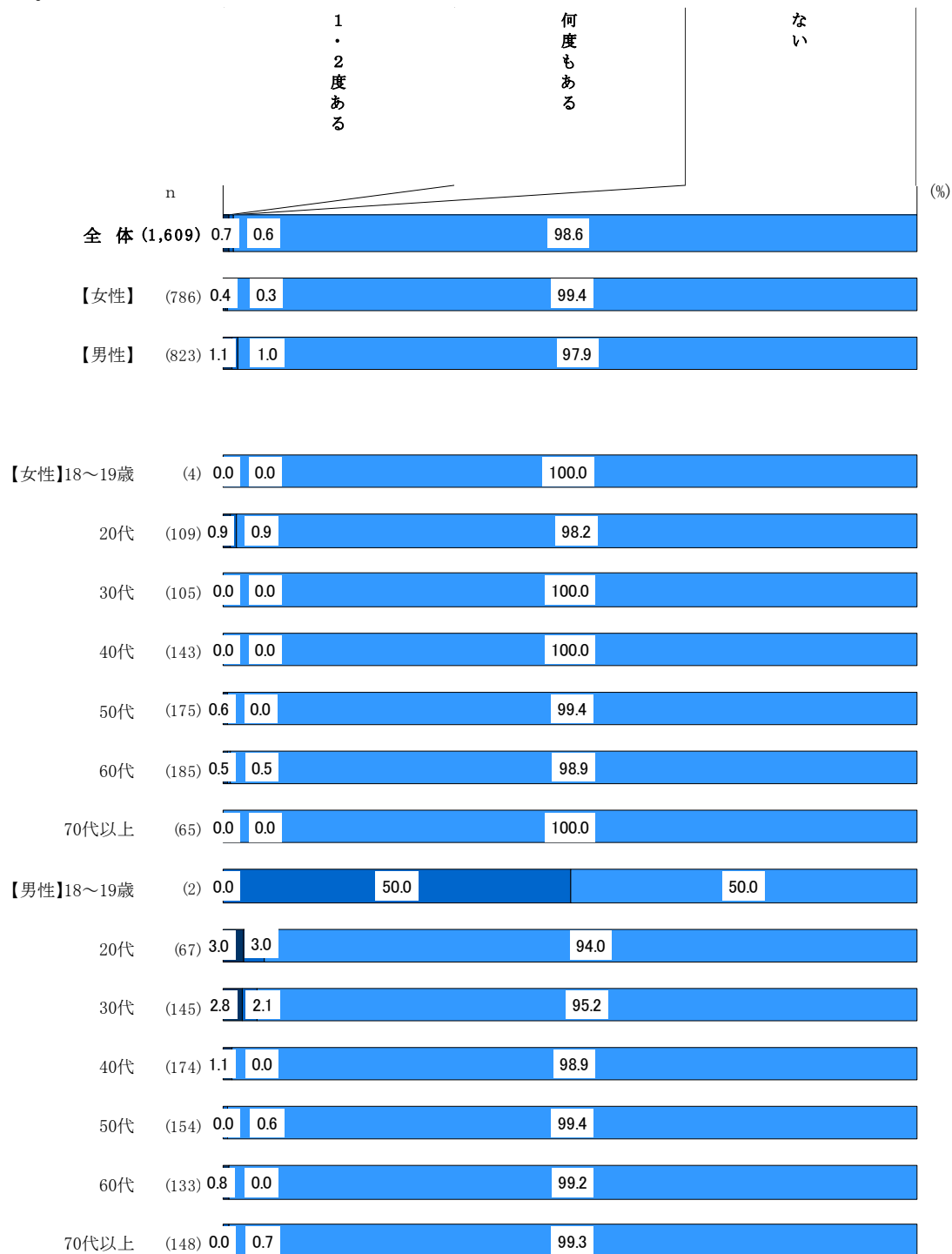
問40-2 ⑥ストーカー行為の加害経験

●加害経験は一部の年代で回答が僅かに見られる

●男性20代で最も高い

加害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（0.7%）、男性（2.1%）で僅かに回答が見られた。

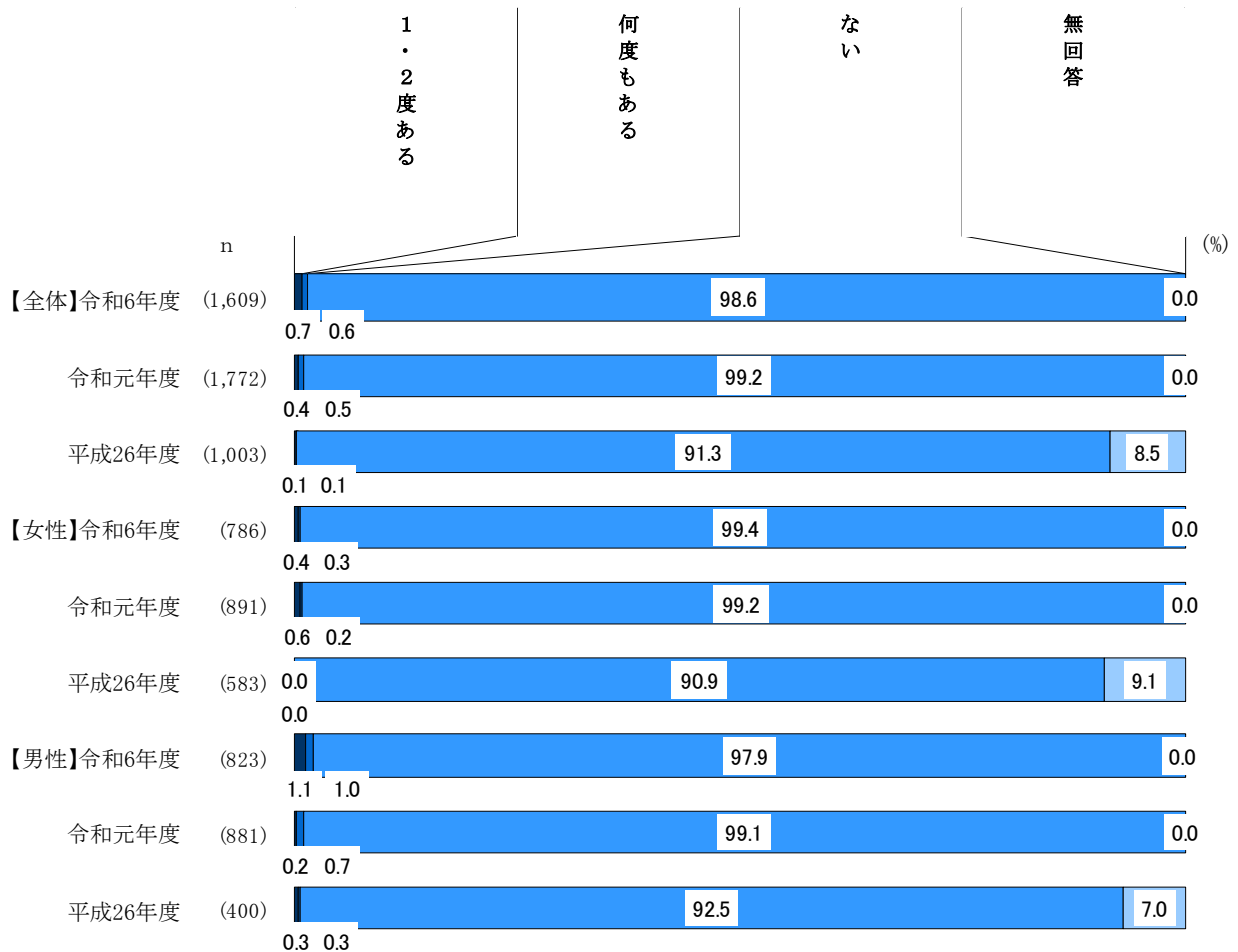
性・年代別で見ると、加害経験が《ある（計）》は、男性20代（6.0%）で最も高くなっている。



◇経年変化

●女性で0.7%の人に加害経験あり

ストーカー行為の加害経験の経年変化を性別で見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、全体、男性では令和元年度（全体0.9%、男性0.9%）より、全体は0.4ポイント、男性は1.2ポイント高くなっている。女性では0.7%の人が加害経験があると回答している。



8. 自由記述

(1) 男女平等や男女共同参画等について感じる事

問41 最後に、家庭や職場、地域社会等において、男女平等や男女共同参画等について感じるがありましたら、ご記入ください。

男女共同参画社会について

- ・意識は少しずつ変わってきているが、実際の社会ではまだまだ不平等と感じることが多い。(男性 20歳代)
- ・性別ではなくそのひとの能力ややる気が重要だと思います。(男性 20歳代)
- ・今後、男女の社会的役割の差をできるだけ減らすことが求められるようになるため、それに向かって官・民・団体・個人等を問わず努力すべきだと思います。(男性 30歳代)
- ・男女共同参画といいながら、女性向けの施策ばかりであり、男性の考えが無視されているように感じる。(男性 40歳代)
- ・近年、男女平等と言われていますが、自分の周りでは、まだ男性の方が優遇されている様に感じます。(男性 50歳代)
- ・男女は同じではないのであまりごちゃごちゃ語らないほうが良い。(男性 50歳代)
- ・男の考えが凝り固まっている。この事を変えていかないといけないと思う。(男性 50歳代)
- ・国が積極的に進めるべき。(男性 60歳代)
- ・男女の特性もあり、男女平等は難しい。概念を作ることが必要。男女平等の名の下、女性が優遇されていることも多々ある。(男性 60歳代)
- ・男と女ではそもそも身体的に違います。同じ仕事をするのは無理があると思う。(男性 60歳代)
- ・以前に比べ男女共同参画意識が向上していると思う。(男性 70歳以上)
- ・男女関係なく個人の選択が活かされるような環境が必要。同じことを同じように進めようとしている男女共同参画には反対。(男性 70歳以上)
- ・積極的に関心を持つ事。(男性 70歳以上)
- ・特に地域の代表となる議員さんの男女比が悪いと感じる。議員さんになるまでの道のりが一定の所得者層に限られることで、考え方等も偏るように考えられるため、裾野を広げてほしい。(女性 20歳代)
- ・男優先の社会にうんざり。(女性 40歳代)
- ・もっと進めるべき。(女性 40歳代)
- ・私が10代の頃から、親から、職業についての判断、子供をもっと産めなどと言われ続け、女性でも、職業選択の自由はあるし、子供を何人産むなど、女性個人の権利であり、例え親でも、口出しは許されないことだと思う。あれこれ、周りの意見を強要しようというのは、気分が悪い。(女性 40歳代)
- ・男性社会。(女性 50歳代)
- ・年配者(男女とも)の価値観を変える必要がある。(女性 50歳代)
- ・男女格差というより、経済的格差がひどい世の中ですのあまり期待できない。(女性 50歳代)
- ・少しずつ良くなっていると思う。(女性 50歳代)
- ・高齢者にとってはこれらの事について現在、発言、行動するという場所も取っ掛かりが分からない。(女性 60歳代)
- ・ハラスメントという言葉が一人歩きして何も出来ない社会になっているので、きちんと発言できる世の中にして男女平等を成し遂げて欲しい。(女性 60歳代)
- ・言葉に気を付けて優しい人が増えると良い。(女性 60歳代)
- ・自分自身に責任がもてたら、行動あるのみ。(女性 60歳代)
- ・男女平等の意識が低い。(女性 60歳代)
- ・社会全体の意識が向上している。(女性 60歳代)
- ・女性自身は家庭以外の場所で、男女平等や男女共同参画の意識(知識)を高める。(女性 60歳代)
- ・群馬は男女共同参画等が遅れていると感じる、まだまだ男社会だと感じる。(女性 60歳代)
- ・完全な平等は不可能と思う。(女性 60歳代)
- ・男性重視の風潮がある。(女性 60歳代)
- ・お年寄りはやはり男尊女卑。(女性 70歳以上)
- ・名前は聞いたことあるが、活動の内容、具体的な成果など知らないで名前だけのパフォーマンスと思っていた。(女性 70歳以上)
- ・家庭も職場も地域社会も男女で共に構築していくものだと思います。(女性 70歳以上)
- ・意識改革。(男性 30歳代)
- ・給料が一緒。(男性 40歳代)
- ・細やかな意思疎通が本音でできるようになることからしていきたいと思います。(男性 60歳代)
- ・性別関係なくみんなが住みやすくなってほしい。(女性 18~19歳)
- ・昔ながらの男性は働き女性は家庭という形がまだまだ残っているため、社会全体で変えていってほしい。(女性 40歳代)
- ・先日高崎でトイレに行きました。ジェンダーレスが叫ばれる昨今ですが、扉に女性のトイレマークがあ

り入りましたが、中から男性が出てきてビックリしました。間違えたか!!と思い慌てて出口に戻りマークを確かめると男女両方のマークが書いてありました。男性用の便器はなく全て個室でしたが流石に男女共同のトイレには抵抗を感じ、女性専用の別のトイレを使用しました。コンビニなどのように、1部屋に1個のトイレの共同は全く気になりませんが、1室に3〜5個隣同士になっているトイレでの共同は正直かなり抵抗がありました。この時代にそぐわないのかも知れないけど、流石に隣に男性が入っているかと思うと恐怖と恥ずかしさを感じるので個人的には絶対使用しないなと思いました。（女性 40歳代）

- ・ なかなか現実には難しそうです。（女性 50歳代）
- ・ そもそも男女の違いは生物学的にも役割分担が有ると思うので何もかも男女平等にはなり得ないと思う。（女性 60歳代）
- ・ 地域に男性の出席を望むボランティア（神社関係）があり女性が出席しても一部参加できない場面がある考え方や方法を変えれば参加できるのに改革が進まないし進めようとしていない女性側も特に参加を望まない。（女性 60歳代）
- ・ 国会議員など議員の数が男女半々になる。女性天皇の誕生。（女性 70歳以上）
- ・ 平等にしていくべき。（男性 20歳代）
- ・ 男女ともに意識の問題が大きい。（男性 50歳代）
- ・ 男女平等と言うがすべてを平等にすることは不可能だと思うし、結局最後は男だからとか女だからとかいうことになると思っています。（男性 50歳代）
- ・ 個人の理解が必要。（男性 50歳代）
- ・ かなり、男女平等になってきていると思います。（男性 60歳代）
- ・ まだ日本は男性が優位な社会です。（男性 60歳代）
- ・ 古い価値観を持っている人は多い。（男性 60歳代）
- ・ まだ自然に根づいているような段階には間がある印象が強い。（男性 60歳代）
- ・ 男女共同の趣旨は良いが現実も見えて。（男性 60歳代）
- ・ こういうことは無理に進めなくて良い。（男性 70歳以上）
- ・ 性別を考慮すべきは体力や筋力などの面であり、その他の面においては性別ではなく能力値や適正で考えるようにして、性別という括りを減らしていくべき。（女性 20歳代）
- ・ 取り組み自体は良いものだと思うが、利己的な考えが根本にあり制度を悪用する人にも有利になってしまっている。正直者はバカを見るような社会が変わっていかねばどんな制度も意味がなくなってしまうと感じる。（女性 30歳代）
- ・ いいように男女平等の考えが進むといいと思う。

（女性 40歳代）

- ・ 日本社会や女性自身に古い慣習がしみこんでいる。（女性 60歳代）
- ・ 昔からの考え方をえるようにしないと駄目だと思う。（女性 60歳代）
- ・ 相談しても解決する方向に向かないなら、結局我慢するのが妥当になり歪んだ生活を送るしかないと思う。（女性 60歳代）
- ・ 年配の方に昔からの考えを変えない方が、多いと感じる。（女性 60歳代）
- ・ 男女平等を目指すことによって歪な状態が生まれていると感じます。例として男性が仕事をして女性が家事をしている状況が必ずしも男女不平等ではないと思います。（男性 20歳代）
- ・ 性別ではなく人それぞれに適任があると思うので片方を優遇しないで欲しい。（男性 30歳代）
- ・ まだまだ不平等。（男性 30歳代）
- ・ やった気になっている男が多く、そこが原因で喧嘩することが多い気がします。（男性 30歳代）
- ・ ずっと続けてきたことを簡単には変えられないと思う。もっと時間をかけて進めていくべき。（男性 40歳代）
- ・ とくに性別を意識しない方がいいと思う。（男性 40歳代）
- ・ 当たり前の事であると思う。（男性 40歳代）
- ・ 男女平等なのに、女性のためのものが多いと感じる。社会的権利・機会は男女平等であるべきだが、男・女の生物学的違いを考えないで、なんでも平等にするのはおかしい、また様々なアンケートも対象がわからない。バイアスがあるような結果は信じられない。（男性 50歳代）
- ・ まだ不十分でこれからもっと良くしていかないと駄目だ。（男性 50歳代）
- ・ 必ずしも男女共同参画が必要とは思わない。必要な人がそうすれば良く、強制する必要はない。（男性 50歳代）
- ・ その取り組みを報道番組でとりあげてほしい。（男性 60歳代）
- ・ 社会全体の意識改革。（男性 60歳代）
- ・ ハラスメントの意識が男性は低い。（男性 60歳代）
- ・ 保守的な考えの人が多い。（男性 70歳以上）
- ・ いくら行政やマスコミが言っても、高齢者、特に女性の高齢者が自分たちのいやな経験をつぎの人たちに、そんなの当たり前だとか、昔からの慣習を当然のごとく、日常生活のあらゆる場面でむりやり、当然のこととして今現在もしつこく押しつけている。（男性 70歳以上）
- ・ 日常的にNHK, 民放テレビで朝から夜まで1年以上啓蒙の放送をしないと無理とかんがえます。（男性 70歳以上）

- ・ 何事も穏やかに時間をかけて行った方が良いです。（男性 70歳以上）
- ・ 女性の不平等は改善傾向にあるのは確かだが、比率で言ったらまだまだ男性優位の社会である。（男性 70歳以上）
- ・ かつては子供が多かったのに近年極度に減少に転じているが、男女雇用機会均等法のころから？（男性 70歳以上）
- ・ 人と行政との親和性を高めること。優しさ。（男性 70歳以上）
- ・ 男女仲良くが平和の原点。（男性 70歳以上）
- ・ 私自身男女について、子供の時から男だから女だからという育て方をされなかったので、考えたことがない。（男性 70歳以上）
- ・ まだまだ日本は、この世界は変わるな、と感じました。自分の知らない所で沢山の人が動いていて、携わった人達が頑張って変えようと足掻いてくれている人達が報われてほしい、幸せになってほしいと感じました。（女性 20歳代）
- ・ この役割は男性がするもの、という固定観念が未だに根付いており女性には務まらないと下に見られているように感じる。（女性 20歳代）
- ・ 考えの古い老人に引退してもらおう。（女性 30歳代）
- ・ プライバシーがあるので、関わり方が難しいと思う。（女性 30歳代）
- ・ まだ漠然とした男性優位感がある。（女性 40歳代）
- ・ もっと男性が家事や育児、地域活動をやるのが当たり前な社会になって欲しい。（女性 40歳代）
- ・ 日本社会は男尊女卑が根付いていると思う。（女性 40歳代）
- ・ 本当の男女平等とは、男女の本来の役割を理解することから始まると思う。例えば、どんなに科学が発達しても、妊娠、出産は女性にしかできないし、運動能力が高いのは、男性である。こういったことを踏まえながら、男女のことを考えていかなければと思います。（女性 40歳代）
- ・ すべてを男女平等にするのは適していないとおもうが、何かの選択をする時に、性別で選別不可能にすることははいけないと思う。今までの人生で、上の役の人、ほとんど男性であったので、それが当たり前になっているのだと思う。（女性 50歳代）
- ・ 少しずつだが進みつつあると思う。（女性 50歳代）
- ・ 具体的ではないが、女性が不利だと感じる。（女性 50歳代）
- ・ 正直、あまり良い変化を感じられない。お題目だけで、遅々としてこの社会は相変わらずのままだ。（女性 50歳代）
- ・ 男女平等になる日はこない。（女性 50歳代）
- ・ 昔より男女が平等になりつつあると思うが、まだまだ男尊女卑が残っているところもある。（女性 50歳代）
- ・ 児童相談所はいい加減すぎる。しっかり見守ってほしい。（女性 50歳代）
- ・ 介護問題 女の方がするのが当たり前という考え方はやめてほしい。（女性 60歳代）
- ・ 男女平等については、徐々に認識されているが同性同士の引っ張り合いもなくなっていない現状がみられている限り、なかなか改善されないのではないかなと思う。（女性 60歳代）
- ・ まだまだ男女平等ではない。（女性 60歳代）
- ・ 男女平等や男女共同参画とどんなに唱えても現実社会は簡単には平等にはならないと強く感じる。（女性 60歳代）
- ・ 男女平等は、それほど気にするほどではない社会になってきていると思う。（女性 70歳以上）
- ・ ある年齢の男の人にはまだまだいろいろな面で男の人の方が上という意識があります。特に地位のある人に見えます。（女性 70歳以上）
- ・ 平等というよりは男性が軽視されすぎている。（男性 30歳代）
- ・ 生物として男と女は別の生き物なので男女平等にしようとする事自体が無駄。男、女関係なく1人の人間として接する事が大事。（男性 40歳代）
- ・ より重要視していかなければならない分野として考えなければならぬ。（男性 40歳代）
- ・ 男女平等の意味を履き違えているように感じる。何事も同じにしると言うのは如何なものか？肉体的に違うのだからお互い足りない部分を補いあってこそ平等だと思う。（男性 50歳代）
- ・ 何でも平等ではなく、適材適所というか、向き不向きに配慮した社会であってほしい。今は平等を「うたい文句」や「金看板」にして、逆の不平等がある。例えば、昔あった（今もあるが）みんなでの徒競走で手をつないで一斉ゴールするのと似ている部分がある。しかも、声のでかい人が言う通ってしまう。（男性 70歳以上）
- ・ 今後ますます共同参画が、進むと思う。（男性 70歳以上）
- ・ もっと広く知れ渡り、誰もが意識内に入る事が大事だと思います。（男性 70歳以上）
- ・ まだ男性優位であるように思う。（男性 60歳代）
- ・ 男女平等などという言葉があるうちは、何らかの差が実在していると思う。（男性 70歳以上）
- ・ ここ数年、男女平等が進んでいてよい傾向だと思います。（女性 50歳代）
- ・ 日本の古い習慣がいまだに残っていると感じる。（女性 70歳以上）
- ・ 男女、老若男女ともに平等がよい。（男性 40歳代）

- ・ 男女それぞれの得意分野の違いもあるし、全てを平等にとは思わないが、評価の平等さが必要だと思う。（男性 50歳代）
- ・ 男性、女性を意識することのない世の中が本当の男女平等に繋がっていく気がします。（男性 70歳以上）
- ・ 少しずつではあるが、男女平等の認識が広がっているのを感じます。（女性 60歳代）
- ・ まだまだ男女平等とは思えない社会ではある。人の意識を変えることは難しい。（女性 60歳代）
- ・ 老若男女ともに意識の持ち方を変える必要があると思う。（女性 70歳以上）
- ・ 平等になればいい。（男性 30歳代）
- ・ 男女とか関係なく人としてみるべき。（男性 40歳代）
- ・ 昔と変わらない。（男性 40歳代）
- ・ 元々男性や女性がそれぞれに有している特性・長所や本来的な役割分担を度外視して、やたらと形式的に男女平等を実施しても上手く社会が回らないのはむしろ当たり前のこと。（男性 40歳代）
- ・ まだまだ平等ではない。（男性 40歳代）
- ・ 皆が皆、社会進出したい男性、女性ばかりではないと思う。（男性 40歳代）
- ・ 現在考えすぎである人間が多い。自然になるようになってくるまで、無理やり変える必要はない。（男性 40歳代）
- ・ 人々の相互理解が進むことが望ましい。（男性 40歳代）
- ・ だいぶ前からあまり改善されてない気がする。（男性 40歳代）
- ・ 男と女は役割が違うのは仕方ないと思う。（男性 40歳代）
- ・ 「平等」の概念、定義は人それぞれ。お役所仕事では解決しない。（男性 50歳代）
- ・ 最近、若干男性の立場が低くなった気がする。（男性 50歳代）
- ・ 理想的な男女平等に対して実際の現場はまだまだ乖離していると思う。（男性 60歳代）
- ・ 男性、女性ともに協力して新しい社会を作るべき。（男性 60歳代）
- ・ 男女とも意識が変わらなければだめだと思う。（男性 60歳代）
- ・ 男尊女卑は日本人の歴史そのものであり、グローバル化の中、見かけ上消滅したが、根底にはまだ残っている。これを完全に打破るのは、もっと時間がかかるだろうし、女性たちも質的向上を図らないといけない。（男性 60歳代）
- ・ 男性の意識改革を推進することが必要かと思います。（男性 70歳以上）
- ・ 男女の基本的な性の違いがあることを忘れてはならないので、場合によっては「男女において不平等となり得る場合もあることも避けられない」と思われる。（男性 70歳以上）
- ・ 周りは殆ど男女共同参画ではない。（男性 70歳以上）
- ・ 男女の意識改革。（男性 70歳以上）
- ・ 男女平等と言うが、まだ日本は男社会。（男性 70歳以上）
- ・ 性別に囚われず、同じ人であるという前提を広めていけたらいいと感じた。（女性 20歳代）
- ・ 男女平等もポリコレなんとも思想はいいがやりすぎるのはよくない。（女性 30歳代）
- ・ 制度云々の前に考え方だと思う。とくに50代以降の年配の男性は女性に対して強く出る人が多いし、今の政治家も古い考えの持ち主だと思う。若い世代に変われば変化があると思う。（女性 30歳代）
- ・ そもそも「男女～」とされている時点で男性女性と意識されているように思えるけれど、性差があるのは本質的にどうしようもないことなので、あえて「男女」とわけて言わなくてもいいような世の中になればある程度平等に近づくのかなと思う。（女性 40歳代）
- ・ 男女平等と言うけれど、全く平等にする事は無理だと思います。個人個人で意見や考え方も違うので…男女関係なく生きている人、赤ちゃんから高齢者まで皆が住みやすい世の中になれる様に、ひとりひとりが努力すれば良いと思います。（女性 40歳代）
- ・ 性別で役割を分担すべきでない。適性で分けるべきだ。（女性 40歳代）
- ・ 男女の差があるのは、身体的特徴の相違があるため、仕方ないと思います。共に受け入れて互いの役目を全うしたらいいと思います。（女性 40歳代）
- ・ 周りを見ていて昭和時代のような古い考えの人が多く おしつけてくる感じが今のニーズにあわない会話にならない人が多い。（女性 50歳代）
- ・ 平等、平等というけれど、男性と女性が平等でいられるわけがないと感じています。力仕事は男性がやりやすいと思うし、女性は、平等を求めるけれど自分の都合の良い時だけ男性に頼っているように感じます。また、どう頑張っても男性に出産は出来ないし、女性には毎月生理があり、生活に制限がかかることもあります。平等というよりは、お互いを尊重。（女性 50歳代）
- ・ 昔からの考え方が変わらないから男女均等にはならないと思う。（女性 50歳代）
- ・ 徐々に改善されているように思う。（女性 50歳代）
- ・ おじさんの意識改革。（女性 50歳代）
- ・ 誰もが笑顔で生活出来る環境づくりをひとりひとりが心がけ、お互いの気持ちを尊重し思いやれる事が重要だと思います。しかし、生まれ育った環境もそれぞれ違い、性格の不一致などさまざまな問題があると思いますので、気持ちが休まる場所があれば良

いと感じます。（女性 50歳代）

- ・出来る人と出来ない人が居るように 全て平等でなくてもいいと思います役割分担で 上手く回せるならそれでいいと思います。（女性 50歳代）
- ・平等と言う名のもとに、性差や性別の特性を超える働きを強要するのだとすれば、恐ろしい事だと思う。本質は人権であるべきだ。働く事、社会活動に参加する事は、権利なのか義務なのか。うつ病などで長期間働けなくなるほど、介護で倒れてしまうほど、一部の人に負担がかかり続ける事が問題。不均衡を是正するということは、社会全体で、負担し合うと言う事になる。男女平等と言うくくりではないように思う。（女性 50歳代）
- ・それぞれの立場の人が、みんな意識を変えていく必要がある。（女性 50歳代）
- ・体力や脳の働き、考え方が違うことは変わらない事実だから、男女の違いはある程度認めるべきだと思う。その上で、男女の役割分担は場面によって効果的だと思う。価値観の押し付けはいけない。伝統的な考え方も、男女平等推進からの視点も。（女性 60歳代）
- ・男女平等が遠い。（女性 60歳代）
- ・男女問わず助け合いの世の中になれば良い。（女性 60歳代）
- ・やれる人がやれば良いと思う。（女性 60歳代）
- ・その人の考え方にもよるが、年代による考え方の違いは見られる 置かれている環境が違うと理解出来ないことはあるのだと思う。（女性 60歳代）
- ・男女平等と声を上げて、自分に弱い部分が出てくると、手を差し伸べてくれるのが当たり前と、独りよがりな態度を取ったり、相手が心を痛めていたら突き放したり、なかなか難しい心の葛藤もあるのではないかと感じます。（女性 60歳代）
- ・やはり、お互い助け合って生きていきたいです。（女性 70歳以上）
- ・まだまだ男性主導の社会ですね…。 （女性 70歳以上）
- ・男性が、女性が、と言っている時点でダメ。いまのやり方は女性優遇になっている気がする。何事も性別に関係なく、能力のある人がやればいいだけ。（男性 30歳代）
- ・いくら権限の無い者が騒いでも握り潰されてしまう。権限や権力のある者が動かないと変わらない。（男性 40歳代）
- ・お互いを思いやれば少しは違うと思う。（男性 40歳代）
- ・男女共同参画は時とともにこれまで以上に進ずると思う。（男性 60歳代）
- ・生い立ち、生活環境の違いで意識、意欲の違いにも表れてくるといことがある。男女の垣根のないところから物事を進めないと何ひとつ変わらないし変わらないから大変だと思います。（男性 60歳代）

- ・男性、女性共にお互いを尊重して生活出来る世の中になって欲しい。（男性 60歳代）
- ・女性を保護しようということに視点を感じますが、男性にも不利になっている仕組みが多々あります。例えば、遺族年金、母子家庭と父子家庭の違い。女性だけを救うのではなく、男女で違っている仕組みをなくすという視点に立っていただきたいです。（男性 70歳以上）
- ・本当に難しい問題だが、今を生きる大人がすべての周りの子供たちに、きちんと自ら範を示しながら、それとなく男女のあり方、生き方などを教えてゆくしかないのかな、と。（男性 70歳以上）
- ・まだ言いにくい空気があると思う。（男性 70歳以上）
- ・実行力があっても積極的に参画したい人は少ないのが実情だと思います。（男性 70歳以上）
- ・それぞれの特性を上手に使うべき。（男性 70歳以上）
- ・もっと進めて欲しい。（女性 20歳代）
- ・平等に活躍できる場の不足。（女性 20歳代）
- ・やはり男性が強い。（女性 40歳代）
- ・男性の考え方が変わらない限り男女平等は無理だと思う。（女性 60歳代）
- ・双方の理解と歩み寄り。（女性 60歳代）

家庭生活・学校教育について

- ・家事を頑張ろう。（男性 40歳代）
- ・差別意識や区別意識を醸成しないために、幼年期からダイバーシティに関する教育を行うことが大切だと思います。（男性 60歳代）
- ・学校教育（小学校、中学校）のテーマとしての取り組みを強化すべき。（男性 70歳以上）
- ・家事分担して欲しい。（女性 40歳代）
- ・昔に比べると男性が家事、育児に参加する割合が増えてきたように思うが、まだ主体的ではなく手伝っている感が強い。共働き世帯が急激に増え、女性の負担が更に重くなっているように感じる。（女性 50歳代）
- ・家事の負担が大きい。（女性 60歳代）
- ・家事育児に関して男女差がある。例 子供の発熱時、連絡が入るのは母親である。（女性 70歳以上）
- ・家庭での女性の育児負担が大きくなりやすい。（男性 20歳代）
- ・家庭では家政婦のように扱われている事。（女性 40歳代）
- ・今は外出先で父親がおむつ交換するのも当たりの風景になり好ましい変化を感じる。（女性 60歳代）
- ・家事は女性で働いて疲れた。（女性 60歳代）

- ・小中高の体操着は男女で形を分ける必要は無い。男女の別を強制的に分けることになるし、男女の兄弟姉妹が混ざっている場合に使い回しが出来ないので無駄にお金が掛かる。その事を变に思わずに男女で服の形が違うのは当たり前だと言う親(特に夫)がいるのが不思議。服屋にはユニセックスの服はたくさんあるのだから、それを標準にしてほしい。(男性 30歳代)
- ・単なる数字上の平等ではなく、個々人の意識改革まで踏み込まないと意味がない。日本の女性はもっと自分の能力を発揮できる場があるはずで、もっと幼少時からの男女の区別のない政治的、経済的、学力的教育が必要。(男性 50歳代)
- ・女性の出産・育児へのサポートや相談が気軽にできる場所が必要だと思います。特に、ひとり親の人は、身近に相談する人がいないケースが多いと感じます。結果的に虐待的な行動に出てしまいます。公的機関は虐待を防止するのではなく、虐待という言葉がなくなる努力をするべきだと思います。そのためには、出産後のフォロー(例えば、地域で出産後のコミュニティを常時行う【学校レベルで】)を徹底するべきだと思います。心の病気がなくなるような社会(世の中)を作ってください。(男性 50歳代)
- ・男性女性というくくりをなるべくやめていけばいいと思う。男性だから、女性だからという考えをしないように幼少期からの教育を見直すべきだと思う。(女性 40歳代)
- ・家庭でも、職場でも、問題が起きたら隠さず見過ごさず話し合うことが大切だと思う。(女性 60歳代)
- ・子供が幼児期の時は、平等に働くのは少し無理があると思います。(女性 60歳代)
- ・DVは行う側の精神的な部分に問題があると思う。少なくとも相手を変えないと治せないと思う。解決は離れさせる、別離、離婚しかないと思う。(女性 50歳代)
- ・両方とも同じ立場で仕事をする事で家庭内での対等な立場を築ける。(男性 50歳代)
- ・男性ですが家族(妻も含む)の介護を30年近くやりましたが思いがけない病で介護度5までの状態になり大変な思いをしました。現在独り身になり病を患っていますが自身の介護者はいません。(男性 70歳以上)
- ・周りでも独り身の年寄りが沢山います、不安です。(男性 70歳以上)
- ・夫の育休がストレス。妊娠～産後の妻の支え方や子育てについて、わかってない男の人がとても多い気がする。(女性 20歳代)
- ・子供が熱を出したら、休むのは女の方。(女性 40歳代)
- ・社会全体の意識を変えていくことがもっとも重要だと思う。個人的に感じていても、まだまだ年配の方や、男性の意識が薄いと日々感じる事がある。どこか、他人事のようで、年配の方々はまだ難しいのかもしれないが、若年層には学校等でよく教育をして

いく必要があると思う。(女性 40歳代)

- ・家庭内の悩み事があってもなかなか外の人には相談できず、我慢している人が多いと思います。地域で助け合える環境があれば良い。(女性 40歳代)
- ・女性にとって妊娠出産は肉体的にも精神的にも負担が大きい。今も昔も変わらない。母親の負担が大き過ぎる。私は会社を辞め、育児を次の仕事として過ごしてきた。育児は片手間では出来ないから。(女性 50歳代)
- ・男性は家事など女性がやるべきと思っている。意識の改革のため、子供のころからの教育が必要。(女性 50歳代)
- ・学校の事、家事はやはりまだ女性がするものという感じ。だいたい主人も手伝ってくれるようにはなったが、まだ負担に感じる部分も多い。(女性 50歳代)
- ・子育てについては、母親の負担が大きいと感じる。(女性 60歳代)
- ・教育が大切。(女性 60歳代)
- ・娘が子供を産み、婿が育休を半年取っています。子育てにも積極的で、良いと思っている。(女性 60歳代)
- ・子育てに関しては、男女平等はありえないと思う。(女性 60歳代)
- ・家族でしっかりと話し合っただうしたいかを話し合っておく。(女性 60歳代)
- ・男性の意識や子育てや介護の能力を高めるサポートづくりが必要だと思う。(男性 40歳代)
- ・子供の頃からの教育、環境が大事だと思います。(女性 50歳代)
- ・家事は、手が空いている人がする。(女性 60歳代)
- ・男性が、育児、家事をやっても堂々してられる社会。(女性 60歳代)
- ・家庭内の役割分担をどうするのかしっかり家族内で話し合いをして、しっかりした基本的な考え方のすり合わせが不可欠だと思います。何事も協力する常に同じ目線、土俵での立ち位置がしっかりできていくこと。(女性 70歳以上)

職場について

- ・現仕事において、管理職は勤務時間外でも仕事の連絡がくるため、どうしても家庭より仕事に重きを置くしかないのが現状である。そのため、政府等から職場にもっとアプローチしていただくことで女性の管理者登用が進むのではないかと考える。(男性 20歳代)
- ・従業員が少ない職場では、男女ともに産休育休、介護休暇を取得するのは困難と思う。(男性 50歳代)
- ・配達の仕事をしているが女性が増えた。

(男性 60歳代)

- ・育児休暇、介護休暇等を取得するときは、周りの人達の感謝を忘れないようにしたい。先人達の苦労があって、今の権利が確立してきたことを思い起こしてもらいたい。当然の権利だと厚顔しないようにしてもらいたい。(男性 70歳以上)
- ・男性の育休は取得しないと罰金にして欲しい。(女性 20歳代)
- ・賃金の違い。(女性 40歳代)
- ・女性が働いて家事育児にも尽力というのはもう無理な気がする。(女性 40歳代)
- ・前職場では、男性の育児休暇は数日取得が普通だった。それは育児休暇ではなくただの休暇だと感じた。スウェーデンのように男女とも同レベルで育児を担当する時間を取るようになることを望みます。(女性 60歳代)
- ・職場では未だに男性の地位が高く女性を見下すようなところがあります。公には言わないが、女性は出産育休を取るから、採用する時は男性が良さそうだったし。女性は子育てしながら働いていて子供の体調不良で仕事を休むことも多くて気をつかうし休みにくい現状。職場の男性が育休を申請したら、上司からとても嫌な顔をされ小言を言われていたのをみてまだまだ社会では男女平等ではないと思いました。(女性 30歳代)
- ・職場の意見の反映。(男性 40歳代)
- ・深夜勤務や残業時間の女性のみの規制など。(男性 40歳代)
- ・職場で女性だからといって結婚しても辞めない、出産しても辞めない。というイメージが定着する必要があると思う。(男性 60歳代)
- ・自身も公務員をしており相談業務に従事しているが、担当員もたまたま人事異動で配置されただけで嫌々やっているケースが多く、相談者が失望して帰っていくことが多い。相談窓口を設けるのであれば可能な限り適任者を配置するようにするべきで、不本意で配置された職員が嫌々やるくらいであれば、そもそも窓口を設置しない方がよい。行政への信頼感を損なうだけで逆効果である。ポーズに過ぎない。ちなみに自分は嫌々やっている方である。(男性 30歳代)
- ・女性が職場にいる人数は増えたが時短勤務などで周りの負担が多くなった。(男性 30歳代)
- ・仕事毎に性別役割が固定観念として根強くある。(男性 40歳代)
- ・泊りのある職場で女性の性被害が報道されたので、職種によっては女性が働きづらいところもあると思います。(男性 70歳以上)
- ・女性管理職が増えている、男性も育児休暇は取れるが1週間ぐらいなので少ないと思う。(女性 20歳代)
- ・今は、共働きの時代なので地域行事やPTAなど会議は携帯です。夕飯時間の会議をなくす。行事の改

廃などして行うべき母親や片親の負担を減らしていかなければ家庭がうまくいくはずがない。(女性 30歳代)

- ・仕事を頑張り過ぎて抱えてしまった精神疾患に対しての偏見の目やこれまでの功績をなかったかのような、病を患ったら排除する動き、仕事ができる人がどんどん仕事が増えて出来ない人はそれでいいという体制が身を亡ぼす。病院に行くたびに過労、疲労、ストレスと言われ何のために働くのか分からなくなってしまった時期があった。誰かひとりに負担がかかり過ぎていないか全体を見ることができる人が上に立って欲しいと切に願う。(女性 50歳代)
- ・仕事による拘束時間が長く、働く時間の融通が利かない。(男性 50歳代)
- ・会社の上司は男性ばかりだったけど最近は女性も居る。(女性 50歳代)
- ・医療現場は、パワハラが多い。(女性 60歳代)
- ・男性女性にかかわらず育児休暇をとるために、周囲が仕事を多く請け負っているのが現状。休暇をとる方だけでなく、残された職場の人々の負担も考えて欲しい。(女性 50歳代)
- ・仕事や家庭のこと出来る人は男女関係なく選べる社会が良いと思います。(女性 70歳以上)
- ・職場で育児休業を男性でも取りやすくしてほしい。(男性 40歳代)
- ・体力勝負に職場でなかなか女性が入りにくい。(男性 60歳代)
- ・給料の違い。(女性 40歳代)
- ・男性の育児参画を進めるために、育児休暇制度は整ってきているが、その間の仕事や役割を補助する人員を確保したり、負担が増えた同僚に給付したりすることができないと、実際には取得が難しくなる。男性の育休取得、介護休暇取得は大いに賛成だが、現場が回らなくならないようにするための制度や方策が必要だと思います。(男性 50歳代)

地域社会について

- ・地方は古い、仕事の種類が少ないので女性が活躍する場がない。(女性 50歳代)
- ・今の職場は、同僚、上司、皆さん、とても良い方ばかりで、特に不満に思うことはありません。地域社会の役員を引き受けてくださる方がなかなかいないのが心配なくらいでしょうか。(女性 70歳以上)
- ・田舎に住んでいる為、昔ながらの考えが残っている。(女性 50歳代)
- ・家庭のことは、女性主体かなと思います。地域社会は、けっこう男女平等の感じがします。(女性 40歳代)
- ・田舎なのでよく言う年配者の偏った考えがまかり通っている。それは違うが通じない。その世代に育てられた人も多いので、その感覚は途切れない。(女性 50歳代)

- ・インターネット社会なのだから広い世間を知るべきだと思う。（女性 50歳代）
- ・市町村窓口と警察窓口は偏見に満ちていて相談にならない。二次被害を作り出すだけ。全員にもっと配慮と研修等が必要。（女性 60歳代）
- ・田舎はまだ男尊女卑です。（女性 60歳代）
- ・群馬は特に保守的な土地柄なので、他府県より積極的な啓蒙が必要だと思います。（男性 60歳代）
- ・シニア世代は女性が働くだけでも文句を言う人が多い。また、田舎においてリーダーが女性だと暴力的になる男性も多い。（女性 30歳代）
- ・やはり少年期からの地域における体験を伴う学びの場が必要。（男性 60歳代）
- ・地域社会の役員をしましたが、一番封建的な土壌で、ほとんどの役員が男で、疑問を持つ人などは皆無で何の疑問も持っている人はいません。（男性 70歳以上）
- ・田舎では家事等、女性や母親が、やって当然という雰囲気がとても強いです。（女性 50歳代）
- ・地域の活動においても女性の出席率が高いが男性の出席率が低いそれぞれの意識の問題とは思いますが、参加したくないというのが本音なのかもしれません。だから自治会を抜ける人が後を絶たないので、今後の自治会運営に支障が出てくることが予想されます。（男性 50歳代）
- ・育成会の会長は男性になると決まっており、地域ではまだこういった古い考えばかりだなと、思っている。（女性 30歳代）
- ・人権や平等について改革されている企業や職場もあれば、昔のままの意識のところもあり、所属組織、地域、環境によって差が大きい。（女性 40歳代）
- ・田舎なので、まだまだ平等にはなっていない。男尊女卑が当たり前の職場もある。（女性 30歳代）
- ・女性の管理職登用の推進「女性は管理職大変だからやりたがらない」。（男性 70歳以上）
- ・女性が、有能な女性の社会進出を疎ましく思うケースが良くない空気を生んでいるように思う。（男性 40歳代）
- ・女性管理職を増やす事ばかり優先している為、能力がないのに管理職になって本末転倒。（男性 40歳代）
- ・工業系の製造業では現場での女性就労が難しいのが現実。（男性 60歳代）
- ・年収の壁を意識した短時間パートではなく、フルタイムで働きたいが、育児家事との両立が自分には難しい。（女性 30歳代）
- ・会社内の女性の地位が低すぎるので、改善されると良いと思います。（女性 40歳代）
- ・女性に正規雇用の場が増えると良い。（女性 50歳代）
- ・女性が働き、男性がもっと家庭を大事にできれば、時間の見直しが家族間、社会において出来るようになるのかなと思う。（男性 20歳代）
- ・女性が社会進出出来る機会がもっと増えれば良いと思います。（男性 60歳代）
- ・女性のリーダーシップを高める支援、施策を行ってもらいたい。（男性 70歳以上）
- ・病院は職場としては女性が多くみんな責任感が強く良く働く人が多いので女性の社会進出は積極的に進んでいって欲しい。（男性 30歳代）
- ・しきたりや固定観念で女性はでしゃばるなという雰囲気がある。（男性 50歳代）
- ・自分自身、仕事を諦めたことはありません。ただ、相手が望むのであれば受け入れなければいけないのかと悩むことがあり、誰にも相談できず、精神的におこまれていました。先ほどのアンケートで経済的な暴力という言葉があり、そんなものがあるかと思っておらず、知らないからこそ気づかないことがあると思いました。悩んでいる女性、男性が誰にも言えずにいることがなくなるといいなと思います。（女性 20歳代）
- ・女性や若い人は職場地域において責任を感じるものに参加したがない。（男性 70歳以上）
- ・まだまだ、女性が家事育児介護を担っていることが多いと思います。中高年の中には知らず知らずのうちにそういった事が当たり前だと、私を含め刷り込まれています。意識改革をおこなわない限り少子化は止まらないと思います。（女性 50歳代）
- ・女性役員を増やす、とかが意味わからない。今までだって有能な女性は役員になっていた。無能だろうが関係なく優遇、優先して重要なポジションに就かせるのはおかしいと思う。（男性 30歳代）
- ・絶対的に女性でしか出来ないことあることを認識して考えて。（男性 40歳代）
- ・女性自身の意識改革も必要。（男性 60歳代）

女性の参画社会について

- ・最近では、企業が女性の社会参画を推進させるために同じスペックもしくは多少劣っていても女性を優先させようとしている。逆に言えば今は女性の方が優遇されていると思う。きちんとした人事効果がなされていない。（男性 30歳代）
- ・女性が社会にできるようになったが、家事は結局女性がやっているため女性の負担がかえって増えている。また男性の給料だけでは生活できないため仕事を辞めることもできない。（女性 20歳代）
- ・女性の敵は女性。女性の社会進出やいろんな制度の活用がすすまないのは、自分は制度がなく諦めたことを実現する同性を目の敵にする人が多いからです。地域社会は、長年おじさんたちがやってきたやり方を無理やり変えるのは大変だし、逆に色んなものが終わってしまう可能性があるので、配慮して進めてほしい。終わらせるのは簡単、変えるのは困難、新しく始めるのは不可能。（男性 30歳代）

- ・ 国、地方とももっと女性がトップに成るべきだと思う。（男性 60歳代）
- ・ どんどん女性が出ていくべき。（男性 70歳以上）
- ・ 女性は結婚をしないといけない、結婚して子供を産まないといけないという風習をなくしてほしい。ある程度の年齢になると、何かあって結婚できなかったのかという考えもやめて欲しい。（女性 30歳代）
- ・ 女性の社会進出も進んでいるし男性も子育てや家事に積極的だし十分だと、思う。（女性 30歳代）
- ・ 自身が子供の頃に比べて、地域活動や子供の学校での活動において父親の参加がみられたりするようになったが、職場ではまだまだ男性は育児休暇を取得出来なかったり、女性も妊娠したら離職するのが当たり前の環境を目の当たりにしているし、自身もそうだったので子育てが落ち着いてからでないと正規雇用は見込めないし、そもそも子育てが落ち着いてからでは年齢のハードルがあがり正規雇用されないのではないかと考えているが本音は安定した正規雇用で働きたいと思っている。（女性 40歳代）
- ・ 実力がないのに、女性管理職の割合目標があるため、女性が昇進している。（女性 40歳代）
- ・ 女性の社会進出を阻んでいるのは、出産・育児に対する、無理解な人がいることだと思う。育休取られてサポートする側は大変だと思うが、この、危険過ぎる少子化を考えたら、子供が産まれると云うのは、未来の日本にとって有難い事。職場の今以上の理解と給与の保障が必要かと。でないと、ワーキングマザー&ファーザーの幸福度が益々下がる。すると、仕事に対してもモチベーションが持てず、企業繁栄に繋がらないと考える。（女性 60歳代）
- ・ 女性ならではの考えを進めた方がいい。（男性 30歳代）
- ・ 女性の平等に力を入れているが、一部の女性の考え方を変えないと、まず始まらない。（男性 50歳代）
- ・ 女性の参加者があまりにも少ない。（男性 60歳代）
- ・ 女でも正社員にして欲しい。（女性 50歳代）
- ・ 入りやすく、離脱しやすい福祉制度。（男性 50歳代）
- ・ 支援環境のPRを願いたい。（男性 70歳以上）
- ・ 不必要なNP0に税金を使いすぎる。相談窓口は法などに直結する（罰則強化）流れであって欲しい。家族等への他者からのDVや会社の労基違反等かなり相談して解決に至らなかったの。（女性 60歳代）
- ・ 保育園を増やし、保育料を無料にする。（女性 60歳代）
- ・ 気軽に相談できる場所。無料で支援してくれる組織がほしい。（女性 70歳以上）
- ・ 相談窓口では、親身になって話を聞いてほしいです。マニュアルを見て答えている人が多いです。一人ひとりに合ったアドバイスをしてほしいです。（女性 50歳代）
- ・ 給与所得増進。（男性 30歳代）
- ・ 老人に対してとか、低所得者に対して給付金配って、中間層に対しての支援が国も県もない。生活がしんどい。（男性 30歳代）
- ・ いろいろな組織が多すぎる。問題を問題にしているいろいろなシステムや制度を作って仕事にして儲けていると思う。そういうシステムを作って儲ける人は優秀だと思う。（男性 40歳代）
- ・ 行政がやる気がない。同一労働同一賃金と言ったら、まったく同じにしないとダメ。男女も制度上はまったく同じにする。（男性 50歳代）
- ・ 本当に当事者の立場で支えてくれる人がいるのか大変疑問。（男性 60歳代）
- ・ 認知度が低いと思われるので、さらなるPRが必要だと思います。（男性 70歳以上）
- ・ 選択的夫婦別姓制度も同じ根を持っている。もっと積極的に推進し、法制化すべき。（男性 70歳以上）
- ・ 家族から、しつけという暴力はたくさん受けてきましたし、学校でも理解不能な暴力も受けました。時代が違うから、理解してくれる機関や相談窓口も・・・ありませんでしたが、今の若い人はいいな～と思います。（女性 40歳代）
- ・ 両親で仕事をしている家庭が多く、子供が放課後など、伸び伸びと過ごせる場所の確保が必要。（女性 40歳代）

施策

- ・ 社会保険料を安くすることが男女の雇用差を生まないために必要。（男性 20歳代）
- ・ 国の政策はやるやる詐欺で国会の場でもなかなか議論されていない。（男性 60歳代）
- ・ 国や県が方針を宣言し、民間会社に実態調査し公表すると早期に進むと思う。（男性 30歳代）
- ・ 給料を上げる。（男性 20歳代）
- ・ 社会の経済格差、就労格差を減らさないと日本社会も危うくなる。（男性 70歳以上）
- ・ 国、地域が先頭にたって実施する。（女性 50歳代）

父母の協力者や相談相手になれる機関や集まりがあると、子育てに、もう少し抵抗がなくなると思う。子供を育てていると、親も元気な時ばかりではないので、家庭によって、経済的、体力的など、協力が必要な家庭が異なると思うので、気軽に話を聞いてもらえたり、共感してもらえたりする場があると、子供に余裕を持って接する事ができ、頑張り過ぎを防げると思う。（女性 40歳代）

娘の配偶者のDVに悩んでいる。同じ市内で生活基盤あるため、逃げられない。市役所は忙しいとのことで相談にのってくれなかった。（女性 50歳代）

- ・相談窓口を増やし対応してほしい。（女性 50歳代）
- ・能力主義で良いと思っているので、これ以上は無駄に税金を使わないでほしい。（男性 30歳代）
- ・行政窓口の分かりやすさ、官民一体の丁寧な対応策。（男性 60歳代）

その他

- ・この手の話で少しでもネガティブな意見を言うと圧倒的に否定されるから勝手にやって欲しい。（男性 40歳代）
- ・性別の定義を曖昧にしたままでは議論が進みにくいのでまずそこからだと思います。（男性 50歳代）
- ・権利主張が言える世の中に、自我意識を持って生きる人。（男性 70歳以上）
- ・男女平等問題ではないけど、子無し独身中年女性は、子あり既婚女性にマウント取られる。（女性 50歳代）
- ・認知症の介護者がいるので世間の事は、分かりません。（男性 70歳以上）
- ・挨拶して、無視されたら傷つく。（女性 40歳代）
- ・難しい問題。（女性 60歳代）
- ・考えるけど、どうにもならないと感じている。（女性 60歳代）
- ・個人個人の意識の違い。（女性 60歳代）
- ・理想と現実が違いすぎる場面が多い。（女性 70歳以上）
- ・最近では、進んでいると思います。（女性 70歳以上）
- ・思いやりの心を持って相談に乗る。（男性 70歳以上）
- ・長い時間がかかると思います。（女性 60歳代）
- ・日本国内の問題。（男性 50歳代）
- ・面倒くさい世の中になったものだと思う。自ら縛りを強めて、それこそが“生きづらい世の中”を形づくっているのではないのか。（男性 60歳代）
- ・政治家の行動がすべて悪い。（男性 60歳代）
- ・先進国に比べまだまだ遅れている。（男性 60歳代）
- ・見直しが必要だと考えています。（男性 30歳代）
- ・社会は理不尽だが、妥協する事、妥協しない事の意識が重要と感じる。（男性 60歳代）
- ・始まりは全てコミュニケーション不足と相手を認めての対応の欠如だと思う。（男性 70歳以上）

- ・世の中の人々の考え方が変わっていくことを望みます。みんなが協力し合って、見守りあって過ごすことが出来る社会です。（男性 70歳以上）
- ・夜勤仕事がない。（女性 50歳代）
- ・それぞれの考え方があるので難しいと思いました。（女性 50歳代）
- ・表面に出ないものも拾い上げお願いします。（女性 70歳以上）

第 4 章 資料編

県民意識調査集計表

F1 性別	人	%
女性	986	49.3
男性	1014	50.7
わからない、答えたくない	-	-
計	2000	100

F2 年代	人	%
18～29歳	217	10.9
30歳代	311	15.6
40歳代	392	19.6
50歳代	422	21.1
60歳代	397	19.9
70歳代以上	261	13.1
計	2,000	100.0

	女性		男性	
	人	%	人	%
18～29歳	135	13.7	82	8.1
30歳代	127	12.9	184	18.1
40歳代	182	18.5	210	20.7
50歳代	228	23.1	194	19.1
60歳代	231	23.4	166	16.4
70歳代以上	83	8.4	178	17.6
計	986	100.0	1,014	100.0

F3 居住地区	人	%
前橋圏	328	16.4
渋川圏	114	5.7
伊勢崎圏	263	13.2
高崎・安中圏	446	22.3
藤岡圏	70	3.5
富岡圏	69	3.5
吾妻圏	50	2.5
利根・沼田圏	77	3.9
太田・館林圏	425	21.3
桐生圏	158	7.9
計	2,000	100.0

F4 職業	人	%
正社員・正職員	828	41.4
パート・アルバイト・契約社員	413	20.7
派遣社員	43	2.2
自営(商工業)	82	4.1
自営(農林漁業)	23	1.2
専業主婦・主夫	225	11.3
学生	37	1.9
無職	312	15.6
その他	37	1.9
計	2,000	100.0

F5 結婚	人	%
している(事実婚を含む)	1229	61.5
していない(離別・死別等)	223	11.2
していない(未婚・非婚)	548	27.4
計	2,000	100.0

F6 世帯構成	人	%
一人暮らし	354	17.7
夫婦二人のみ(事実婚を含む)	562	28.1
二世帯世帯・三世帯世帯	1031	51.6
その他	53	2.7
計	2,000	100.0

F7 配偶者の職業	人	%
正社員・正職員	532	43.3
パート・アルバイト・契約社員	222	18.1
派遣社員	14	1.1
自営(商工業)	53	4.3
自営(農林漁業)	13	1.1
専業主婦・主夫	152	12.4
学生	4	0.3
無職	226	18.4
その他	13	1.1
計	1229	100.0

F8 子どもについて	人	%
未就学児	176	8.8
小学生	179	9.0
中学生	105	5.3
高校生以上の学生	212	10.6
社会人	724	36.2
子どもはいない	806	40.3
計	2,000	100.0

子どもの有無	人	%
子どもがいる	1194	59.7
子どもはいない	806	40.3
計	2,000	100.0

F9 子どもの人数	人	%
1人	335	28.1
2人	610	51.1
3人	222	18.6
4人以上	27	2.3
計	1194	100.0

問10 あなたは、次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。(それぞれ1つに○)(N=2000)

人	男性のほう が非常に優 遇されてい る	どちらかとい えば男性のほう が優遇されてい る	平等に なっている	どちらかとい えば女性のほう が優遇されてい る	女性のほう が非常に優 遇されてい る	わからない	計
家庭	209	588	700	189	66	248	2,000
職場	313	760	510	118	43	256	2,000
学校教育の場	82	312	1084	62	23	437	2,000
政治の場	641	773	280	62	15	229	2,000
法律や制度	317	691	560	103	35	294	2,000
地域社会	262	776	554	89	22	297	2,000
社会通念・習慣・ しきたり	407	893	359	60	23	258	2,000
社会全体	270	1007	350	89	27	257	2,000

%	男性のほう が非常に優 遇されてい る	どちらかとい えば男性のほう が優遇されてい る	平等に なっている	どちらかとい えば女性のほう が優遇されてい る	女性のほう が非常に優 遇されてい る	わからない	計
家庭	10.5	29.4	35.0	9.5	3.3	12.4	100.0
職場	15.7	38.0	25.5	5.9	2.2	12.8	100.0
学校教育の場	4.1	15.6	54.2	3.1	1.2	21.9	100.0
政治の場	32.1	38.7	14.0	3.1	0.8	11.5	100.0
法律や制度	15.9	34.6	28.0	5.2	1.8	14.7	100.0
地域社会	13.1	38.8	27.7	4.5	1.1	14.9	100.0
社会通念・習慣・ しきたり	20.4	44.7	18.0	3.0	1.2	12.9	100.0
社会全体	13.5	50.4	17.5	4.5	1.4	12.9	100.0

問11 あなたは、結婚に関する以下の考え方についてどう思いますか。(それぞれ1つに○)(N=2000)

	賛成	どちらか といえば賛成	どちらか といえば反対	反対	わからない	計
人						
結婚する、しないは個人の自由である	1208	542	87	23	140	2,000
結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい	945	610	211	40	194	2,000
結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない	924	708	154	24	190	2,000
夫婦別姓(別苗字)を選択できることを認めるほうがよい	703	567	254	138	338	2,000
事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい	603	677	275	126	319	2,000
同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい	585	635	242	163	375	2,000

	賛成	どちらか といえば賛成	どちらか といえば反対	反対	わからない	計
%						
結婚する、しないは個人の自由である	60.4	27.1	4.4	1.2	7.0	100.0
結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい	47.3	30.5	10.6	2.0	9.7	100.0
結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない	46.2	35.4	7.7	1.2	9.5	100.0
夫婦別姓(別苗字)を選択できることを認めるほうがよい	35.2	28.4	12.7	6.9	16.9	100.0
事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい	30.2	33.9	13.8	6.3	16.0	100.0
同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい	29.3	31.8	12.1	8.2	18.8	100.0

問12 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。(1つに○)(N=2000)

	人	%
そう思う	48	2.4
どちらかといえばそう思う	345	17.3
どちらかといえばそう思わない	543	27.2
そう思わない	887	44.4
わからない	177	8.9
計	2,000	100.0

問13 子どものころ、あなたの家庭では、「男は仕事、女は家庭」という状況でしたか。(1つに○)(N=2000)

	人	%
そうだった	598	29.9
どちらかといえばそうだった	656	32.8
どちらかといえばそうではなかった	268	13.4
そうではなかった	381	19.1
わからない	97	4.9
計	2,000	100.0

問14 あなたは、以下の家庭内における理想の役割について、どのように担うべきだと思いますか。(それぞれ1つに○)(N=2000)

人	主として男性が 担うべき	男女が共に 担うべき	主として女性が 担うべき	その他	計
家事	66	298	1624	12	2,000
育児・子育て	46	311	1635	8	2,000
看護・介護	68	173	1744	15	2,000
学校行事などへの参加	61	173	1753	13	2,000
自治会などの地域活動	187	82	1713	18	2,000
家計の管理	87	341	1552	20	2,000
主たる収入	526	63	1393	18	2,000

%	主として男性が 担うべき	男女が共に 担うべき	主として女性が 担うべき	その他	計
家事	3.3	14.9	81.2	0.6	100.0
育児・子育て	2.3	15.6	81.8	0.4	100.0
看護・介護	3.4	8.7	87.2	0.8	100.0
学校行事などへの参加	3.1	8.7	87.7	0.7	100.0
自治会などの地域活動	9.4	4.1	85.7	0.9	100.0
家計の管理	4.4	17.1	77.6	1.0	100.0
主たる収入	26.3	3.2	69.7	0.9	100.0

◆「その他」の記述内容

■家事

- ・それぞれの労働環境に合わせて柔軟に対応するべき (男性 20 歳代)
- ・できる人がやる (女性 30 歳代)
- ・やれるほう (男性 40 歳代)
- ・やれる人がやる (男性 40 歳代)
- ・わからない (男性 20 歳代)
- ・わからない (男性 30 歳代)
- ・家庭によってどちらでもよい (女性 60 歳代)
- ・共働きかどうかで変わる (男性 50 歳代)
- ・事情による (女性 70 歳以上)
- ・時間に余裕ある方がやる (男性 70 歳以上)
- ・得意な人が担えば良い (男性 60 歳代)
- ・得意な方が主として協力 (男性 60 歳代)
- ・家庭によってどちらでもよい (女性 60 歳代)
- ・介護や看護も楽しみの一つとしたい、ただし負担が大きくならないよう公的な支援は受けるべきである (男性 20 歳代)
- ・外部サービスに頼るべき (女性 30 歳代)
- ・外部サービスを使う、男女関係なく (女性 20 歳代)
- ・外部サービスを利用するべき (男性 50 歳代)
- ・共働き? (男性 50 歳代)
- ・経験がないので (女性 60 歳代)
- ・全部外部サービス利用するべき (女性 50 歳代)

■育児・子育て

- ・それぞれの家庭環境に合わせて柔軟に対応するべき (男性 20 歳代)
- ・できる人がやる (女性 30 歳代)
- ・やれるほう (男性 40 歳代)
- ・わからない (男性 20 歳代)
- ・わからない (男性 30 歳代)
- ・家庭によってどちらでもよい (女性 60 歳代)
- ・共働きかどうか? (男性 50 歳代)
- ・担うべきと言うよりも子供の成長を楽しみたい (男性 20 歳代)
- ・学校行事などへの参加
- ・それぞれの環境に合わせて対応するべき (男性 20 歳代)
- ・できる人がやる (女性 30 歳代)
- ・やれる人がやる (男性 40 歳代)
- ・わからない (男性 20 歳代)
- ・わからない (男性 30 歳代)
- ・家庭によってどちらでもよい (女性 60 歳代)
- ・共働き? (男性 50 歳代)
- ・行けるほう (男性 40 歳代)
- ・参加しなければならぬと言う制度を廃止するべき (男性 50 歳代)
- ・仕事の都合次第 (男性 50 歳代)
- ・子供の性別や性格、時期にあわせる (男性 40 歳代)
- ・担うべきと言うよりも子供と一緒に楽しみたい (男性 20 歳代)
- ・同じくらい (女性 40 歳代)

■看護・介護

- ・すべて外部サービスに頼るべき (女性 40 歳代)
- ・それぞれの環境に合わせて柔軟に対応するべき (男性 20 歳代)
- ・できる人がやる (女性 30 歳代)
- ・やれるほう (男性 40 歳代)
- ・やれる人がやる (男性 40 歳代)
- ・わからない (男性 20 歳代)
- ・わからない (男性 30 歳代)
- 自治会などの地域活動
- ・あまり参加したくない (女性 60 歳代)
- ・それぞれの環境に合わせて対応するべき (男性 20 歳代)
- ・できる人がやる (女性 30 歳代)
- ・やれる人がやる (男性 40 歳代)
- ・わからない (男性 20 歳代)

- ・わからない（男性 30 歳代）
 - ・家庭で担うものだとは思わない（女性 50 歳代）
 - ・家庭によってどちらでもよい（女性 60 歳代）
 - ・外部委託のみでやるべき（女性 60 歳代）
 - ・共働き？（男性 50 歳代）
 - ・最低限のみ臨機応変に参加（男性 50 歳代）
 - ・参加の必要なし（女性 20 歳代）
 - ・担うべきというよりも関係性を上げることやコミュニケーションを楽しみたい（男性 20 歳代）
 - ・同じくらい（女性 40 歳代）
 - ・得意な方が主として協力（男性 60 歳代）
 - ・任意にすべき（男性 30 歳代）
 - ・必要ない（男性 20 歳代）
 - ・不要（男性 30 歳代）
- 家計の管理
- ・それぞれが話し合って判断するべき（男性 20 歳代）
 - ・できる人がやる（女性 30 歳代）
 - ・できる方が（男性 30 歳代）
 - ・どちらでも可（男性 70 歳以上）
 - ・わからない（男性 20 歳代）
 - ・わからない（男性 30 歳代）
 - ・家庭によってどちらでもよい（女性 60 歳代）
 - ・各々の収入はそれぞれで管理する（男性 20 歳代）
 - ・管理能力が長けている方が主導するのが理想（男性 50 歳代）
 - ・共働き？（男性 50 歳代）
 - ・向いている人が担う（女性 60 歳代）
 - ・向いている人が担えば良い（男性 60 歳代）
 - ・出来る方がやればよい（女性 60 歳代）
- 主たる収入
- ・数字に強い方が担うべき（男性 50 歳代）
 - ・同じくらい（女性 40 歳代）
 - ・得意な人がやればよい（女性 30 歳代）
 - ・得意な方（男性 40 歳代）
 - ・得意な方がやれば（男性 30 歳代）
 - ・得意な方が行方（男性 60 歳代）
 - ・得意な方が主として協力（男性 60 歳代）
 - ・その時の状況で変わる（女性 60 歳代）
 - ・それぞれによって違うので理想も何もないと思う（男性 20 歳代）
 - ・できる人がやる（女性 30 歳代）
 - ・どちらでもいい（女性 40 歳代）
 - ・やりたい人がやればよい（男性 60 歳代）
 - ・やれる人がやる（男性 40 歳代）
 - ・わからない（男性 20 歳代）
 - ・わからない（男性 30 歳代）
 - ・家庭で事情が違うため、それぞれで判断すべき、男女で分けるべきではない（女性 20 歳代）
 - ・家庭によってどちらでもよい（女性 60 歳代）
 - ・家庭によって色々では？（女性 60 歳代）
 - ・共働き？（男性 50 歳代）
 - ・収入に応じて（女性 20 歳代）
 - ・収入のある方が主として担う（男性 60 歳代）
 - ・収入や地位による（女性 50 歳代）
 - ・性別に関係なく稼げる方が主となるべき（男性 50 歳代）
 - ・働ける人が働く（女性 30 歳代）
 - ・同じくらい（女性 40 歳代）

問15 あなたの家庭内における現状の役割について、どのように担っていますか。（それぞれ1つに○）（N=1646）

人	主として男性が担っている	主として女性が担っている	男女が共に担っている	外部サービス等を利用する	その他	該当しない	計
家事	81	980	493	33	8	51	1646
育児・子育て	37	741	434	34	2	398	1646
看護・介護	49	500	460	104	4	529	1646
学校行事などへの参加	55	662	493	0	2	434	1646
自治会などの地域活動	432	411	633	0	3	167	1646
家計の管理	256	812	513	0	6	59	1646
主たる収入	881	184	512	0	4	65	1646

%	主として男性が担っている	主として女性が担っている	男女が共に担っている	外部サービス等を利用する	その他	該当しない	計
家事	4.9	59.5	30.0	2.0	0.5	3.1	100.0
育児・子育て	2.2	45.0	26.4	2.1	0.1	24.2	100.0
看護・介護	3.0	30.4	27.9	6.3	0.2	32.1	100.0
学校行事などへの参加	3.3	40.2	30.0	0.0	0.1	26.4	100.0
自治会などの地域活動	26.2	25.0	38.5	0.0	0.2	10.1	100.0
家計の管理	15.6	49.3	31.2	0.0	0.4	3.6	100.0
主たる収入	53.5	11.2	31.1	0.0	0.2	3.9	100.0

◆「その他の記述内容

■家事

- ・できる方がする（男性 30 歳代）
- ・死別だから片親（女性 70 歳以上）
- ・女性同士の親子（女性 50 歳代）
- ・祖母（女性 20 歳代）
- ・得意な方が主として担う（男性 60 歳代）
- ・母子家庭（女性 20 歳代）
- ・母子家庭（女性 40 歳代）
- ・力仕事は男性（男性 70 歳以上）

■育児・子育て

- ・母子家庭（女性 20 歳代）
- ・母子家庭（女性 40 歳代）

■看護・介護

- ・いない（男性 50 歳代）
- ・特定の人（男性 50 歳代）
- ・母子家庭（女性 20 歳代）
- ・母子家庭（女性 40 歳代）

■学校行事などへの参加

- ・母子家庭（女性 20 歳代）
- ・母子家庭（女性 40 歳代）

■自治会などの地域活動

- ・祖父母に依頼（女性 40 歳代）
- ・母子家庭（女性 20 歳代）
- ・母子家庭（女性 40 歳代）

■家計の管理

- ・子どもと同居のため自分が担っている（女性 50 歳代）
- ・誰もしていない（女性 30 歳代）
- ・同居しているが別世帯（女性 50 歳代）
- ・得意な方が（男性 30 歳代）
- ・母子家庭（女性 20 歳代）
- ・母子家庭（女性 40 歳代）

■主たる収入

- ・同居しているが別世帯（女性 50 歳代）
- ・夫婦ともに年金生活者（男性 70 歳以上）
- ・母子家庭（女性 20 歳代）
- ・母子家庭（女性 40 歳代）

問16-1 あなたは、子の出産・育児に係る男性の休暇取得（育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等）についてどう思いますか。

（1つに○）（N=2000）

	人	%
男性も積極的に取得するほうがよい	802	40.1
男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない	754	37.7
男性は取得しないほうがよい	72	3.6
環境は整えた方がよいが、取得に当たっては個人の意見を尊重したほうがよい	363	18.2
その他	9	0.5
計	2,000	100.0

◆「その他」の記述内容

- ・どの家庭も条件が同じとは限らないと思う（女性 50 歳代）
- ・わからない（男性 30 歳代）
- ・わからない（男性 30 歳代）
- ・育休をとるだけで何もしない男性は女性の負担が大きいだけ。男性が自分の性格を知った上で取得してほしい。（女性 50 歳代）
- ・育児をしない育休であれば取らなくて良い（女性 30 歳代）
- ・育児休暇は取得できるなら取得した方がよいと思うが、その間の収入が減るためどちらとも言えない（女性 20 歳代）
- ・義務化すべし（女性 30 歳代）
- ・男性に育児とは何か？どうしたら責任をもって育児を分担できるか教育してから取得を考えたほうが良い。ほぼ役に立たないので。（女性 60 歳代）
- ・男性の取得を義務化（男性 50 歳代）

問16-2 あなたは、子の出産・育児に係る男性の休暇取得（育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等）しない（できない）理由は何だと思いますか。（2つまで選択可）（N=2000）

	人	%
周囲に取った男性がいないから	276	13.8
職場に取りやすい雰囲気がないから	1010	50.5
仕事が忙しいから	412	20.6
取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから	614	30.7
取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから	309	15.5
経済的に困るから	407	20.4
育児は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから	16	0.8
その他	25	1.3
わからない	260	13.0

◆「その他」の記述内容

- ・ 国が悪い (男性 40 歳代)
- ・ そもそも男性が取る事で女性が納得する考え方がなさそう。 (男性 50 歳代)
- ・ 育児に対する男性の意識が追いついていない感じがします。 (女性 70 歳以上)
- ・ 育児は女性が担うものと考える男性が多いから (女性 60 歳代)
- ・ 何もできないとわかっているから (女性 50 歳代)
- ・ 家事ができるのかが問題 (女性 40 歳代)
- ・ 会社の規則でそうになっているから (男性 50 歳代)
- ・ 休むことで自身に負担がかかる (男性 60 歳代)
- ・ 休むと無給になるから (女性 20 歳代)
- ・ 協力は産後だけの事ではない (女性 50 歳代)
- ・ 仕事する時間以外で育児参加すればよい。母側の親などが近くにいればだが (男性 30 歳代)
- ・ 実際問題として、非効率だと思うから (男性 60 歳代)
- ・ 社会・会社などの仕組みが、男が子の出産や育児について理解や仕組みがないから。 (男性 70 歳以上)
- ・ 社会の理解不足 (男性 50 歳代)
- ・ 取っても役に立たない (女性 40 歳代)
- ・ 取得しても実際育児する男性が少ない (女性 30 歳代)
- ・ 取得しても普通に休んでいるだけで協力しない (女性 60 歳代)
- ・ 取得しても役に立たないから (女性 50 歳代)
- ・ 出来ない理由は無い (男性 70 歳以上)
- ・ 代わりの人がいない (男性 50 歳代)
- ・ 男が子の扱いが下手だから (男性 40 歳代)
- ・ 男性ではいても意味がない (男性 40 歳代)
- ・ 必要ないから (男性 50 歳代)
- ・ 母乳をあげるなどを考えると母親にしかできないことの方が多いから (男性 30 歳代)
- ・ 法による強制が無いから。 (男性 50 歳代)

問 16-3 あなたは、男性の介護休業取得についてどう思いますか。(1 つに○) (N=2000)

	人	%
男性も積極的に取得するほうがよい	867	43.4
男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない	734	36.7
男性は取得しないほうがよい	72	3.6
環境は整えた方がよいが、取得に当たっては個人の意見を尊重したほうがよい	322	16.1
その他	5	0.3
計	2,000	100.0

◆「その他」の記述内容

- ・ そうした必要のない環境を整備すべきである (男性 60 歳代)
- ・ なし (女性 40 歳代)
- ・ わからない (男性 30 歳代)
- ・ 子が男一人なら積極的にやるべき (女性 40 歳代)
- ・ 取得しても協力しない (女性 60 歳代)

問 16-4 あなたは、男性が介護休業を取得しない(できない)理由は何だと思えますか。(2 つまで選択可) (N=2000)

	人	%
周囲に取った男性がいないから	322	16.1
職場に取りやすい雰囲気がないから	955	47.8
仕事が忙しいから	429	21.5
取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから	633	31.7
取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから	303	15.2
経済的に困るから	446	22.3
介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから	11	0.6
その他	18	0.9
わからない	226	11.3

◆「その他」の記述内容

- ・ いないから (男性 50 歳代)
- ・ ケアプランとのミスマッチがあるのか。 (男性 30 歳代)
- ・ そもそも、仕事と介護の両立などできるはずもないと思うから (男性 60 歳代)
- ・ 介護は女性が担うものと思っているから (女性 50 歳代)
- ・ 介護をしたくないから (男性 50 歳代)
- ・ 既に多くが取得している (男性 50 歳代)
- ・ 休みがあっても役立たずだから (女性 50 歳代)
- ・ 国が悪い (男性 40 歳代)
- ・ 自分自身の健康を重視する必要がある (男性 40 歳代)
- ・ 社会や会社に仕組みや理解がない。 (男性 70 歳以上)
- ・ 出来ない理由は無い (男性 70 歳以上)
- ・ 性別から見て女性がよい (男性 70 歳以上)
- ・ 代わりの人がいない (男性 50 歳代)
- ・ 男性には知識も技術的な介護方法も介護のマインドも、未熟状態だから。 (女性 60 歳代)
- ・ 男性に積極的意識がない (女性 60 歳代)
- ・ 男性は上手く介護できないと思うから (女性 60 歳代)
- ・ 男性本人がやりたがらないため (女性 40 歳代)
- ・ 面倒くさいから (女性 20 歳代)

問17 あなたは次の分野で男性の参画が数年前と比べて進んでいると思いますか。(それぞれ1つに○)(N=2000)

人	進んでいる と思う	どちらかとい うと進んでい ると思う	どちらかとい うと進んでい ないと思う	進んでい ないと思う	わからない	計
家事	279	921	359	180	261	2,000
育児・子育て	252	971	354	155	268	2,000
看護・介護	140	560	595	306	399	2,000
地域の行事	172	658	516	199	455	2,000
学校行事など	170	708	486	202	434	2,000

%	進んでいる と思う	どちらかとい うと進んでい ると思う	どちらかとい うと進んでい ないと思う	進んでい ないと思う	わからない	計
家事	14.0	46.1	18.0	9.0	13.1	100.0
育児・子育て	12.6	48.6	17.7	7.8	13.4	100.0
看護・介護	7.0	28.0	29.8	15.3	20.0	100.0
地域の行事	8.6	32.9	25.8	10.0	22.8	100.0
学校行事など	8.5	35.4	24.3	10.1	21.7	100.0

問18 あなたは今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(いくつでも○)(N=2000)

	人	%
男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと	1041	52.1
男性が参加することへの抵抗感を、女性がなくすこと	456	22.8
夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること	829	41.5
年長者や周囲の人が、参加しようとする当事者の考えを尊重すること	626	31.3
男性が参加することへの社会的評価を高めること	673	33.7
仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること	835	41.8
男性自身の関心を高めるための啓発や情報を提供すること	404	20.2
国や県、市町村等による講座や研修で、男性の家事、育児、介護等の能力や技能を高めること	390	19.5
男性が参加しやすくなるよう、仲間(ネットワーク)づくりを進めること	464	23.2
男性が相談しやすい窓口を設けること	375	18.8
乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程において男女共同参画を推進すること	507	25.4
その他	28	1.4

- ◆「その他」の記述内容
- ・ “参加”という考え方がそもそもおかしいと思う。男女分業がなぜ悪いことなのか。世の中、昔のほうが今よりもずっとうまくいっていたのではないか。過去と現在の違いをもっと学ぶべきである。(男性 60 歳代)
 - ・ 1 人で全ての家事をする経験をすれば多少変わるかも (男性 30 歳代)
 - ・ やりたくないから逃げているだけ (女性 50 歳代)
 - ・ わからない (女性 50 歳代)
 - ・ 企業の価値観の見直し (男性 30 歳代)
 - ・ 休暇を取得する人ではなく、仕事を被るその係の係員に給付金を支給。(男性 50 歳代)
 - ・ 休日・賃金を増やす (男性 30 歳代)
 - ・ 社会が男性のそういった活動参加がしやすい環境を整備すること (男性 20 歳代)
 - ・ 政治家など偉い立場の人が経験して体感すること (女性 30 歳代)
 - ・ 男女間の収入の差からも収入の高い男性が働き、収入の低い女性が家事、育児を担う風潮が抜けていないので女性の正社員採用を積極的に行い収入も男性と同じくらいの水準にする (女性 40 歳代)
 - ・ 男女平等とか馬鹿みたいな政策じゃなくて育児も介護も格安で受けられるように国が指揮をとるか、税金を減らすしかない和生活できないからだと思う (男性 30 歳代)
 - ・ 男性が家事、育児、介護、地域活動をするべきであると言う義務的な圧力がより男性の内的動機づけの邪魔となっていると考えるため男性が自身の心の奥底から参加したいと思える考えを持つことや環境を整えるべき (男性 20 歳代)
 - ・ 男性は新しく関係を作るコミュ力がないのが課題 (男性 30 歳代)
 - ・ 働いている人は会社環境に左右されるので一概に判断できない (男性 70 歳以上)
 - ・ 必要か否かと考えれば、まだまだ女性だけ負担している (女性 40 歳代)
 - ・ 勉強で介護、育児に対する知識が必要。女性は必然でできるようになるが男性は努力が必須。(女性 60 歳代)
 - ・ 爺さん、婆さんが進んで見本となる行動をとる。(男性 70 歳以上)
 - ・ 経済的な支援 (7 件)
 - ・ 法的、行政的な強制力 (4 件)

問19 「女性の働き方」について、あなたはどのように思いますか。(1つに○)(N=2000)

	人	%
結婚するまでは仕事を続けるほうがよい	67	3.4
子どもができるまでは、仕事を続けるほうがよい	104	5.2
子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい	543	27.2
子どもができたら雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい(正規雇用から非正規雇用に変える等)	312	15.6
子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい	105	5.3
女性は仕事に就かないほうがよい	19	1.0
そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない	556	27.8
その他	16	0.8
計	2,000	100.0

◆「その他」の記述内容

- ・ お好きにどうぞ (男性 60 歳代)
- ・ その時のライフスタイルに合った働き方を選べる社会になってほしい (女性 20 歳代)
- ・ その人の都合にあわせて働く (女性 50 歳代)
- ・ 各家庭で話し合って決めれば良い (女性 50 歳代)
- ・ 結婚したら、無理に働かなくてもよい。(男性 60 歳代)
- ・ 個人の気持ち、立場を尊重すべき (男性 50 歳代)
- ・ 個人の自由 (男性 40 歳代)
- ・ 雇用形態を変えずに復職することが難しい (女性 60 歳代)
- ・ 仕事が好きで働きたい人以外は、一馬力でもやっていける世の中になって欲しい (女性 50 歳代)
- ・ 子どもの状況に応じて雇用を変える必要があれば変えて、なければそのままの雇用で働く (女性 20 歳代)
- ・ 自分のしたいようにする (男性 40 歳代)
- ・ 人による (女性 30 歳代)
- ・ 人による (女性 30 歳代)
- ・ 妊娠、出産をすると以前の体の調子と異なる部分が出てくる方もいると思うので、一概にこれがよいとはいえない。(女性 20 歳代)
- ・ 本人の好きにしたらよい (女性 30 歳代)
- ・ 幼児期は仕事を休職し一定期間で復職を認める制度化 (男性 70 歳以上)

問20 あなたは、進路や職業を選択する際に、自分の性別を意識したことがありますか。(1つに○)(N=2000)

	人	%
かなり意識した	156	7.8
どちらかといえば、意識した	560	28.0
どちらかといえば、意識しなかった	494	24.7
ほとんど・まったく意識しなかった	790	39.5
計	2,000	100.0

問21 以下の生活中的の時間について、増やしたいか、減らしたいか、お選びください。(それぞれ1つに○)(N=2000)

人	大幅に増やしたい	少し増やしたい	現在のままで良い	少し減らしたい	大幅に減らしたい	該当しない	計
仕事(収入を伴う仕事、学業等)の時間	162	298	775	278	146	341	2,000
家事時間	57	280	1073	307	115	168	2,000
育児・子育て時間	54	161	628	134	43	980	2,000
介護時間	35	101	504	148	83	1129	2,000
自分のことに使う時間(趣味、自己啓発、くつろぎ等)	295	615	897	68	19	106	2,000
家族と遊んだり、くつろいだりする時間	196	526	957	72	26	223	2,000
地域活動の時間	36	154	1075	185	171	379	2,000

%	大幅に増やしたい	少し増やしたい	現在のままで良い	少し減らしたい	大幅に減らしたい	該当しない	計
仕事(収入を伴う仕事、学業等)の時間	8.1	14.9	38.8	13.9	7.3	17.1	100.0
家事時間	2.9	14.0	53.7	15.4	5.8	8.4	100.0
育児・子育て時間	2.7	8.1	31.4	6.7	2.2	49.0	100.0
介護時間	1.8	5.1	25.2	7.4	4.2	56.5	100.0
自分のことに使う時間(趣味、自己啓発、くつろぎ等)	14.8	30.8	44.9	3.4	1.0	5.3	100.0
家族と遊んだり、くつろいだりする時間	9.8	26.3	47.9	3.6	1.3	11.2	100.0
地域活動の時間	1.8	7.7	53.8	9.3	8.6	19.0	100.0

問22-1 現在働いている方にうかがいます。あなたの働き方が変化したことがありますか。以下のライフイベントに当てはまるものを全てお選びください。(それぞれいくつでも○)(N=1426)

人	仕事を辞めたことがある	正規雇用から非正規雇用になったことがある	非正規雇用から正規雇用になったことがある	休暇、休業等の制度を利用して雇用を継続した	特に変化はなかった	ライフイベントを経験していない	その他
結婚	235	96	34	36	706	328	5
出産(ご自身または配偶者の出産)	218	86	36	97	553	448	2
育児・子育て	162	88	52	96	578	455	5
介護	57	70	36	54	530	685	2
その他	12	2	2	1	17	12	3

%	仕事を辞めたことがある	正規雇用から非正規雇用になったことがある	非正規雇用から正規雇用になったことがある	休暇、休業等の制度を利用して雇用を継続した	特に変化はなかった	ライフイベントを経験していない	その他
結婚	16.5	6.7	2.4	2.5	49.5	23.0	0.4
出産(ご自身または配偶者の出産)	15.3	6.0	2.5	6.8	38.8	31.4	0.1
育児・子育て	11.4	6.2	3.6	6.7	40.5	31.9	0.4
介護	4.0	4.9	2.5	3.8	37.2	48.0	0.1
その他	24.5	4.1	4.1	2.0	34.7	24.5	6.1

◆ライフイベント「その他」の記述内容

- ・65歳以降(女性 60歳代)
- ・お金(男性 40歳代)
- ・コロナ(男性 50歳代)
- ・ストレス(男性 50歳代)
- ・意欲低下(女性 60歳代)
- ・一身上(男性 50歳代)
- ・冠婚葬祭(女性 60歳代)
- ・現在(女性 40歳代)
- ・自由(男性 50歳代)
- ・収支(男性 50歳代)
- ・整理解雇(男性 60歳代)
- ・同棲(女性 20歳代)
- ・不況(女性 60歳代)
- ・不妊治療(女性 40歳代)
- ・仕事、転職、転勤(11件)
- ・病気、体調不良(8件)
- ・引越し(4件)
- ・趣味(4件)
- ・娯楽、プライベート(3件)
- ・離死別(3件)
- ・育児(2件)

◆働き方の変化「その他」の記述内容

- 結婚
 - ・会社が倒産(女性 40歳代)
 - ・収入を増やす為に転職した(男性 40歳代)
 - ・大学を中退した(女性 50歳代)
 - ・特になし(男性 50歳代)
 - ・病院の為に辞めた(女性 50歳代)
 - ・整理解雇(男性 60歳代)
- 出産(ご自身または配偶者の出産)
 - ・勤務日数と時間を減らした(女性 40歳代)
 - ・出産後、時間短縮社員になった。(女性 40歳代)
- 育児・子育て
 - ・勤務日数と時間を減らした(女性 40歳代)
 - ・雇用形態を変えるため職場を変えた(女性 50歳代)
 - ・子育て中は無職(女性 50歳代)
 - ・子供が1歳になり正社員で働いた(女性 50歳代)
- 介護
 - ・保育園に安心して預けられる年齢になって専業主婦から非正規雇用で働き始めた(女性 40歳代)
- その他
 - ・勤務日数と時間を減らした(女性 40歳代)
 - ・転職した(女性 50歳代)
 - ・意欲低下(女性 60歳代)
 - ・勤務先を変えた(男性 60歳代)
 - ・仕事時間を短縮(女性 50歳代)

問22-2 現在働いている方にうかがいます。あなたの職場では、次のような男女間の不公平や、制度の未整備はありますか。

(いくつでも○) (N=1426)

	人	%
募集や採用で男女の不公平がある	246	17.3
賃金・昇給で男女の不公平がある	316	22.2
昇進・昇格で男女の不公平がある	318	22.3
入社研修や業務研究などの機会に男女の不公平がある	94	6.6
女性は補助的業務や雑務が多い	288	20.2
女性が結婚や出産を機に退職や非正規雇用となる慣習や雰囲気がある	186	13.0
男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある	284	19.9
育児・介護休業からの復帰後の処遇に不利益がある(配置転換、昇進への影響等)	126	8.8
各種ハラスメント(パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント等)の防止規定や相談窓口が設置されていない	161	11.3
育児休業や介護休業の制度がない	114	8.0
その他	11	0.8
特に男女間の不公平はない	337	23.6
わからない	268	18.8

◆「その他」の記述内容

- ・ 育休中 (女性 30 歳代)
- ・ 管理職は男性ばかり (女性 20 歳代)
- ・ 現在の職場は女性しかいないため判断できない (女性 20 歳代)
- ・ 交代勤務が主なので殆ど採用が男性 (女性 50 歳代)
- ・ 工事現場で、女性用トイレが無いとき (女性 50 歳代)
- ・ 女子専用トイレがない (女性 60 歳代)
- ・ 女性が優遇されすぎ (男性 60 歳代)
- ・ 女性が優遇されている (男性 30 歳代)
- ・ 女性だけに生理休暇がある (男性 40 歳代)
- ・ 上司の考え方が、前面に出るのは男性というのを暗に示している (女性 70 歳以上)
- ・ 肉体労働なのでそもそも女性には難しい (男性 40 歳代)

問22-3 現在働いている方にうかがいます。あなたの職場では、女性の採用や管理職登用が進んでいると思いますか。(1つに○) (N=1426)

	人	%
進んでいると思う	145	10.2
どちらかというに進んでいると思う	421	29.5
どちらかというに進んでいないと思う	284	19.9
進んでいないと思う	244	17.1
わからない	332	23.3
計	1426	100.0

問22-4 現在、働いている方にうかがいます。あなたの職場で、女性の管理職が登用されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(いくつでも○) (N= 1426)

	人	%
経営者や人事担当者の意識改革	394	27.6
様々な職種や職域への女性の登用	277	19.4
性別に関わらず能力に応じた登用	577	40.5
女性管理職登用の数値目標の設定	150	10.5
短時間勤務や在宅勤務、テレワークなど柔軟な働き方を推進する取組	229	16.1
育児休業や介護休業などの制度充実	285	20.0
人材育成の機会を男女平等に与えること	222	15.6
採用・昇進・配置において女性が満たしにくい要件(転勤など)の緩和	209	14.7
ロールモデルとなる女性管理職の育成	163	11.4
女性が管理職になることへの、男性の意識改革	285	20.0
女性が管理職になることへの、女性の意識改革	245	17.2
女性が管理職になることを阻むような慣習や管理職の考え方などの変容	176	12.3
その他	17	1.2
特に必要だと思うことはない	382	26.8

◆「その他」の記述内容

- ・ そういう職種の職場ではない。(女性 50 歳代)
- ・ パートなので人事のことに興味ない(男性 60 歳代)
- ・ わからない(女性 20 歳代)
- ・ わからない(女性 60 歳代)
- ・ 育児介護を男女平等に行うこと(女性 30 歳代)
- ・ 管理職自体がない(女性 60 歳代)
- ・ 管理能力(男性 30 歳代)
- ・ 企業としての売上が上がらないと人を雇うことなど考えられない(男性 30 歳代)
- ・ 起業しているので、わからない(女性 50 歳代)
- ・ 経験年数によって独立する人が多い(女性 50 歳代)
- ・ 考えたことがないのでわからない(男性 50 歳代)
- ・ 仕事に管理職がない(女性 60 歳代)
- ・ 女性ばかりなので男女差がない(女性 40 歳代)
- ・ 女性自身が管理職になる意欲(男性 50 歳代)
- ・ 職場に女性しかいない(女性 30 歳代)
- ・ 働いてない(女性 70 歳以上)
- ・ 派遣なので内情がわからない(女性 60 歳代)

問23-1 現在働いていない方にうかがいます。あなたのこれまでの働き方はどれですか。(いくつでも○)(N=574)

	人	%
卒業して働いたが、結婚のために仕事を辞めた	119	20.7
卒業して働いたが、出産のために仕事を辞めた	69	12.0
卒業して働いたが、育児・子育てのために仕事を辞めた	50	8.7
卒業して働いたが、介護のために仕事を辞めた	56	9.8
卒業して働いたが、上記以外の理由で仕事を辞めた(理由)	183	31.9
その他	75	13.1
卒業して以来、働いたことはない	60	10.5

◆「卒業して働いたが、上記以外の理由で仕事を辞めた」の記述内容

- ・ メンタル(男性 40 歳代)
- ・ やりがいなくなった(女性 70 歳以上)
- ・ 家事との両立と通勤が大変で辞め、仕事は探していたが、そのうち親の介護的なもので働くタイミングを逃した(女性 40 歳代)
- ・ 兄弟の起業のため(男性 70 歳以上)
- ・ 結婚後収入に困らなさそうなので辞めた(女性 40 歳代)
- ・ 雇用形態を正社員にするため(男性 30 歳代)
- ・ 事故の後遺症で働けなくなった(女性 50 歳代)
- ・ 自宅を地下から購入するための預金額を達成したので仕事は辞めて家の中のことに専念した(女性 70 歳以上)
- ・ 自由になる為(女性 60 歳代)
- ・ 趣味として活躍して、なおかつ収入にもなることを選んだ(男性 70 歳以上)
- ・ 習い事(女性 60 歳代)
- ・ 税金の負担が重いので、働きたくない(男性 70 歳以上)
- ・ 孫の世話(女性 60 歳代)
- ・ 他のことがやりたくなったので(女性 60 歳代)
- ・ 転出(女性 50 歳代)
- ・ 病気と年齢(男性 70 歳以上)
- ・ 不況に煽られ仕事がなくなったから(女性 60 歳代)
- ・ 夫の転職(女性 30 歳代)
- ・ 留学のため(女性 40 歳代)
- ・ 定年退職、年齢(79 件)
- ・ 病気(26 件)
- ・ 体調不良、体力や健康上の理由(21 件)
- ・ 人間関係、職場環境(8 件)
- ・ 自己都合(4 件)
- ・ 倒産、会社業績悪化(4 件)
- ・ 早期退職(3 件)
- ・ パワハラ、いじめ(3 件)
- ・ 疲労(3 件)
- ・ リストラ(3 件)
- ・ FIRE(2 件)
- ・ 自分に合わない(2 件)
- ・ 特になし、回答拒否(6 件)

◆「その他」の記述内容

- ・ ずっと共働き世帯(女性 70 歳以上)
- ・ 意欲の低下(男性 70 歳以上)
- ・ 会社倒産(女性 70 歳以上)
- ・ 子供がある程度成長してから働いた(女性 60 歳代)
- ・ 自営業をやめたので(女性 70 歳以上)
- ・ 職種変更(男性 70 歳以上)
- ・ 組織活動に合わない(男性 70 歳以上)
- ・ 病気療養(男性 60 歳代)
- ・ 定年退職、年齢(42 件)
- ・ 在学中(10 件)
- ・ 年金受給中(5 件)
- ・ 卒業後に従事(3 件)
- ・ 体調不良、体力や健康上の理由(3 件)
- ・ 早期退職(2 件)
- ・ 特になし、回答拒否(2 件)

問23-2 現在働いていない方にうかがいます。あなたは、今後働きたいと思いますか。(1つに○)(N= 574)

	人	%
正社員・正職員として働きたい	53	9.2
パート・アルバイト・契約社員として働きたい	65	11.3
派遣社員として働きたい	5	0.9
フリーランスとして独立して働きたい	6	1.0
自分で、店や会社を起業したい	8	1.4
在宅で働ける仕事をしたい	71	12.4
その他	9	1.6
わからない	90	15.7
今後も、働きたいとは思わない	267	46.5
計	574	100.0

◆「その他」の記述内容

- ・ ボランティア活動（男性 70 歳以上）
 - ・ 健康上の理由から体力が持てば仕事をしたい（男性 60 歳代）
 - ・ 現在パートで働いていますが、高齢ですので身体の調子にもよります。（女性 70 歳以上）
 - ・ 持病があるので、働きたい気持ちだけでは無理だと思う（女性 60 歳代）
- ・ 趣味のハンドメイドでおこづかい程度の収入がある（女性 50 歳代）
 - ・ 投資をする（男性 70 歳以上）
 - ・ 年を取り今後は働けない（女性 70 歳以上）
 - ・ 年齢的に無理（女性 70 歳以上）
 - ・ 年齢的に無理（男性 70 歳以上）

問24-1 「令和3年社会生活基本調査」によると、夫婦共働き世帯において、1日の中で家事・育児・介護等に費やす時間が、男性は53分、女性は4時間18分と、女性の方が家庭内のことにより多くの時間を費やしていることが分かっています。このことが、職業生活における女性の活躍が進まない要因の1つだという意見がありますが、この意見についてあなたはどのように思いますか。(1つに○)(N=2000)

	人	%
そう思う	536	26.8
どちらかといえばそう思う	821	41.1
どちらかといえばそう思わない	199	10.0
そう思わない	109	5.5
わからない	335	16.8
計	2000	100.0

問24-2 家事・育児・介護等に費やす時間を男女間でバランスのとれたものとし、職業生活における女性の活躍を更に推進するためには、特にどのような取組への支援が必要だと思いますか。(いくつでも○)(N=2000)

	人	%
長時間労働慣行の是正	745	37.3
業務の見直しやデジタルツール等の活用による職員負担の軽減	442	22.1
テレワーク、短時間勤務、フレックスタイム制勤務等の柔軟な働き方の導入・推進	849	42.5
育児や介護のための休暇・休業制度の整備	888	44.4
育児や介護のための休業取得等に伴う、代替人員の確保、仕事をフォローする同僚職員への手当等支給	705	35.3
仕事と家庭の両立について、職場内(管理職・同僚)の理解促進	856	42.8
女性が家事育児を行うべきという思い込みの解消	775	38.8
就労を希望する方の学び直しや就労に対する支援	314	15.7
育児や介護をサポートする設備やサービスの整備	674	33.7
その他	40	2.0

◆「その他」の記述内容

- ・ 103 万円の壁を無くす（男性 70 歳以上）
 - ・ そんな事をしていたら少子化がさらに進んでしまう（男性 40 歳代）
 - ・ 家事に男は邪魔。（女性 60 歳代）
 - ・ 看護休暇、介護休暇を取りやすくする（女性 70 歳以上）
 - ・ 仕事を行う上でより必要な技術を身につける（男性 20 歳代）
 - ・ 主張の激しいひとを排除する（男性 40 歳代）
 - ・ 少子高齢化になることを許容する覚悟をさせること（男性 40 歳代）
 - ・ 人間には向き不向きがあるので個性をいかした仕事や家事分担をすればいいと思う（女性 50 歳代）
- ・ 男性が上手く出来なくともイライラせず我慢する事（女性 60 歳代）
 - ・ 男性の意識変革（女性 50 歳代）
 - ・ 賃金格差の是正（男性 70 歳以上）
 - ・ 非正規雇用から正規雇用への促進（男性 70 歳以上）
 - ・ 手当や補助の充実（5 件）
 - ・ 女性の能力向上、社会進出（3 件）
 - ・ 個人の意識改革（2 件）
 - ・ 男女差の理解（2 件）
 - ・ 取組への支援は不要（2 件）
 - ・ 特になし、回答拒否（14 件）

問25 あなたは、次のうち、見聞きしたことがあるものはありますか。(いくつでも○)(N= 2000)

	人	%
男女共同参画社会	990	49.5
男女共同参画社会基本法	483	24.2
女性活躍推進法	510	25.5
政治分野における男女共同参画推進法	229	11.5
女性活躍・ハラスメント規制法(2020年6月より施行)	380	19.0
女子差別撤廃条約	224	11.2
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	141	7.1
ジェンダー(社会的性別)	1257	62.9
男女雇用機会均等法	1171	58.6
育児介護休業法	707	35.4
ワーク・ライフ・バランス	809	40.5
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	71	3.6
群馬県男女共同参画推進条例	151	7.6
群馬県男女共同参画基本計画	135	6.8
アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)	124	6.2
固定的性別役割分担意識	38	1.9
DV防止法	902	45.1
ストーカー規制法	1146	57.3
一時保護制度	344	17.2
保護命令制度	142	7.1
DV加害者更正プログラム	211	10.6
困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	66	3.3
見聞きしたことがあるものはない	229	11.5

問26 あなたは、数年前と比べて、群馬県の男女共同参画の社会づくりが進んでいると感じますか。(1つに○)(N=2000)

	人	%
進んでいる	58	2.9
少しは進んでいる	442	22.1
どちらともいえない	631	31.6
あまり進んでいない	239	12.0
進んでいない	134	6.7
わからない	496	24.8
計	2000	100.0

問27 あなたは、男女共同参画の社会づくりが進むと社会にどのような変化や効果が現れると思いますか。(3つまで選択可)(N=2000)

	人	%
性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる	758	37.9
男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる	740	37.0
男女がともに仕事と家事を担うことで、失業や病気などに伴う将来の生活不安が減る	480	24.0
様々な場で男女の多様な意見が反映されるようになり、誰もが暮らしやすい社会になる	438	21.9
男女の多様な視点や発想を活かすことで、地域経済の活性化につながる	326	16.3
女性の活躍の場が今よりも増える	509	25.5
男性の活躍の場が今よりも増える	70	3.5
女性への差別的な視点がなくなり、女性に対する暴力をなくすことにつながる	202	10.1
災害時の避難所においても、男女双方の視点が取り入れられ、誰もが安心して利用できるようになる	193	9.7
その他	19	1.0
わからない	413	20.7

◆「その他」の記述内容

- ・そう簡単には変わらないと思う（女性 50 歳代）
- ・より複雑でめんどくさく、さらに生きづらい世の中になっていくと思う。（男性 60 歳代）
- ・何も起きない（男性 40 歳代）
- ・結婚意識を変えないと、理想に振り回されて結婚までたどり着けない。簡単なパートナー契約みたいな雰囲気になんないといけないのでは。（男性 30 歳代）
- ・厳しい社会になる（男性 60 歳代）
- ・今の制度が進むと無能を上役にすえることもあるだろうから、きちんと能力で選ぶようにしてほしい。（男性 30 歳代）
- ・子どもの躾等に何らかの悪影響が出る可能性があるかもしれないと思う（男性 60 歳代）
- ・治安が悪化する（男性 70 歳以上）
- ・女性の自立が進んでますます未婚率が上がって出生率が下がる（男性 40 歳代）
- ・少子化が今以上に進む（男性 30 歳代）
- ・少子高齢化が進む（男性 40 歳代）
- ・大して変わらないと思う（女性 40 歳代）
- ・男女が働く内容より金銭的な支援を手厚くすればもっと余裕をもって接することが出来る（女性 30 歳代）
- ・男女と言う基準に縛られる必要がなくなったという基準に縛られることで自身に適していない職業や役割を行う人が増えることに加えて、無理に女性と男性の人数を調整することなどにより不平等が加速する（男性 20 歳代）
- ・男女共同参画とか無理に進める必要ない。（男性 70 歳以上）
- ・特に変化は無い（男性 40 歳代）
- ・必ず男女の摩擦が起きる（男性 40 歳代）
- ・不器用な男女が取り残される（男性 60 歳代）
- ・良いことばかりではない（男性 70 歳以上）

問28 あなたは、自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、地域活動にかかわる役職についてどう思いますか。(1つに○)
(N=2000)

	人	%
できるだけ、男性になるほうがよい	75	3.8
どちらかというと、男性になるほうがよい	181	9.1
適任者であれば、男女どちらでもよい	1587	79.4
どちらかというと、もっと女性になるほうがよい	81	4.1
もっと女性になるほうがよい	76	3.8
計	2000	100.0

問29 あなたは、自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも○) (N=2000)

	人	%
女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	568	28.4
女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	814	40.7
社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること	518	25.9
女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	313	15.7
女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること	312	15.6
その他	28	1.4
特にない	306	15.3
わからない	368	18.4

◆「その他」の記述内容

- ・そういう活動をもっと減らすべき（女性 30 歳代）
- ・そもそもそんなものいらない（男性 40 歳代）
- ・そもそも女性に偏っている家事や育児がちゃんと男性と半々になってからでないとそんな事をする時間は無い（女性 50 歳代）
- ・リーダーとなるに足る女性が出てくること。（男性 30 歳代）
- ・リーダーをサポートする体制づくり（男性 40 歳代）
- ・家事、育児、介護でそんな時間はない（女性 50 歳代）
- ・家族の理解（女性 60 歳代）
- ・暇があるかどうか（男性 40 歳代）
- ・過疎地域に行って貢献する（男性 40 歳代）
- ・感情的に物事を進めず、理知的な女性が多くなる（男性 60 歳代）
- ・慣習をかえる（女性 60 歳代）
- ・今のリーダーより良い案を出し実行力があればねれるのでは（男性 40 歳代）
- ・資質があれば男女関係ない（男性 50 歳代）
- ・時間のある者になるべき（男性 30 歳代）
- ・自治会は家から 1 人で、主に男性が総会に出ている。そこに出ていく流れが作れないと難しい。シングルもしくは他界したとかの事情がよくある（男性 30 歳代）
- ・実力をつける（女性 50 歳代）
- ・女性がリーダーになる力をつける（男性 20 歳代）
- ・女性の家庭の仕事を減らさなければ無駄である。（女性 60 歳代）
- ・女性の能力向上（男性 60 歳代）
- ・性別ではなく人柄や能力が必要（男性 30 歳代）
- ・正義を振りかざさない（男性 70 歳以上）
- ・男女関係なく適した人になるしくみ（男性 40 歳代）
- ・男性の家庭内における協力体制（女性 70 歳以上）
- ・地域の年長者の意識改革（女性 40 歳代）
- ・地域全体がリーダーの性別に拘らなくなる（男性 60 歳代）
- ・肉体の基本構造が変わって男性並みに筋力や体力があれば可能（男性 40 歳代）
- ・能力が高ければ（男性 40 歳代）
- ・無理に女性をリーダーにする必要ない。（男性 70 歳以上）

問30 あなたが、次にあげるような政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性がもっと増えるほうがよいと思うものはどれですか。
(いくつでも○) (N=2000)

	人	%
県・市町村の首長	888	44.4
国会・県議会・市町村議会の議員	929	46.5
県・市町村の審議会等の委員	662	33.1
国家・地方公務員の管理職	724	36.2
裁判官、検察官、弁護士	589	29.5
大学教授	453	22.7
小中学校・高校の校長	560	28.0
国連などの国際機関の管理職	435	21.8
企業の管理職	735	36.8
起業家・経営者	517	25.9
労働組合の幹部	455	22.8
農業委員	296	14.8
その他	13	0.7
特にない	629	31.5

◆「その他」の記述内容

- ・ なし (女性 20 歳代)
- ・ なんてあれ能力がある人ならば男女問わない (男性 30 歳代)
- ・ わからない (女性 50 歳代)
- ・ 産婆 (男性 40 歳代)
- ・ 性別に関係なく、適任者が就けばよい (女性 40 歳代)
- ・ 性別は関係無いと思う (女性 60 歳代)
- ・ 増える方がいいとかではなく能力のある人間が適した役職につけば良いと思う (男性 20 歳代)
- ・ 男女関係なく有能であれば良い (男性 40 歳代)
- ・ 適材適所、能力 (女性 30 歳代)
- ・ 適任者であれば男女関係ない (女性 60 歳代)
- ・ 特に女性が増えれば良いと思うのは女性優位な考え方 (男性 50 歳代)
- ・ 内閣総理大臣 (女性 20 歳代)
- ・ 要職に就くからいいと言うものでも無いと思う (女性 50 歳代)

問31 あなたは、男女共同参画社会づくりを推進するための拠点施設「ぐんま男女共同参画センター」を知っていますか。(1つに○) (N=2000)

	人	%
訪れたことがある	52	2.6
訪れたことはないが、名前は知っている	453	22.7
知らない	1495	74.8
計	2000	100.0

問32 あなたは、「ぐんま男女共同参画センター」が今後どのような役割を担うべきだと思いますか。(3つまで選択可) (N=2000)

	人	%
男女共同参画の情報、書籍、資料の収集・提供	262	13.1
男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催	339	17.0
女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催	431	21.6
女性の人材育成支援講座等の企画・開催	264	13.2
男性向け男女共同参画講座等の企画・開催	189	9.5
男性の家事育児等を推進するための企画・開催	233	11.7
学生等若年層に対する男女共同参画・ジェンダー平等講座等の企画・開催	245	12.3
女性相談事業の充実	243	12.2
男性相談事業の充実	89	4.5
男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループとの連携及び協働・活動支援	221	11.1
男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループの人材確保・養成・資質向上に必要な講座等の企画・開催	146	7.3
いつでも気軽に立ち寄れる交流の場	248	12.4
男女共同参画に関する調査・研究	109	5.5
その他	15	0.8
特にない	738	36.9

◆「その他」の記述内容

- どんな役割を担っていただくとしても、付近の人しか利用できないだろう。中心部から離れて暮らす人にとってはないのと同じように感じる（女性 50 歳代）
 - フェミニストの追放（男性 70 歳以上）
 - わからない（女性 40 歳代）
 - わからない（女性 50 歳代）
 - わからない（女性 70 歳以上）
 - 企業への周知（女性 20 歳代）
 - 企業向けの強制力のあるプログラム（男性 30 歳代）
 - 客観的にみて男女差別である事例を是正する（男性 20 歳代）
 - 群馬県内の会社に個別調査し実態がどうなっているかの調査をし公表する（男性 30 歳代）
- 女性がちゃんと仕事をこなしてくれるように訓練させる（男性 30 歳代）
 - 性別の特徴を生かした考え方や生き方の調査研究と公表（男性 60 歳代）
 - 性別の問題ではなく、能力があるかどうかが大事ということをお教えることが大事。男女の能力は同じではなく補い合うものだから。（男性 40 歳代）
 - 男女と言う考え方を無くす事への啓蒙（男性 60 歳代）
 - 男女共同参画になるように、企業を指導する力を得ること（女性 60 歳代）
 - 老若男女に周知（女性 30 歳代）

問33 男女共同参画社会を実現するために、今後、群馬県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（3つまで選択可）
(N=2000)

	人	%
県の政策決定の場への女性の積極的な登用	487	24.4
民間企業・団体等の女性の管理職登用の支援	296	14.8
男女とも育児・介護休業等が取得できるような職場環境整備への支援	615	30.8
子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援	413	20.7
女性が少ない分野(研究者等)への女性の進出支援	290	14.5
地域活動における男女共同参画の推進	241	12.1
女性に対するあらゆる暴力の根絶	223	11.2
男女ともに働き方・生き方などの悩みを相談できる場の提供	280	14.0
性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善	372	18.6
乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程における男女共同参画の推進	189	9.5
男女共同参画推進活動の拠点機能や学習機会の充実	101	5.1
防災・災害復興における男女共同参画の推進	83	4.2
その他	12	0.6
特になし	548	27.4

◆「その他」の記述内容

- ・その施策が単なる見せかけではなく、ほんとうに家庭や社会の幸福につながっているのか否かの評価（男性 60 歳代）
 - ・わからない（女性 50 歳代）
 - ・わからない（女性 70 歳以上）
 - ・過去と現状の認識（男性 40 歳代）
 - ・教育現場から（女性 50 歳代）
 - ・女だから、男だからと考えない。（女性 60 歳代）
 - ・性別がどうのというより、能力・適正を評価することが大事と思う。（男性 40 歳代）
- ・前問と同じ（男性 60 歳代）
 - ・男女関係なく支援すれば良いと思います。（女性 40 歳代）
 - ・男性とか女性とかで考えず、1 人の人間として考える（男性 20 歳代）
 - ・無能を登用や進出させないように、登用したい奴には徹底的に訓練させること（男性 30 歳代）
 - ・幼少から教育すればいいだけだと思う（男性 40 歳代）

問34 あなたは、次のようなことで困ったり、悩みを抱えていること・抱えたことはありませんか。または、家族や知人が抱えている悩みとして、見たり聞いたり相談されたりしたことがあるものはありますか。（それぞれ1つに○）(N=1609)

	配偶者やパートナー、元配偶者からの身体的な暴力、精神的な暴力、社会的な暴力、性的な暴力、経済的な暴力、子どもを利用した暴力、ストーカー行為をされた	家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている	職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている	仕事が見つからない、仕事不安定	経済的に困窮している（食品等の生活に必要なものを買えないことがある、光熱水費等の生活費が支払えないなど）	健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）	住まいが定まらない、家に居場所がない	孤独・孤立を感じる	その他	特にな	計
人											
ご自身	147	233	180	178	118	321	70	201	6	1009	1609
家族や知人	137	175	135	134	97	209	62	73	4	1141	1609

	配偶者やパートナー、元配偶者からの身体的な暴力、精神的な暴力、社会的な暴力、性的な暴力、経済的な暴力、子どもを利用した暴力、ストーカー行為をされた	家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている	職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている	仕事が見つからない、仕事不安定	経済的に困窮している（食品等の生活に必要なものを買えないことがある、光熱水費等の生活費が支払えないなど）	健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）	住まいが定まらない、家に居場所がない	孤独・孤立を感じる	その他	特にな	計
%											
ご自身	9.1	14.5	11.2	11.1	7.3	20.0	4.4	12.5	0.4	62.7	100.0
家族や知人	8.5	10.9	8.4	8.3	6.0	13.0	3.9	4.5	0.2	70.9	100.0

◆「その他」の記述内容

■ご自身

- ・家を建て替えたいが、予算が無い（女性 40 歳代）
- ・経済破綻（男性 70 歳以上）
- ・個性（男性 60 歳代）
- ・仕事がつらい（女性 50 歳代）
- ・精神疾患に対する理解が全くない（女性 50 歳代）
- ・退職により収入減り寂しい（女性 60 歳代）

■家族や知人

- ・家を建て替えたいが、資金が無い（女性 40 歳代）
- ・勤め先からの理不尽な減給（女性 60 歳代）
- ・子供さんのDV（女性 70 歳以上）
- ・色々ある（女性 60 歳代）

問35 あなたや周りの人が抱える悩みについて、誰に（どこに）相談しましたか。（いくつでも○）（N=712）

	人	%
群馬県女性相談支援センター	20	2.8
市町村の相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）	53	7.4
警察	41	5.8
法務局・地方法務局、人権擁護委員	22	3.1
医療関係者（医師・看護師等）	96	13.5
民間の専門家や専門機関（弁護士会、カウンセラー機関、民間シェルター等）	43	6.0
学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラー等）	34	4.8
児童相談所、市町村児童家庭相談窓口等	27	3.8
勤務先の関係者	65	9.1
家族や親戚	209	29.4
友人・知人	204	28.7
SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人	16	2.2
その他	8	1.1
どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった	254	35.7

問36 相談しない・しなかった理由は何ですか。（いくつでも○）（N=254）

	人	%
どこ（だれ）に相談してよいかわからないから	94	37.0
恥ずかしくてだれにも言えないから	36	14.2
相談しても無駄だと思うから	94	37.0
他人を巻き込みたくないから	37	14.6
早く忘れたいから	11	4.3
自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから	48	18.9
自分にも悪いところがあると思うから	27	10.6
相談した後の影響が不安だった（周りに知られる、被害がより大きくなるなど）	25	9.8
相手の行為は愛情の表現だと思うから（DV被害の場合）	-	-
相談するほどのことではないと思うから	56	22.0
その他	5	2.0

◆「その他」の記述内容

- ・皆、こんなもんだと思うから（男性 60 歳代）
- ・勤務先の事で勤務先の上司に相談しても有利な事にはならないから（女性 60 歳代）
- ・自己認識が薄かった（男性 70 歳以上）
- ・信頼できる相談先など身近にはないから（男性 60 歳代）
- ・他人は変えられない（男性 40 歳代）

問37 あなたは、次のようなドメスティック・バイオレンス(DV)や困ったり悩みを抱えていることなどを相談することができる窓口を知っていますか。(いくつでも○)(N=1609)

	人	%
群馬県女性相談支援センター	213	13.2
市町村の相談窓口(市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む)	313	19.5
DV相談+(内閣府相談窓口)	123	7.6
警察署における相談窓口	459	28.5
民間支援団体(シェルター運営等)	154	9.6
民間支援団体(ぐんまほほえみネット)	65	4.0
女性の人権ホットライン(前橋地方法務局)	152	9.4
法テラス群馬(DV等被害者法律相談)	272	16.9
県の保健福祉事務所	89	5.5
男性DV被害者相談電話	31	1.9
群馬県性暴力被害者サポートセンターSaveぐんま	48	3.0
犯罪被害者支援窓口(市町村、警察、民間支援団体等)	65	4.0
その他	2	0.1
いずれも知らない	814	50.6

◆「その他」の記述内容

- ・いのちの電話(女性 70歳以上)
- ・病院(男性 20歳代)

問38 あなたは、DV被害や、困ったり悩みを抱えていることについて、公的機関や民間団体の相談窓口、今後相談するとしたら、どのような配慮してほしいですか。(いくつでも○)(N=1609)

	人	%
メールにより相談ができる	531	33.0
チャットやSNSなどにより相談ができる	523	32.5
電話による相談ができる	549	34.1
通話料が無料	651	40.5
24時間相談ができる	739	45.9
専門家によるカウンセリング費用や弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる	550	34.2
相談内容に関連する他の相談窓口との連携が行われている	308	19.1
同性の相談員がいる	448	27.8
匿名で相談ができる	665	41.3
法的知識を有する相談員がいる	473	29.4
心理専門職の相談員がいる	438	27.2
その他	4	0.2
特になし	356	22.1

◆「その他」の記述内容

- ・DVは女性が受けるものという固定概念(男性 30歳代)
- ・たらいまわしにしないほしい(女性 20歳代)
- ・その場限りではなく恒久的な対策を考えてくれる(男性 40歳代)
- ・相談できない人は何をしても相談できないと思う。(男性 40歳代)

問39 DV被害やあなたの困りごと・悩みについて解決するために、どのような環境や支援があるとよいと思いますか。(いくつでも○)(N=1609)
(N=1609)

	人	%
気軽に話を聞いてもらえる相談窓口(SNS相談を含む)	750	46.6
自分の困りごとを気兼ねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人	603	37.5
利用可能な支援制度の情報提供	478	29.7
同じような悩みを抱えている人と出会える場所	275	17.1
相談や支援を受けている間の寄り添いや見守り	285	17.7
自分の困りごとや悩みに気付いて声を掛けてくれる人や相談機関	292	18.1
生活のための経済的支援	510	31.7
就労支援(就職先を探すサポート、資格取得支援など)	311	19.3
弁護士等による法的支援	497	30.9
カウンセリング等の心理学的支援	434	27.0
DV加害者に対するカウンセリングや更正を促すプログラムの実施	225	14.0
その他	6	0.4
特になし	359	22.3

◆「その他」の記述内容

- ・スーパーとかお店でチョロっと気軽に悩み不満を書いて投函する箱用意(男性 40歳代)
- ・その場限りではなく恒久的な対策を示してくれる(男性 40歳代)
- ・加害者の情報公開(男性 50歳代)
- ・警察などの権限のある者の支援(男性 40歳代)
- ・法の厳罰化(男性 50歳代)

問40-1 あなたは、この5年間に、次のようなことを配偶者や恋人等のパートナーからされたことがありますか。(それぞれ1つに○)(N=1609)

人	1・2度ある	何度もある	ない
身体的な暴力	52	33	1524
精神的な暴力・社会的な暴力	97	101	1411
性的な暴力	23	26	1560
経済的な暴力	37	47	1525
子どもを利用した暴力	32	34	1543
ストーカー行為	33	23	1553

%	1・2度ある	何度もある	ない
身体的な暴力	3.2	2.1	94.7
精神的な暴力・社会的な暴力	6.0	6.3	87.7
性的な暴力	1.4	1.6	97.0
経済的な暴力	2.3	2.9	94.8
子どもを利用した暴力	2.0	2.1	95.9
ストーカー行為	2.1	1.4	96.5

問40-2 あなたは、この5年間に、次のようなことを配偶者や恋人等のパートナーにすることがありますか。(それぞれ1つに○)(N=1772)

人	1・2度ある	何度もある	ない
身体的な暴力	33	18	1558
精神的な暴力・社会的な暴力	62	31	1516
性的な暴力	7	12	1590
経済的な暴力	14	14	1581
子どもを利用した暴力	12	19	1578
ストーカー行為	12	10	1587

%	1・2度ある	何度もある	ない
身体的な暴力	2.1	1.1	96.8
精神的な暴力・社会的な暴力	3.9	1.9	94.2
性的な暴力	0.4	0.7	98.8
経済的な暴力	0.9	0.9	98.3
子どもを利用した暴力	0.7	1.2	98.1
ストーカー行為	0.7	0.6	98.6

調査画面

あなたご自身について

Q1
必須 あなたの性別はどれですか。

- ☐ 1. 男性
- ☐ 2. 女性
- ☐ 3. わからない、答えたくない

Q2
必須 あなたの年齢は何歳代ですか。

- ☐ 17歳以下
- ☐ 18～19歳
- ☐ 20歳代
- ☐ 30歳代
- ☐ 40歳代
- ☐ 50歳代
- ☐ 60歳代
- ☐ 70歳以上

Q3
必須 あなたのお住いの市町村はどこですか。

- | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| ☐ 1. 前橋市 | ☐ 13. 榛東村 | ☐ 25. 東吾妻町 | ☐ 36. 群馬県以外 |
| ☐ 2. 高崎市 | ☐ 14. 吉岡町 | ☐ 26. 片品村 | |
| ☐ 3. 桐生市 | ☐ 15. 上野村 | ☐ 27. 川場村 | |
| ☐ 4. 伊勢崎市 | ☐ 16. 神流町 | ☐ 28. 昭和村 | |
| ☐ 5. 太田市 | ☐ 17. 下仁田町 | ☐ 29. みなかみ町 | |
| ☐ 6. 沼田市 | ☐ 18. 南牧村 | ☐ 30. 玉村町 | |
| ☐ 7. 館林市 | ☐ 19. 甘楽町 | ☐ 31. 板倉町 | |
| ☐ 8. 渋川市 | ☐ 20. 中之条町 | ☐ 32. 明和町 | |
| ☐ 9. 藤岡市 | ☐ 21. 長野原町 | ☐ 33. 千代田町 | |
| ☐ 10. 富岡市 | ☐ 22. 嬬恋村 | ☐ 34. 大泉町 | |
| ☐ 11. 安中市 | ☐ 23. 草津町 | ☐ 35. 邑楽町 | |
| ☐ 12. みどり市 | ☐ 24. 高山村 | | |

Q4
必須 あなたの職業はどれですか。

- ☐ 1. 正社員・正職員
- ☐ 2. パート・アルバイト・契約社員
- ☐ 3. 派遣社員
- ☐ 4. 自営（商工業）
- ☐ 5. 自営（農林漁業）
- ☐ 6. 専業主婦・主夫
- ☐ 7. 学生
- ☐ 8. 無職
- ☐ 9. その他（具体的に）

Q5
必須 あなたは、現在結婚（事実婚を含む）していますか。

- ☐ 1. している（事実婚を含む）
- ☐ 2. していない（離別・死別等）
- ☐ 3. していない（未婚・非婚）

Q6
必須 あなたの世帯構成はどれですか。

- ☐ 1. 一人暮らし
- ☐ 2. 夫婦二人のみ（事実婚を含む）
- ☐ 3. 二世帯世帯（親と未婚の子が同居）
- ☐ 4. 二世帯世帯（親と子ども夫婦が同居）
- ☐ 5. 三世帯世帯（親と子と孫が同居）
- ☐ 6. その他（具体的に）

Q7 問5で「1 している（事実婚を含む）」とした方にうかがいます。
必須 配偶者・パートナーの職業はどれですか。

- ☐ 1. 正社員・正職員
- ☐ 2. パート・アルバイト・契約社員
- ☐ 3. 派遣社員
- ☐ 4. 自営（商工業）
- ☐ 5. 自営（農林漁業）
- ☐ 6. 専業主婦・主夫
- ☐ 7. 学生
- ☐ 8. 無職
- ☐ 9. その他（具体的に）

Q8 あなたは、以下のようなお子さんがいますか。同居していないお子さんも含めます。
必須 あてはまるものを**全て**お選びください。

- ☐ 1. 乳幼児期（0～1歳6か月未満）
- ☐ 2. 幼児前期（1歳6か月～3歳未満）
- ☐ 3. 幼児後期（3歳～6歳）※小学校入学前
- ☐ 4. 小学生
- ☐ 5. 中学生
- ☐ 6. 高校生以上の学生
- ☐ 7. 社会人
- ☐ 8. 子どもはいない

Q9 お子さんがいる方にうかがいます。
必須 あなたのお子さんは何人ですか。同居していないお子さんも含めます。

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人
- ☐ 4人以上

男女の平等感について

Q10 あなたは、次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
必須

	1.	2.	3.	4.	5.	6.
	男性のほうが非常に優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが非常に優遇されている	わからない
1. 家庭	➡	☐	☐	☐	☐	☐
2. 職場	➡	☐	☐	☐	☐	☐
3. 学校教育の場	➡	☐	☐	☐	☐	☐
4. 政治の場	➡	☐	☐	☐	☐	☐
5. 法律や制度	➡	☐	☐	☐	☐	☐
6. 地域社会	➡	☐	☐	☐	☐	☐
7. 社会通念・習慣・しきたり	➡	☐	☐	☐	☐	☐
8. 社会全体	➡	☐	☐	☐	☐	☐

結婚に関する考え方や家庭内での役割について

Q11
必須

あなたは、結婚に関する以下の考え方についてどう思いますか。

	1.	2.	3.	4.	5.
	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
1. 結婚する、しないは個人の自由である	☐	☐	☐	☐	☐
2. 結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい	☐	☐	☐	☐	☐
3. 結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない	☐	☐	☐	☐	☐
4. 夫婦別姓（別苗字）を選択できることを認めるほうがよい	☐	☐	☐	☐	☐
5. 事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい	☐	☐	☐	☐	☐
6. 同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度等も利用できるとよい	☐	☐	☐	☐	☐

Q12
必須

あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。

- ☐ 1. そう思う
- ☐ 2. どちらかといえばそう思う
- ☐ 3. どちらかといえばそう思わない
- ☐ 4. そう思わない
- ☐ 5. わからない

Q13
必須

子どもころ、あなたの家庭では、「男は仕事、女は家庭」という状況でしたか。

- ☐ 1. そうだった
- ☐ 2. どちらかといえばそうだった
- ☐ 3. どちらかといえばそうではなかった
- ☐ 4. そうではなかった
- ☐ 5. わからない

Q14 あなたは、以下の家庭内における**理想の役割**について、どのように担うべきだと思いますか。
必須 あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。

	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.
	主として男性が担うべき	主として女性が担うべき	男女が共に担うべき	外部サービス等を利用しながら、主として男性が担うべき	外部サービス等を利用しながら、主として女性が担うべき	外部サービス等を利用しながら、男女が共に担うべき	祖父母等親族の協力を得ながら、主として男性が担うべき	祖父母等親族の協力を得ながら、主として女性が担うべき	祖父母等親族の協力を得ながら、男女が共に担うべき	その他（具体的に）
1. 家事	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. 育児・子育て	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 看護・介護	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 学校行事などへの参加	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. 自治会などの地域活動	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6. 家計の管理	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7. 主たる収入	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

Q15 あなたの家庭内における**現状の役割**について、どのように担っていますか。
必須 あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。

	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.	11.
	主として男性が担っている	主として女性が担っている	男女が共に担っている	外部サービス等を利用しながら、主として男性が担っている	外部サービス等を利用しながら、主として女性が担っている	外部サービス等を利用しながら、男女が共に担っている	祖父母等親族の協力を得ながら、主として男性が担っている	祖父母等親族の協力を得ながら、主として女性が担っている	祖父母等親族の協力を得ながら、男女が共に担っている	その他（具体的に）	該当しない（一人暮らしなど）
1. 家事	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		☐
2. 育児・子育て	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		☐
3. 看護・介護	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		☐
4. 学校行事などへの参加	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		☐
5. 自治会などの地域活動	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		☐
6. 家計の管理	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		☐
7. 主たる収入	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		☐

Q16-1 あなたは、子の出産・育児に係る男性の休暇取得（育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等）についてどう思いますか。
必須

- ☐ 1. 男性も積極的に取得するほうがよい
- ☐ 2. 男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない
- ☐ 3. 男性は取得しないほうがよい
- ☐ 4. 環境は整えた方がよいが、取得に当たっては個人の意見を尊重したほうがよい
- ☐ 5. その他（具体的に）

Q16-2 あなたは、子の出産・育児に係る男性の休暇取得（育児休業、出生時育児休業、育児短時間勤務等）しない（できない）理由は何だと思えますか。
あてはまるものを**2つまで**お選びください。

- ☐ 1. 周囲に取った男性がいないから
- ☐ 2. 職場に取りやすい雰囲気がないから
- ☐ 3. 仕事が忙しいから
- ☐ 4. 取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから
- ☐ 5. 取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから
- ☐ 6. 経済的に困るから
- ☐ 7. 育児は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから
- ☐ 8. その他（具体的に）
- ☐ 9. わからない

Q16-3 あなたは、男性の介護休業取得についてどう思いますか。

- ☐ 1. 男性も積極的に取得するほうがよい
- ☐ 2. 男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない
- ☐ 3. 男性は取得しないほうがよい
- ☐ 4. 環境は整えた方がよいが、取得に当たっては個人の意見を尊重したほうがよい
- ☐ 5. その他（具体的に）

Q16-4 あなたは、男性が介護休業を取得しない（できない）理由は何だと思えますか。
あてはまるものを**2つまで**お選びください。

- ☐ 1. 周囲に取った男性がいないから
- ☐ 2. 職場に取りやすい雰囲気がないから
- ☐ 3. 仕事が忙しいから
- ☐ 4. 取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかると思うから
- ☐ 5. 取ると人事評価や昇給に悪い影響があると思うから
- ☐ 6. 経済的に困るから
- ☐ 7. 介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないと思うから
- ☐ 8. その他（具体的に）
- ☐ 9. わからない

男性の参画について

Q17 必須 あなたは次の分野で男性の参画が数年前と比べて進んでいると思いますか。
あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。

	1.	2.	3.	4.	5.
	進んでいると思う	どちらかというと進んでいると思う	どちらかというと進んでいないと思う	進んでいないと思う	わからない
1. 家事	☐	☐	☐	☐	☐
2. 育児・子育て	☐	☐	☐	☐	☐
3. 看護・介護	☐	☐	☐	☐	☐
4. 地域の行事	☐	☐	☐	☐	☐
5. 学校行事など	☐	☐	☐	☐	☐

Q18 必須 あなたは今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するためにはどのようなことが必要だと思いますか。
あてはまるものを**全て**お選びください。

- ☐ 1. 男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと
- ☐ 2. 男性が参加することへの抵抗感を、女性がなくすこと
- ☐ 3. 夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること
- ☐ 4. 年長者や周囲の人が、参加しようとする当事者の考えを尊重すること
- ☐ 5. 男性が参加することへの社会的評価を高めること
- ☐ 6. 仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること
- ☐ 7. 男性自身の関心を高めるための啓発や情報を提供すること
- ☐ 8. 国や県、市町村等による講座や研修で、男性の家事、育児、介護等の能力や技能を高めること
- ☐ 9. 男性が参加しやすくなるよう、仲間（ネットワーク）づくりを進めること
- ☐ 10. 男性が相談しやすい窓口を設けること
- ☐ 11. 乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程において男女共同参画を推進すること
- ☐ 12. その他（具体的に）
- ☐ 13. 特に必要だと思うことはない

職場や働き方について

Q19 必須 「女性の働き方」について、あなたはどのように思いますか。

- ☐ 1. 結婚するまでは仕事を続けるほうがよい
- ☐ 2. 子どもができるまでは、仕事を続けるほうがよい
- ☐ 3. 子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい
- ☐ 4. 子どもができた雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい（正規雇用から非正規雇用に変える等）
- ☐ 5. 子どもができた仕事を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい
- ☐ 6. 女性は仕事に就かないほうがよい
- ☐ 7. そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない
- ☐ 8. その他（具体的に）
- ☐ 9. わからない

Q20 必須 あなたは、進路や職業を選択する際に、自分の性別を意識したことがありますか。

- ☐ 1. かなり意識した
- ☐ 2. どちらかといえば、意識した
- ☐ 3. どちらかといえば、意識しなかった
- ☐ 4. ほとんど・まったく意識しなかった

Q21 必須 以下の生活中的時間について、増やしたいか、減らしたいか、当てはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。

		1.	2.	3.	4.	5.	6.
		大幅に増やしたい	少し増やしたい	現在のままで良い	少し減らしたい	大幅に減らしたい	該当しない
1.	仕事（収入を伴う仕事、学業等）の時間 ➡	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2.	家事時間 ➡	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3.	育児・子育て時間 ➡	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4.	介護時間 ➡	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5.	自分のことに使う時間（趣味、自己啓発、くつろぎ等） ➡	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6.	家族と遊んだり、くつろいだりする時間 ➡	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7.	地域活動の時間 ➡	☐	☐	☐	☐	☐	☐

Q22-1 現在働いている方にうかがいます。
必須 あなたの働き方が変化したことがありますか。
以下のライフイベントに当てはまるものを全てお選びください。

	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.
	仕事を辞めたことがある	正規雇用から非正規雇用になったことがある	非正規雇用から正規雇用になったことがある	休暇、休業等の制度を利用して雇用を継続した	特に変化はなかった	ライフイベントを経験していない	その他（具体的に）
1. 結婚	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2. 出産 （ご自身または配偶者の出産）	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3. 育児・子育て	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4. 介護	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5. その他（具体的に） 	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

Q22-2 現在働いている方にうかがいます。
必須 あなたの職場では、次のような**男女間の不公平**や、制度の未整備はありますか。
 あてはまるものを**全て**お選びください。

- ☐ 1. 募集や採用で男女の不公平がある
- ☐ 2. 賃金・昇給で男女の不公平がある
- ☐ 3. 昇進・昇格で男女の不公平がある
- ☐ 4. 入社研修や業務研究などの機会で男女の不公平がある
- ☐ 5. 女性は補助的業務や雑務が多い
- ☐ 6. 女性が結婚や出産を機に退職や非正規雇用となる慣習や雰囲気がある
- ☐ 7. 男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある
- ☐ 8. 育児・介護休業からの復帰後の処遇に不利益がある(配置転換、昇進への影響等)
- ☐ 9. 各種ハラスメント（パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント等）の防止規定や相談窓口が設置されていない
- ☐ 10. 育児休業や介護休業の制度がない
- ☐ 11. その他（具体的に）
- ☐ 12. 特に男女間の不公平はない
- ☐ 13. わからない

Q22-3 現在働いている方にうかがいます。
必須 あなたの職場では、女性の採用や管理職登用が進んでいると思いますか。

- ☐ 1. 進んでいると思う
- ☐ 2. どちらかというに進んでいると思う
- ☐ 3. どちらかというに進んでいないと思う
- ☐ 4. 進んでいないと思う
- ☐ 5. わからない

Q22-4 現在働いている方にうかがいます。

必須

あなたの職場で、女性の管理職が登用されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
あてはまるものを全てお選びください。

- ☐ 1. 経営者や人事担当者の意識改革
- ☐ 2. 様々な職種や職域への女性の登用
- ☐ 3. 性別に関わらず能力に応じた登用
- ☐ 4. 女性管理職登用の数値目標の設定
- ☐ 5. 短時間勤務や在宅勤務、テレワークなど柔軟な働き方を推進する取組
- ☐ 6. 育児休業や介護休業などの制度充実
- ☐ 7. 人材育成の機会を男女平等に与えること
- ☐ 8. 採用・昇進・配置において女性が満たしにくい要件（転勤など）の緩和
- ☐ 9. ロールモデルとなる女性管理職の育成
- ☐ 10. 女性が管理職になることへの、男性の意識改革
- ☐ 11. 女性が管理職になることへの、女性の意識改革
- ☐ 12. 女性が管理職になることを阻むような慣習や管理職の考え方などの変容
- ☐ 13. その他（具体的に）
- ☐ 14. 特に必要だと思うことはない

※「意識改革」とは...アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）などを解消すること。
思い込みの例：「管理職は男性が担うもの」、「女性は補助的な仕事を務める」など

Q23-1 現在働いていない方にうかがいます。
必須 あなたのこれまでの働き方はどれですか。あてはまるものを**全て**お選びください。

1.

お選びください

↓

↓

1. 卒業して働いたが、結婚のために仕事を辞めた

☐

2. 卒業して働いたが、出産のために仕事を辞めた

☐

3. 卒業して働いたが、育児・子育てのために仕事を辞めた

☐

4. 卒業して働いたが、介護のために仕事を辞めた

☐

5. 卒業して働いたが、上記以外の理由で仕事を辞めた
(理由)

☐

6. その他（具体的に）

☐

7. 卒業して以来、働いたことはない

☐

Q23-2 現在働いていない方にうかがいます。
必須 あなたは、今後働きたいと思いますか。

- ☐

1. 正社員・正職員として働きたい
- ☐

2. パート・アルバイト・契約社員として働きたい
- ☐

3. 派遣社員として働きたい
- ☐

4. フリーランスとして独立して働きたい
- ☐

5. 自分で、店や会社を起業したい
- ☐

6. 在宅で働ける仕事をしたい
- ☐

7. その他（具体的に）
- ☐

8. わからない
- ☐

9. 今後も、働きたいとは思わない

Q24-1 必須 「令和3年社会生活基本調査」によると、夫婦共働き世帯において、1日の中で家事・育児・介護等に費やす時間が、男性は53分、女性は4時間18分と、女性の方が家庭内のことにより多くの時間を費やしていることが分かっています。このことが、職業生活における女性の活躍が進まない要因の1つだという意見がありますが、この意見についてあなたはどのように思いますか。

- ☐ 1. そう思う
- ☐ 2. どちらかといえばそう思う
- ☐ 3. どちらかといえばそう思わない
- ☐ 4. そう思わない
- ☐ 5. わからない

Q24-2 必須 家事・育児・介護等に費やす時間を男女間でバランスのとれたものとし、職業生活における女性の活躍を更に推進するためには、特にどのような取組への支援が必要だと思いますか。あてはまるものを**全て**お選びください。

- ☐ 1. 長時間労働慣行の是正
- ☐ 2. 業務の見直しやデジタルツール等の活用による職員負担の軽減
- ☐ 3. テレワーク、短時間勤務、フレックスタイム制勤務等の柔軟な働き方の導入・推進
- ☐ 4. 育児や介護のための休暇・休業制度の整備
- ☐ 5. 育児や介護のための休業取得等に伴う、代替人員の確保、仕事をフォローする同僚職員への手当等支給
- ☐ 6. 仕事と家庭の両立について、職場内（管理職・同僚）の理解促進
- ☐ 7. 女性が家事育児を行うべきという思い込みの解消
- ☐ 8. 就労を希望する方の学び直しや就労に対する支援
- ☐ 9. 育児や介護をサポートする設備やサービスの整備
- ☐ 10. その他（具体的に）

男女共同参画社会づくりのための施策について

Q25 あなたは、次のうち、見聞きしたことがあるものはありますか。
必須 あてはまるものを**全て**お選びください。

- | | |
|--|---|
| ☐ 1. 男女共同参画社会 | ☐ 13. 群馬県男女共同参画推進条例 |
| ☐ 2. 男女共同参画社会基本法 | ☐ 14. 群馬県男女共同参画基本計画 |
| ☐ 3. 女性活躍推進法 | ☐ 15. アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み） |
| ☐ 4. 政治分野における男女共同参画推進法 | ☐ 16. 固定的性別役割分担意識 |
| ☐ 5. 女性活躍・ハラスメント規制法(2020年6月より施行) | ☐ 17. DV防止法 |
| ☐ 6. 女子差別撤廃条約 | ☐ 18. ストーカー規制法 |
| ☐ 7. ポジティブ・アクション（積極的改善措置） | ☐ 19. 一時保護制度 |
| ☐ 8. ジェンダー（社会的性別） | ☐ 20. 保護命令制度 |
| ☐ 9. 男女雇用機会均等法 | ☐ 21. DV加害者更正プログラム |
| ☐ 10. 育児介護休業法 | ☐ 22. 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律 |
| ☐ 11. ワーク・ライフ・バランス | ☐ 23. 見聞きしたことがあるものはない |
| ☐ 12. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利) | |

Q26 あなたは、数年前と比べて、群馬県の男女共同参画の社会づくりが進んでいると感じますか。
必須

- ☐ 1. 進んでいる
- ☐ 2. 少しは進んでいる
- ☐ 3. どちらともいえない
- ☐ 4. あまり進んでいない
- ☐ 5. 進んでいない
- ☐ 6. わからない

Q27 必須 あなたは、男女共同参画の社会づくりが進むと社会にどのような変化や効果が現れると思いますか。あてはまるものを**3つまで**お選びください。

- ☐ 1. 性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なこと仕事や生き方を決められるようになる
- ☐ 2. 男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる
- ☐ 3. 男女がともに仕事と家事を担うことで、失業や病気などに伴う将来の生活不安が減る
- ☐ 4. 様々な場で男女の多様な意見が反映されるようになり、誰もが暮らしやすい社会になる
- ☐ 5. 男女の多様な視点や発想を活かすことで、地域経済の活性化につながる
- ☐ 6. 女性の活躍の場が今よりも増える
- ☐ 7. 男性の活躍の場が今よりも増える
- ☐ 8. 女性への差別的な視点がなくなり、女性に対する暴力をなくすことにつながる
- ☐ 9. 災害時の避難所においても、男女双方の視点を取り入れられ、誰もが安心して利用できるようになる
- ☐ 10. その他（具体的に）
- ☐ 11. わからない

Q28 必須 あなたは、自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、地域活動にかかわる役職についてどう思いますか。

- ☐ 1. できるだけ、男性になるほうがよい
- ☐ 2. どちらかというと、男性になるほうがよい
- ☐ 3. 適任者であれば、男女どちらでもよい
- ☐ 4. どちらかというと、もっと女性になるほうがよい
- ☐ 5. もっと女性になるほうがよい

Q29 必須 あなたは、自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを**全て**お選びください。

- ☐ 1. 女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと
- ☐ 2. 女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと
- ☐ 3. 社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること
- ☐ 4. 女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと
- ☐ 5. 女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること
- ☐ 6. その他（具体的に）
- ☐ 7. 特にない
- ☐ 8. わからない

Q30 必須 あなたが、次にあげるような政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性がもっと増えるほうがよいと思うものはどれですか。あてはまるものを**全て**お選びください。

- ☐ 1. 県・市町村の首長
- ☐ 2. 国会・県議会・市町村議会の議員
- ☐ 3. 県・市町村の審議会等の委員
- ☐ 4. 国家・地方公務員の管理職
- ☐ 5. 裁判官、検察官、弁護士
- ☐ 6. 大学教授
- ☐ 7. 小中学校・高校の校長
- ☐ 8. 国連などの国際機関の管理職
- ☐ 9. 企業の管理職
- ☐ 10. 起業家・経営者
- ☐ 11. 労働組合の幹部
- ☐ 12. 農業委員
- ☐ 13. その他（具体的に）
- ☐ 14. 特にない

※審議会：法律又は条例等に基づいて、審査や調査等を行うために、設置された合議制の機関

Q31 必須 あなたは、男女共同参画社会づくりを推進するための拠点施設「ぐんま男女共同参画センター」を知っていますか。

- ☐ 1. 訪れたことがある
- ☐ 2. 訪れたことはないが、名前は知っている
- ☐ 3. 知らない

Q32 必須 あなたは、「ぐんま男女共同参画センター」が今後どのような役割を担うべきだと思いますか。
あてはまるものを**3つまで**お選びください。

- ☐ 1. 男女共同参画の情報、書籍、資料の収集・提供
- ☐ 2. 男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催
- ☐ 3. 女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催
- ☐ 4. 女性の人材育成支援講座等の企画・開催
- ☐ 5. 男性向け男女共同参画講座等の企画・開催
- ☐ 6. 男性の家事育児等を推進するための企画・開催
- ☐ 7. 学生等若年層に対する男女共同参画・ジェンダー平等講座等の企画・開催
- ☐ 8. 女性相談事業の充実
- ☐ 9. 男性相談事業の充実
- ☐ 10. 男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループとの連携及び協働・活動支援
- ☐ 11. 男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループの人材確保・養成・資質向上に必要な講座等の企画・開催
- ☐ 12. いつでも気軽に立ち寄れる交流の場
- ☐ 13. 男女共同参画に関する調査・研究
- ☐ 14. その他（具体的に）
- ☐ 15. 特にない

Q33 男女共同参画社会を実現するために、今後、群馬県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
必須 あてはまるものを**3つまで**お選びください。

- ☐ 1. 県の政策決定の場への女性の積極的な登用
- ☐ 2. 民間企業・団体等の女性の管理職登用の支援
- ☐ 3. 男女とも育児・介護休業等が取得できるような職場環境整備への支援
- ☐ 4. 子育てや介護で仕事を辞めた人の学び直しや再就職支援
- ☐ 5. 女性が少ない分野（研究者等）への女性の進出支援
- ☐ 6. 地域活動における男女共同参画の推進
- ☐ 7. 女性に対するあらゆる暴力の根絶
- ☐ 8. 男女ともに働き方・生き方などの悩みを相談できる場の提供
- ☐ 9. 性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善
- ☐ 10. 乳幼児期からの家庭教育や学校教育過程における男女共同参画の推進
- ☐ 11. 男女共同参画推進活動の拠点機能や学習機会の充実
- ☐ 12. 防災・災害復興における男女共同参画の推進
- ☐ 13. その他（具体的に）
- ☐ 14. 特にない

ドメスティック・バイオレンス(DV)及び困難な問題を抱える男女について

Q34

必須

あなたは、次のようなことで困ったり、悩みを抱えていること・抱えたことはありますか。
または、家族や知人が抱えている悩みとして、見たり聞いたり相談されたりしたことがあるものはありますか。
あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。

	1. 自分自身 ↓	2. 家族や知人 ↓
1. 配偶者やパートナー、元配偶者からの身体的な暴力、精神的な暴力、社会的な暴力、性的な暴力、経済的な暴力、子どもを利用した暴力、ストーカー行為をされた	☐	☐
2. 家族とうまくいかない、家族に関する問題を抱えている	☐	☐
3. 職場や学校等で人間関係がうまく築けない、いじめやハラスメントを受けている	☐	☐
4. 仕事が見つからない、仕事 불안定	☐	☐
5. 経済的に困窮している（食品等の生活に必要なものを買えないことがある、光熱水費等の生活費が支払えないなど）	☐	☐
6. 健康に不安がある（メンタルヘルスを含む）	☐	☐
7. 住まいが定まらない、家に居場所がない	☐	☐
8. 孤独・孤立を感じる	☐	☐
9. その他（具体的に）	☐ 	☐
10. 特になし	☐	☐

Q35 あなたや周りの人が抱える悩みについて、誰に（どこに）相談しましたか。
必須 あてはまるものを**全て**お選びください。

- ☐ 1. 群馬県女性相談支援センター
- ☐ 2. 市町村の相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）
- ☐ 3. 警察
- ☐ 4. 法務局・地方法務局、人権擁護委員
- ☐ 5. 医療関係者（医師・看護師等）
- ☐ 6. 民間の専門家や専門機関（弁護士会、カウンセラー機関、民間シェルター等）
- ☐ 7. 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラー等）
- ☐ 8. 児童相談所、市町村児童家庭相談窓口等
- ☐ 9. 勤務先の関係者
- ☐ 10. 家族や親戚
- ☐ 11. 友人・知人
- ☐ 12. SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人
- ☐ 13. その他（具体的に）
- ☐ 14. どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった

※学校や職場等で知り合った友人にSNSを通じて相談をした場合は「11. 友人・知人」を選択してください。

Q36 相談しない・しなかった理由は何ですか。
必須 あてはまるものを**全て**お選びください。

- ☐ 1. どこ（だれ）に相談してよいかわからないから
- ☐ 2. 恥ずかしくてだれにも言えないから
- ☐ 3. 相談しても無駄だと思うから
- ☐ 4. 他人を巻き込みたくないから
- ☐ 5. 早く忘れたいから
- ☐ 6. 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから
- ☐ 7. 自分にも悪いところがあると思うから
- ☐ 8. 相談した後の影響が不安だった（周りに知られる、被害がより大きくなるなど）
- ☐ 9. 相手の行為は愛情の表現だと思うから（DV被害の場合）
- ☐ 10. 相談するほどのことではないと思うから
- ☐ 11. その他（具体的に）

Q37 必須 あなたは、次のようなドメスティック・バイオレンス（DV）や困ったり悩みを抱えていることなどを相談することができる窓口を知っていますか。あてはまるものを**全て**お選びください。

- ☐ 1. 群馬県女性相談支援センター
- ☐ 2. 市町村の相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）
- ☐ 3. DV相談＋（内閣府相談窓口）
- ☐ 4. 警察署における相談窓口
- ☐ 5. 民間支援団体（シェルター運営等）
- ☐ 6. 民間支援団体（ぐんまほほえみネット）
- ☐ 7. 女性の人権ホットライン（前橋地方事務局）
- ☐ 8. 法テラス群馬（DV等被害者法律相談）
- ☐ 9. 県の保健福祉事務所
- ☐ 10. 男性DV被害者相談電話
- ☐ 11. 群馬県性暴力被害者サポートセンター S a v e ぐんま
- ☐ 12. 犯罪被害者支援窓口（市町村、警察、民間支援団体等）
- ☐ 13. その他（具体的に）
- ☐ 14. いずれも知らない

Q38 必須 あなたは、DV被害や、困ったり悩みを抱えていることについて、公的機関や民間団体の相談窓口で、今後相談するとしたら、どのような配慮をしてほしいですか。あてはまるものを**全て**お選びください。

- ☐ 1. メールにより相談ができる
- ☐ 2. チャットやSNSなどにより相談ができる
- ☐ 3. 電話による相談ができる
- ☐ 4. 通話料が無料
- ☐ 5. 24時間相談ができる
- ☐ 6. 専門家によるカウンセリング費用や弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる
- ☐ 7. 相談内容に関連する他の相談窓口との連携が行われている
- ☐ 8. 同性の相談員がいる
- ☐ 9. 匿名で相談ができる
- ☐ 10. 法的知識を有する相談員がいる
- ☐ 11. 心理専門職の相談員がいる
- ☐ 12. その他（具体的に）
- ☐ 13. 特になし

Q39 DV被害やあなたの困りごと・悩みについて解決するために、どのような環境や支援があるかとい
必須 と思いますか。
あてはまるものを**全て**お選びください。

- ☐ 1. 気軽に話を聞いてもらえる相談窓口（SNS相談を含む）
- ☐ 2. 自分の困りごとを気兼ねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、
または手続等に同行してくれる人
- ☐ 3. 利用可能な支援制度の情報提供
- ☐ 4. 同じような悩みを抱えている人と出会う場所
- ☐ 5. 相談や支援を受けている間の寄り添いや見守り
- ☐ 6. 自分の困りごとや悩みに気付いて声を掛けてくれる人や相談機関
- ☐ 7. 生活のための経済的支援
- ☐ 8. 就労支援（就職先を探すサポート、資格取得支援など）
- ☐ 9. 弁護士等による法的支援
- ☐ 10. カウンセリング等の心理学的支援
- ☐ 11. DV加害者に対するカウンセリングや更正を促すプログラムの実施
- ☐ 12. その他（具体的に）
- ☐ 13. 特にない

Q40-1 必須 あなたは、この5年間に、次のようなことを配偶者や恋人等の**パートナーからされたこと**がありますか。
 あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。

<この5年間にパートナーからされたこと>

		1.	2.	3.
		1・2度ある	何度もある	ない
1.	身体的な暴力 (なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばす、刃物でおどす等)	☐	☐	☐
2.	精神的な暴力・社会的な暴力 (人格を否定するような暴言、長時間の無視、怒鳴る、人を見下した発言、身の危険を感じるような脅迫、交友関係の監視や制限等)	☐	☐	☐
3.	性的な暴力 (相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない、中絶の強要、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる等)	☐	☐	☐
4.	経済的な暴力 (生活費を入れない、外で働くことを妨害する、仕事を辞めさせる、家計の管理に関与させない、借金をさせてお金を取り上げる等)	☐	☐	☐
5.	子どもを利用した暴力 (子どもの前で暴力を振るったり暴言を浴びせる、子どもに自分の言いたいことを伝えさせる、子どもを危険な目に遭わせる、子どもを取り上げる等)	☐	☐	☐
6.	ストーカー行為 (つきまとい、待ち伏せ、押しかけ、監視していると告げる、面会・交際の要求、乱暴な言動、無言電話、連続した電話・FAX・メール、汚物の送付、名誉を傷つける、性的羞恥心の侵害等)	☐	☐	☐

Q40-2 あなたは、この5年間に、次のようなことを配偶者や恋人等の**パートナーにしたこと**がありますか。
必須

<この5年間にパートナーにしたこと>

		1.	2.	3.
		1・2度ある	何度もある	ない
1.	身体的な暴力 (なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばす、刃物でおどす等)	☐	☐	☐
2.	精神的な暴力・社会的な暴力 (人格を否定するような暴言、長時間の無視、怒鳴る、人を見下した発言、身の危険を感じるような脅迫、交友関係の監視や制限等)	☐	☐	☐
3.	性的な暴力 (相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない、中絶の強要、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる等)	☐	☐	☐
4.	経済的な暴力 (生活費を入れない、外で働くことを妨害する、仕事を辞めさせる、家計の管理に関与させない、借金をさせてお金を取り上げる等)	☐	☐	☐
5.	子どもを利用した暴力 (子どもの前で暴力を振るったり暴言を浴びせる、子どもに自分の言いたいことを伝えさせる、子どもを危険な目に遭わせる、子どもを取り上げる等)	☐	☐	☐
6.	ストーカー行為 (つきまとい、待ち伏せ、押しかけ、監視していると告げる、面会・交際の要求、乱暴な言動、無言電話、連続した電話・FAX・メール、汚物の送付、名誉を傷つける、性的羞恥心の侵害等)	☐	☐	☐

Q41 最後に、家庭や職場、地域社会等において、男女平等や男女共同参画等について感じるがありましたら、ご記入ください。

男女共同参画社会に関する県民意識調査
報 告 書

令和7年3月
群馬県
(生活こども部生活こども課)